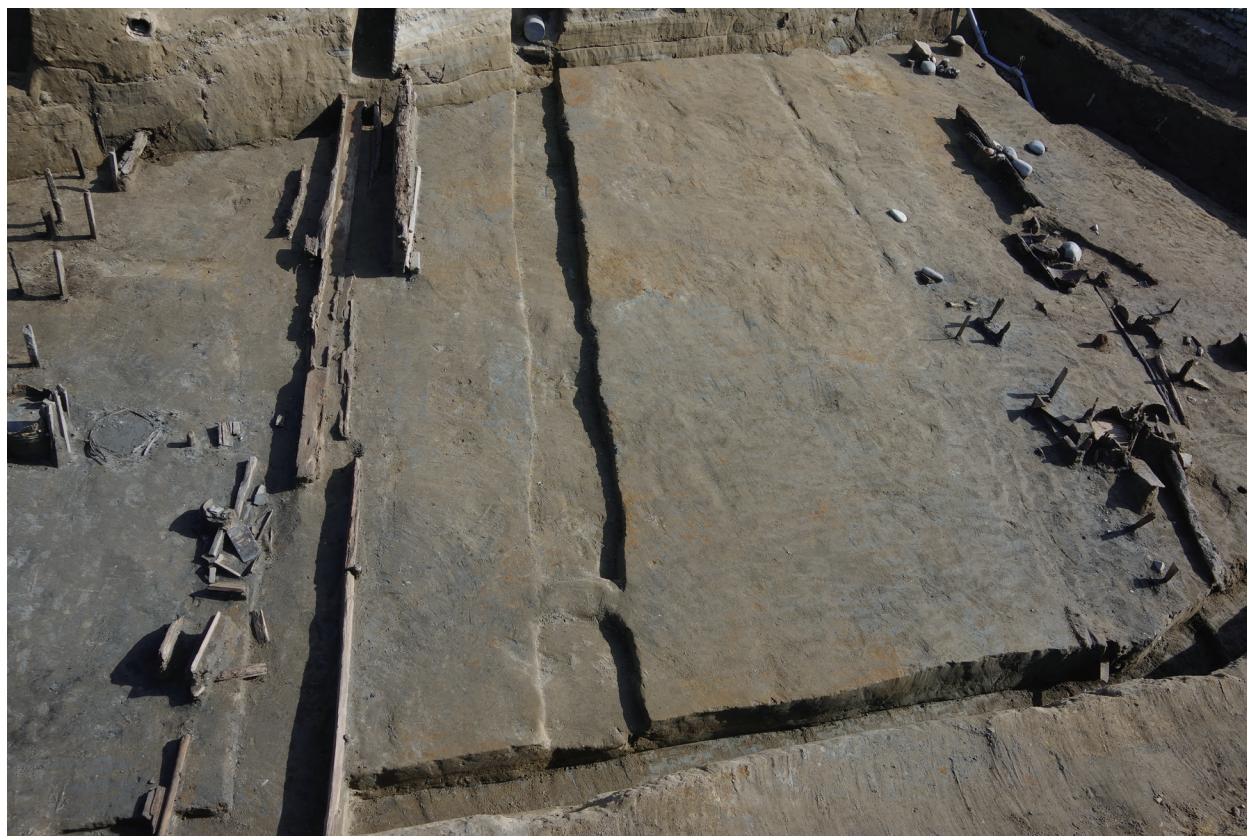

久喜市

栗橋宿跡 V

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告

2020

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 近世の日光道中 西から



2 栗橋宿本陣跡第5次第16号土壌出土面（左：外面、右：内面）

序

埼玉県との北東県境を流れる利根川は、日本一の流域面積を誇る大河です。「刀と拵ね河か泊は」と万葉集にもその名が見えるように、古くから人や物資が行きかう交通路として利用され、親しまれてきました。現在も生活用水や産業用水の供給源として、私たちは多大な恩恵を受けています。その一方でたびたび氾濫し、流域に生活する人々に大きな被害を与えてきました。特に昭和22年のカスリーン台風では、現在の加須市内で堤防が決壊し埼玉県東部が水没する大災害となりました。国土交通省では、このような災害を未然に防ぐため、堤防や調節池等の整備と防災・減災の取り組みを推進しています。埼玉県における首都圏氾濫区域堤防強化対策事業もその一環です。

本事業地のある加須・羽生・久喜地区には周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った久喜市の栗橋宿跡もその一つです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受けて当事業団が実施いたしました。

栗橋宿は、江戸時代には日光道中の宿場であり、利根川を渡る房川渡ぼうせんしに栗橋関所が置かれた交通の要衝として栄えていました。今回の調査では栗橋関所に続く日光道中の一部が発見され、繰り返し整地された路面や木樋を伴う構造が明らかとなりました。また隣接する町屋や、火災の後片付けの痕跡から出土した陶磁器や木製品など、当時の生活をうかがうことができる貴重な発見がありました。

本書は、栗橋宿跡第5地点・栗橋宿本陣跡（第5次）の発掘調査をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・活用の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、久喜市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 藤 田 栄 二

例 言

- 1 本書は久喜市に所在する栗橋宿跡第5地点・北二丁目陣屋跡および栗橋宿本陣跡第5次の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡名と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
栗橋宿跡第5地点 (No.86-011)
久喜市栗橋北2丁目3426-1他
平成26年6月20日付け教生文第2-14号
北二丁目陣屋跡 (No.86-010)
久喜市栗橋北2丁目3425-1他
平成26年6月20日付け教生文第2-16号
栗橋宿本陣跡 (第5次) (No.86-007)
久喜市栗橋北2丁目3422-1
平成28年9月21日付け教生文第2-34号
- 3 発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課(当時)が調整し、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 各事業の委託事業名は、下記のとおりである。
発掘調査事業 (平成26・28年度)
「首都圏氾濫区域堤防強化対策(加須・羽生・久喜地区)における平成26年度埋蔵文化財発掘調査」(栗橋宿跡第5地点第1次調査)
「利根川上流河川改修事業における平成28年度埋蔵文化財発掘調査」(栗橋宿西本陣跡第2次調査)
整理・報告書作成事業 (平成30・31年度)
「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成30年度埋蔵文化財発掘調査(整理)」
「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成31年度埋蔵文化財発掘調査(整理)」
- 5 発掘調査・整理報告書作成事業はI-3に示した組織により実施した。

- 発掘調査は、第5地点を平成26年4月1日から6月30日まで山本禎、坂下貴則が担当し、西本陣跡第2次B区を平成28年10月1日から平成29年3月15日まで、栗岡潤、古谷渉、坂下、近藤洋、桂大介、鈴木志穂が担当して実施した。
- 整理・報告書作成事業は、平成30年度は平成30年10月1日から平成31年3月31日まで、令和元年度は令和元年10月1日から令和2年3月31日まで実施し、片山祐介が担当した。報告書は令和2年3月23日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第463集として印刷・刊行した。
- 6 発掘調査における基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
 - 7 発掘調査における空中写真は中央航業株式会社、株式会社GIS関東に、自然科学分析は、(株)パレオ・ラボ、パリオ・サーヴェイ株式会社に委託した。
 - 8 発掘調査における写真撮影は各担当が行い、出土遺物の写真撮影は片山が行った。
 - 9 文字資料の積文は、久喜市教育委員会の協力を得た。
 - 10 出土品の整理・図版作成は片山が行い、陶磁器類・瓦・土製品・石製品は村山卓・水村雄功、木製品は矢部瞳、金属製品は瀧瀬芳之、町並みの復元・文献調査は劔持和夫の協力を得た。
 - 11 本書の執筆はI-1を埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、その他を片山・福田が行った。
 - 12 本書の編集は片山・福田が行った。
 - 13 本書にかかる諸資料は令和元年4月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
 - 14 発掘調査や本書の作成にあたり、下記の方々、関係機関の皆様からご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします(敬称略五十音順)。
池尻 篤 中村和夫 堀内謙一 巻島千明
山崎吉弘 久喜市教育委員会

凡 例

1 遺跡全体におけるX・Yの数値は、世界測地系、国家標準平面直角座標第IX系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は全て座標北を指す。

調査区中央にあたるB5-H9グリッド杭の座標は、X=15830.000m、Y=-11810.000m、北緯36° 08′ 33.38152″、東経139° 42′ 07.55855″である。

2 調査に際して使用したグリッド名称は、事業地内の全体を覆うように設定した。座標値X=16000.000m、Y=-12300.000mを北西の原点（A1-A1グリッド）とし、100×100mのグリッドを設定し、さらにその中を10×10mの小グリッドに細分した。

3 グリッドの名称は、北西原点を基点に北から南にアルファベット（A・B・C…）、西から東に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせた。同様に、小グリッドは各グリッドの北西隅を基点に、北から南にA～J、西から東に1～10とし、グリッド内を100に区分した。

これらを合わせた呼称は、ハイフォン（一）をはさみ、グリッドを左に、小グリッドを右に表記した。（グリッド）-（グリッド）

4 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

S B…建物跡 S O…道路跡 S D…溝跡
S K…土壌 S E…井戸跡 P…ピット
木樋○…第○号木樋跡 桶○…第○号埋設桶

5 本書における挿図は、一部の例外を除き以下の縮尺を原則とした。

全測図 1/400
遺構図 1/120・1/80・1/60・1/30
遺物実測図・拓影図 1/2・1/3・1/4

6 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位m）を表す。

7 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・遺物計測値は陶磁器、土器等をcm、銭貨をmm、重さをg単位とした。

・土器計測値の（ ）は復元推定値、[]は現存値を示す。

・陶磁器の輪高台状つまみが付く蓋は、設置面を底径、つまみ径を口径として記載した。土瓶・急須の蓋は、設置面を底径、最大径を口径として記載した。

・瓦の計測値は「長さ」に瓦当面からの長さ、「幅」に全幅、「厚さ」に平瓦部厚さ、「高さ」に接地面からの高さ、「径」に瓦当径を記載した。

・胎土は特徴的な鉱物等を記号で示した。

A:雲母 B:片岩 C:角閃石 D:長石

E:石英 F:軽石 G:砂粒子 H:赤色粒子

I:白色粒子 J:針状物質 K:黒色粒子

L:その他 M:チャート

・焼成は良好・普通・不良の3段階に分けた。

・残存率は器形に対する遺存程度を%で示した。

・備考には出土位置、煤の付着、推定生産地、文様の特徴等を記した。

8 遺物実測図の網かけは漆、被熱の範囲を表す。網かけの濃度で種類を区分し、図中に例示した。

赤漆20% 茶漆30% 黒漆35% 炭化50%

9 本書に掲載した地形図類は国土地理院発行の1/50000地形図、久喜市発行の1/2500都市計画図を編集のうえ、使用した。

10 文中の引用文献等は、（著者 発行年）の順で表記し、その他の参考文献とともに巻末に掲載した。

11 整理作業で振替えた遺構、欠番とした遺構については、第92表に示した。

目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	(3) 埋設桶	75
1 発掘調査に至る経過	1	(4) 埋設甕	82
2 発掘調査・報告書作成の経過	2	(5) 埋納遺構	82
3 発掘調査・報告書作成の組織	3	(6) 井戸跡	84
II 遺跡の立地と環境	4	(7) 杭列	86
1 地理的環境	4	(8) 木樋	86
2 歴史的環境	5	(9) 道路跡	90
III 遺跡の概要	12	(10) 土壙	107
IV 遺構と遺物	22	(11) ピット	134
1 第5地点第一面	22	(12) 遺構外出土遺物	135
(1) 建物跡	22	4 本陣跡第5次第二面	137
(2) 埋設桶	25	(1) 建物跡	137
(3) 木樋	26	(2) 埋設桶	137
(4) 溝跡	30	(3) 溝跡	139
(5) 土壙	32	(4) 土壙	139
(6) ピット	41	(5) 道路下落込み	182
(7) 遺構外出土遺物	41	(6) ピット	184
2 第5地点第二面	43	5 文字資料	188
(1) 土壙	43	6 出土遺物一覧表と遺構の時期	189
(2) ピット	68	V 自然科学分析	202
(3) 遺構外出土遺物	69	1 大型植物遺体	202
3 本陣跡第5次第一面	71	2 樹種同定・種実同定	206
(1) 建物跡	71	VI 調査のまとめ	214
(2) 基礎状遺構	73	写真図版	

挿図目次

第1図	埼玉県の地形	4	第36図	土壙出土遺物(1)	47
第2図	栗橋宿跡周辺の地形	5	第37図	土壙出土遺物(2)	48
第3図	周辺の遺跡	7	第38図	土壙出土遺物(3)	49
第4図	遺跡位置図	13	第39図	土壙出土遺物(4)	50
第5図	基本土層(土層位置)	14	第40図	土壙出土遺物(5)	51
第6図	基本層序	15	第41図	土壙出土遺物(6)	54
第7図	第一面全体図	16	第42図	土壙出土遺物(7)	55
第8図	第二面全体図	17	第43図	土壙出土遺物(8)	56
第9図	第一面区割図(第5地点)	18	第44図	土壙出土遺物(9)	57
第10図	第一面区割図(本陣5次)	19	第45図	土壙出土遺物(10)	58
第11図	第二面区割図(第5地点)	20	第46図	土壙出土遺物(11)	60
第12図	第二面区割図(本陣5次)	21	第47図	土壙出土遺物(12)	61
第13図	建物跡	23	第48図	土壙出土遺物(13)	62
第14図	建物跡出土遺物(1)	24	第49図	土壙出土遺物(14)	63
第15図	建物跡出土遺物(2)	25	第50図	土壙出土遺物(15)	66
第16図	第1号埋設桶	26	第51図	ピット	69
第17図	木樋(1)・本陣5次杭列1	27	第52図	ピット出土遺物(1)	69
第18図	木樋(2)	28	第53図	ピット出土遺物(2)	69
第19図	木樋出土遺物(1)	29	第54図	ピット出土遺物(3)	70
第20図	木樋出土遺物(2)	30	第55図	遺構外出土遺物	70
第21図	木樋出土遺物(3)	31	第56図	第1号建物跡	72
第22図	溝跡・出土遺物	32	第57図	第3号建物跡	73
第23図	土壙(1)	33	第58図	第4号建物跡	74
第24図	土壙(2)	34	第59図	建物跡出土遺物(1)	76
第25図	土壙出土遺物(1)	35	第60図	建物跡出土遺物(2)	77
第26図	土壙出土遺物(2)	36	第61図	基礎状遺構	79
第27図	土壙出土遺物(3)	38	第62図	基礎状遺構出土遺物	79
第28図	土壙出土遺物(4)	38	第63図	埋設桶	80
第29図	土壙出土遺物(5)	39	第64図	埋設桶出土遺物(1)	81
第30図	ピット	41	第65図	埋設桶出土遺物(2)	82
第31図	ピット出土遺物	41	第66図	第2号埋設甕	83
第32図	遺構外出土遺物(1)	42	第67図	埋納遺構	83
第33図	遺構外出土遺物(2)	42	第68図	埋納遺構出土遺物	83
第34図	土壙(1)	44	第69図	第1号井戸跡(1)	85
第35図	土壙(2)	45	第70図	第1号井戸跡(2)	86

第71 図	井戸跡出土遺物 (1)……………	87	第107 図	遺構外出土遺物 (1)……………	129
第72 図	井戸跡出土遺物 (2)……………	87	第108 図	遺構外出土遺物 (2)……………	130
第73 図	井戸跡出土遺物 (3)……………	88	第109 図	遺構外出土遺物 (3)……………	132
第74 図	第1 a・1 b 号木樋……………	89	第110 図	遺構外出土遺物 (4)……………	133
第75 図	第1 a・1 b 号木樋出土遺物……………	89	第111 図	遺構外出土遺物 (5)……………	134
第76 図	道路跡 (1)……………	92	第112 図	遺構外出土遺物 (6)……………	136
第77 図	道路跡 (2)……………	93	第113 図	第2 号建物跡・出土遺物……………	138
第78 図	道路跡 (3)……………	94	第114 図	埋設桶……………	139
第79 図	第2 号木樋 (1)……………	98	第115 図	埋設桶出土遺物 (1)……………	140
第80 図	第2 号木樋 (2)・木枘1・木桶1……………	99	第116 図	埋設桶出土遺物 (2)……………	141
第81 図	第3 号木樋 (1)・第5 号木樋……………	100	第117 図	埋設桶出土遺物 (3)……………	141
第82 図	第3 号木樋 (2)……………	101	第118 図	溝跡・出土遺物……………	142
第83 図	第4 号木樋・第6 号木樋・ 第1 号土留状遺構……………	102	第119 図	土壇 (1)……………	143
第84 図	第7 号木樋……………	103	第120 図	土壇 (2)……………	144
第85 図	道路跡出土遺物 (1)……………	104	第121 図	土壇出土遺物 (1)……………	146
第86 図	道路跡出土遺物 (2)……………	105	第122 図	土壇出土遺物 (2)……………	147
第87 図	道路跡出土遺物 (3)……………	106	第123 図	土壇出土遺物 (3)……………	148
第88 図	道路跡木樋出土遺物 (1)……………	108	第124 図	土壇出土遺物 (4)……………	149
第89 図	道路跡木樋出土遺物 (2)……………	109	第125 図	土壇出土遺物 (5)……………	150
第90 図	道路跡木樋出土遺物 (3)……………	111	第126 図	土壇出土遺物 (6)……………	151
第91 図	道路跡木樋出土遺物 (4)……………	112	第127 図	土壇出土遺物 (7)……………	152
第92 図	道路跡木樋出土遺物 (5)……………	113	第128 図	土壇出土遺物 (8)……………	153
第93 図	土壇……………	114	第129 図	土壇出土遺物 (9)……………	154
第94 図	土壇出土遺物 (1)……………	115	第130 図	土壇出土遺物 (10)……………	155
第95 図	土壇出土遺物 (2)……………	116	第131 図	土壇出土遺物 (11)……………	156
第96 図	土壇出土遺物 (3)……………	117	第132 図	土壇出土遺物 (12)……………	157
第97 図	土壇出土遺物 (4)……………	118	第133 図	土壇出土遺物 (13)……………	158
第98 図	土壇出土遺物 (5)……………	119	第134 図	土壇出土遺物 (14)……………	159
第99 図	土壇出土遺物 (6)……………	120	第135 図	土壇出土遺物 (15)……………	160
第100 図	土壇出土遺物 (7)……………	121	第136 図	土壇出土遺物 (16)……………	161
第101 図	土壇出土遺物 (8)……………	122	第137 図	土壇出土遺物 (17)……………	162
第102 図	土壇出土遺物 (9)……………	125	第138 図	土壇出土遺物 (18)……………	163
第103 図	土壇出土遺物 (10)……………	126	第139 図	土壇出土遺物 (19)……………	164
第104 図	土壇出土遺物 (11)……………	127	第140 図	土壇出土遺物 (20)……………	165
第105 図	土壇出土遺物 (12)……………	128	第141 図	土壇出土遺物 (21)……………	172
第106 図	ピット・出土遺物……………	129	第142 図	土壇出土遺物 (22)……………	172
			第143 図	土壇出土遺物 (23)……………	173

第144図	土壙出土遺物 (24)	174
第145図	土壙出土遺物 (25)	176
第146図	土壙出土遺物 (26)	178
第147図	道路下落込み	182
第148図	道路下落込み出土遺物 (1)	183
第149図	道路下落込み出土遺物 (2)	84
第150図	道路下落込み出土遺物 (3)	186
第151図	ピット・出土遺物	187

第152図	第5地点出土大型植物遺体	204
第153図	木製品の光学顕微鏡写真 (1)	207
第154図	木製品の光学顕微鏡写真 (2)	208
第155図	木製品の光学顕微鏡写真 (3)	209
第156図	出土種実遺体	213
第157図	道路方向の変化 (第二面)	216
第158図	区画割 (第一面)	216

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	8
第2表	建物跡計測表	23
第3表	建物跡出土遺物観察表 (1)	24
第4表	建物跡出土遺物観察表 (2)	25
第5表	埋設桶計測表	26
第6表	木樋計測表	29
第7表	杭列計測表	29
第8表	木樋出土遺物観察表 (1)	29
第9表	木樋出土遺物観察表 (2)	30
第10表	木樋出土遺物観察表 (3)	31
第11表	溝跡計測表	32
第12表	溝跡出土遺物観察表	32
第13表	土壙計測表	34
第14表	土壙出土遺物観察表 (1)	37
第15表	土壙出土遺物観察表 (2)	37
第16表	土壙出土遺物観察表 (3)	38
第17表	土壙出土遺物観察表 (4)	39
第18表	ピット計測表	41
第19表	ピット出土遺物観察表	41
第20表	遺構外出土遺物観察表 (1)	42
第21表	遺構外出土遺物観察表 (2)	42
第22表	土壙計測表	46
第23表	土壙出土遺物観察表 (1)	51
第24表	土壙出土遺物観察表 (2)	54
第25表	土壙出土遺物観察表 (3)	59
第26表	土壙出土遺物観察表 (4)	60
第27表	土壙出土遺物観察表 (5)	64
第28表	土壙出土遺物観察表 (6)	66
第29表	ピット計測表	69
第30表	ピット出土遺物観察表 (1)	69
第31表	ピット出土遺物観察表 (2)	69
第32表	ピット出土遺物観察表 (3)	70
第33表	遺構外出土遺物観察表	70
第34表	建物跡計測表	73
第35表	建物跡出土遺物観察表	78
第36表	基礎状遺構計測表	79
第37表	基礎状遺構出土遺物観察表	79
第38表	埋設桶計測表	81
第39表	埋設桶出土遺物観察表 (1)	81
第40表	埋設桶出土遺物観察表 (2)	82
第41表	埋設甕計測表	83
第42表	埋納遺構計測表	83
第43表	埋納遺構出土遺物観察表	84
第44表	井戸跡計測表	87
第45表	井戸跡出土遺物観察表 (1)	87
第46表	井戸跡出土遺物観察表 (2)	87
第47表	井戸跡出土遺物観察表 (3)	88
第48表	木樋計測表	89
第49表	木樋出土遺物観察表	90
第50表	道路跡木樋計測表	103
第51表	土留状遺構計測表	103
第52表	道路跡出土遺物観察表	106

第53表	道路跡木樋出土遺物観察表(1)・	110	第81表	土壙出土遺物観察表(3)・	172
第54表	道路跡木樋出土遺物観察表(2)・	111	第82表	土壙出土遺物観察表(4)・	175
第55表	道路跡木樋出土遺物観察表(3)・	113	第83表	土壙出土遺物観察表(5)・	177
第56表	道路跡木樋出土遺物観察表(4)・	113	第84表	土壙出土遺物観察表(6)・	178
第57表	土壙計測表	114	第85表	道路下落込み計測表	182
第58表	土壙出土遺物観察表(1)・	123	第86表	道路下落込み出土遺物観察表(1)	183
第59表	土壙出土遺物観察表(2)・	125			
第60表	土壙出土遺物観察表(3)・	127	第87表	道路下落込み出土遺物観察表(2)	185
第61表	土壙出土遺物観察表(4)・	127			
第62表	土壙出土遺物観察表(5)・	128	第88表	道路下落込み出土遺物観察表(3)	187
第63表	ピット計測表	129			
第64表	ピット出土遺物観察表	129	第89表	ピット計測表	187
第65表	遺構外出土遺物観察表(1)・	131	第90表	ピット出土遺物観察表	187
第66表	遺構外出土遺物観察表(2)・	132	第91表	本陣跡第5次文字資料	188
第67表	遺構外出土遺物観察表(3)・	133	第92表	遺構番号振替・欠番一覧表	189
第68表	遺構外出土遺物観察表(4)・	135	第93表	第5地点瓦計測表	190
第69表	遺構外出土遺物観察表(5)・	136	第94表	本陣跡第5次瓦計測表	190
第70表	建物跡計測表	138	第95表	出土貝類一覧	191
第71表	建物跡出土遺物観察表	138	第96表	第5地点遺構時期推定表	191
第72表	埋設桶計測表	139	第97表	本陣跡第5次遺構時期推定表	192
第73表	埋設桶出土遺物観察表(1)・	140	第98表	主要遺構出土遺物組成表	194
第74表	埋設桶出土遺物観察表(2)・	141	第99表	第5地点出土遺物一覧表	199
第75表	埋設桶出土遺物観察表(3)・	141	第100表	本陣跡第5次出土遺物一覧表	200
第76表	溝跡計測表	142	第101表	第5地点から出土した	
第77表	溝跡出土遺物観察表	142		大型植物遺体	203
第78表	土壙計測表	145	第102表	本陣跡第5次樹種同定結果	210
第79表	土壙出土遺物観察表(1)・	165	第103表	種実出土状況	213
第80表	土壙出土遺物観察表(2)・	172			

写真図版目次

巻頭図版	1	近世の日光道中	西から	2	本陣5次道路跡	東から
	2	本陣跡第5次第16号土壙出土面			栗橋宿跡第5地点	
図版1	1	調査区全景		図版4	1	第一面調査区全景
図版2	1	調査区遠景	北西から		2~5	第一面A~D区全景
	2	第5地点近景	南から		6	第二面調査区全景
図版3	1	本陣5次近景	南から		7・8	第二面A・B区全景

図版5	1 第二面C区全景	7～11 第1号木樋出土遺物
	2 第二面D区全景	図版11 1 第1号溝跡出土遺物
	3 第1・2号建物跡	2・3 第2・3号土壙出土遺物
	4 第1・2号建物跡断面	4・5 第5号土壙出土遺物
	5 第2号建物跡南端	6 第6号土壙出土遺物
	6 第1号埋設桶・第12号土壙	7～10 第7号土壙出土遺物
	7 第1号木樋	11 第9号土壙出土遺物
	8 第1号溝跡	図版12 1～3 第10号土壙出土遺物
図版6	1 第8号土壙遺物出土状況	4・5 第12号土壙出土遺物
	2 第9号土壙	6～10 第20号土壙出土遺物
	3 第10号土壙遺物出土状況	11・12 第23号土壙出土遺物
	4 第11号土壙遺物出土状況	図版13 1・2 第23号土壙出土遺物
	5・6 第14・15号土壙	3～6 第27号土壙出土遺物
	7 第3号溝跡・第17号土壙	7 第28号土壙出土遺物
	8 第20号土壙遺物出土状況	8 第32号土壙出土遺物
図版7	1 第19・20号土壙	図版14 1～9 第39号土壙出土遺物
	2 第21号土壙	図版15 1～11 第39号土壙出土遺物
	3 第22号土壙・ピット5	12・13 第43号土壙出土遺物
	4 第23号土壙・ピット7	14 第44号土壙出土遺物
	5 第24号土壙遺物出土状況	図版16 1～5 第46号土壙出土遺物
	6 第25号土壙遺物出土状況	図版17 1・2 第47号土壙出土遺物
	7 第26号土壙	3・4 ピット7出土遺物
	8 第28号土壙遺物出土状況	5～8 第一面遺構外出土遺物
図版8	1 第28号土壙	9 第二面遺構外出土遺物
	2 第27・47号土壙遺物出土状況	10 第1号木樋出土遺物
	3～5 第30～32号土壙	11～16 土壙出土遺物
	6 第33号土壙遺物出土状況	17 第一面遺構外出土遺物
	7・8 第36・37号土壙	18・19 第二面遺構外出土遺物
図版9	1 第39a・b号土壙遺物出土状況	図版18 1～4 第1号木樋出土遺物
	2 第41号土壙	5 第8号土壙出土遺物
	3・4 第42・43号土壙	6～10 第27号土壙出土遺物
	5 第44号土壙遺物出土状況	11 第38号土壙出土遺物
	6 第46号土壙遺物出土状況	12～18 第46号土壙出土遺物
	7 第46号土壙柄鏡出土状況	図版19 1 第23号土壙出土遺物
	8 ピット7遺物出土状況	2～4 第1号木樋出土遺物
図版10	1 第1号建物跡出土遺物	5・6 第2号土壙出土遺物
	2～6 第2号建物跡出土遺物	7 第9号土壙出土遺物

- 8 第28号土壙出土遺物
- 9・10 第39号土壙出土遺物
- 図版20 1～7 第46号土壙出土遺物
- 8 ピット6出土遺物

栗橋宿本陣跡第5次

- 図版21 1 第一面調査区全景 南から
- 2・3 第二面調査区全景
- 4 第1号建物跡・第1号木樋
- 5 第3号建物跡・第1号杭列
- 6 第4号建物跡
- 7 第2号建物跡
- 8 第1号基礎状遺構
- 図版22 1 第2号基礎状遺構
- 2 第1号井戸跡
- 3～8 第1～6号埋設桶
- 図版23 1～7 第7～14号埋設桶
- 8 第2号埋設甕
- 図版24 1・2 第1・2号埋納遺構
- 3・4 第1・2号溝跡
- 5 第2号溝跡亀出土状況
- 6 第1号道路跡 南から
- 7 第1号道路第1・3トレンチ断面
- 8 第2号木樋
- 図版25 1 第2号木樋・木枅・木桶出土状況
- 2 第2号木樋・木桶1
- 3 第2号木樋・木枅1
- 4 第3号木樋
- 5 第3号木樋断面
- 6 第3号木樋焼印
- 7 第4号木樋・第1号土留状遺構
- 8 第7号木樋
- 図版26 1 第3号土壙
- 2 第4号土壙遺物出土状況
- 3・4 第5・8号土壙
- 5 第8号土壙土層断面
- 6～8 第10～13号土壙

- 図版27 1 第14号土壙
- 2 第16号土壙
- 3 第16号土壙面出土状況
- 4 第17号土壙
- 5 第18号土壙遺物出土状況
- 6 第18号土壙
- 7 第19号土壙遺物出土状況
- 8 第20・23号土壙
- 図版28 1 第22号土壙
- 2 第22号土壙断面
- 3・4 第23・24号土壙
- 5 第25・33号土壙
- 6・7 第25・33号土壙遺物出土状況
- 8 第26号土壙
- 図版29 1～8 第27～35号土壙
- 図版30 1～7 第36～42号土壙
- 8 第44号土壙
- 図版31 1～4 第45～48号土壙
- 5 第50号土壙
- 6 道路下落込み遺物出土状況
- 7 ピット15一分判出土状況
- 8 ピット15
- 図版32 1～4 第1号建物跡出土遺物
- 5 第2号建物跡出土遺物
- 6・7 第4号建物跡出土遺物
- 8・9 第8号埋設桶出土遺物
- 10・11 第9・10号埋設桶出土遺物
- 図版33 1・2 第1号埋納遺構出土遺物
- 3 第2号埋納遺構出土遺物
- 4～6 第1号井戸跡出土遺物
- 7 第1号木樋出土遺物
- 8～10 道路跡（11層）出土遺物
- 11・12 道路跡（12層）出土遺物
- 13・14 道路跡（14層）出土遺物
- 図版34 1・2 道路跡（15層）出土遺物
- 3～6 第2号木樋出土遺物
- 7～9 第3号木樋出土遺物

- 10 第4号木樋出土遺物
- 11 第3号土壙出土遺物
- 12・13 第4号土壙出土遺物
- 図版35～39 第8号土壙出土遺物
- 図版40 1～7 第8号土壙出土遺物
8～11 第10号土壙出土遺物
- 図版41 1～5 第10号土壙出土遺物
6～9 第11号土壙出土遺物
10 第12号土壙出土遺物
11 第14号土壙出土遺物
12 第16号土壙出土遺物
13 第21号土壙出土遺物
- 図版42 1 第22号土壙出土遺物
2～13 第23号土壙出土遺物
- 図版43 1～9 第23号土壙出土遺物
10～14 第24号土壙出土遺物
- 図版44 1～12 第24号土壙出土遺物
- 図版45 1～4 第24号土壙出土遺物
5～15 第25・33号土壙出土遺物
- 図版46 1～4 第25・33号土壙出土遺物
5～8 第26号土壙出土遺物
9～14 第27号土壙出土遺物
- 図版47 1～4 第27号土壙出土遺物
5～8 第28号土壙出土遺物
9 第32号土壙出土遺物
10 第35号土壙出土遺物
11・12 第39号土壙出土遺物
13・14 第42号土壙出土遺物
15 道路下落込み出土遺物
- 図版48 1～3 道路下落込み出土遺物
4～11 第一面遺構外出土遺物
- 図版49 1～6 第一面遺構外出土遺物
7 紅坏
8 第1号木樋出土遺物
9・10 第8号土壙出土遺物
11 第10号土壙出土遺物
- 12 道路下落込み出土遺物
- 13～15 第一面遺構外出土遺物
- 16 第3号木樋出土遺物
- 17 第一面遺構外出土遺物
- 図版50 1 第1号基礎状遺構出土遺物
2～5 第2号基礎状遺構出土遺物
6 第10号埋設桶出土遺物
7～9 第2号木樋出土遺物
10 第8号土壙出土遺物
11 第25号土壙出土遺物
12～16 第一面遺構外出土遺物
- 図版51 1 第1号井戸跡出土遺物
2～4 第8号土壙出土遺物
5・6 第10号土壙出土遺物
7・8 第23号土壙出土遺物
9 第25号土壙出土遺物
10～12 第26号土壙出土遺物
- 図版52 1～3 第26号土壙出土遺物
4 第27号土壙出土遺物
5・6 第33号土壙出土遺物
7 第37号土壙出土遺物
- 図版53 1 第11号埋設桶出土遺物
2 第一面遺構外出土遺物
3・4 金属製品(1)(2)
5 道路下落込み出土金属製品
6・7 金属製品(3)(4)
- 図版54 1 ピット15出土一分判
2・3 土壙出土硯・石筆
4～6 土壙出土砥石(1)～(3)
7・8 遺構外出土石製品・板碑
- 図版55 1 磨石
2 温石・石板
3～8 道路下落込み出土石製品(1)～(6)
- 図版56 1～16 文字資料

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域については埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所については、近世絵図等から栗橋宿の範囲であることが明らかとなっており「栗橋宿本陣跡（No.86-007）」、「栗橋宿西本陣跡（No.86-008）」、「北二丁目陣屋跡（No.86-010）」として周知の埋蔵文化財包蔵地に登載されていたが、遺構の状況等を把握するために平成23年12月に試掘調査を実施した。その結果、近世の遺構、遺物が多量に検出され、新たに確認された部分について「栗橋宿跡」（No.86-011）として登載した。

上記の埋蔵文化財の所在が明確になったことから、利根川上流河川事務所長あてに、計画上やむを得ず現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査が必要な旨を回答し、取扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

調査に際し、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課（当時）の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が利根川上流河川事務所長から平成24年2月9日付け国関利上沿第27号で、埼玉県教育委員会教育長あて提出された。それに対する埼玉県教育委員会教育長からの発掘調査が必要な旨の勧告は下記のとおりである。

平成24年2月9日付け教生文第4-1337号

また、同法第92条の規定により公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された発掘調査届に対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりである。

[栗橋宿跡第5地点]

平成26年6月20日付け教生文第2-14号

[北二丁目陣屋跡]

平成26年6月20日付け教生文第2-16号

[栗橋宿本陣跡]

平成28年9月21日付け教生文第2-34号

(埼玉県教育局市町村支援部文化資源課)

2 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

栗橋宿跡第5地点・北2丁目陣屋跡の調査は首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴い、平成26年度および平成28年度に実施した。調査面積は899.0㎡である。

平成26年度に調査した調査区北半は、北側の一部が北2丁目陣屋跡にかかるため、調査名を栗橋宿跡第5地点・北2丁目陣屋跡とした。A区とB区は北2丁目陣屋跡に、C区とD区は栗橋宿跡に該当する。整理では、栗橋宿跡第5地点として作業を行った。

平成28年度に調査した調査区南半は、該当遺跡は栗橋宿跡および栗橋本陣跡だが、発掘調査は西本陣跡第2次調査の調査計画を変更して実施した。そのため調査名は栗橋宿西本陣跡第2次調査B区である。県からの通知は栗橋本陣跡第5次であり、整理はこの名称で行った。以上の経緯のため、本書では平成26年度調査部分を第5地点、平成28年度調査部分を本陣5次と呼称する。

第5地点の調査は、平成26年4月1日から同6月30日まで実施した。

事前準備として、4月7日に囲柵、4月11日に調査事務所の設置を行った。

まず第一面から着手した。重機による表土除去作業を4月9日から24日まで実施した。4月17日からは補助員による作業を開始し、遺構確認作業を進めた。遺構測量用の基準点測量及びグリッド杭打設作業は、4月25日に行った。

遺構確認作業の結果、建物跡、木樋などを検出し、遺構断面図・平面図作成、写真撮影などの記録作成作業を行った。

第一面の調査終了後、5月26日から6月2日にかけて重機による掘削を行い、第二面の調査を開始した。基準点測量及びグリッド杭打設作業は、6月9日に実施した。遺構確認作業の結果、土壌

などを検出し、遺構断面図・平面図作成、写真撮影などの記録作成作業を行った。6月27日から30日まで調査区を埋め戻し、機材を撤収して現地調査を終了した。

本陣5次の調査は、平成28年10月3日から平成29年3月15日まで実施した。

事前準備として10月3日に囲柵と調査事務所の設置を行った。

第一面から着手し、重機による表土除去作業は10月5日から11日まで実施した。10月6日より補助員作業を開始し、遺構確認作業を進めた。遺構測量用の基準点測量及びグリッド杭打設作業は、10月13日に行った。

遺構確認作業の結果、道路跡、木樋、建物跡、埋設桶、埋納遺構、土壌などを検出した。順次遺構断面図・平面図作成、写真撮影などの記録作成作業を行った。

第一面の調査終了後、平成29年11月28日から30日、12月19日から20日、平成30年1月26日から31日の3回に分けて重機掘削を行い、第二面の調査を開始した。基準点測量及びグリッド杭打設作業は、平成29年1月5日に行った。

遺構確認作業の結果、道路跡、木樋、建物跡、井戸跡、埋設桶などを検出した。順次遺構断面図・平面図作成、写真撮影などの記録作成作業を行った。3月13日に埋め戻し作業を行い、3月15日にすべての発掘機材を撤収して調査を完了した。

(2) 整理・報告書の作成

整理報告書の作成作業は、平成30年10月1日から平成31年3月31日までと、令和元年10月1日から令和2年3月31日までの2年度にわたって実施した。整理作業は第5地点、本陣5次を同時に進めた。

平成30年10月より出土遺物の水洗、注記、接

合復元作業を行った。復元した遺物は実測図作成、トレース等を進め、印刷用挿図を作成した。合わせて遺物写真を撮影した。同時に発掘調査で記録した図面の照合・修正も行った。修正図面はスキャナでコンピューターへ取り込み、画像編集ソフトを用いてトレースして印刷用版下を作成した。

令和2年1月までに原稿執筆、報告書編集作業を行った。入稿後、校正3回と色校正1回を経て3月27日に本書を刊行した。記録類や遺物は、令和2年3月に整理分類の上、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3 発掘調査・報告書作成の組織

平成26年度（発掘調査）

理 事 長	樋 田 明 男	調査部	
常務理事兼総務部長	大 嶋 紳一郎	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	富 田 和 夫
総 務 部 副 部 長	瀧 瀬 芳 之	調 査 監	細 田 勝
総 務 課 長	藤 倉 英 明	主幹兼調査第二課長	木 戸 春 夫
		主 査	山 本 禎
		主 事	坂 下 貴 則

平成28年度（発掘調査）

理 事 長	塩野谷 孝 志	調 査 部 副 部 長	赤 熊 浩 一
常務理事兼総務部長	木 村 博 昭	主幹兼調査第一課長	田 中 広 明
総務部		主 査	栗 岡 潤
総 務 部 副 部 長	黒 坂 禎 二	主 任	古 谷 涉
総 務 課 長	曾 川 浩 二	主 事	坂 下 貴 則
調査部		主 事	近 藤 洋
調 査 部 長	金 子 直 行	主 事	桂 大 介
調 査 部 副 部 長	細 田 勝	主 事	鈴 木 志 穂

平成30年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤 田 栄 二	調査部	
常務理事兼総務部長	川 目 晴 久	調 査 部 長	瀧 瀬 芳 之
総務部		調査部副部長兼整理第二課長	山 本 靖
総 務 部 副 部 長	田 中 広 明	主 事	片 山 祐 介
総 務 課 長	新 井 了 悟		

令和元年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤 田 栄 二	調査部	
常務理事兼総務部長	高 津 導	調 査 部 長	黒 坂 禎 二
総務部		調査部副部長兼整理第一課長	上 野 真由美
総 務 部 副 部 長	山 本 靖	主幹兼整理第二課長	福 田 聖
総 務 課 長	新 井 了 悟	主 事	片 山 祐 介

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

栗橋宿跡第5地点は、久喜市栗橋北二丁目3426-1ほかに所在する。JR宇都宮線、東武日光線の栗橋駅から北東0.8kmにあたる。久喜市は埼玉県の北東端に位置し、利根川を挟んで茨城県古河市、五霞町に接している。JR宇都宮線、東武日光線が通り、国道4号・125号、県道3号さいたま栗橋線・12号川越栗橋線が交差する、県北東部における鉄路・陸路の結節点である。

久喜市は平成22年に久喜市・栗橋町・菖蒲町・鷺宮町が合併して、新市としての久喜市となった。旧栗橋町域は現在でも栗橋地区と称されている。

栗橋地区は日光街道の宿場町として栄え、南流する利根川を用いた舟運と合わせて現代に至るまで大いに賑わいをみせている。また、市街を離れると、水田の中に自然堤防に沿った帯状の屋敷林が点在する景観となる。

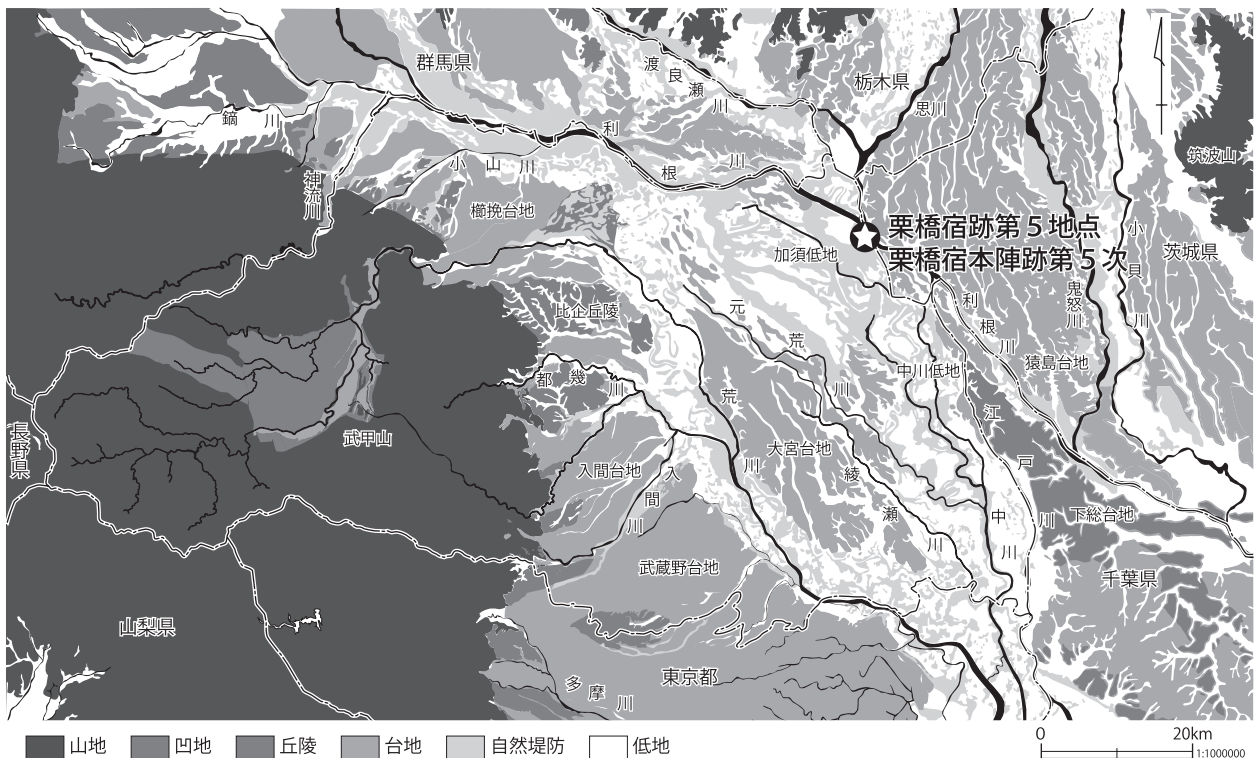
遺跡は中川低地の北に位置している。中川低地

は関東平野のほぼ中央、利根川中流域低地である加須低地の南東側に当たる。南側は大宮台地、東側は利根川を越えて古河台地になる。

妻沼低地、加須低地付近は関東造盆地運動の最も沈降の度合いが強い地域として知られ、現在でも沈降が進んでいる。羽生市小松1号墳が地下約3mに埋没しているのは、沈降が進んだ結果である(矢口・瀧瀬1996)。沈降前の利根川は現在の荒川筋を流れており、この造盆地運動によって現在の利根川の方へと東遷したとされている。しかし、その流路は安定せず、多くの蛇行する流路跡とそれに伴う自然堤防が形成された。

近世初頭段階の利根川本流筋として、会の川、合の川、利根川分流、北川辺蛇行流路、島川、渡良瀬川、浅間川、大落古利根川、庄内古川が考えられ、それ以外にも細かな流路が推定される。

中川低地にはこうした多くの河川の流下によって、



砂礫が多く供給され、その両岸には自然堤防が発達した。また、浅間川と会の川が大落古利根川に合流する久喜市(旧栗橋町)高柳には、大河の証しである河畔砂丘が形成され、微高地として旧鷲宮町以南に連続して分布している。

栗橋宿跡は、近世初頭以前に渡良瀬川の右岸に形成された北西-南東方向の長さ約300m、幅

120mほどの自然堤防上に立地している。後述する江戸幕府に始まる東遷事業後は、遺跡の北を流れることとなった利根川の右岸に位置し、現在では利根川の堤防に接している。遺跡付近の標高は11~12mで、南側の後背湿地に営まれる水田との比高差は約1.0mである。遺構の覆土や地山は、砂質もしくはシルト質である。

2 歴史的環境

(1) 中世の栗橋とその周辺

栗橋宿跡の所在する中川低地周辺の地表は、地形の沈降と河川の乱流による堆積土に厚く覆われている。そのため遺跡の分布は未だ不明な部分が多く、本来は現在検出されているよりも多くの遺跡の存在が予想される。

栗橋地区では、古代以前に遡る遺跡は確認されていない。縄文時代前期(約6000年前)の海進時

には栃木市藤岡付近まで海が入り込み、栗橋地区は海底であった。海退後は河川が乱流し、付近は湿地のような状態が長く続く。

平安時代には下総国葛飾郡新居郷に属し、12世紀には摂津源氏源頼政の郎党下河辺氏によって下河辺荘が開かれ、鎌倉時代中期には金沢北条実時が地頭となる。栗橋地区に当たる狐塚、高柳の両



第2図 栗橋宿跡周辺の地形

郷は金沢氏の支配を受けていたとされている。

鎌倉時代には、『吾妻鏡』に大河戸兄弟に関する記事があり、三郎行元は地区内の高柳が本貫地とされている。高柳から伊坂にかけては、鎌倉街道に比定される古道が今も一部残っている。近くには静御前終焉の地も伝承されている。

旧大利根町や旧栗橋町などの地域では、中世の遺跡はほとんど検出されていない。唯一、旧栗橋町の佐間小草原遺跡（2）が知られるのみである。中世墓を中心とした遺跡で、板碑37基、古瀬戸の瓶子、常滑の大甕などが工事中に出土した。板碑の年代は、文和3年（1354）から明応7年（1498）に及んでいる。平成17年の調査では、溝跡や土壇などが検出され、板碑、漆塗り椀などが出土した。

中世段階の利根川は、羽生市川俣で会の川、加須市大越で北川辺蛇行流路跡、浅間川に分流していた。栗橋地区周辺では、洪水による大量の土砂の堆積と、関東造盆地運動による地盤の沈降が進み、遺跡の存在は定かではない。

一方、渡良瀬川（太日川）の左岸、および権現堂川の左岸では、栗橋城址、古河城址をはじめとする数多くの遺跡が知られている。

近世初期までの「栗橋」といえば、現在の茨城県猿島郡五霞町の元栗橋を指す。享徳4年（1455年）の享徳の乱後、御座所を古河に移した鎌倉公方足利成氏が古河公方と称して以降、元栗橋にはその支城の栗橋城（3）が置かれた。

鎌倉街道中ツ道（奥州道）の利根川の渡河点があった栗橋城は、水陸の要衝として後北条氏の関宿城（10）攻略の拠点となった。天正2年（1574）に関宿城開城後は北関東攻略の起点となったが、豊臣秀吉の小田原攻めにより天正18年（1590）に開城する。『鷲宮町史』、『町史五霞の生活誌』によれば、栗橋城の城下町は城の東側に広がり、古河方面への道と関宿方面への道が分岐していたという。また、南側には鎌倉街道中ツ道・奥州街道の渡船場があったとされている。遺跡の分布は、

その街道沿い、および東側の福田近辺の関宿・古河を結ぶと考えられる道沿いに分布している。

古河城（14）も栗橋城同様に、後北条支配下の足利氏によって戦国城郭として整えられたが、やはり小田原攻めによって破却された。

その後、徳川家康に従っていた小笠原秀征が古河城を修復し、近世以降も幕閣を含む歴代の城主によって拡張され、古河は城下町として栄えていく（古河市史編さん委員会1985、茨城県古河市教育委員会2004）。

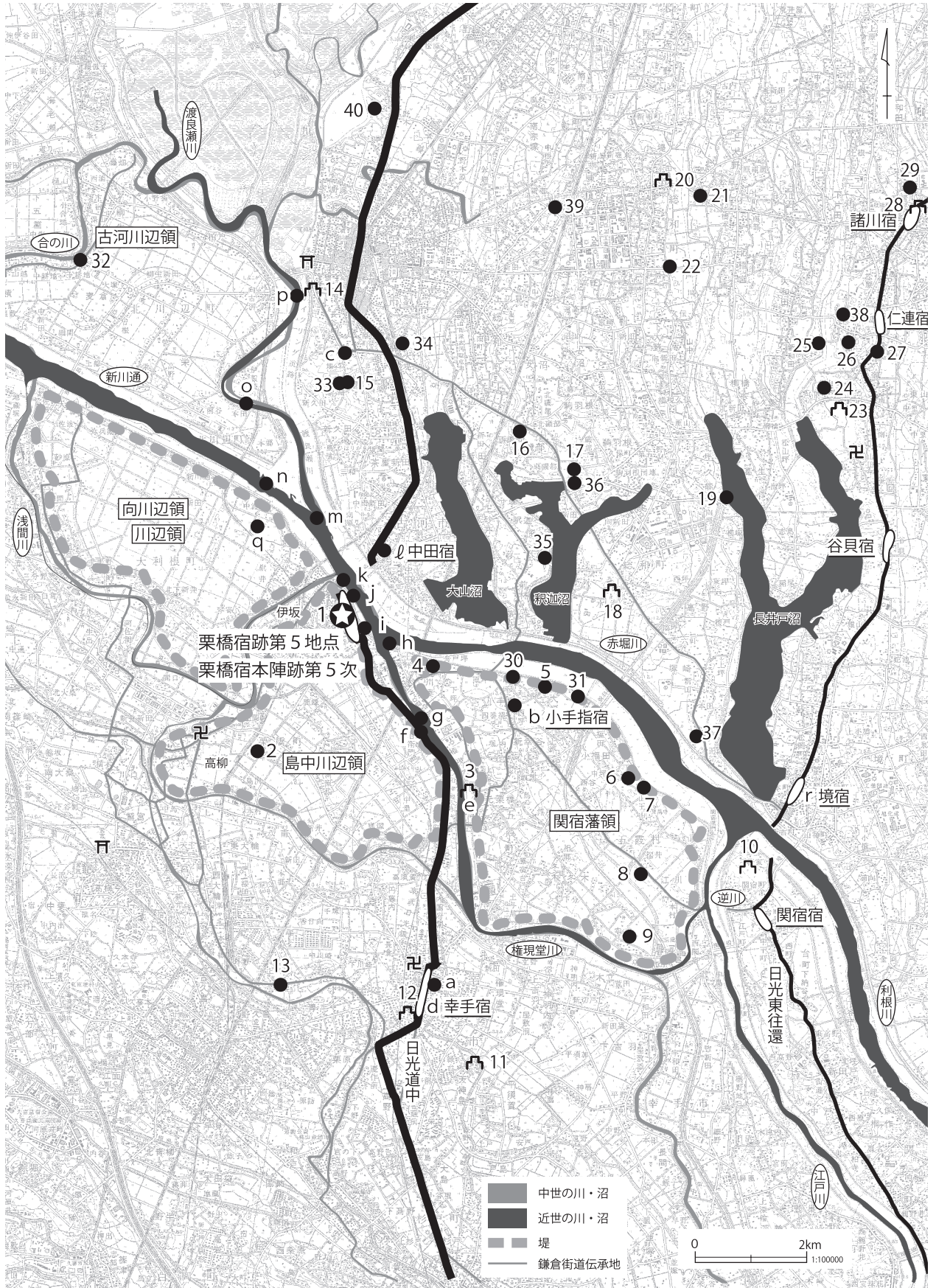
古河城南の御所沼の奥に舌状に突出した台地上には、古河公方の御所として知られる鴻巣館跡（15）がある。初代古河公方足利成氏によって、享徳4年（1455）に築造された連郭式の城郭で、最後の古河公方足利義氏の娘氏姫の居館として知られている。足利の後裔、喜連川氏の尊信が寛永7年（1630）に古河を離れた後は、時宗十念寺の寺域となった。

渡良瀬川、利根川の左岸には、現在大小の沼沢地が多く認められる。その多くは利根川改修以後の赤堀川の開削によって形成されたもので、本来は猿島台地を開析した中小河川による支谷であった。その縁辺部に古河公方入府とともに、足利成氏の重臣たちの城や館が造られたと考えられる。小堤城跡（20）、磯部館跡（16）、水海城址（18）等が知られるが、詳細についてはほとんど明らかでない。茨城県側の城館跡や周辺の中世遺跡については、既刊の『栗橋宿番士屋敷跡』や『栗橋宿跡Ⅰ』（ともに埼玉県埋蔵文化財調査事業団2018）に詳しいので参照されたい。

（2）近世の栗橋とその周辺

利根川の改修

中世の古河を中心とした栗橋周辺の様相は、徳川家康の江戸入府によって一変する。特に大きな影響を与えたのが、利根川改修事業、所謂利根川の東遷である。徳川幕府は、家康の関



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧（第3図）

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	栗橋宿本陣跡・栗橋宿跡	21	本田山遺跡	a	田宮町
2	佐間小草原遺跡	22	蔵王遺跡	b	小手指宿
3	栗橋城址	23	東の門西の門城址	c	徳淑院
4	宿北・宿東遺跡	24	北山田北久保遺跡	d	幸手宿
5	釈迦新田遺跡	25	御領遺跡	e	道標
6	同所新田遺跡	26	大膳屋敷跡	f	一里塚
7	新田遺跡	27	関根豪族屋敷跡	g	勘平の渡し
8	桜井前遺跡	28	諸川西門城址	h	川妻の渡し
9	瀬沼遺跡	29	本田遺跡	i	下河岸跡
10	関宿城址	30	上原遺跡	j	栗橋河岸
11	天神島城址	31	殿山塚	k	房川の渡し
12	幸手城址	32	倚井陣屋遺跡	l	中田宿
13	渡辺氏屋敷跡	33	城地遺跡	m	本郷渡し
14	古河城址	34	石行塚遺跡	n	中渡し
15	鴻巣館跡	35	羽黒遺跡	o	鈴木の渡し
16	磯部館跡	36	釈迦才仏遺跡	p	古河の渡し
17	香取東遺跡	37	清水遺跡	q	旗井小学校
18	水海城址	38	新屋敷遺跡	r	境宿
19	向坪B遺跡	39	大塚遺跡		
20	円満寺城址（小堤城址）	40	野木宿遺跡		

東入府後早々に利根川の改修に着手した。それまでの本流であった浅間川、会の川、古利根川の川筋から、新川通、赤堀川を開削して常陸川に結び、合わせて権現堂川を介して江戸川とつなぐ大規模な流路変更で、利根川東遷事業として知られている。その目的は、江戸を水害から守るためという治水が第一義とされてきた。また、古河城を合わせた江戸の北の防衛線とする説も知られている。最近では、「内川廻し」と呼ばれる内陸航路の確保、水田開発目的とする説も有力である。

栗橋周辺では、文禄3年（1594）忍城主松平忠吉の命を受けた忍藩家老小笠原三郎左衛門が羽生市上新郷で会の川を締め切ったのに端を発する。

元和7年（1621）には、利根川と常陸川を結びつける意図のもとに旧大利根町佐波から旧栗橋町中渡までの新川通、五霞町川妻から境町長井戸への赤堀川が開削された。しかし、当初の赤堀川の掘削は失敗に終わり猿島郡釈迦沼にまでしか至らず、現在の五霞町域に甚大な被害をもたらした。その後、2度の拡張、増掘（二番堀、三番堀）を経て、

漸く承応3年（1654）に通水に成功した。銚子へ至る新たな利根川の主流路が形成されたのである。

更に、天保9年（1838）に合の川と浅間川が完全に締め切られ、利根川の流れは新川通の流路へと一本化され、現在に至っている。

利根川本流の開削、整備とは別に、天正4年（1576）の権現堂堤の築堤に始まる五霞町、幸手市域でも大規模な河川改修が行われた。赤堀川通水以前の利根川では、寛永18年（1641）に逆川が開削される。これにより常陸川と寛永12年（1635）から開削が進められていた江戸川が、関宿の北で繋がった。江戸川は、更に拡張工事が進められ正保元年（1644）に完成し、前述の赤堀川三番堀の完成以前は、利根川、渡良瀬川両大河の水は、一部逆川を介して常陸川に注ぐものの、ほとんどはこの江戸川を流れていた。

このような利根川を中心とした河川改修の結果、前述の「内川廻し」の航路とともに、利根川上流域の上野、渡良瀬川上流域の下野との航路が確保され、北関東が江戸を中心とする経済圏の一部と

なった。また、利根川、荒川両大河の河川改修は、埼玉平野に広大な新田開発をもたらし、航路の開発とともに、その経済効果は絶大であった。

更に、栗橋地区を含む島中川辺領は、外縁部に囲堤が造られ河川の流路が固定されるとともに、領域全体が輪中となり、治水環境が整えられた。

日光道中と栗橋宿の成立

日光道中は、元の奥州街道のうち江戸・宇都宮間を含み込み成立したものと捉えられる。寛永13年（1636）に日光東照宮の造替が竣工し、徳川家光・家綱が盛んに社参を行うようになる頃には、日光道中としての整備も進んだと考えられる。一方、元栗橋は、利根川の河川改修による度重なる洪水が発生し、宿と房川渡しは荒廃した。そのため、栗橋宿の位置を現在地に移したようで、『栗橋町史』では、その時期を元和7年（1621）前後と想定している。なお、『新編武蔵風土記稿』では、慶長年中に池田鴨之介と並木五郎兵衛による開墾と伝え、明治45年の『栗橋町郷土誌』では、その時期を慶長19年としている。

寛永期に入ると「今栗橋」と「元栗橋」を区別した史料がある。また、宿内深廣寺の石造名号塔群の銘文には、承応3年（1654）7月までに立てられた8基が「新栗橋」とみえるが、同年8月以降に立てられた12基は「栗橋」とのみあり、「新栗橋」「今栗橋」が「栗橋」として定着していく過程が窺われる。

寛永元年（1624）には栗橋関所が開設され、明治2年（1869）に関所が廃止されるまで、245年間にわたり日光道中六番目の関所として機能した。

徳川幕府は、河川改修による舟運の整備と合わせて、陸路、五街道の整備を行った。日光道中は、江戸日本橋を起点に下野国坊中までの20宿、36里11町の街道である。県内では、草加、越ヶ谷、粕壁、杉戸、幸手、栗橋宿があった。栗橋の対岸の下総側には中田、古河があり、野木、間々田、小山、新田、小金井、石橋、雀宮、宇都宮、徳次郎、大沢、

今市、鉢石を経て日光坊中に至る。

栗橋宿は、江戸から14里15町、幸手から2里3町で、江戸から7番目の宿である。対岸の中田宿と合宿で、栗橋町史に引かれている『日光道中宿村大概帳』には、宿高689石余、宿往還の長さ15町13間余、宿町並10町30間、宿の家数404軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋25軒、人口1741人（男性869人、女性872人）と記されている。日光道中では規模は小さい宿場であるが、渡しを控える立地上、旅籠屋や茶店が多いのが特徴である。

また、文化・文政期に編まれた『新編武蔵風土記稿』には「小名」として上町、中町、下町、三ツ俣、船戸、鍛冶町の六つの町名が記されている。このうち、栗橋宿の中心は北部の上町と船戸であり、主要な施設が集中していた。商店の多くも上町と船戸に集中し、南下するに従って農家の割合が多くなっていった。

栗橋宿跡は、当事業団が平成24年度から調査を継続している。これまでに、本陣跡、脇本陣を含む西本陣跡に加え、宿跡の9地点を調査し、調査面積は32,000㎡に及ぶ。

合宿としての中田宿は、宿高456石余、宿往還の長さ12町18間余、宿町並4町50間、宿の家数69軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋6軒、人口403人（男性169人、女性234人）である。

栗橋宿と舟運

利根川では舟運による輸送が発達しており、栗橋近辺でも権現堂河岸と関宿河岸が古くから知られている。栗橋河岸は、近世当初の元禄年間には年貢米を江戸へ送る「津出し湊（河岸）」ではなかったが、明和8年（1771）には中里村の、天明期（1781～89）には加須市域の水深村の津出しが行われ、近世中・後期にはその役割があった。栗橋町史に『武蔵国郡村誌』から作成した栗橋町域の明治初期の船の一覧が掲載されているが、その数610艘に上る。いかに栗橋区域が舟運と密接な生活を送っていたかが分かる。

この内、栗橋宿が有していた舟運に関わった所謂川船は、高瀬舟10艘、小高瀬舟2艘、似躰(にたりひらた)船8艘、屋形船17艘である。

江戸へ向かう下り船は大豆に代表される農産物などを積み、空となった帰りの上り船には、塩、砂糖、干鰯、灰などの肥料、木綿、乾物、陶磁器などが積まれた。水揚げされた河岸場は、地域経済の要であった。

栗橋河岸には、房川渡しから堤沿いに続く舟戸町の船着き場と、やや下った利根川と権現堂川の分岐付近の下河岸があった。

栗橋関所では、船改め役を務める船問屋が船荷を改める「船改め」が行われていた。『栗橋関所史料一』によれば、船改めは享保年間(1716～1736)に下河岸で行われていた。しかし浅間山噴火(1783)の泥流の影響で、利根川の川筋が変化して下河岸に接岸できなくなり、舟戸町近辺に場所を移したとされている。従って、津出し湊や、江戸との川船の往来に利用されたのは舟戸町の河岸場と推定される。

近世の栗橋村

近世初頭では栗橋宿を含む井坂、松長、佐間、島川、広島、河原代、狐塚、中里、小右衛門の各村は幕府の蔵入地で、代官伊奈半十郎忠治によって支配されていた。伊奈氏の支配は関東諸国に及び、特に武蔵国東部の低地開発を強力に推し進めたことで知られている。その結果、開発された広大な新田は伊奈氏の支配地として引き継がれていった。利根川東遷事業による新田開発もその一環とも言えるだろう。

元禄10年(1697)の所謂元禄の地方直しでは、高柳村、高柳新田は酒井対馬守、島平村は酒井監物、広島村は久津見斧太郎、河原代村は久津見斧太郎・榊原大膳の旗本知行へ支配替えが行われた。

加えて、松長、間鎌、間鎌新田、佐間、佐間新田、井坂の各村は、18世紀中葉の延享年間(1744～1748)、19世紀前半から中葉の文政年間から安

政年間に徳川御三卿領への支配替えとなった。

近世の周辺遺跡

栗橋周辺の近世遺跡は、日光道中と将軍の宿城である古河城を中心に展開する。

古河城(14)は、近世以降小笠原、松平、奥平、永井、土井、堀田、松平の多くの幕閣を含む歴代の城主によって、拡張、城下町の整備が行われた。特に、度々将軍の日光参詣の宿城となったため、その都度、特別な手当金が支給され整備が進んだ。

利根川の東側は、利根川の河川改修以降も、この古河城を中心として遺跡が展開している。

旧総和町香取東遺跡(17)では18～19世紀の土壇(墓壇)、井戸跡、溝跡が検出された。南側に隣接する釈迦才仏遺跡(36、茨城県教育財団1998)には、南北11.4m、東西8.4m、高さ1.0mの不整隅丸方形を呈する近世後半の塚が造られた。

長井沼の奥になる本田山遺跡(21)は、中世に引き続き近世でも墓地として継続している。柳橋城の南側となる旧総和町向坪B遺跡(19)(茨城県教育財団1986)からは近世の土壇、溝跡が検出され、土壇墓が含まれていると考えられる。長井沼東側の旧鎌倉街道は栃木県多功に通ずる日光東街道として、元和年間には整備されていたとされている。街道には仁連宿、谷貝宿が設けられた。仁連宿の北、諸川には中世から続く本田遺跡(29)(技研測量設計株式会社2010)があり、17世紀後半を中心とする掘立柱建物跡、竪穴状遺構、地下式坑、土壇、墓壇、井戸跡、溝跡が検出された。

(3) 近世から近代への栗橋

幕末の栗橋宿

幕末の19世紀中葉には、天保の飢饉に端を発する打ちこわし、慶應2年(1866)から始まる武州世直し一揆、元治元年(1864)の水戸浪士による天狗党の乱など、社会情勢が不安定になった。栗橋でも、慶應4年(1868)羽生陣屋焼き払いに始まる打ちこわしが波及した。『足立家文書御関所

日誌』には、9000人余りが宿内へ侵入し、名主良右衛門宅に放火し、仲町百姓弥平次宅、本陣池田由右衛門宅を打ちこわし、また関所へも押し入り、番士が関所から退去したとある。

明治2年2月には、葛飾県役所から関所廃止の通知が出された。番士四家は関所道具を栗橋宿へ預け、関所改めの廃止を各所に通知し、関所を引き払った。一方栗橋宿は、明治22年(1889)年に町村制が施行され、北葛飾郡栗橋町となった。交通の要衝としての役割は引き継がれていった。

近代の栗橋地区

本陣池田家の池田鴨平は、明治新体制下において、葛飾県の組合取締役・勸農取締役方を務め、行政区画が埼玉県に移行すると、第八区区長となった。明治9年の明治天皇行幸に際しては、案内人を務めている。

交通網における大きな変化は、大宮～宇都宮間の鉄道敷設で、明治18年7月に栗橋駅までが開通する。当所、渡船連絡であった利根川の渡河も、翌年7月には鉄橋が架設された。一方、明治10年内国通運会社が東京深川から栗橋を経て、生井(栃木県小山市)まで蒸気船通運丸を就航させた。同13年には長島良幸が長島丸を、同35年には栗橋の廻船問屋古川平兵衛が古川丸を就航させるが、内国通運会社との競争に敗れ撤退している。その後、鉄道の発達により、舟運は衰退し、大正8年、内国通運も撤退している。

このころの栗橋町の様子は、明治35年(1902年)に全国営業便覧発行社から刊行された『埼玉

県営業便覧』(以下『営業便覧』)にみることができる。『営業便覧』には当時の栗橋町の家並みが収録されており、旧日光道中の表通りには商家が連なり、回漕、運送業に関わる店が多いのも特徴である。明治31年に町の地主や商人による出資で開業した栗橋銀行や、明治33年開業の栗橋商業銀行、いずれも池田鴨平が設立に関わった栗橋学校(明治5年に私塾として開校)・淑徳女学館(明治22年)等、主要な施設が旧宿場内に設置されていたことが分かる。利根川沿いの船戸町には回漕業や料理店等が立ち並び、文豪田山花袋が度々訪れたという鯉料理店の稲荷楼(稲荷屋)も船戸町にあった。

近世の宿場町を骨子としつつ、近代化を遂げた栗橋町であったが、前代に引き続き水害・災害と直面することも多かった。明治43年の水害では冠水を逃れたが、それ以前の明治23年の水害では栗橋町の戸数の25%強が冠水したとされる。

明治33年からは、利根川の抜本的な改修計画(利根川改修計画)が始まり船戸・鍛冶町は河川敷となる。利根川における近代治水事業は以後、継続的に実施されている。

栗橋宿跡の利根川渡河地点という立地は、交通の要衝としての発展と、水害によるリスクが表裏一体の関係にあったと言えよう。

引用・参考文献については、紙数の都合上全てを挙げるができない。埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第448集『栗橋宿跡 I』の引用・参考文献一覧を参照されたい。

Ⅲ 遺跡の概要

栗橋宿跡は、久喜市栗橋北二丁目ほかには所在する。栗橋宿跡の発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴って実施されたものであり、平成24年に第1地点の開始以来、平成30年度の第9地点まで6か年にわたって調査が行われてきた。

今回報告するのは、栗橋宿跡第5地点、および栗橋宿本陣跡のうち日光道中部分にあたる第5次調査地点である。栗橋宿の北端に位置し、南東方向から北上してきた日光道中が、利根川沿いの房川渡関所に向かって北東方向へ直角に折れた地点である。日光道中を挟んで北側の町屋跡が第5地点、道路部分と南側の町屋の一部が本陣跡である。

発掘調査では、第5地点・本陣5次とも確認面を2面設定した。第5地点の標高は第一面で10.8m、第二面で10.0m、第5次地点の標高は第一面で10.8m、第二面で9.8mである。

第5地点第一面で検出された遺構は、建物跡2棟、敷地境とみられる木樋・杭列2条、道路跡1基、埋設桶1基、溝跡2条、土壇17基、ピット4基である。

第二面で検出された遺構は、土壇30基、ピット4基である。

本陣第5次第一面で検出された遺構は、建物跡3棟、基礎状遺構2基、埋設桶9基、埋甕1基、埋納遺構2基、井戸跡1基、杭列1条、木樋8条、道路跡1条、土留状遺構1基、土壇8基、ピット2基である。

第二面で検出された遺構は、建物跡1棟、埋設桶5基、溝跡2条、土壇24基、ピット14基、である。ほかに道路面の下から落込みが1基検出されており、第三面とした。

土層は確認箇所ごとによって変化が大きく、対応が難しいため、統一番号を振らなかった。おおむね砂質土を基調としており、道路部分は一部で薄層がたたき状に版築された硬化面が確認できた。

最下層は黄灰色シルト質土で、この下からは石臼と手水鉢を伴う落込みが1基確認された。

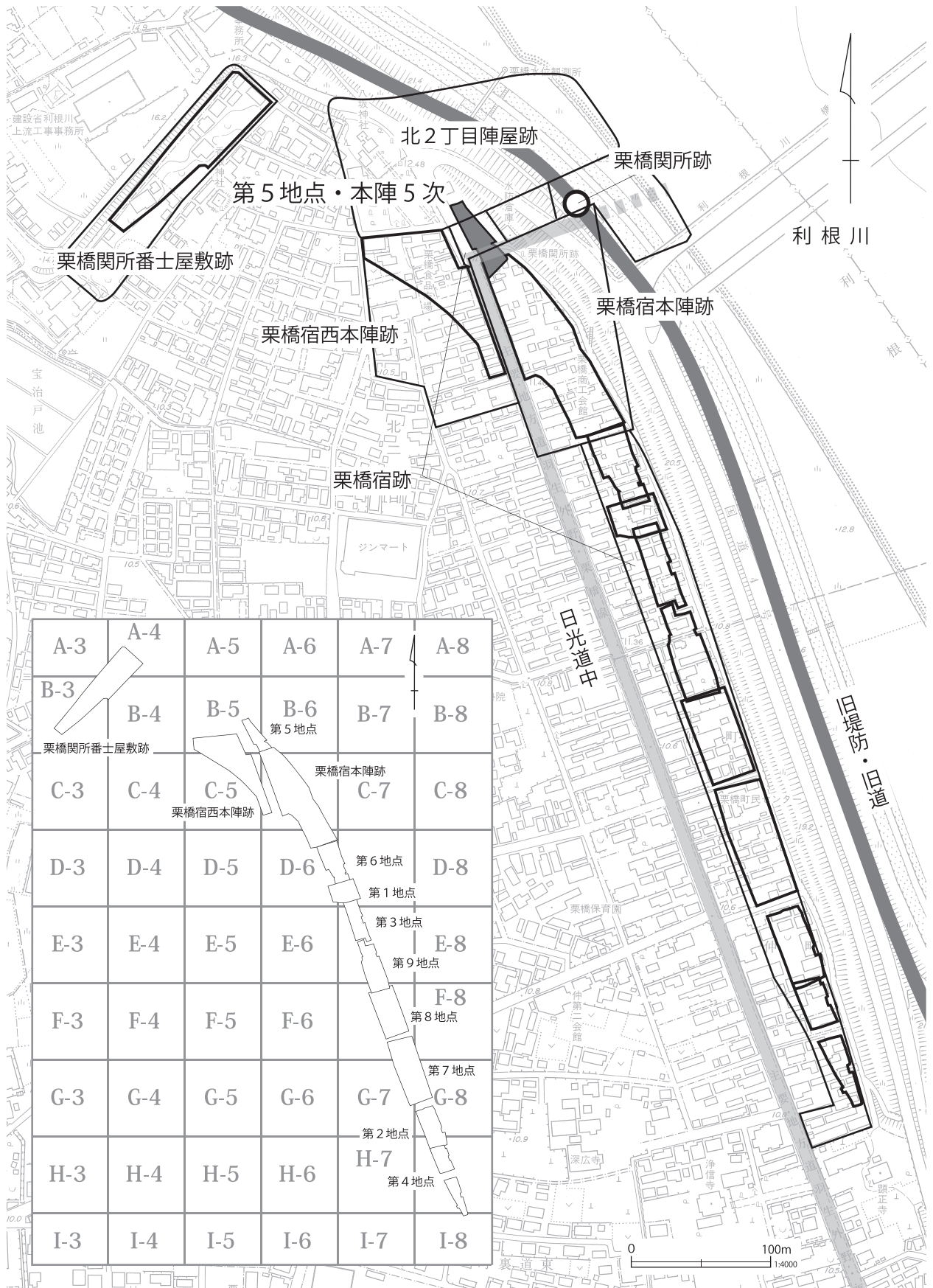
複数の土層確認個所で火山灰が検出され、天明三年（1783）に噴火した浅間山起源のものと考えられる。

遺構の時期は、第一面は19世紀後半以降、第二面は18世紀中葉から19世紀前半を中心とする。

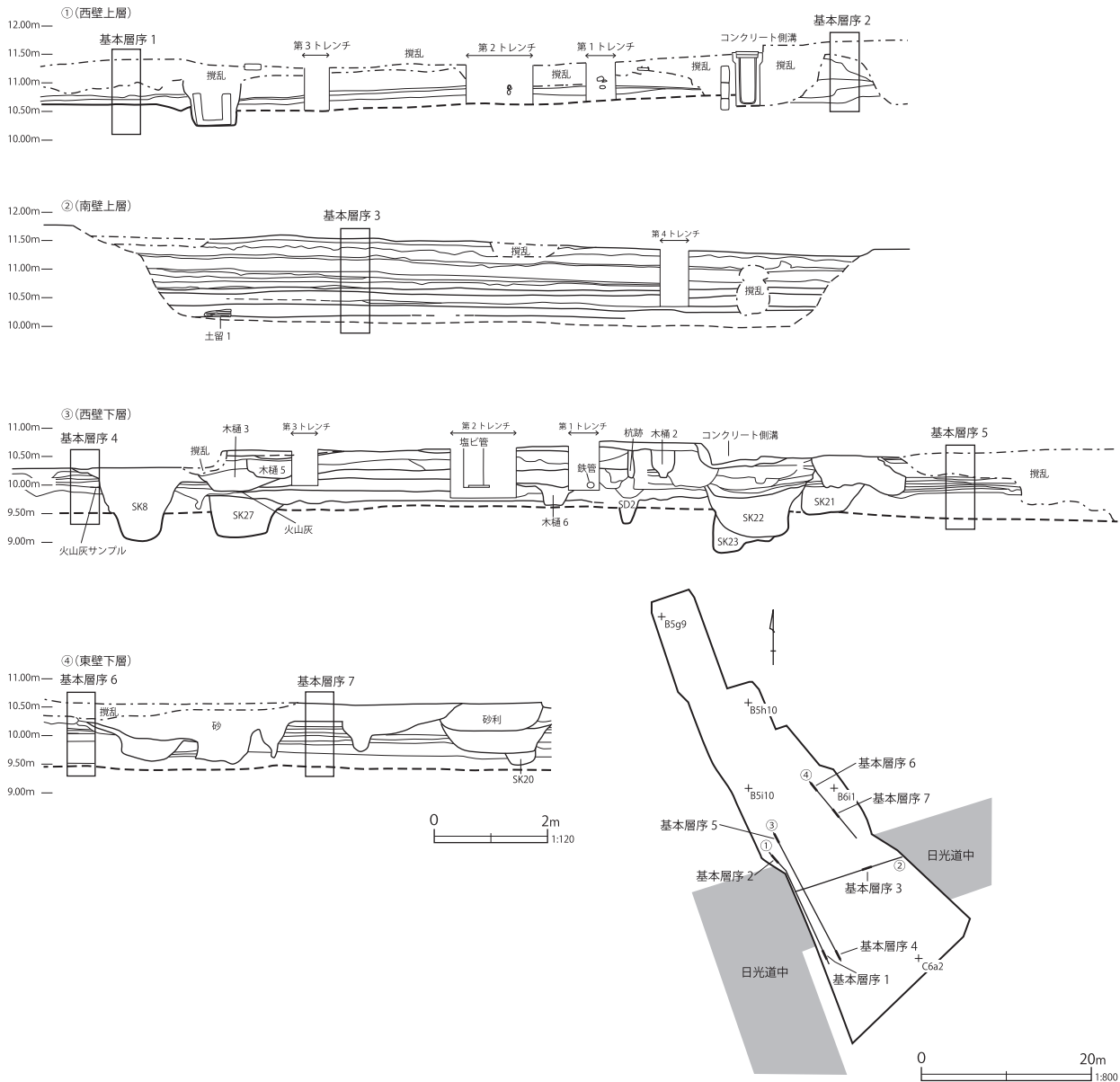
第一面で確認された建物跡は、道路に面したオモテと、ウラで基礎構造が異なる。ウラにあたる第5地点第1、第2号建物跡は、溝状の掘り込み底面に平石を等間隔に並べ、その上に版築した層を複数枚充填したもので、土蔵などの重量建造物が乗っていた可能性がある。道路に面した本陣5次の建物跡は、地表に礎石を並べるか2～3本を束にした木杭を打ち込んだ基礎構造であり、簡略なつくりである。

道路跡は日光道中に該当し、宿場町から関所へ向かう位置にあたる。西南西から東北東方向へ走り、ほぼ現道と一致する。道路跡は複数の硬化面が形成されている。道路跡と南北の町屋との境界には木樋による暗渠を設ける構造である。硬化面は6枚確認した。木樋は道路の北側に4条、南側に2条の計6条確認でき、層序と木樋の組み合わせから、少なくとも2段階設定できる。道路に沿った木樋の他に、道路跡に直交する方向へ延びる木樋と杭列も見つかっている。道路の木樋とは異なり蓋は確認できなかった。敷地境によって確認できた区画は、道路を挟んで4区画あり、それぞれで建物跡が見つかっているが、第一面と第二面で建物の主軸が若干異なる。

土壇は火災処理土壇とみられるものが複数あり、被熱陶磁器類のほか、建築材、炭化米などが出土した。とくに本陣5次第8号土壇は道路と平行に走行する溝状の火災処理土壇で、片面が炭化した柱材が出土しており、火災の状況を具体的にうか



第4図 遺跡位置図



第5図 基本土層（土層位置）

がうことができる。このほかに、道路内で検出された本陣5次第16号土層からは、木製面が出土した。また、果実から取り出したままのトウガン種子が出土している。出土位置、遺物から他の土層とは異なる性格の可能性も考えられる。

第二面は土層を中心に検出したが、日光道中に相当する位置には遺構がほとんど分布しない。第一面と同様に火災処理土層とみられる土層が複数あり、出土遺物も近接する遺構間で接合するものが多い。第5地点第46号土層は溝状の土層であるが、道路跡に直交することからほぼ当時の区割

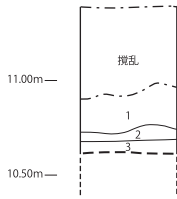
に沿って掘られたものと考えられる。ここからは、2面の鏡や複数の仏飯器、多量の被熱瓦や二〜三寸釘が出土している。このほかにも、道路幅を示していると思われる土層も確認された。本陣5次ピット15からは、宝永一分判が出土した。その他に、陶磁器の破片等がわずかに伴う。

第三面とした落込みは、道路の基盤層よりも下層で検出された。遺物は陶磁器類が少なく、金属製品が多い。石臼と手水鉢のような大型石製品を伴う。

12.00m—

基本層序 1

11.50m—

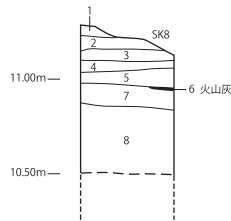


10.50m—

12.00m—

基本層序 4

11.50m—



10.50m—

基本層序 1

- 1 明黄褐色土
- 2 灰黄褐色土 硬化
- 3 灰黄褐色土

基本層序 2

- 1 黒褐色土
- 2 明褐色土 基本層序 1 の 1 層と対応する土層か
- 3 灰褐色土 黄褐色シルトブロック含む 基本層序 1 の 2 層と対応する土層か
- 4 灰黄褐色土 しまりあり 基本層序 1 の 3 層と対応する土層か

基本層序 3

- 1 明黄褐色土
- 2 褐灰色土
- 3 明褐色土
- 4 褐灰色土
- 5 明褐色土
- 6 黒褐色土
- 7 灰褐色土
- 8 にぶい褐色土 砂層
- 9 明褐色土
- 10 黒褐色土
- 11' 暗褐色土 還元
- 11 暗赤褐色土
- 12' 黒褐色土 還元
- 12 黒褐色土 砂層
- 13 褐灰色土 硬化面 道路跡 (新)
- 14 灰黄褐色土

基本的に客土と砂利層の互層からなっており遺物をほとんど含まない
 8 層の砂層を除いて、偶数層が砂利層か、砂利を多く含む層である。
 10 層は 11' 層の一部を削って整地して形成したと考えられる。
 11 ~ 13 層遺物含む

基本層序 4

- 1 灰黄褐色土 均質な層 直下に一部焼土面あり
- 2 灰褐色土 硬化層 薄層がたたき状にみられる
- 3 灰黄褐色土
- 4 灰褐色土 硬化層 薄層がたたき状にみられる
- 5 灰黄褐色土
- 6 火山灰層 AS-A とみられる
- 7 暗褐色土
- 8 黄灰色土 自然層

基本層序 5

- 1 灰黄褐色土 小砂利層
- 2 暗褐色土
- 3 灰褐色土 硬化層 薄層がたたき状にみられる (基本層序 4 の 2 層)
- 4 灰黄褐色土 小砂利層
- 5 暗灰色土 硬化層 薄層がたたき状にみられる
- 6 灰黄褐色土 硬化 砂層
- 7 暗褐色土
- 8 黄灰色土 自然層 (基本層序 4 の 8 層)

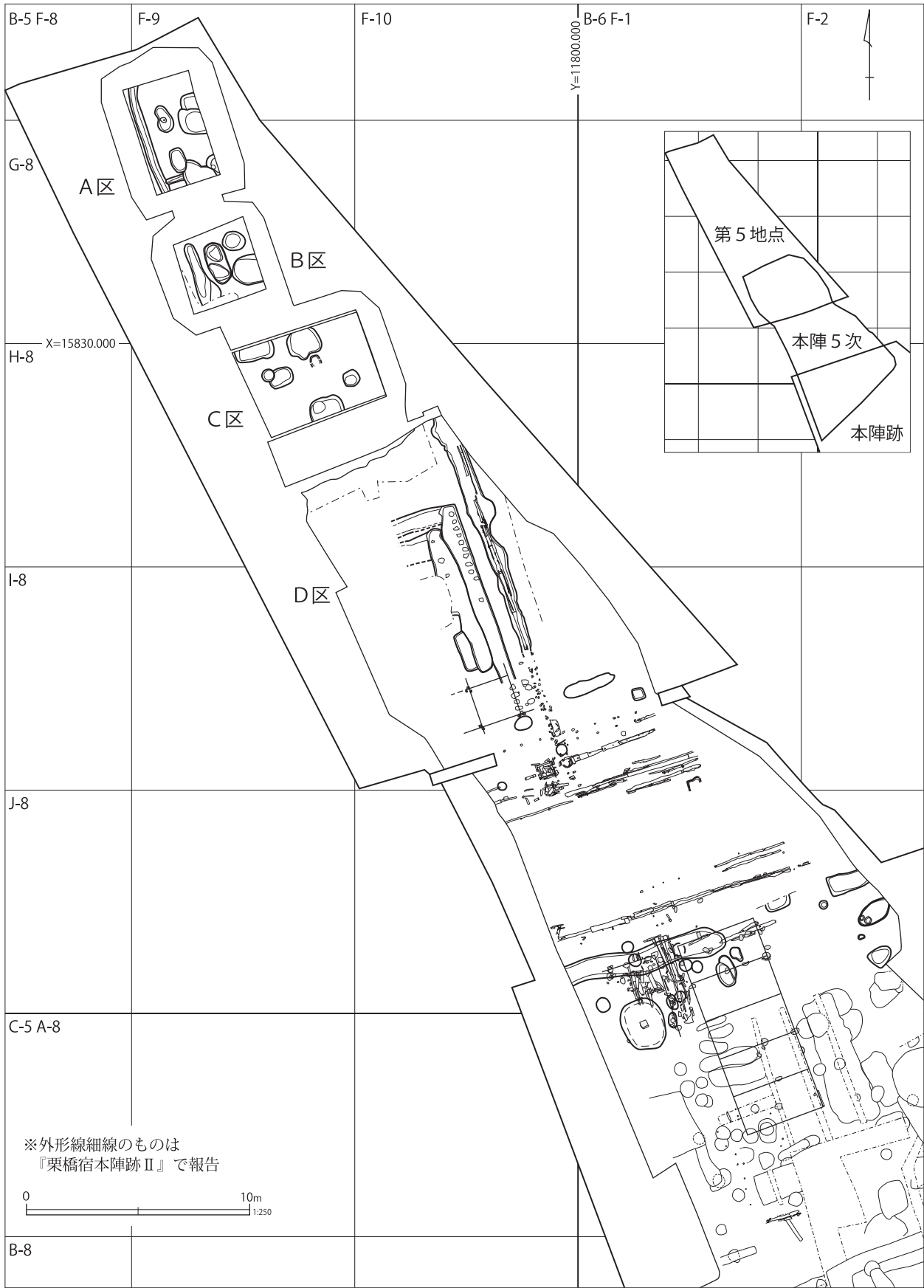
基本層序 6

- 1 砂層
- 2 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物多量 しまり強い
- 3 灰褐色土 シルトブロック含む 整地層 薄層がたたき状にみられる
- 4 灰黄褐色土 砂粒薄層状に数枚堆積
- 5 火山灰層 AS-A とみられる
- 6 暗褐色土
- 8 黄灰色土 自然層 (基本層序 4 の 8 層)

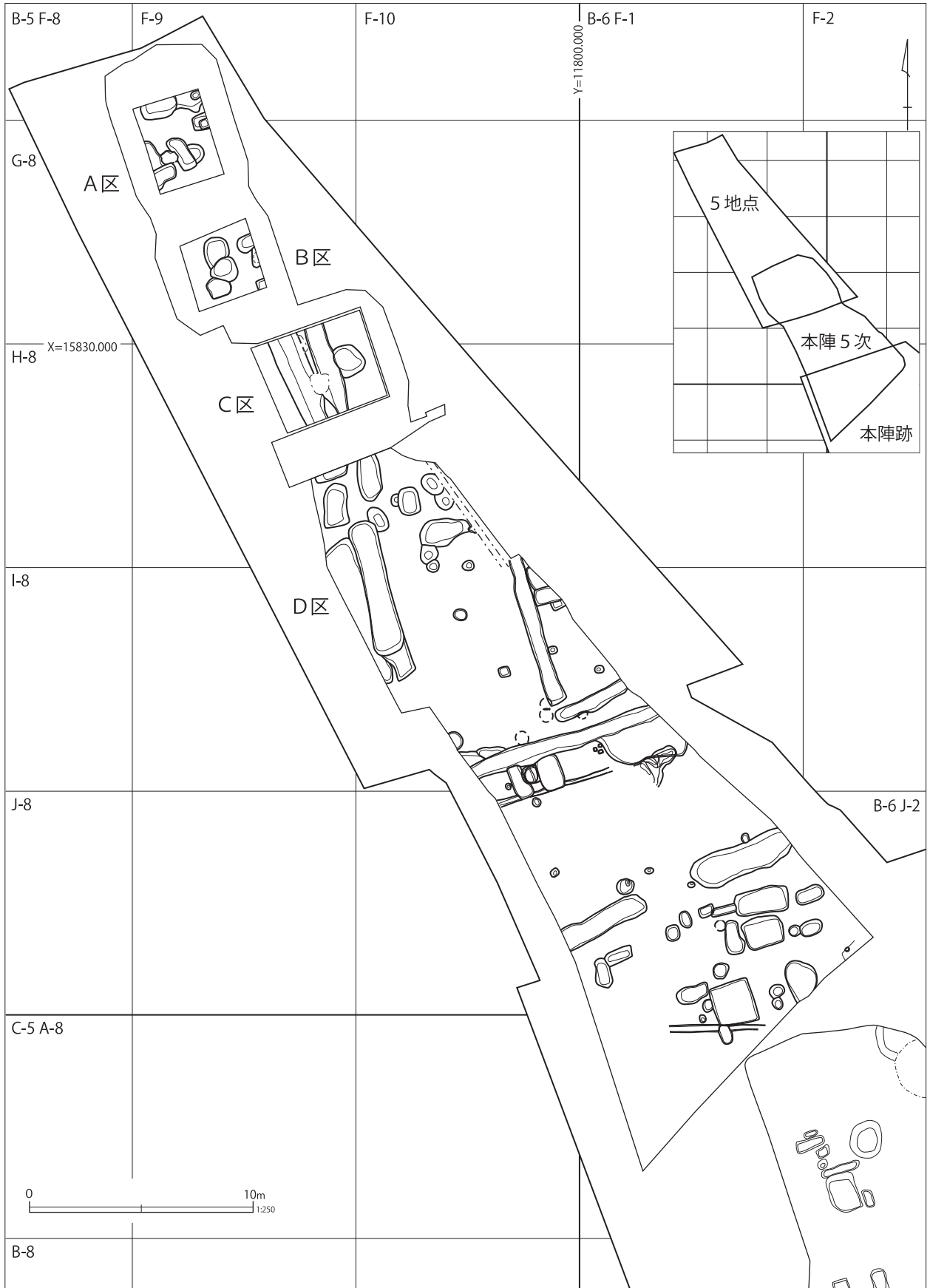
基本層序 7

- 1 砂層
- 2 灰黄褐色土 混在物多い
- 3 灰褐色土 硬化層 薄層がたたき状にみられる (基本層序 4 の 2 層)
- 4 灰黄褐色土 砂層
- 5 灰褐色土 硬化層 薄層がたたき状にみられる (基本層序 4 の 2 層)
- 6 灰黄褐色土 硬化 砂層
- 7 暗褐色土
- 8 黄灰色土 自然層 (基本層序 4 の 8 層)

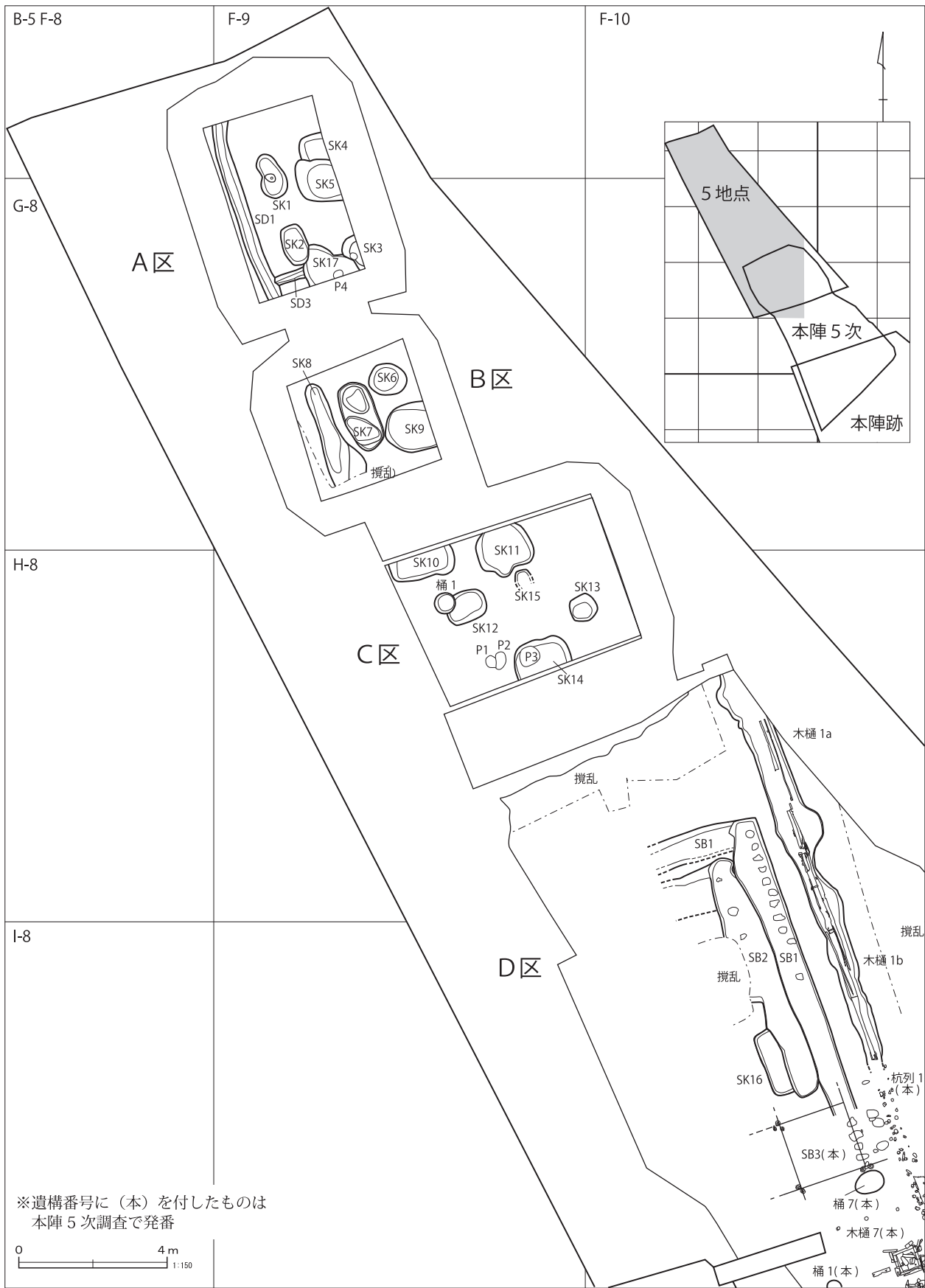
第 6 図 基本層序



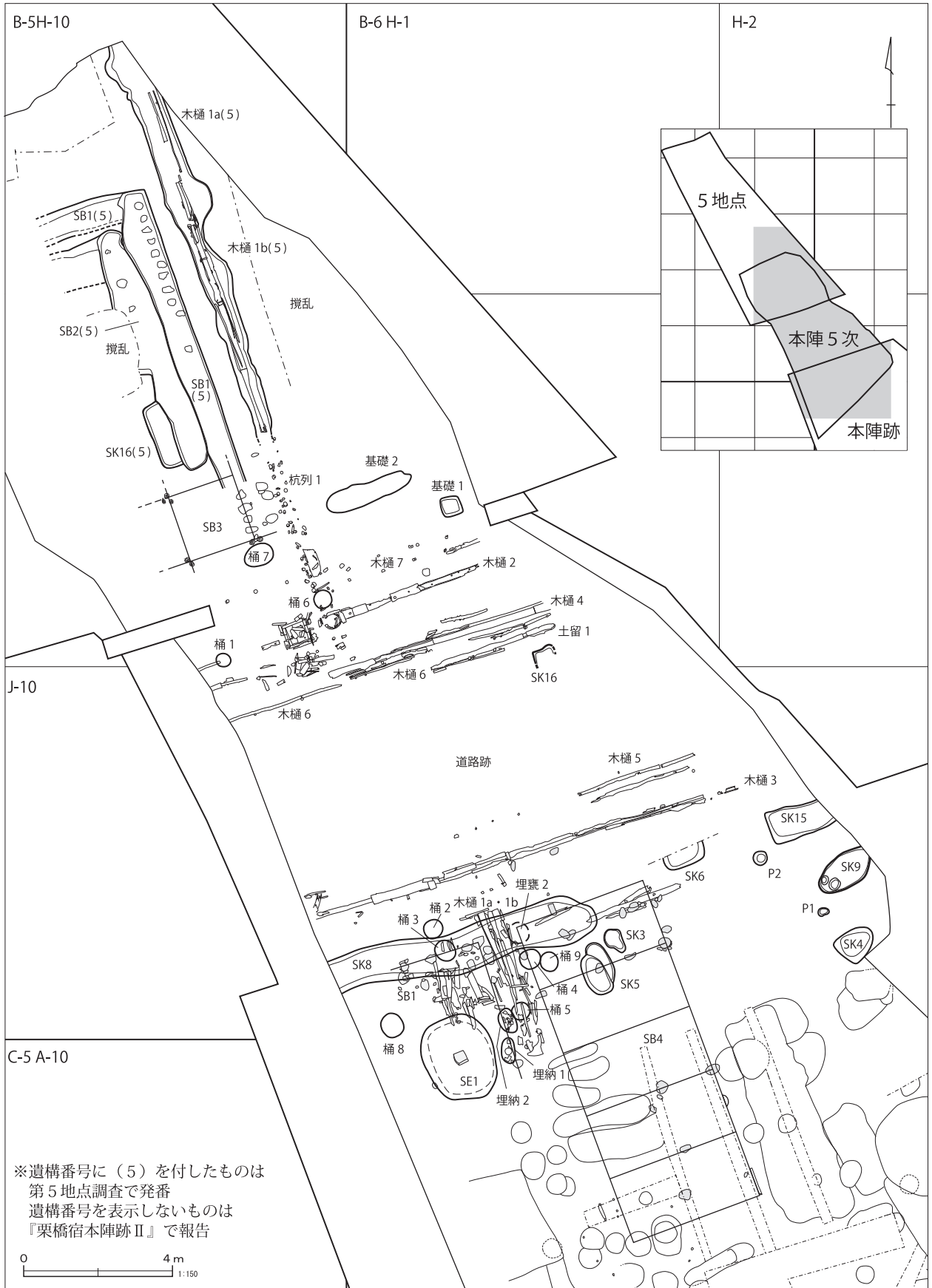
第7図 第一面全体図



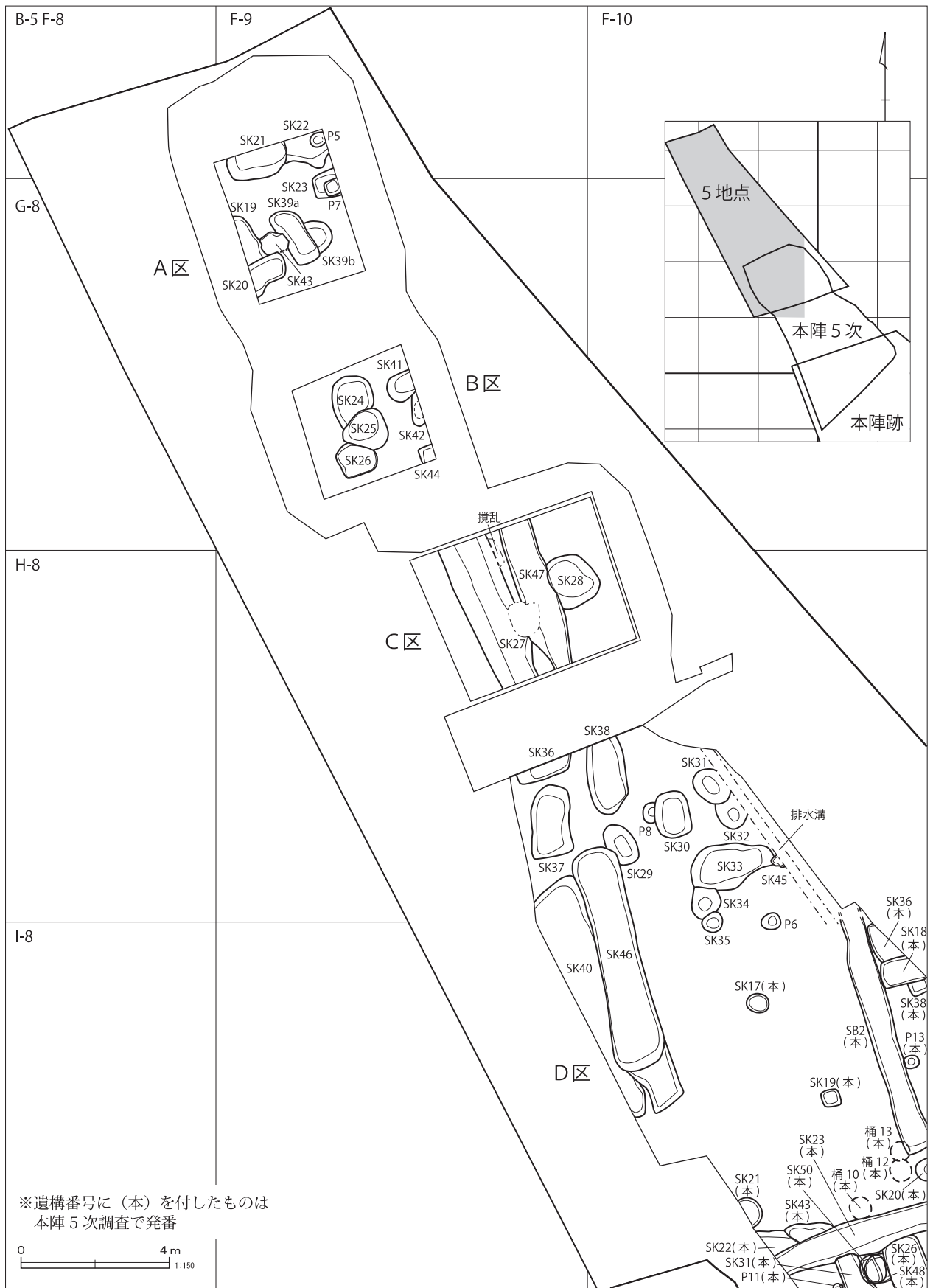
第8図 第二面全体図



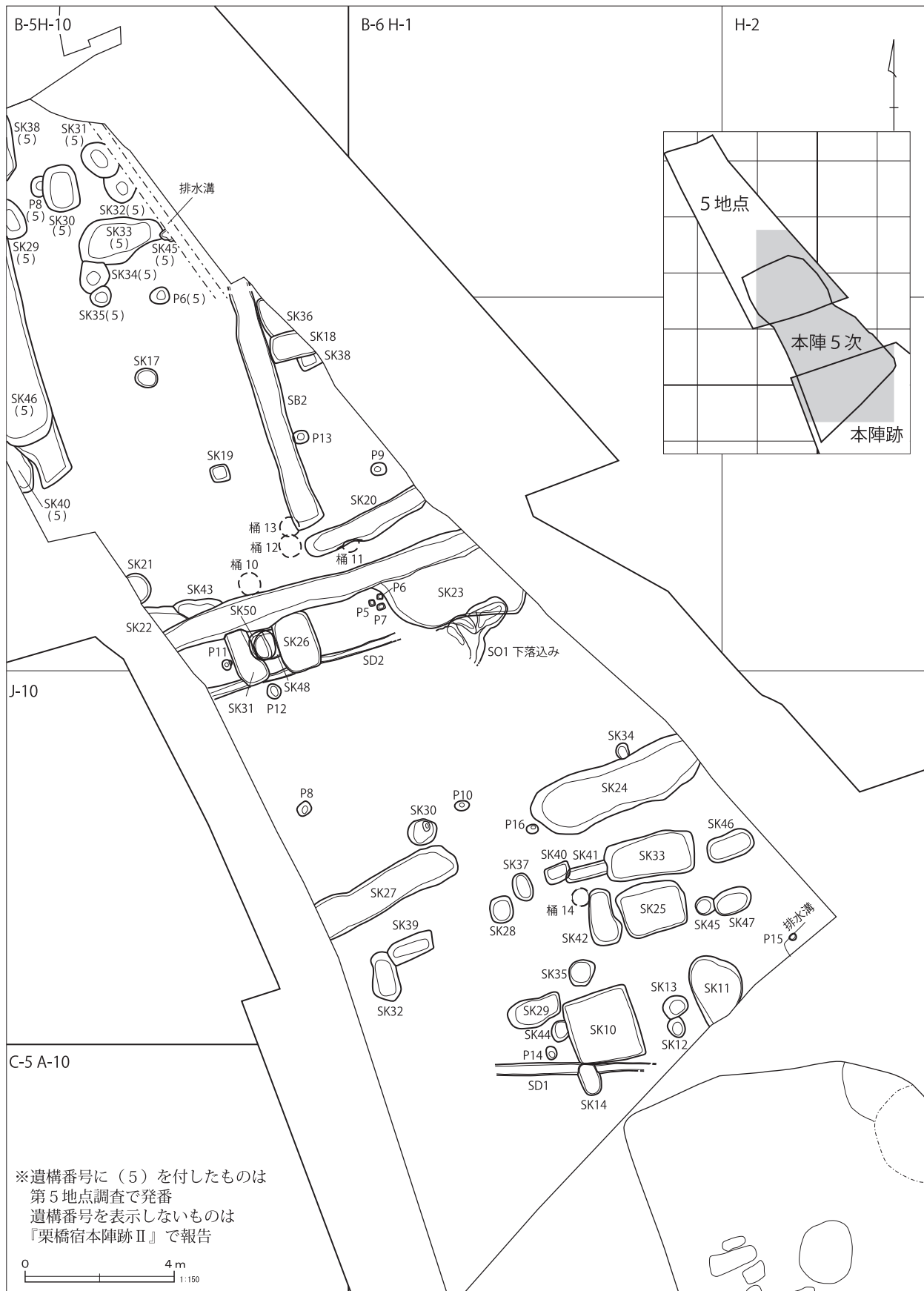
第 9 図 第一面区割図 (第 5 地点)



第10図 第一面区割図 (本陣5次)



第11図 第二面区割図（第5地点）



第12図 第二面区割図（本陣5次）

IV 遺構と遺物

1 第5地点第一面

第5地点第一面で確認された遺構は、建物跡2棟、木樋2条、埋設桶1基、溝跡2条、土壇17基、ピット4基である。

(1) 建物跡

建物跡は2棟が確認された。調査段階では第1号建物跡1棟のみとしていたが、整理の過程で第1号建物跡と重複する溝跡を、別遺構の第2号建物跡とした。

遺構計測表は第2表、出土遺物観察表は陶磁器を第3表、金属製品を第4表に示した。

なお第1号建物跡が位置する区画は、第5地点と本陣5次の2つの調査区にまたがっており、本陣5次で第1号建物跡の南端と、重複する第3号建物跡が同一区画内に確認された。

ここでは第5地点調査で確認された第1号建物跡と第2号建物跡について報告し、本陣5次第3号建物跡については本陣5次第一面の節で述べる。

第1号建物跡 (第13図)

B5-H10・I10グリッドに位置する。建物跡基礎の東側が検出され、西側は調査区域外へ延びる。西側で第2号建物跡と重複し、第2号建物跡より新しい。また、南側で重複する本陣5次第3号建物跡より古い。

調査段階では北側の端部は不明瞭であり、複数の溝状の掘り込みが重複した状態であるとされていたが、整理作業の過程で、平面図と断面図の対応を確認した結果、建物跡の北側を確定できた。

北東隅は掘方が残存していたが、南東隅は上面が削平されており、平石と捨杭が露出した状態で検出した。

規模は、桁行9.78m、梁行2.68m、深さ0.36mである。平面形が「ロ」字形の布掘り基礎である。底面に長軸30cm、短軸15～20cm程度の平石を30cm間隔で一列に並べ、その上から焼土混り暗灰色

土と小礫混りの暗灰色土を交互に固めて版築してあった。

本陣5次の調査区でも、建物跡の延長線上で1.2mほどの長さで平石列を検出した。石の規模、配置間隔、レベルのいずれも第5地点側で検出されたものとほぼ同一であることから、本建物跡の一部とみられる。

ただし、第5地点側で確認された平石は、上述のように基礎の底に配置され、その上に焼土層と小礫混り層が交互に固められていたのに対し、本陣側では掘り込みは検出されなかった。本陣5次の調査では遺構とされていなかったが、整理の過程で第5地点第1号建物跡の南側と判断した。

本陣5次調査部分では、検出された最南端の平石が本陣5次第3号建物跡の杭間に落ち込んでいた。この平石は北側の平石列よりレベルが低いことから、本陣5次第3号建物跡の杭が新しく、第5地点第1号建物跡が古いと判断した。

遺物は少なく、陶磁器類は第14図1に肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台をもつ皿を示した。金属製品は、第15図1と2に寛永通宝を示した。

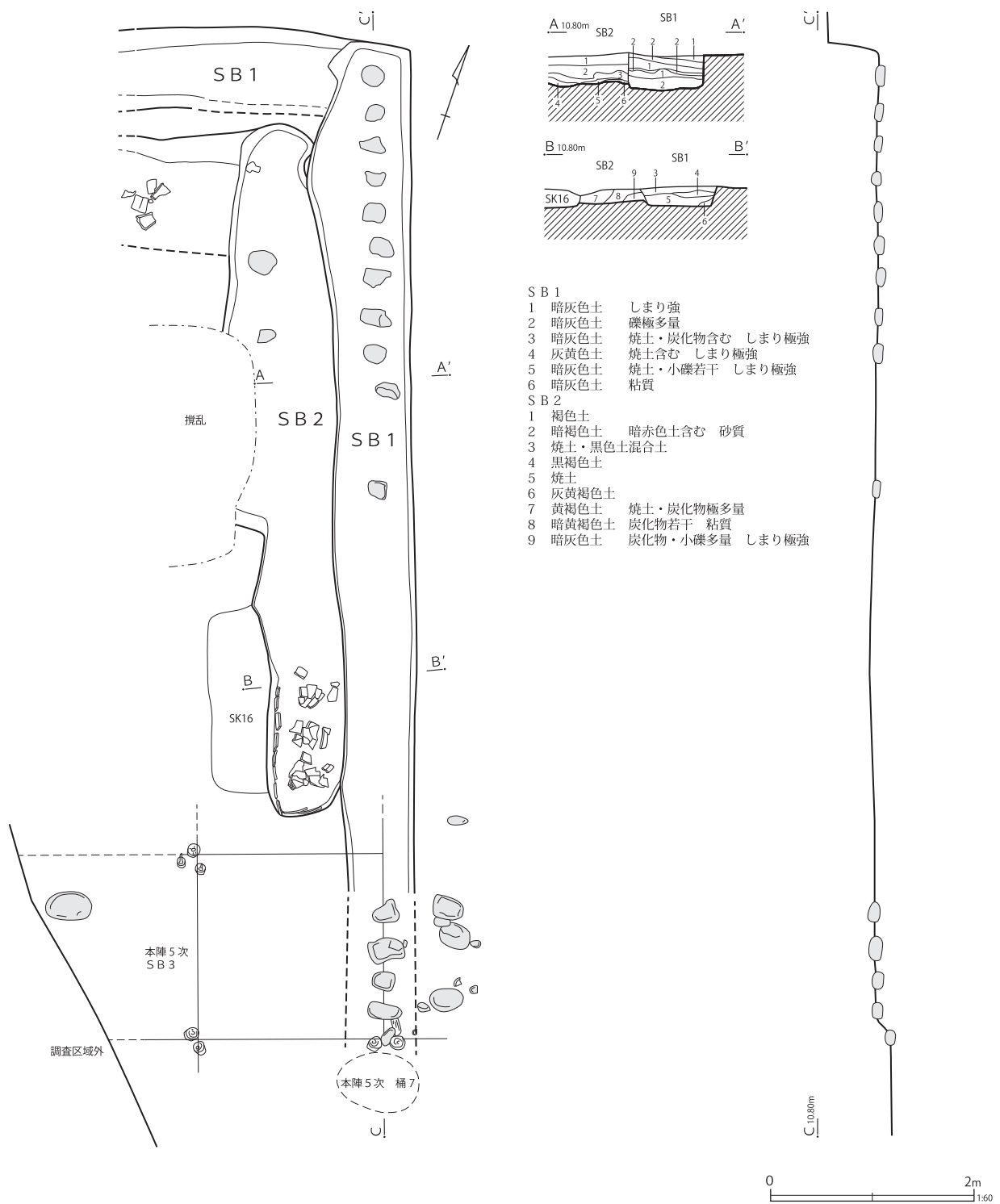
時期は、陶磁器から判断するには出土数が少ないが、重複関係にある第2号建物跡が19世紀前半であることから、それより新しいと考えられる。

第2号建物跡 (第13図)

第1号建物跡の西側に重複し、第1号建物跡より古い。第13図に遺構図を示した。

調査時には、第2号溝跡と第18号土壇としていたが、整理の過程で第1号建物跡と重複する建物基礎と判断したため、第2号建物跡として、第2号溝跡、第18号土壇を欠番とした。

建物基礎の北東部分のみが検出され、遺構の西側は調査区域外へ延びる。主軸方位は第1号建物跡と同一である。

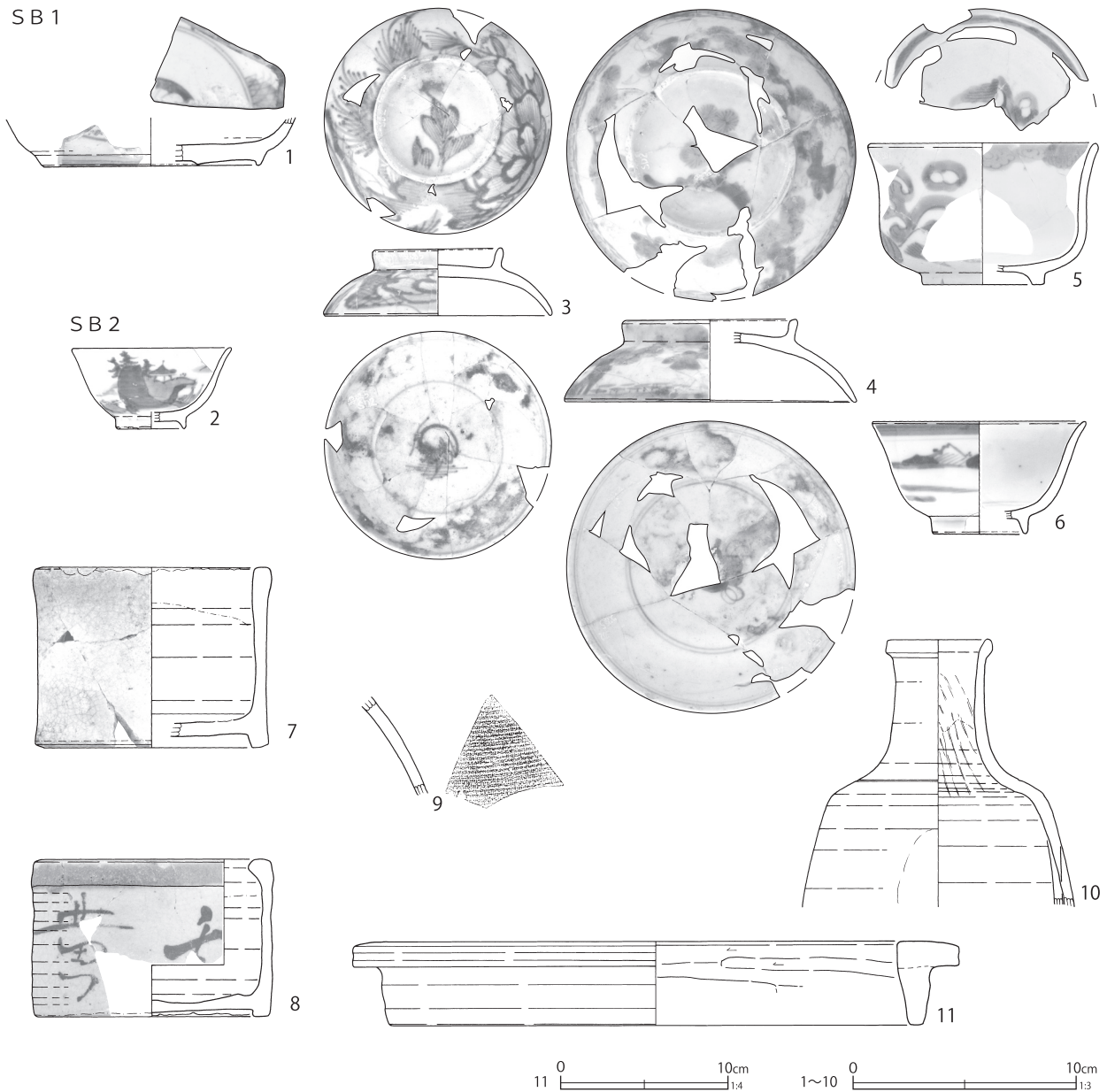


第13図 建物跡

第2表 建物跡計測表

単位：m

番号	グリッド	桁行(長軸)	梁行(短軸)	桁行推定	梁間推定	深さ	方位	備考
1	B5-H10, I10	(9.78)	(2.68)	(7.26)	(2.30)	0.36	N-19° -W	SB2より新、本陣5次SB3より古
2	B5-H10, I10	(6.75)	(2.44)	(6.75)	(2.04)	0.33	N-19° -W	SB1、SK16より古



第14図 建物跡出土遺物（1）

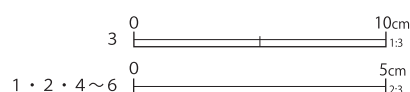
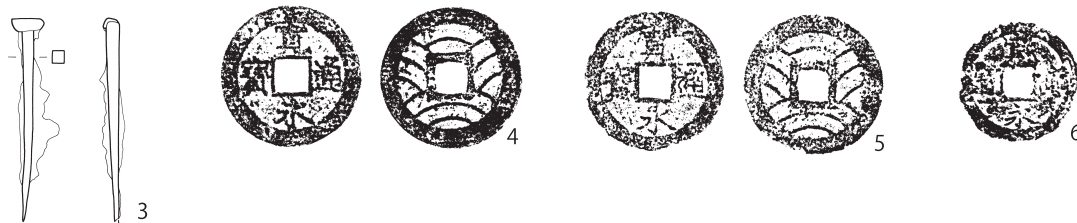
第3表 建物跡出土遺物観察表（1）（第14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	—	[2.1]	(9.5)	—	5	良好	白	SB1	肥前系 施釉 染付 被熱	10-1
2	磁器	坏	7.0	3.6	(2.9)	—	60	良好	白	SB2	肥前系 施釉 外面染付 被熱	10-4
3	磁器	蓋	5.6	3.0	10.0	—	95	良好	白	SB2	肥前系 施釉 染付 激しく被熱	10-2
4	磁器	蓋	7.5	3.7	12.9	—	85	良好	白	SB2	肥前系 施釉 染付 激しく被熱	10-3
5	磁器	碗	(9.9)	6.3	(5.3)	—	40	良好	白	SB2	肥前系 施釉 染付 激しく被熱	
6	磁器	碗	(9.4)	5.0	(4.0)	—	20	良好	灰白	SB2	瀬戸美濃系 施釉 染付	
7	陶器	香炉	(9.8)	8.0	(9.5)	IK	40	良好	灰白	SB2	瀬戸美濃系 灰釉 外面鉄絵 激しく被熱	
8	陶器	香炉	(9.9)	7.0	(10.3)	DE	30	良好	灰白	SB2	瀬戸美濃系 外面灰釉・鉄絵 口縁部瑠璃釉 被熱	10-5
9	陶器	徳利	—	[4.4]	—	K	5	良好	褐灰	SB2	備前系	
10	陶器	徳利	4.3	[11.9]	—	IK	75	良好	灰白	SB2	瀬戸美濃系 外面柿釉 弱く被熱	10-6
11	瓦質土器	竈鏝	36.0	5.0	(31.6)	CFHIK	95	普通	にぶい褐	SB2	下部煤・白色物質付着 やや酸化炎焼成	

SB 1



SB 2



第15図 建物跡出土遺物（2）

第4表 建物跡出土遺物観察表（2）（第15図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ1.3 重さ3.5	SB1	寛永通寶(新)	
2	銅製品	銭貨	径23.7 厚さ1.0 重さ2.4	SB1	寛永通寶(新)	
3	鉄製品	釘	長さ[8.0] 幅0.5 厚さ0.5 重さ8.5	SB2		
4	銅製品	銭貨	径28.5 厚さ1.3 重さ4.6	SB2	寛永通寶(四文銭)	
5	銅製品	銭貨	径28.1 厚さ1.2 重さ3.6	SB2	寛永通寶(四文銭)	
6	銅製品	銭貨	径23.5 厚さ1.2 重さ2.1	SB2	寛永通寶(新)	

残存する規模は、桁行6.75m、梁行2.44m、深さ0.33m。「口」字形の布掘り基礎の可能性はあるが、南側が不明瞭で確認できなかった。

確認できた南側1.2m付近では、掘り方の壁面に沿って瓦片が縦に並べられており、さらに底面には瓦片が敷かれていた。

覆土は上層が砂質土、下層は焼土混じりの黒褐色土であり、瓦が敷かれている南端では、焼土と炭化物が多量に混入していた。底面は平坦で、硬化していた。

陶磁器は、第14図2～11に示した。2～6は磁器で、肥前系は2が端反坏、3と4が広東碗の蓋、5が腰が張る端反碗である。4の広東碗蓋は底径12.9cmを測る大型のものである。瀬戸美濃系は、6に端反碗を示した。

7～11は陶器・土器で、瀬戸美濃系は7・8が香炉、10が柿釉のぺこかん徳利である。8の香

炉は、外面に「黄口」と鉄釉で書かれている。9は備前系の徳利、11は瓦質土器の竈鏝である。

このほかに、肥前系磁器のくらわんか碗、小丸碗、朝顔形碗、筒形碗、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿などが出土している。

金属製品は、第15図3～6に示した。3は巻頭釘、ほかは寛永通宝である。

時期は、陶磁器から19世紀前半と考えられる。

（2）埋設桶

第1号埋設桶（第16図）

B5-H9グリッドに位置する。土壇底面から桶の底板が確認されたため、埋設桶と判断した。

調査時には、第12号土壇の一部として調査したが、整理段階で、土層断面から第12号土壇より古い別遺構とした。第16図に遺構図を、第5表に計測値を示した。

平面形は円形である。掘方規模は径0.57m、深さは0.34mである。

出土遺物を伴わないが、重複関係にある第12号土壇から、酸化コバルト染付の瀬戸美濃系磁器端反碗が出土しているため、19世紀後半以前と考えられる。

(3) 木樋

木樋は2条が確認された。同じ掘方の中に設置されているため調査時には1条の木樋としていたが、底板の検出レベルに差があることから、整理段階で2条とした。

第1号建物跡の東に並行するように位置するため、敷地の境界に設置されていたと考えられる。

また、本陣5次の第1号杭列および第6号埋設桶が木樋の延長線上に続いていることから、整理段階で同一遺構と判断した。

そのため、第17図に第1a・1b号木樋、本陣5次第1号杭列と本陣5次第6号埋設桶を合わせて図示し、第18図に第1a・1b号木樋の微細図を示した。

木樋の計測値は第6表、杭列の計測値は第7表に示し、出土遺物の観察表は陶磁器と土製品を第

8表、瓦を第9表、金属製品を第10表に示した。

本陣跡5次分については、後述する。

第1a号木樋 (第17～21図)

B5-H10グリッドに位置する。

第1a・b号木樋双方とも、同一の掘方の中に構築されている。掘方の総延長は11.36mである。さらに本陣5次1号杭列まで含めた長さは、16.16mに及ぶ。

底板レベルが、第1b号木樋に比べて13cm低い。そのため、第1a号木樋の方が古いと考えられる。第1b号木樋に比して、遺存状態は悪い。

規模は、残存長2.3m、幅0.19m、深さ0.17mである。長い板材をL型に組み合わせて造られている。

第1b号木樋 (第17～21図)

第1a号木樋の南、B5-H10・I10グリッドに位置する。

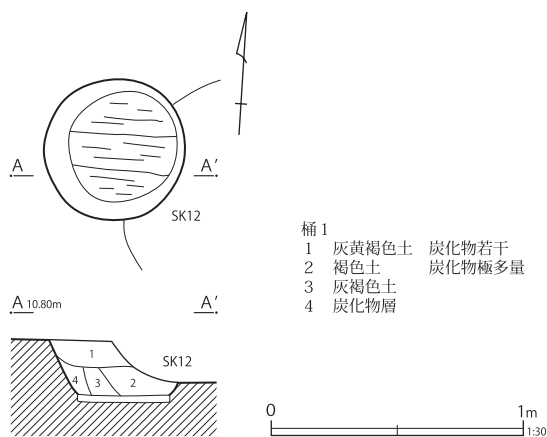
南端は本陣5次第1号杭列に連続し、その延長線上で道路跡に伴う木樋に直交する形で接続する。

第1a号木樋と同じ掘方の中に構築されている。掘方の総延長は11.36mである。さらに本陣5次1号杭列まで含めた長さは、16.16mである。

第1b号のみでの規模は長さ7.24m、幅0.18m、深さ0.08mである。

遺存状態はあまり良くない。長い板材をL形に組み合わせて造られている。中央付近では約1.25m間隔で側板の端部を切り欠いて、木材が横に渡されてあった。蓋を載せて支持するための部材とみられる。

木樋の西側に沿って、径5cm程度の杭材が10～15cm間隔で打ち込まれている。杭列は木樋の西側でのみ確認された。連続する本陣5次第1号杭列では、30cm幅で東西2列に杭列が並走している。

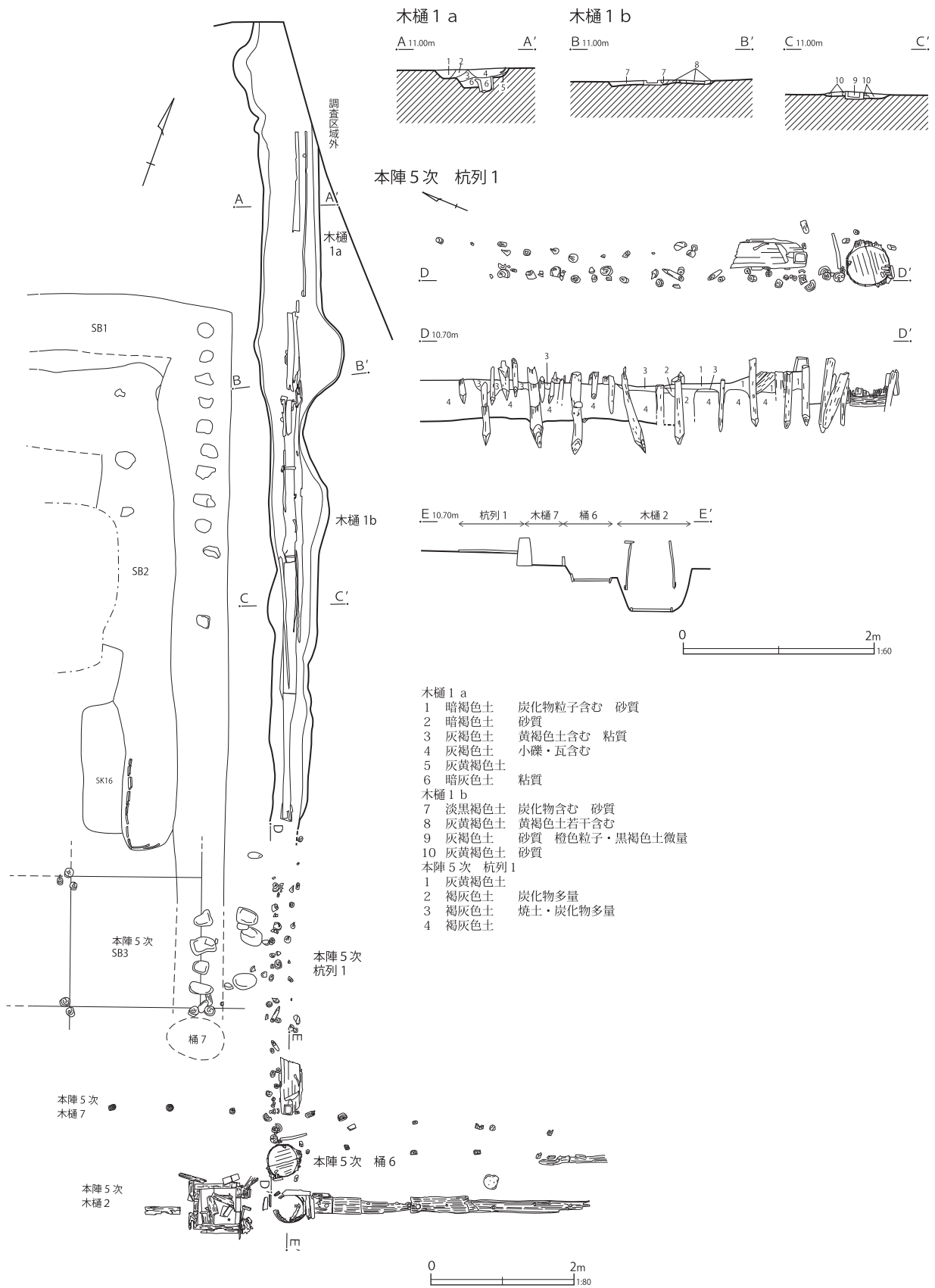


第16図 第1号埋設桶

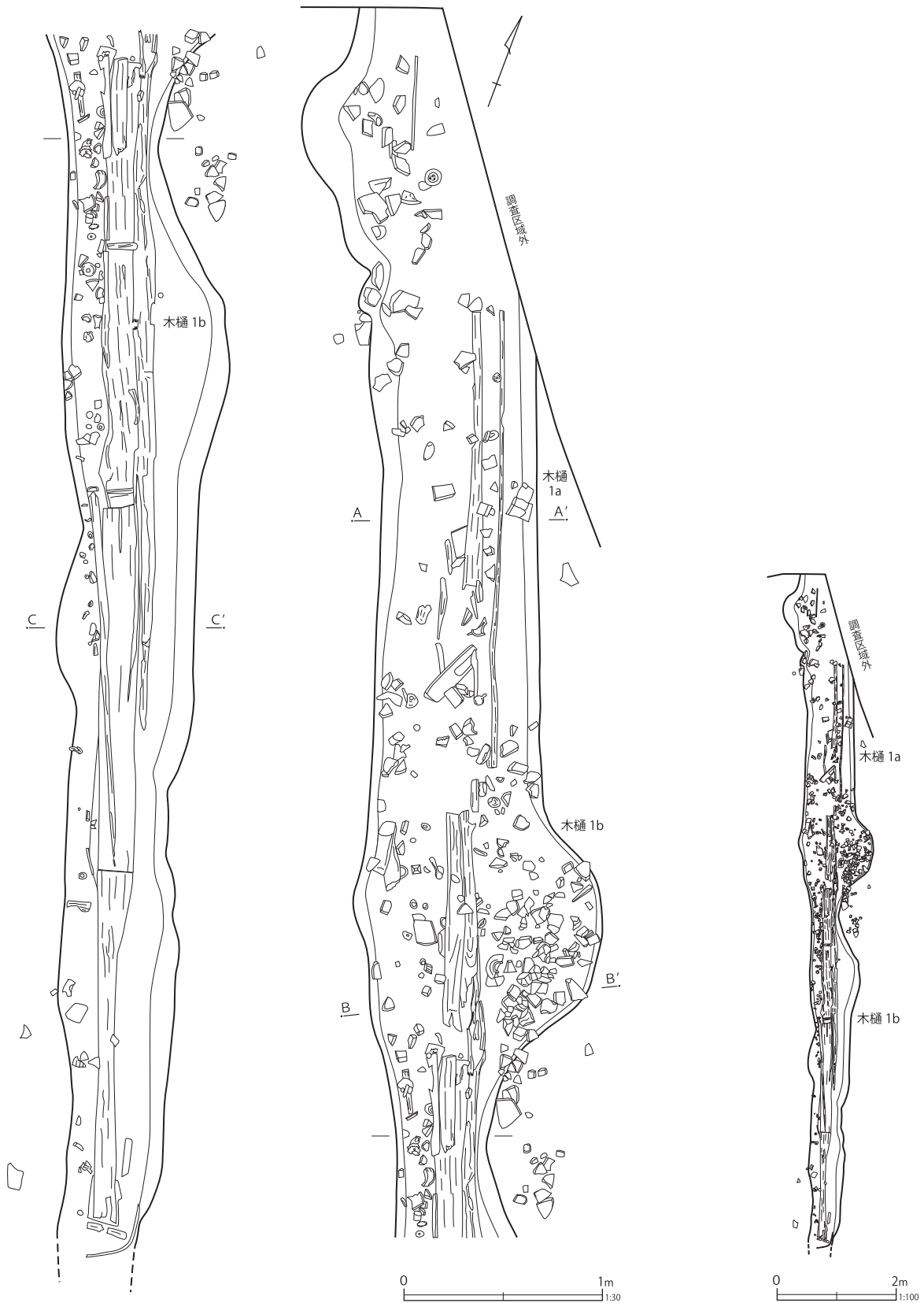
第5表 埋設桶計測表

単位：m

番号	グリッド	外径	高さ	内法		掘方径	深さ	備考
				内径	深さ			
1	B5-H9	—	—	—	—	0.57	0.34	SK12より古い



第17図 木樋（1）・本陣5次杭列1



第18図 木樋 (2)

第6表 木樋計測表

単位：m

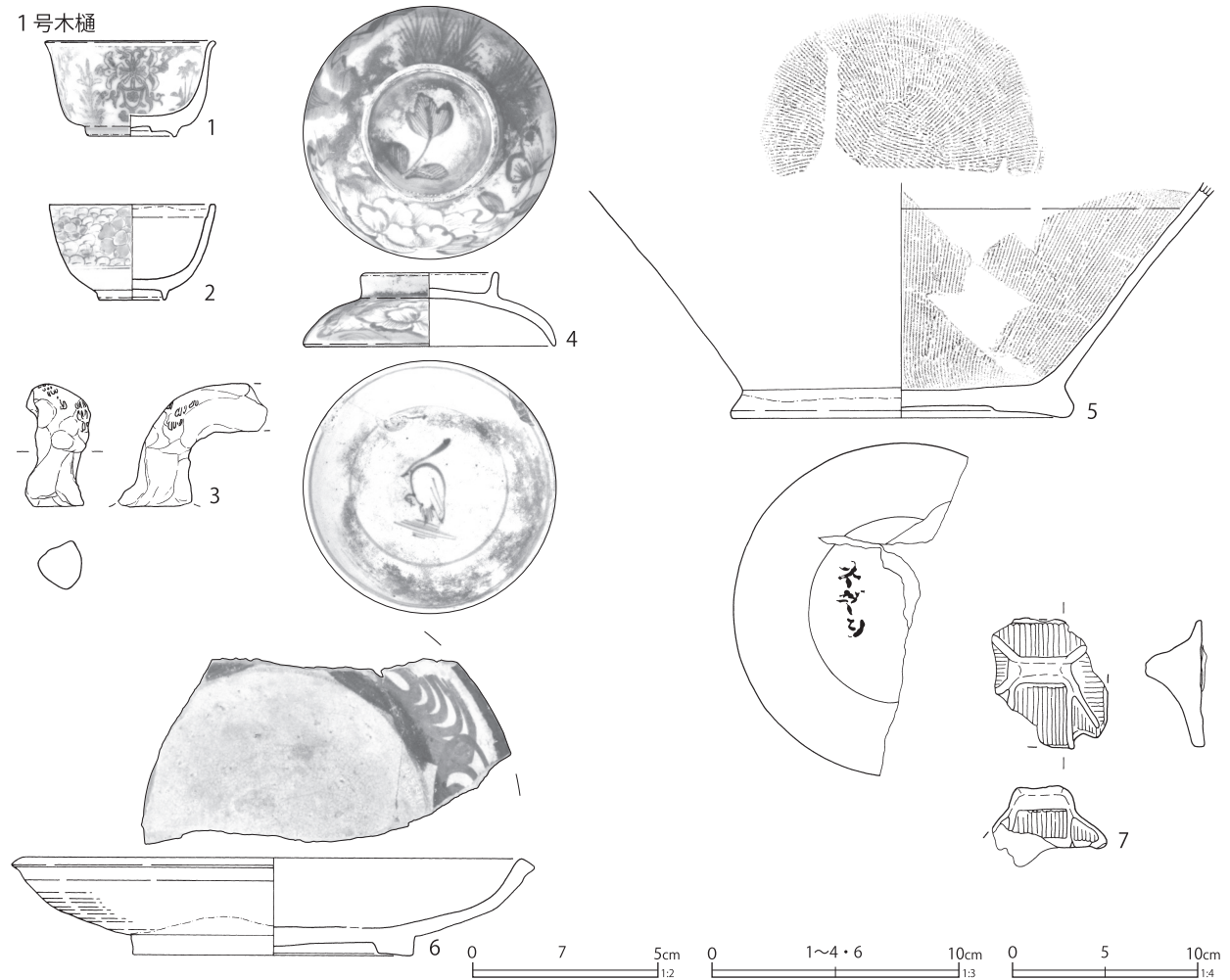
番号	グリッド	長さ	外法		掘方			方位	備考
			幅	深さ	長さ	幅	深さ		
1a	B5-H10	2.30	0.19	0.17	-	0.80	0.17	N-19° -W	内法幅0.11m、深さ0.15m、木樋1bより古
1b	B5-H10, I10	7.24	0.18	0.08	-	0.70	0.08	N-19° -W	内法幅0.13m、深さ0.05m、木樋1aより新
総掘方					(11.36)	0.70	0.25	N-19° -W	本陣5次杭列1まで含めた総延長16.16m

第7表 杭列計測表

単位：m

番号	グリッド	長さ	方位	備考
1	B5-I10	4.80	N-19° -W	桶6と重複

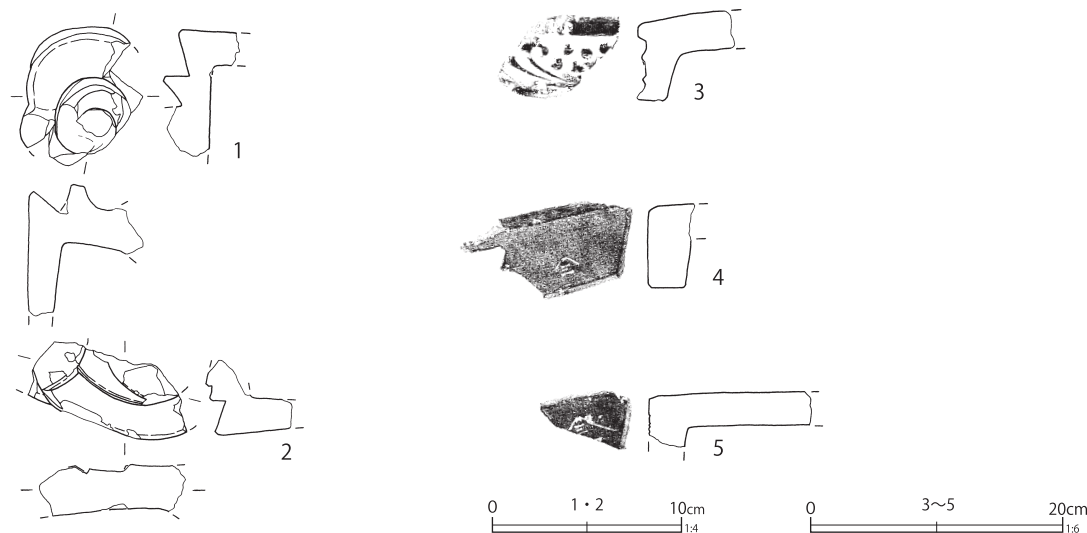
1号木樋



第19図 木樋出土遺物(1)

第8表 木樋出土遺物観察表(1)(第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	6.6	3.8	3.4	-	70	良好	白	木樋1	瀬戸美濃系 施釉 外面銅版転写染付	
2	磁器	蓋物	6.6	3.8	2.6	-	70	良好	灰白	木樋1	瀬戸美濃系か 施釉 外面色絵(赤・黄・緑・茶)	10-7
3	瓦質土器	不明	長6.0 幅2.1 高さ4.9			CHIK	5	普通	暗灰	木樋1	把手状 上位刺突文 箱庭道具か	10-8
4	磁器	蓋	5.8	2.9	9.8	-	100	良好	白	木樋1	肥前系 施釉 染付 煤多く付着	10-9
5	陶器	挿鉢	-	12.7	18.0	DIK	30	良好	灰黄褐	木樋1	笠間系 外面柿釉 内面挿目 底部白化粧, 墨書「ネギシ」	10-10
6	陶器	皿	(20.0)	3.9	11.2	EIK	15	良好	灰白	木樋1	瀬戸美濃系 灰釉 内面鉄絵 高台内墨書(磨耗)	10-11
7	土製品	箱庭道具	長[3.5] 幅[3.1] 高[2.1]			AHK	-	良好	明赤褐	木樋1	祠 屋根別造り 一枚型 中実 外面施釉(白・緑) 重さ9.3g	17-10



第20図 木桶出土遺物（2）

第9表 木桶出土遺物観察表（2）（第20図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	鬼瓦	[11.1]	[9.8]	4.6	[10.5]	—	AIK	良好	灰	木桶1	少し銀化部分あり	18-1
2	瓦	鬼瓦	[7.8]	[12.6]	3.7	[7.0]	—	AIK	良好	灰	木桶1	少し銀化部分あり	18-2
3	瓦	軒棧瓦	[5.2]	[9.3]	1.9	4.6	—	ACDIK	良好	灰	木桶1	東海系の文様	18-3
4	瓦	軒棧瓦	[3.0]	[10.1]	2.3	4.4	—	ACHK	良好	灰	木桶1	刻印ヤマに「三」 銀化 表面光沢あり	
5	瓦	軒棧瓦	[8.6]	[7.0]	1.8	[3.0]	—	ACIK	良好	黄灰	木桶1	刻印ヤマに「三」 銀化 表面光沢あり	18-4

調査時には1条の木桶としていたため、遺物は第1 a号・第1 b号木桶を一括して取り上げた。合わせて図示する。

陶磁器は第19図に示した。肥前系磁器は、4の広東碗蓋を示した。煤が多く付着しており、第2号建物跡出土の広東碗蓋と同文である。瀬戸美濃系磁器は、1に銅版転写染付の端反形坏を示した。2は瀬戸美濃系と推定される蓋物である。

陶器は、5に笠間系播鉢、6に瀬戸美濃系馬目皿を示した。笠間系播鉢は、底部に「ネギシ」の墨書が認められる。

3は不明品としたが、箱庭道具の可能性がある瓦質土製品である。

土製品は、第19図7に玩具の土製祠の屋根を示した。江戸在地区系とみられ、一部に白土化粧が残存している。

瓦は第20図1～5に示した。1と2は鬼瓦で

ある。3の瓦当文は東海系の文様、4と5にはヤマに「三」の刻印がある。

金属製品は第21図1～9に示した。1は銅製の匙、2は銅製の針金である。3～5は鉄釘だが、断面長方形のさっぱ釘である。6の鋸と合わせて、木桶の接合に使用された可能性がある。7は包丁だが、切先がなく刃が柄の一部まで延びていることから、麵切包丁または桑切包丁と考えられる。

（4）溝跡

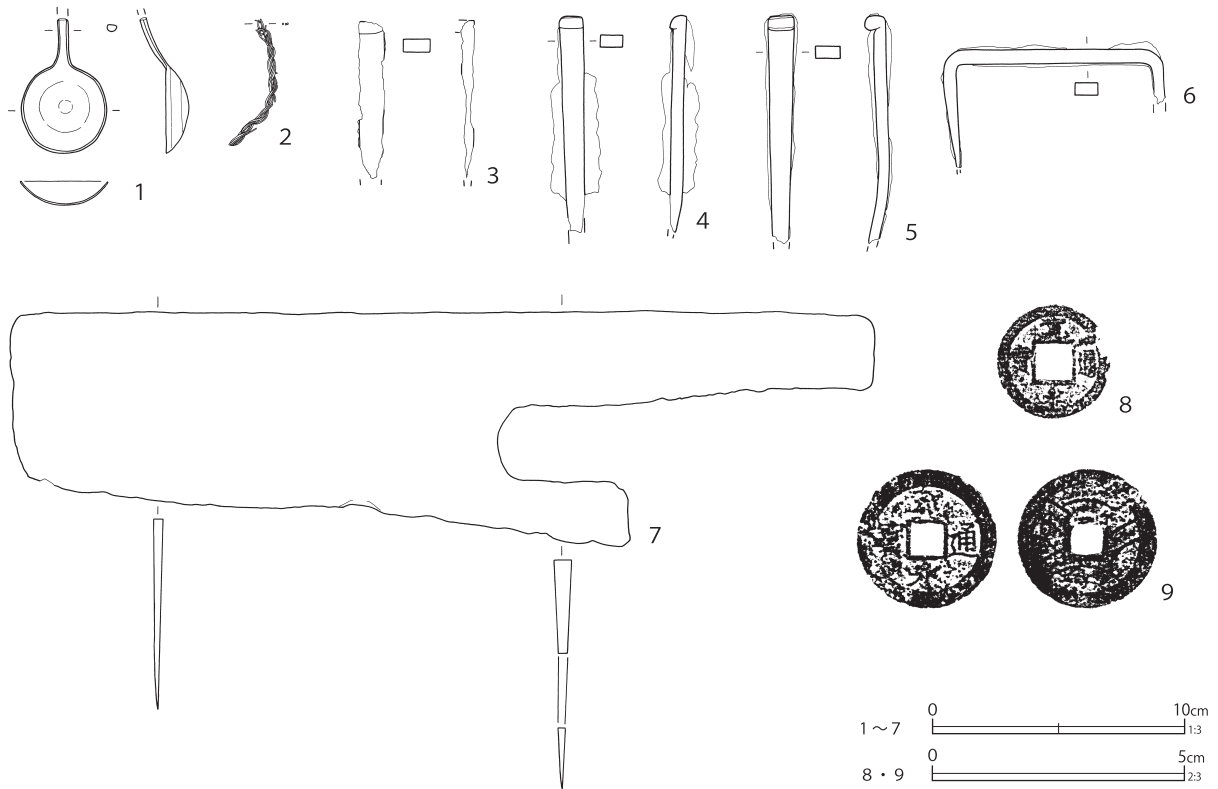
溝跡は2条を調査区の北端付近で検出した。

第1号溝跡（第22図）

B5-F9・G9グリッドに位置する。主軸方向は北西から南東方向で調査区外へ延びている。重複する第3号溝跡より新しい。

規模は、長さ4.93m、幅0.40m、深さ0.35mである。断面形は箱形で、覆土は粘性の強い黒褐

木樋 1



第21図 木樋出土遺物（3）

第10表 木樋出土遺物観察表（3）（第21図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	匙	長さ [5.4] 幅 3.4 厚さ 0.1 重さ 9.9	木樋 1		19-3
2	銅製品	針金	長さ [5.0] 厚さ 0.1 cm 重さ 1.4	木樋 1	3 本 1 組 2 組右巻き	19-4
3	鉄製品	釘	長さ [6.8] 幅 1.0 厚さ 0.5 重さ 7.3	木樋 1		
4	鉄製品	釘	長さ [8.6] 幅 0.9 厚さ 0.5 重さ 21.8	木樋 1		
5	鉄製品	釘	長さ [9.1] 幅 1.0 厚さ 0.5 重さ 16.9	木樋 1		
6	鉄製品	鏝	長さ [8.8] 幅 0.9 厚さ 0.5 重さ 29.5	木樋 1		
7	鉄製品	包丁	長さ 34.3 刃長 24.6 刃幅 7.5 背幅 0.4 重さ 399.0	木樋 1		19-2
8	銅製品	銭貨	径 22.4 厚さ 0.8 重さ 1.6	木樋 1	寛永通寶（新）	
9	銅製品	銭貨	径 28.1 厚さ 1.2 重さ 3.8	木樋 1	寛永通寶（四文銭）	

色土と砂質の灰褐色土、灰黄褐色土で構成されている。

陶磁器類は小片が多く、第22図に陶製蒸し器のみを図示した。

このほかに瀬戸美濃系磁器の銅版転写染付碗がいくつか見られ、肥前系磁器の端反碗と小丸碗、京都信楽系陶器の灯明皿、常滑系陶器の甕などが出土している。

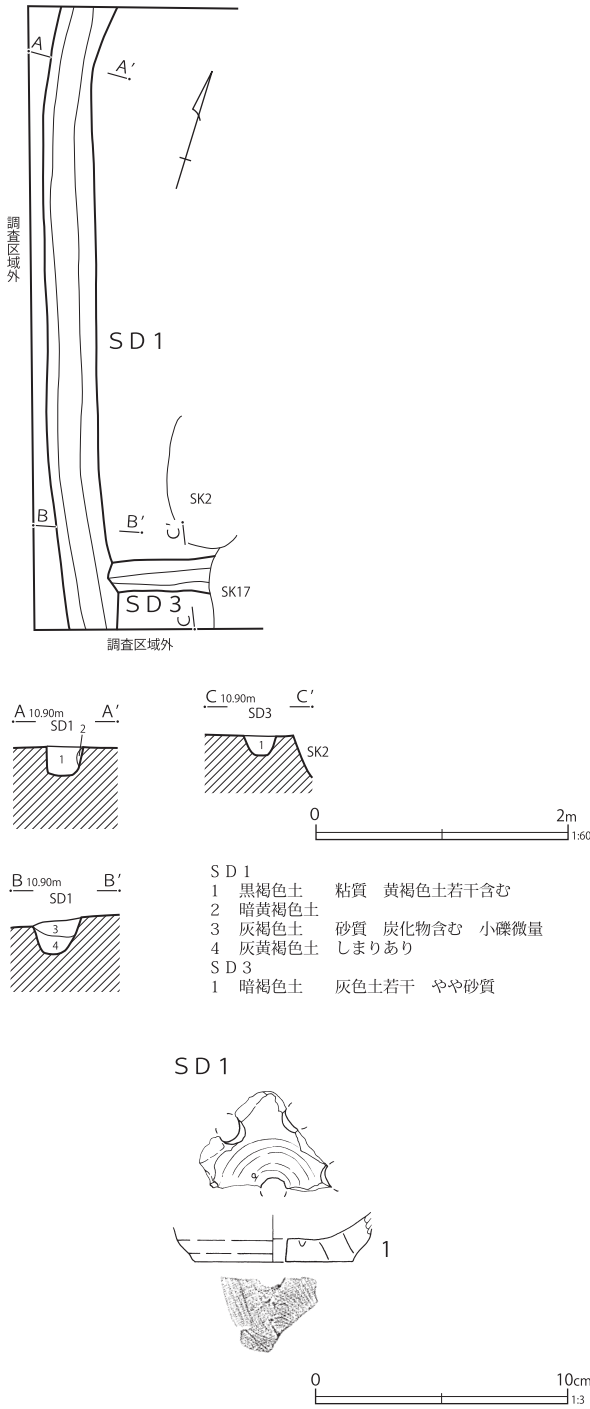
遺構の時期は、陶磁器類から19世紀末以降と考えられる。

第3号溝跡（第22図）

B 5-G 9 グリッドに位置する。軸方向は東北東から西南西方向である。東は第17号土壇と重複し、第17号土壇より古い。西は第1号溝跡に接続する。

規模は長さ0.95m、幅0.28m、深さ0.15mである。断面形は逆台形である。覆土は暗褐色土の単層である。

出土遺物はないが重複する第17号土壇が19世紀前半であるため、それよりも古いと考えられる。



第22図 溝跡・出土遺物

第11表 溝跡計測表

単位：m

番号	グリッド	長さ	幅	深さ	方位	備考
1	B5-F9, G9	(4.93)	0.40	0.35	N-17° -W	SD3 より新
3	B5-G9	(0.95)	0.28	0.15	N-72° -E	SD1、SK17 より古

第12表 溝跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	蒸し器	—	[1.9]	(6.2)	AI	20	普通	灰白	SD1	底部糸切痕(右) 明赤褐色釉散る 穿孔	11-1

(5) 土壌

土壌は17基が確認された。遺構図は第23～24図に、位置・規模等は第13表に示し、出土遺物観察表は陶磁器を第14表、土製品と瓦を第15表、金属製品を第16表、石製品を第17表に示した。

第1号土壌 (第23図)

B5-F9・G9グリッドで検出された。平面形は不整楕円形で、中央の一部が凹むような形態である。断面形は皿形である。覆土は暗褐色土と黄褐色土である。

底面には、長径0.28m、短径0.20m、深さ0.15mの掘り込みが設けられ、炭化物を含む暗黄褐色土が堆積している。

遺物は出土していない。時期は不明である。

第2号土壌 (第23・25・28図)

B5-G9グリッドで検出された。重複する第17号土壌より新しい。平面形は不整楕円形、断面形は箱形である。

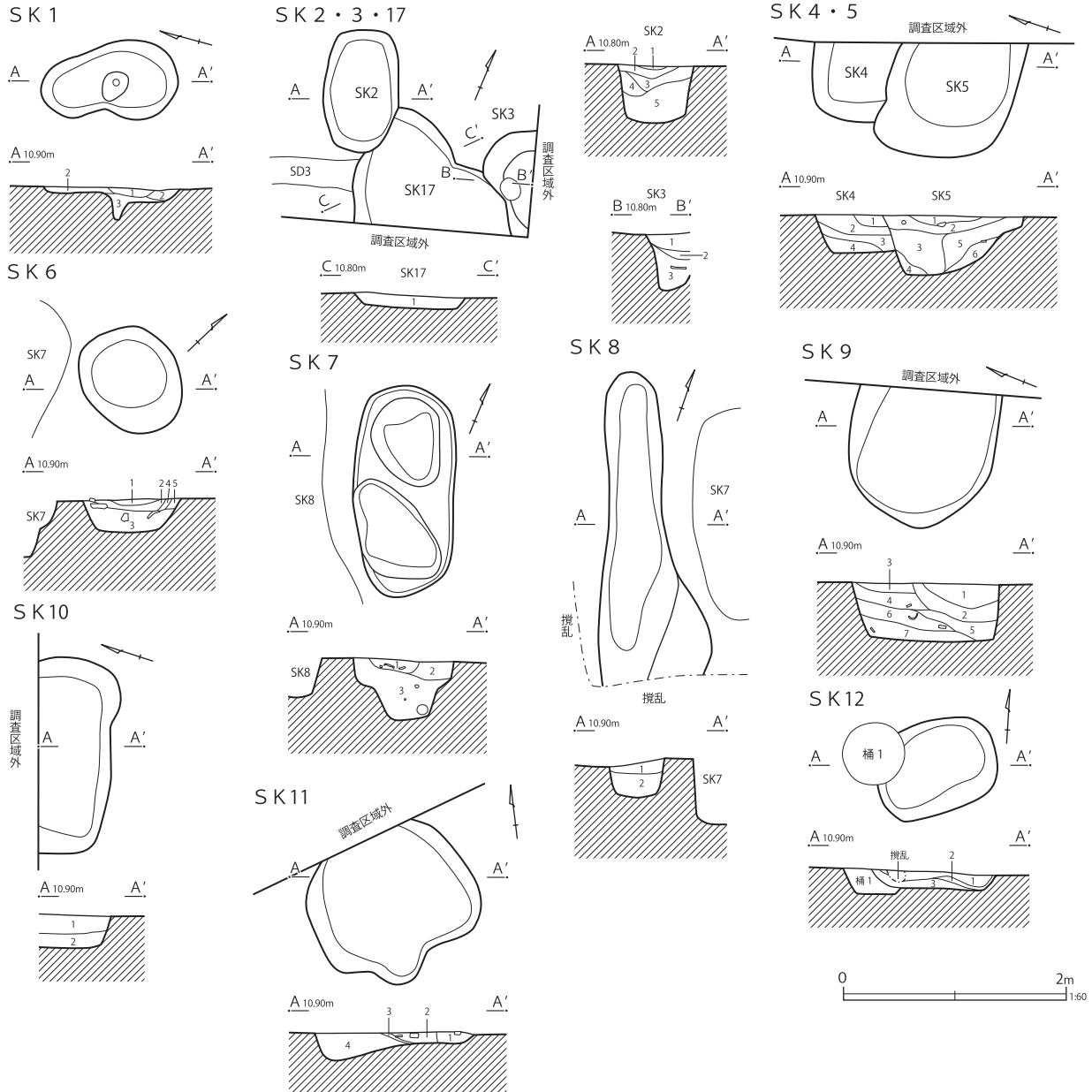
陶磁器は、第25図1・2に示した。地方窯系の陶器蓋物で、蓋には「蔓」、身には「大坂 つば 白口 三原製」と盛絵で文字が書かれている。容器の文字から整髪料容器の可能性もある。内面は無釉のため不明である。このほかに三河産土師質土器焜炉が出土している。

金属製品では、第28図1に銅製十能、2と3に銅製煙管の雁首と吸口を示した。1本の煙管のセットとみられる。

時期は、出土陶磁器から19世紀末以降と考えられる。

第3号土壌 (第23・25・28図)

B5-G9グリッドで検出された。東半分は調



SK 1
 1 暗褐色土
 2 黄褐色土
 3 暗黄褐色土 炭化物粒子若干

SK 2
 1 暗黄褐色土
 2 黑褐色土
 3 黑褐色土 小礫若干含む
 4 暗褐色土 黄褐色土含む
 5 淡黑褐色土 粘質

SK 3
 1 暗黄褐色土
 2 暗黄褐色土 黒色土含む
 3 灰褐色土 軟質 炭化物・焼土含む

SK 4
 1 黄褐色土 黒色土多量 しまりあり
 2 淡黑褐色土 黄褐色土・炭化物多量
 3 暗黄褐色土
 4 灰褐色土 粘土粒・炭化物粒含む

SK 5
 1 褐色土 砂質
 2 黒褐色土
 3 黒褐色土 軟質 白色粘土粒極多量 炭化物若干
 4 褐色土 炭化物多量
 5 灰褐色土 茶褐色土含む
 6 灰褐色土 炭化物多量

SK 6
 1 褐色土 焼土粒子若干含む
 2 黒褐色土
 3 暗褐色土 粘質
 4 灰褐色土 炭化物若干含む
 5 暗黄褐色土 炭化物若干含む

SK 7
 1 灰褐色土
 2 暗灰褐色土 小礫微量
 3 灰褐色土 軟質 粗粒

SK 8
 1 暗褐色土 炭化物若干 しまりあり
 2 灰黄褐色土 炭化物多量 しまりあり

SK 9
 1 暗黄褐色土
 2 淡黑褐色土 炭化物多量
 3 暗黄褐色土 砂質 灰褐色土含む
 4 灰黄褐色土
 5 灰褐色土 灰黄褐色土多量
 6 灰褐色土 灰黄褐色土多量 砂質
 7 暗灰色土

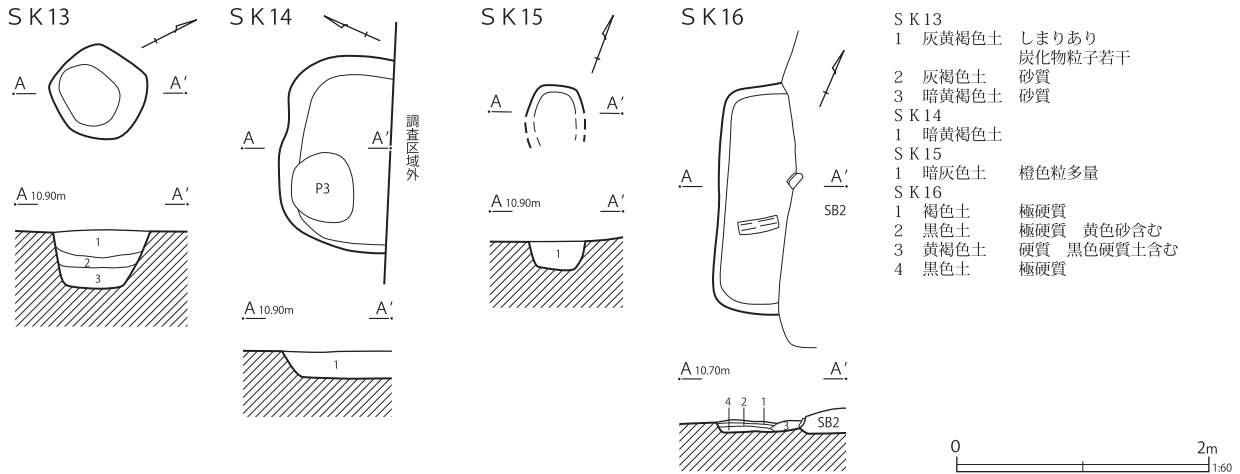
SK 10
 1 暗黄褐色土 やや砂質 炭化物若干
 2 暗褐色土 炭化物微粒子若干

SK 11
 1 砂礫層
 2 暗黄褐色土 炭化物含む
 3 暗灰色土
 4 灰黄褐色土 粘質

SK 12
 1 灰黄褐色土 炭化物若干 やや砂質
 2 灰黄褐色土 炭化物含む
 3 暗黄褐色土 小礫・炭化物若干 砂質

SK 17
 1 灰黄褐色土 砂質 炭化物・黄褐色ブロック含む

第23図 土壙 (1)



第24図 土壌（2）

第13表 土壌跡計測表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
1	B5-F9, G9	不整楕円形	1.23	0.70	0.15	N-25° -W	ピット状部分深さ 15cm
2	B5-G9	楕円形	1.08	0.68	0.52	N-21° -W	SK17 より新
3	B5-G9	不整楕円形	(0.96)	(0.46)	0.50	N-18° -W	SK17 より新
4	B5-F9	隅丸方形	(0.78)	(0.70)	0.34	N-17° -W	SK5 より古
5	B5-F9, G9	不整楕円形	1.06	1.12	0.54	N-81° -E	SK4 より新
6	B5-G9	円形	1.02	0.83	0.29	N-95° -E	
7	B5-G9	楕円形	1.90	0.90	0.55	N-21° -W	
8	B5-G9	不整形	(2.76)	1.00	0.34	N-22° -W	
9	B5-G9	楕円形	(1.25)	1.30	0.54	N-73° -E	
10	B5-G9, H9	隅丸長方形	1.75	(0.72)	0.30	N-72° -E	
11	B5-G9, H9	不整形	1.50	(1.30)	0.25	N-72° -E	
12	B5-H9	楕円形	1.11	0.82	0.27	N-58° -E	桶1 より新
13	B5-H9/10	楕円形	0.72	0.70	0.46	N-68° -E	
14	B5-H9	楕円形	1.54	(0.88)	0.22	N-69° -E	P3 と重複
15	B5-H9	楕円形	0.45	(0.20)	0.23	N-69° -E	
16	B5-I10	隅丸長方形	1.83	(0.60)	0.12	N-22° -W	SB2 より新
17	B5-G9	不整形	(1.15)	(1.05)	0.14	N-50° -W	SK2, 3 より古

査区域外へ延びる。重複のため平面形は不整楕円形である。

陶磁器類は、第25図3に陶器の三彩土瓶を示した。底部に白化粧が施され、黒痕がみられる。このほかに、瀬戸美濃系磁器の銅版転写染付の丸碗、三河産土師質土器焜炉などが出土している。

金属製品は第28図4～7に示した。4は寛永通宝、7は襖の引手とみられる環状金具である。

時期は、出土陶磁器から19世紀末以降と考えられる。

第4号土壌（第23図）

B5-F9グリッドに位置する。重複する第5

号土壌より古い。覆土は炭化物を多く含む黄褐色土、灰褐色土、黒褐色土で、レンズ状堆積である。

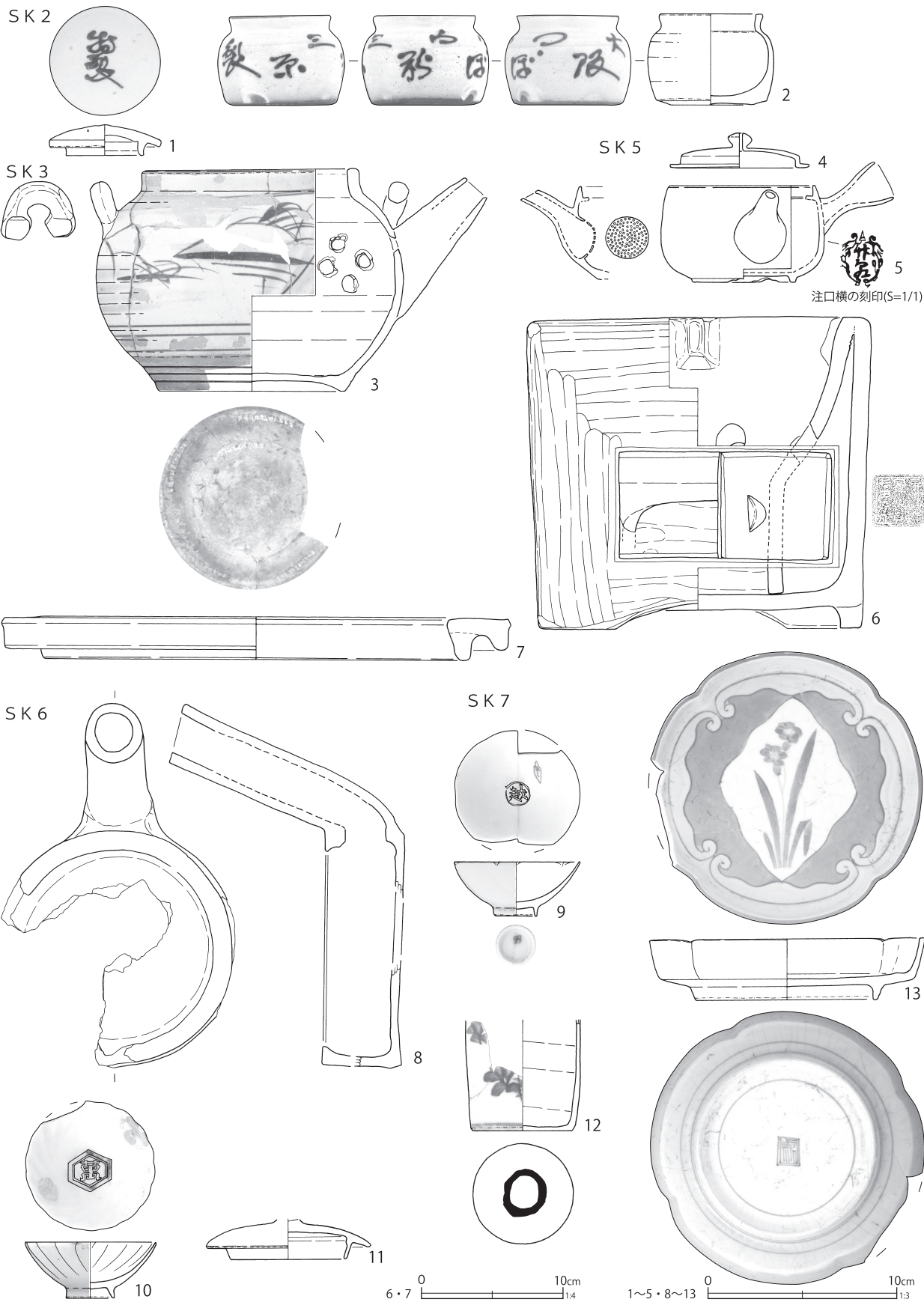
遺物は出土していない。時期は19世紀末以前と考えられる。

第5号土壌（第23・25図）

B5-F9・G9グリッドに位置し、東側は調査区域外にかかる。重複する第4号土壌より新しい。

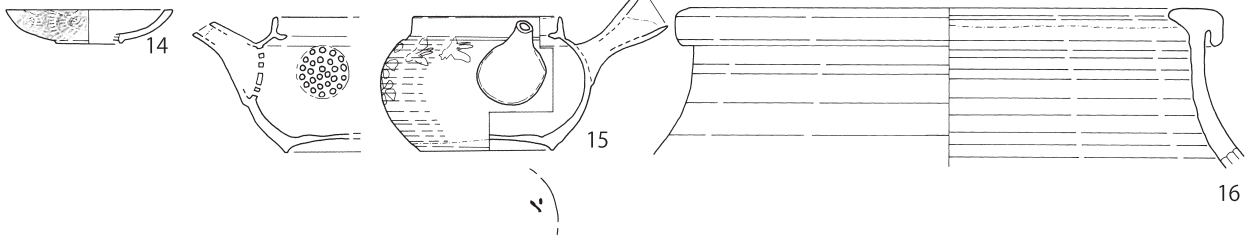
平面形は不整楕円形、断面形は南側にテラス状の段がある。

覆土に不整合の箇所が見られ、上位から他遺構が掘り込まれた可能性がある。

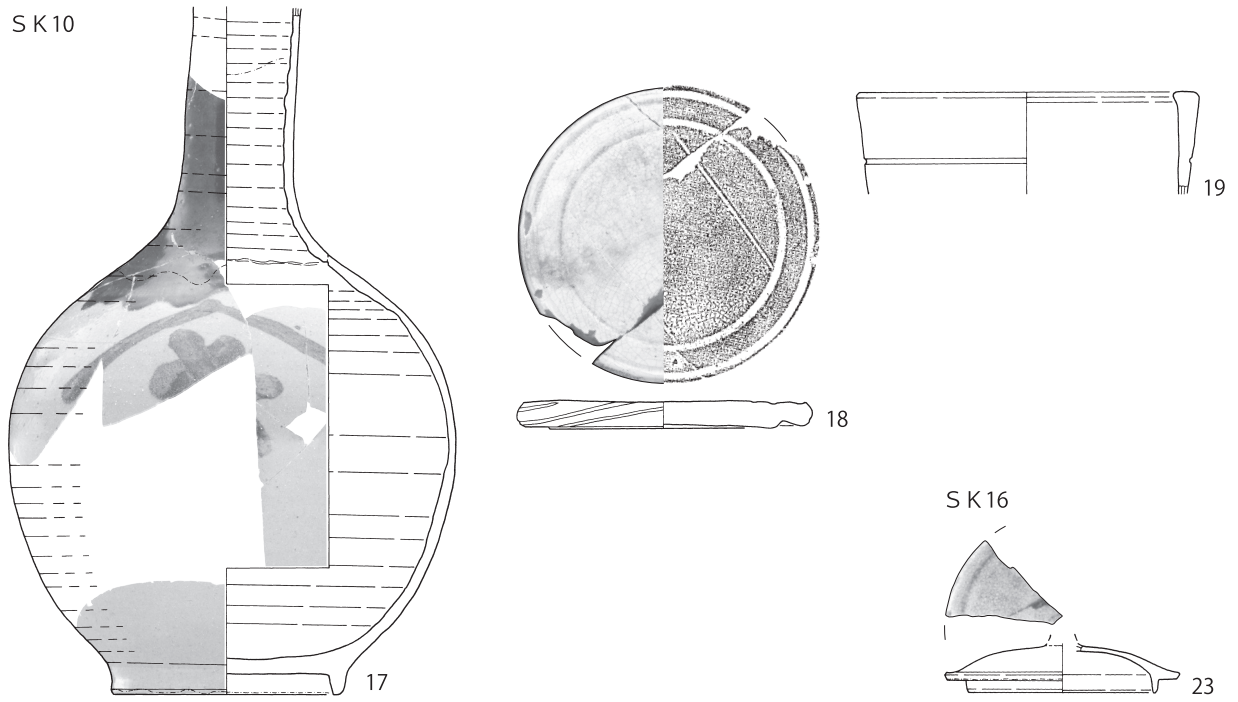


第25図 土壙出土遺物（1）

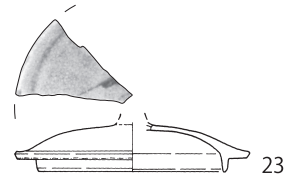
SK 9



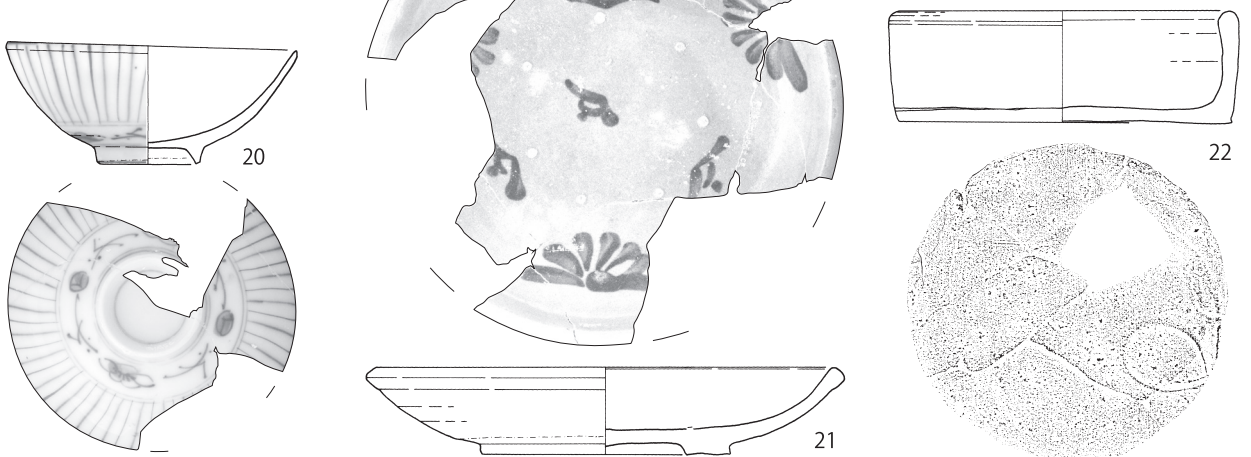
SK 10



SK 16



SK 12



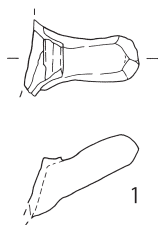
0 10cm 1/4 0 10cm 1/3
16 14 · 15 · 17 ~ 23

第26図 土壙出土遺物 (2)

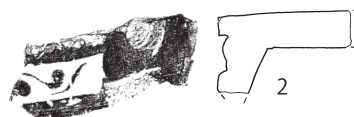
第14表 土壌出土遺物観察表（1）（第25・26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	蓋	5.8	1.6	4.0	IK	100	良好	浅黄	SK2	外面施釉・盛絵（文字）ピン痕状3	11-2
2	陶器	蓋物	5.4	4.8	4.3	IK	100	良好	灰黄	SK2	施釉 外面盛絵（文字）	11-2
3	陶器	土瓶	11.2	11.7	9.8	D	95	良好	橙	SK3	外面施釉・絵付（三彩）底部白化粧, 黒痕	11-3
4	陶器	蓋	—	1.8	6.6	IK	100	良好	灰褐	SK5	萬古系 つまみ中心に穿孔	11-4
5	陶器	急須	7.6	5.1	5.4	IK	90	良好	灰赤	SK5	萬古系 外面刻印 高台切込3ヶ所	11-4
6	土師質土器	焜炉	23.1	22.0	22.2	ADE	80	普通	橙	SK5	三河産 箱型 外面ミガキ 刻印	11-5
7	瓦質土器	竈鏝	(35.7)	3.0	(29.5)	AIK	15	普通	にぶい黄橙	SK5	酸化炎焼成ぞみ	
8	土師質土器	十能	縦19.2 横[12.2] 高さ12.4			AEHIK	75	普通	橙	SK6	激しく被熱 練炭おこし	11-6
9	磁器	坏	6.5	2.8	2.1	—	85	良好	白	SK7	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付	11-7
10	磁器	坏	6.8	2.9	3.5	—	95	良好	白	SK7	瀬戸美濃系 施釉 上絵付（青・金）	11-8
11	陶器	蓋	8.6	[2.1]	(6.0)	K	20	良好	灰白	SK7	大堀相馬系か 外面糠白釉	
12	磁器	爛徳利	—	[5.8]	5.2	—	60	良好	白	SK7	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付 底部墨書	11-9
13	磁器	皿	14.4	3.2	9.4	—	95	良好	白	SK7	肥前系 施釉 染付 内面陽刻状施文 口紅	11-10
14	磁器	紅皿	(6.6)	1.3	(2.6)	—	20	良好	白	SK9	瀬戸美濃系 型成形 施釉 外面施文	
15	磁器	急須	5.7	6.3	5.2	—	100	良好	白	SK9	瀬戸美濃系 施釉 外面上絵付 把手・注口・口唇端部金彩 墨書	11-11
16	陶器	壺	(27.2)	[8.3]	—	IK	5	良好	灰白	SK9	信楽系 内面鉄釉刷毛塗状	
17	陶器	徳利	—	[27.2]	8.9	IK	70	良好	黄灰	SK10	外面上位鉄釉・下位灰釉 鉄絵（文字）	12-1
18	陶器	蓋	11.0	1.1	8.8	D	55	良好	橙	SK10	土器質 上面施釉（白土状）・施文	12-2
19	陶器	鉢	13.2	[4.0]	—	K	45	普通	灰白	SK10	軟質施釉陶器 緑釉 被熱	12-3
20	磁器	碗	11.3	4.7	4.8	—	65	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付・色絵	
21	陶器	皿	(18.0)	3.4	9.8	I	55	良好	浅黄橙	SK12	施釉 内面呉須絵・ピン痕7	12-4
22	施釉土器	鉢	12.9	4.4	13.5	HI	95	普通	浅黄橙	SK12	底部糸切痕をナゲ消す 鉄化粧 施釉	12-5
23	陶器	蓋	(9.2)	[1.9]	(7.4)	K	10	良好	褐灰	SK16	京都信楽系 外面施釉・鉄絵	

SK10



SK8



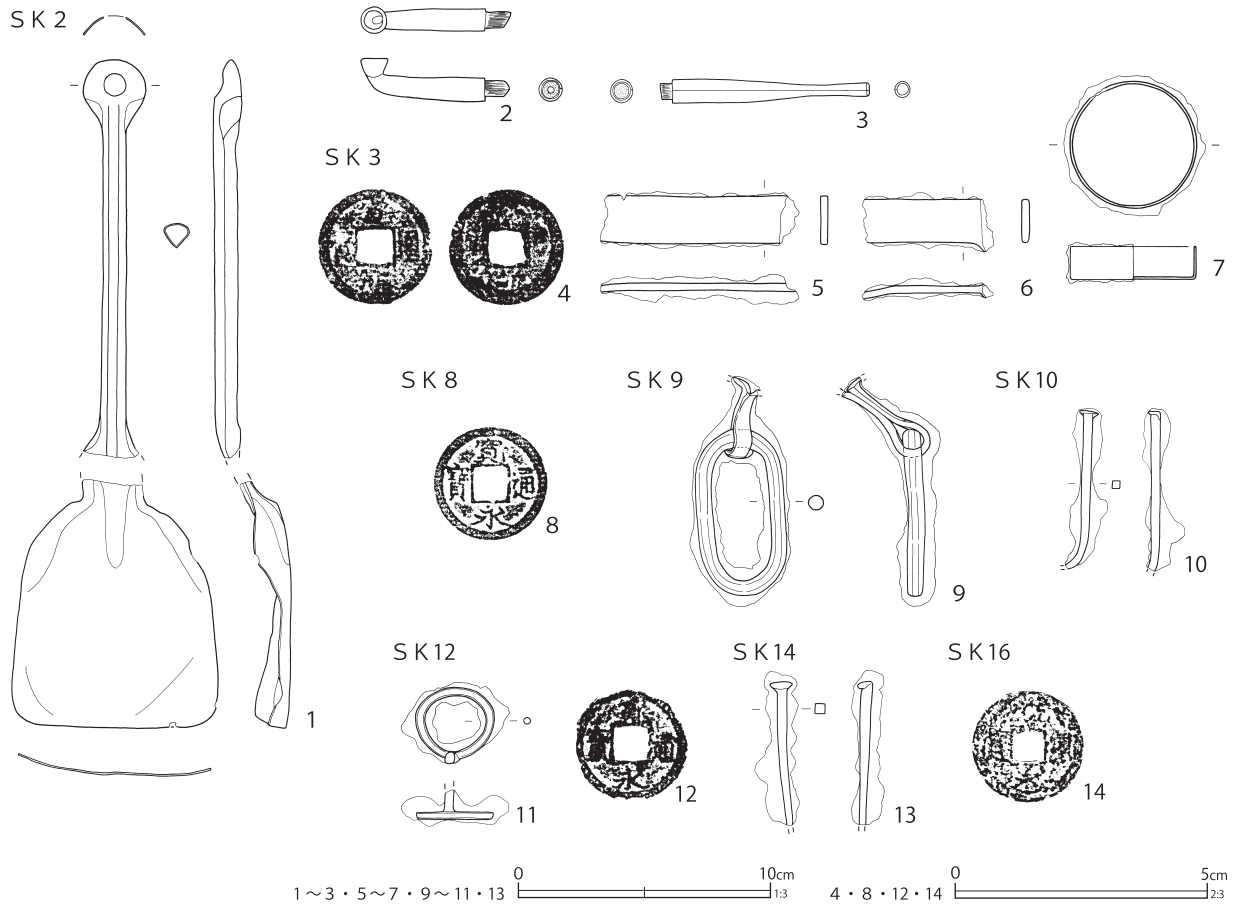
第27図 土壌出土遺物（3）

第15表 土壌出土遺物観察表（2）（第27図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	ミニチュア	長[2.0] 幅[3.0] 高さ[2.2]			6.3	—	良好	にぶい黄褐	SK10	鍋の把手 京都信楽系 施釉 手捻り	17-11
2	瓦	軒棧瓦	6.9	10.5	1.85	—	AIK	良好	灰	SK8	高4.4 少し銀化	18-5

遺物は第25図4と5に刻印のある萬古系陶器の急須、6に三河産土師質土器焜炉、7に瓦質土器の竈鏝を示した。6の焜炉は外面にミガキが明瞭にみられる。焚口引き戸の奥に刻印があり、摩

耗が進んでいるものの、「三河」の文字が読める。このほかに銅版転写染付の瀬戸美濃系磁器、笠間系陶器壺、地方窯系陶器焼酎瓶等が出土している。



第28図 土壙出土遺物（4）

第16表 土壙出土遺物観察表（3）（第28図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	十能	長さ[26.6] 幅8.1 厚さ0.1 重さ37.1	SK2	同一個体と推定	19-5
2	銅製品	煙管	長さ4.9 火皿径1.0 小口径0.9 重さ7.8	SK2	雁首 羅字残存 3と同一具	19-6
3	銅製品	煙管	長さ7.8 小口径0.9 口付径0.5 重さ7.0	SK2	吸口 羅字残存 2と同一具	
4	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ0.9 重さ2.1	SK3	寛永通寶(古)	
5	鉄製品	不明	縦1.9 横[7.3] 厚さ0.3 重さ16.7	SK3		
6	鉄製品	不明	縦2.1 横[5.2] 厚さ0.3 重さ8.8	SK3		
7	鉄製品	襖引手	縦5.0 横5.0 幅1.3 厚さ0.1 重さ22.1	SK3		
8	銅製品	銭貨	径22.7 厚さ1.0 重さ2.5	SK8	寛永通寶(新)	
9	鉄製品	吊金具	縦[8.7] 横3.6 厚さ0.6 重さ56.3	SK9		19-7
10	鉄製品	釘	長さ[6.2] 幅0.3 厚さ0.3 重さ9.0	SK10		
11	鉄製品	掻き立て	高さ[1.1] 幅3.0 厚さ0.3 重さ7.9	SK12		
12	銅製品	銭貨	径22.7 厚さ0.9 重さ1.6	SK12	寛永通寶(新)	
13	鉄製品	釘	長さ[5.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ10.4	SK14		
14	銅製品	銭貨	径22.5 厚さ1.4 重さ2.6	SK16	寛永通寶(新)	

時期は、陶磁器から19世紀末以降とみられる。

第6号土壙（第23・25図）

B 5-G 9 グリッドに位置する。不整楕円形で、断面形は逆台形である。

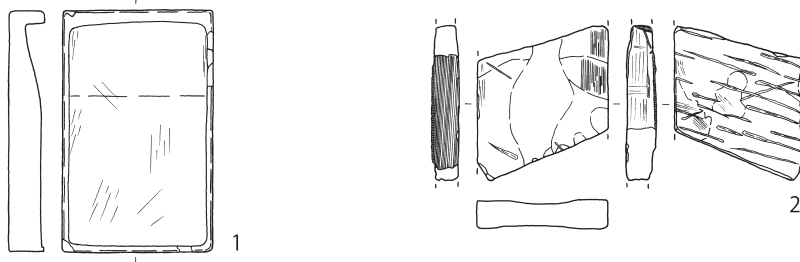
覆土は上層が焼土粒子、炭化物を含む褐色土、灰褐色土、暗黄褐色土で、下層が粘性の高い暗褐色土である。下層は一度に堆積したものと考えら

れる。

遺物は、第25図 8 に土師質土器の練炭おこしを図示した。このほかに酸化コバルト染付の瀬戸美濃系磁器端反坏、三河産土師質土器焜炉などが出土している。

時期は、出土陶磁器類から19世紀末以降とみられる。

SK 7



第29図 土壙出土遺物（5）

第17表 土壙出土遺物観察表（4）（第29図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	硯	12.7	7.8	—	427.7	粘板岩	SK7	器高 1.8cm	
2	石製品	砥石	[8.1]	6.9	1.5	122.1	粘板岩	SK7	ノコギリ痕 裏刃物痕	

第7号土壙（第23・25・29図）

B 5-G 9 グリッドに位置する。平面形は長楕円形である。断面形は箱形で、底面に2個所の深さ0.3mの大きな掘り込みが見られる。

覆土は下層が粗粒で軟質の灰褐色土で、一度に堆積した可能性が高い。

陶磁器類は第25図9～13に図示した。9、10、12、13は、瀬戸美濃系磁器である。9と10は坏で、9には○に「越」、10には亀甲に「萬」の刻印がある。13は陽刻状に区画を施した皿、12は底部に墨描きのある爛徳利である。陶器は、11に外面に糠白釉を施釉した土瓶の蓋を示した。大堀相馬系の可能性がある。

石製品では、第29図1に硯、2に砥石を示した。いずれも粘板岩製である。砥石はノコギリ痕が明瞭に残る。

時期は、陶磁器から19世紀末とみられる。

第8号土壙（第23・27・28図）

B 5-G 9 グリッドに位置する。北側の同一軸線上に第1号溝跡が位置しているが、断面形態が異なるため土壙とした。

平面形が長軸長2.76m以上の溝状で、南側は調査区域外へ延びる。断面形は箱形である。

覆土は炭化物を含む暗褐色土、灰黄褐色土である。下層は炭化物が多い。

出土遺物は小破片のため、図示し得るものはなかったが、瀬戸美濃系磁器の酸化コバルト染付碗・坏、クロム青磁釉の碗、三河産土師質土器焜炉などが出土している。

金属製品では、第28図8の寛永通宝が出土している。

時期は、出土陶磁器から19世紀後半以降で、第1号溝跡とはほぼ同時期と考えられる。

第9号土壙（第23・26図）

B 5-G 9 グリッドに位置する。東半分は調査区域外へ延びる。

平面形は長楕円形である。残存する長軸長で1.25mを測り、比較的大型の土壙と推定される。

断面形は箱形で深く、覆土は炭化物層を含む暗黄褐色土、灰黄褐色土、暗灰色土である。

遺物は、第26図14～16に図示した。14は瀬戸美濃系磁器の紅皿、15は瀬戸美濃系磁器の急須である。急須の底部には、墨書がある。16は信楽系陶器の内面鉄釉刷毛塗の大型壺である。

時期は、出土陶磁器から19世紀後葉以後と考えられる。

第10号土壙（第23図）

B 5-G 9・H 9 グリッドに位置する。北側は調査区域外へ延びる。

平面形は、隅丸長方形である。断面形は箱形で、

覆土は砂質の暗黄褐色土、暗褐色土である。

陶磁器類は第26図17～19に図示したが、いずれも地方窯系の陶器である。17は鉄絵でヤマに「キ」、「口店」と胴部に書かれた徳利、18は上面を施釉した蓋、19は内外面とも緑釉を施した軟質施釉陶器の鉢である。

このほかに瀬戸美濃系磁器の端反坏、卵殻手坏などが出土している。

土製品は、第27図1の京都信楽系陶器のミニチュア鍋の把手が出土している。

金属製品は、第28図9の鉄製吊金具が出土している。

時期は、出土陶磁器から19世紀後葉以降と考えられる。

第11号土壌 (第23図)

B5-G9・H9グリッドに位置する。北側は調査区域外にかかる。

平面形は不整形である。断面形は皿形で、西側が深い。覆土は砂礫や粘土を含み、一度に堆積した可能性がある。

遺物はごく少なく、図示できるものはなかった。京都信楽系陶器灯明皿、信楽系陶器内面鉄釉刷毛塗の大型壺、土器竈鏝等が出土している。

時期は陶器から19世紀後葉以降と考えられる。

第12号土壌 (第23・26・28図)

B5-H9グリッドに位置する。重複する第1号埋設桶より新しい。

平面形は隅丸方形である。断面形は皿形で、覆土は灰黄褐色土、暗黄褐色土で、炭化物層が間に入る。

第26図20～22に陶磁器類を図示した。20は酸化コバルトの染付と色絵がある瀬戸美濃系磁器平碗、21は益子系の可能性がある陶器皿、22は地方窯系の鉢である。

このほかに、瀬戸美濃系磁器の端反形を呈する坏が出土している。

時期は、出土陶磁器から19世紀後半以降とみ

られる。

第14号土壌 (第24・28図)

B5-H9グリッドに位置し、南半は調査区域外に延びる。

平面形は隅丸方形である。断面形は皿形と考えられる。覆土は暗黄褐色土の単層である。

陶磁器類の出土は少なく、瀬戸美濃系磁器の小破片数点のみで、図示しうるものはなかった。

金属製品は、第28図13の鉄釘が出土している。

時期は出土遺物から19世紀以降と推定される。

第16号土壌 (第24・26・28図)

B5-I10グリッドに位置し、重複する第2号建物跡より新しい。第2号建物跡と主軸方向がほぼ同一で、建物基礎の可能性もあるが、対応する遺構が確認できなかったため単独の土壌として扱った。

平面形は隅丸方形、断面形は皿形である。覆土は非常に硬質で、褐色土、黒色土、黄褐色土が互層になっており、一種の版築になっていると考えられるため、基礎状遺構の可能性もある。

陶磁器は、第26図23に京都信楽系陶器の鉄絵が施された蓋物の蓋を示した。このほかに、肥前系磁器の小丸碗、底部輪高台の猪口が出土している。

金属製品は、第28図14の寛永通宝が出土している。

時期は、重複関係にある第2号建物跡が19世紀前半であるため、19世紀前半以前と考えられる。

第17号土壌 (第23図)

B5-G9グリッドに位置する。南側は調査区域外にかかる。重複する第3号土壌より古い。

調査区内の平面形は不整形で、L字形に近い。断面形は皿形である。覆土は、炭化物、黄褐色土ブロックを含む砂質の灰黄褐色土である。

陶磁器はごく少なく、図示し得るものがなかったが、瀬戸美濃系磁器端反碗、京都信楽系陶器爛徳利が出土している。

時期は、陶磁器から19世紀前半以降である。

(6) ピット

ピットは4基が確認されたが、いずれも単独で検出され、建物等を想定するに至らなかった。第30図に遺構図を示した。位置・規模等については第18表に、出土遺物の観察表は第19表に示した。

規模は径0.30～0.55m、深さ0.13～0.46mで、ピット3が大型で深い。ピット3は第14号土壇と重複するが、新旧は不明である。ピット3は覆土に焼土、炭化物を含む。

遺物は、ピット4から出土した瀬戸美濃系陶器の半胴甕を第31図に示した。

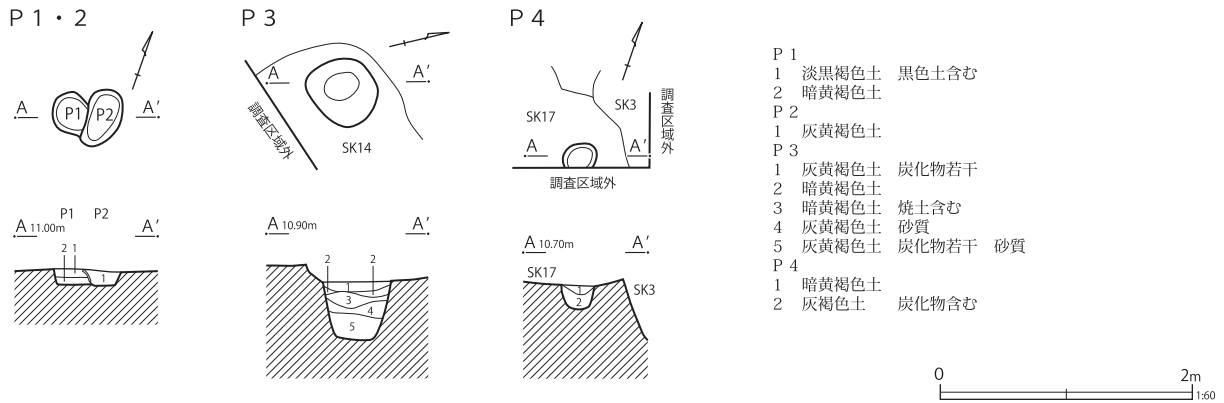
そのほかにピット1・2から陶磁器が少量、ピット3から肥前系磁器皿、焙烙の小破片が出土している。

(7) 遺構外出土遺物

表土掘削、遺構確認時に陶磁器、土製品、金属製品等が出土した。

陶磁器・土製品を第32図、金属製品を第33図に示し、観察表は陶磁器と土製品を第20表、金属製品を第21表に示した。

1は酸化コバルトで染付された瀬戸美濃系磁器

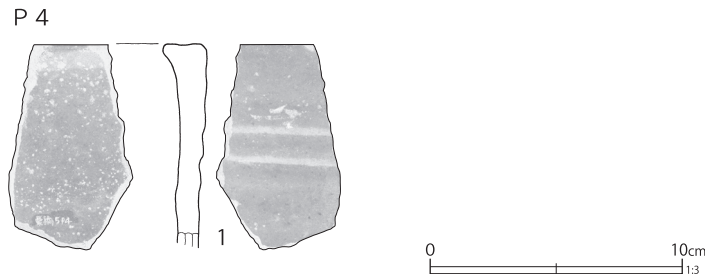


第30図 ピット

第18表 ピット計測表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
1	B5-H9	円形	(0.30)	0.30	0.13	P2より古
2	B5-H9	楕円形	0.48	0.28	0.14	P1より新
3	B5-H9	円形	0.55	0.49	0.46	SK14と重複
4	B5-G9	円形	0.26	(0.19)	0.19	SK17と重複



第31図 ピット出土遺物

第19表 ピット出土遺物観察表 (第31図)

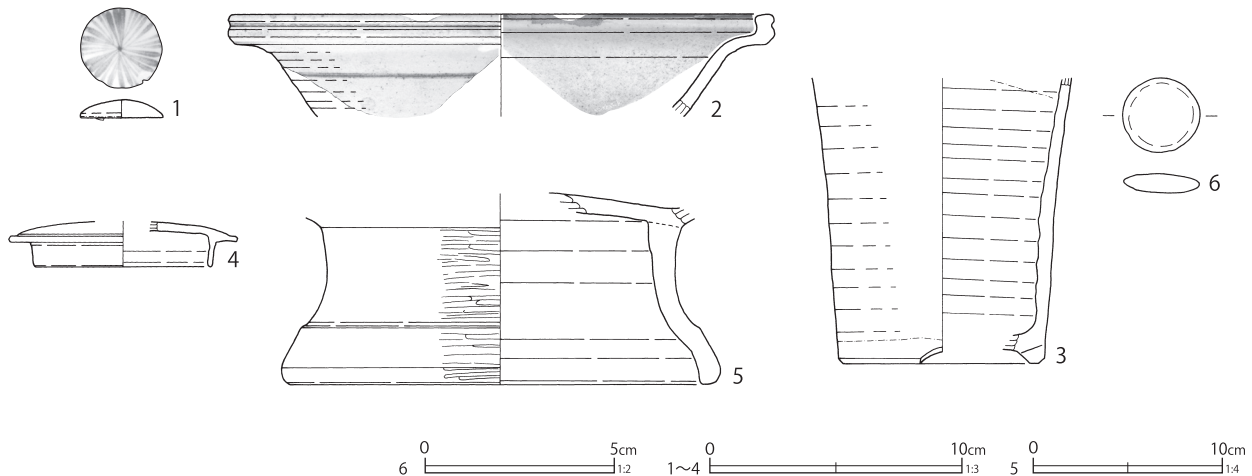
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	半胴甕	—	[8.0]	—	DE	5	良好	灰白	P4	瀬戸美濃系 鉄釉 口唇部目跡 被熱	

の蓋、2は鉄絵が描かれた瀬戸美濃系陶器の鉢、3は笠間系陶器の可能性ある植木鉢、4は糠白釉が施釉された土瓶の蓋で、大堀相馬系陶器の可能性ある。5は瓦質土器の火鉢である。

土製品は、第32図6に基石形土製品を示した。

江戸在地区系とみられ、手捻りで成形されている。

金属製品は第33図1～3に示した。1は巻頭釘、2・3は寛永通寶である。4は先端に木質が付着しており、釘にも見えるが、幅・厚さ・重量とも大きく楔と判断した。

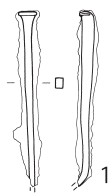


第32図 遺構外出土遺物(1)

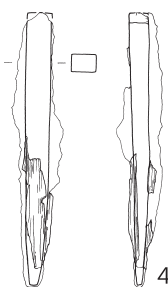
第20表 遺構外出土遺物観察表(1)(第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	—	0.7	3.2	—	95	良好	灰白	C区	瀬戸美濃系 上面施釉・酸化コバルト染付	
2	陶器	鉢	(20.7)	[4.0]	—	D	15	良好	淡黄	A区	瀬戸美濃系 灰釉 鉄絵	17-5
3	陶器	植木鉢	—	[11.3]	7.7	CHK	40	良好	にぶい橙	A区	笠間系か 底部白化粧 外面鉄釉 高台部抉り	17-7
4	陶器	蓋	(9.0)	[1.8]	(6.9)	D	30	良好	灰白	C区	大堀相馬系か 上面糠白釉	17-6
5	瓦質土器	火鉢	—	10.1	22.0	ADEHK	50	普通	灰黄褐	A区	外面ミガキ 燻す	17-8
6	土製品	基石形製品	径2.0 厚さ0.5			AK	—	良好	明赤褐	C区	江戸在地区系 手捻り	17-17
			重さ2.3									

A区



C区



第33図 遺構外出土遺物(2)

第21表 遺構外出土遺物観察表(2)(第33図)

番号	種別	器種	法量	出土地点	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.3 厚さ0.4 重さ6.9	A区		
2	銅製品	銭貨	径22.0 厚さ1.0 重さ1.9	A区	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径22.7 厚さ1.2 重さ2.1	A区	寛永通寶(新)	
4	鉄製品	楔	長さ10.8 幅1.0 厚さ0.7 重さ26.3	C区		

2 第5地点第二面

第5地点第二面で確認された遺構は、土壇30基、ピット4基である。

(1) 土壇

土壇は30基検出した。遺構図は第34・35図に、位置・規模等は第22表に示した。出土遺物の観察表は、陶磁器を第23表、土製品を第24表、瓦を第25表、木製品を第26表、金属製品を第27表、石製品を第28表に示した。

第19号土壇 (第34図)

B5-G9グリッドに位置し、不整楕円形を呈する。西半分は調査区域外へ延びる。重複する第20号土壇より新しい。

平面形は不整形で、検出できた範囲の規模は長軸1.36m、短軸0.68mである。断面形は皿形で、深さは0.27mである。覆土は粘質な褐色土で、灰色土が若干混入している。

陶磁器はごく少なく、図示できるものはない。瀬戸美濃系磁器端反碗、陶器の青緑釉土瓶、松岡系陶器の鍋等が出土している。

時期は、重複関係と出土陶磁器の年代から19世紀中葉以降と考えられる。

第20号土壇 (第34図)

B5-G9グリッドに位置する。西半分は調査区域外へ延びる。重複する第19号土壇より古い。

平面形は不整楕円形で、検出できた範囲の規模は長軸1.00m、短軸0.87mである。断面形は皿形で、深さは0.25mである。覆土は淡灰色土で、酸化鉄を多く含む。

陶磁器類は、第36図1～9に図示した。磁器は肥前系が中心で、1に湯呑形碗、3に鉢、4に八角鉢を示した。3の鉢は、底部に焼継印がある。このほかに瀬戸美濃系の端反碗が出土している。

陶器は、京都信楽系が2の脚付灯明皿、5の坏である。瀬戸美濃系が6の二合半灰釉徳利である。9は松岡系とみられる海鼠釉土瓶である。7は、上面に染付で文字らしきものが書かれた陶器蓋で、

胎土は磁器質である。

土製品では、第41図1に江戸在り系とみられる土製鳩笛を示した。上下合せ型成形の後端部付近上部が残る。

瓦は第42図1に軒棧瓦、2に丸瓦を示した。1は中心飾りが大阪式、子葉部分が江戸式の折衷である。

時期は、出土陶磁器から19世紀中葉とみられる。

第21号土壇 (第34図)

B5-F9・G9グリッドに位置する。重複する第22号土壇より新しい。

平面形は、不整楕円形である。規模は長軸1.65m、短軸0.80mである。断面形は逆台形形で、深さは0.40mである。

覆土中から木片や炭化物が多く出土しており、火災処理に関わる土壇と考えられる。

遺物は、第36図13に瀬戸美濃系陶器の蛇ノ目高台灰釉陶器皿を図示した。底面に墨書らしきものが認められるが、判別できない。

このほかに瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗、卵殻手坏、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿、青緑釉土瓶などが出土している。

時期は陶磁器から19世紀中葉と考えられる。

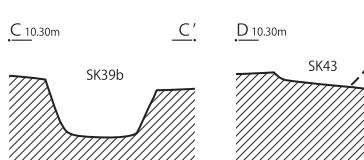
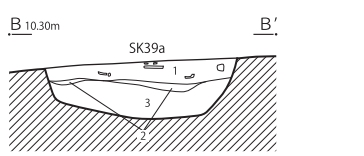
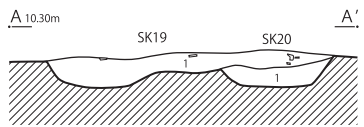
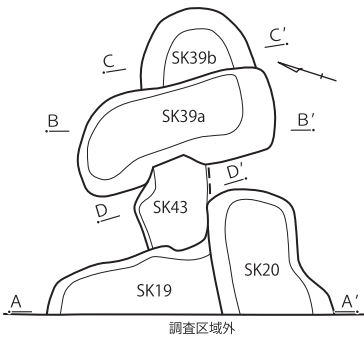
第23号土壇 (第34図)

B5-F9・G9グリッドに位置する。東半分は調査区域外へ延びる。

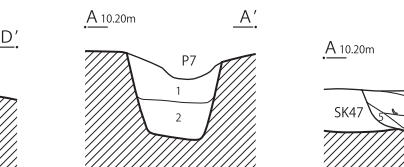
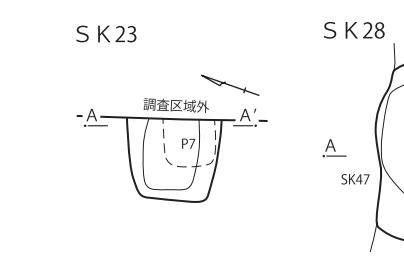
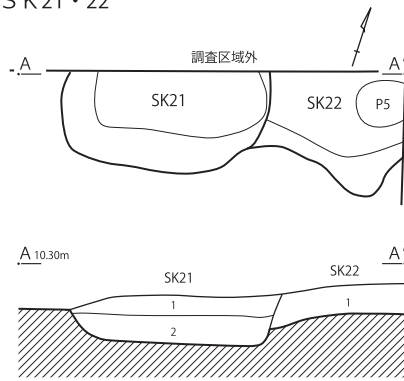
平面形は隅丸長方形である。覆土は2枚に分かれている。上層は焼土と炭化物主体で下層に木片を多く含むことから、火災処理に関わる土壇とみられる。

陶磁器類は、第36図10～12に図示した。磁器では10が肥前系の端反碗、11は瀬戸美濃系の卵殻手坏で、いずれにも底部に赤文字で焼継印が書かれている。12は瀬戸美濃系の衛生陶器である。外面に海鼠釉、背面に刷毛塗り状鉄化粧が施されている。

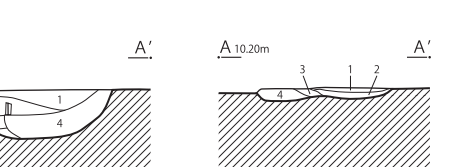
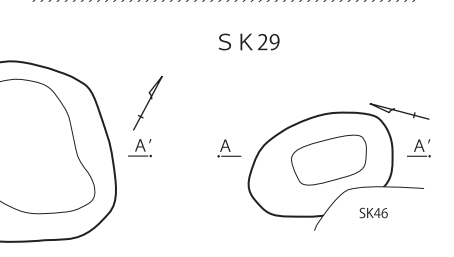
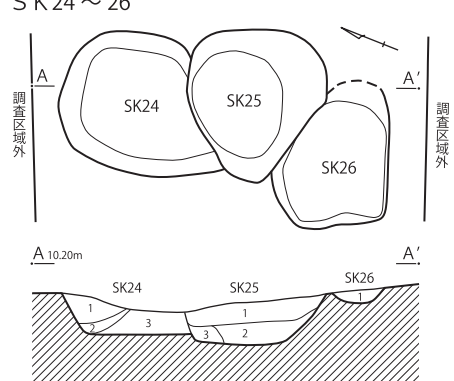
S K 19・20・39a・39b・43



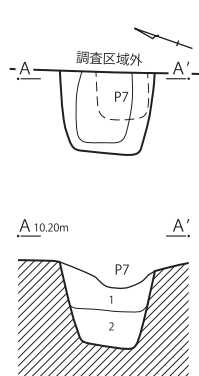
S K 21・22



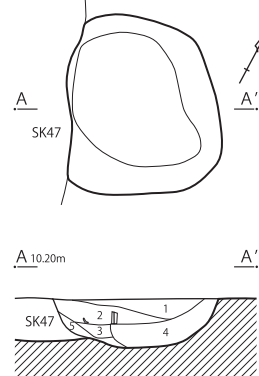
S K 24~26



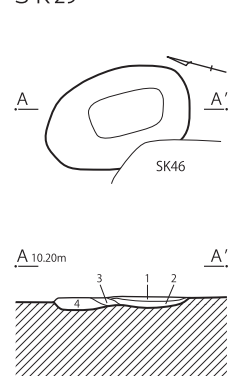
S K 23



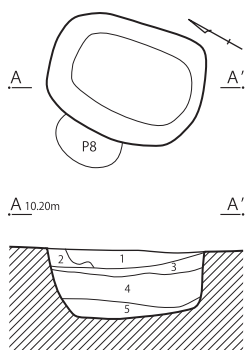
S K 28



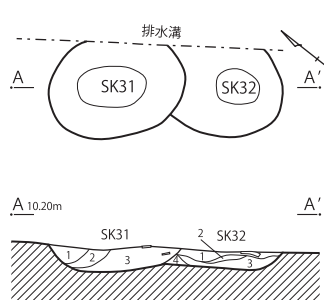
S K 29



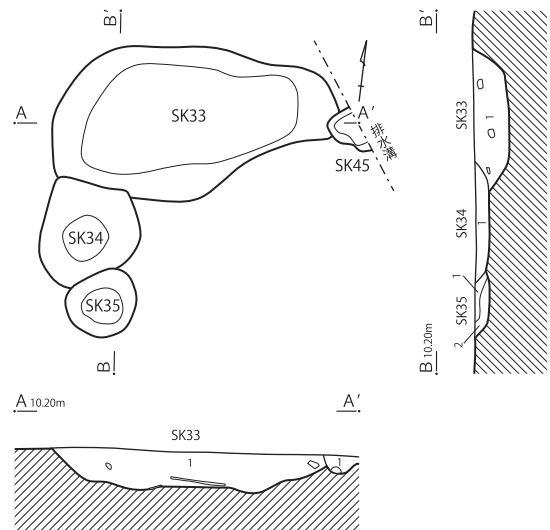
S K 30



S K 31・32



S K 33~35



- S K 19
1 褐色土 灰色土若干混入 粘質
S K 20
1 淡灰色土 橙色土粒子多量
S K 21
1 暗褐色土 炭化物含む
2 暗褐色土 炭化物含む
S K 22
1 暗褐色土 炭化物含む
S K 23
1 暗灰色土 炭化物・焼土多量
2 暗灰色土 シルト質 木質遺物多量
S K 24
1 灰褐色土 炭化物・木質部含む
2 灰黄褐色土
3 灰褐色土 砂質
S K 25
1 灰黄褐色土 橙色土(鉄分)極多量 炭化物若干
2 暗灰褐色土 砂質
3 黄褐色土
S K 26
1 褐色土 炭化物・焼土若干含む

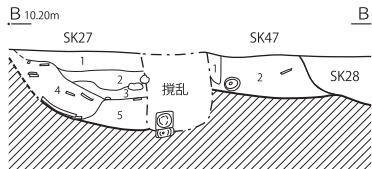
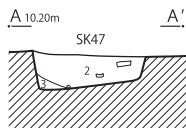
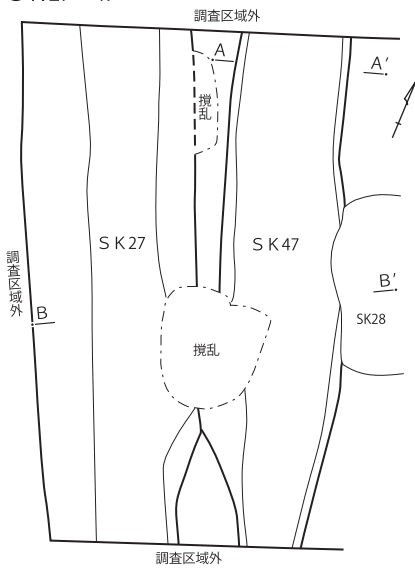
- S K 28
1 灰黄褐色土 砂質
2 灰褐色土 砂質 炭化物多量
3 灰色土 砂質 炭化物・焼土含む
4 暗灰色土 砂質 炭化物・橙色土多量
5 灰黄色土 焼土塊若干
S K 29
1 褐色土
2 暗褐色土
3 淡黒褐色土
4 暗褐色土 砂質 炭化物若干 しまりあり
S K 30
1 暗褐色砂 炭化物若干
2 暗黄褐色土 粘性 砂質土含む
3 灰黄褐色砂
4 黒褐色土 木材・樹枝多量
5 灰白色砂質土
S K 31
1 暗黄褐色土 炭化物多量
2 灰黄褐色土
3 灰褐色土 炭化物若干

- S K 32
1 淡橙色土
2 暗灰色土 砂質
3 褐色土 焼土若干含む
4 淡黒褐色土
S K 33
1 黒褐色土 焼土ブロック・黒色土多量・しまりあり
S K 34
1 淡黒褐色土 炭化物・黄褐色土若干
S K 35
1 暗灰色土 粘質 炭化物若干
2 暗褐色土 焼土・炭化物含む
S K 39 a
1 暗灰褐色土 炭化物多量 焼土含む
2 灰黄褐色土 炭化物多量
3 暗灰色土 粘質 炭化物若干
S K 45
1 暗灰色土 粘質 炭化物若干

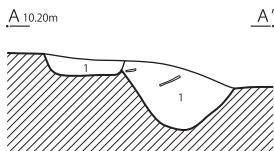


第34図 土壌 (1)

S K 27・47



S K 41・42



S K 27

- 1 黒褐色土 炭化物・焼土塊微量
黄褐色土含む
- 2 黒褐色土
- 3 灰褐色砂層
- 4 焼土塊層 瓦多量
- 5 黒褐色土 植物質・炭化物・焼土粒若干

S K 36

- 1 灰褐色土 炭化物・焼土塊多量
- 2 暗赤褐色土 焼土多量
- 3 黒褐色土 炭化物多量

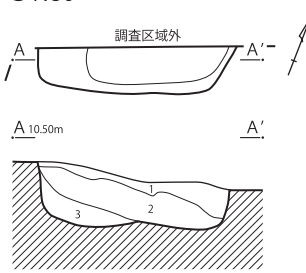
S K 37

- 1 黒褐色土 焼土ブロック極多量
- 2 黄白色砂質土

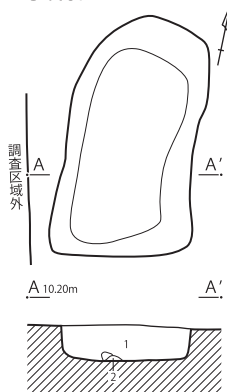
S K 38

- 1 黄褐色土
- 2 焼土塊層 黒褐色土含む
- 3 黒褐色土

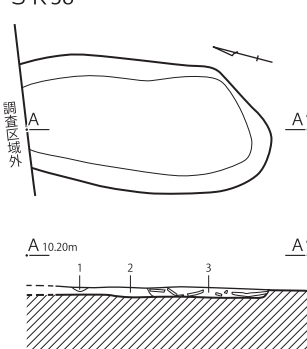
S K 36



S K 37



S K 38



S K 40

- 1 暗黄褐色土 砂質 焼土・炭化物僅か
- 2 黒褐色土 暗黄褐色土含む 焼土塊少量
しまりあり
- 3 暗黄褐色土 焼土若干
- 4 黒褐色土 暗黄褐色土・焼土塊含む
- 5 黒褐色土 焼土塊多量

S K 41

- 1 灰褐色土 炭化物極多量

S K 42

- 1 黒褐色土 粘質に富む 炭化物含む

S K 44

- 1 灰褐色土 炭化物多量 鉄分含む
- 2 暗灰褐色土 炭化物・木質遺物多量

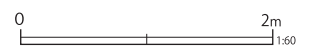
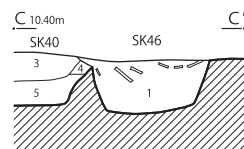
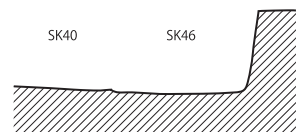
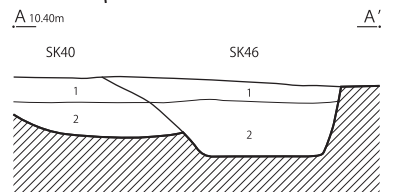
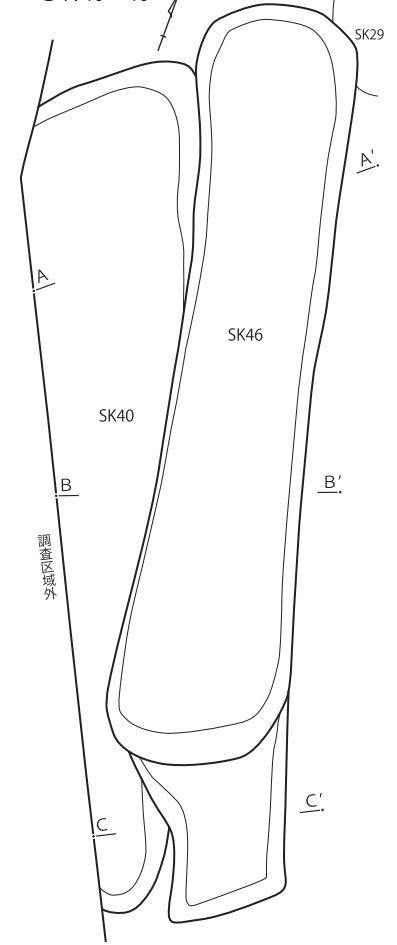
S K 46

- 1 淡黒褐色土 焼土塊多量
- 2 黒褐色土 焼土ブロック多量

S K 47

- 1 暗灰褐色土
- 2 焼土ブロック層 焼土塊多量 黒褐色土含む
- 3 黒褐色土

S K 40・46



第35図 土壌 (2)

第22表 土壌計測表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
19	B5-G9	不整形	(1.36)	(0.68)	0.27	N-25° -W	SK20 より新
20	B5-G9	不整楕円形	(1.00)	0.87	0.25	N-61° -E	SK19 より古
21	B5-F9, G9	不整楕円形	1.65	(0.80)	0.40	N-74° -E	P5、SK22 より新
22	B5-F9	不整形	(1.18)	(1.00)	0.35	N-74° -E	SK21 より古
23	B5-F9, G9	隅丸長方形	(0.65)	0.75	0.70	N-72° -E	P7 より古
24	B5-G9	楕円形	(1.11)	1.11	0.33	N-16° -W	SK25 より古
25	B5-G9	不整楕円形	1.21	1.11	0.40	N-68° -E	SK24 より新、SK26 と重複
26	B5-G9	楕円形	(1.14)	0.93	0.28	N-70° -E	SK25 と重複
27	B5-G9, H9	隅丸長方形か	(4.05)	(1.35)	0.62	N-24° -W	SK47 と重複
28	B5-H9/10	楕円形	1.53	(1.30)	0.39	N-64° -W	SK47 より新
29	B5-H10	楕円形	1.18	0.76	0.10	N-14° -W	SK46 と重複
30	B5-H10	楕円形	1.25	0.94	0.56	N-8° -W	P8 と重複
31	B5-H10	楕円形	1.17	(0.74)	0.20	N-25° -W	SK32 より新
32	B5-H10	楕円形	(0.83)	(0.69)	0.16	N-18° -W	SK31 より古
33	B5-H10	不整楕円形	(2.27)	(1.22)	0.35	N-80° -E	SK45 と重複、SK34 より古
34	B5-H10	楕円形	(0.80)	0.78	0.11	N-1° -E	SK33、SK35 より新
35	B5-H10, I10	円形	0.56	0.54	0.12	N-26° -E	SK34 より新
36	B5-H9	隅丸長方形	1.57	(0.38)	0.50	N-69° -E	
37	B5-H9	隅丸長方形	1.93	1.05	0.28	N-4° -W	
38	B5-H10	楕円形	(1.96)	1.04	0.09	N-9° -W	
39a	B5-G9	隅丸長方形	1.61	0.69	0.48	N-35° -W	SK39b、SK43 と重複
39b	B5-G9	楕円形	0.92	(0.55)	0.46	N-26° -W	SK39a と重複
40	B5-H9/10, I9/10	隅丸長方形	6.62	(1.42)	0.47	N-22° -W	SK46 より古
41	B5-G9	楕円形	(0.75)	0.72	0.17	N-61° -E	SK42 より新
42	B5-G9	楕円形	(0.90)	(0.32)	0.55	N-3° -W	SK41 より古
43	B5-G9	不整形	(0.70)	62.00	0.10	N-56° -E	SK39a、SK19、SK20 と重複
44	B5-G9	方形	(0.42)	(0.42)	0.30	N-17° -W	
45	B5-H10	不整楕円形	(0.22)	0.38	0.14	N-80° -E	
46	B5-H9/10, I10	隅丸長方形	7.22	1.43	0.62	N-16° -W	鏡2面出土 SK40 より新
47	B5-G9, H9	隅丸長方形か	(4.05)	1.00	0.34	N-19° -W	SK27 と重複、SK28 より古

このほかに、瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿、地方窯系の糸目土瓶が出土している。

木製品では、第46図に下駄を示した。

金属製品では、第47図1に鉄釘を示した。

時期は出土陶磁器から、19世紀中葉とみられる。

第24号土壌（第34図）

B5-G9グリッドに位置する。重複する第25号土壌より古い。

平面形は楕円形である。覆土は砂質土が主体で、上層に炭化物を含む。

図示する陶磁器はなかったが、肥前系磁器の湯呑形碗、青緑釉土瓶が出土している。

金属製品では、第47図2に巻頭釘を示した。

時期は、出土陶磁器から19世紀中葉と推定される。

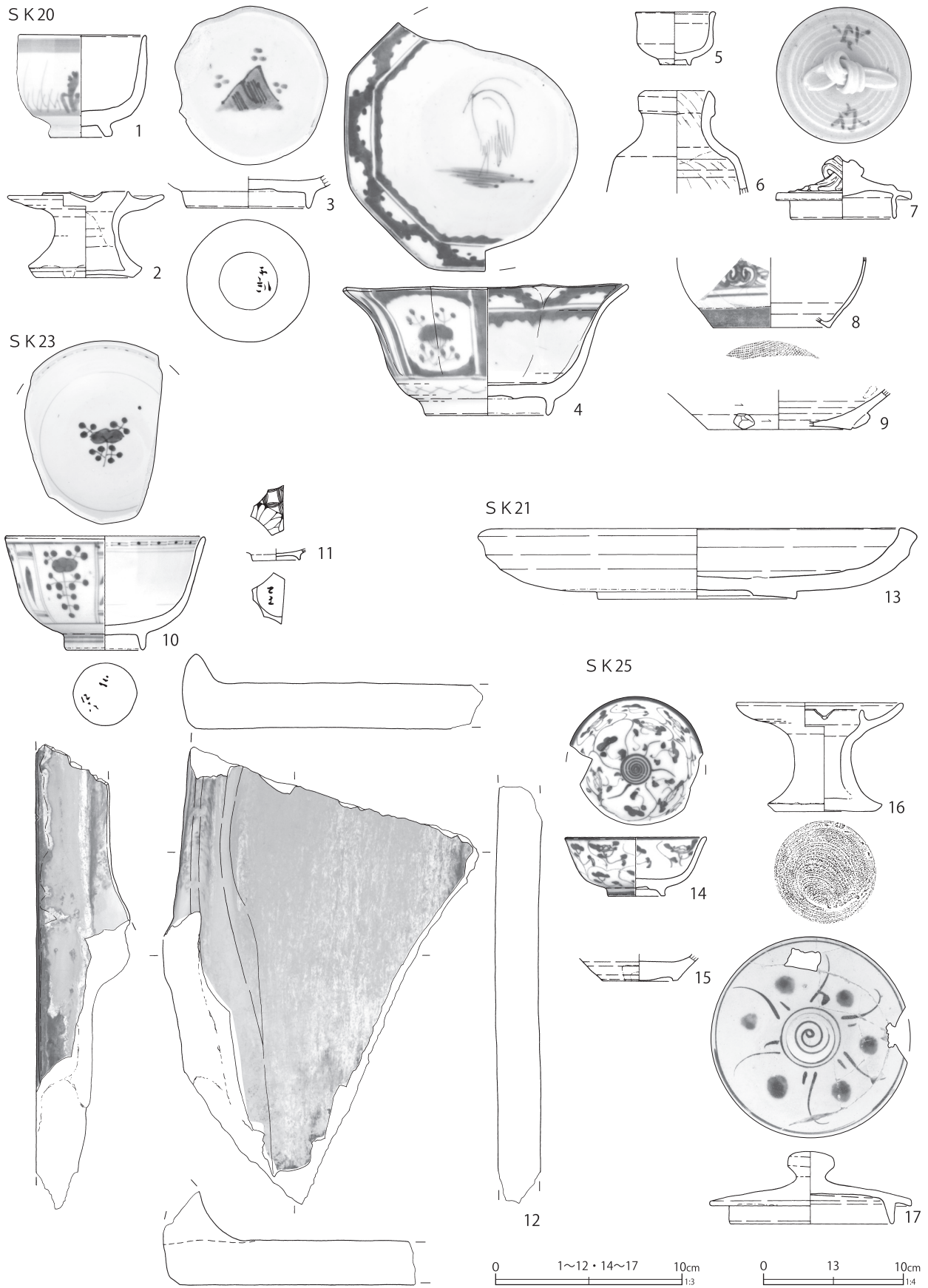
第25号土壌（第34図）

B5-G9グリッドに位置する。第24号土壌、第26号土壌と重複し、第24号土壌より新しい。

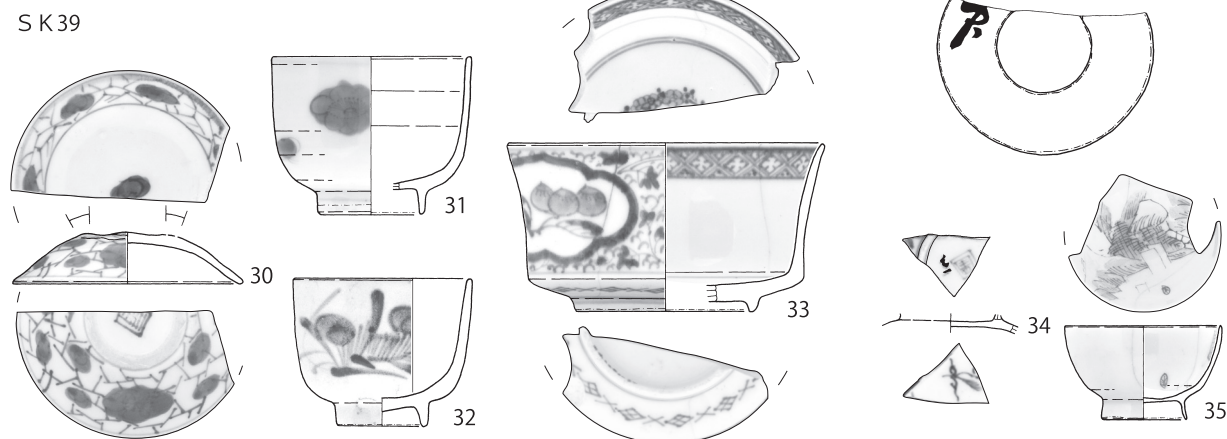
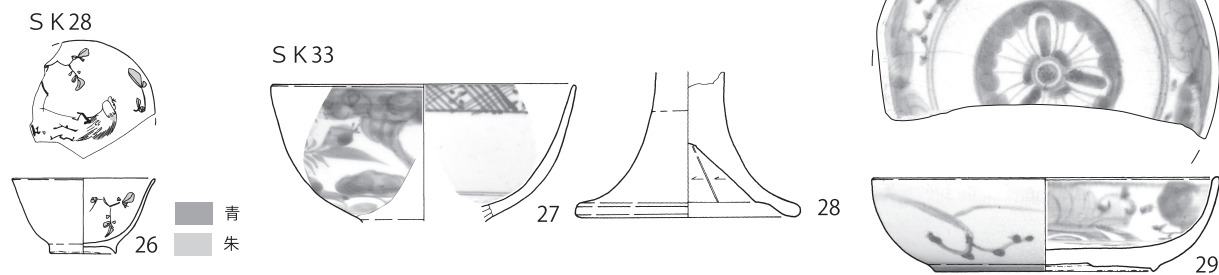
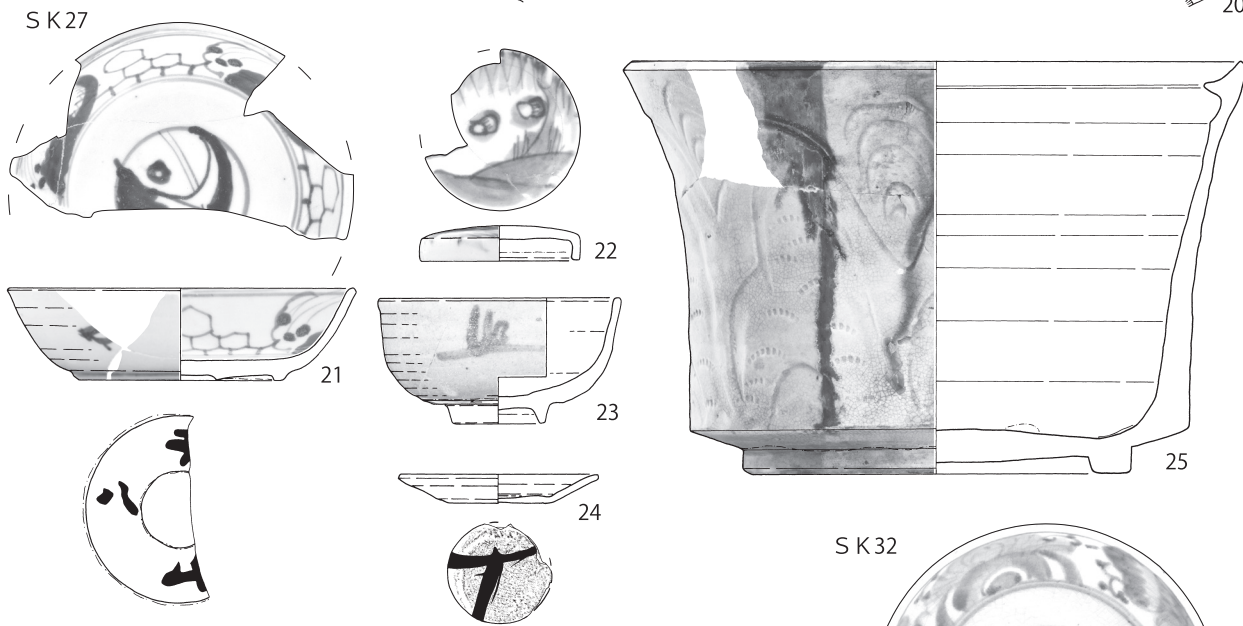
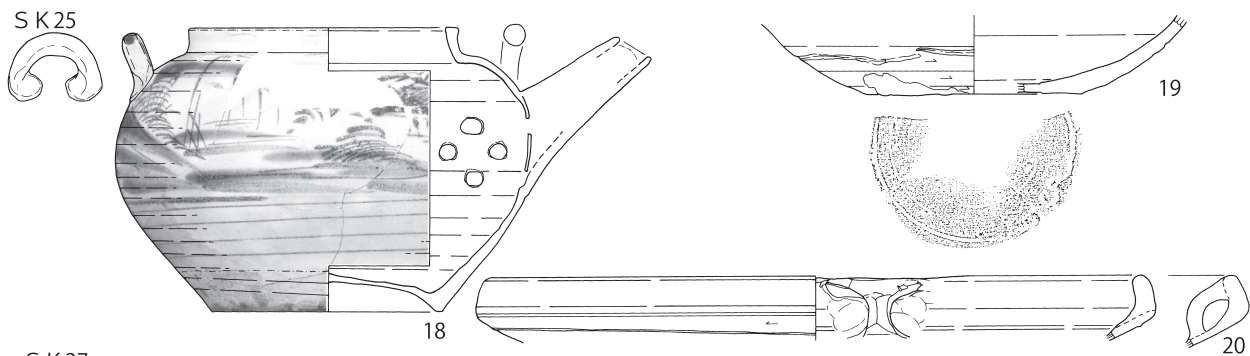
平面形は不整楕円形を呈する。覆土は砂質土主体である。

陶磁器類は第36図14～17、第37図18～20に図示した。磁器の出土は少なく、14に酸化コバルトで染付された瀬戸美濃系の端反坏を図示できたのみである。

陶器は15に瀬戸美濃系の香炉、16に京都信楽系の脚付灯火具、17と18に三彩土瓶の蓋と身、19に土師質土器の鉢、20に土師質土器の丸底焙烙を図



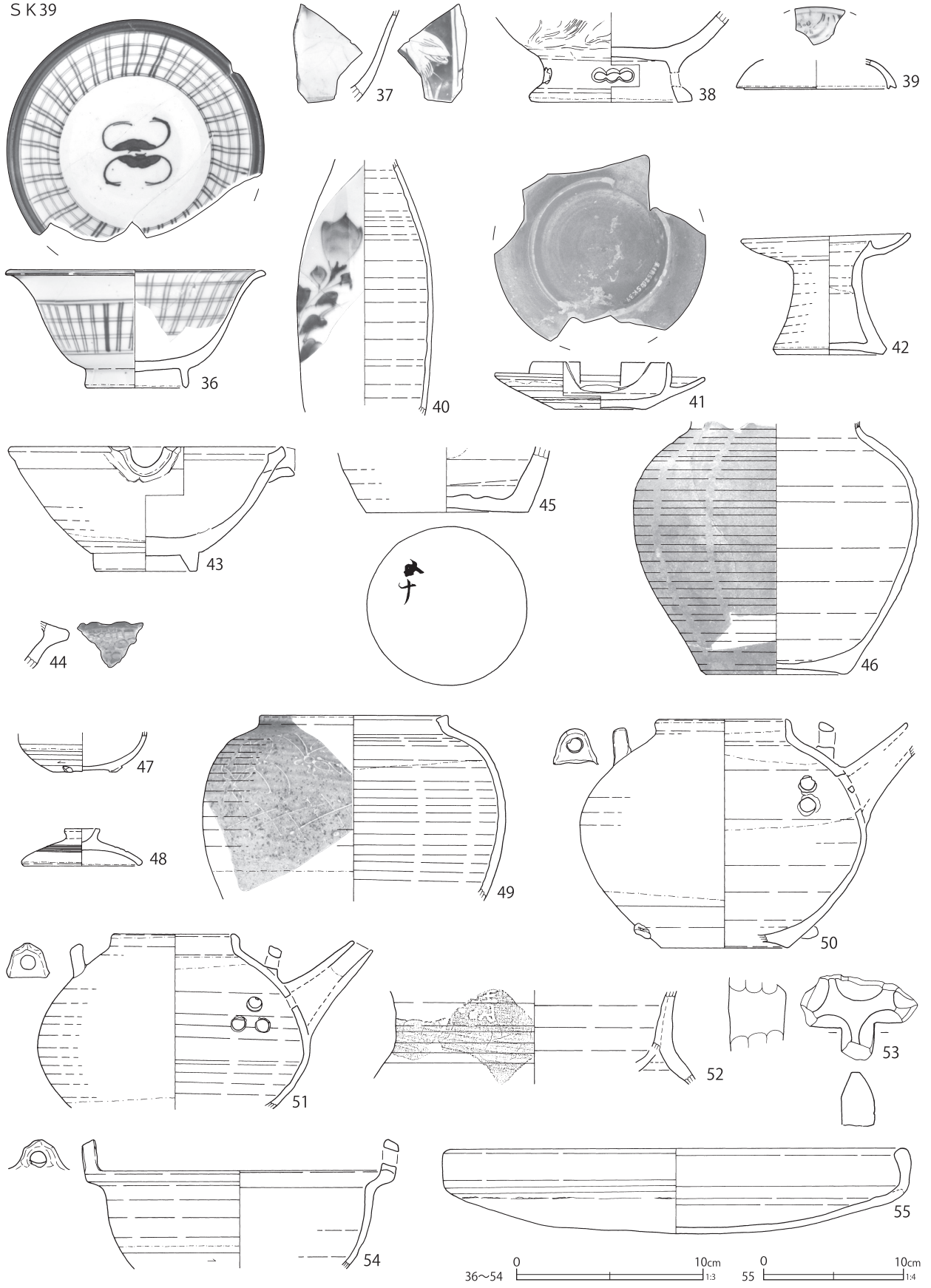
第36図 土壙出土遺物（1）



18・19・21~24・26~35 0 10cm 1:3 20・25 0 10cm 1:4

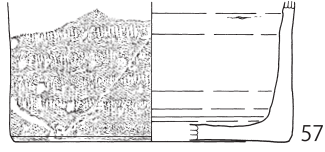
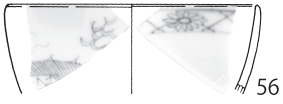
第37図 土壙出土遺物(2)

SK39



第38図 土壙出土遺物(3)

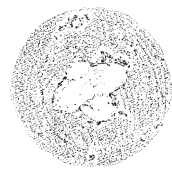
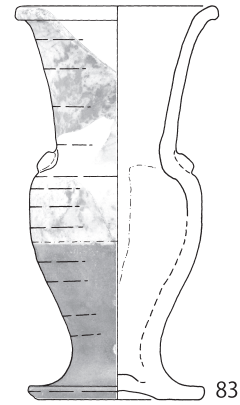
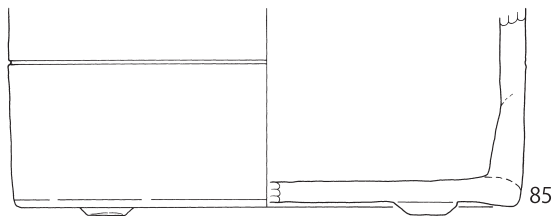
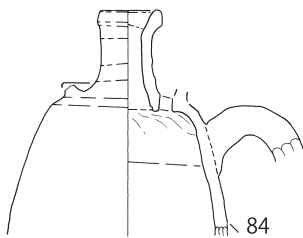
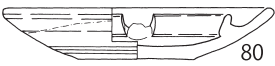
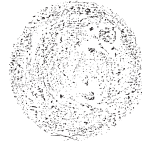
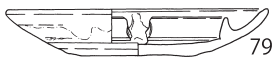
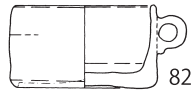
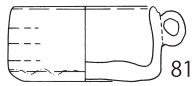
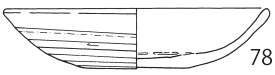
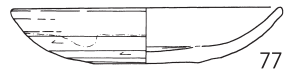
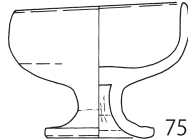
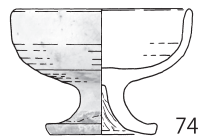
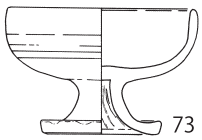
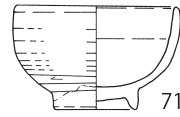
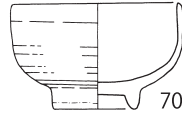
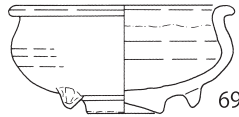
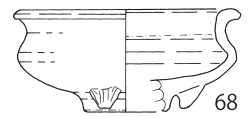
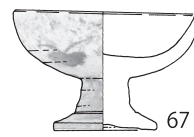
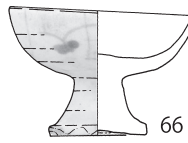
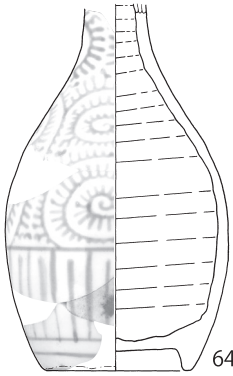
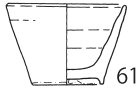
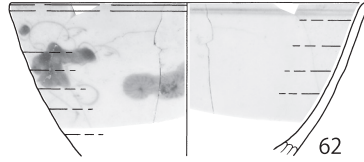
S K 43



S K 44

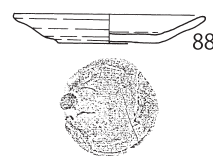
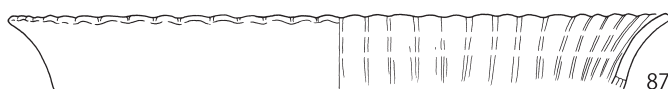
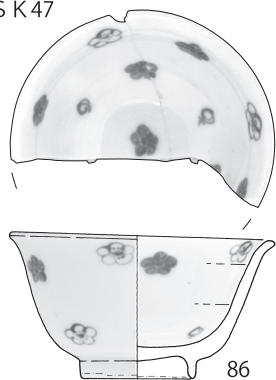


S K 46



第39図 土壙出土遺物 (4)

SK47



第40図 土壙出土遺物 (5)

第23表 土壙出土遺物観察表 (1) (第36 ~ 40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	6.7	5.5	3.2	—	100	良好	灰白	SK20	肥前系 施釉 染付	12-6
2	陶器	灯火具	8.2	4.6	5.1	E	90	良好	灰白	SK20	京都信楽系 施釉	
3	磁器	鉢	—	[1.7]	6.4	—	90	良好	灰白	SK20	肥前系 施釉 内面染付 焼継印 (赤) (八角鉢)	12-7
4	磁器	鉢	(14.9)	7.0	6.4	—	55	良好	白	SK20	肥前系 施釉 染付	12-8
5	陶器	坏	(4.0)	2.8	(1.6)	IK	40	良好	灰白	SK20	京都信楽系 施釉	12-10
6	陶器	德利	3.4	[5.5]	—	IK	70	良好	灰白	SK20	瀬戸美濃系 灰釉つけ掛け (二合半)	
7	陶器か	蓋	7.2	3.3	5.4	K	100	良好	灰白	SK20	外面施釉 染付 胎土磁質	12-9
8	陶器	急須	—	[3.7]	(6.2)	K	20	良好	灰	SK20	底部布目圧痕 施釉 外面白土染付	
9	陶器	土瓶	—	[2.1]	(7.6)	IK	25	良好	にぶい橙	SK20	松岡系 内面一部海鼠釉 外面煤付着	
10	磁器	碗	(10.5)	6.1	4.1	—	60	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 焼継印 (赤)	12-11
11	磁器	坏	—	[0.6]	(2.4)	—	25	良好	白	SK23	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付 高台内 焼継印 (赤)	12-12
12	陶器	衛生陶器	幅 [16.6] 厚さ [5.0] 高さ [24.4]			DK	15	普通	灰白	SK23	瀬戸美濃系 裏面刷毛塗状に鉄化粧 外面 ウノフ釉	13-1
13	陶器	皿	28.8	5.0	14.0	DEHK	35	良好	灰白	SK21	瀬戸美濃系 灰釉 内面ピン痕3 遺存 高台内墨痕あり	
14	磁器	坏	(7.4)	3.1	3.0	—	75	良好	白	SK25	瀬戸美濃系 施釉 酸化コバルト染付	
15	陶器	香炉か	—	[1.4]	3.9	K	5	良好	灰白	SK25	瀬戸美濃系 外面灰釉	
16	陶器	灯火具	8.7	5.8	5.2	K	100	良好	にぶい橙	SK25	京都信楽系 底部糸切痕 (右) 施釉	
17	陶器	蓋	10.6	3.9	8.7	—	95	良好	灰白	SK25	外面施釉・絵付 (三彩)	
18	陶器	土瓶	10.5	11.2	9.1	IK	95	良好	灰白	SK25	外面施釉・絵付 (三彩) 底部白化粧	13-2
19	土師質土器	鉢か	—	[3.1]	8.4	ACEHI	55	普通	灰白	SK25	底部~外面下位回転ケズリ 体部に二 次的な傷あり	
20	土師質土器	焙烙	(34.5)	[3.4]	(34.2)	ACDE	20	普通	にぶい橙	SK25	砂目底 胎土粉質 外面煤付着	
21	磁器	皿	13.5	3.6	7.9	—	55	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 染付 墨書	13-5
22	磁器	蓋	6.2	1.3	6.2	—	85	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 (合子蓋)	
23	陶器	碗	9.8	4.9	3.4	DE	55	良好	灰白	SK27	瀬戸美濃系 灰釉 外面呉須絵 被熱	13-3
24	かわらけ	小皿	(7.7)	1.2	4.0	AEH	45	普通	橙	SK27	底部糸切痕・墨書 胎土粉質	13-6
25	陶器	水鉢	16.0	21.8	19.6	IK	60	良好	灰白	SK27	瀬戸美濃系 灰釉 外面緑釉・鉄釉流掛 ・施文 内面目跡5	13-4
26	磁器	坏	(5.6)	3.0	2.6	—	65	良好	白	SK28	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付 (青・赤 ・茶)	13-7
27	磁器	碗	(12.0)	[5.4]	—	—	10	良好	灰白	SK33	肥前系 施釉 染付	
28	土師質土器	灯火具	—	[5.7]	8.4	ACHIK	95	普通	にぶい黄橙	SK33	外面煤付着	
29	磁器	皿	(13.4)	3.7	8.5	—	65	良好	白	SK32	肥前系 施釉 染付 墨書	13-8
30	磁器	蓋	—	2.0	(9.0)	—	60	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 施釉 染付 つまみ欠失部 を二次利用 (転用砥具)	14-1
31	磁器	碗	(7.7)	6.2	(3.8)	—	35	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
32	磁器	碗	(6.9)	5.8	(3.9)	—	35	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 施釉 外面染付		
33	磁器	鉢	(12.3)	6.6	(6.8)	—	40	良好	白	SK39	肥前系 施釉 染付	14-2	
34	磁器	蓋	—	[0.8]	—	—	5	良好	白	SK39	肥前系 施釉 染付 焼継痕・焼継印	14-3	
35	磁器	坏	6.1	3.7	3.3	—	55	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付	14-4	
36	磁器	鉢	13.3	6.3	5.2	—	85	良好	白	SK39	肥前系 施釉 染付 同文別個体1あり	14-5	
37	磁器	鉢	—	[4.8]	—	—	5	良好	白	SK39	肥前系 施釉 内面染付 外面色絵(赤) 焼継痕	14-6	
38	磁器	鉢	—	[4.8]	8.5	—	70	良好	白	SK39	三田系 青磁釉 脚部穿孔 体部陽刻状文	14-7	
39	磁器	蓋	—	[1.5]	(7.7)	—	5	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 施釉 外面色絵(合子蓋)	15-1	
40	磁器	爛德利	—	[13.6]	—	—	40	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 施釉 外面染付		
41	陶器	灯明皿	7.1	2.5	4.8	IK	75	良好	灰	SK39	志戸呂系 施釉 受部切込2	14-8	
42	陶器	灯火具	8.2	6.4	5.7	—	80	良好	灰白	SK39	京都信楽系 施釉		
43	陶器	片口鉢	14.4	6.6	5.2	IK	70	良好	灰白	SK39	瀬戸美濃系 灰釉 内面目跡3		
44	陶器	土瓶	—	[2.4]	—	CDE	5	良好	にぶい黄橙	SK39	外面鮫肌釉	15-2	
45	陶器	德利	—	[3.5]	8.6	k	65	良好	灰白	SK39	瀬戸美濃系 外面柿釉 底部墨書	14-9	
46	陶器	壺	—	[13.5]	7.5	DEK	75	良好	浅黄橙	SK39	外面鉄釉(灰赤色)	15-4	
47	陶器	蓋物か	—	[2.1]	3.2	IK	75	良好	浅黄橙	SK39	施釉 48 とセットか	15-5	
48	陶器	蓋	1.8	2.0	6.1	IK	95	良好	浅黄橙	SK39	施釉 下端露胎部のみ白化粧	15-3	
49	陶器	土瓶	(9.8)	[9.9]	—	DIK	20	良好	灰	SK39	飯能系 外面施釉・イッチン描き文	15-6	
50	陶器	土瓶	6.7	12.2	6.8	DI	85	良好	灰白	SK39	大堀相馬系か 外面施釉	15-7	
51	陶器	土瓶	6.3	[9.3]	—	—	95	良好	灰白	SK39	外面銅緑釉	15-8	
52	陶器	涼炉	—	[5.0]	—	AHIK	10	普通	灰白	SK39	京都系 外面刻印 胎土2色使い分け	15-10	
53	土師質土器	目皿	縦[4.5] 横[6.2] 高さ2.9			—	CHIK	5	普通	にぶい橙	SK39	下面激しく被熱 上面やや還元 孔は上面円形・下面方形	
54	陶器	鍋	(16.4)	[6.8]	—	—	EK	25	良好	浅黄橙	SK39	松岡系 海鼠釉	15-9
55	土師質土器	焙烙	32.1	6.0	32.9	—	CFHIK	85	普通	にぶい橙	SK39	砂目底 外面煤付着	15-11
56	磁器	碗	(9.8)	[3.5]	—	—	—	10	良好	白	SK43	瀬戸美濃系 施釉 染付	15-12
57	瓦質土器	火入れ	—	[5.5]	(10.7)	—	AIK	30	普通	にぶい黄橙	SK43	江戸在地系 外面トビガンナ状施文 胎土粉質 燻す	15-13
58	磁器	碗	(9.6)	[4.6]	—	—	—	20	良好	灰白	SK44	肥前系 施釉 外面染付	
59	磁器	碗	9.5	5.3	4.0	—	—	65	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 施釉 染付	15-14
60	磁器	碗	11.0	[1.9]	—	—	—	5	良好	白	SK46	肥前系 施釉 染付 被熱	
61	磁器	猪口	4.5	[3.2]	2.8	—	—	100	良好	灰白	SK46	肥前系 施釉 被熱	16-2
62	磁器	碗	(13.8)	[6.1]	—	—	—	25	良好	灰白	SK46	肥前系 施釉 染付 被熱	
63	磁器	坏	7.4	4.1	3.2	—	—	95	良好	灰白	SK46	肥前系 施釉 外面染付 被熱	16-2
64	磁器	德利	—	(14.5)	(5.6)	—	—	80	良好	灰白	SK46	肥前系 外面施釉 染付 被熱	16-1
65	磁器	仏飯器	6.3	6.3	4.3	—	—	95	良好	灰白	SK46	肥前系 施釉 外面染付 激しく被熱	16-4
66	磁器	仏飯器	7.2	5.0	4.8	—	—	95	良好	灰白	SK46	肥前系 施釉 外面染付 被熱	16-4
67	磁器	仏飯器	7.2	4.6	3.9	—	—	95	良好	灰白	SK46	肥前系 施釉 染付 激しく被熱	16-4
68	磁器	香炉	8.2	4.0	3.0	—	—	35	良好	白	SK46	肥前系 外面青磁釉 弱く被熱	
69	磁器	香炉	8.4	4.2	2.8	—	—	65	良好	灰白	SK46	肥前系 外面青磁釉 被熱	
70	陶器	坏	6.3	4.1	3.0	K	—	85	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	16-2
71	陶器	坏	6.2	4.1	3.1	E	—	95	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	16-2
72	陶器	仏飯器	—	[2.0]	4.3	IK	—	90	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 外面灰釉 被熱	16-4
73	陶器	仏飯器	7.1	5.0	4.5	HIK	—	100	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	16-4
74	陶器	仏飯器	6.8	4.9	4.1	—	—	95	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	16-4
75	陶器	仏飯器	6.6	5.2	4.0	K	—	100	良好	褐灰	SK46	瀬戸美濃系 灰釉 激しく被熱	16-4
76	陶器	灯明皿	10.3	2.2	4.5	IK	—	75	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 柿釉 底部ふきとり 内面 重焼痕	16-3
77	陶器	灯明皿	10.4	2.1	4.0	I	—	80	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 柿釉 底部ふきとり 内面 重焼痕	16-3
78	陶器	灯明皿	10.1	2.3	4.1	IK	—	100	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 柿釉 底部ふきとり 内面 重焼痕	16-3
79	陶器	灯明皿	10.2	1.8	4.5	K	—	80	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 柿釉 底部ふきとり 外面 重焼痕	16-3

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
80	陶器	灯明皿	10.3	2.0	4.4	IK	100	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 柿釉 底部ふきとり 外面 重焼痕	16-3
81	陶器	餌入れ	5.5	2.9	5.8	—	100	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 底部離糸切痕 灰釉 被熱	16-5
82	陶器	餌入れ	5.5	3.2	5.0	I	100	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 底部離糸切痕 灰釉 被熱	16-5
83	陶器	花生	(17.4)	15.5	6.4	IK	80	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 底部糸切後に指頭で施文 か 灰釉・鉄釉掛分 被熱	16-1
84	陶器	油德利	2.3	8.9	—	DE	70	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 外面鉄釉 激しく被熱	16-1
85	瓦質土器	火鉢	—	8.1	19.6	AIK	30	普通	にぶい黄褐	SK46	底部砂目底をナゲ消し・スノコ状圧痕 被熱	16-1
86	磁器	碗	10.3	5.5	4.4	—	60	良好	灰白	SK47	瀬戸美濃系 内外面施釉 染付	
87	磁器	皿	(26.0)	[2.9]	—	—	5	良好	白	SK47	肥前系 内外面施釉 漆継痕	17-1
88	かわらけ	小皿	7.4	1.1	3.8	AE	95	普通	にぶい橙	SK47	底部糸切痕(左) 胎土粉質	17-2

示した。

時期は、出土陶磁器から19世紀後葉とみられる。

第26号土壙（第34図）

B 5-G 9 グリッドに位置する。重複する第25号土壙との新旧関係は不明である。

平面形は楕円形で、断面形は皿形である。

遺物は、陶磁器の小破片と金属製品のみである。第47図 3～7 はいずれも巻頭釘である。3 は長さ3.6cmの一寸釘である。

第27号土壙（第35図）

B 5-G 9 ・ H 9 グリッドに位置する。

平面形は隅丸長方形である。覆土中に瓦が多量に含まれていた。瓦は総重量188kg、1,296点におよび、棧瓦、平瓦、軒丸瓦、丸瓦のほか鬼瓦も含まれる。覆土は焼土を主体としており、火災処理に関わる土壙とみられる。

陶磁器類は、第37図21～25に図示した。磁器は肥前系が主体で、21は底部に墨書のある蛇ノ目凹形高台皿、22は合子の蓋である。陶器は23に瀬戸美濃系の呉須絵が描かれた灰釉碗、24に底部に墨書のあるかわらけ、25に瀬戸美濃系の水鉢を示した。

このほかに、肥前系磁器のくらわんか碗、梅樹文碗、底部輪高台の猪口、瀬戸美濃系磁器の端反碗などが出土している。

土製品では、第41図 2 に京都系の人形を示した。開口する前後合わせ成形の片側で、西行人形の可能性が考えられる。

瓦は第42図 3～19、第43図20～24に示した。3は鬼瓦の可能性も考えられる。4と5は軒丸瓦、6～11は軒棧瓦で、6～8は江戸式の文様である。12～18には丸瓦を示した。19に平瓦、20～24に棧瓦を示した。20は釘孔が2箇所開けられている。

金属製品は、第47図 8～10に示した。8は巻頭釘、9と10は銭貨である。9は寛永通宝だが、10は6枚が鑄着しており銭種は不明である。

時期は、出土陶磁器から19世紀中葉頃とみられる。

第28号土壙（第34図）

B 5-H 9 ・ H10 グリッドに位置する。重複する第47号土壙より新しい。

平面形は楕円形である。覆土に炭化物を多量に含むことから、火災処理に関わる土壙とみられる。

出土遺物は、第37図26に内面に上絵付された卵殻手瀬戸美濃系磁器坏を示した。

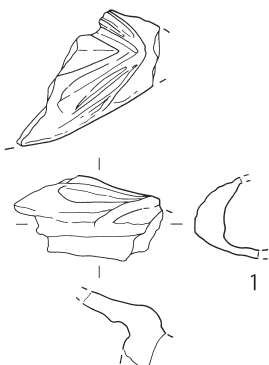
このほかに肥前系磁器の小広東碗、瀬戸美濃系磁器の端反碗、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿と油受皿などが出土している。

土製品は第41図 3 にミニチュアの陶器鍋を示した。ロクロ成型で柿釉が施釉されている。

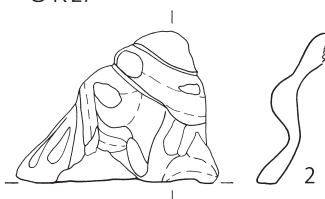
金属製品は、第47図11～16に示した。11は火打金、12は火格子である。16は断面長方形のさっぱ釘とみられるが、先端が巻きこまれている。

時期は、出土陶磁器から19世紀中葉頃とみられる。

SK20



SK27



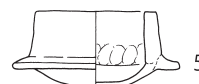
SK28



SK39



SK46



第41図 土壌出土遺物（6）

第24表 土壌出土遺物観察表（2）（第41図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	鳩笛	[4.0]	[3.7]	0.4	14.0	HK	良好	明赤褐	SK20	上下合型成形 中空 外面雲母付着 江戸在地系	17-12
2	土製品	人形	[4.0]	[5.3]	2.5	4.4	AK	良好	灰白	SK27	合型成形 開口 京都系	17-13
3	陶器	ミニチュア	底径 2.0 器高 [2.0]			4.4	—	良好	黄灰	SK28	鍋 ロクロ成形 柿釉	17-14
4	土製品	ミニチュア	口径 (6.8) 器高 [1.8]			2.9	IK	良好	明赤褐	SK39	鍋 ロクロ成形 透明釉 江戸在地系	17-16
5	土製品	釜形土製品	口径 3.2 器高 2.0			14.9	A	良好	灰黄褐	SK46	手捻り 分割成形 底面中心に被熱	17-15

第29号土壌（第34図）

B 5-H10グリッドに位置する。重複する第46号土壌との新旧は不明である。

平面形は楕円形、断面形は皿形である。

陶磁器類の出土は少なく、図示しうるものはなかったが、肥前系磁器の小丸碗、瀬戸美濃系陶器の刷毛目碗などが出土している。

金属製品は、第47図17に鉄釘を示した。頭部は潰して作り出しているが、巻き込んでいない。

時期は不明だが、瀬戸美濃系磁器の出土は見られない。

第30号土壌（第34図）

B 5-H10グリッドに位置する。ピット 8 と重複するが新旧関係は不明である。

平面は楕円形である。覆土は中層に木材と樹枝を多量に含んでおり、建物の片付け等に関わる土壌と考えられる。

陶磁器は少なく図示しうるものはなかった。瀬戸美濃系陶器の柿釉半胴甕などが出土している。

金属製品は第47図18に不明鉄器を示した。

時期は不明だが、周囲の土壌と年代に大きな差はないと考えられる。

第31・32号土壌（第34図）

B 5-H10グリッドに位置し、重複する。新旧関係は、第31号土壌が新しい。北東側は調査区域外にかかる。

平面形は双方とも楕円形である。覆土は灰黄褐色土、灰褐色土、暗褐色土を主体とする。

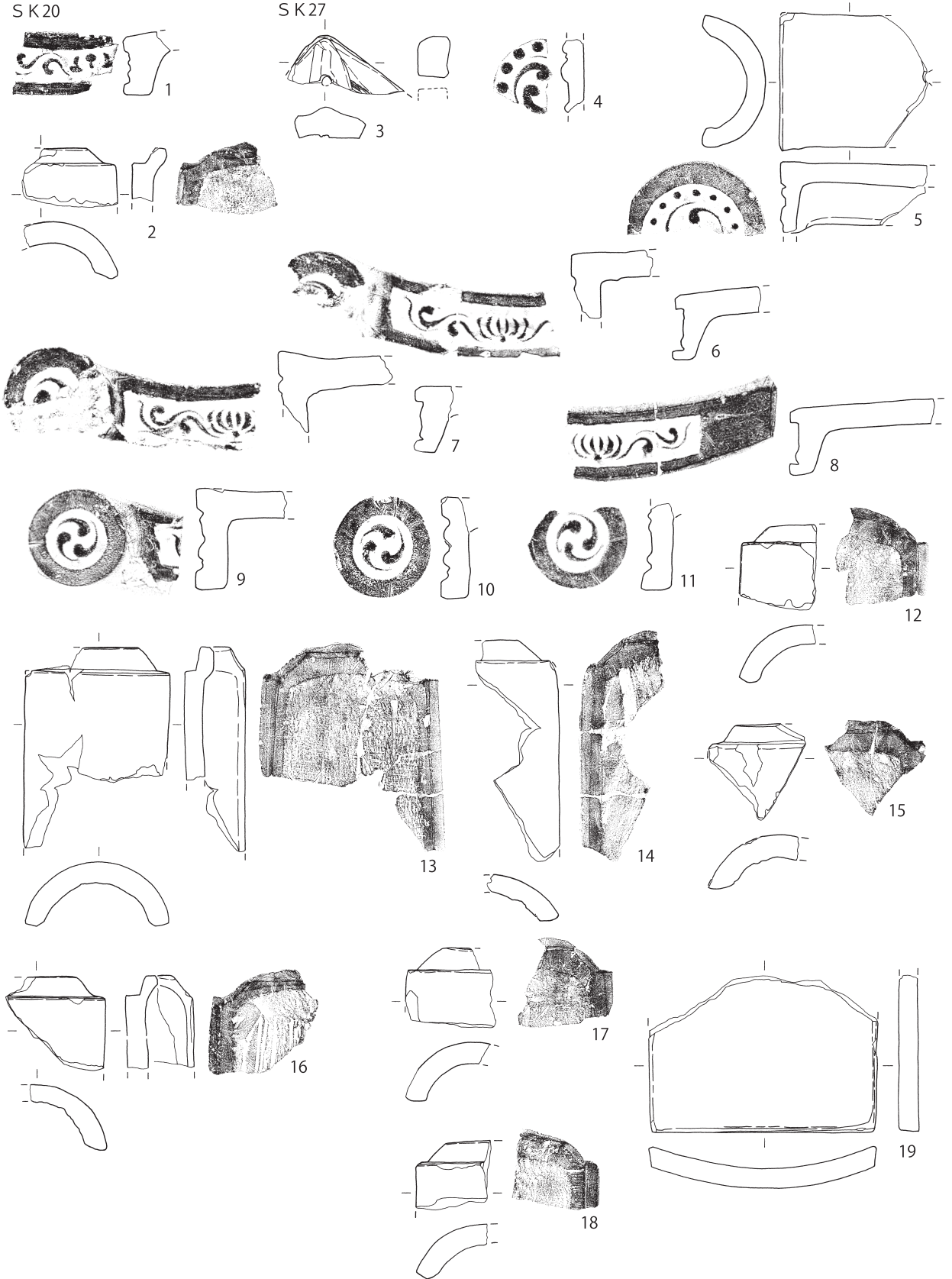
第31号土壌からは瀬戸美濃系磁器湯呑形碗、京都信楽系丸碗等の陶磁器が少量出土している。

第32号土壌は陶磁器の出土は少なく、第37図29に底部に墨書のある肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台皿を示した。

このほかに肥前系磁器の粗製皿、瀬戸美濃系磁

SK20

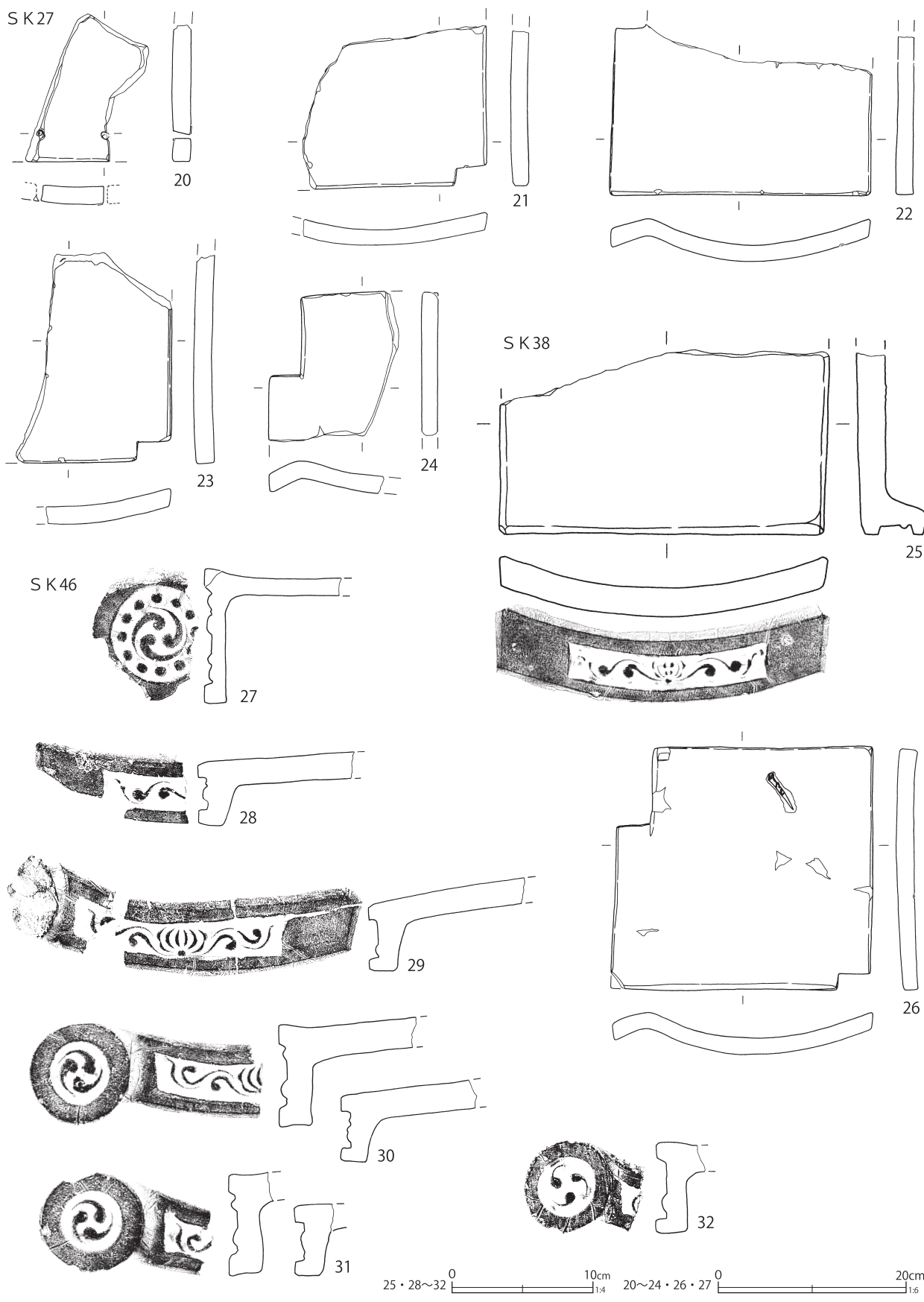
SK27



1・6~11 0 10cm 1/4

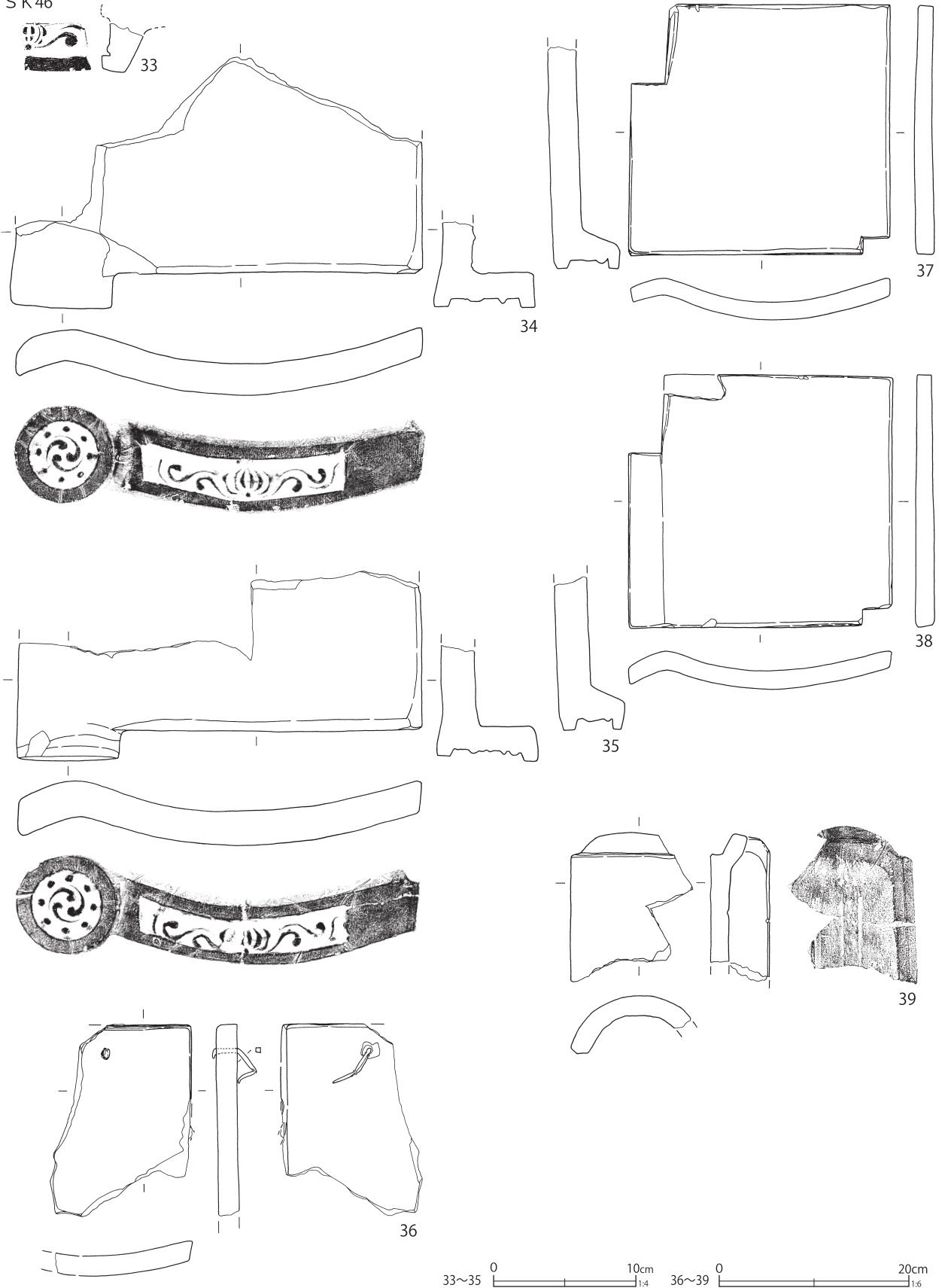
2~5・12~19 0 20cm 1/6

第42図 土壙出土遺物(7)



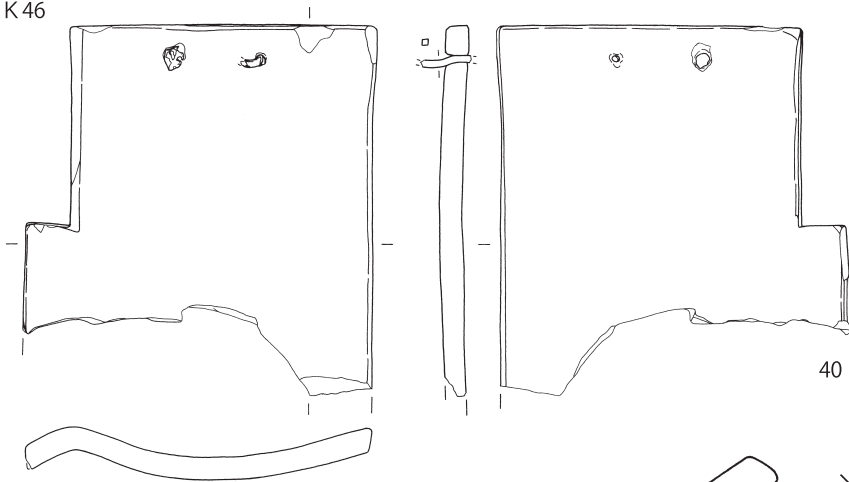
第43图 土壤出土遺物 (8)

S K 46

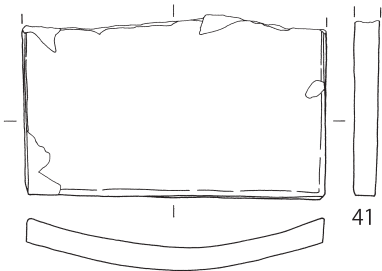


第44図 土壙出土遺物(9)

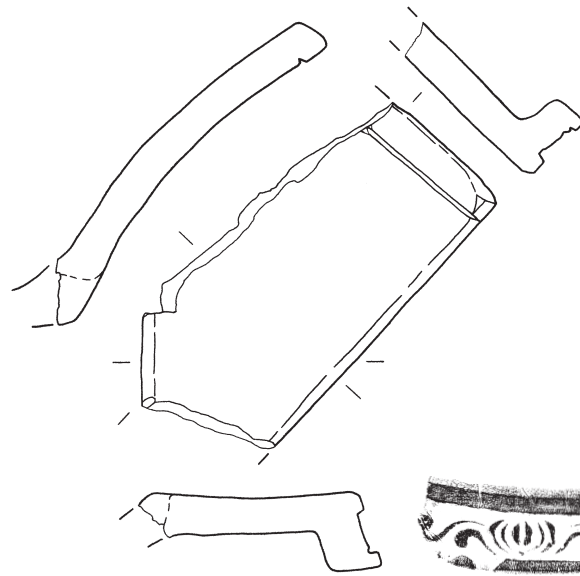
SK46



40

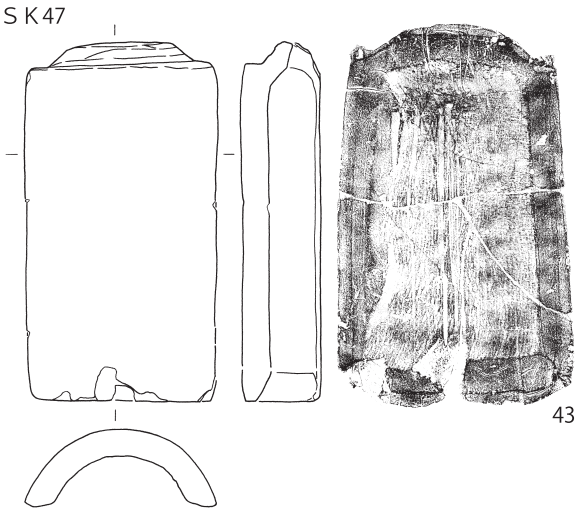


41

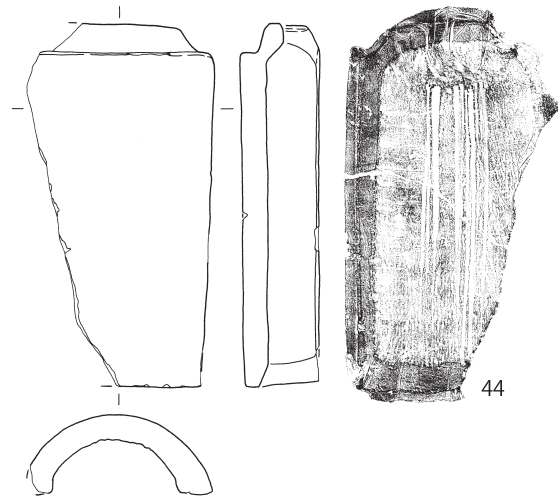


42

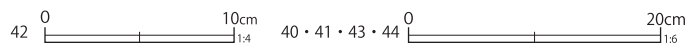
SK47



43



44



第45図 土壙出土遺物 (10)

第25表 土壌出土遺物観察表（3）（第42～45 図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[3.1]	[9.7]	2.3	[4.3]	—	IKG	普通	灰	SK20	中心飾・大阪式・子葉・江戸式の折表か	
2	瓦	丸瓦	[6.2]	[9.7]	2.3	5.8	—	AIK	良好	灰	SK20		
3	瓦	不明	[6.1]	[12.2]	3.2	3.2	—	AIK	良好	灰	SK27		
4	瓦	軒丸瓦	—	[5.9]	2.2	[7.9]	(14.0)	AHIK	良好	褐～明褐	SK27	右巻き 銀化 表面光沢あり	
5	瓦	軒丸瓦	[15.5]	14.4	2.0	6.6	(14.0)	AIK	良好	灰	SK27	左巻き 一部銀化	18-6
6	瓦	軒棧瓦	[7.8]	[20.5]	1.9	5.1	(7.5)	AHIK	良好	灰褐	SK27	右巻き 一部銀化	18-7
7	瓦	軒棧瓦	[8.9]	[17.8]	2.0	[5.6]	(7.6)	AIK	良好	灰白	SK27	右巻き 一部銀化	18-8
8	瓦	軒棧瓦	[10.0]	[14.5]	1.8	[5.2]	—	AIK	良好	灰白	SK27	一部銀化	18-9
9	瓦	軒棧瓦	[7.2]	[11.2]	2.0	[6.9]	[7.0]	AHIK	良好	灰	SK27	右巻き	18-10
10	瓦	軒棧瓦	—	[7.2]	1.9	[7.0]	7.2	AIK	良好	灰	SK27	右巻き	
11	瓦	軒棧瓦	—	7.6	2.0	[5.9]	[7.6]	HIK	良好	灰	SK27	右巻き 銀化	18-11
12	瓦	丸瓦	[9.0]	[8.1]	2.2	[5.8]	—	AIK	良好	灰	SK27		
13	瓦	丸瓦	[19.0]	15.4	2.1	6.0	—	AIK	普通	灰褐	SK27		
14	瓦	丸瓦	24.1	[8.7]	2.1	[4.8]	—	AIK	良好	灰	SK27		
15	瓦	丸瓦	10.1	[10.1]	2.4	[5.7]	—	AIK	普通	灰	SK27		
16	瓦	丸瓦	[9.9]	[10.4]	2.3	[6.9]	—	AHIK	普通	黄橙	SK27	胎土中に1cmの黄橙粒	
17	瓦	丸瓦	[8.3]	[9.5]	2.2	[6.2]	—	AIK	良好	灰	SK27		
18	瓦	丸瓦	[7.2]	[7.8]	2.2	[5.7]	—	AIK	普通	黄橙	SK27	1cm大の黄橙粒子がやや目立つ	
19	瓦	平瓦	[16.3]	24.5	2.1	4.5	—	AHIK	良好	灰	SK27		
20	瓦	棧瓦	[15.8]	[13.2]	1.9	2.0	—	AHIK	良好	灰	SK27	銀化 被熱	
21	瓦	棧瓦	[17.4]	[19.8]	1.9	[3.4]	—	AHIK	普通	にぶい橙	SK27		
22	瓦	棧瓦	18.4	28.1	1.8	4.5	—	AIK	良好	灰黒	SK27	銀化	
23	瓦	棧瓦	[22.6]	[16.7]	2.0	[3.8]	—	AIK	良好	灰白	SK27		
24	瓦	棧瓦	[16.1]	[14.0]	1.8	3.4	—	AIK	普通	橙	SK27	銀化	
25	瓦	軒平瓦	13.2	23.7	2.2	4.3	—	AIK	良好	灰～灰白	SK38	一部銀化	18-11
26	瓦	棧瓦	25.2	28.2	1.9	4.4	—	AIK	良好	黒	SK38	一部銀化 表上部鉄釘付着	
27	瓦	軒丸	[14.9]	[12.5]	2.3	14.4	14.0	AIK	普通	灰～橙	SK46	右巻き 銀化 被熱 煤付着	18-13
28	瓦	軒棧瓦	[11.2]	[11.4]	2.0	[5.2]	—	AIK	普通	橙	SK46	一部銀化	18-12
29	瓦	軒棧瓦	[18.0]	[26.7]	1.9	[6.4]	—	AIK	普通	橙	SK46	一部銀化 被熱 煤付着	18-14
30	瓦	軒棧瓦	[12.9]	[17.9]	2.0	[7.7]	7.0	AHIK	普通	橙	SK46	右巻き 被熱 乾燥時のヒビが軒部分にやや目立つ	18-15
31	瓦	軒棧瓦	[5.2]	[14.2]	2.3	[7.3]	7.0	AIK	普通	橙	SK46	右巻き 被熱 煤付着	
32	瓦	軒棧瓦	[5.1]	[10.0]	2.1	[6.5]	6.0	AIK	普通	灰～橙	SK46	左巻き 被熱 煤付着	
33	瓦	軒棧瓦	[2.9]	[4.8]	2.3	[3.4]	—	AI	良好	灰	SK46	一部銀化 被熱	
34	瓦	軒棧瓦	[17.7]	28.9	2.3	[7.1]	7.0	AHK	良好	灰	SK46	一部銀化 被熱	18-16
35	瓦	軒棧瓦	[13.2]	28.5	2.4	[7.2]	6.9	AIK	良好	赤灰	SK46	右巻き	18-17
36	瓦	棧瓦	[20.4]	[15.2]	2.2	3.7	—	AIK	良好	黒	SK46	釘あり 一部銀化 被熱 煤付着	
37	瓦	棧瓦	26.6	27.9	1.9	4.4	—	AIK	良好	灰	SK46	一部銀化 被熱（一部発泡）煤付着	
38	瓦	棧瓦	26.9	28.3	1.8	4.0	—	AIK	良好	灰	SK46	一部銀化 被熱 煤付着	
39	瓦	丸瓦	[15.8]	[12.9]	2.1	6.2	—	AIK	普通	橙	SK46	被熱 全体に煤付着	
40	瓦	棧瓦	30.7	28.2	1.9	4.2	—	AIK	普通	橙	SK46	釘2遺存 煤付着	
41	瓦	平瓦	14.8	23.9	2.0	4.2	—	AIK	普通	橙	SK46	被熱 煤付着	
42	瓦	隅瓦	[18.4]	[19.0]	2.4	[7.6]	[10.5]	AIK	良好	橙	SK46	被熱 一部銀化 全面に煤付着	18-18
43	瓦	丸瓦	28.7	15.5	2.2	6.2	—	AIK	良好	灰	SK47		
44	瓦	丸瓦	29.2	[15.0]	2.4	[6.4]	—	A	良好	灰	SK47		

器の湯呑形碗、陶器の青緑釉土瓶などが出土した。 紀中葉以降と考えられる。

時期は、出土陶磁器から第31・32号共に19世

第33号土壙 (第34図)

B 5-H10グリッドに位置する。第34号土壙、第45号土壙と重複し、そのいずれよりも古い。

平面形は不整楕円形である。覆土中に焼土ブロックを多く含むことから火災処理に関わる土壙と見られる。

陶磁器類の出土は少なく、第37図27に肥前系磁器の丸碗、28に土師質土器の脚付灯火具を図示した。

時期は重複関係と出土陶磁器から、18世紀後半以後と推定される。

第37号土壙 (第35図)

B 5-H 9 グリッドに位置する。

平面形は不整長方形である。覆土は焼土ブロック主体で、火災処理に関わる土壙とみられる。

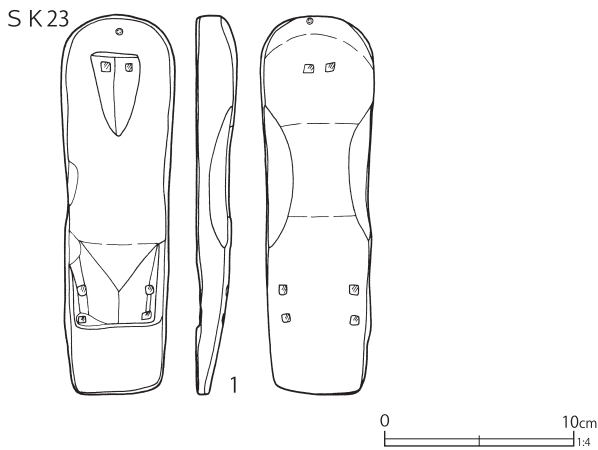
陶磁器の出土はなく、瓦が少量出土している。

金属製品は、第47図19～27に鉄釘を示した。巻頭釘が多い。時期は不明である。

第38号土壙 (第35図)

B 5-H10グリッドに位置する。北端は調査区域外に延びる。

平面形は楕円形である。覆土は焼土主体で、火



第46図 土壙出土遺物 (11)

第26表 土壙出土遺物観察表 (4) (第46図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	下駄	20.0	5.5	—	—	2.2	—	板目	SK23	無眼下駄	19-1

災処理に関わる土壙とみられる。

陶磁器類はごく少なく、図示しうるものはなかった。肥前系磁器雪輪草花文碗が出土している。

瓦は第43図25に軒平瓦と26に棧瓦を示した。26は上面に釘が付着している。長さ5.0cmで頭部から先端まで確認できるが、瓦釘ではなく別の部品が錆着したものである。

金属製品は、第47図28～33に鉄釘を示した。巻頭釘が多い。29は階折釘である。

遺構の時期は不明である。

第39a号土壙 (第34図)

B 5-G 9 グリッドに位置する。調査時には1基の土壙として調査したが、整理で第39a号、第39b号の2基とした。

第19・20・39a・39b・43号土壙が密集しており、第39b号、第43号土壙と重複するが、新旧関係は不明である。

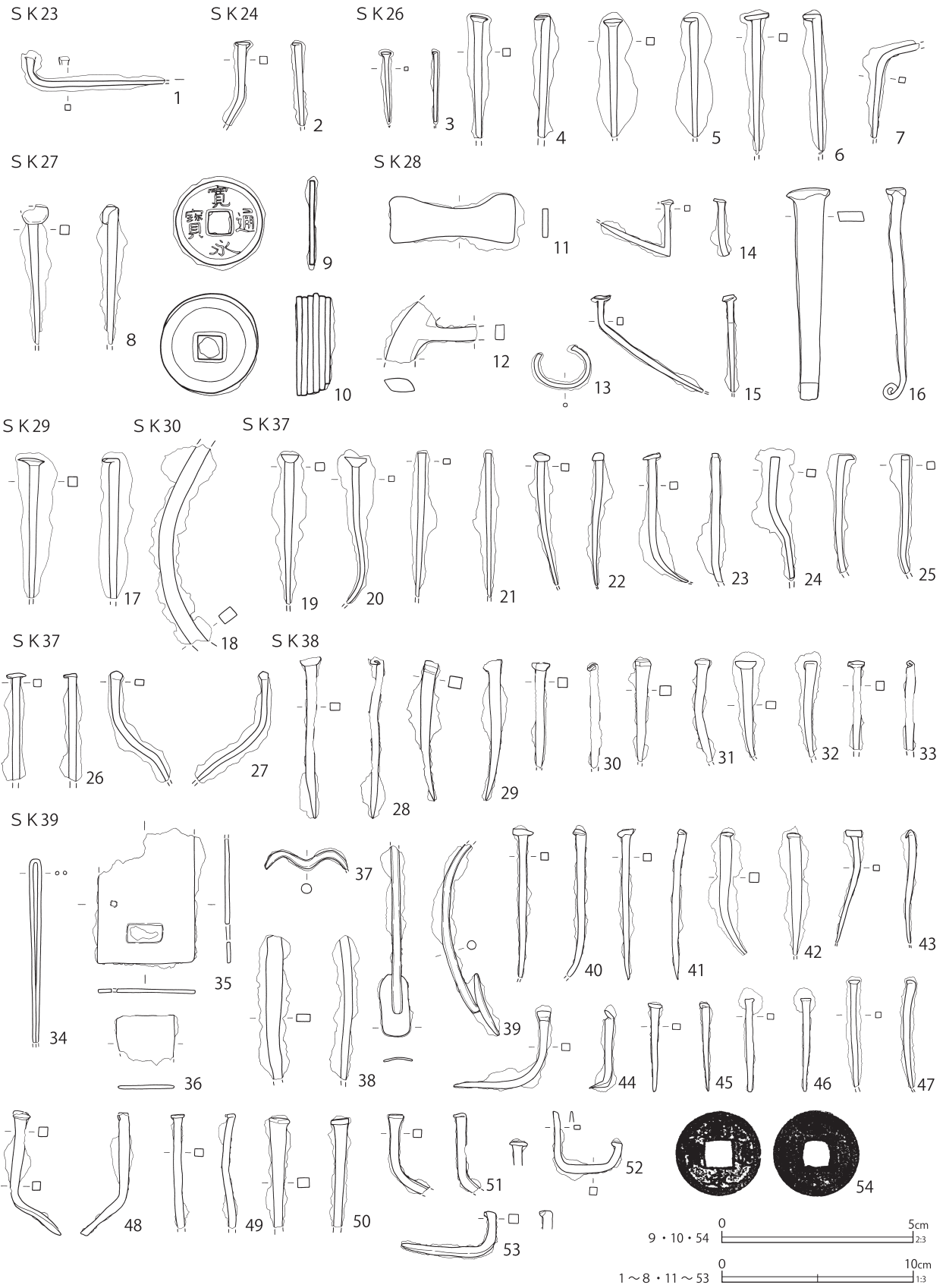
平面形は隅丸長方形を呈する。覆土に炭化物と焼土を多く含むことから、火災処理に関わる土壙とみられる。

遺物は、調査時には第39号土壙として一括して取りあげており、まとめて図示した。

出土遺物は多い。陶磁器類は、第37図30～35、第38図36～55に示した。

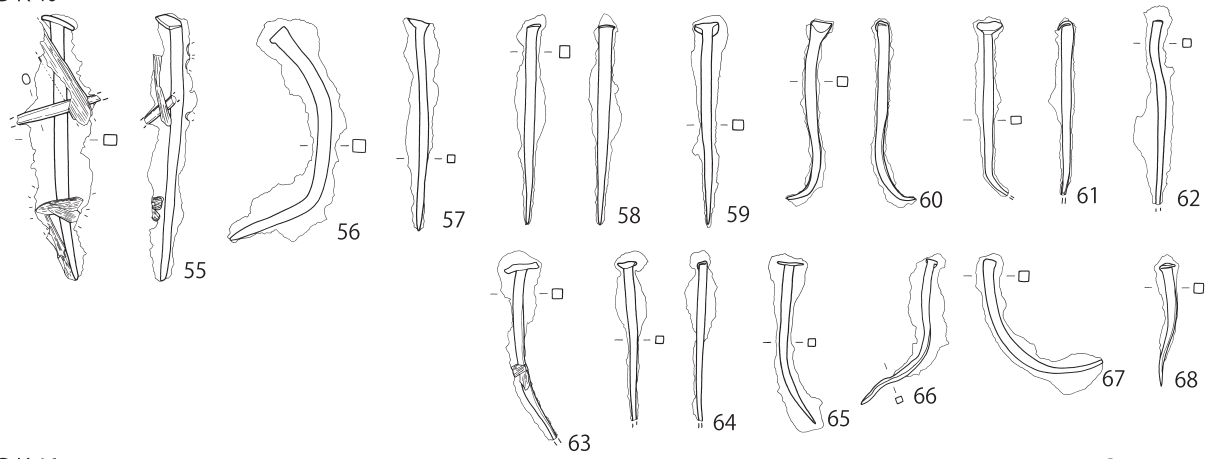
肥前系磁器は、34に焼継印のある朝顔形碗蓋、33、36、37の鉢を示した。36の鉢は同文の別個体がある。瀬戸美濃系は、30に端反碗蓋、31と32に湯呑形碗、40に爛徳利、35に内面上絵付の卵殻手坏、39に合子蓋を示した。30の蓋は、つまみを除去して転用研具としている。38は鉢で、型押成形されており、三田系青磁とみられる。

京都信楽系陶器は42に脚付灯火具、52に涼炉を示した。瀬戸美濃系は43に片口鉢、45に底部

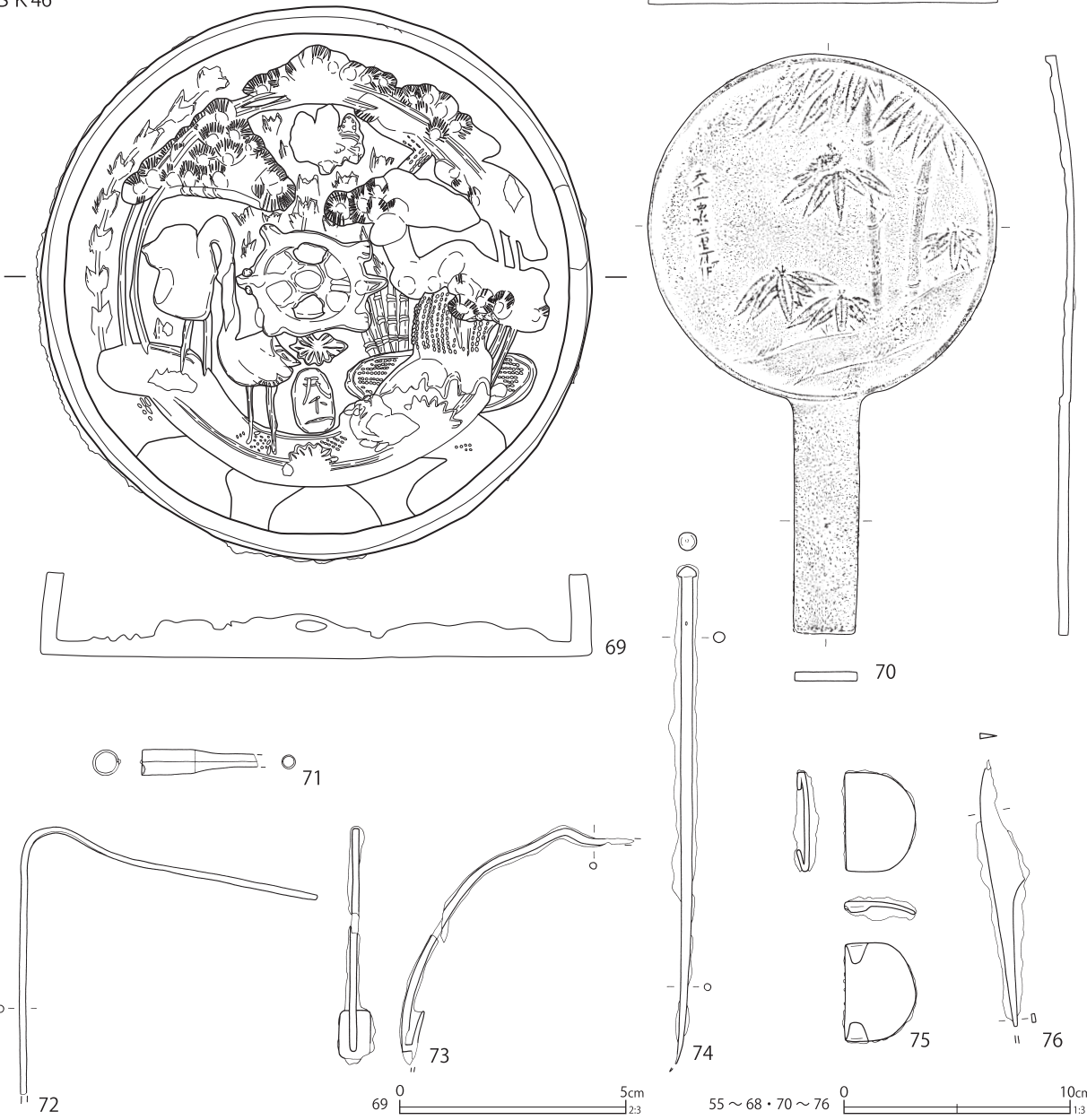


第47図 土壌出土遺物 (12)

S K 40

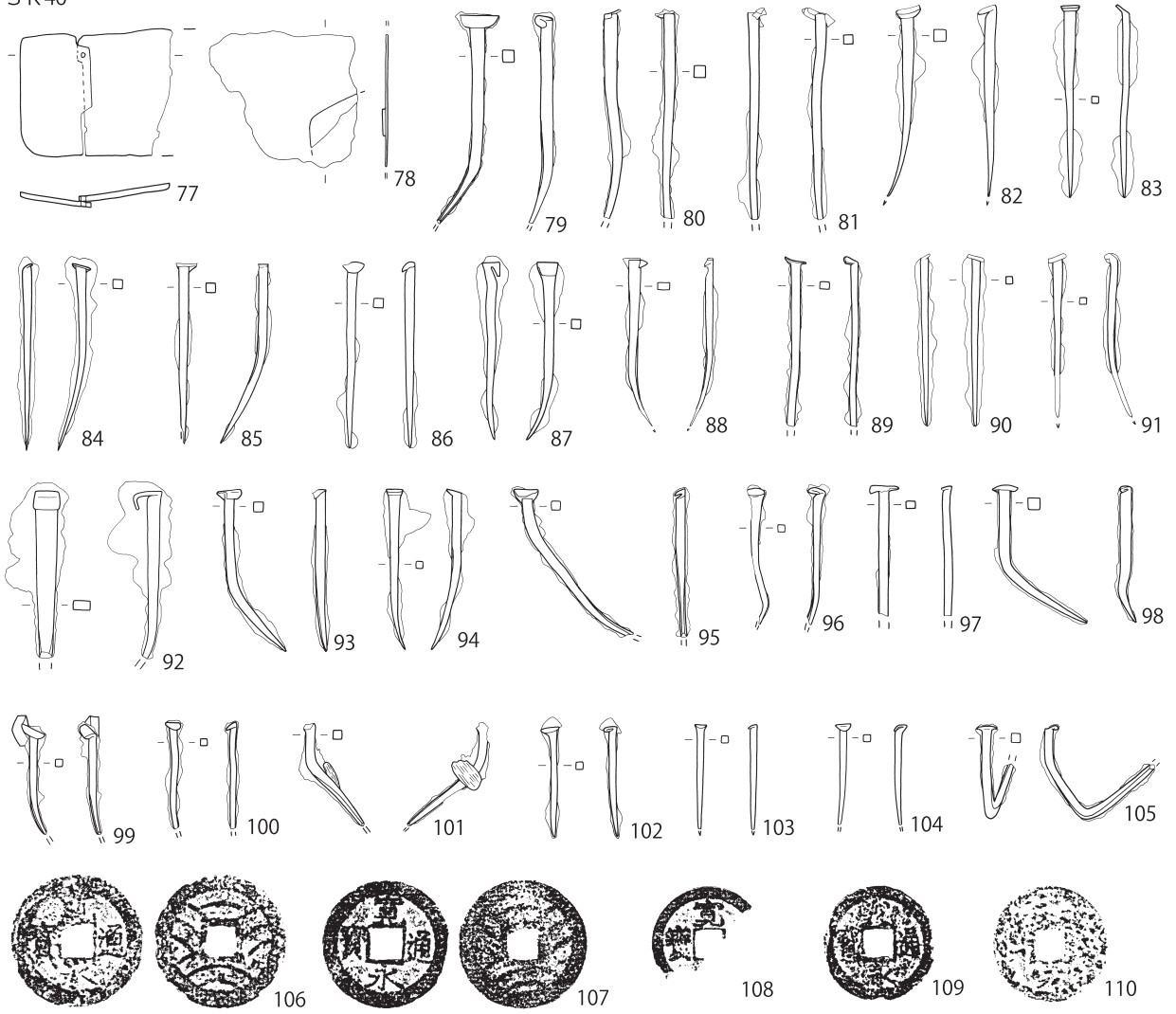


S K 46

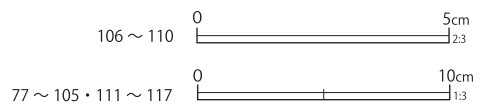
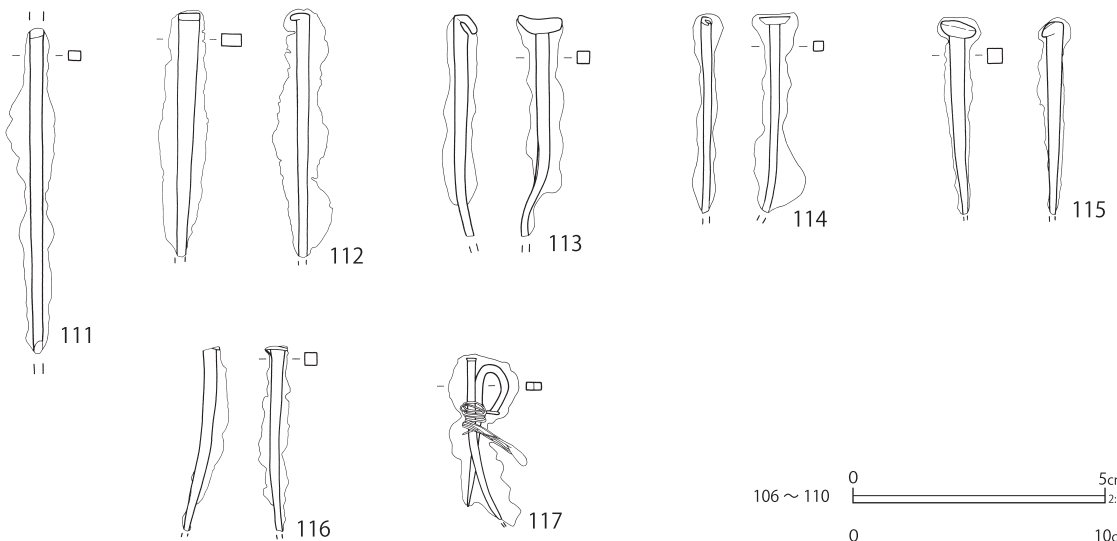


第48図 土壙出土遺物 (13)

SK46



SK47



第49図 土壙出土遺物 (14)

第27表 土壙出土遺物観察表（5）（第47～49図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ [7.2] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 6.9	SK23		
2	鉄製品	釘	長さ [4.3] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.1	SK24		
3	鉄製品	釘	長さ [3.6] 幅 0.2 厚さ 0.2 重さ 1.3	SK26		
4	鉄製品	釘	長さ [6.4] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 9.3	SK26		
5	鉄製品	釘	長さ [6.2] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 18.5	SK26		
6	鉄製品	釘	長さ [7.2] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 10.6	SK26		
7	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 0.2 厚さ 0.2 重さ 1.3	SK26		
8	鉄製品	釘	長さ [7.2] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 10.8	SK27		
9	銅製品	錢貨	径 22.5 厚さ 1.4 重さ 2.2	SK27	寛永通寶（新）	
10	銅製品	錢貨	縦 26.2 横 25.6 厚さ 8.9 重さ 19.4	SK27	錢名不明（寛永通寶か）6枚	
11	鉄製品	火打金	長さ 2.5 幅 6.5 厚さ 0.3 重さ 26.4	SK28		
12	鉄製品	火格子か	縦 [3.2] 横 [4.9] 厚さ 0.7 重さ 20.9	SK28		
13	鉄製品	不明	縦 [2.2] 横 [3.0] 厚さ 0.2 重さ 2.3	SK28		
14	鉄製品	釘	長さ [3.8] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 4.1	SK28		
15	鉄製品	釘	長さ [5.1] 幅 0.3 厚さ 0.4 重さ 5.9	SK28		
16	鉄製品	釘	長さ 11.1 幅 1.4 厚さ 0.5 重さ 27.7	SK28		19-8
17	鉄製品	釘	長さ [7.3] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 26.9	SK29		
18	鉄製品	不明	縦 [10.2] 横 [2.7] 幅 0.8 厚さ 0.6 重さ 18.2	SK30		
19	鉄製品	釘	長さ [7.8] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 14.3	SK37		
20	鉄製品	釘	長さ [7.6] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 13.5	SK37		
21	鉄製品	釘	長さ [7.5] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 9.9	SK37		
22	鉄製品	釘	長さ [6.9] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.9	SK37		
23	鉄製品	釘	長さ [6.7] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 11.0	SK37		
24	鉄製品	釘	長さ [6.3] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 13.7	SK37		
25	鉄製品	釘	長さ [6.1] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.1	SK37		
26	鉄製品	釘	長さ [5.6] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.5	SK37		
27	鉄製品	釘	長さ [5.6] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.5	SK37		
28	鉄製品	釘	長さ 8.5 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 7.4	SK38		
29	鉄製品	釘	長さ 7.3 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 8.4	SK38		
30	鉄製品	釘	長さ [5.5] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 4.8	SK38		
31	鉄製品	釘	長さ [5.3] 幅 0.6 厚さ 0.5 重さ 4.8	SK38		
32	鉄製品	釘	長さ [5.1] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 5.3	SK38		
33	鉄製品	釘	長さ [4.6] 幅 0.4 厚さ 0.5 重さ 3.0	SK38		
34	銅製品	簪	長さ [9.6] 幅 0.6 厚さ 0.2 重さ 3.5	SK39		
35	鉄製品	不明	縦 [7.0] 横 5.1 厚さ 0.2 重さ 34.4	SK39		19-9
36	鉄製品	不明	縦 [2.6] 横 3.0 厚さ 0.2 重さ 6.4	SK39		
37	鉄製品	不明	縦 [1.0] 横 [4.3] 厚さ 0.5 重さ 2.5	SK39		
38	鉄製品	不明	長さ [7.5] 幅 0.7 厚さ 0.4 重さ 12.8	SK39		
39	鉄製品	把手	縦 [10.0] 横 [2.8] 厚さ 0.5 重さ 17.6	SK39		19-10
40	鉄製品	釘	長さ [7.8] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.7	SK39		
41	鉄製品	釘	長さ 7.9 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.8	SK39		
42	鉄製品	釘	長さ [6.4] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 8.1	SK39		
43	鉄製品	釘	長さ [5.9] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.4	SK39		
44	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.5	SK39		
45	鉄製品	釘	長さ 4.6 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 1.7	SK39		
46	鉄製品	釘	長さ 4.9 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.2	SK39		
47	鉄製品	釘	長さ [5.6] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 5.0	SK39		
48	鉄製品	釘	長さ 6.4 幅 0.6 厚さ 0.5 重さ 7.4	SK39		
49	鉄製品	釘	長さ [6.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.4	SK39		
50	鉄製品	釘	長さ [5.7] 幅 0.6 厚さ 0.5 重さ 8.5	SK39		
51	鉄製品	釘	長さ [4.1] 幅 0.4 厚さ 0.5 重さ 4.4	SK39		
52	鉄製品	釘	長さ 3.6 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.6	SK39		
53	鉄製品	釘	長さ 4.9 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 5.1	SK39		
54	銅製品	錢貨	径 22.6 厚さ 0.8 重さ 1.9	SK39	寛永通寶（新）	

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版	
55	鉄製品	釘	長さ 10.5 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 25.4	SK40	植物有機質・棒状品付着		
56	鉄製品	釘	長さ 8.4 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 27.3	SK40			
57	鉄製品	釘	長さ 8.3 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 12.4	SK40			
58	鉄製品	釘	長さ 7.9 幅 0.4 厚さ 0.5 重さ 10.8	SK40			
59	鉄製品	釘	長さ 8.0 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 11.1	SK40			
60	鉄製品	釘	長さ 7.1 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.3	SK40			
61	鉄製品	釘	長さ [6.9] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 6.0	SK40			
62	鉄製品	釘	長さ [7.2] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 12.3	SK40			
63	鉄製品	釘	長さ [7.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 8.4	SK40			
64	鉄製品	釘	長さ [6.3] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 5.9	SK40			
65	鉄製品	釘	長さ 6.4 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 10.3	SK40			
66	鉄製品	釘	長さ 5.8 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 7.9	SK40			
67	鉄製品	釘	長さ 4.5 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 9.6	SK40			
68	鉄製品	釘	長さ 4.8 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 2.8	SK40			
69	銅製品	鏡	径 12.3 縁高 1.8 厚さ 0.3~0.45 重さ 507.0	SK46		蓬莱鏡「天下一」銘	20-5
70	銅製品	柄鏡	長さ 25.6 鏡径 15.3 厚さ 0.3 重さ 372.7	SK46		「天下一家重作」銘	20-6
71	銅製品	煙管	長さ [5.0] 小口径 1.1 吸口径 0.6 重さ 5.1	SK46			20-1
72	銅製品	不明	縦 13.2 横 [11.8] 厚さ 0.3 重さ 11.1	SK46			
73	鉄製品	把手	縦 [10.2] 横 [10.2] 厚さ 0.3 重さ 19.3	SK46			20-2
74	鉄製品	火箸	長さ [22.1] 厚さ 0.5 重さ 34.4	SK46			
75	鉄製品	帯金具	縦 4.4 横 3.1 厚さ 0.5 重さ 18.7	SK46			20-3
76	鉄製品	握鋏	長さ [11.7] 刃幅 0.8 背幅 0.2 重さ 24.8	SK46			20-4
77	鉄製品	不明	縦 5.3 横 [6.3] 厚さ 0.2 重さ 35.2	SK46		2 枚連結	
78	鉄製品	不明	縦 [5.5] 横 [6.1] 厚さ 0.2 重さ 26.3	SK46			
79	鉄製品	釘	長さ [8.6] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 11.9	SK46			
80	鉄製品	釘	長さ [8.7] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 12.3	SK46			
81	鉄製品	釘	長さ [8.8] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 12.5	SK46			
82	鉄製品	釘	長さ [8.0] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 9.7	SK46			
83	鉄製品	釘	長さ 8.0 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 7.8	SK46			
84	鉄製品	釘	長さ 7.8 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.1	SK46			
85	鉄製品	釘	長さ 7.5 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.4	SK46			
86	鉄製品	釘	長さ 7.7 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.3	SK46			
87	鉄製品	釘	長さ 7.3 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 9.6	SK46			
88	鉄製品	釘	長さ [7.0] 幅 0.5 厚さ 0.3 重さ 5.8	SK46			
89	鉄製品	釘	長さ [7.0] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 4.8	SK46			
90	鉄製品	釘	長さ [7.2] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 6.0	SK46			
91	鉄製品	釘	長さ [6.8] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 4.4	SK46			
92	鉄製品	釘	長さ [6.9] 幅 0.7 厚さ 0.4 重さ 24.2	SK46			
93	鉄製品	釘	長さ 6.7 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.9	SK46			
94	鉄製品	釘	長さ 6.6 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 5.4	SK46			
95	鉄製品	釘	長さ [6.1] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.5	SK46			
96	鉄製品	釘	長さ [5.7] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.8	SK46			
97	鉄製品	釘	長さ [5.4] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 4.1	SK46			
98	鉄製品	釘	長さ 5.7 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 7.3	SK46			
99	鉄製品	釘	長さ [4.6] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.7	SK46			
100	鉄製品	釘	長さ [4.4] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.4	SK46			
101	鉄製品	釘	長さ [4.3] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.2	SK46		木片付着	
102	鉄製品	釘	長さ 4.5 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.1	SK46			
103	鉄製品	釘	長さ [4.3] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.0	SK46			
104	鉄製品	釘	長さ [4.1] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.2	SK46			
105	鉄製品	釘	長さ [3.9] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.1	SK46			20-7
106	銅製品	銭貨	径 28.2 厚さ 1.3 重さ 4.0	SK46		寛永通寶 (四文銭)	
107	銅製品	銭貨	径 27.4 厚さ 1.4 重さ 4.9	SK46		寛永通寶 (四文銭)	
108	銅製品	銭貨	径 (22.0) 厚さ 1.1 重さ 1.1	SK46		寛永通寶 (新)	
109	銅製品	銭貨	径 23.7 厚さ 1.4 重さ 2.0	SK46		寛永通寶 (新)	

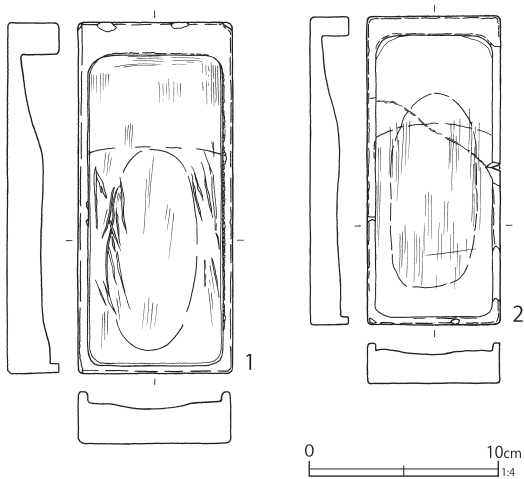
番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
110	銅製品	銭貨	径24.6 厚さ1.2 重さ2.4	SK46	寛永通寶(新)	
111	鉄製品	不明	長さ[12.9] 幅0.5 厚さ0.4 重さ18.7	SK47		
112	鉄製品	釘	長さ[9.7] 幅0.8 厚さ0.5 重さ27.9	SK47		
113	鉄製品	釘	長さ[8.8] 幅0.5 厚さ0.5 重さ18.6	SK47		
114	鉄製品	釘	長さ[7.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ12.6	SK47		
115	鉄製品	釘	長さ[7.7] 幅0.6 厚さ0.6 重さ12.1	SK47		
116	鉄製品	釘	長さ[7.3] 幅0.5 厚さ0.5 重さ7.5	SK47		
117	鉄製品	釘	長さ5.6 幅0.3 厚さ0.3 長さ[6.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ25.9	SK47	銅線で2本の釘を束ねる	

に墨書がみられるぺこかん徳利、志戸呂系は41に切り込みが2箇所ある油受皿を示した。このほかに地方窯系とみられるものもあり、44の鮫肌釉土瓶、47と48にセットとみられる蓋物、49に飯能系のイッチン描き文土瓶、50に大堀相馬系の可能性がある土瓶、54に松岡系の海鼠釉が施された鍋を示した。土師質土器は53が目皿、55が丸底焙烙である。このほかに、肥前系磁器の湯呑形碗、輪花に成形された皿、焼継のある大皿、広東碗などが出土している。

土製品は、第41図4に江戸在地系のミニチュア鍋を示した。

金属製品は、第47図34～54に示した。34は銅

SK46



第50図 土壇出土遺物 (15)

第28表 土壇出土遺物観察表 (6) (第50図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	硯	18.5	8.0	—	531.1	砂岩	SK46	器高2.7cm 刃物痕 被熱	
2	石製品	硯	16.2	6.9	—	291.0	砂岩	SK46	器高2.1cm	

製簪、39は把手、53は寛永通寶である。40～52の鉄釘は頭部形状が様々で、二～三寸である。

時期は、出土陶磁器から19世紀中葉とみられる。

第39b号土壇 (第34図)

B5-G9グリッドに位置する。調査時には1基の土壇としたが、整理で第39a号、第39b号の2基とした。重複する第39a号土壇との新旧関係は不明である。平面形は楕円形で、覆土は確認できなかった。

時期は、不明である。

第40号土壇 (第35図)

B5-H9・H10・I9・I10グリッドに位置する。遺構の西側は調査区域外にかかる。重複する第46号土壇より古い。

平面形は隅丸長方形である。規模は検出範囲で長軸6.62mで、かなり大型である。覆土が焼土ブロック主体であり、火災処理に関わる土壇と考えられる。

陶磁器類の出土は極めて少ない。図示し得なかったが、丹波系陶器の播鉢が出土している。

金属製品は、第48図55～68に鉄釘を示した。多くは壁土とみられる土塊・粘土塊が付着している。55は2本の釘が直交方向で錆着し、さらに木質が付着しており木舞の一部の可能性はある。

時期は、第46号土壇が19世紀初頭であるため、それ以前と考えられる。

第41号土壌（第35図）

B 5-G 9グリッドに位置する。遺構の東側は、調査区域外にかかる。重複する第42号土壌より新しい。

平面形は楕円形である。調査区内で検出できたのは、長軸0.75m、短軸0.72mに留まる。断面形は皿形で、深さは0.17mである。

覆土が炭化物を多く含むため、火災処理に関わる土壌の可能性がある。

陶磁器類の出土は極めて少ない。図示し得なかったが、肥前系磁器の丸碗、焙烙等が出土している。

時期は、重複する第42号土壌が19世紀後葉であるため、それ以前と考えられる。

第42号土壌（第35図）

B 5-G 9グリッドに位置する。遺構の東側は調査区域外にかかる。重複する第41号土壌より古い。

平面形は楕円形と考えられる。調査区域内で検出できたのは、長軸0.90m、短軸0.32mに留まる。断面形は鍋底形になろうか。深さは0.55mである。覆土は炭化物を含む、粘質の黒褐色土である。

陶磁器類の出土は極めて少ない。図示し得なかったが、磁器では瀬戸美濃系の色絵が施された破片が、陶器では萬古系の急須、京都信楽系の灯明皿等が出土している。

時期は、19世紀後葉と考えられる。

第43号土壌（第34図）

B 5-G 9グリッドに位置する。周辺には第19・20・39a・39b・40号土壌が密集しており、第19・20・39a号土壌と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形は、東西が重複するため不明である。

陶磁器類は、第39図56に瀬戸美濃系磁器の碗、57に江戸在地系の瓦質土器火入れを図示した。

時期は、出土陶磁器から19世紀後半と考えられる。

第44号土壌（第35図）

B 5-G 9グリッドに位置する。遺構の北東側のみを検出し、ほかは調査区域外へ延びる。

検出範囲の平面形は方形、断面形は箱形である。覆土に炭化物・木片が多いため、火災処理に関わる土壌と考えられる。

陶磁器類は、第39図58に肥前系磁器の碗、59に瀬戸美濃系磁器の端反碗を図示した。

時期は、出土した陶磁器から19世紀前半と考えられる。

第46号土壌（第35図）

B 5-H 9・H10・I 10グリッドに位置する。重複する第40号土壌より新しい。

平面形は隅丸長方形である。溝状を呈し、第5号溝跡として調査したが、延長線上に遺構の連続性が確認できなかったため、整理段階で土壌とした。規模は長軸7.22m、短軸1.43mで、かなり大型である。断面形は箱形だが、西側は斜めに立ち上がる。深さは0.62mで深い。遺構の西側は第40号土壌にかかる。

平面形は隅丸長方形である。覆土に焼土塊・炭化物を多く含み、出土遺物も被熱したものが大半を占めていることから、火災処理に関わる土壌とみられる。

出土遺物は多い。陶磁器は第39図60～85に示した。出土磁器は肥前系、陶器は瀬戸美濃系が大部分である。いずれも被熱している。

磁器は、60に端反碗、62に広東碗の大碗、63に笹文の坏、61に輪高台猪口、64に蛸唐草文の御神酒徳利を示した。仏飯器は磁器と陶器があり、65～67は肥前系磁器、72～75は瀬戸美濃系陶器である。68と69は肥前系磁器の香炉、70と71は瀬戸美濃系陶器の坏、81と82は餌入れ、83は灰釉柿釉掛分けの花生、84は油徳利、76～78は灯明皿の油皿、79と80は油受皿である。仏飯器、坏、香炉などは同形・同サイズのもので揃えられていることから、仏間などでセットとして使用されて

いた可能性がある。

このほかに、肥前系磁器の皿が多く出土しており、底部破片数で蛇ノ目凹形高台皿が26個体、器高が低く腰が張る皿で1個体以上、墨弾雲形文の皿で2個体、分類できなかつたもので8個体以上、大皿が1個体出土している。蛇ノ目凹形高台皿は組物とみられ、3組以上が確認された。

土製品は、第41図5に釜形土製品を示した。罎を境に上下が別成型である。底部は被熱剥離している。口径3.2cm、器高2.0cmの極小品であるため、ミニチュアの可能性がある。

瓦は第27号土壌と比較すれば少ないものの、総重量166kg、774点におよぶ。被熱しているものが多い。第43図27～32、第44図33～39、第45図40～43に示した。27は軒丸瓦、28～35は軒棧瓦を示した。いずれも文様は江戸式である。36～38、40は棧瓦である。36と40は瓦釘が残存する。36は釘孔が1つで、長さ約8.4cmの三寸釘が頭部から先端まで残存する。40は2つの釘孔内部に、釘の頭部付近のみが銹着している。39は丸瓦、42は隅丸瓦である。42の隅丸瓦は、江戸式の文様である。

金属製品は、第48図69～76、第49図77～110に示した。鉄釘が多く出土しているほか、74が火箸、75が鞋、76が握鋏、73が把手である。77と78は不明鉄板だが、77は2枚を連結させている。鉄釘は、79～81が四寸近いサイズだが、ほかは三寸以下である。

銅製品では、鏡が2面出土している。69は蓬萊鏡で、柄鏡に比べてかなり肉厚に作られ、重量が507gある。錆化が進んでいるものの、鈕の亀、2羽の鶴、桐、銭形「天下一」銘などが確認できる。70は柄鏡である。残存状態は良好で、背の竹林と「天下一家重作」銘が明瞭に確認できる。このほかに71に煙管、72に不明品を示した。

石製品は、第50図1と2が硯である。いずれも被熱し、使い込まれている。砂岩製である。

時期は、出土陶磁器から19世紀前葉と考えら

れる。

第47号土壌（第35図）

B5-G9・H9グリッドに位置する。南北に長く、第4号溝跡として調査したが、覆土が炭化物・焼土塊主体のため、火災処理に関わる土壌と判断した。

南北は調査区域外になり、第27号土壌との重複箇所には大きな攪乱が入る。重複する第28号土壌より古い。第27号土壌との新旧は不明である。

平面形は溝状で、土壌とすれば隅丸長方形になる。検出範囲で長軸4.05m、短軸1.0m、深さ0.34mである。

陶磁器類は、磁器が第40図86の瀬戸美濃系磁器の端反碗、87の肥前系磁器の皿である。88にはかわらけを示した。

このほかに肥前系磁器の広東碗、梅樹文碗、大皿、蛸唐草文鶴首御神酒德利、瀬戸美濃系陶器の灯明皿が出土している。

瓦は、第45図43と44に丸瓦を示した。

金属製品は第49図111～117に示した。いずれも鉄釘で、112は断面長方形のさっぱ釘とみられる。117は2本の釘を銅線で巻いたもので、釘のうち1本は長さを揃えるためか、頭部付近を大きく曲げて巻きこんである。

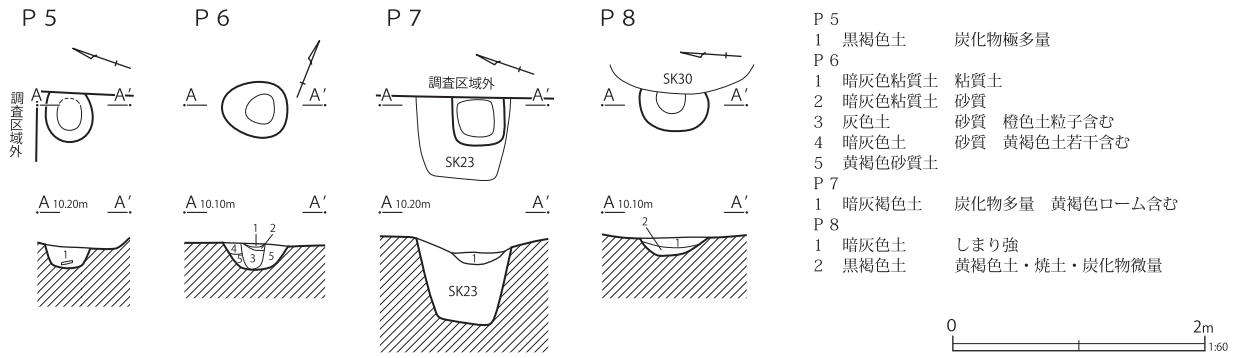
時期は、出土陶磁器から19世紀前葉とみられ、重複する第28号土壌が19世紀中葉頃とみられることと整合する。

(2) ピット

ピットは4基が確認されたが、いずれも単独で検出され、建物等を想定するには至らなかった。第51図に遺構図を示し、位置・規模等については第29表に示した。出土遺物は、土器を第30表、金属製品を第31表、石製品を第32表に示した。

土器は第52図1に火鉢、2に丸底焙烙を図示した。いずれもピット7の出土である。

金属製品は、第53図1～4に図示した。1は



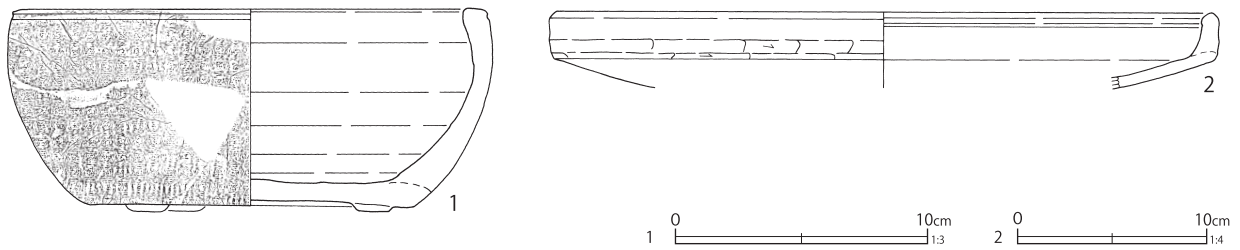
第51図 ピット

第29表 ピット計測表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
5	B5-F9	円形	(0.38)	0.37	0.15	N-72° -E	SK21 より古
6	B5-H10・I10	円形	0.50	0.44	0.21	N-69° -E	
7	B5-F9・G9	方形	0.41	(0.39)	0.10	N-18° -W	SK23 より新
8	B5-H10	円形	0.55	(0.30)	0.15	N-11° -E	SK30 と重複

P 7



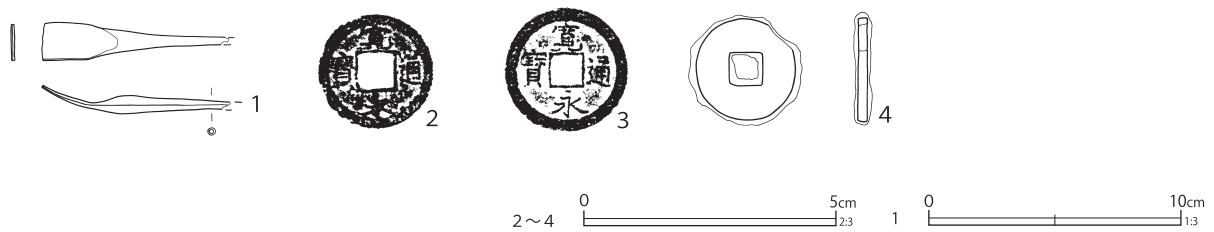
第52図 ピット出土遺物（1）

第30表 ピット出土遺物観察表（1）（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦質土器	火鉢	(17.2)	8.0	12.7	AI	50	普通	にぶい黄橙	P7	外面トビガンナ状施文 燻す 口縁部磨滅	17-3
2	土師質土器	焙烙	(34.4)	[4.0]	-	CDEHIK	20	普通	にぶい橙	P7	底部シワ状痕 外面煤付着	17-4

P 6

P 7



第53図 ピット出土遺物（2）

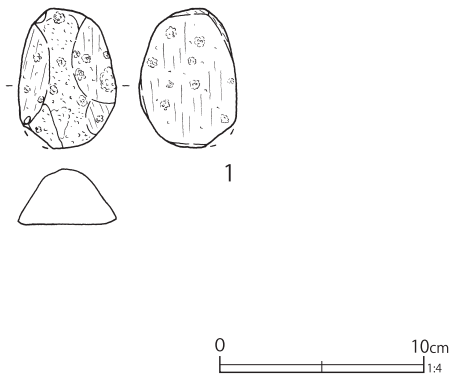
第31表 ピット出土遺物観察表（2）（第53図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ [7.4] 小口幅 1.5 重さ 4.9	P6	吸口 小口押し潰される	20-8
2	銅製品	銭貨	径 22.6 厚さ 0.9 重さ 1.6	P6	寛永通寶（新）	
3	銅製品	銭貨	径 24.4 厚さ 1.2 重さ 2.7	P7	寛永通寶（新）	
4	鉄製品	銭貨	径 22.1 厚さ 2.1 重さ 3.9	P7	銭名不明 寛永通寶か	

ピット6出土の煙管吸口で、小口が潰されている。
石製品は、第54図1にピット6出土の角閃石

安山岩製磨石を示した。軽石質で、片面が平滑に加工されている。

P 6



第54図 ピット出土遺物 (3)

(3) 遺構外出土遺物

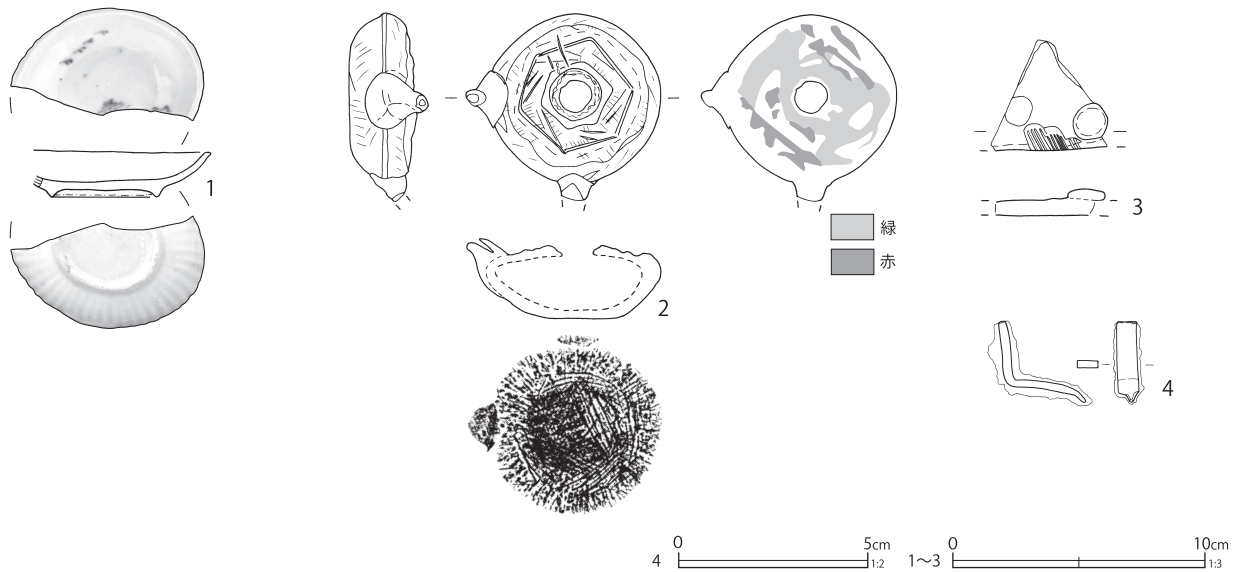
第1面からの掘り下げ時に多くの遺物が出土している。陶磁器を第55図1、土製品を2～3、金属製品を4に示した。観察表は第33表に示した。

1は肥前系磁器の皿である。2は京都系のミニチュア急須で、赤・緑・白の3色で彩色されている。3は江戸在地系の箱庭道具で、建物の袖垣である。

鉄製品は鉄釘が出土している。4は鉄釘で、断面は長方形、中央付近で直角に曲げられている。折釘、またはさっぱ釘の転用折釘とみられる。

第32表 ピット出土遺物観察表 (3) (第54図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	磨石	6.9	4.8	2.7	40.0	角閃石安山岩	P6	多孔質 自然面遺存 複数面形成	



第55図 遺構外出土遺物

第33表 遺構外出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	—	1.7	4.2	HI	60	良好	灰白	A区	肥前系 施釉 内面染付	17-9
2	土製品	ミニチュア急須	幅 [5.1]	器高 2.1	—	—	—	良好	灰白	A区	急須 上下合型成形 上面施釉 釉による施文 (赤・緑)・施文 京都系	17-19
3	土製品	箱庭道具	長さ [2.9]	幅 [3.1]	—	AHK	—	良好	明赤褐	A区	袖垣 型成形 中実 外面透明釉・施釉 (緑・白) 江戸在地系	17-18
4	鉄製品	釘	長さ 3.2	幅 0.4	厚さ 0.8	重さ 8.1	—	—	—	—	—	—

3 本陣跡第5次第一面

本陣5次第一面で確認された遺構は、建物跡3棟、基礎状遺構2基、埋設桶9基、埋甕1基、埋納遺構2基、井戸跡1基、杭列1条、木樋8条、土留状遺構1基、道路跡1条、土壇8基、ピット2基である。

(1) 建物跡

建物跡は、道路跡を挟んで北側に1棟、南側に2棟の計3棟が確認された。道路北側の建物跡は、第5地点から続くと考えられ、栗橋宿の北端に位置する。南側の建物は、本陣側に続く。計測値は第34表、出土遺物の観察表は第35表に示した。

第1号建物跡（第56図）

B6-J1・C6-A1グリッドに位置し、道路の南側にあたる。遺構図は第56図に示した。調査区内で確認できたのは、建物の北東隅付近のみで、ほかは調査区外に延びる。

北は第1号道路跡に面し、東には第1a号木樋・第1b号木樋をはさんで第4号建物跡が位置する。木樋で区切られた同一区画内には、第1号井戸跡、第1・2号埋納遺構がある。

重複する第1号井戸跡より古い。規模は、検出範囲で長軸3.84m、短軸2.47mである。

北東隅付近の一部には、床板とみられる複数の板材が検出された。板材の検出レベルはほぼ同一であり、いずれも南北方向に並べられていた。

板材の下から、礎石とみられる平石が検出された。平石は1.5m間隔で格子状に配置されていた。

板材の南端付近から、1個体の甕が出土した。周囲を炭化物に囲まれ、口縁が内部に落ち込んでいた。復元高がほぼ板材レベルに合うことから、第1号建物跡に付属するものと考えられる。甕底部付近からは、瓦質土器の十能が共伴出土した。第56図床下上面と床下下面に出土位置、第59・60図10、11に実測図を示した。

陶磁器類は、第59図1～10と第60図11～14に示した。1～3は肥前系磁器で、1と2に湯呑形

碗、3に内面青磁釉・陽刻文の八角鉢を示した。4～10は陶器で、4は瀬戸美濃系の灯明皿、5と6は堺明石系の播鉢、7は陶器の三彩土瓶の蓋である。8と9は行平鍋の蓋と身で、蓋の内面に「千両」の文字、身の内面に蕪の絵が呉須で描かれている。10と11は上述した甕と十能で、10は瀬戸美濃系陶器の柿釉甕、11は瓦質土器の十能である。十能の柄は中実で、12も同じ作りである。13に土師質土器の把手付鍋、14に丸底焙烙を示した。

時期は、出土陶磁器から19世紀中葉とみられる。

第3号建物跡（第57図）

B5-I10グリッドに位置する。南で第7号埋設桶に近接する。遺構図は第57図に示した。

調査段階では明確な建物跡として認識できなかったが、調査区北寄りに平石列とそれと重複する2本1組の杭が検出され、1.8m間隔で格子状に打たれていたことから、整理の過程で建物跡と判断した。

杭で構成される建物跡を、新規に本陣5次第3号建物跡とした。平石列は第5地点第1号建物跡から出土したものと大きさ、配置、レベルとも同一であったため、第1号建物跡の一部とする。

南東隅の杭は、第5地点第1号建物跡の南端の平石を取り囲むように打ちこまれていた。

そのため、第5地点第1号建物跡より新しいと考えられる。

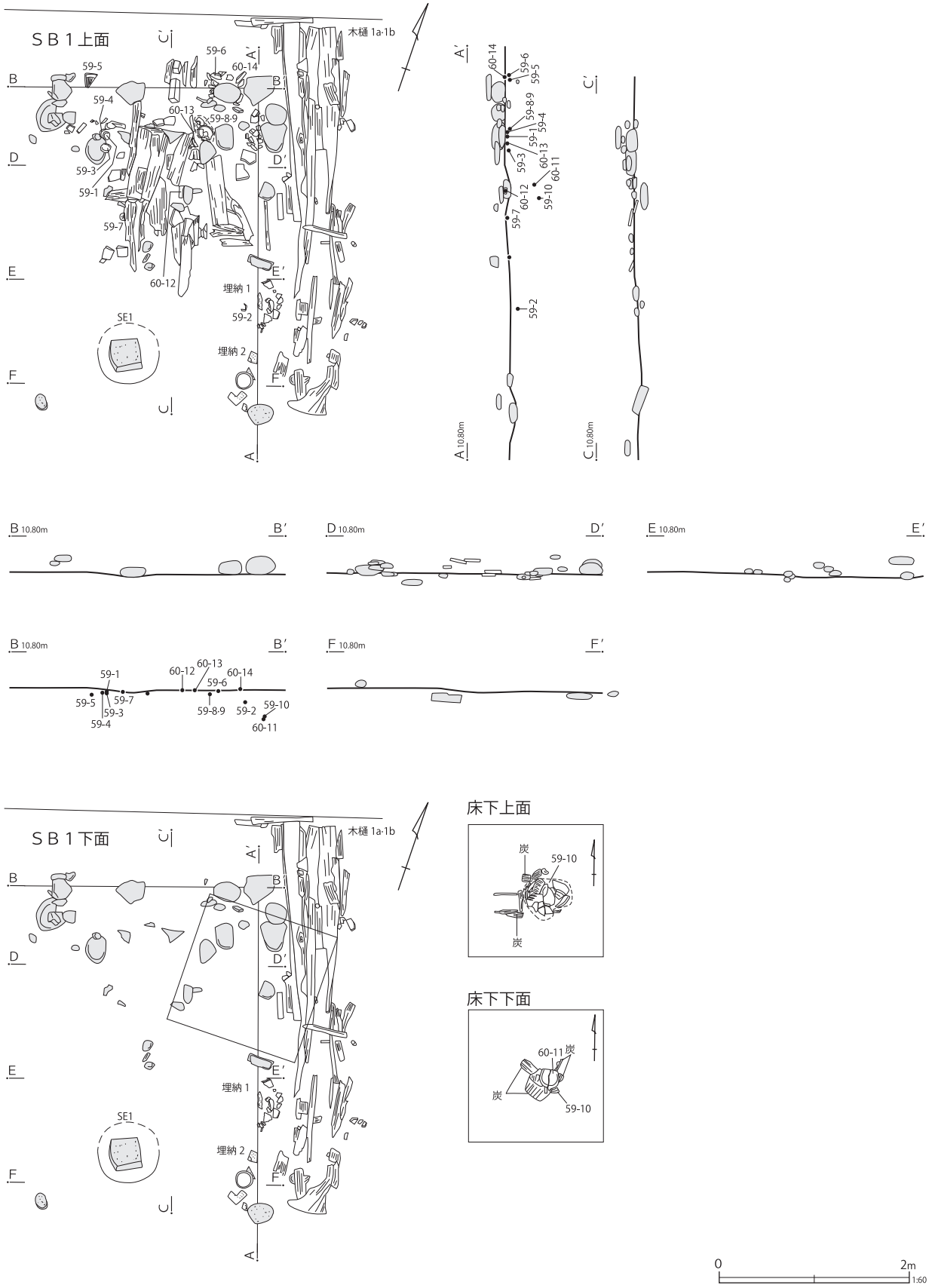
出土遺物はなかった。

時期は不明であるが、重複する第5地点第1号建物跡が19世紀前半以降とみられることから、同時期かそれよりも新しいと考えられる。

第4号建物跡（第58図）

B6-J1・C6-A1グリッドに位置し、第1a号木樋・第1b号木樋をはさんで第1号建物跡の東隣にあたる。第58図に遺構図を示す。

遺構の南側は本陣第1次調査で発掘された遺構



第56図 第1号建物跡

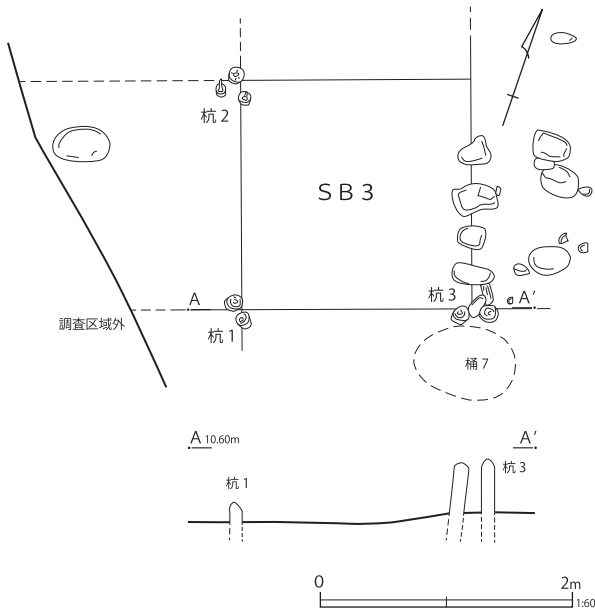
であるが、北側は本陣5次調査の調査区内に入るため、本書で報告する。

重複関係にある本陣第1次第17・22・45・46号埋設桶、第47号土壇は『栗橋宿本陣跡Ⅱ』で報告し、本報告では第7・10・58図で位置を示すにとどめる。

調査段階では、建物跡を2棟として認識しており、北を第8号建物跡、南を第9号建物跡として調査を進めた。その後の整理段階で、想定される町屋の区割や礎石の配列などから同一建物跡と判断し、第4号建物跡とした。

道路に近い北側で、第2号埋設甕、第4号埋設桶、第9号埋設桶と重複する。南側では本陣1次で調査された第47号土壇、第17号埋設桶、第22号埋設桶、第45号埋設桶、第46号埋設桶と重複する。

規模は、長軸9.0m、短軸3.6mを測る。掘り込みはなく、地表面に平石を格子状に配置しただけの簡略なつくりである。北東の一角には、平石



第57図 第3号建物跡

の下に胴木のような木材が検出されたが、建物跡の構造は不明瞭である。平石は概ね長軸25～30cm、厚さ10cm程度のもので使用されていた。残存状態は悪いが、東西1.5m、南北1.8mの間隔で配置されていたものと考えられる。中央東寄りで、被熱した地表面と炭、瓦などが検出された。

遺物は少なく、第60図15～17に陶磁器類を示した。15は瀬戸美濃系磁器の端反碗の蓋、16と17は瓦質土器の焜炉である。16と17は外面に亀甲文が施されている。

時期は、出土陶磁器から19世紀前半以後とみられる。

(2) 基礎状遺構

基礎状遺構は2基確認された。2基とも発掘段階で建物基礎の可能性のある土壇としていたが、整理作業の段階で基礎状遺構として発番した。2基は比較的近接した位置にあり同一建物の可能性もある。第61図に遺構図を示し、位置・規模等を第36表に示した。

第1号基礎状遺構 (第61図)

B6-I1グリッドに位置する。方形の平面形態をもち、覆土は版築されていなかった。建物基礎跡の埋め土と思われる。瓦は、総数409点、総重量15,780gを量った。出土陶磁器は少ないが三河産土師質土器焜炉がある。

敷き詰められていた瓦のうち、第62図1に軒棧瓦、2に丸瓦を示した。1の瓦にはヤマに「イ」の刻印がある。2の丸瓦は、小口面が平滑に切断されており、転用とみられる。

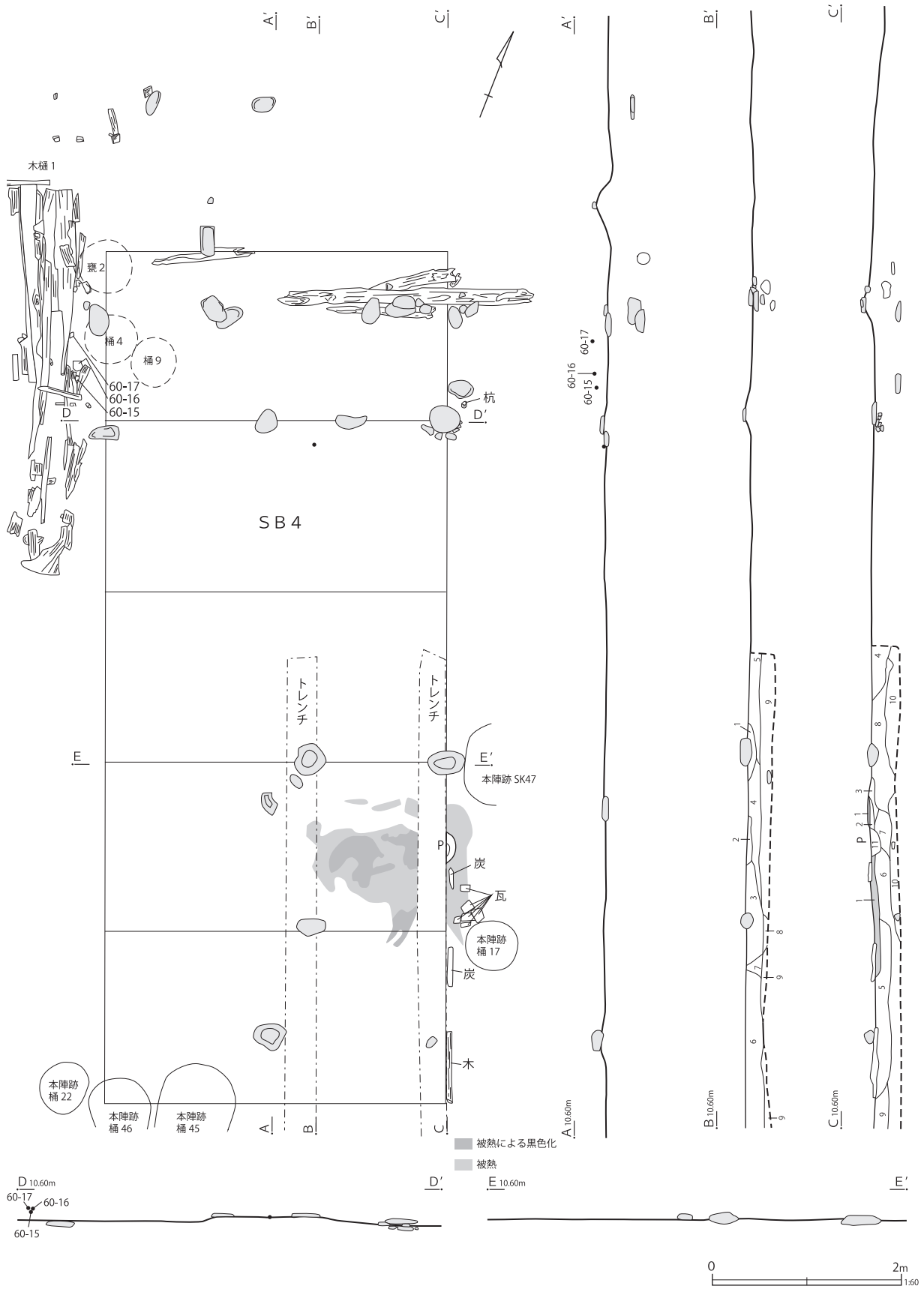
金属製品では、第62図7に鉄釘を示した。

時期は、出土陶磁器から19世紀後半以後とみられる。

第34表 建物跡計測表

単位：m

番号	グリッド	桁行(長軸)	梁行(短軸)	方位	備考
1	B6-J1, C6-A1	(3.84)	(2.47)	N-20° -W	SE1より古
3	B5-I10	(2.16)	(2.70)	N-20° -W	5地点SB1より新 杭列1と重複
4	B6-J1, C6-A1	9.00	3.60	N-20° -W	桶4、9、甕2と重複、本陣桶45、46と重複か



第58図 第4号建物跡

B-B'	
1 明灰褐色砂質土	1～2mm大の炭化物粒子少量 2～3mm大の褐鉄粒子微量 粘性なし しまりあり
2 暗黒褐色土（炭化物、焼土層）	1～3cm大の炭化物ブロック極多量 1～2cm大の焼土粒子少量 シルト含む 粘性なし
3 灰褐色砂質シルト	2～3mm大の褐鉄粒子中量 2～3mm大のシルト粒子少量 粘性なし しまりあり
4 灰褐色砂質シルト	3～5mm大の炭化物粒子中量 2～3mm大の焼土粒子少量 1～3cm大のシルトブロック斑状にやや多量 粘性なし しまりあり
5 灰褐色砂質シルト	2～3mm大の炭化物粒子中量 3～5mm大のシルトブロック 斑状に中量 下層に炭化物粒子の薄い層が走る 粘性なし しまりやや強い
6 灰褐色砂質シルト	2～3mm大の炭化物粒子少量 2～3mm大の褐鉄粒子少量 1～8cm大の灰色シルトブロック斑状に極多量 粘性なし しまりあり
7 明白色砂質土	2～3mm大のシルト粒子少量 粘性なし しまりあり
8 暗灰褐色砂質シルト	2～5mm大の炭化物粒子少量 2～3mm大の褐鉄粒子多量 シルトをやや多量含む 粘性なし しまりあり
9 暗灰褐色砂質シルト	2～3mm大の炭化物粒子少量 2～3mm大の焼土粒子少量 粘性なし しまりあり

C-C'	
1 橙褐色砂質土	（焼土層） 焼土極多量 2～3cm大の炭化物ブロック少量 粘性なし しまり強い
2 暗赤褐色砂質土	（焼土層） 比熱による黒色化 焼土多量 粘性なし しまりやや強い
3 灰褐色砂質土	2～5mm大の炭化物粒子少量 2～3mm大の褐鉄粒子中量 粘性なし しまりあり
4 明灰褐色砂質土	2～5mm大の炭化物粒子少量 3～5mm大のシルト粒子少量 粘性なし しまりやや強い
5 灰褐色砂質土	2～3mm大の炭化物粒子少量 2～3mm大の褐鉄粒子やや多量 1～2cm大のシルトブロック斑状に中量 粘性なし しまりあり
6 灰褐色砂質土	1～3cm大の炭化物粒子少量 粘性なし しまりあり
7 灰褐色砂質土	砂質土主体 1～3cm大のシルトブロック斑状に中量 1～2mm大の褐鉄粒子やや多量 粘性なし しまりややあり
8 灰褐色砂質土	3～7mm大の炭化物粒子中量 5～10mm大のシルト粒子斑状にやや多量 砂質土主体 粘性なし しまりやや強い
9 明灰褐色砂質土	1～2mm大の褐鉄粒子少量 シルト含む 2～5mm大の炭化物粒子少量 粘性なし しまりあり
10 暗灰褐色砂質土	5～10mm大の炭化物粒子少量 2～3mm大の焼土粒子少量 シルト含む 粘性ややあり しまりなし
11 明灰褐色砂質土	1～2cm大の炭化物粒子少量 2～3mm大の焼土粒子少量 粘性なし しまりあり（ピット）

第2号基礎状遺構（第61図）

B6-I 1グリッドに位置する。掘り込みは確認できず、長楕円形の平面形に瓦や礫が敷き詰められていた。瓦は総数483点、総重量20,430gを量った。瓦や礫とともに陶磁器類も敷かれていたが、図示しうるものはなかった。

瀬戸美濃系磁器の銅版転写染付爛徳利、瀬戸美濃系磁器の角腰長筒湯呑形碗、三河産土師質土器焜炉などが出土している。

瓦は第62図3～6に示した。

時期は、陶磁器から19世紀後半以後とみられ、第1号基礎状遺構と同時期と考えられる。

（3）埋設桶

埋設桶は9基を確認した。第1号埋設桶、第6号埋設桶、第7号埋設桶は道路北側、ほかは道路南側からの検出である。

第1号と第6号が木樋の延長上に位置するほかは、すべて建物敷地内からの検出である。

遺構図は第63図に示したが、第6号埋設桶のみ第5地点第1b号木樋と同一遺構と判断したため、遺構図は第17図に示した。各埋設桶の計測値は、第38表に示した。

第1号埋設桶（第63図）

B5-I 10グリッドに位置し、西半はトレンチ1で切られる。第2号木樋の延長線上に位置する

が、重複等の関係は不明である。

遺存状態が非常に悪い。側板が確認されたのみで、桶の外側に掘方は確認できなかった。底板も出土していない。底面の褐灰色土は底板が腐朽したものであろうか。

出土遺物はなく、時期は不明である。

第2号埋設桶（第63図）

B6-J 1グリッドに位置し、南に第3号埋設桶が隣接する。中間に杭が打たれており、2基1対での使用も考えられる。重複する第8号土壇との新旧関係は不明である。

遺存状態は比較的良好で、底板がよく残っていた。覆土中に少量の炭化物と焼土のブロックが含まれているが、第8号土壇が火災処理に関わる土壇と考えられるため、その影響を受けたと思われる。

陶磁器は第3号埋設桶と一括して取りあげたものが多かったため、本遺構のものとはきたのは、掘方からのものに限られる。

第64図1に、瀬戸美濃系磁器の端反碗、2に土器の把手付鍋を示した。

時期は19世紀前半以降と考えられる。

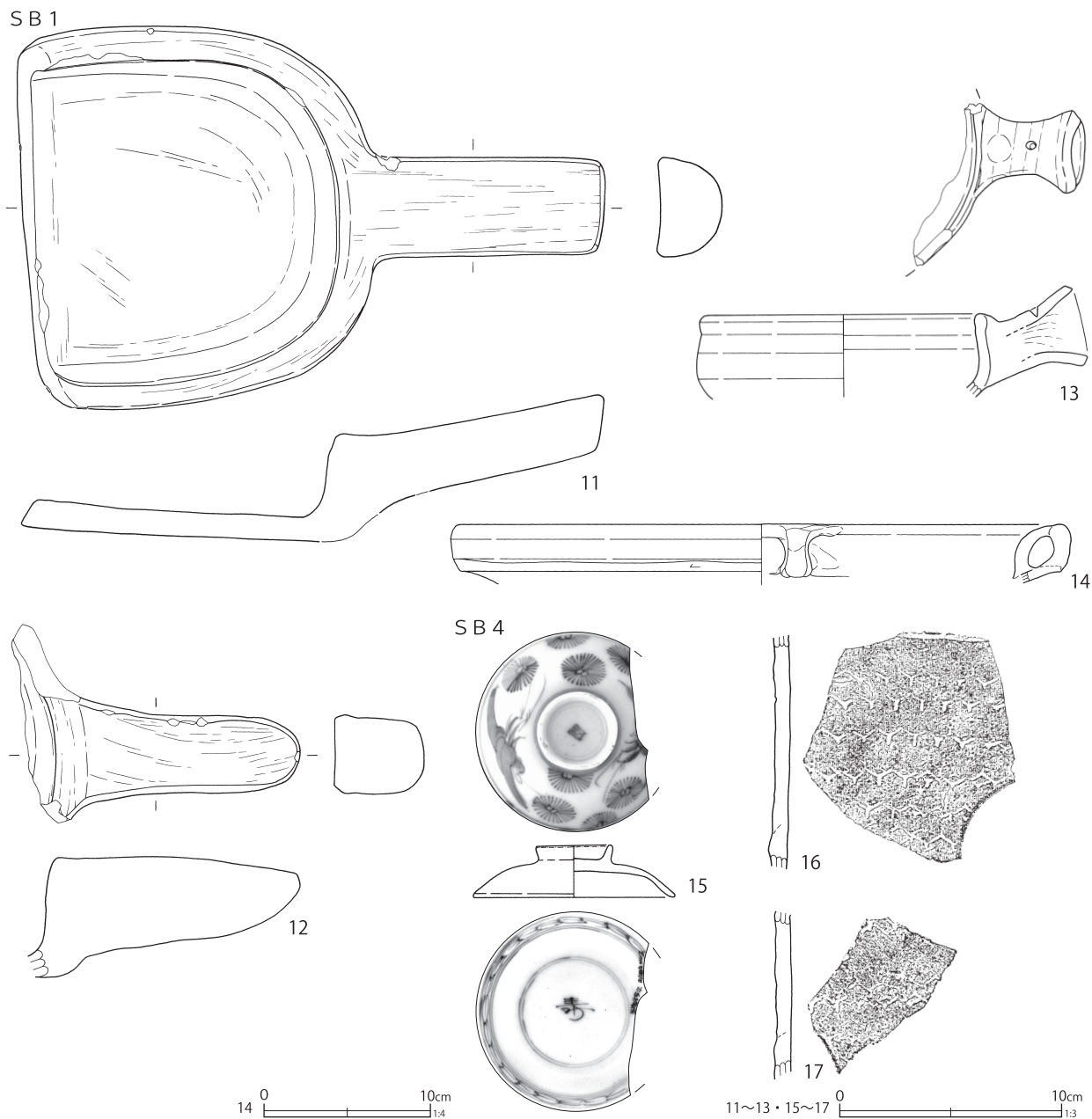
第3号埋設桶（第63図）

B6-J 1グリッドに位置し、北に第2号埋設桶が隣接する。重複する第8号土壇との新旧関係は不明である。残りは悪く、側板のみが残存して

SB1



第59図 建物跡出土遺物（1）



第60図 建物跡出土遺物（2）

いた。掘方は確認できなかった。

西側には角材が入りこんでいたが、検出状況から第8号土壙に伴うものと考えられる。第2号埋設桶と同様、覆土中に少量の炭化物と焼土のブロックが含まれているが、第8号土壙の影響を受けたものと思われる。

出土遺物は、第64図3に肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台皿を示した。

このほかに、肥前系磁器の筒形碗、蛇ノ目凹形

高台皿が出土しているが、時期を推定できるほどの数量ではなかった。第2号埋設桶と同時期であれば、19世紀前半以降と考えられる。

第4号埋設桶（第63図）

B6-J1グリッドに位置する。東に第9号埋設桶が近接する。

比較的残存状態が良好で、底板が良く残されていた。掘方は、桶とほぼ同規模であったと考えられ、確認できなかった。

第35表 建物跡出土遺物観察表（第59・60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	5.9	5.0	3.8	—	100	良好	白	SB1	肥前系 施釉 染付	
2	磁器	碗	(7.7)	4.3	3.4	—	55	良好	白	SB1	肥前系 施釉 外面染付	
3	磁器	鉢	(12.2)	5.4	6.1	—	60	良好	白	SB1	肥前系 施釉（内面青磁釉） 内面染付 内面陽刻文 高台内墨痕	
4	陶器	灯明皿	9.5	2.2	3.8	CE	100	良好	にぶい褐	SB1	瀬戸美濃系 柿釉 内面重焼痕	
5	陶器	播鉢	—	[10.8]	—	DE	5	普通	明赤褐	SB1	堺明石系 内面播目	
6	陶器	播鉢	—	[10.5]	—	DE	20	普通	明赤褐	SB1	堺明石系 内面播目	
7	陶器	蓋	8.2	3.2	6.2	I	100	良好	黄褐	SB1	上面施釉 三彩	
8	陶器	蓋	5.0	4.0	15.7	I	75	良好	灰白	SB1	刷毛目釉 内面呉須文字「千両」	32-1
9	陶器	行平鍋	16.5	7.3	9.4	I	92	普通	明オリープ灰	SB1	刷毛目釉 内底面呉須絵 把手歪ます 外面煤付着	32-1
10	陶器	甕	35.8	31.9	27.2	DE	80	良好	灰白	SB1	瀬戸美濃系 柿釉 外面鉄釉流掛 内底面・高台畳付部目跡	32-2
11	瓦質土器	十能	長 26.1 幅 17.1 高さ 6.6			CIK	95	普通	にぶい黄橙	SB1	砂目底 被熱・一部黒化	32-3
12	瓦質土器	十能	長 [12.1] 幅 [8.9] 高さ 5.5			CIK	35	普通	灰白	SB1	底部シワ状痕 燻す	
13	土師質土器	把手付鍋	(12.0)	[3.8]	—	CEHI	10	普通	にぶい橙	SB1	把手部穿孔貫通せず 一部煤付着	32-4
14	土師質土器	焙烙	(36.0)	[3.5]	(36.0)	CHI	5	普通	橙	SB1	砂目底	
15	磁器	蓋	3.3	2.3	9.0	—	80	良好	白	SB4	瀬戸美濃系 施釉 染付	32-6
16	瓦質土器	焜炉	—	[10.4]	—	CIG	5	普通	黄灰	SB4	外面施文 燻す	32-7
17	瓦質土器	焜炉	—	[7.6]	—	CIG	5	普通	黄灰	SB4	外面施文 燻す	

図示しうる遺物はなかったが、瀬戸美濃系陶器のぺこかん徳利、土師質土器の丸底焙烙が出土している。

第5号埋設桶（第63図）

B6-J1グリッドに位置する。第1a号木樋、第2号埋納遺構に接している。

底面付近が残存するのみだが、直径が異なる2つの桶を入れ子式に重ねた構造をしており、内側の桶から銭貨が出土した。

図示しうる陶磁器類はなかったが、京都信楽系陶器の灯明皿、瓦質土器の平底焙烙、肥前系陶器の片口鉢などが出土している。

上述の銭貨を、第65図2に図示した。遺存状態は悪いが、寛永通宝である。

時期は、19世紀前半以後と推定される。

第6号埋設桶（第63図）

B5-I10グリッドに位置する。周囲は第1号杭列に囲まれており、同遺構と組み合わせで、第5地点第1b号木樋と同一遺構と判断した。第2号木樋と南側で隣接し、接続する可能性がある。

遺存状態は比較的良く、底板と側板底部が残

存していた。埋設された掘り込みは桶と同大であったようで、掘方は確認できなかった。

陶磁器は、第64図4に京都信楽系陶器の灯明皿を示した。このほかに瀬戸美濃系磁器の端反碗、陶器の爛徳利などが出土している。

時期は、出土陶磁器は19世紀中葉頃であるが、第1b号木樋が後半以降であるため、中葉頃に設置され、後半以降に廃絶されたとみられる。

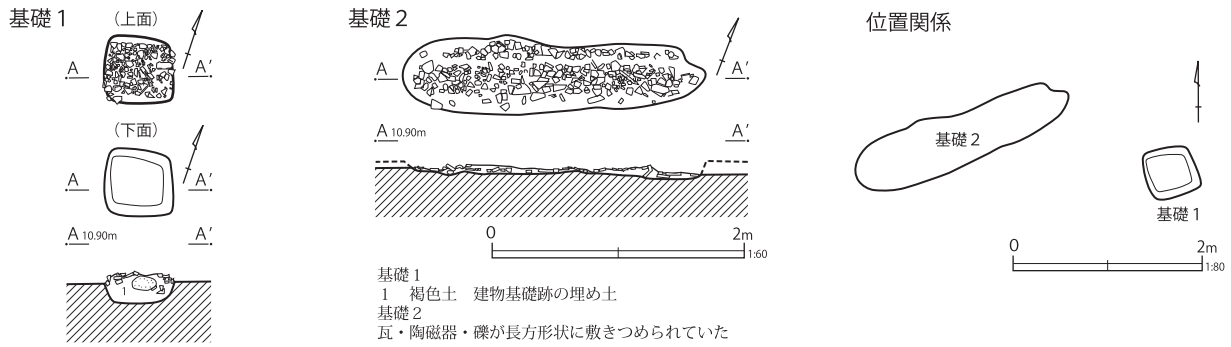
第7号埋設桶（第63図）

B5-I10グリッドに位置する。第3号建物跡の礎石列延長線上にあたるが、同建物跡と第7号埋設桶の残存レベルとは40cmの差があり、付属施設とは考えにくい。

遺存状態は良好で、底部から高さ50cmほどまで残存していた。底部付近のタガが巻きついた状態で検出された。平面において掘方は確認できず、断面で確認した。

陶磁器は、第64図5に肥前系磁器の広東碗を示した。このほかに肥前系磁器のくらわんか碗、外面青磁の半球碗が出土している。

木製品では、第65図1に桶の底板を示した。

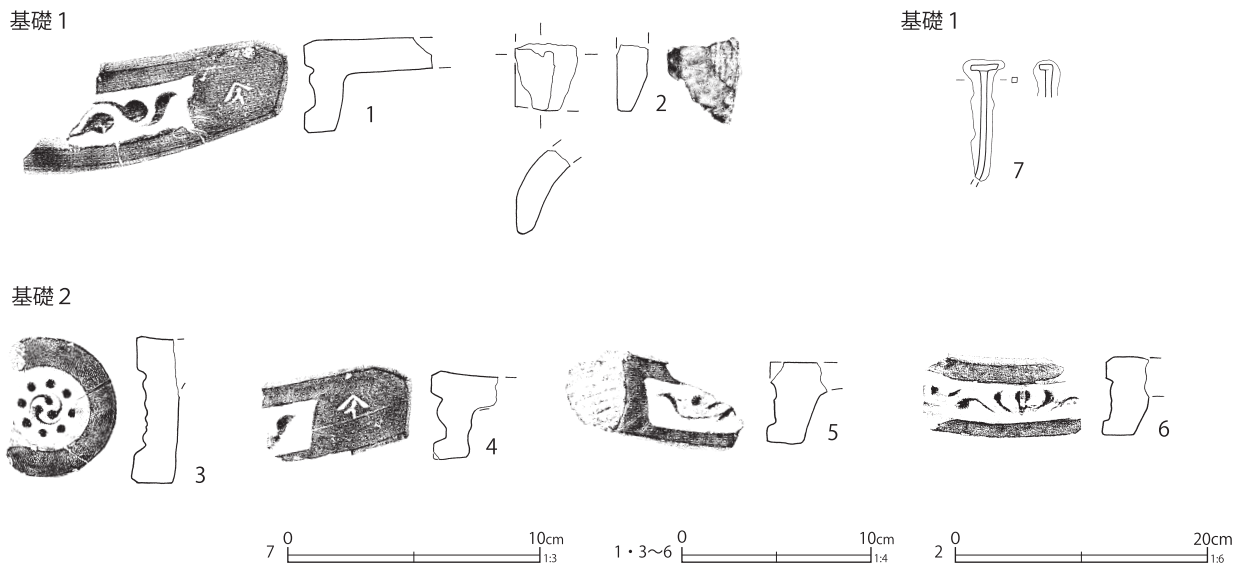


第61図 基礎状遺構

第36表 基礎状遺構計測表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
1	B6-I1	方形	0.55	0.52	0.18	N-78° -E	
2	B6-I1	長楕円	2.41	0.62	-	N-69° -E	



第62図 基礎状遺構出土遺物

第37表 基礎状遺構出土遺物観察表 (第62図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[6.9]	[15.3]	1.8	4.8	-	K	良好	灰	基礎1	江戸式 刻印あり 銀化	50-1
2	瓦	丸瓦	[5.3]	[5.0]	2.2	[6.7]	-	K	良好	灰	基礎1		
3	瓦	軒棧瓦	[2.0]	[7.0]	2.0	7.6	7.4	K	良好	灰	基礎2	江戸式 右巻 八連珠三巴文 銀化	50-2
4	瓦	軒棧瓦	[3.5]	[9.2]	1.8	[4.6]	-	AK	良好	灰	基礎2	ヤマに「イ」刻印 銀化	50-3
5	瓦	軒棧瓦	[3.0]	[9.6]	2.0	4.2	[6.0]	K	良好	灰	基礎2	江戸式か 銀化	50-4
6	瓦	軒棧瓦	[2.3]	[8.3]	1.8	4.0	-	K	良好	灰	基礎2	銀化	50-5
7	鉄製品	釘	長さ [4.6] 幅 0.2 厚さ 0.2 重さ 5.4					-	-	-	基礎1		

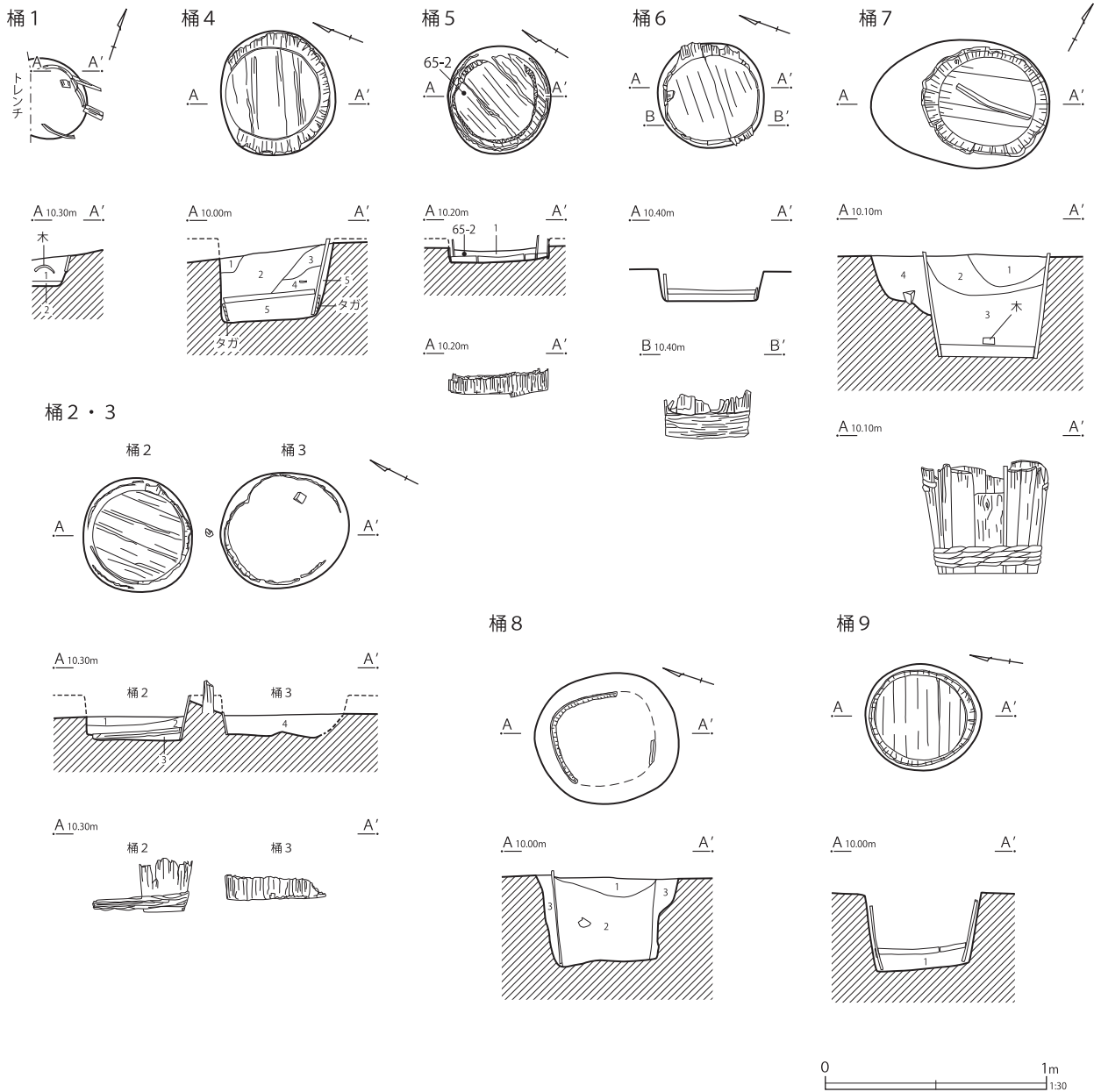
金属製品では、第65図3に鑿を示した。刃幅2.3 cm、首の長さ4.0 cmである。茎に柄の木質が残存している。

時期は、出土陶磁器から18世紀後半～19世紀

初頭とみられる。

第8号埋設桶 (第63図)

B6-J1グリッドに位置し、第1号建物跡の区画内にあたる。



- 桶1
 1 黒褐色土
 2 褐灰色土
- 桶2・3
 1 暗褐色土 粘性やや弱い しまりやや弱い 白色粒微量含む 黒色粒微量含む 焼土少量含む (桶2)
 2 暗褐色土 粘性やや弱い しまりやや弱い 白色粒微量含む 焼土少量含む (桶2)
 3 掘方
 4 暗褐色土 粘性やや弱い しまりやや弱い 炭化物ブロック少量含む 褐色ブロック少量含む 焼土まだらに少量含む (桶3)
- 桶4
 1 褐色土 粘性やや弱い しまりやや弱い 焼土ブロック少量含む
 2 灰黄褐色土 粘性やや弱い しまりやや弱い 白色粒微量含む 黄褐色ブロック少量含む
 3 にぶい黄褐色土 粘性やや弱い しまりやや弱い 焼土ブロック微量含む 炭化物ブロック少量含む
 4 褐色土 粘性やや弱い しまりやや弱い 焼土ブロック少量含む 白色粒少量含む 黄褐色ブロック少量含む
- 桶5
 1 灰黄褐色土 粘性弱い しまり弱い 焼土ブロック少量含む 白色粒微量含む

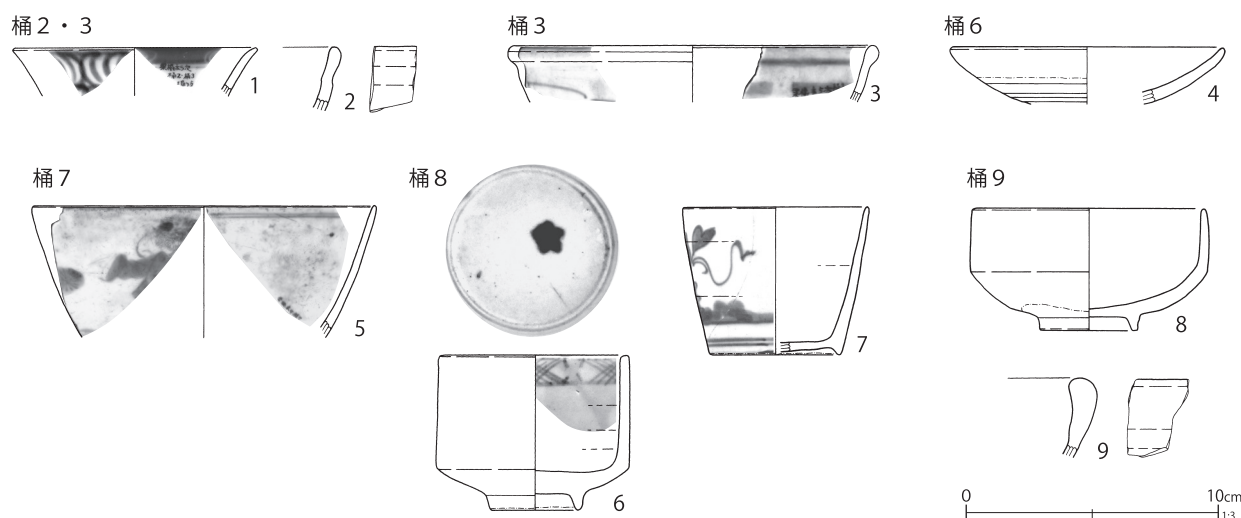
- 桶7
 1 黒褐色土 やや粘性あり、ブロック状にまとまる
 2 褐灰色土 砂質で、上下層に比べて明るい色調
 3 褐灰色土 砂質だが、粘性あるブロック状の土が混じる
 4 にぶい褐色土 炭化物と橙色粒子を含む (掘方)
- 桶8
 1 灰黄褐色土 やや砂質
 2 黒褐色土 炭化物を含み、やや砂質で粘性は少ない
 3 掘方
- 桶9
 1 掘方

第63図 埋設桶

第38表 埋設桶計測表

[] は推定、単位：m

番号	グリッド	外径	高さ	内法		掘り方径	掘方深さ	備考
				内径	深さ			
1	B5-I10	0.30	-	0.27	-	-	-	
2	B6-J1	0.46	0.19	0.44	0.17	-	0.10	SK8 より新 (写真から判断)
3	B6-J1	0.49	0.11	0.48	-	-	-	SK8 より新 (写真から判断)
4	B6-J1	0.55	0.37	0.53	0.27	[0.56]	0.36	外径は平面図を計測、掘方径は推定
5	B6-J1	0.45	0.10	0.42	0.08	-	-	入れ子外桶
		0.33	0.08	0.32	-	-	-	入れ子内桶
6	B5-I10	0.42	0.12	0.40	0.07	0.48	0.16	杭列1の関連施設か
7	B5-I10	0.58	0.47	0.55	0.42	0.80	0.45	
8	B6-J1	0.47	0.42	0.42	-	0.64	0.41	
9	B6-J1	0.48	0.31	0.46	0.22	0.54	0.35	SK8 と重複



第64図 埋設桶出土遺物 (1)

第39表 埋設桶出土遺物観察表 (1) (第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(9.5)	[1.9]	-	-	5	良好	灰白	桶2・3	掘方 瀬戸美濃系 施釉 染付	
2	土師質土器	把手付鍋	-	[2.5]	-	CI	5	普通	にぶい黄橙	桶2・3	掘方 内面僅かに黒化	
3	磁器	皿	(14.1)	[2.2]	-	-	5	良好	白	桶3	肥前系 施釉 染付 被熱	
4	陶器	灯明皿	(10.6)	[2.2]	-	K	20	良好	灰白	桶6	京都信楽系 施釉	
5	磁器	碗	(13.4)	[5.2]	-	-	10	良好	白	桶7	肥前系 施釉 染付 被熱 煤付着	
6	磁器	碗	(7.0)	6.1	3.4	I	80	良好	灰白	桶8	肥前系 施釉 (外面青磁釉) 内面染付	32-8
7	磁器	猪口	(7.3)	5.8	(5.1)	IK	40	良好	白	桶8	肥前系 施釉 外面染付	32-9
8	陶器	碗	(8.9)	[4.3]	(3.6)	IK	50	良好	灰白	桶9	瀬戸美濃系 灰釉	32-10
9	陶器	こね鉢	-	[3.0]	-	I	5	良好	灰白	桶9	瀬戸美濃系 灰釉	

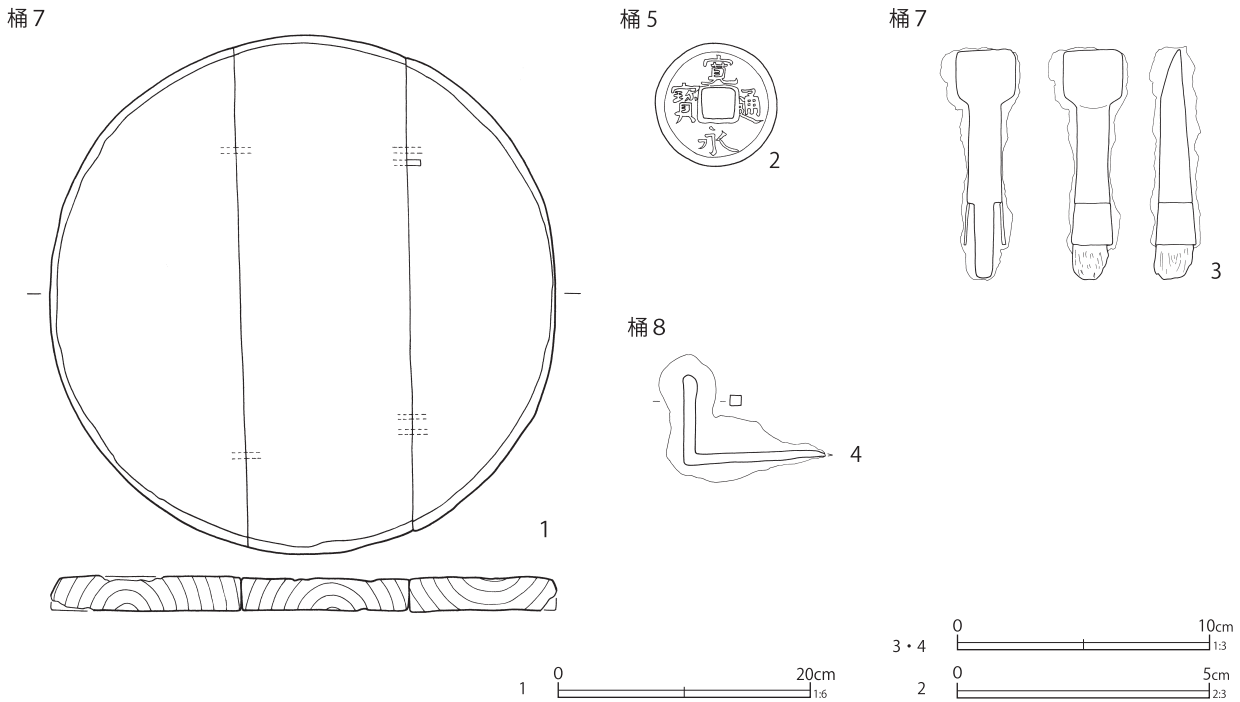
遺存状態は悪く、南半の側板は失われており、底板も残存していなかった。平面において掘方は検出できず、断面で確認した。平面図中の線は推定である。

出土陶磁器は少ない。第64図6に肥前系磁器の外面青磁筒形碗、7に肥前系磁器の輪高台猪口を示した。このほかに、肥前系磁器の梅樹文碗が

出土している。

金属製品では、第65図4に鉄釘を示した。錆化が著しいが、中央付近で直角に曲げられており、折れ釘の可能性はある。

時期は第6号埋設桶に近い、18世紀後半以後とみられる。



第65図 埋設桶出土遺物（2）

第40表 埋設桶出土遺物観察表（2）（第65図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	桶	41.5	40.5	2.6	—	—	—	板目	桶7	蓋ないし底板 文字資料3	56-3
2	銅製品	錢貨	径23.5 厚さ1.1 重さ1.9							桶5		
3	鉄製品	鑿	長さ9.0 刃幅2.3 重さ62.5							桶7		
4	鉄製品	釘	長さ[5.6] 幅0.5 厚さ0.5 重さ40.0							桶8		

第9号埋設桶（第63図）

B 6-J 1 グリッドに位置する。第8号土壇、第4号埋設桶と近接するが、重複しない。

出土遺物は、第64図8に瀬戸美濃系陶器のせんじ碗、9に瀬戸美濃系陶器のこね鉢を示した。このほかに、肥前系磁器のくらわんか碗、御神酒徳利、益子系陶器のこね鉢などが出土している。

時期は、出土陶磁器から19世紀後葉と推定される。

（4）埋設甕

1基が確認された。第1号は第1号井戸跡の一部と判断したため、整理段階で欠番とした。

第2号埋設甕（第66図）

B 6-J 1 グリッドに位置する。第4号建物跡に関連する施設と考えられる。西側で重複する第

1 a号木桶より新しい。遺構図を第66図に示し、計測値は第41表に示した。

甕の底部が残存するのみである。底部の丸みに合わせて地面を掘り込み、甕を据えてあった。

図示しうる遺物はなかったが、埋甕を構成するモルタルが付着した土器の甕のほか、肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台皿が出土している。

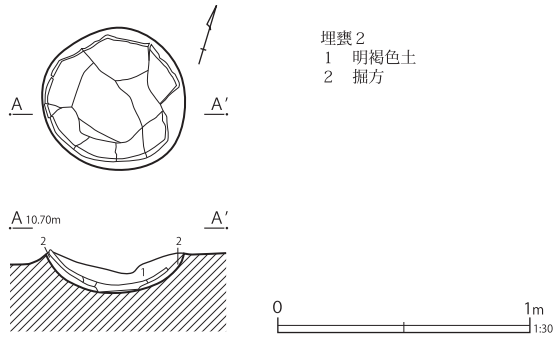
時期は、19世紀後葉以降とみられる。

（5）埋納遺構

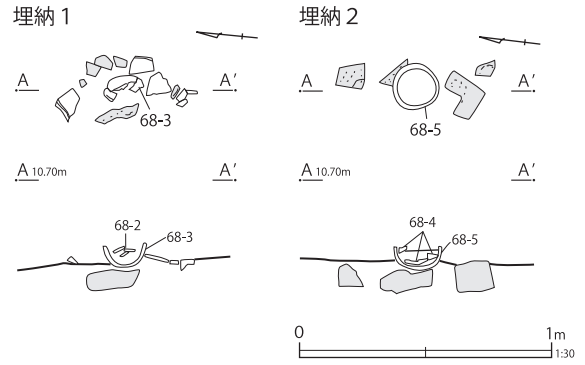
第1号建物跡の東で、土師質の蓋付鉢が2基、南北に並んで確認された。いずれも朶衣壺とみられ、第1号建物跡に関連するものと考えられる。遺構図を第67図に、計測値を第42表に示した。

第1号埋納遺構（第67図）

C 6-A 1 グリッドに位置する。2基の埋納遺



第66図 第2号埋設甕



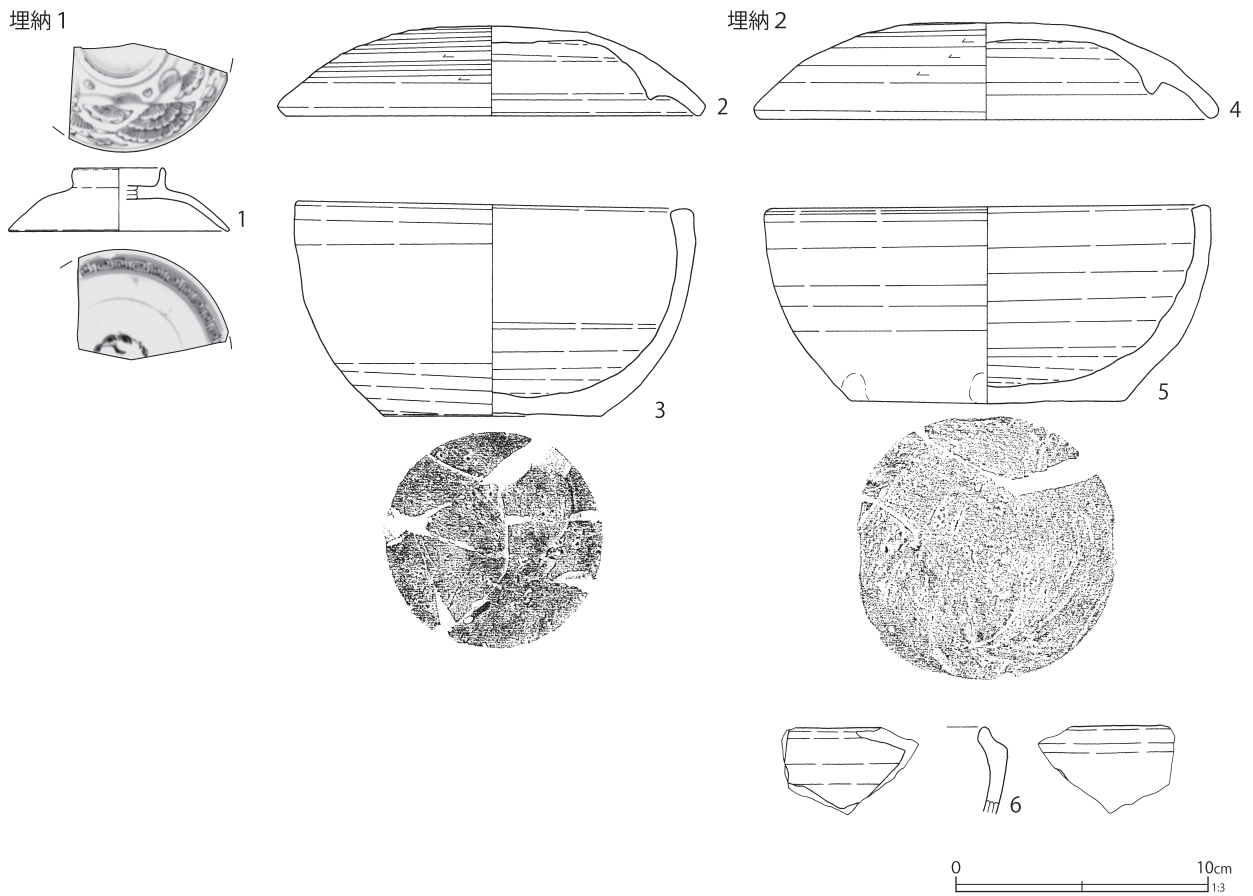
第67図 埋納遺構

第41表 埋設甕計測表

番号	グリッド	外径	高さ	内法		掘方径	掘方深さ	備考
				内径	深さ			
2	B6-J1	0.47	0.17	0.44	0.14	0.55	0.15	木樋 1a より新

第42表 埋納遺構計測表

番号	グリッド	外径	高さ	内法		掘方径	掘方深さ	備考
				内径	深さ			
1	C6-A1	0.17	0.10	0.15	0.09	-	-	
2	B6-J1	0.19	0.10	0.16	0.09	-	-	



第68図 埋納遺構出土遺物

第43表 埋納遺構出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	(8.6)	2.5	(3.4)	—	25	良好	白	埋納1	瀬戸美濃系 施釉 染付	33-1
2	土師質土器	蓋	—	3.5	16.3	CFHIK	85	良好	橙	埋納1	外面上位回転ケズリ胞衣壺	33-2
3	土師質土器	胞衣壺	15.5	8.4	8.6	CFHK	98	良好	橙	埋納1	底部糸切痕をナデ調整	33-2
4	土師質土器	蓋	—	3.8	17.7	CHIK	90	普通	橙	埋納2	外面上位回転ケズリ胞衣壺	33-3
5	土師質土器	胞衣壺	17.0	7.8	10.8	CFH	100	普通	橙	埋納2	底部糸切痕	33-3
6	土師質土器	鉢	—	[3.4]	—	ACHIK	5	普通	にぶい橙	埋納2		

構のうち北側にあたる。第1b号木樋の西側に土師質の鉢が据えられ、その周囲が瓦片と石で囲まれていた。

蓋は破片で中に落ち込んでいた。埋設された掘り込みが同大であり、掘方は確認できなかった。出土遺物を第68図1～3に図示した。1は瀬戸美濃系磁器の端反碗蓋である。2と3は胞衣壺の蓋と身である。蓋は外面上部に回転ヘラケズリ調整、身は底部に回転糸切り痕が認められる。

時期は19世紀前半以降とみられる。

第2号埋納遺構 (第67図)

B6-J1グリッドに位置する。2基の埋納遺構の北側にあたる。第1b号木樋に近接する。石が周囲を囲み、一部の石の上に乗る状態で検出した。第1号埋納遺構とは異なり、瓦片は使用されていない。

蓋は破砕状態で内部に落ち込んでいた。埋設された掘り込みは同大で、掘方は確認できなかった。

出土遺物を第68図4～6に図示した。4と5は胞衣壺の蓋と身である。蓋は外面上部に回転ヘラケズリ調整、身は底部に回転糸切り痕が認められる。作りは第1号埋納遺構と同じだが、大きさが一回り大きい。このほかに在地系土器の焙烙が出土している。

時期は不明である。

(6) 井戸跡

井戸跡は1基、第1号建物跡の南で確認された。第一面にてモルタルで接合された土管が検出され、その下から木樋が確認された。調査時に土管を第1号埋納、下の桶構造を第二面の井戸跡とし

た。調査段階から同一遺構の可能性を認識しており、整理段階で第一面の第1号井戸跡とした。

第1号井戸跡 (第69・70図)

B6-J1・C6-A1グリッドに位置する。第69・70図に遺構図を示し、計測値を第44表に示した。

第1号溝跡と重複し、溝跡よりも新しい。第1号建物跡と同一区画内であるが、出土遺物から建物跡よりも新しいとみられる。

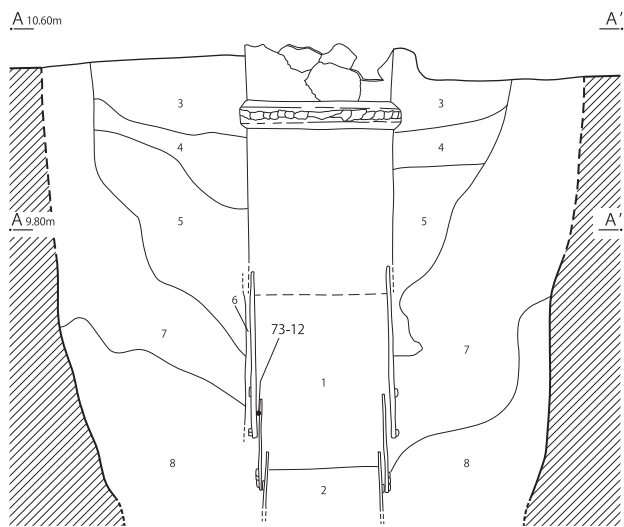
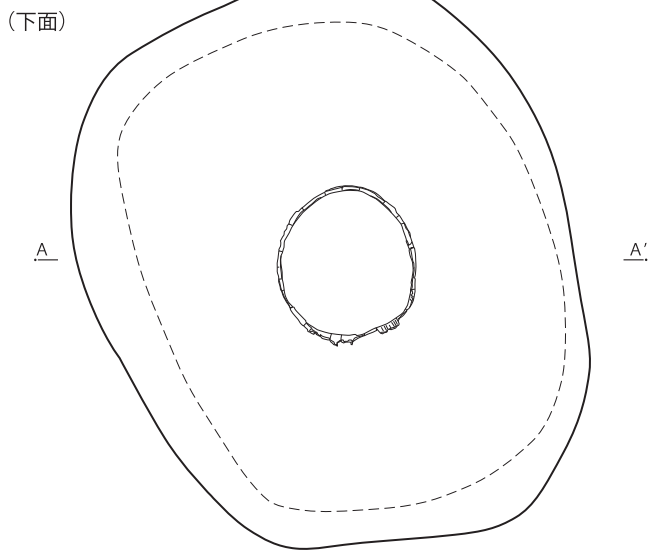
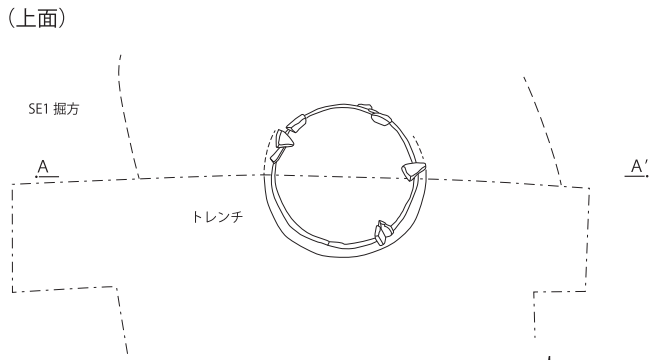
上下2段の構造となっており、上述したように上部はモルタルで接合された土管である。元々あった井戸の上部に連結していることを、土層断面で確認した。

下部は底板を抜いた木樋を3段以上重ねた構造である。1段目と2段目の間から銭貨と硝子製筭が出土した。このほかの遺物は、井戸内部下層および掘方から出土した。

陶磁器は第71図1～5に示した。1は肥前系磁器の戸車で、下層からの出土である。2は白土化粧に鉄絵で描かれた陶器の土瓶蓋、5は瀬戸美濃系陶器の皿で、緑釉が施釉されている。4は土師質の井戸枠で、上部には菱形文が描かれている。被熱し煤が付着している。3は常陸産土師質土器の壺底部である。

このほかに掘方から瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿や、江戸在地系土器の丸底焙烙が出土している。

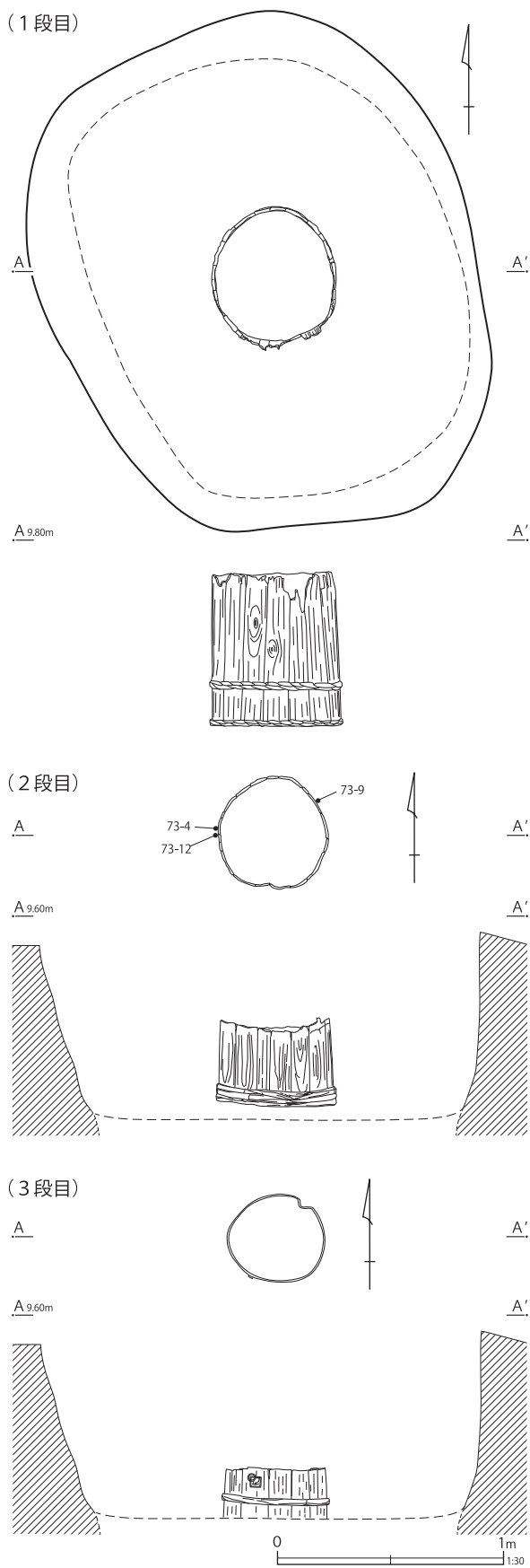
木製品は、第72図1と2に井戸枠に使用された桶を示した。1は外面に「伏見町八丁目」の焼印が施されている。2は2枚貼り合わせの状態、つなぎ目の上から「尾州名古屋」の焼印が施されている。いずれも現在の愛知県名古屋市の地名で



- SE1
- 1 明黄褐色土 コンクリートなど上部からの落下物を多数含む
 - 2 黒褐色土 砂質で色調も異なり、1層とは明確に分離される 1層より古い遺物を含む
 - 3 褐色土 炭化物・小礫含む 掘方
 - 4 褐灰色土 やや粘性あり 掘方
 - 5 にぶい黄褐色土 炭化物ブロック少量含む 粘性やや強い しまりやや強い
 - 6 灰黄褐色土 褐色ブロック少量含む 粘性やや弱い しまりやや弱い 掘方
 - 7 褐灰色土 炭化物ブロックまだらに多く含む 灰白ブロック少量含む 粘性やや弱い しまりやや弱い 掘方
 - 8 褐灰色土 炭化物ブロック少量含む 粘性やや弱い しまりやや弱い 掘方



第69図 第1号井戸跡(1)



第70図 第1号井戸跡(2)

あり、桶の提供元とみられる。

金属製品は第73図に示した。1～3は銅製煙管の吸い口、4・5は銅製簪、6は銅製の十能、7は鉄製火箸、8は火打金、9～12は銭貨である。9～11は寛永通宝、12は上述した木桶1段目と2段目の間から出土した文久永宝である。

時期は、井戸内部の陶磁器が19世紀後半以後で井戸の廃絶時期を示すと考えられる。掘方出土のものは18世紀の遺物のみである。

(7) 杭列

1条を第5地点第1b号木桶の南で確認した。第1b号木桶、第6号埋設桶と組み、同遺構を構成すると考えられる。本来は板材と組み合う木桶の可能性が高いが、板材がほとんど残存せず土留め杭列のみを検出した。遺構図は、第5地点第1a号木桶・第1b号木桶とともに第17図に示した。計測値は第7表に示す。

第1号杭列(第17図)

B5-I10グリッドに位置する。長さは4.8m、ほぼ南北に延びる。第7号木桶と重複し、第2号木桶が隣接し、接続すると考えられる。

杭材は、先を尖らせた径5cmの丸太を15cm間隔で打ち込み、9～30cmの間を置き、2列に並べたものである。列間は、ほぼ木桶幅に等しい。第6号埋設桶付近で、木桶底板の可能性のある板材(長さ0.78m、幅0.29m)を検出した。杭列の南端は第6号埋設桶に接し、杭間はほぼ桶の直径に等しい。杭と桶の接続等は遺存が悪く、確認できなかった。覆土上層は炭化物を多量に含んでいた。

敷地境界につくられた施設で、第5地点第1b号木桶の土留めとみられる。第6号埋設桶との接続部分付近で道路跡に接していたと考えられる。

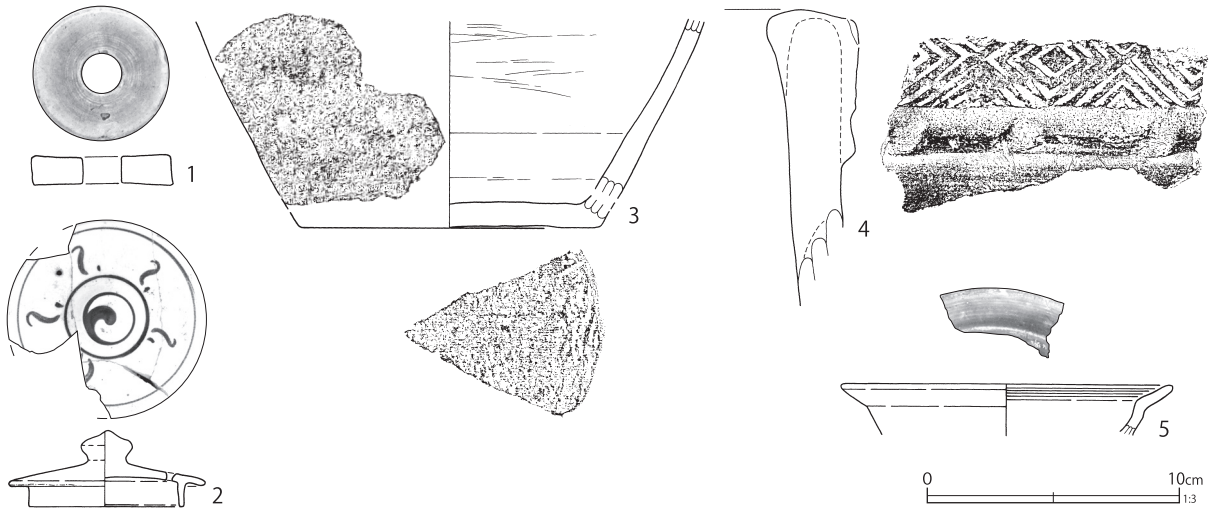
(8) 木桶

木桶は8条確認されたが、ここでは第1号建物跡と第4号建物跡の間で検出された第1a号木

第44表 井戸跡計測表

単位：m

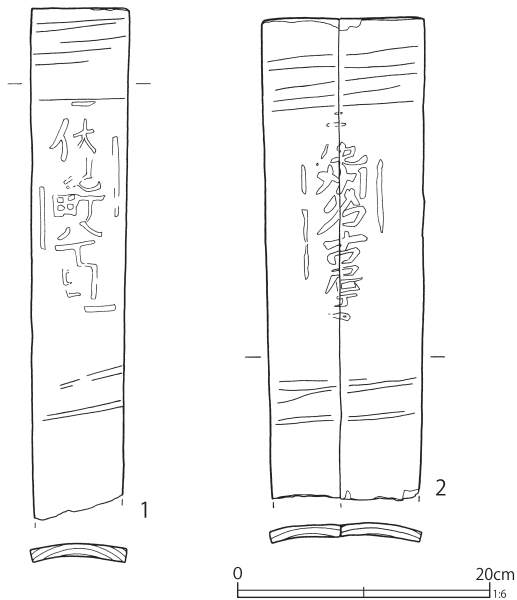
番号	グリッド	外径	高さ	内径	掘方径	掘方深さ	備考
1	B6-J1, C6-A1	0.59	1.83	0.47	2.03	1.78	タガ外径 0.61 SD1 と重複、SB1 より新



第71図 井戸跡出土遺物（1）

第45表 井戸跡出土遺物観察表（1）（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	戸車	径 5.5	厚 1.2		—	100	良好	白	SE1	下層 肥前系 側面施釉	33-4
2	陶器	蓋	—	2.9	6.2	—	60	良好	浅黄	SE1	下層 外面白土・施釉・鉄絵 最大径 7.7 cm	33-5
3	陶器	壺	—	[8.3]	(11.9)	ADE	5	普通	にぶい赤褐	SE1	下層 常陸産	
4	土師質土器	井戸枠	—	[11.6]	—	ADG	10	普通	にぶい赤褐	SE1	下層 外面上位施文	
5	陶器	皿	(13.0)	[2.0]	—	—	5	良好	灰白	SE1	掘方 瀬戸美濃系 緑釉	33-6



第72図 井戸跡出土遺物（2）

第46表 井戸跡出土遺物観察表（2）（第72図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	桶	[41.0]	7.3	1.1	—	—	—	板目	SE1	タガ痕 焼印 文字資料 14	56-14
2	木製品	桶	[38.5]	12.9	0.9	—	—	—	板目	SE1	側板 裏面炭化 タガ痕 焼印 文字資料 15・16	51-1 56-15

樋・第1 b号木樋2条について報告する。

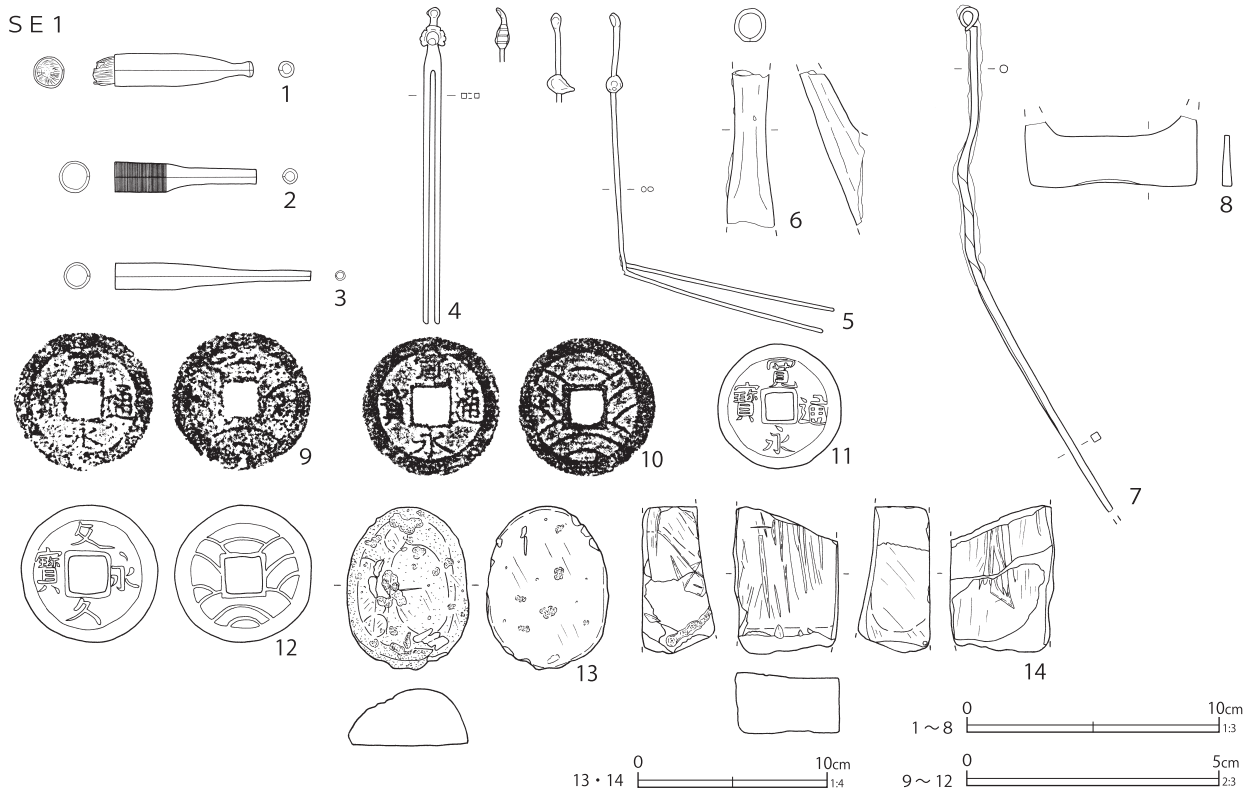
第2号木樋以下は、第1号道路跡の付属施設とみられることから、道路状遺構の項で報告する。

第1 a号木樋（第74図）

B6-J1・C6-A1グリッドに位置する。第74図に遺構図を示し、計測値は第48表に示した。

レベル差のある2本の木樋が重複して南北に走向しており、調査時は1条の木樋としていたが、整理段階で遺構番号を分けた。東側の第1 a号木樋の方が5～10cm検出面が高く、新しいと考えられる。

第1号建物跡と第4号建物跡の間を南北に通り、いずれともほぼ同一軸であるため、敷地境界に埋設されていたと考えられる。



第73図 井戸跡出土遺物（3）

第47表 井戸跡出土遺物観察表（3）（第73図）

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ5.5 小口径1.2 口付径0.6 重さ7.9	SE1	吸口 羅字残存	53-4
2	銅製品	煙管	長さ5.6 小口径1.2 口付径0.6 重さ8.1	SE1	堀方 吸口	53-4
3	銅製品	煙管	長さ7.8 小口径1.0 口付径0.4 重さ7.9	SE1	堀方 吸口	53-4
4	銅製品	簪	長さ12.5 幅0.7 厚さ0.2 重さ7.6	SE1		53-6
5	銅製品	簪	長さ12.7 幅1.1 厚さ0.2 重さ7.9	SE1		53-6
6	銅製品	十能	長さ[6.2] 幅[1.9] 厚さ0.2 重さ19.2	SE1	柄の一部	53-4
7	鉄製品	火箸	長さ[20.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ20.4	SE1	堀方 3回振り	53-3
8	鉄製品	火打金	長さ2.8 幅6.6 厚さ0.4 重さ24.9	SE1		53-3
9	銅製品	銭貨	径28.1 厚さ1.4 重さ3.6	SE1	寛永通寶（四文銭）	
10	銅製品	銭貨	径27.9 厚さ1.2 重さ3.8	SE1	堀方 寛永通寶（四文銭）	
11	銅製品	銭貨	径24.5 厚さ1.3 重さ3.6	SE1	最下層桶中 寛永通寶（新）	
12	銅製品	銭貨	径27.1 厚さ1.2 重さ4.1	SE1	文久永寶	
13	石製品	磨石	長さ8.6 幅6.4 厚さ3.0 重さ71.1 石材 角閃石安山岩	SE1	多孔質 自然面使用	55-1
14	石製品	砥石	長さ[7.7] 幅5.6 厚さ3.8 重さ223.5 石材 砂岩	SE1	堀方 ノコギリ痕 ツルハシ状工具痕 刃物痕 砥面4	54-5

北東側で第2号埋設甕と重複し、第1 a号木樋が古い。

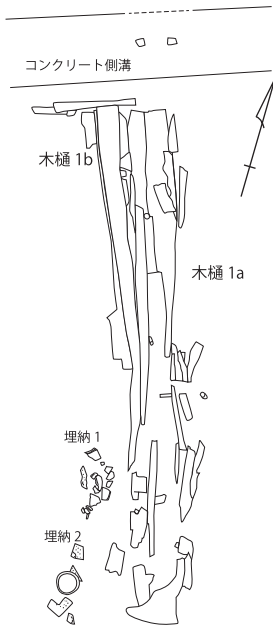
遺存状態は悪い。蓋はなく、長さ2mの板材がU形に組み立てられていた。堀方は検出されなかった。

第5地点第1号木樋でみられたものと同様の杭列が、西側の側板に沿って底板を貫くように打たれていた。杭列の北端は、コンクリート製側溝の

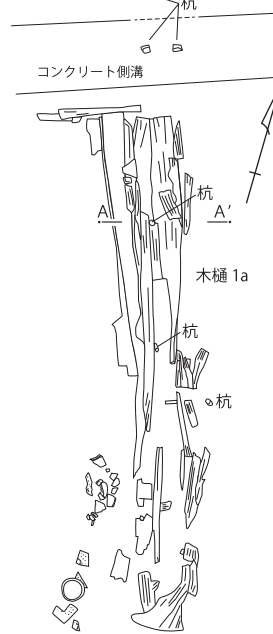
下で検出された。30～40cm東でも同様の杭列が見つかっており、第1 a号木樋とレベルがほぼ同一であるため、第1 a号木樋の一部として図示した。

出土遺物は第1号木樋として一括して取りあげている。陶磁器を第75図に、観察表は第49表に示した。1は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗、2は肥

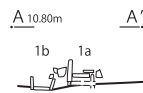
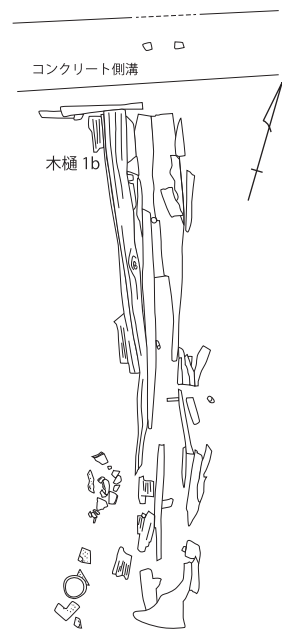
木樋1 a・1 b



木樋1 a



木樋1 b



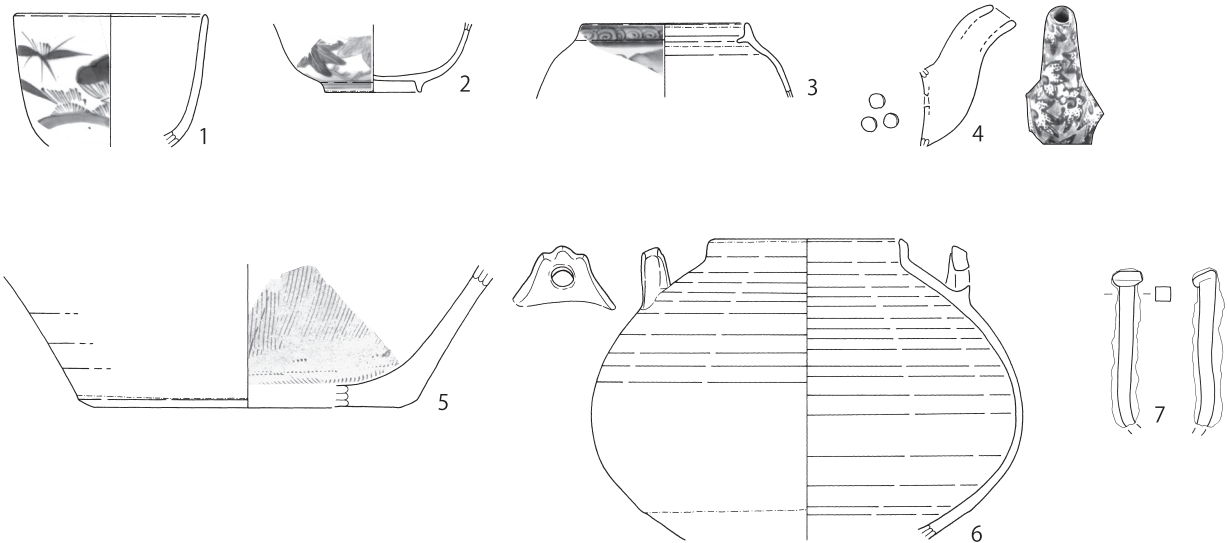
第74図 第1 a・1 b号木樋

第48表 木樋計測表

単位：m

番号	グリッド	長さ	外法		掘方			方位	備考
			幅	深さ	長さ	幅	深さ		
1a	B6-J1, C6-A1	4.10	0.25	0.12	-	-	-	N-18° -W	内法 0.20m、深さ 0.07m、木樋1bより新、埋納2より古
1b	B6-J1, C6-A1	3.70	0.18	0.10	-	-	-	N-21° -W	内法 0.15m、深さ 0.07m、木樋1aより古

木樋1



第75図 第1 a・1 b号木樋出土遺物

第49表 木樋出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(7.4)	[5.2]	—	—	25	良好	白	木樋1	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	33-7
2	磁器	碗か	—	[2.6]	(3.8)	—	30	良好	白	木樋1	肥前系 施釉 外面染付	
3	磁器	急須	(6.4)	[2.9]	—	—	15	良好	白	木樋1	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付	
4	陶器	土瓶	—	[5.5]	—	I	5	普通	黒褐	木樋1	外面白土染付	
5	陶器	播鉢	—	[5.6]	12.0	IK	5	不良	淡黄	木樋1	益子系か 外面柿釉 内面播目（使用により摩耗）	
6	陶器	土瓶	(7.4)	[11.8]	—	IK	30	普通	灰白	木樋1	外面青緑釉	
7	鉄製品	釘	長さ [6.1] 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 11.7								木樋1	

前系磁器薄手碗の可能性はある。3は酸化コバルト染付の瀬戸美濃系磁器急須、4は白土染付の陶器土瓶、5は益子・笠間系の播鉢、6は青緑釉土瓶である。

このほかに酸化コバルト染付の瀬戸美濃系磁器爛徳利等が出土している。

金属製品は、第75図7に鉄釘を示した。二寸の巻頭釘とみられる。

時期は、出土陶磁器から19世紀後葉と考えられる。

第1b号木樋（第74図）

第1a号木樋より5～10cm下のレベルから検出された。本遺構が古い。

遺存状態は悪い。構造は第1a号木樋と同様である。蓋はなく、長い板材が□形に組み立てられていた。堀方は検出されなかった。

出土遺物は、第1a号木樋と一括で取り上げているため分離できないが、特に新旧に分離できるような様相は見られない。

時期は、第1a号木樋より古いため、19世紀後葉以前と考えられる。

（9）道路跡

第1号道路跡（第76～78図）

調査区中央付近に東西方向の道路跡を確認した。現道とほぼ一致しており、日光道中の一部とみられる。道路跡は、硬化面と道路南北縁に沿って走行する木樋で構成される。

調査時には、第2号木樋と第3・5号木樋が対になり、第4号木樋が第2号木樋より下層の硬化

面に対応するため、道路面を大きく2面に分かれるものとして、上面を第1号道路跡、下面を第2号道路跡とした。

しかし木樋列は北側の本数が多く、第4号木樋に対応する木樋が南側では確認できなかった。さらに硬化面が自然堆積層まで6面あり、断絶することなく継続使用・補修されていたと推定された。そのため、明確に二つの「面」としての認定は困難であるため、整理段階で第1号道路跡のみとして取り扱うこととした。

調査では、硬化面を6面、木樋を6条検出した。木樋は第2、4、6、7号木樋が道路北側、第3、5号木樋が道路南側に位置する。平面図を第76図、断面図を第77・78図、木樋の遺構図を第79～84図に示し、第50・51表に計測値を示した。

道路幅は、道路に対して直交するトレンチ4とトレンチ8で、硬化面または路盤を構成する層の長さを測ることで計測した。下層の硬化面は上層の木樋に切られてはつきりしないが、おおむね6.0～7.0m前後、第2号木樋—第3号木樋間に相当する。

路盤とみられる第10層～15層まで、出土遺物を層位ごとに取り上げた。層位で取り上げた遺物は第85～87図に、遺物観察表は第52表に示した。また道路の縁に位置する木樋から出土した遺物は第88～92図に、観察表は第53～56表に示した。

以下、硬化面ごとに帰属する路盤、木樋と出土遺物について報告する。

①硬化面1

トレンチ4で計測した道路幅は、北側で3.8m、

南側で1.6mである。路盤は第10層と第11'層である。第2号木樋を伴う。

道路中央部分で検出できない箇所があり、南北で硬化面2が沈下していることから、硬化面2が補修された面と考えられる。第10層は、第11'層が削り出されて造成されている。

第10層の出土陶磁器を、第85図1～8に示した。7は京都信楽系陶器の脚付灯火具、8は肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台皿、ほかは瀬戸美濃系磁器である。1は蓋、2と4は銅版転写染付の碗、3は酸化コバルト染付の坏、5は銅版転写染付の坏、6は酸化コバルト染付急須の把手である。

時期は、出土陶磁器から19世紀後半以後とみられる。

第2号木樋 (第79・80図)

B5-I10・B6-I1グリッドに位置する。道路跡の北側、6条の木樋のうち北から二本目にあたる。遺構図を第79・80図に示した。

軸方向は東西方向で、硬化面1と2に被覆されていた。

道路中央付近で第1号木桶と第1号木柵に接続する。東側は遺存状態が良好で、蓋から底部まですべて残存していた。対して木柵より西側の遺存状態は悪く、調査区壁面で掘方が確認されたのみである。

幅は外法で17～21cm、内法で15cm、深さは8～12cm。蓋厚は1.5cm。長さ3.7m以上の板材が断面U形に組まれており、板材同士の接合には鉄釘を使用していた。木樋は、直接掘方に埋設されていた。木樋中央付近には、蓋のほかに粗割りした板を被せて二重の蓋としてあった。

遺物は、木桶・木柵の周囲を中心に出土した。

陶磁器は、第88図1～15に示した。1～4は磁器で、1は内面に陰刻文のある瀬戸美濃系の碗、2は瀬戸美濃系の卵殻手坏で、内面上絵付けで文字が書かれている。3に瀬戸美濃系の坏、4に肥前系の仏飯器を示した。5～14に陶器を示し

た。5は萩系の外面鉄釉ピラ掛けの碗、6・7・11は京都信楽系で、6は灯明皿、7は瓶類、11は水注の可能性がある。8と9は堺明石系の播鉢、10は青緑釉土瓶である。12は信楽系の大型壺で、内面に鉄釉が刷毛塗状に施釉されている。13はヨーロッパ系の皿で、11層出土片と同一個体とみられる。土器は14に火鉢、15に竈鏝を示した。

第89図34に土製品を示した。京都系の虚無僧人形である。前後合わせ型成形で、前の一部のみ残存する。

瓦は、第90図1～5に示す。1は軒丸瓦、2は軒棧瓦、3と4が棧瓦である。5は丸瓦だが小口が平滑に加工されており、砥具に転用されている可能性がある。

第91図1～4、8・9に木製品を示した。1～4は木樋の部材で、1には径1cmの鉄釘が残存している。

第92図4と5に金属製品を示した。いずれも寛永通宝の四文銭である。

時期は、出土陶磁器から19世紀後葉以後とみられる。

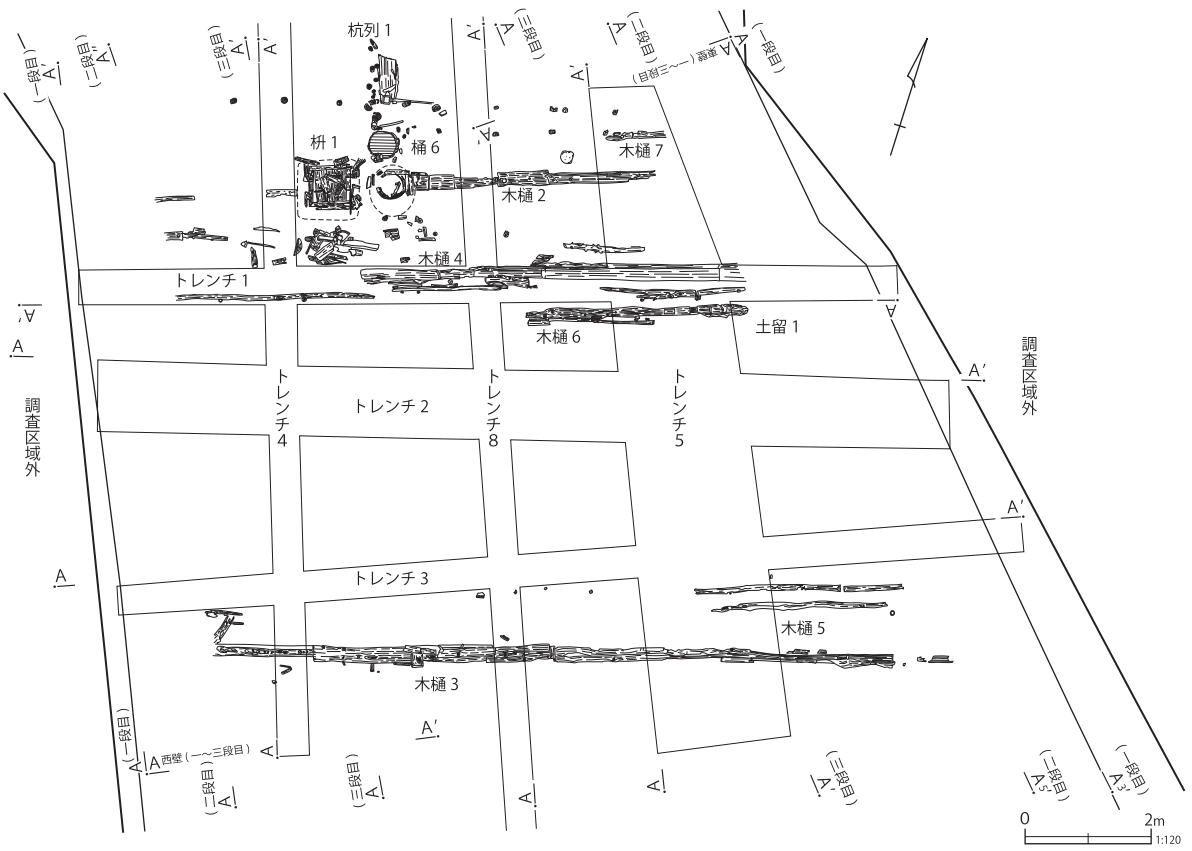
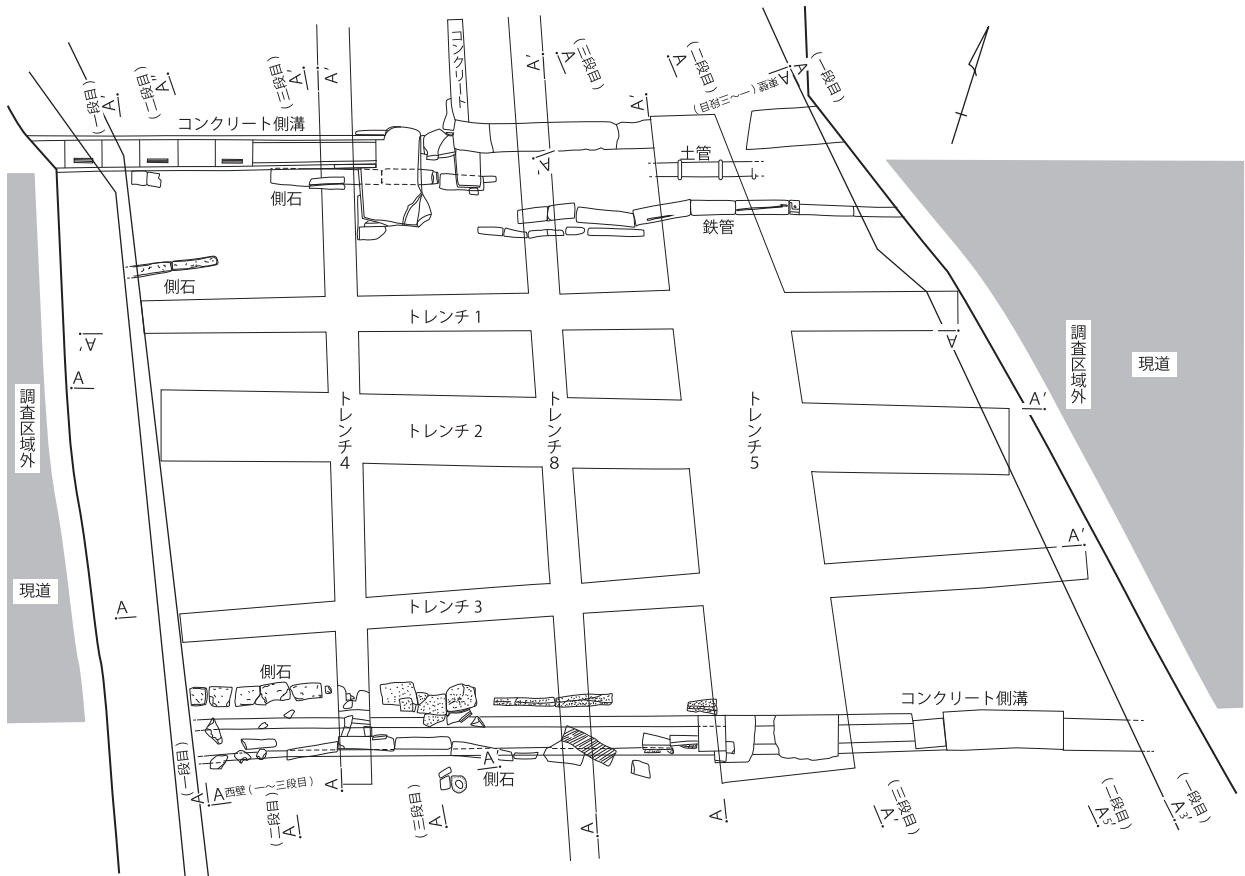
第2号木樋第1号木桶 (第80図)

B5-I1グリッドに位置する。北に第1号杭列と第6号埋設桶が隣接する。第1号杭列の項で述べたように、第5地点第1b号木樋は第2号木樋に接続すると考えられ、第1号木桶はそのための設備と考えられる。

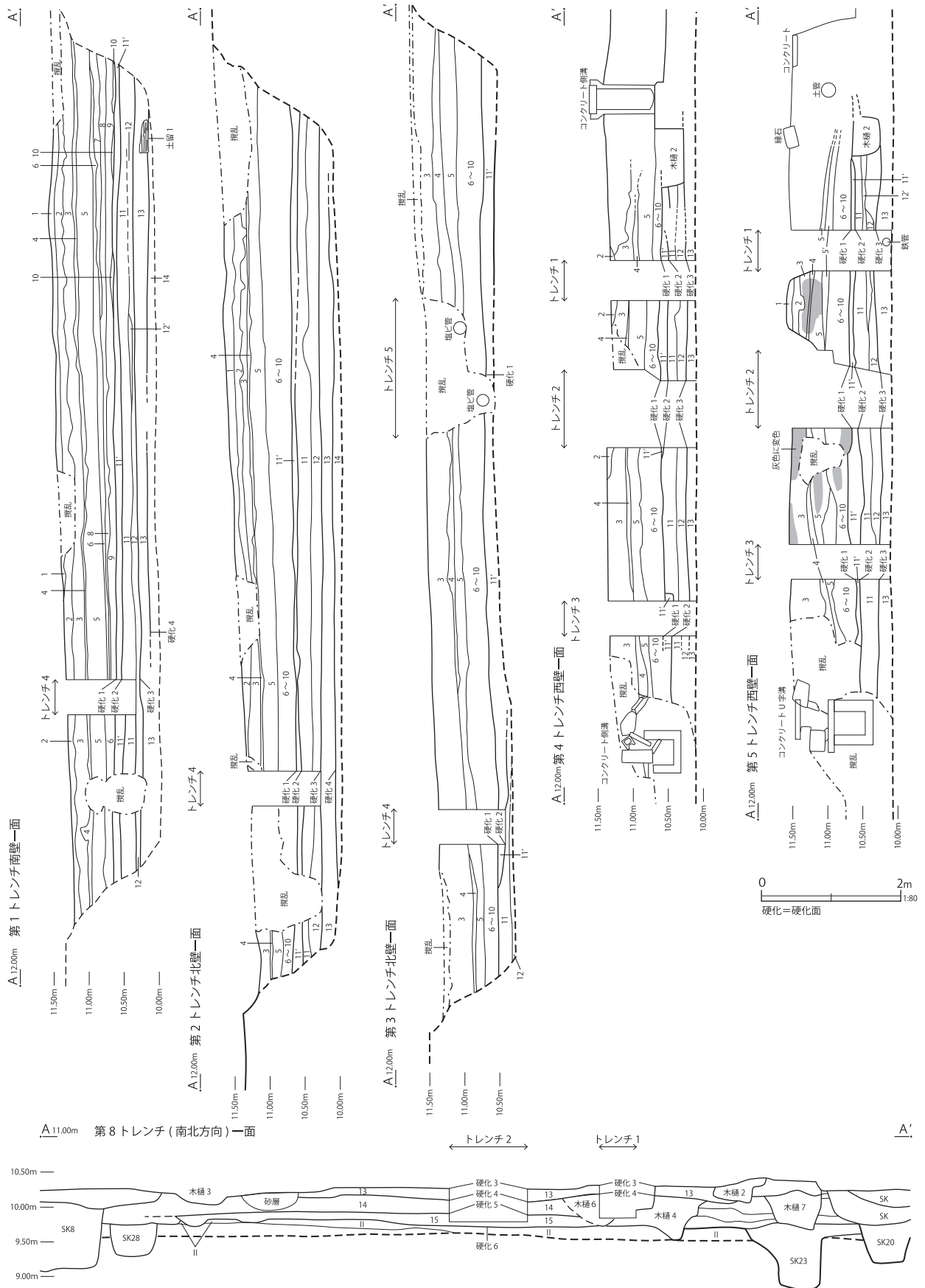
径0.7m、深さは約0.5mで、側板が遺存しており、底部と上部付近には、タガが残存していた。東側で第2号木樋、西側で第1号木柵に接続する。第2号木樋とは桶上部で接続する。木樋との接続は、桶の東側中央付近に孔を開け、木樋を蓋ごと通し、さらにその上から蓋を被せてあった。

西側は欠損のため不明瞭であったが、桶上部を切り欠いて木柵に通す木樋を乗せていた可能性がある。

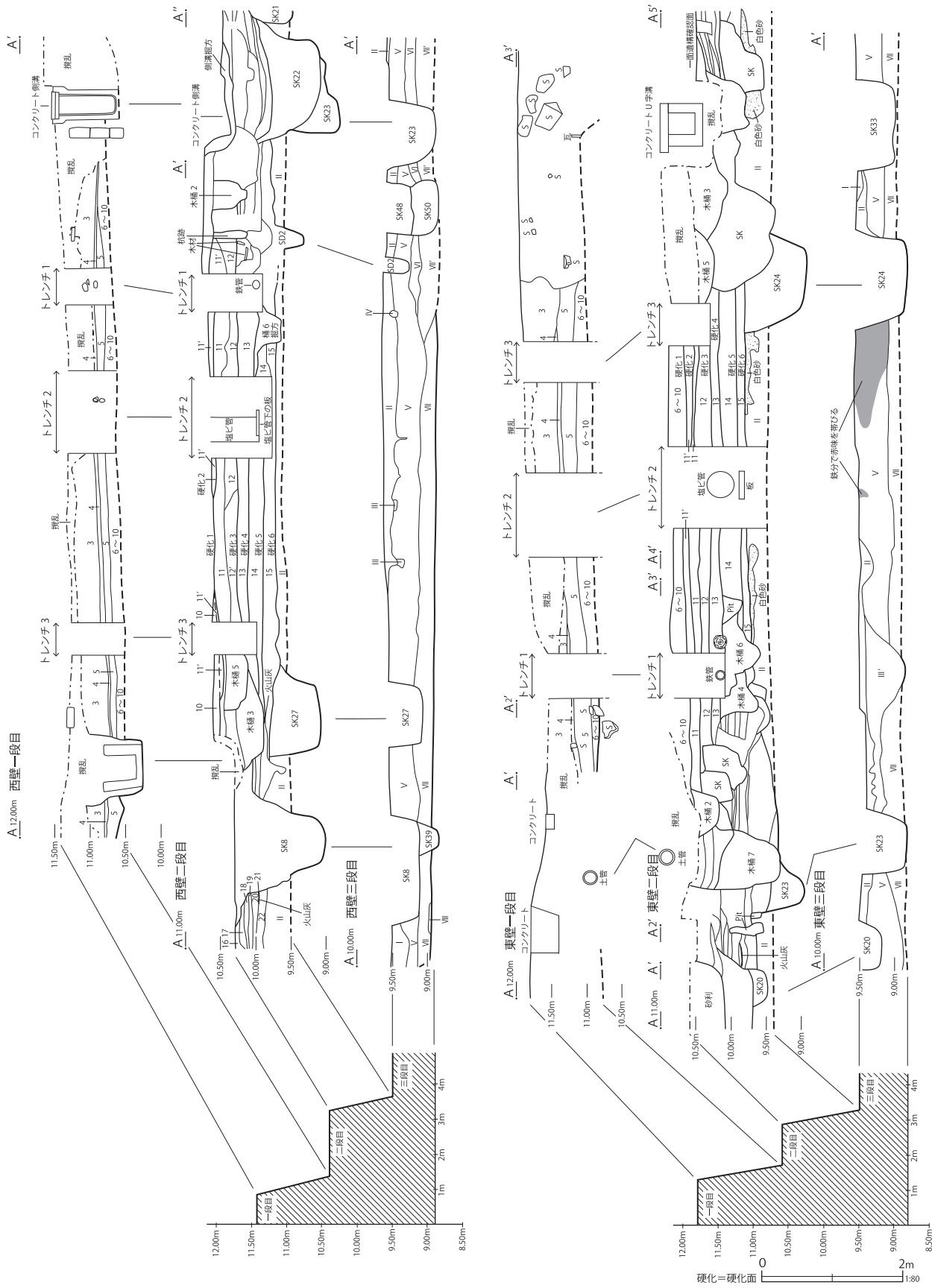
遺物は、木桶の部材と鉄釘である。木樋の部材



第76図 道路跡 (1)



第77図 道路跡(2)



第78図 道路跡 (3)

道路跡

1 明黄褐色土 (基本層序3の1層)	13 褐灰色土 硬化面 道路跡(新) (基本層序3の13層)	I 褐灰色土 砂質
2 褐灰色土 (基本層序3の2層)	14 灰黄褐色土 (基本層序3の14層)	II 黄灰色土 自然層(基本層序3の16・4の8層)
3 明褐色土 (基本層序3の3層)	15 灰色土 (基本層序3の15層)	III 黒色土 砂層
4 褐灰色土 (基本層序3の4層)	16 灰黄褐色土 均質な層 直下に一部焼土面 あり(基本層序4の1層)	III' 褐灰色土 やや粘質の灰色土や、白色砂層、褐色砂層の互層 下層はやや暗い色調
5 明褐色土 (基本層序3の5層)	17 灰褐色土 硬化層 薄層がたたき状にみられる (基本層序4の2層)	IV 黒褐色土
6 黒褐色土 (基本層序3の6層)	18 灰黄褐色土 (基本層序4の3層)	V 褐灰色土 粘性が強い
7 灰褐色土 (基本層序3の7層)	19 灰褐色土 硬化層 薄層がたたき状にみられる (基本層序4の4層)	VI 褐灰色土 VII層とほぼ同じだがやや淡い色調
8 にぶい褐色土 (基本層序3の8層)	20 灰黄褐色土 (基本層序4の5層)	VII 黒褐色土
9 明褐色土 (基本層序3の9層)	21 火山灰層 AS-Aとみられる(基本層序4の6層)	VII' 黒褐色土 VII層と色調は異なるが同じ特徴
10 黒褐色土 (基本層序3の10層)	22 暗褐色土 (基本層序4の7層)	VIII 砂層(西壁三段目)
11' 暗褐色土 還元(基本層序3の11'層)		
11 暗赤褐色土 (基本層序3の11層)		
12' 黒褐色土 還元(基本層序3の12'層)		
12 黒褐色土 砂層(基本層序3の12層)		

を第91図5～7に示した。全体に鋸痕が見られる。第92図1・2は鉄釘である。1は断面長方形のさっぱ釘である。

第2号木樋第1号木枅(第80図)

B5-I1グリッドに位置する。

平面形は一辺65cmの正方形で、底板は厚さ1.0～1.5cm、側板は厚さ6.0cmの板を箱形に組み合わせさせてあった。釘を使用せず、ホゾによって接合されている。

木樋と接続する東西の側板は、上縁中央を幅20cm、深さ5cmに四角く切り欠いてある。接続方法は不明だが、側板のくぼみに木樋を載せてあったとみられる。

木枅の内部には、厚さ2.0～3.0cmの板材が落ち込んでいた。蓋と考えられる。

板材のほかに、寛永通宝が出土している(第92図5)。

②硬化面2

トレンチ4で計測した道路幅は7.4m、路盤は第11・12層である。道路北側と南側で10cmほど沈下している。

道路北側で第2号木樋、南側で第3号木樋と第5号木樋を伴う。

第11層の出土遺物は、第85図9～20に示した。肥前系磁器は、12の外表面型押の紅皿、14の蛇ノ目凹形高台皿、15の八角鉢を示した。瀬戸美濃系磁器は、9に碗、10に卵殻手坏、11に紅皿、13に内面陽刻状施文の皿、16に内表面型押し寿文の蓮華を示した。

陶器では、17にヨーロッパ系の陶器、18に京

都信楽系の爛徳利、19に白色釉に呉須絵が描かれた土瓶、20に陶器の青緑釉土瓶の蓋を示した。17のヨーロッパ系陶器は、第2号木樋出土片と同一個体とみられ、滲みで「ON.」、「□&C9」と書かれている。20の蓋は内面に「ツル」と墨書がある。

このほかに、肥前系磁器のくらわんか碗、筒形碗、梅樹文碗、瀬戸美濃系磁器の端反碗、湯呑形碗、酸化コバルト染付の平碗、角皿、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿、京都信楽系陶器の薄手半球碗などが出土している。

時期は、出土陶磁器から19世紀後半と見られる。

第12層の出土遺物は少ない。陶磁器を第85図21～25に示した。磁器は21が瀬戸美濃系の端反碗蓋、22が肥前系の輪高台猪口である。

陶器は23が底部系切り痕のある瀬戸美濃系緑釉陶器で、灰落としの可能性がある。24は外面イッチン描きの陶器の爛徳利、25は土瓶底部で○内にカネ「十」の墨書きがある。

ほかに肥前系磁器で外面青磁の小丸碗と筒形碗、梅樹文碗などが出土しているが、瀬戸美濃系磁器は少ない。

時期は、出土陶磁器から19世紀中葉とみられる。

第3号木樋(第81・82図)

B5-J10・B6-J1・J2グリッド、道路跡南側に位置する。6条の木樋のうち、最も南側にあたる。土層断面から第5号木樋より古く、第8号土壌より新しい。

他の木樋は掘方に直接据えられていたが、本木樋は灰褐色土の掘方の上に丸太材の外側のみで作

成した基底部分を敷き、その上に木樋を据え、暗灰褐色土で固定されていた。木樋の部材には、焼印が記されているものがあった。

軸方向は東西方向で、底板は東から西へ傾斜する。断面形は西壁から6.1mまで断面V字形で、ほかはL形である。

L形部分は長さ5.7m、幅9～10cm、深さは8～11cmである。V字部分は幅12～17cm、深さはL形部分とほぼ同じで、内法で深さ7cmである。

蓋は長さ2.9m、厚さ3cmである。部材には手斧痕が残り、側面は節が整えられず蓋は端部が木目に沿って斜めに割られたのみのものがある。

木樋には、蓋の支持材が、不規則な間隔で側板の上部を幅10cm、切り欠いて嵌めこまれていた。

遺物は第89図16～30に示した。肥前系磁器は16に筒形碗底部、20に丸碗蓋、21に被熱した粗製皿を示した。瀬戸美濃系磁器は17が湯呑形碗、19が端反碗、18は端反碗蓋で同文別個体がある。陶器は26と27に堺明石系播鉢、24に瀬戸美濃系柿釉灯明皿、28に瀬戸美濃系柿釉甕、29に土瓶底部を示した。

このほかに、肥前系磁器梅樹文碗、広東碗と蓋、瀬戸美濃系陶器のせんじ碗、馬目皿、石皿、ぺこかん徳利、京都信楽系陶器の小杉碗、半球碗、陶器青緑釉土瓶などが出土している。

木製品では、第91図10と11に、上述した焼印が記された木樋部材を示した。

金属製品は、第92図6～9の煙管の雁首と吸口、寛永通宝が出土した。

硝子製品では、第89図35に筭を示した。

時期は、出土陶磁器から19世紀中葉とみられる。

第5号木樋 (第81図)

B5-J10、B6-J1グリッド、道路跡南側に位置する。6条の木樋の南から2条目、第3号木樋の北側にあたる。調査区の土層断面から、第3号木樋より新しく、硬化面1より古い。

遺存状態が悪く、調査区東側で炭化した南北の

側板の一部が残存するのみである。底板が残存しないため、走向方向は不明である。幅は外法で31～37cm、深さは13～14cmである。

出土遺物は少量である。第89図33に堺明石系の播鉢を示した。

そのほかに、肥前系磁器の小丸碗、背面青磁釉筒形碗、瀬戸美濃系陶器灯明皿等が出土している。

時期は、遺構の新旧関係から、19世紀中葉以降、後半以前に位置づけられる。

③硬化面3

トレンチ4で計測した道路幅は7.6m、路盤は第13層である。道路中央のトレンチ8では道路南側で検出されず、下層の硬化面4が道路北側で沈下していることから、硬化面4の補修された面の可能性が考えられる。

第7号木樋、第1号土留状遺構が伴うと考えられる。重複する第2号木樋、第3号木樋、第5号木樋より古い。

第13層出土遺物は、第86図26に肥前系磁器の墨弾き文皿、27に肥前系磁器の筒形碗、28に陶器の鉄釉土瓶を示した。

このほかに、瀬戸美濃系磁器の端反碗、蛇ノ目凹形高台皿が少量、陶器の青緑釉土瓶が複数出土している。

時期は、出土陶磁器と遺構の新旧関係から19世紀前半とみられる。

第7号木樋 (第84図)

B5-I10、B6-J1グリッド、道路跡北側に位置する。木樋列のうち、最も北側にあたる。調査時には遺構とされていなかったが、杭が整列していること、道路と並行し第1号杭列と直交することから道路付属施設の一部と考え、整理段階で別遺構として新規に第7号木樋とした。

遺存状態が悪く、現在のコンクリート側溝によって大半が破壊されていた。土層断面から、第2号木樋より古く、第23号土層より新しい。

長さ7m、幅50cmで並行する2列の土留め杭

列が残存するのみだが、2列とも杭は1mの等間隔で打たれている。底板が残存しないため、走向方向は不明である。

出土遺物はなかったが、硬化面3に伴うことから19世紀前半に位置づけられる。

第1号土留状遺構（第83図）

B6-I1、J1グリッド、第6号木樋の上に浮いた状態で検出された。

調査時には、第6号木樋と共に第4号木樋の北東土留めとしていたが、第6号木樋を被覆する硬化面4より上で検出されているため、整理段階で第1号土留状遺構として別遺構とした。

径17～19cm、長さ3.52mの丸太材で、両端付近は、節が落とされずに残る。2面に各2カ所の仕口、片側の小口に出ホゾが作られている。建築材を転用した可能性がある。

出土遺物は調査の経緯から分別するのが困難で、帰属を明らかにできなかった。

時期は、遺構の新旧関係から19世紀初頭以降と位置付けられる。

④硬化面4

トレンチ8で計測した道路幅は7.6m、路盤は第14層である。北側で最大20cm沈下している。

道路北側で第4号木樋と第6号木樋を伴うが、道路南側に対応する木樋は検出されなかった。重複する第3号木樋、第5号木樋より古い。

第14層出土遺物を第86図29～38に示す。

肥前系磁器は、30に端反碗、31に筒形碗、32に丸碗蓋である。瀬戸美濃系磁器は、29の端反碗がある。

陶器は34に京都信楽系小杉碗、35に瀬戸美濃系の鉄釉灯明皿、36と37に堺明石系播鉢、38に瓦質土器の火鉢を示した。

このほかに肥前系磁器小丸碗、梅樹文碗、小広東碗、広東碗などが出土している。瀬戸美濃系磁器は少ない。

時期は、出土陶磁器から19世紀前葉とみられる。

第4号木樋（第83図）

B5-I10・J10・B6-I1グリッドに位置し、6条の木樋の北から3本目にあたる。

第2号木樋と第6号木樋に挟まれ、第6号木樋より古い。

東西軸で、底板は東から西へ傾斜する。長い板材をL形に組み合わせて構築する。長さが3.0m、外法幅19～31cm、深さは14～21cmである。遺存状態はやや悪く、東半では南側板と蓋が第6号木樋掘方に壊されて残存しない。蓋は中央付近のみで検出した。掘方の断面形は不整逆三角形である。

北西側の第2号木樋との間に、杭と板材の残骸が確認された。調査区東西壁で掘り込みが確認されたため木樋列とも考えられるが、遺存状態が悪く、トレンチ断面で掘方をとらえられなかったため確定できなかった。帰属する硬化面も不明である。第4号木樋と構築レベルがほぼ同じであることから、一連の遺構として第83図に掲載した。

陶磁器類の出土は少なく、第89図31に肥前系磁器の梅樹文碗、32に施釉土器の脚付灯火具が図示できたのみである。31の碗は、周囲を打ち欠いて円盤状製品に転用してある。

このほかに肥前系磁器の筒形碗、瀬戸美濃系磁器の端反碗、瀬戸美濃系陶器の馬目皿、ぺこかん徳利などが出土している。

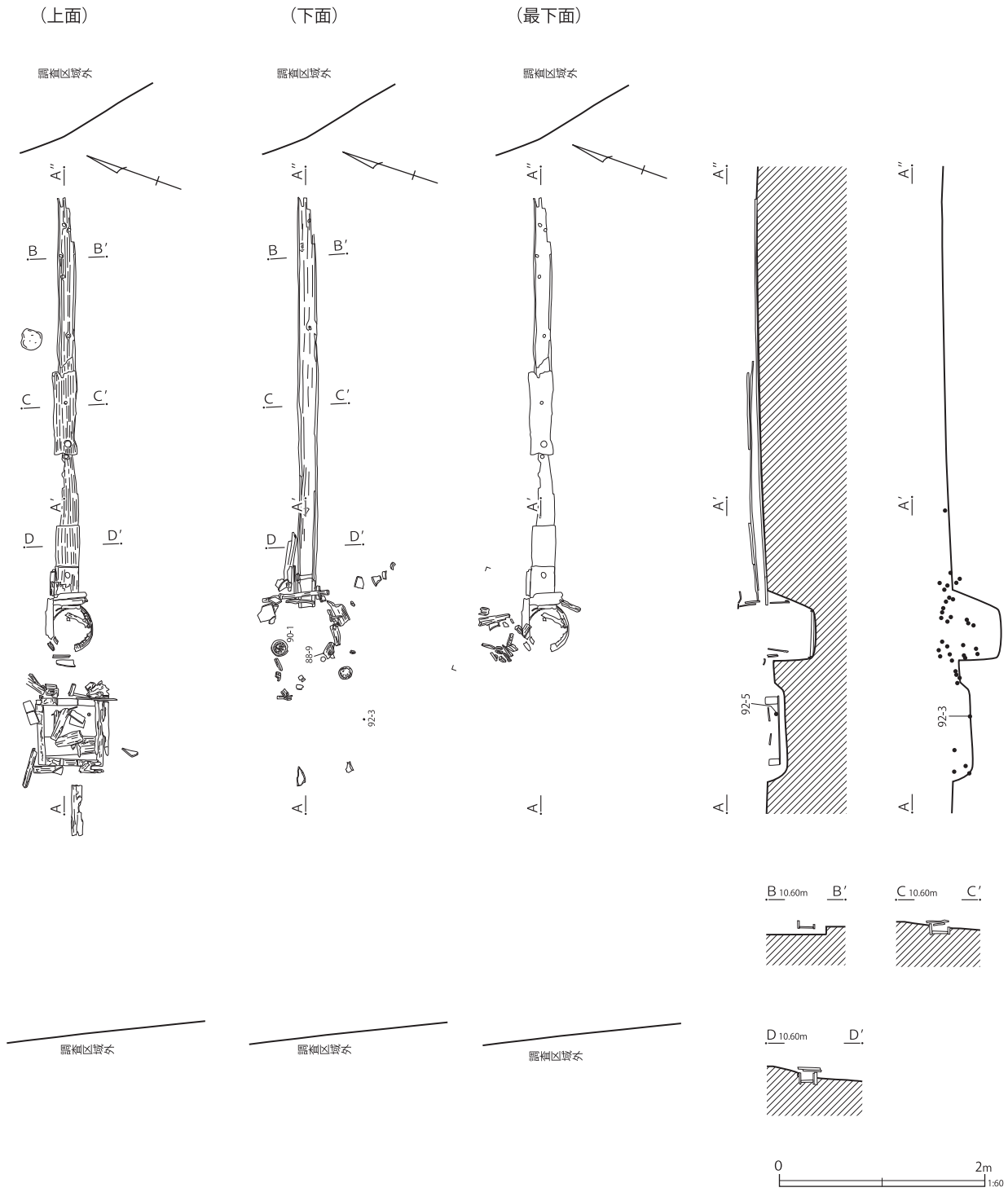
時期は、出土陶磁器から19世紀前葉とみられる。

第6号木樋（第83図）

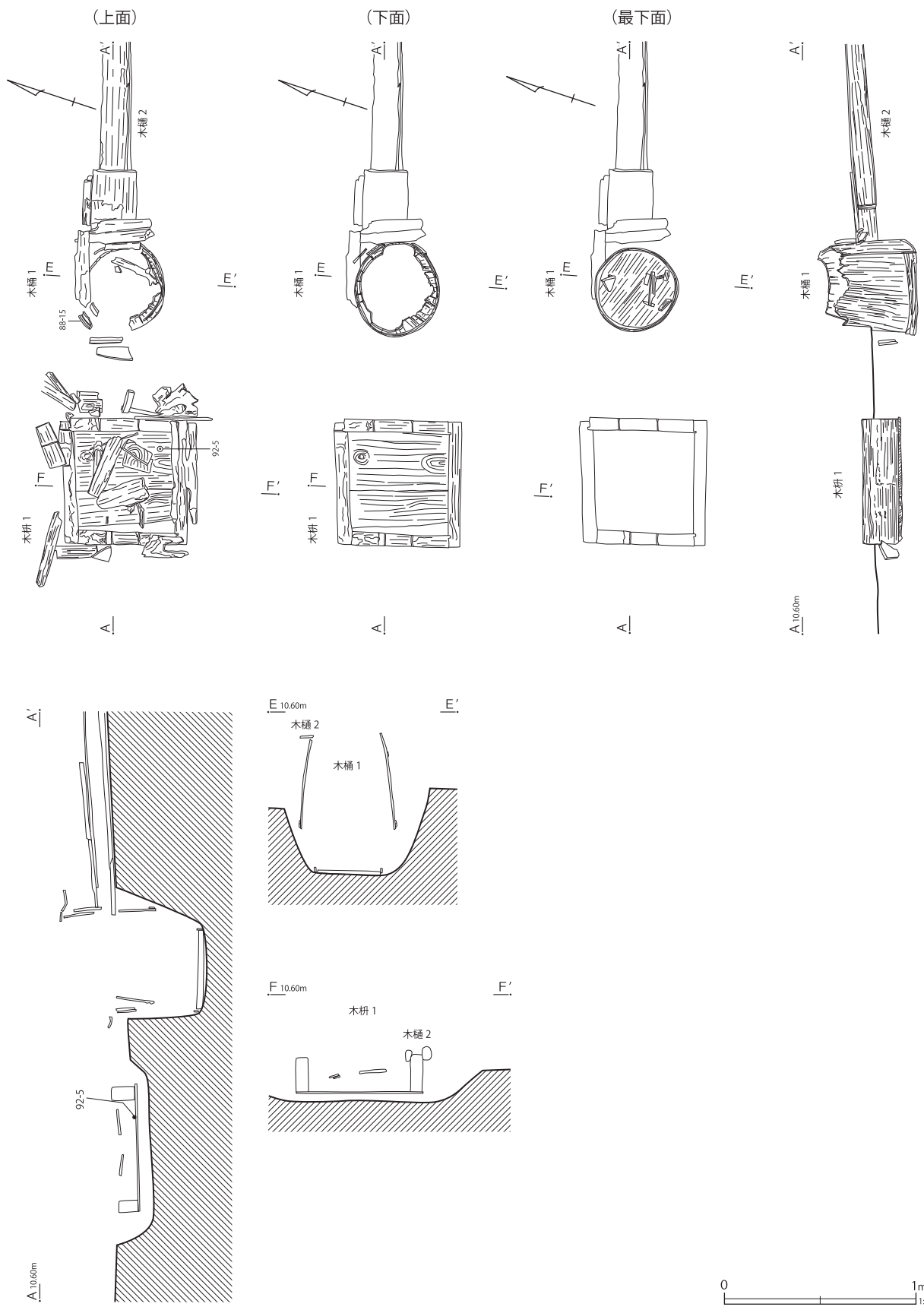
B6-I1・J1、B5-J10グリッドに位置し、4号木樋の南、道路北側木樋のもっとも南にあたる。

発掘段階では第4号木樋の土留めとしたが、土層断面で第4号木樋と新旧関係があり、掘方が確認されたため整理段階で別遺構とした。土層断面から第4号木樋より新しいが、第4号木樋と同じく硬化面4に被覆される。本木樋の下から、第23号土層を検出した。

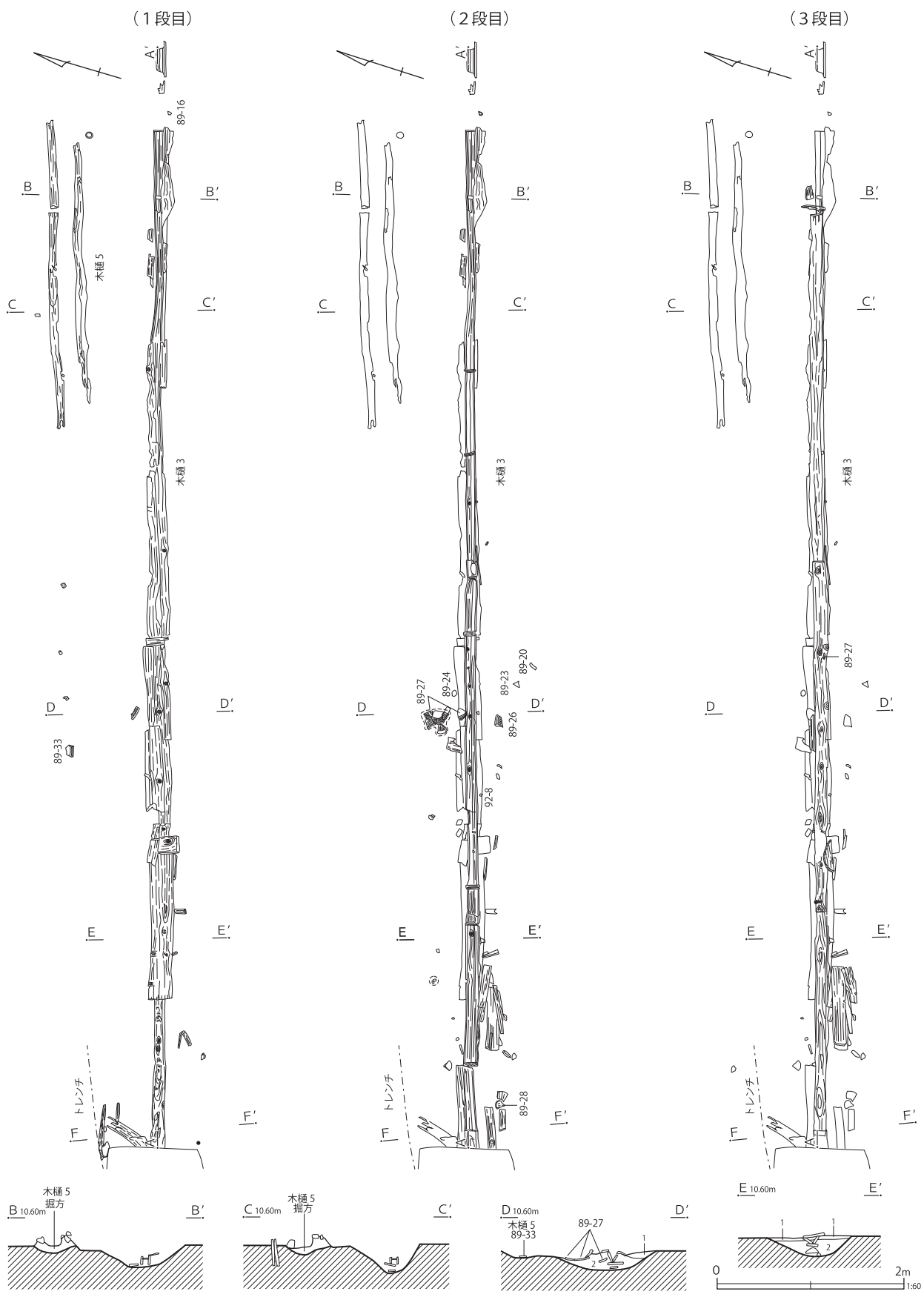
底板が残存しないため、傾斜は不明である。側



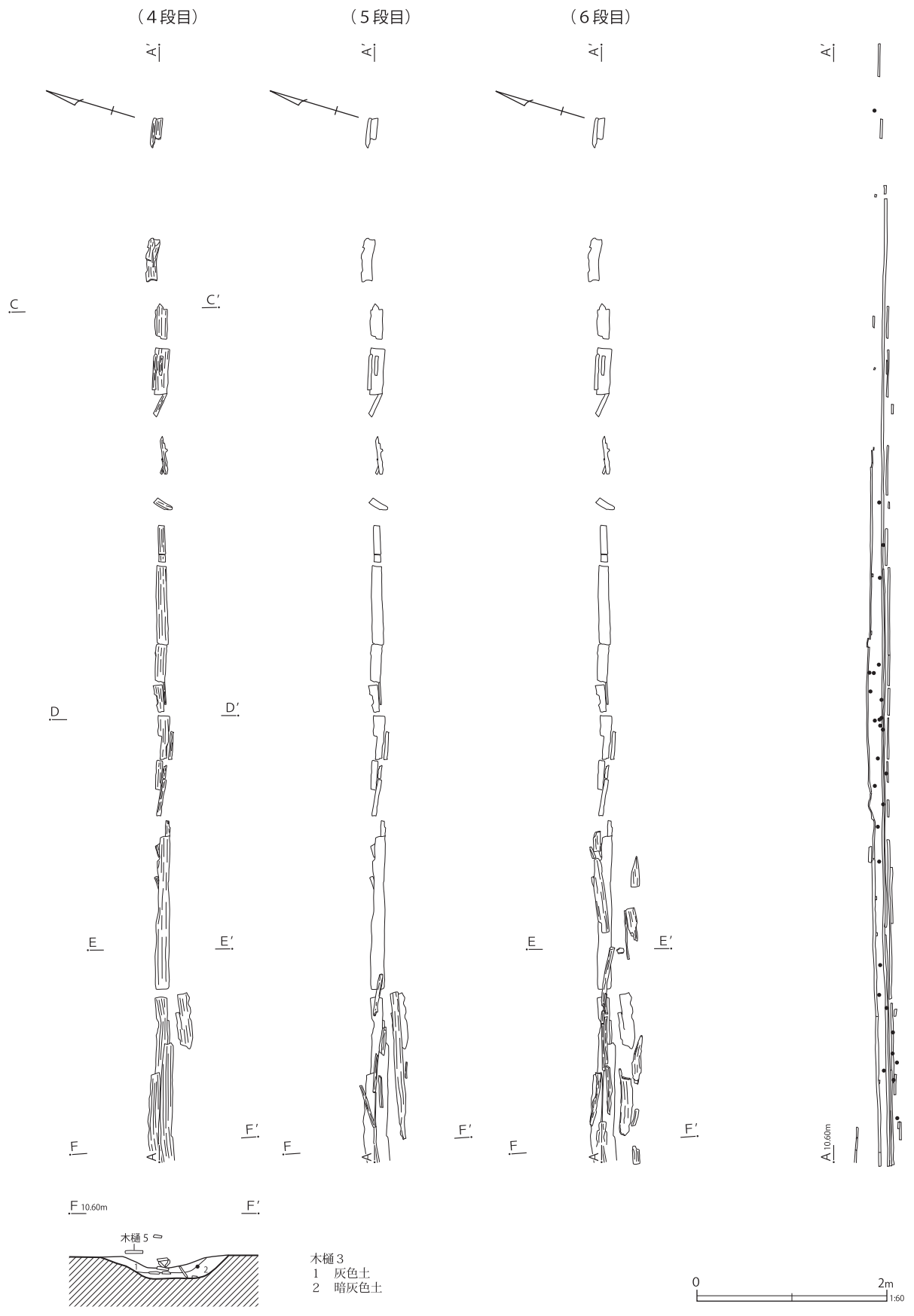
第79图 第2号木桩 (1)



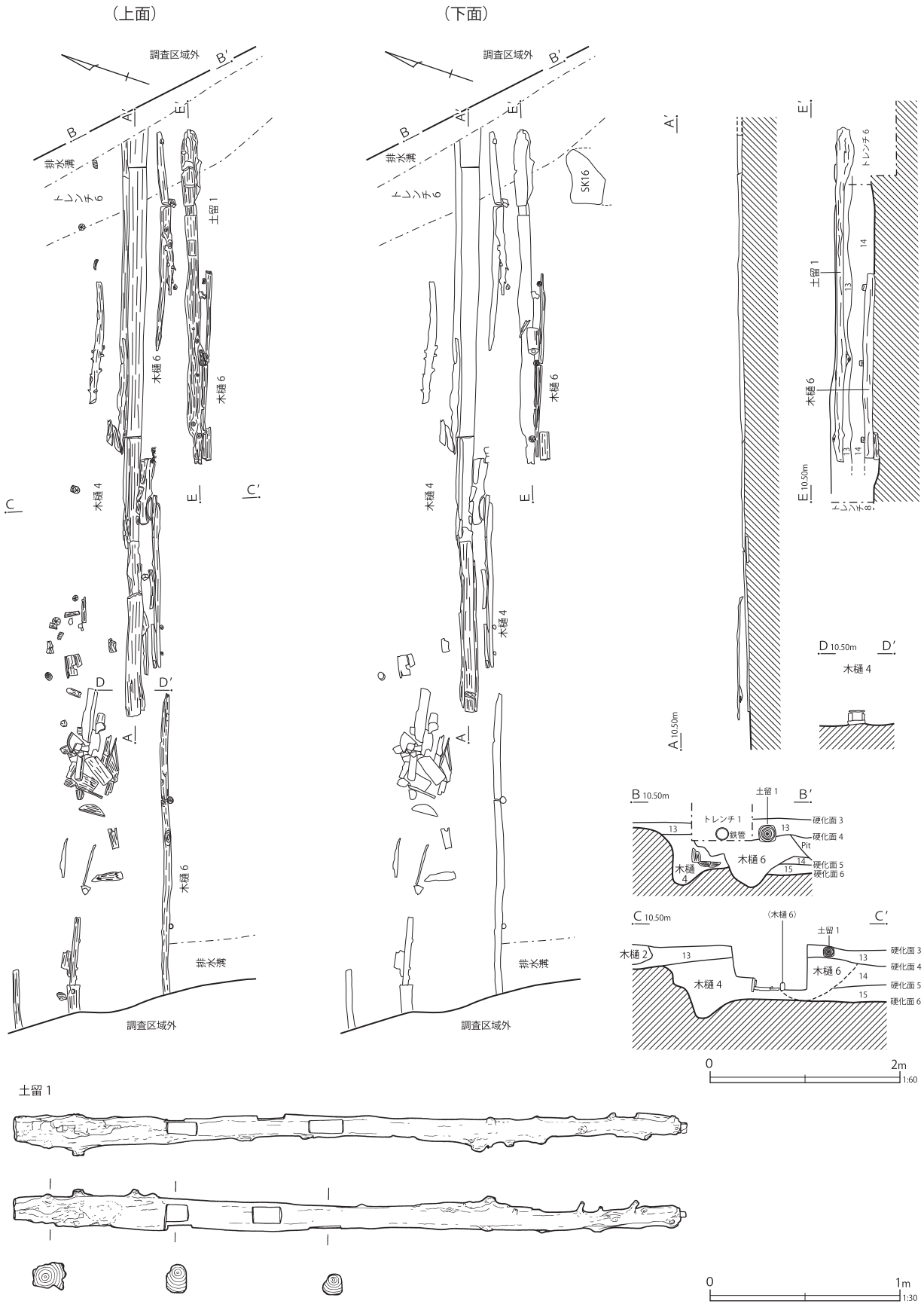
第80図 第2号木桶 (2)・木拵 1・木桶 1



第81図 第3号木樋 (1)・第5号木樋



第82図 第3号木桶 (2)



第83図 第4号木樋・第6号木樋・第1号土留状遺構

第50表 道路跡木樋計測表

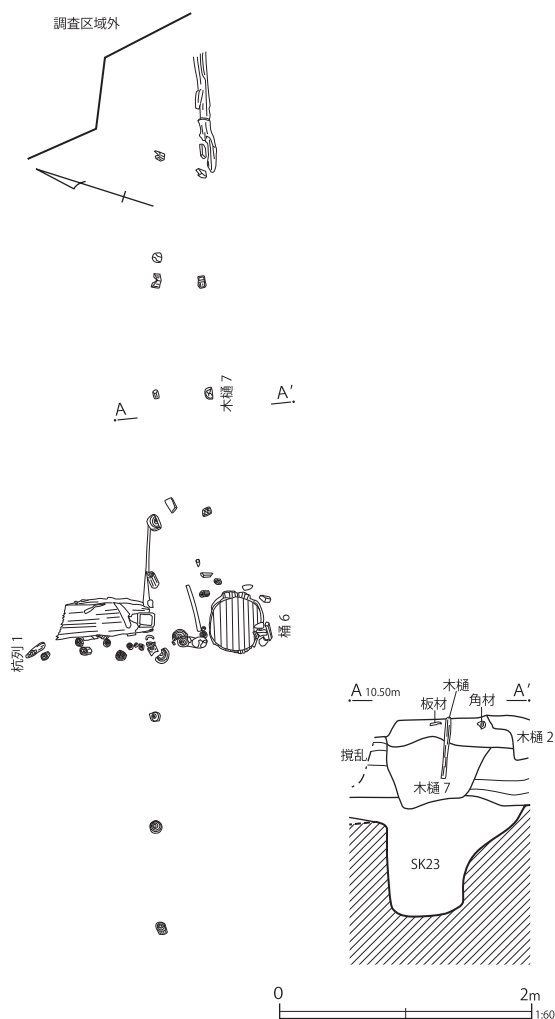
単位：m

番号	グリッド	長さ	外法		掘方			方位	備考
			幅	深さ	長さ	幅	深さ		
2	B5-I10, B6-I1	3.88	0.17 ~ 0.21	0.08 ~ 0.12	-	-	-	N-70° -E	内法幅 0.15m、深さ 0.09m、蓋厚 1.5cm S01_硬化面 1 に伴う
木桶 1	B5-I1	-	0.37	0.51	-	0.68	0.46	-	内法幅 0.35m、深さ 0.51m
木枡 1	B5-I1	-	0.65	0.15	-	0.98	0.22	-	内法幅 0.35m、深さ 0.51m
3	B5-J10, B6-J1・J2	[11.82]						N-73° -E	蓋厚 3cm S01_硬化面 3、SK8、木樋 5 より古
		5.68	0.09 ~ 0.10	0.08 ~ 0.11	5.68	0.72 ~ 0.91	0.24 ~ 0.29		内法幅 0.06m、箱型部分
		6.14	0.12 ~ 0.17	0.08 ~ 0.10	6.14	0.92 ~ 1.37	0.21 ~ 0.28		内法幅 0.1m、深さ 0.07m、V字部分
4	B5-I10・J10, B6-I1	6.19	0.19 ~ 0.31	0.14 ~ 0.21	-	0.74 ~ 1.49	0.53	N-71° -E	内法幅 0.19m、深さ 0.12m、木樋 6 より古、SK23 より新、AS-A より新
5	B5-J10, B6-J1	11.09	0.31 ~ 0.37	0.13 ~ 0.14	-	0.45 ~ 0.47	0.13 ~ 0.14	N-70° -E	内法幅 0.19m、木樋 3 より新
6	B6-I1・J1, B5-J10	9.12	0.58	0.14	-	0.82 ~ 1.26	0.15	N-70° -E	内法幅 0.53m、深さ 0.14m、木樋 4 より新、AS-A より新
7	B5-I10, B6-I1	7.06	-	-	-	0.57	0.83	N-73° -E	SK23 より新 木樋 2 より古

第51表 土留状遺構計測表

単位：m

番号	グリッド	長さ	幅	高さ	方位	備考
1	B6-J1, B6-J1	3.52	0.19	0.17	N-70° -E	6号木樋の上に浮いた状態



第84図 第7号木樋

板間の幅は58cm、深さ14cmで、他の木樋より3倍の幅を持つ。堀方の断面形から箱形に材が組み合わされていたと推定される。

出土遺物は調査の経緯から、帰属できるものを分別できなかった。

時期は、遺構の重複関係から、19世紀前葉にほぼ限定される。

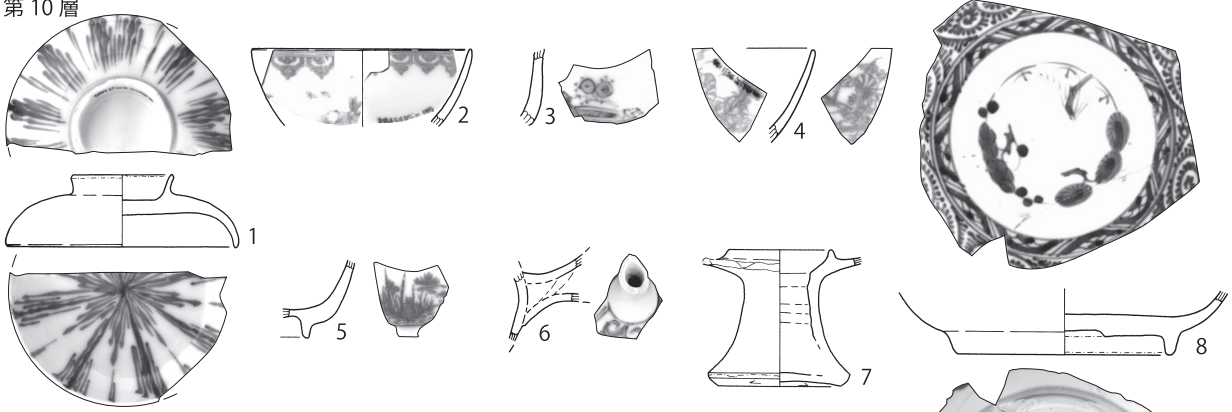
⑤硬化面 5

トレンチ 8 で計測した道路幅は5.8m、路盤は第15層である。重複する第4号木樋、第6号木樋より古い。調査区西壁において、浅間A火山灰と推定される火山灰層が直上で認められた。

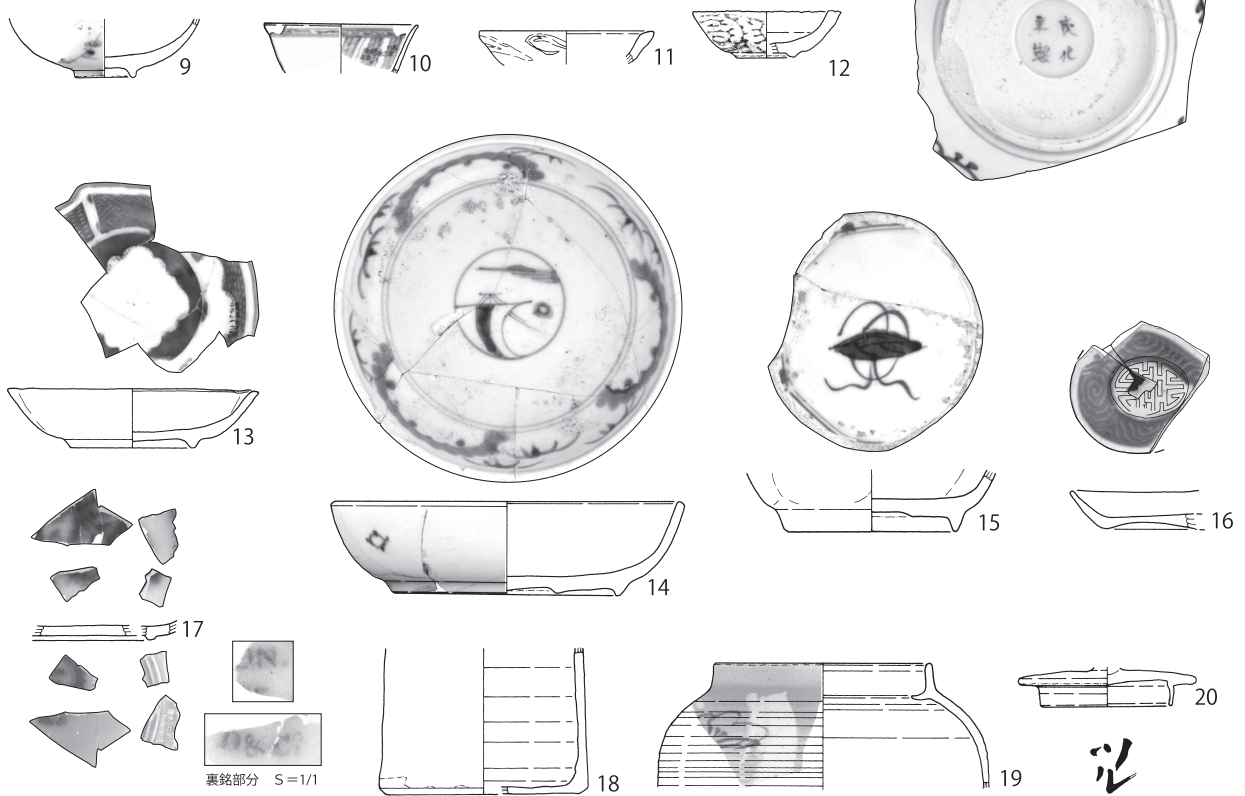
第15層の出土遺物は少ない。磁器で図示できたのは、第86図39の肥前系磁器蛇ノ目凹形高台皿のみである。陶器は、40の瀬戸美濃系京焼風半球碗、41の瀬戸美濃系柿釉灯明皿のみである。40の半球碗は、被熱しているものの赤と緑の色絵が残存している。第87図42には瓦質土器の長方形角火鉢を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀後半と考えられるが、浅間A火山灰（1783年）に被覆されるため、1783年以前にほぼ限定される。

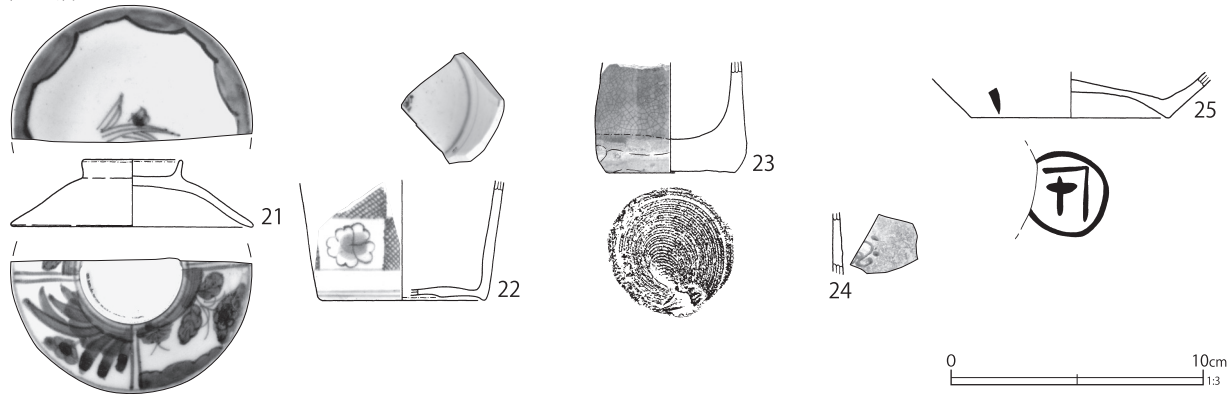
第10層



第11層

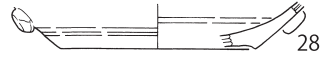
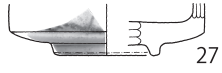


第12層

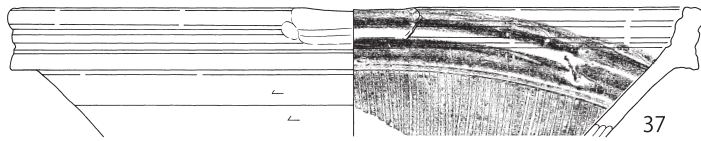
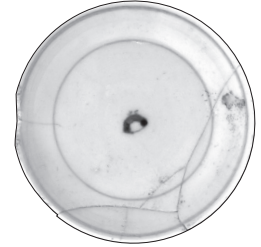
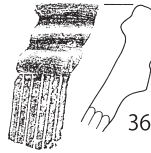
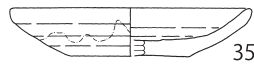
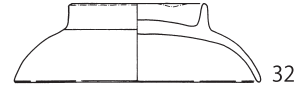
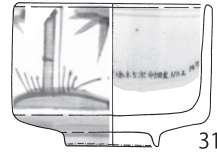
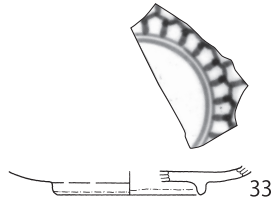
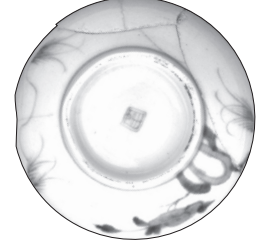
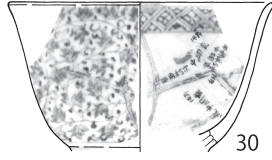
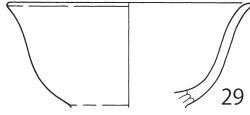


第85図 道路跡出土遺物 (1)

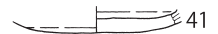
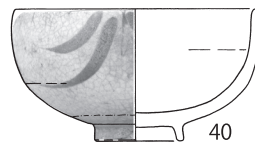
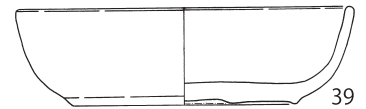
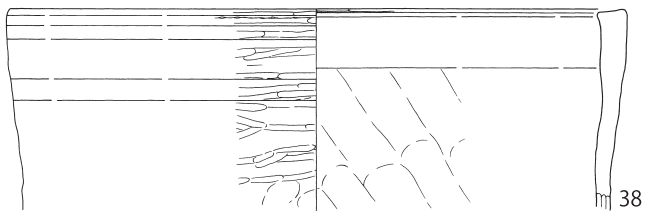
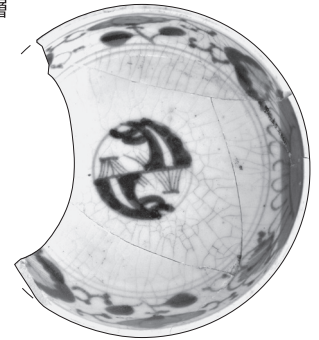
第13層



第14層



第15層

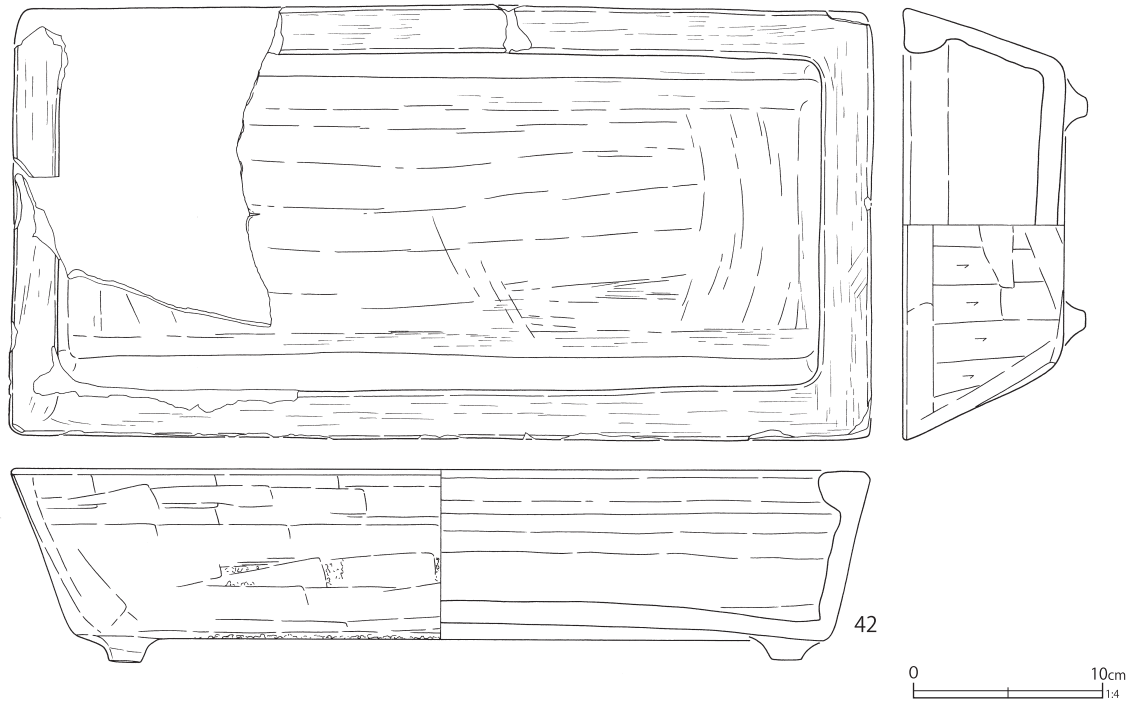


29~36・39~41 0 10cm 1:3

37・38 0 10cm 1:4

第86図 道路跡出土遺物 (2)

第15層



第87図 道路跡出土遺物（3）

第52表 道路跡出土遺物観察表（第85～87図）一面

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	(3.8)	2.8	(9.0)	—	50	良好	白	S01	10層 瀬戸美濃系 施釉 染付	
2	磁器	碗	(8.6)	[3.0]	—	—	5	良好	白	S01	10層 瀬戸美濃系 施釉 銅版転写染付	
3	磁器	坏	—	[3.0]	—	—	5	普通	灰白	S01	10層 瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付	
4	磁器	碗	—	[3.6]	—	—	5	良好	白	S01	10層 瀬戸美濃系 施釉 銅版転写染付	
5	磁器	坏	—	[3.0]	—	—	5	良好	灰白	S01	10層 瀬戸美濃系 施釉 外面銅版転写染付	
6	磁器	急須	—	[3.4]	—	—	5	良好	白	S01	10層 瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付	
7	陶器	灯火具	(4.0)	[5.3]	4.9	—	90	良好	灰白	S01	10層 京都信楽系 施釉	
8	磁器	皿	—	[2.5]	8.3	—	90	良好	白	S01	10層 肥前系 施釉 染付	
9	磁器	碗	—	[2.3]	2.3	—	30	良好	白	S01	11層 瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
10	磁器	坏	(6.0)	[1.9]	—	—	15	良好	灰白	S01	11層 瀬戸美濃系 施釉 染付	
11	磁器	紅皿	(6.8)	[1.3]	—	—	10	良好	白	S01	11層 瀬戸美濃系 施釉 外面陰刻状施文	
12	磁器	紅皿	(5.9)	1.8	(2.3)	—	20	普通	灰白	S01	11層 肥前系 施釉 外面型押施文	
13	磁器	皿	(9.8)	2.3	(4.8)	—	35	良好	灰白	S01	11層 瀬戸美濃系 施釉 口紅 内面陽刻状施文・染付	
14	磁器	皿	13.7	3.7	8.8	—	100	良好	白	S01	11層 肥前系 施釉 染付	
15	磁器	碗	—	[2.4]	6.6	—	90	良好	白	S01	11層 肥前系 施釉 内面染付	
16	磁器	蓮華	長[5.2] 幅[5.1] 高[1.5]			—	45	良好	白	S01	11層 瀬戸美濃系 施釉 内面陽刻状施文・染付	
17	陶器	皿	—	[0.7]	—	—	5	良好	白	S01	11層 ヨーロッパ系 軟質陶器 施釉 絵付(滲み手) 木樋2出土と接合	33-8
18	陶器	爛徳利	—	[5.7]	(8.2)	I	20	普通	灰白	S01	11層 京都信楽系 外面施釉	
19	陶器	土瓶	(8.4)	[4.9]	—	—	10	良好	にぶい黄 橙	S01	11層 外面灰釉・白色釉・呉須絵	33-9
20	陶器	蓋	—	[1.5]	5.0	K	95	良好	灰白	S01	11層 外面青緑釉 下面墨書「ツル」	33-10
21	磁器	蓋	9.5	2.6	3.8	—	50	良好	白	S01	12層 瀬戸美濃系 施釉 染付	33-11
22	磁器	猪口	—	[4.7]	(6.4)	—	5	良好	灰白	S01	12層 肥前系 施釉 染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
23	陶器	灰落し	—	[4.3]	5.0	DH	30	良好	橙	S01	12層 瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 緑釉	33-12	
24	陶器	爛徳利	—	[2.4]	—	—	5	良好	灰白	S01	12層 外面イッチン描き(茶色)		
25	陶器	土瓶	—	[1.8]	(7.8)	I	30	良好	灰黄褐	S01	12層 底部墨書		
26	磁器	皿	—	[1.4]	—	—	5	良好	灰白	S01	13,14層 肥前系 施釉 内面染付(墨弾き)		
27	磁器	碗	—	[2.0]	(3.8)	—	20	不良	灰白	S01	13層 肥前系 施釉 外面染付		
28	陶器	土瓶	—	[1.7]	(7.8)	—	10	普通	灰黄	S01	13層 内面鉄釉・一部ウノフ釉		
29	磁器	碗	(9.5)	[4.1]	—	—	20	良好	白	S01	14層 瀬戸美濃系 施釉(外面瑠璃釉)		
30	磁器	碗	(10.3)	[5.9]	—	—	15	良好	白	S01	14層 肥前系 施釉 染付 焼継痕		33-13
31	磁器	碗	7.4	5.6	3.6	—	70	良好	白	S01	14層 肥前系 施釉 染付		33-14
32	磁器	蓋	9.6	3.0	5.2	—	95	良好	白	S01	14層 肥前系 施釉 染付		
33	磁器	皿	—	[0.9]	(5.6)	—	10	良好	灰白	S01	14層 肥前系 施釉 染付		
34	陶器	碗	(8.3)	[2.9]	—	—	10	良好	灰白	S01	14層 京都信楽系 施釉 外面鉄絵 小杉碗		
35	陶器	灯明皿	(9.3)	[1.8]	(4.8)	EI	40	良好	灰褐	S01	14層 瀬戸美濃系 鉄釉 内面重焼痕 被熱・黒化		
36	陶器	播鉢	—	[4.9]	—	DE	5	普通	赤	S01	14層 堺明石系 内面播目		
37	陶器	播鉢	36.0	[6.7]	—	DE	5	普通	赤	S01	14層 堺明石系 内面播目		
38	瓦質土器	火鉢	(32.5)	[10.6]	—	CI	5	良好	にぶい橙	S01	14層 外面・口唇部ミガキ 燻す		
39	磁器	皿	13.0	3.8	8.8	—	85	良好	白	S01	15層 肥前系 施釉 染付		
40	陶器	碗	(9.4)	5.2	3.5	I	65	普通	灰黄	S01	15層 瀬戸美濃系 灰釉 外面色絵(赤・緑) 被熱	34-1	
41	陶器	灯明皿	—	[0.4]	3.4	IK	10	良好	褐灰	S01	15層 瀬戸美濃系 柿釉		
42	瓦質土器	火鉢	45.5	10.2	39.5	CEI	80	普通	浅黄橙	S01	15層 底部シワ状痕跡 外面被熱・黒化	34-2	

⑥硬化面6 (第76～78図)

トレンチ8で計測した道路幅は6.4m、路盤は自然堆積層Ⅱ層を使用している。北側で重複する第6号木樋より古い。

Ⅱ層はシルト質黄灰色土で、東壁の一部で上面の一部に白色砂が堆積していることが確認された。

またⅡ層の下からは、手水鉢・石臼が出土した落込みが検出されている。IV-4で報告する。

時期は重複関係から、18世紀中葉以後、1783年以前と位置付けられよう。

(10) 土壌

第一面では、8基の土壌を確認した。ほとんどは、道路跡より南側の調査区からの検出で、第16号土壌のみ道路跡上での検出である。

第1号土壌と第2号土壌は、整理段階で基礎状遺構とした。

第93図に遺構図を示し、第57表に計測値を示した。

遺物は、陶磁器を第94～101図、土製品を第102図、瓦を第102図、木製品を第103図、金属製

品を第104図、石製品を第105図に示した。

第3号土壌 (第93図)

B6-J1グリッドに位置し、平面は不整形である。覆土中に炭化物を多く含むことから、火災処理に関わる土壌とみられる。

陶磁器の出土は少なく、第94図1に陶器碗を示した。呉器手碗状の器形で、高台内に○に「嵐山」の刻印がある。

ほかに土師質土器の三河産焜炉、瓦質土器の植木鉢が出土している。

金属製品は第104図1に寛永通宝を示した。

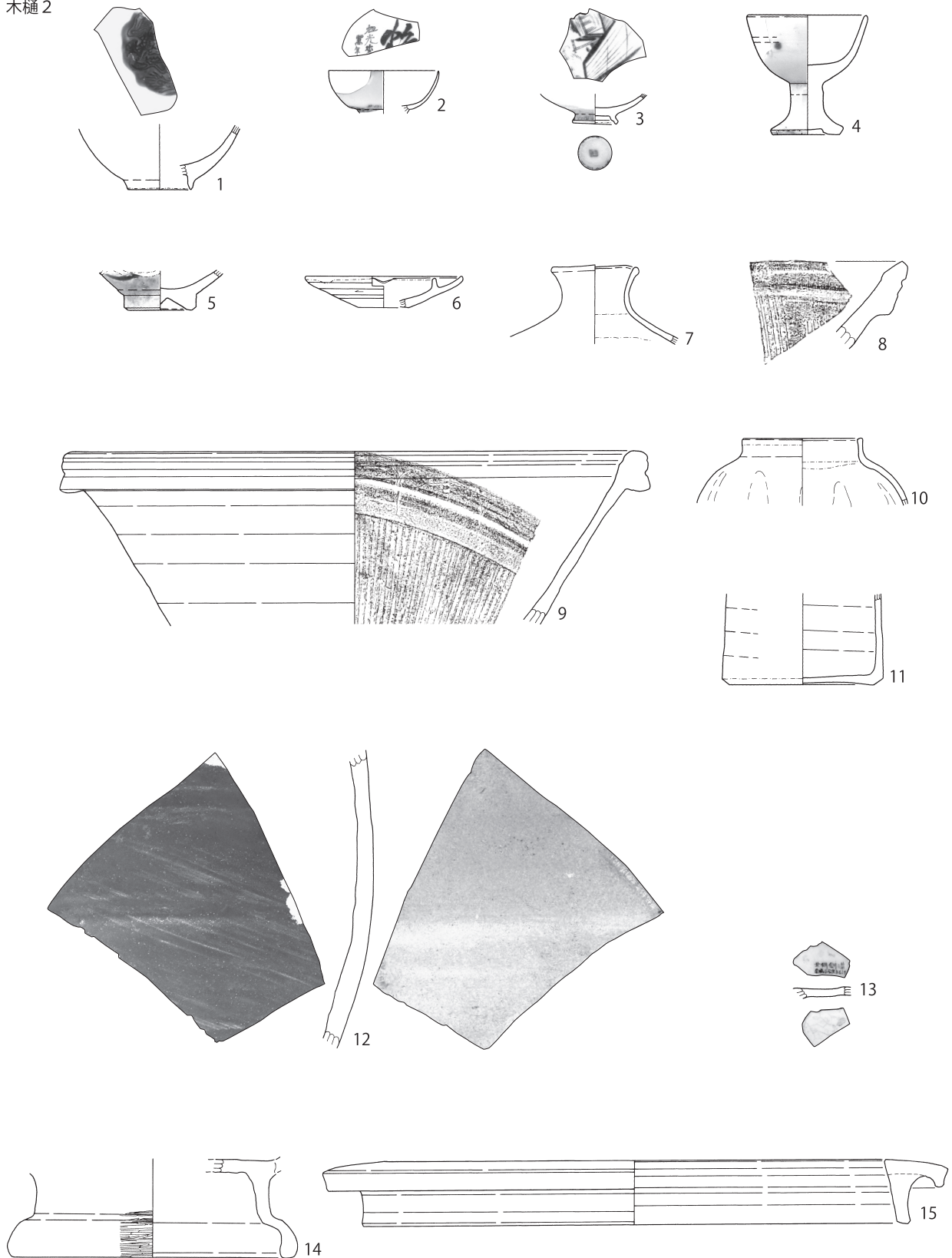
時期は、出土陶磁器から19世紀後葉以降とみられる。

第4号土壌 (第93図)

B6-J2グリッドに位置し、隅丸三角形を呈する。

出土遺物は第94図2～8に示した。2と3は瀬戸美濃系磁器の灯明皿と脚付灯火具、4は瀬戸美濃系磁器の火鉢で、外面に銅版転写染付が施され、底部に墨書が認められる。5と6は京都信楽系陶器の灯明皿と脚付灯火具である。7は灰粘土

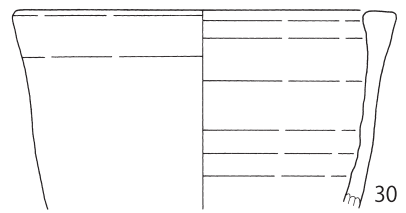
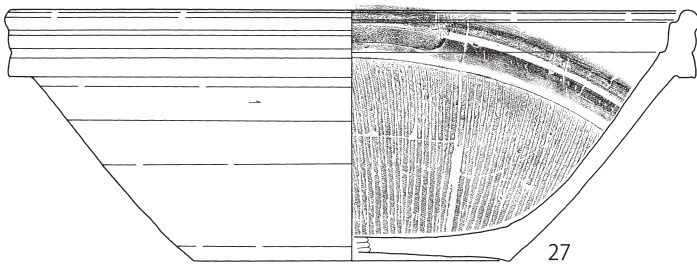
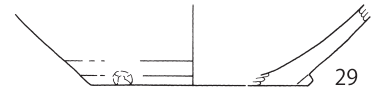
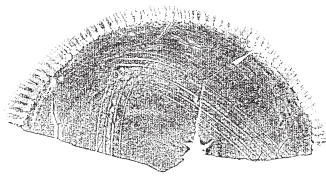
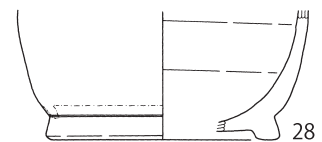
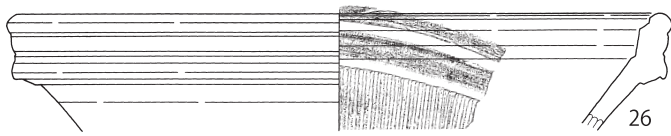
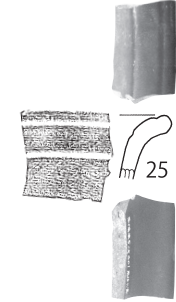
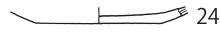
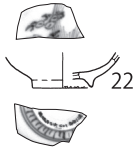
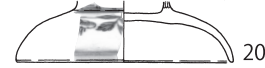
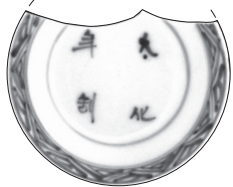
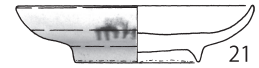
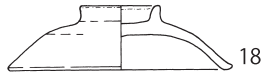
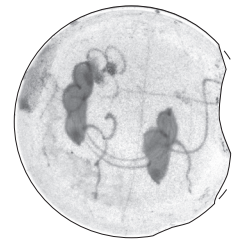
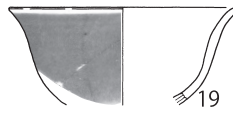
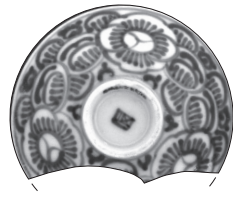
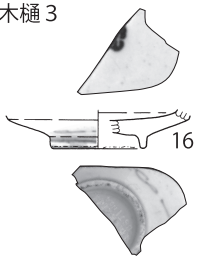
木樋 2



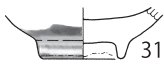
1~8・10~13 0 10cm 1/3 9・14・15 0 10cm 1/4

第88図 道路跡木樋出土遺物 (1)

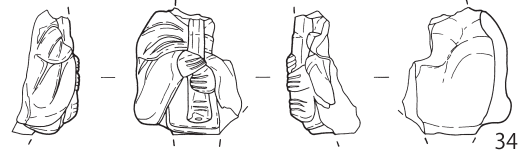
木樋3



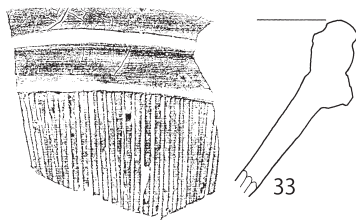
木樋4



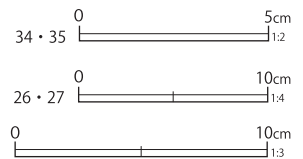
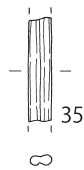
木樋2



木樋5



木樋3



第89図 道路跡木樋出土遺物(2)

第53表 道路跡木樋出土遺物観察表（1）（第88・89図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	—	[3.3]	(3.2)	—	20	良好	白	木樋2	瀬戸美濃系 施釉 内面陰刻文・染付	
2	磁器	坏	(5.6)	[2.2]	—	—	25	良好	白	木樋2	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付（青）外面染付	34-3
3	磁器	坏	—	[1.5]	2.3	—	20	良好	白	木樋2	瀬戸美濃系 施釉（外面一部釉剥離 内面上絵付（青）外面染付	
4	磁器	仏飯器	(6.2)	6.1	3.5	—	60	普通	灰白	木樋2	肥前系 施釉 外面染付	
5	陶器	碗	—	[2.0]	3.2	IK	5	良好	灰白	木樋2	萩系 内面施釉 外面鉄釉ピラ掛け	34-4
6	陶器	灯明皿	(8.0)	1.6	(2.6)	K	20	良好	灰白	木樋2	京都信楽系 内面施釉	
7	陶器	瓶類	4.4	[4.0]	—	I	70	良好	灰黄	木樋2	京都信楽系か 外面施釉 口縁部歪ます	34-5
8	陶器	播鉢	—	[4.4]	—	DI	5	普通	にぶい赤褐	木樋2	堺明石系 内面播目	
9	陶器	播鉢	38.6	[11.9]	—	DEK	15	良好	明赤褐	木樋2	堺明石系 内面播目	
10	陶器	土瓶	(6.0)	[3.4]	—	K	20	良好	灰白	木樋2	外面青緑釉 体部凹ます	
11	陶器	水注か	—	[4.6]	7.4	I	40	良好	灰白	木樋2	京都信楽系 外面施釉	
12	陶器	壺	—	[15.4]	—	EK	5	良好	浅黄橙	木樋2	信楽系 内面鉄釉刷毛塗	
13	陶器	不明	縦0.6	横2.9	厚0.5	—	5	普通	浅黄	木樋2	ヨーロッパ系か 施釉か	34-6
14	瓦質土器	火鉢	—	[6.8]	(19.0)	CIK	20	普通	黒	木樋2	脚部内面剥離激しい 外面下位ミガキ燻す	
15	瓦質土器	竈鏝	(34.3)	4.4	(37.8)	CFHI	10	普通	にぶい橙	木樋2	燻す	
16	磁器	碗	—	[1.5]	3.6	—	5	良好	灰白	木樋3	肥前系 施釉 染付	
17	磁器	碗	7.0	4.3	—	—	15	良好	灰白	木樋3	瀬戸美濃系 施釉 染付	
18	磁器	蓋	8.3	2.5	3.2	—	80	普通	灰白	木樋3	瀬戸美濃系 施釉 染付 同文別個体1あり	34-7
19	磁器	碗	(8.8)	[3.8]	—	—	20	良好	白	木樋3	瀬戸美濃系 施釉（外面瑠璃釉単色）	
20	磁器	蓋	(3.6)	[2.3]	(8.9)	—	15	良好	灰白	木樋3	肥前系 施釉 染付	
21	磁器	皿	9.4	2.2	5.0	—	80	普通	灰白	木樋3	肥前系 施釉 染付	34-8
22	磁器	坏	—	[1.4]	(2.2)	—	20	良好	白	木樋3	瀬戸美濃系 施釉 染付	
23	磁器	蓋物か	—	[5.8]	—	—	10	良好	白	木樋3	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付 焼継痕	
24	陶器	灯明皿	—	[0.6]	(5.0)	I	30	良好	褐	木樋3	瀬戸美濃系 柿釉	
25	陶器	植木鉢か	—	[2.5]	—	I	5	良好	黒褐	木樋3	胎土炆器質 内面にシワ状の痕跡	34-9
26	陶器	播鉢	(33.9)	[6.1]	—	DEI	5	良好	赤	木樋3	堺明石系 内面播目	
27	陶器	播鉢	(36.4)	18.2	(16.6)	DE	40	良好	赤	木樋3	堺明石系 砂目底 内面播目	
28	陶器	甕	—	[6.9]	(11.7)	DK	30	良好	灰白	木樋3	瀬戸美濃系 柿釉	
29	陶器	土瓶	—	[3.2]	(8.0)	—	5	普通	橙	木樋3	胎土土器質 施釉	
30	瓦質土器	植木鉢	14.9	[7.7]	—	CI	30	普通	暗灰黄	木樋3	燻す	
31	磁器	碗	—	[2.0]	3.1	—	90	良好	白	木樋4	肥前系 施釉 外面染付 円盤状製品転用	34-10
32	施釉土器	灯火具	—	[1.2]	(6.3)	AH	10	良好	橙	木樋4	外面施釉 脚部破片	
33	陶器	播鉢	—	[7.1]	—	DE	10	普通	にぶい橙	木樋5	堺明石系 内面播目	
34	土製品	人形	長3.3	幅2.9	高1.9	AI	20	良好	にぶい黄橙	木樋2	虚無僧 前後合型成形 中空 京都系 重さ7.8g	49-8
35	硝子製品	筭	長(2.7)	幅0.7	高0.3	—	—	—	黄	木樋3	黄色（透明）中実 表面被熱	49-15

瓶である。8は陶器皿で益子系の可能性がある。

時期は、出土陶磁器から19世紀後葉以降とみられる。

第5号土壌（第93図）

B6-J1グリッドに位置する。

平面形は二重楕円形を呈する。2基の土壌が切り合っている形状であるが、断面では底面が同一レベルであり、かつ平面とは切り合い順序が異なるように見えることから、1基の土壌とした。

図示しうる遺物はなかったが、瀬戸美濃系磁器の酸化コバルト染付平碗、萬古系陶器の急須、三

河産土師質土器焜炉などが出土している。

金属製品を第104図2～9に示した。2と3は不明鉄器、4～7・9は寛永通宝、8は文久永宝である。

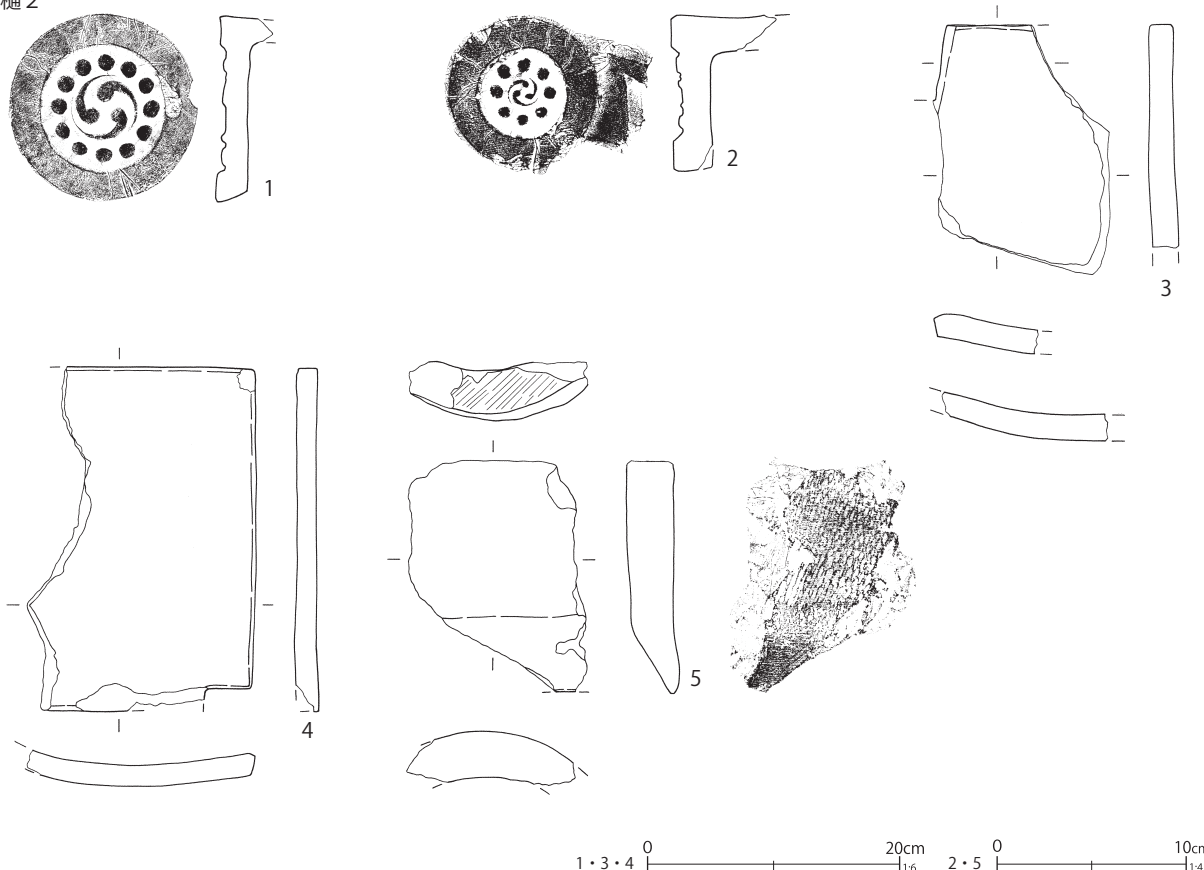
時期は、出土陶磁器から19世紀後葉以降とみられる。

第6号土壌（第93図）

B6-J1グリッドに位置し、北半は調査区外に延びる。平面形は推定で隅丸方形、断面形は皿形である。

出土陶磁器は少なく、図示しうるものはなかつ

木樋2



第90図 道路跡木樋出土遺物（3）

第54表 道路跡木樋出土遺物観察表（2）（第90図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒丸瓦	[4.2]	[15.0]	2.5	14.7	15.0	AK	良好	灰	木樋2	左巻十二連珠三巴文 銀化	50-7
2	瓦	軒棧瓦	[5.6]	[12.0]	1.8	[8.1]	8.0	AK	良好	灰	木樋2	右巻十二連珠三巴文 銀化	50-8
3	瓦	棧瓦	[19.9]	[13.7]	2.1	[4.0]	—	K	良好	灰	木樋2		
4	瓦	棧瓦	27.5	[18.3]	1.7	[3.0]	—	AK	良好	灰	木樋2	一部銀化 被熱	
5	瓦	丸瓦	[11.7]	[8.7]	2.3	[2.7]	—	K	良好	灰	木樋2	転用 一部被熱	50-9

たが、瀬戸美濃系磁器の酸化コバルト染付坏、三河産土師質土器焜炉が出土している。

金属製品では、第104図10に鉄釘を示した。一部に銅線が付着している。

時期は、出土陶磁器から19世紀後葉以降とみられる。

第8号土壌（第93図）

B5-J10、B6-J1グリッドに位置する。西側は調査区域外に延びる。

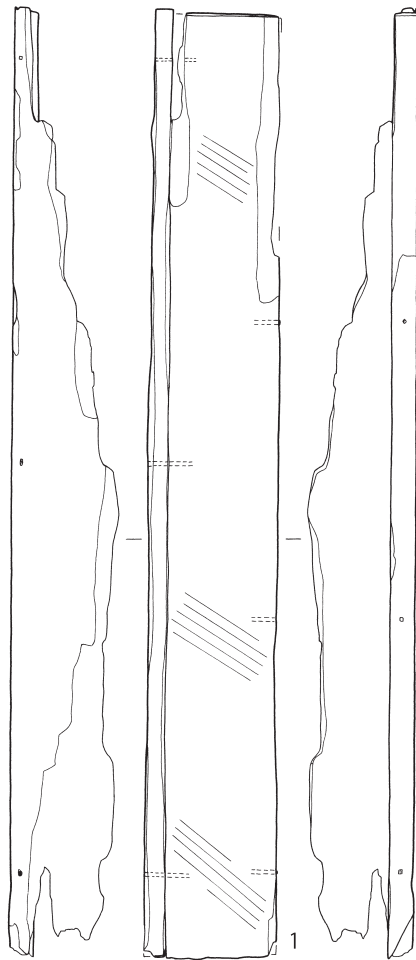
第1号建物跡、第4号建物跡、第1a号木樋、

第1b号木樋、第2～4・9号埋設桶と重複する。調査区壁面の土層から、第3号木樋、第5号木樋より古く、出土遺物の様相から、第一面の他の遺構よりも古いと考えられる。

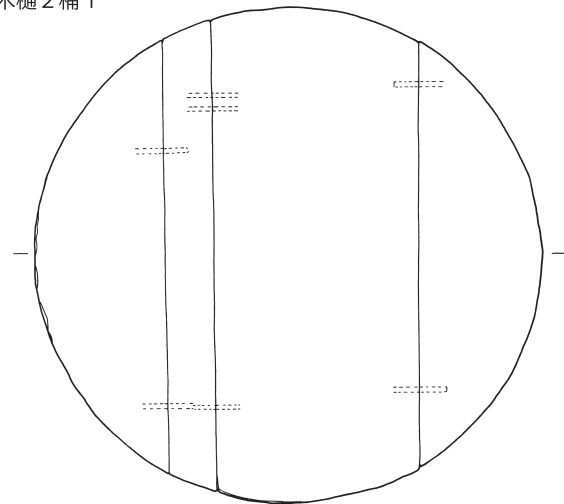
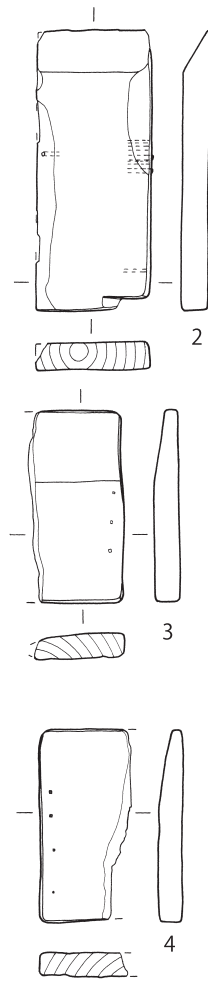
平面形は、長軸長7.25m、幅1.13m、深さ1.26mの溝状である。断面形は逆台形である。

覆土は、堆積後に掘り直されているが、そのいずれからも焼土・炭化物・多量の木質遺物・被熱陶磁器類が出土しており、少なくとも2度にわたる火災処理が行われたと考えられる。

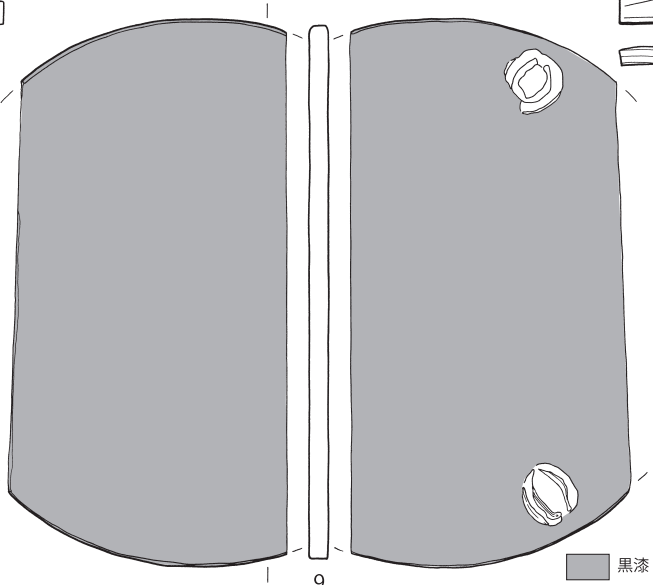
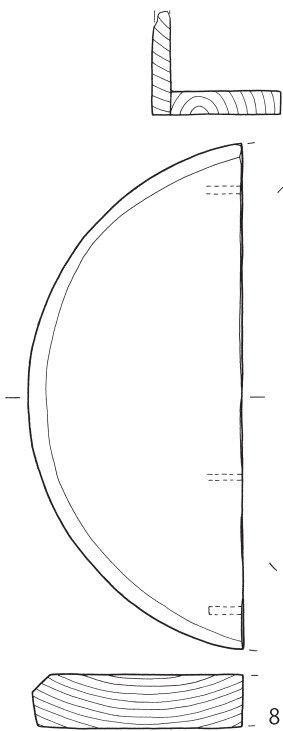
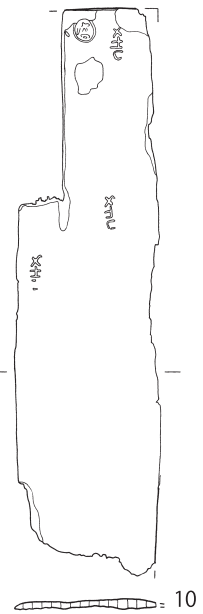
木樋2



木樋2桶1



木樋3



黒漆

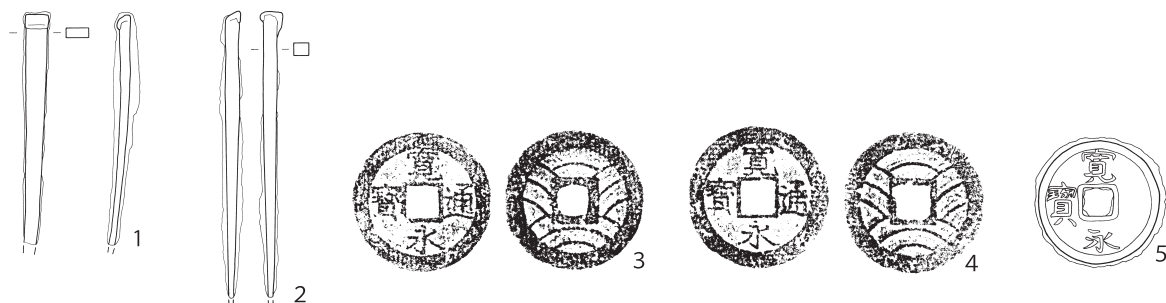
0 8・9 10cm 1:4
 0 1~4・10・11 20cm 1:8
 0 5~7 20cm 1:6

第91図 道路跡木樋出土遺物(4)

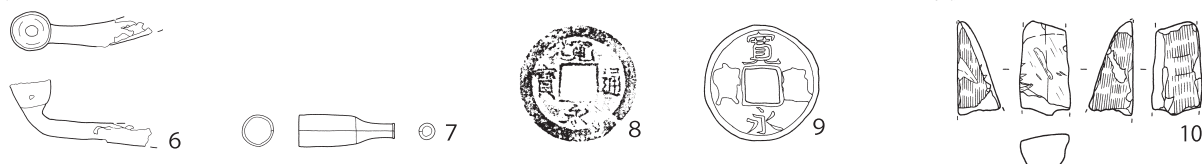
第55表 道路跡木樋出土遺物観察表（3）（第91図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	木樋	99.9	13.8	—	—	[10.9]	—	板目	木樋2	底板 釘孔6 金属釘残 ノコギリ痕	
2	木製品	木樋	29.7	12.0	2.8	—	—	—	板目	木樋2	底板 金属釘7 右下角切り込み	
3	木製品	側板	20.3	[10.1]	2.6	—	—	—	板目	木樋2	鉄釘残	
4	木製品	側板	20.4	[9.6]	2.5	—	—	—	板目	木樋2	鉄釘5	
5	木製品	桶	39.5	40.6	2.7	—	—	—	板目	木樋2	底板 木釘残 文字資料10	56-9
6	木製品	桶	[42.7]	6.0	1.2	—	—	—	板目	木樋2	側板 タガ痕 文字資料4	56-4
7	木製品	桶	[22.3]	5.8	1.3	—	—	—	板目	木樋2	側板 タガ痕 文字資料9	56-8
8	木製品	桶	—	—	2.8	(27.0)	—	—	板目	木樋2	底板 木釘残存	
9	木製品	膳	—	—	1.0	29.0	—	—	桁目	木樋2	全面黒漆 胡桃脚の痕跡	
10	木製品	木樋	[59.8]	[15.2]	1.0	—	—	—	桁目	木樋3	蓋 焼印 文字資料17	56-16
11	木製品	木樋	18.8	6.2	1.8	—	—	—	板目	木樋3	表面墨書 文字資料13	56-10

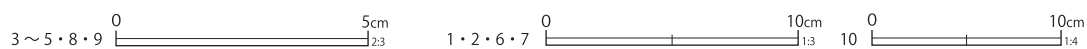
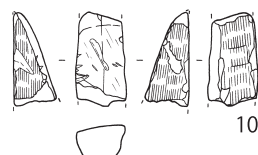
木樋2



木樋3



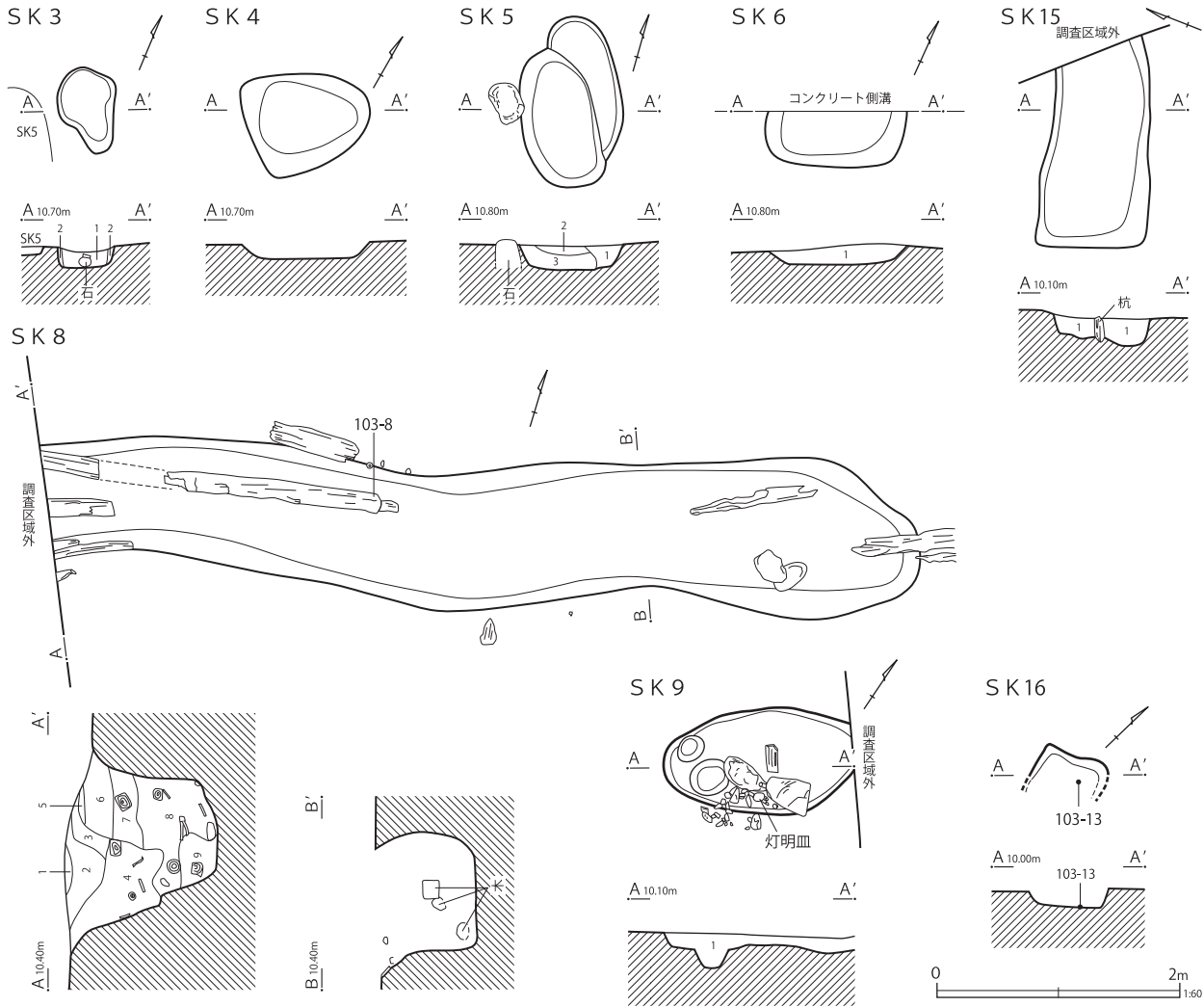
木樋2



第92図 道路跡木樋出土遺物（5）

第56表 道路跡木樋出土遺物観察表（4）（第92図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ [9.1] 幅 0.9 厚さ 0.4 重さ 14.5	木樋2		
2	鉄製品	釘	長さ [11.3] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 13.9	木樋2		
3	銅製品	銭貨	径 28.2 厚さ 1.3 重さ 4.9	木樋2	寛永通寶（四文銭）	
4	銅製品	銭貨	径 28.4 厚さ 1.1 重さ 3.9	木樋2	寛永通寶（四文銭）	
5	鉄製品	銭貨	径 24.2 厚さ 1.3 重さ 4.1	木樋2	寛永通寶（新）	
6	銅製品	煙管	長さ [5.6] 火皿径 1.5 小口径 1.6 重さ 5.6	木樋3	雁首	53-4
7	銅製品	煙管	長さ 3.8 小口径 1.2 口付径 0.6 重さ 9.2	木樋3	吸口	53-4
8	銅製品	銭貨	径 23.1 厚さ 1.0 重さ 2.1	木樋3	寛永通寶（新）	
9	鉄製品	銭貨	径 22.8 厚さ 1.3 重さ 3.0	木樋3	寛永通寶（新）	
10	石製品	砥石	長さ [4.9] 幅 2.7 厚さ [2.3] 重さ 33.3	木樋2	流紋岩（緑色）櫛歯状工具痕か、刃物痕3条	54-5



- SK 3
 1 黒褐色土 炭化物を多く含み、やや粘質がある
 2 灰黄褐色土 炭化物含む
- SK 5
 1 黒褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
- SK 6
 1 褐灰色土 炭化物含む

- SK 8
 1 にぶい黄褐色土
 2 灰黄褐色土 炭化物含む
 3 にぶい黄褐色土
 4 明赤褐色土 焼土・炭化物・木質遺物を多く含む
 5 黄褐色土
 6 灰黄褐色土
 7 灰黄褐色土
 8 黒褐色土 炭化物・木質遺物を多量に含む
 9 褐灰色土

- SK 9
 1 褐灰色土 炭化物を含む
- SK 15
 1 褐灰色砂層 きめの細かい砂で充填されている

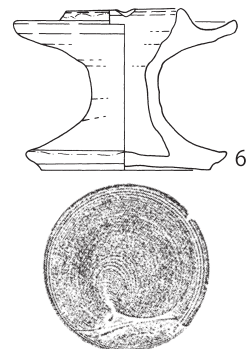
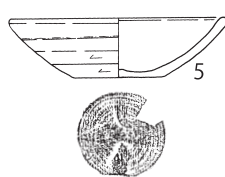
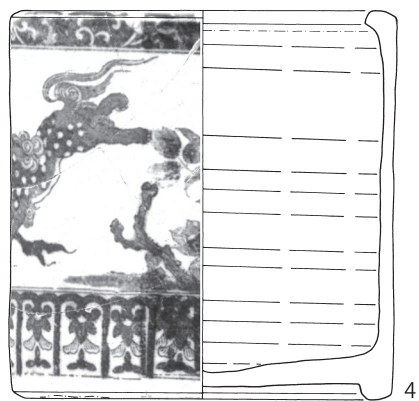
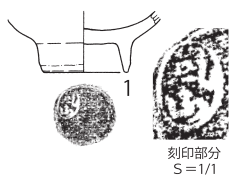
第93図 土壌

第57表 土壌計測表

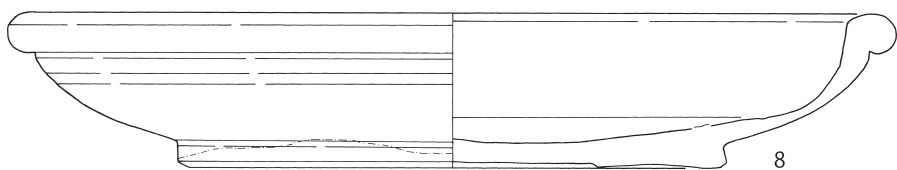
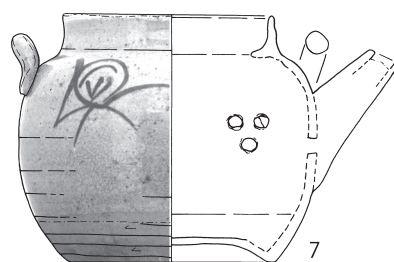
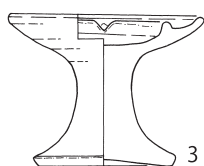
単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
3	B6-J1	不整形	0.72	0.50	0.18	N-39° -W	
4	B6-J2	隅丸三角形	1.02	0.82	0.13	N-45° -E	
5	B6-J1	二重楕円形	1.40	0.84	0.19	N-13° -W	
6	B6-J1	隅丸方形?	1.14	0.46	0.14	N-65° -E	
8	B5-J10, B6-J1	溝状長楕円形	7.25	1.13	1.26	N-77° -E	甕 2、SB1、SB4、木樋 1 と重複 桶 2、3、木樋 3、5 より古
9	B6-J2	楕円形	1.57	0.88	0.14	N-56° -E	ピット状 深さ 0.28
15	B6-J2	隅丸長方形	1.64	0.82	0.26	N-72° -E	
16	B6-I1	隅丸方形?	0.56	0.28	0.18	N-61° -E	木製面出土

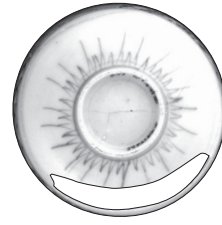
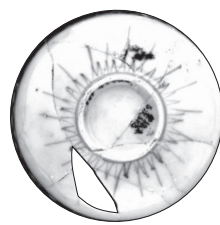
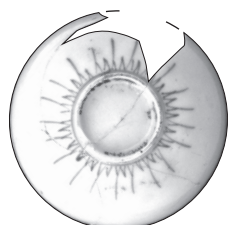
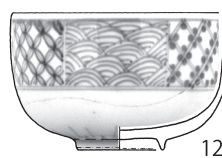
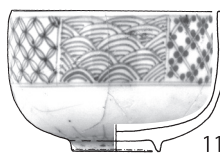
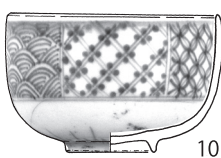
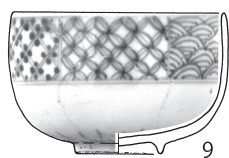
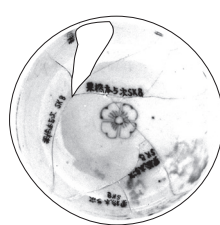
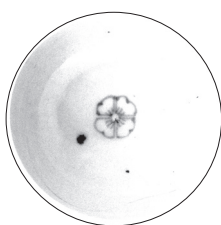
SK 3



SK 4

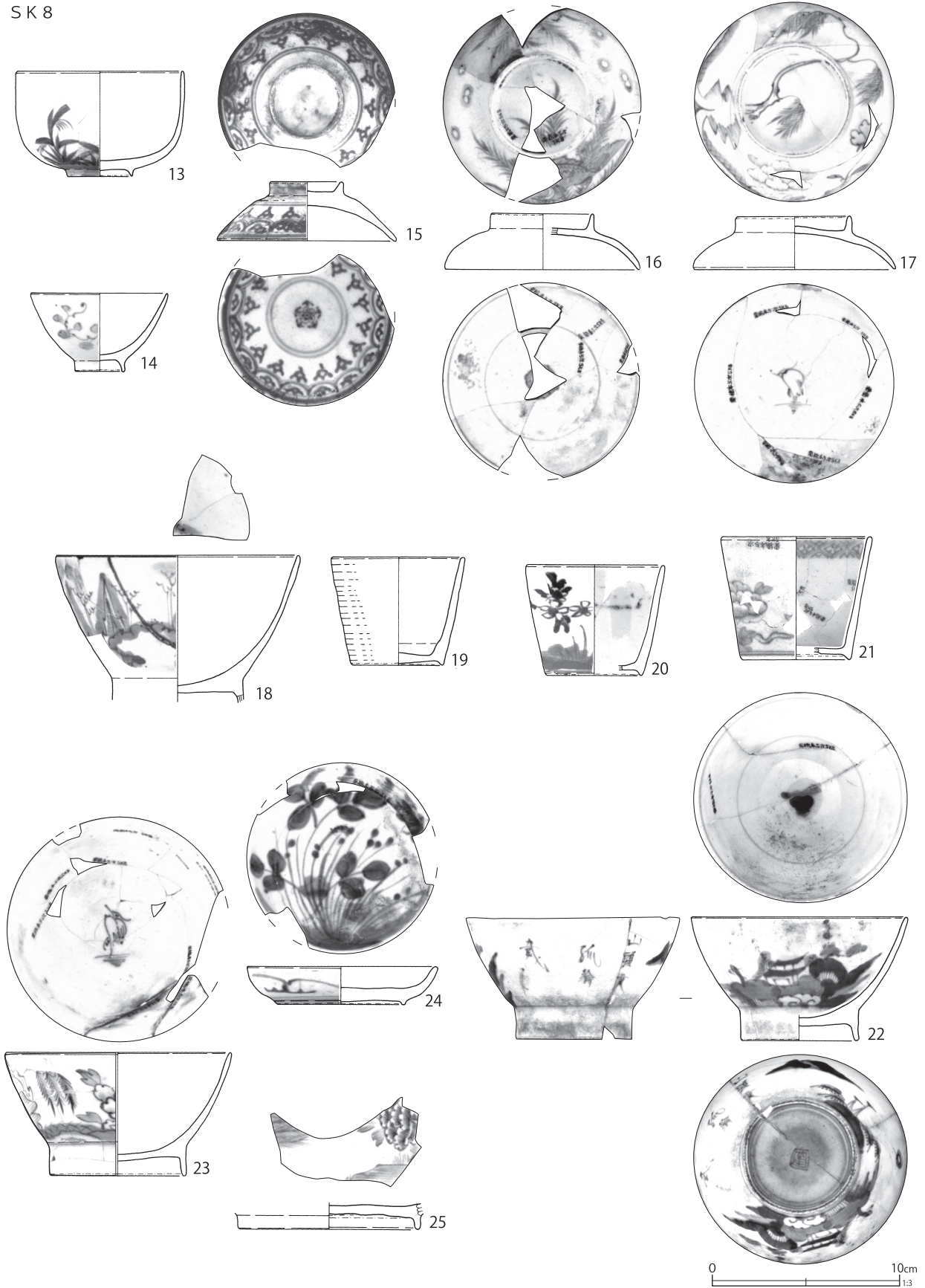


SK 8



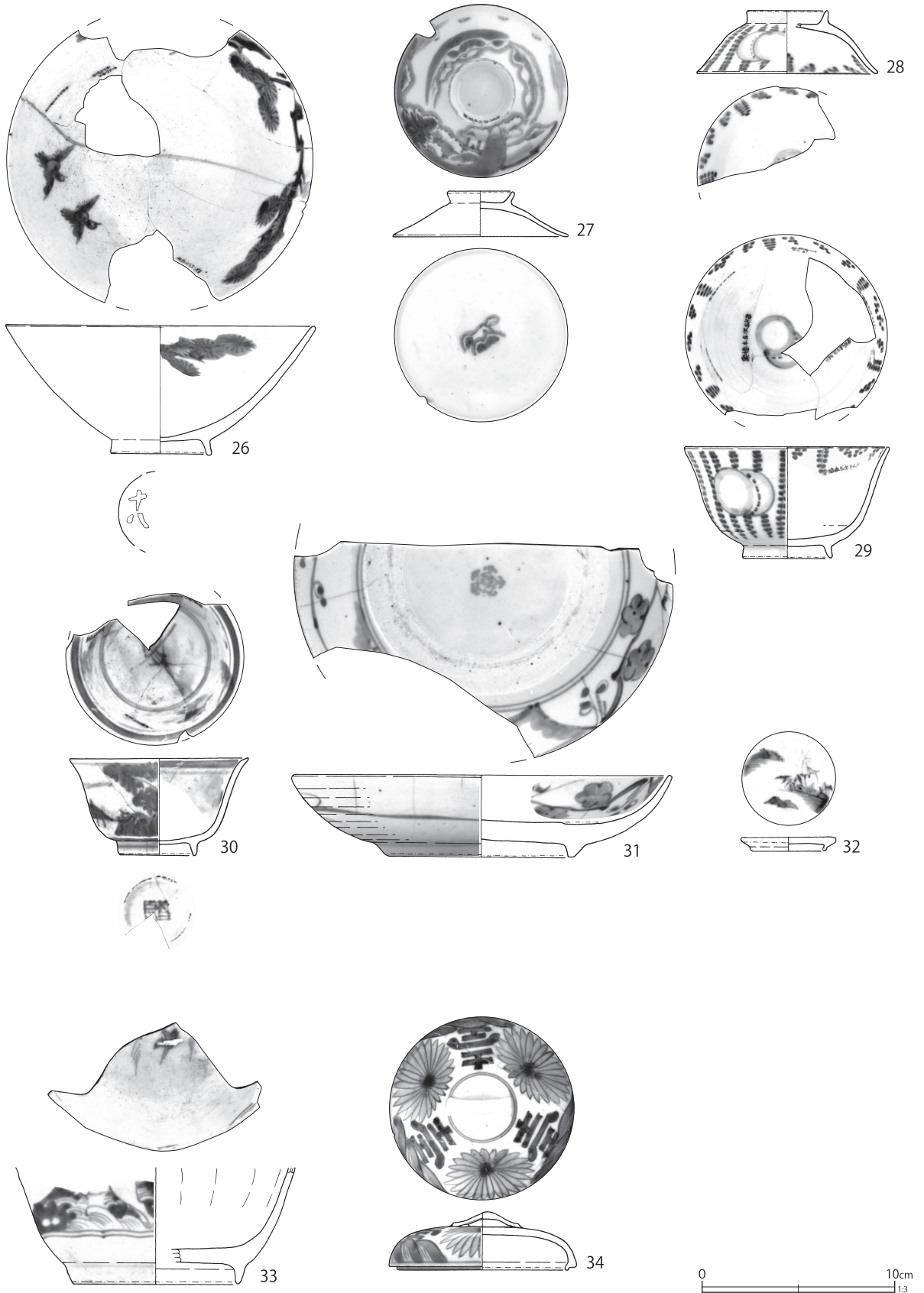
第94図 土壙出土遺物(1)

SK 8



第95図 土壙出土遺物（2）

SK 8



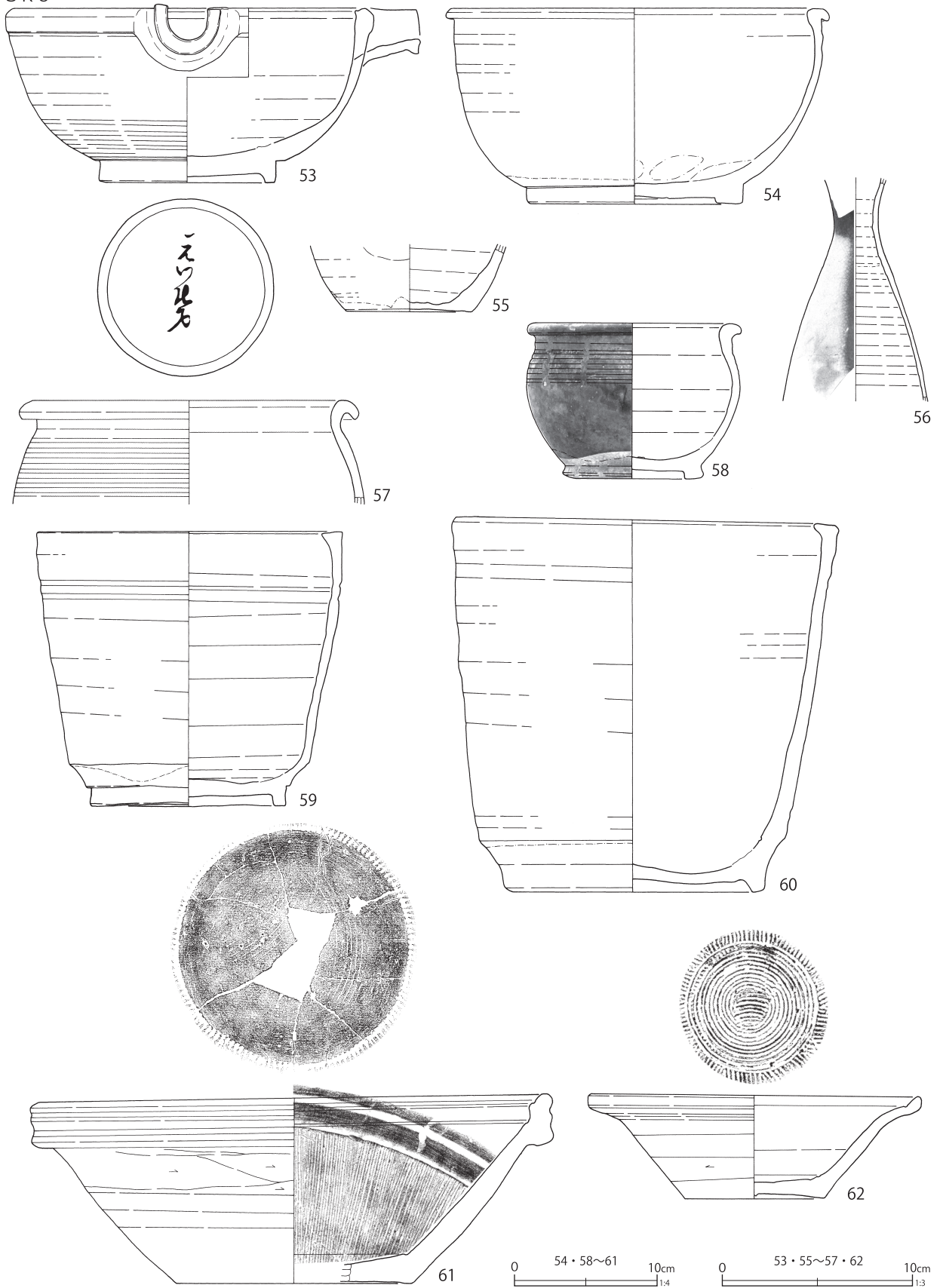
第96図 土壙出土遺物 (3)

SK 8



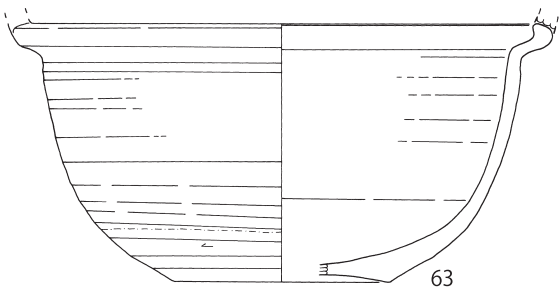
第97図 土壙出土遺物(4)

SK 8



第98図 土壙出土遺物 (5)

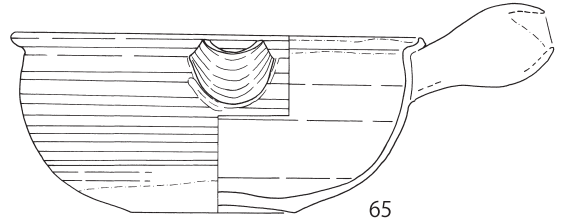
SK 8



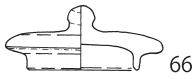
63



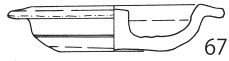
64



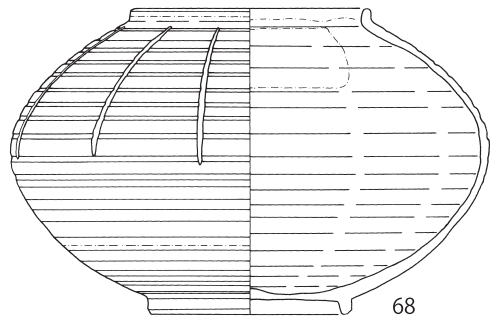
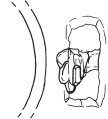
65



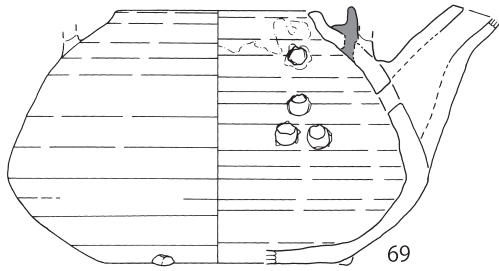
66



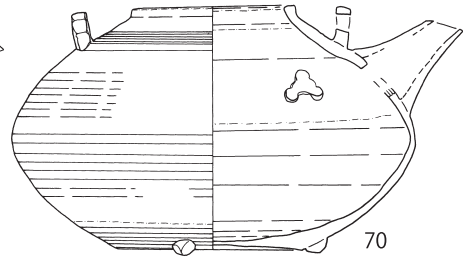
67



68

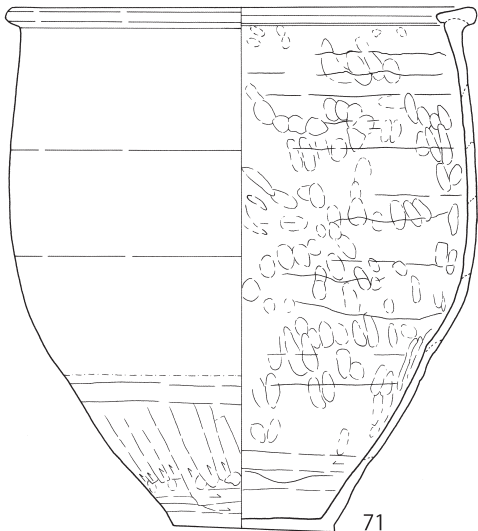


69

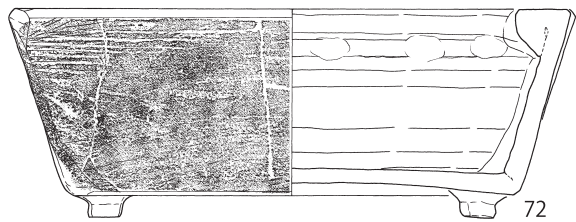


70

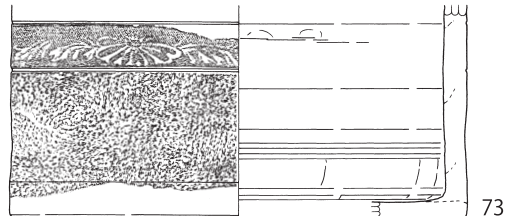
■ 金具部分



71



72

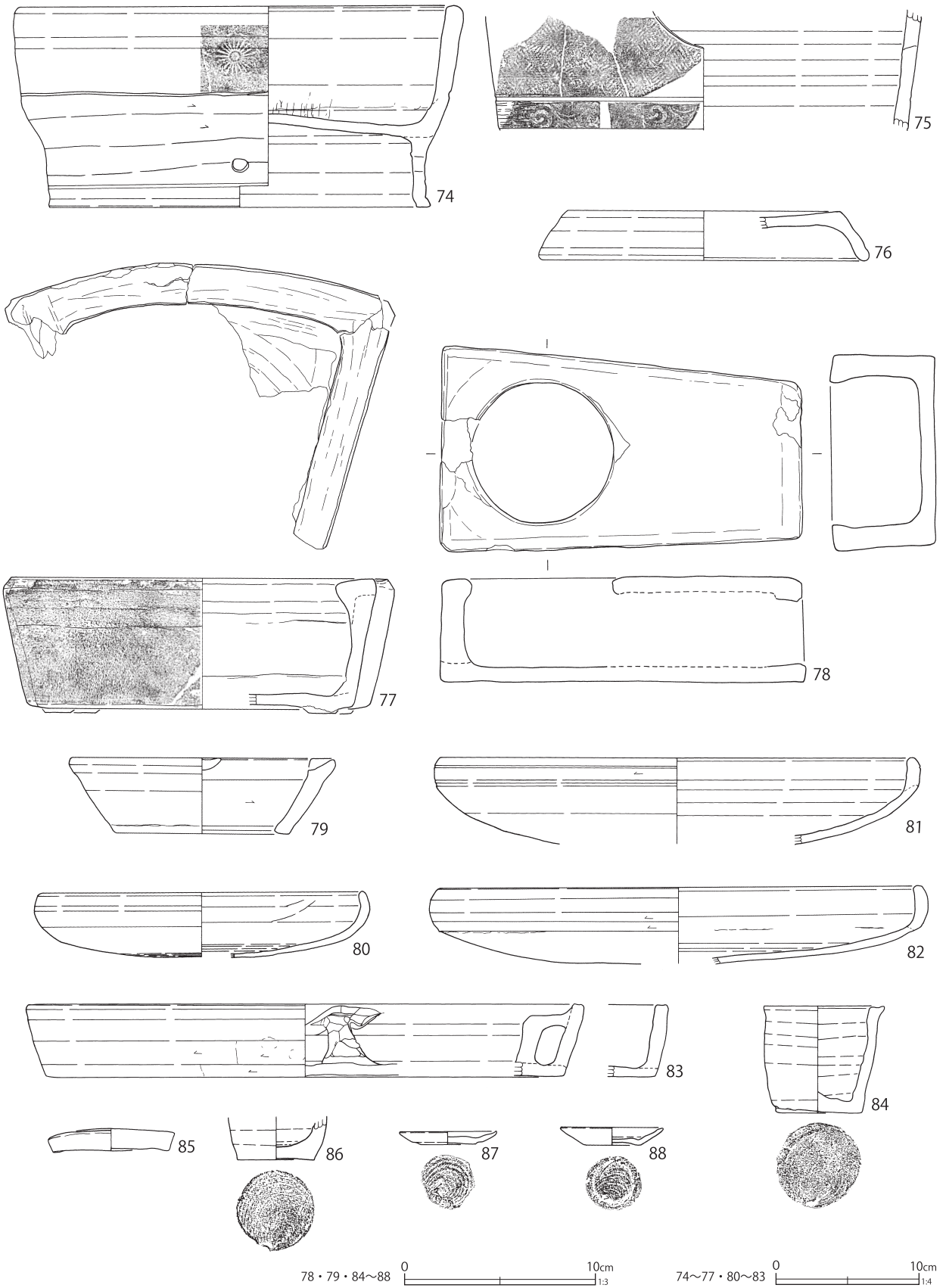


73

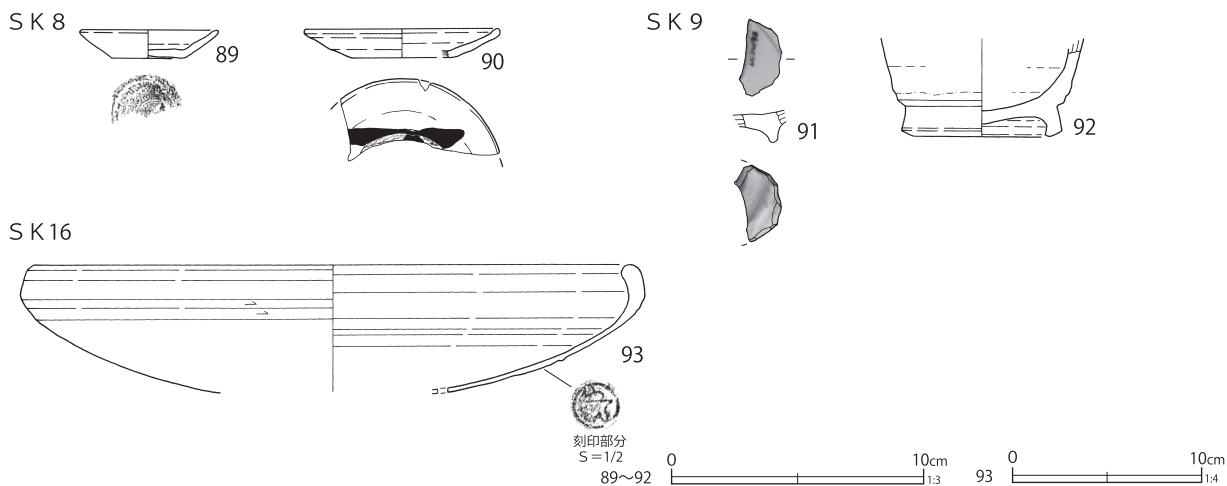
63~70 0 10cm 1:3 72・73 0 10cm 1:4 71 0 20cm 1:8

第99図 土壙出土遺物 (6)

SK 8



第100図 土壙出土遺物 (7)



第101図 土壌出土遺物（8）

陶磁器は、第94図9～12、第95～100図、101図89・90に示した。

磁器は肥前系が多く、広東碗、端反碗などでは蓋と身のセットとみられるものも出土した。9～12は小丸碗で、同文であることから組物とみられる。13は小丸碗、14は坏、15が端反碗の蓋、16・17は広東碗の蓋で、17は20とセットとみられる。18も広東碗で、外面に漢詩が染付で書かれている。19～21は底部輪高台猪口、24は粗製皿、25も皿である。26はうがい茶碗で、本遺跡からの出土は少ない。焼継されており、高台内に「十八」とあり焼継印とみられる。27と28は端反碗の蓋で、28は29とセットとみられる。31に見込み釉剥ぎの皿、32に合子蓋、33に鉢、34に蓋物蓋、35に香炉、38と39に徳利を示した。38と39は同文の組物とみられる。36と37は鉄釉水注で、外面は型成形とみられる。瀬戸美濃系磁器は、30の端反碗である。

陶器は40～71である。瀬戸美濃系が多い。京都信楽系は40が碗、43が坏、47が灯明皿、56が徳利である。その他は瀬戸美濃系陶器である。41・42が坏、44～46は灯火具である。44は大振りである。46は把手と油受けの付いた秉燭で、全体に鉄釉がかけられている。瀬戸美濃系の可能性があるが、はっきりしない。48は鉢で、底部に墨書がある。

49と50は香炉で、50は底部に墨書がある。51は灰釉鉢、52と53は片口鉢、54はこね鉢である。52は口が欠損しているが、口縁形状から片口鉢と判断した。53は底部に墨書がある。55は徳利、57は柿釉甕、58は柿釉壺、59・60は柿釉半胴甕である。半胴甕は、いずれも被熱して黒化している。62は小型の播鉢である。61は堺明石系の播鉢である。

64は柿釉鍋の蓋、65は行平鍋、66と67は土瓶の蓋である。66は瀬戸美濃系陶器、その他は地方窯系の製品である。68～70は土瓶で、68は施文されている。69は施釉土器の鉄釉土瓶で、口縁付近に2次穿孔を行い、銅線を巻き付けている。

71は常滑系の大甕で、口縁径50cm、器高55.9cmを測る。常滑系の大甕は、他の出土事例では、便槽として使用された形跡のあるものも多いが、本例は内面付着物がないこと、火災処理に関わる土壌から破片状態で出土したことなどから、こうした利用方法ではないと考えられる。

72～90は土器である。72～75・77は瓦質火鉢、76は火消壺の蓋、78は風口、79は器台である。80～83は焙烙で、80～82が土師質土器の丸底焙烙、83は瓦質土器の平底焙烙である。84・86は焼塩壺で、刻印はない。87～90はかわらけである。90のかわらけは底部に墨痕が認められる。

土製品は、第102図1～3に示した。1は肥前

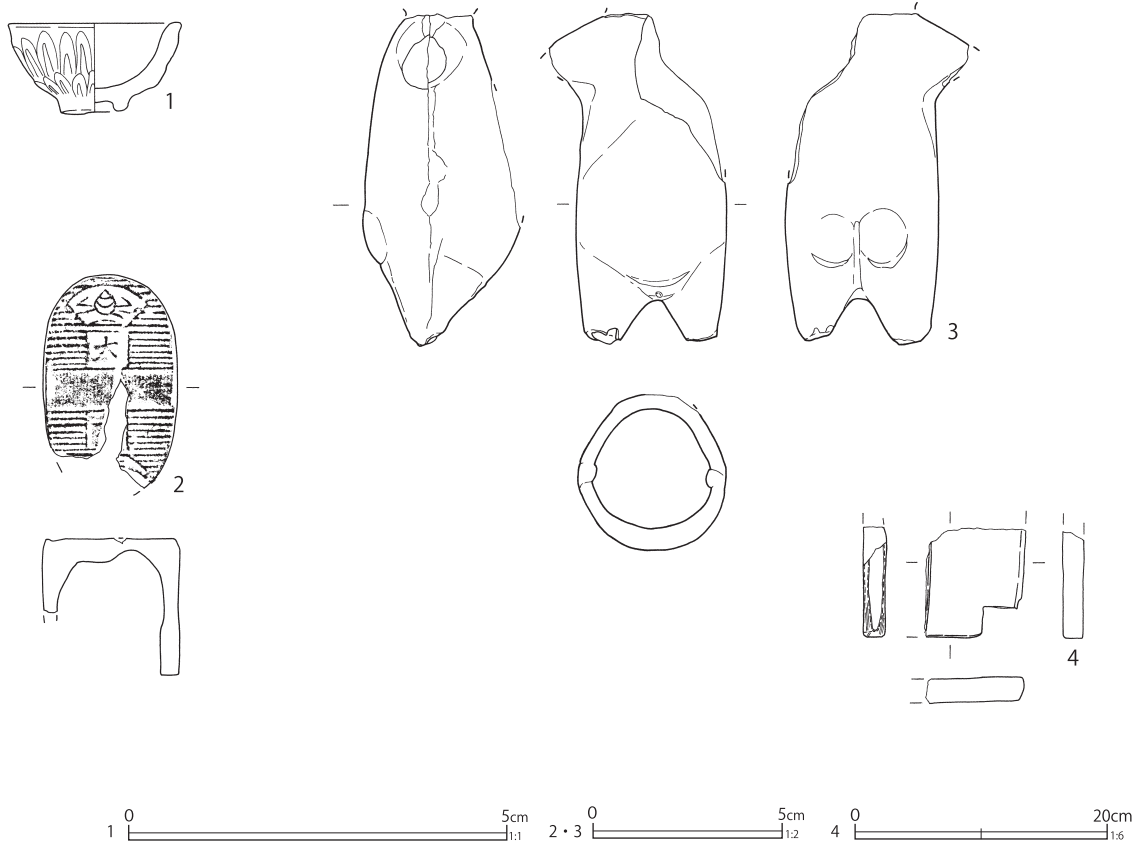
第58表 土壌出土遺物観察表 (1) (第94 ~ 101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	碗	(6.0)	[2.4]	3.3	E	70	良好	灰白	SK3	施釉(明赤灰色) 底部刻印「嵐山」	34-11
2	磁器	灯明皿	7.9	1.6	3.5	—	85	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 底部回転ケズリ 施釉	
3	磁器	灯火具	7.4	5.9	5.2	—	80	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施釉	
4	磁器	火鉢	(13.8)	15.3	13.4	K	45	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 外面施釉・銅版転写染付 底部墨書	
5	陶器	灯明皿	8.4	2.3	3.4	K	90	良好	にぶい橙	SK4	京都信楽系か 底部回転ケズリ 施釉	34-12
6	陶器	灯火具	4.5	6.3	6.7	I	95	良好	浅黄橙	SK4	京都信楽系か 底部糸切痕(右) 施釉	34-12
7	陶器	土瓶	8.1	9.8	8.0	IK	100	良好	にぶい褐	SK4	外面施釉・鉄絵	34-13
8	陶器	皿	(33.0)	6.1	20.8	HIK	70	良好	灰白	SK4	益子系か 灰釉 内面目跡 12	
9	磁器	碗	8.2	5.5	3.2	—	90	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 煤付着	35-1
10	磁器	碗	8.2	5.5	3.4	—	100	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 煤付着	35-1
11	磁器	碗	8.1	5.5	3.3	—	95	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 弱く被熱	35-1
12	磁器	碗	8.3	5.4	3.3	—	95	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付	35-1
13	磁器	碗	(8.6)	5.5	3.4	—	60	良好	白	SK8	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
14	磁器	坏	(7.1)	4.1	2.5	—	40	良好	白	SK8	肥前系 施釉 外面染付 弱く被熱	
15	磁器	蓋	9.4	3.1	3.8	—	70	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 被熱	35-2
16	磁器	蓋	5.2	2.9	10.2	—	85	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 被熱	35-4
17	磁器	蓋	10.8	2.7	10.7	—	95	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 被熱	35-3
18	磁器	碗	(12.8)	[7.7]	—	—	40	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 焼継痕 被熱	
19	磁器	猪口	(6.9)	5.7	4.7	—	75	良好	白	SK8	肥前系 施釉 被熱	
20	磁器	猪口	7.2	5.8	5.0	—	25	良好	灰白	SK8	肥前系 施釉 染付 同文別個体 1 以上	
21	磁器	猪口	7.9	6.5	(5.6)	—	40	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 激しく被熱 同文別個体 2 以上	
22	磁器	碗	11.4	6.5	6.1	—	100	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 被熱	36-1
23	磁器	碗	11.9	6.5	7.2	—	90	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 焼継痕 被熱	35-3
24	磁器	皿	10.0	2.0	6.7	—	90	良好	灰白	SK8	肥前系 施釉 染付 煤付着	35-6
25	磁器	皿	—	[1.4]	9.6	—	30	良好	白	SK8	肥前系 施釉 内面染付	
26	磁器	碗	15.9	6.6	5.0	—	80	良好	白	SK8	肥前系 施釉 内面染付 焼継痕焼継印 被熱	36-2
27	磁器	蓋	3.3	2.3	9.0	—	95	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付	36-3
28	磁器	蓋	(4.0)	3.2	(9.3)	—	40	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付	35-5
29	磁器	碗	10.5	5.7	4.5	—	75	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 被熱	35-5
30	磁器	碗	9.1	5.0	3.8	—	75	良好	白	SK8	瀬戸美濃系 施釉 染付 被熱	36-4
31	磁器	皿	(19.3)	4.2	9.5	—	45	良好	白	SK8	肥前系 施釉 染付 内面蛇ノ目釉剥	
32	磁器	蓋	4.9	0.7	3.7	—	100	良好	灰白	SK8	肥前系 施釉 外面染付 合子	36-5
33	磁器	鉢	—	[6.0]	(8.5)	HIK	25	良好	灰白	SK8	肥前系 施釉 染付 焼継痕 焼継印 被熱	35-5
34	磁器	蓋	—	3.0	8.6	—	100	良好	白	SK8	肥前系 施釉 外面染付 被熱	35-5
35	磁器	香炉	11.4	7.7	3.2	IK	75	良好	灰白	SK8	肥前系 青磁釉	37-1
36	磁器	蓋	(7.5)	0.9	(7.5)	—	50	良好	灰白	SK8	肥前系 外面施文・鉄釉	37-2
37	磁器	水注	8.0	16.9	8.7	—	90	良好	灰白	SK8	肥前系 外面施文 施釉(外面鉄釉) 被熱	37-2
38	磁器	德利	—	[5.0]	2.5	—	95	良好	白	SK8	肥前系 外面施釉・染付	
39	磁器	德利	(1.9)	7.4	2.6	—	95	良好	灰白	SK8	肥前系 外面施釉・染付	
40	陶器	碗	9.7	5.7	3.2	I	75	良好	灰白	SK8	京都信楽系 施釉 外面鉄絵	37-3
41	陶器	坏	6.1	3.7	2.9	EK	100	良好	灰	SK8	瀬戸美濃系 灰釉 全体に赤色付着物	
42	陶器	坏	6.1	4.1	2.5	IK	75	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	
43	陶器	坏	6.0	3.7	3.1	EK	100	良好	灰白	SK8	京都信楽系 施釉 被熱	37-4
44	陶器	灯明皿	11.4	2.1	5.6	K	70	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 底部糸切痕 柿釉 内面重焼痕	37-5
45	陶器	灯明皿	9.8	2.3	4.0	K	100	良好	にぶい褐	SK8	瀬戸美濃系 柿釉 内面重焼痕	
46	陶器	乗燭	3.3	8.7	(6.5)	HI	90	良好	灰	SK8	瀬戸美濃系か 底部糸切痕(右) 鉄釉 被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
47	陶器	灯明皿	(11.5)	[1.6]	—	K	25	良好	灰	SK8	京都信楽系 施釉 激しく被熱	
48	陶器	鉢	—	[1.8]	9.8	IK	10	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 内面灰釉 底部墨書	37-6
49	陶器	香炉	12.4	6.3	7.3	K	75	良好	灰黄褐	SK8	瀬戸美濃系 外面灰釉・摺絵 被熱	37-7
50	陶器	香炉	8.8	4.9	3.8	IK	100	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 外面緑釉 底部墨書	37-8
51	陶器	鉢	16.3	7.7	8.5	EI	95	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 灰釉 内底面目跡3	38-1
52	陶器	片口鉢	15.8	8.6	8.2	D	60	良好	淡黄	SK8	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	
53	陶器	片口鉢	18.4	9.1	9.2	HIK	90	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 灰釉 内底面目跡3 底部墨書	38-2
54	陶器	こね鉢	26.0	13.6	14.8	K	75	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 灰釉・一部緑釉流掛 内面目跡5 被熱	38-3
55	陶器	德利	—	[3.6]	6.5	DK	75	良好	褐灰	SK8	瀬戸美濃系 外面柿釉・底部ふきとり 被熱	
56	陶器	德利	—	[11.7]	—	K	70	良好	灰白	SK8	京都信楽系 外面施釉・上位緑釉 被熱	
57	陶器	甕	(16.4)	[5.4]	—	HI	10	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 柿釉 被熱	
58	陶器	壺	13.5	10.9	6.7	DE	100	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 柿釉・鉄釉流掛 内面目跡4 激しく被熱・発泡	38-4
59	陶器	半胴甕	21.3	19.2	13.4	DEIK	95	良好	にぶい黄橙	SK8	瀬戸美濃系 柿釉 口唇部目跡5・内底面目跡3 被熱	38-5
60	陶器	半胴甕	25.1	26.1	16.8	IK	80	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 柿釉 内面目跡3 口唇部二次叩打痕	38-6
61	陶器	播鉢	35.4	13.3	16.6	DE	85	普通	明赤褐	SK8	堺明石系 砂目底・一部被熱(黒化) 内面播目	
62	陶器	播鉢	17.0	5.3	7.3	DEK	95	良好	浅黄橙	SK8	瀬戸美濃系 柿釉 内面播目	38-7
63	陶器	鍋	19.8	10.1	(8.6)	IK	75	良好	灰白	SK8	柿釉 底部煤付着	39-1
64	陶器	蓋	5.5	3.6	15.0	I	90	良好	灰	SK8	鉄釉 胎土炆器質 行平鍋	38-8
65	陶器	行平鍋	15.9	7.1	6.4	I	95	良好	灰	SK8	鉄釉 胎土炆器質	38-8
66	陶器	蓋	—	2.5	4.2	H	95	良好	灰白	SK8	瀬戸美濃系 外面緑釉	39-2
67	陶器	蓋	8.6	1.8	4.3	DK	95	普通	褐灰	SK8	鉄釉 胎土土器質 被熱	39-3
68	陶器	土瓶	(9.4)	12.0	(7.7)	K	25	良好	灰白	SK8	施釉 外面施文・鉄絵・白盛絵付 被熱	
69	陶器	土瓶	7.8	10.2	(9.2)	DH	45	良好	橙	SK8	外面鉄釉 施釉土器質 耳破損後二次穿孔して銅製金具取付 被熱	39-4
70	陶器	土瓶	6.0	9.7	7.4	K	70	良好	にぶい橙	SK8	外面鉄釉	39-5
71	陶器	大甕	50.0	55.9	17.0	AH	80	良好	暗赤褐	SK8	常滑 黒色施釉	39-6
72	瓦質土器	火鉢	29.2	11.0	23.2	CEHIK	70	普通	灰白	SK8	底部シワ状痕 外面ハケ目状工具ナデ	39-7
73	瓦質土器	火鉢	—	[11.2]	(23.8)	ACDEH	30	普通	褐灰	SK8	底部シワ状痕・脚剥落 外面施文 胎土粉質 燻す 3片から図上復元	
74	瓦質土器	火鉢	30.5	14.0	26.6	CHI	65	普通	にぶい橙	SK8	砂目底 外面菊花文スタンプ 酸化炎焼成 ぎみ 被熱	39-8
75	瓦質土器	火鉢	—	8.5	—	ACIK	5	普通	にぶい橙	SK8	外面施文 窓部と沈線区画内ミガキ 酸化炎焼成 ぎみ 硬質	
76	瓦質土器	蓋	—	3.4	22.4	CHIK	15	普通	赤橙	SK8	上面砂目 被熱・赤化 火消壺	
77	瓦質土器	火鉢	(25.3)	9.1	(20.7)	IK	40	普通	橙	SK8	砂目底 被熱・激しく歪む	40-1
78	土師質土器	風口	縦19.0 高5.5	横10.7		AHI	95	普通	にぶい橙	SK8	砂目底をナデ消し 外面煤付着 胎土粉質	40-2
79	土師質土器	器台	(13.5)	3.9	(9.0)	AHIK	50	普通	橙	SK8	被熱(変色) 口縁部抉り4箇所か	40-3
80	土師質土器	焙烙	(22.3)	[4.5]	(22.4)	AIK	55	普通	にぶい黄橙	SK8	砂目底 胎土粉質 被熱(一部黒化)	
81	土師質土器	焙烙	(33.0)	[6.0]	(33.6)	CDEH	25	普通	にぶい赤橙	SK8	底部シワ状痕	
82	土師質土器	焙烙	33.0	[5.3]	33.1	CIK	65	普通	灰白	SK8	底部シワ状痕	40-4
83	瓦質土器	焙烙	(37.4)	5.1	(36.0)	CDEH	5	普通	浅黄橙	SK8	底部シワ状痕 燻す 内耳1 遺存	
84	土師質土器	焼塩壺	6.2	5.5	4.5	ACHIKG	100	普通	にぶい橙	SK8	底部糸切痕(左) 胎土粉質 外面被熱・器壁剥落	40-5
85	土師質土器	蓋	6.5	1.2	6.0	AIKJ	95	普通	橙	SK8	胎土粉質 被熱して変形 焼塩壺	40-6
86	土師質土器	焼塩壺	—	[2.2]	4.0	ACHIK	70	普通	橙	SK8	底部糸切痕(左) 胎土粉質	
87	かわらけ	小皿	(5.0)	0.7	2.8	AHK	60	普通	にぶい橙	SK8	底部糸切痕(左)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
88	かわらけ	小皿	5.3	0.9	2.9	ACHIK	95	普通	にぶい黄橙	SK8	底部糸切痕(左)	40-7
89	かわらけ	小皿	(5.4)	1.1	(2.9)	ACHIK	35	普通	にぶい黄橙	SK8	底部糸切痕(左)	
90	かわらけ	小皿	(7.6)	1.1	4.0	ACHI	30	普通	にぶい黄橙	SK8	底部糸切痕 胎土粉質 底部墨痕	
91	磁器	皿	—	[1.1]	—	—	5	良好	灰白	SK9	肥前系 施釉 染付 円盤状製品転用	41-12
92	陶器	瓶類か	—	[3.8]	2.6	IK	20	良好	灰白	SK9	瀬戸美濃系 外面鉄釉	
93	土師質土器	焙烙	[31.4]	[6.7]	[31.4]	ACHIK	20	普通	橙	SK16	砂目底・一部シワ状痕 胎土粉質 底部外面刻印(陽刻状)	

SK8



第102図 土壌出土遺物(9)

第59表 土壌出土遺物観察表(2)(102図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	—	—	0.2	3.0	—	普通	白	SK8	口径2.3 器高1.2 底径0.9 肥前系か 型成形 施釉紅坏	49-7
2	土製品	小判形	[5.6]	3.6	3.6	17.0	AHIK	良好	にぶい黄	SK8	小判形 型押成形 開口 外面雲母付着、大部分黒化	49-9
3	土製品	人形	8.6	(4.0)	4.1	56.0	A	良好	橙	SK8	ぶら人形 前後型合成形 中空 江戸在地系	49-10
4	瓦	棧瓦	[8.7]	[8.0]	1.7	—	K	良好	灰白	SK8	高さ1.8 切断面あり 転用か	50-10

系磁器と推定される極小品の坏、2は土製小判形、3は江戸在地系の土製ぶら人形である。

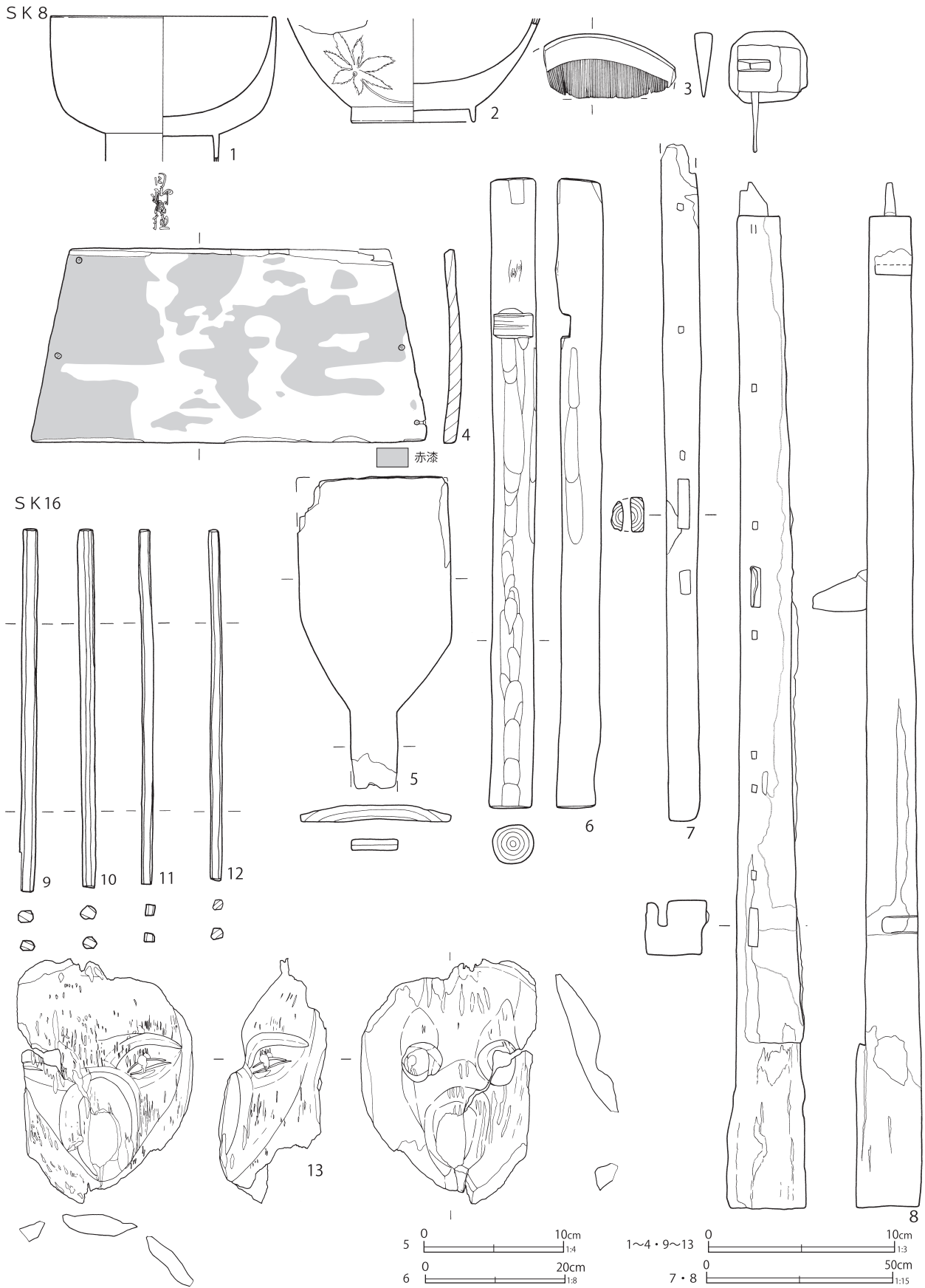
瓦は第102図4に示した。切断痕跡がみられ、棧瓦の転用品と推定される。中心部で折損している。

木製品が多く、漆碗、羽子板、箸、箱枕、櫛、

建築部材等が出土している(第103図)。

石製品は、第105図1が玉髓製火打ち石、2は流紋岩製の硯で、墨堂の部分に使用痕ではない細かな線刻が見られる。3~5は砥石である。

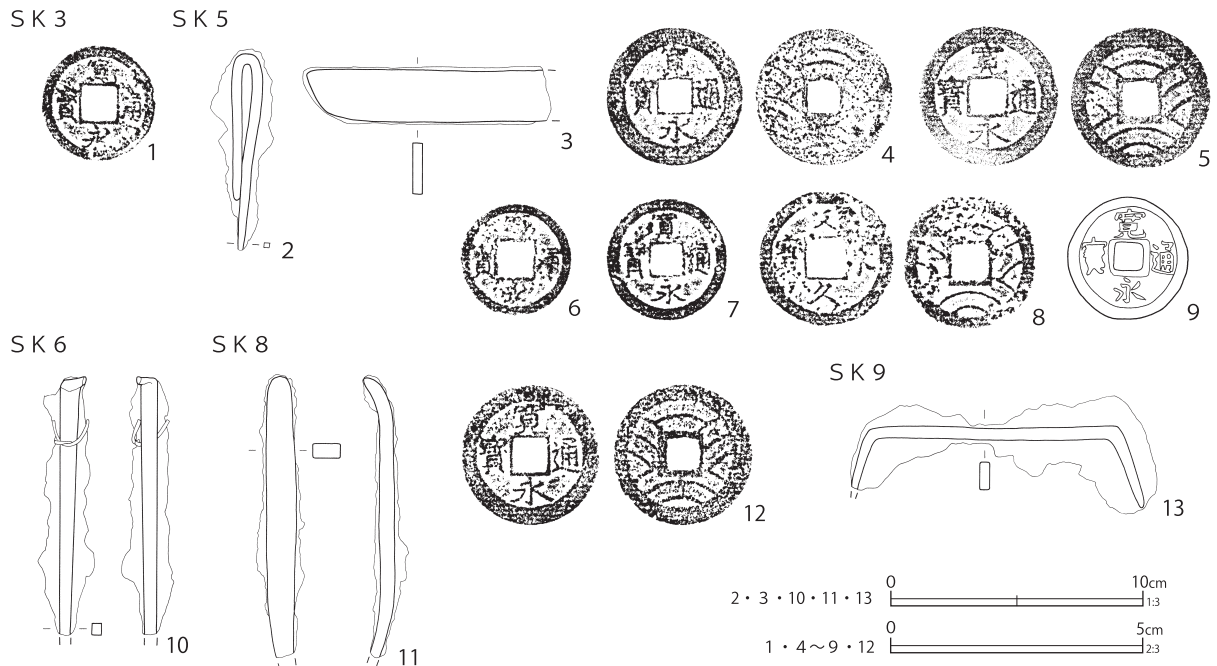
時期は、出土陶磁器から19世紀前葉とみられる。



第103図 土壙出土遺物 (10)

第60表 土壌出土遺物観察表（3）（第103図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆椀	—	—	—	12.0	[7.7]	—	横木取り	SK8	内外面黒漆 高台内赤で文字 歪み大 プナ属	51-2
2	木製品	漆椀	—	—	—	—	[5.5]	6.5	横木取り	SK8	外面に赤と金で文様 プナ属	51-3
3	木製品	櫛	[7.0]	3.5	1.0	—	—	—	板目	SK8	全面炭化 ナシ亜科	51-4
4	木製品	箱枕	10.3	21.1	0.6	—	—	—	板目	SK8	表・上面赤漆 右側面下地赤 歪み有 スギ	
5	木製品	羽子板	[22.3]	10.7	1.1	—	—	—	板目	SK8	スギ	
6	木製品	建築材	89.8	6.5	5.6	—	—	—	芯持材	SK8	ヒノキ属	
7	木製品	建築材	[181.0]	8.5	9.0	—	—	—	芯持材	SK8		
8	木製品	建築材	274.0	21.0	17.5	—	—	—	芯持材	SK8	柄内材残存 炭化	
9	木製品	箸	19.3	0.8	0.6	—	—	—	削出し	SK16	スギ	
10	木製品	箸	19.0	0.8	0.7	—	—	—	削出し	SK16		
11	木製品	箸	19.0	0.6	0.6	—	—	—	削出し	SK16		
12	木製品	箸	18.7	0.6	0.6	—	—	—	削出し	SK16		
13	木製品	面	[17.4]	[12.2]	1.9	—	—	—	—	SK16	神楽面 全面漆か 痛み大	巻頭-2

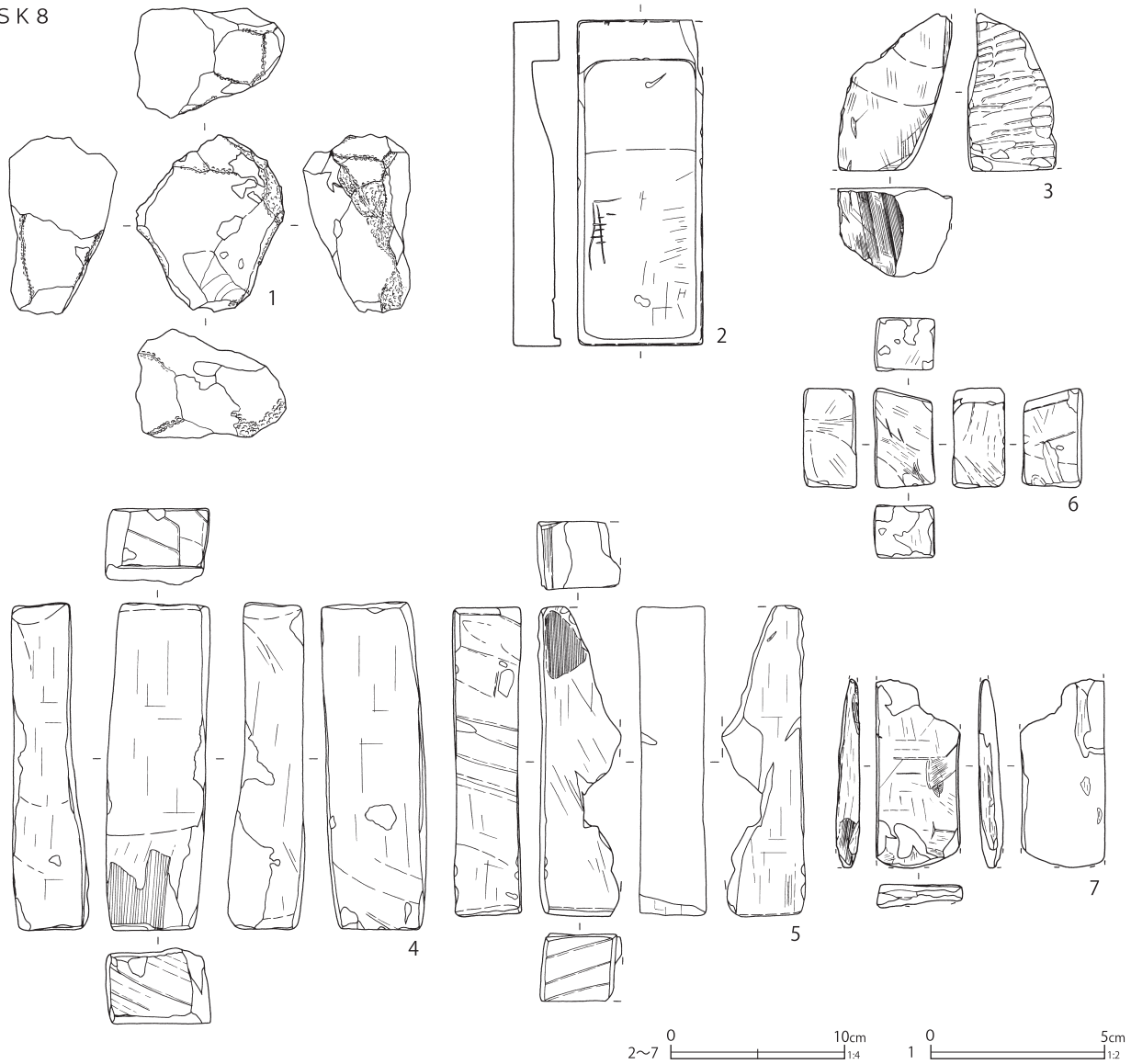


第104図 土壌出土遺物（11）

第61表 土壌出土遺物観察表（4）（104図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 22.8 厚さ 1.1 重さ 1.8	SK3	寛永通寶（新）	
2	鉄製品	不明	長さ [7.7] 幅 0.2 厚さ 0.2 重さ 18.0	SK5		
3	鉄製品	不明	長さ [9.6] 幅 2.0 厚さ 0.4 重さ 38.1	SK5		
4	銅製品	銭貨	径 27.6 厚さ 1.2 重さ 3.6	SK5	寛永通寶（四文銭）	
5	銅製品	銭貨	径 28.2 厚さ 1.1 重さ 4.2	SK5	寛永通寶（四文銭）	
6	銅製品	銭貨	径 22.1 厚さ 0.8 重さ 1.6	SK5	寛永通寶（新）	
7	銅製品	銭貨	径 24.3 厚さ 1.2 重さ 3.0	SK5	寛永通寶（新）	
8	銅製品	銭貨	径 26.8 厚さ 1.1 重さ 3.5	SK5	文久永寶	
9	鉄製品	銭貨	径 23.6 厚さ 1.3 重さ 2.8	SK5	寛永通寶（新）	
10	鉄製品	釘	長さ [10.2] 幅 0.4 厚さ 0.5 重 29.2	SK6	銅線附着	
11	鉄製品	不明	長さ [11.2] 幅 1.1 厚さ 0.6 重さ 36.3	SK8		
12	銅製品	銭貨	径 28.1 厚さ 1.2 重さ 4.1	SK8	寛永通寶（四文銭）	
13	鉄製品	鋇	長さ [11.6] 幅 1.1 厚さ 0.4 重さ 87.0	SK9		

SK 8



第105図 土壌出土遺物 (12)

第62表 土壌出土遺物観察表 (5) (第105図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構名	備考	図版
1	石製品	火打石	[5.1]	4.3	[3.1]	57.3	玉髓	SK8	側面潰れ激しい 被熱 (白色化) 表面黒化	
2	石製品	硯	18.7	7.2	—	650.9	流紋岩	SK8	器高 2.7 刃物痕 被熱	54-2
3	石製品	砥石	[9.0]	6.5	[5.1]	269.1	ホルンフェルス	SK8	ノコギリ痕か 幅広工具痕 刃物痕 砥面 1	54-4
4	石製品	砥石	18.9	6.0	4.4	770.7	流紋岩	SK8	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面 4 被熱 (黒化)	54-4
5	石製品	砥石	17.8	4.7	3.9	401.6	流紋岩	SK8	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面 4 被熱 (一部黒化)	54-4
6	石製品	砥石	5.7	3.5	3.0	99.0	流紋岩	SK8	幅広工具痕 刃物痕 砥面 6 被熱 (一部黒化)	54-4
7	石製品	砥石	[10.8]	4.9	[1.3]	85.8	粘板岩	SK8	ノコギリ痕か 刃物痕 砥面 5	54-4

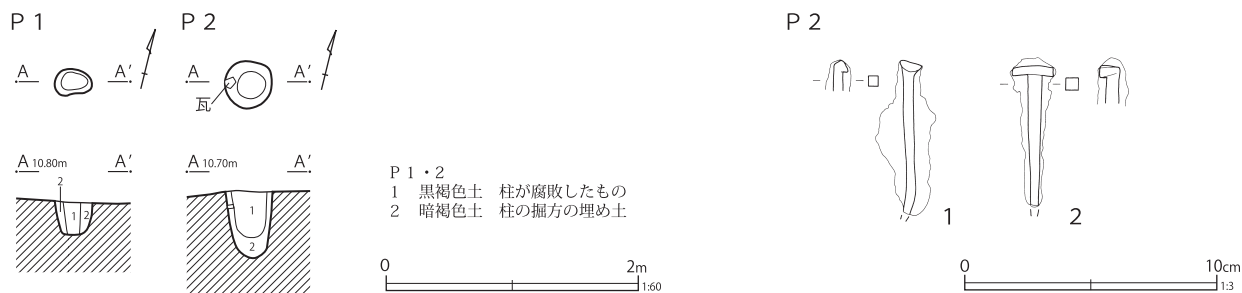
第9号土壌 (第93図)

B 6-J 2 グリッドに位置する。東端は調査区外に延びる。

平面形は楕円形で、断面形は皿形である。

陶磁器の出土は少なく、第101図91は円盤状製品に転用した肥前系磁器の皿、92は瀬戸美濃系陶器で瓶類の底部である。

このほかに、肥前系磁器の薄手の小丸碗、猪口



第106図 ピット・出土遺物

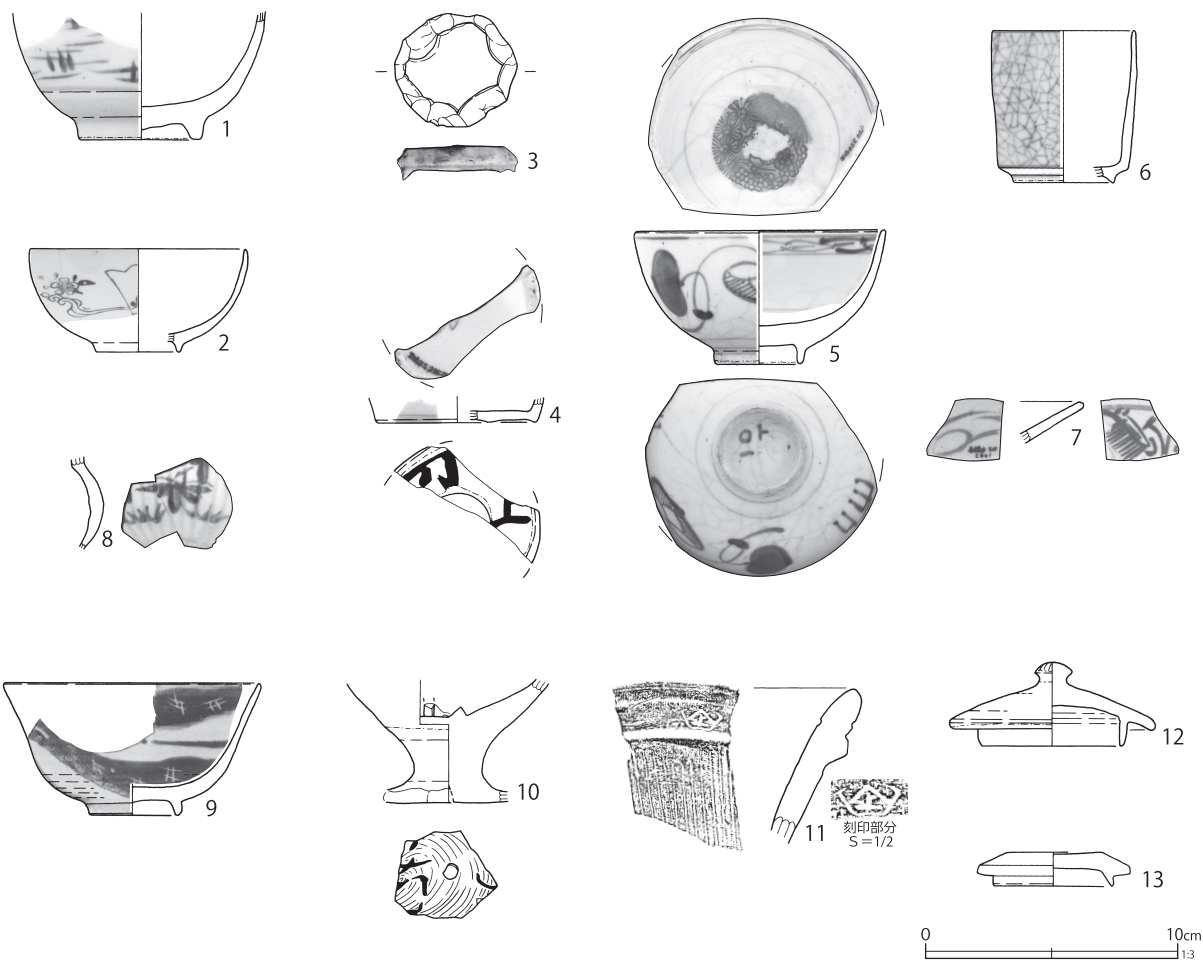
第63表 ピット計測表

単位：m

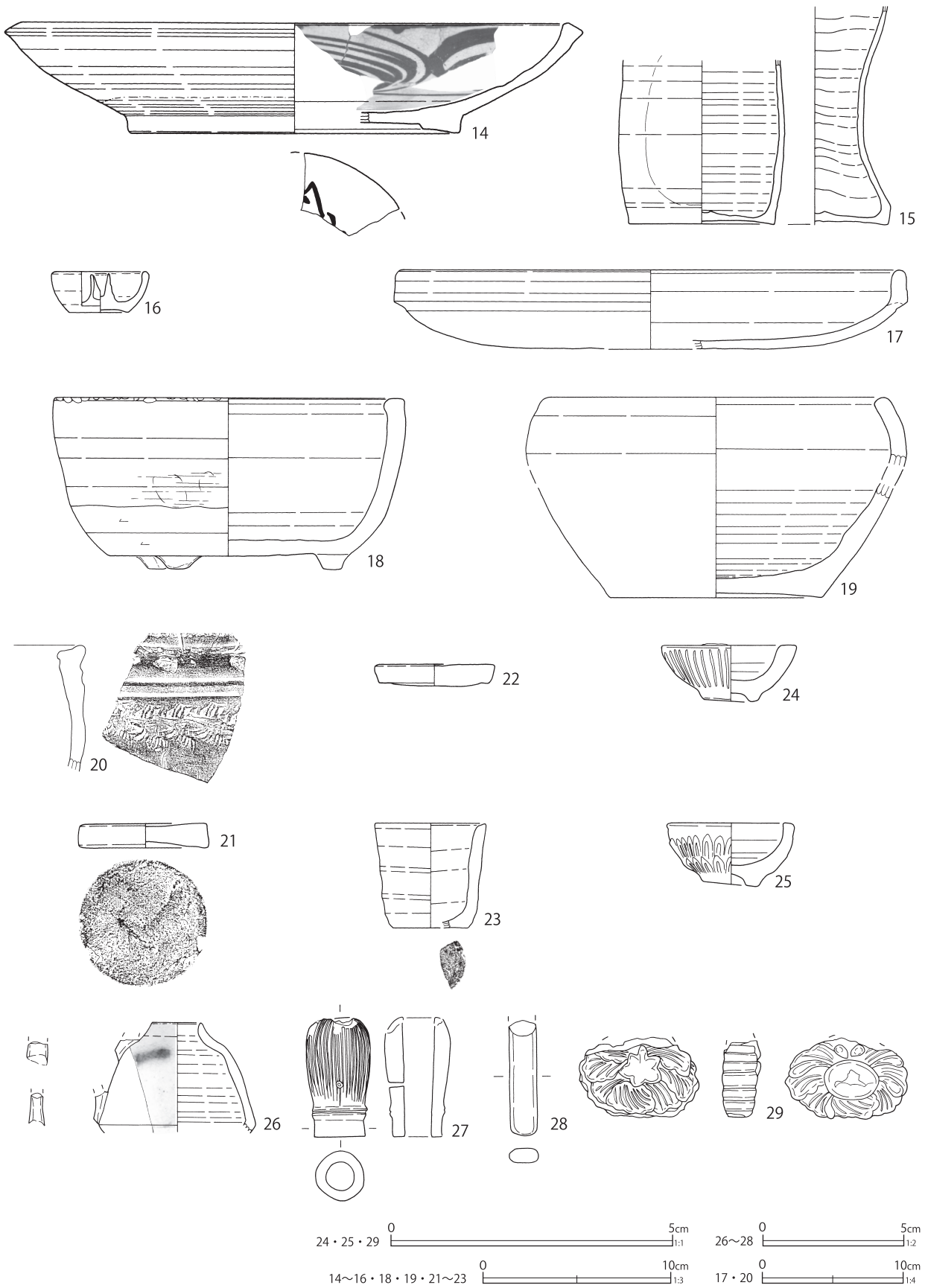
番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
1	B6-J1	楕円形	0.30	0.21	0.27	
2	B6-J2	円形	0.38	(0.36)	0.54	

第64表 ピット出土遺物観察表 (106図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ [6.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 17.6	P2		
2	鉄製品	釘	長さ [5.5] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 9.1	P2		



第107図 遺構外出土遺物 (1)



第108図 遺構外出土遺物（2）

第65表 遺構外出土遺物観察表（1）（第107・108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
1	磁器	碗	—	[5.0]	(4.7)	—	30	普通	灰白	B6I1	肥前系 施釉 外面染付（初期伊万里様式）		
2	磁器	碗	(8.4)	4.0	(3.2)	—	20	良好	白	B6J1	肥前系 施釉 外面色絵（赤・緑）	48-4	
3	磁器	碗	—	[1.2]	—	—	40	良好	白	B6J2	肥前系 施釉 外面染付 円盤状製品転用 重さ27.4g		
4	磁器	猪口	—	[1.0]	(6.2)	—	20	良好	白	B5J10	肥前系 施釉 染付 墨書		
5	磁器	碗	(9.7)	5.3	3.3	—	55	良好	灰白	B6J1	瀬戸美濃系 施釉 染付 内面陰刻状文 焼継印（赤）	48-6	
6	磁器	坏	5.6	6.0	2.0	—	50	良好	白	B6J1	肥前系か 施釉 外面染付		
7	磁器	皿	—	[1.6]	—	—	5	普通	灰白	C6A1	肥前系 施釉 色絵（赤）	48-5	
8	磁器	水注	—	[4.2]	—	—	5	良好	灰白	B6J1	外面施釉・染付 体部爪形に成形		
9	陶器	碗	10.0	5.2	3.4	—	60	良好	灰白	B6J1	京都信楽系 施釉 外面鉄釉	48-7	
10	陶器	乗燭	—	[4.9]	(5.0)	EI	70	良好	灰白	B6J1	瀬戸美濃系 鉄釉 墨書	48-8	
11	陶器	挿鉢	—	[6.0]	—	AHK	5	良好	赤	B6J1	堺明石系 内面挿目・刻印	48-9	
12	陶器	蓋	—	3.3	(5.5)	DEHK	50	普通	にぶい橙	B6J1	松岡系 外面海鼠釉	48-10	
13	陶器	蓋	—	1.3	4.6	—	100	良好	灰白	B6J1	外面黄色釉 一部被熱	49-1	
14	陶器	皿	(29.0)	5.8	(17.6)	—	15	良好	灰白	B6J1	瀬戸美濃系 灰釉 内面鉄絵（馬目皿） 墨書	48-11	
15	陶器	德利	—	[11.5]	7.7	I	60	良好	褐灰	B6J1	瀬戸美濃系 外面鉄釉 体部凹み2箇所		
16	施釉土器	乗燭	5.1	2.1	3.2	AH	95	普通	明赤褐	B6J1	底部糸切痕（左） 施釉 灯心立上端煤付着	49-2	
17	土師質土器	焙烙	(35.0)	[5.6]	(34.6)	CFHI	25	普通	灰黄褐	B6I1	底部シワ状痕		
18	瓦質土器	火鉢	18.3	9.0	12.6	CFH	80	普通	橙	B6J1	砂目皿 被熱（一部赤化）	49-3	
19	土師質土器	火鉢	(17.6)	[10.5]	11.4	AHI	30	良好	橙	B5I10	底部ナデ調整 上下接点ない破片から図上復元		
20	瓦質土器	火鉢	—	[8.9]	—	CEI	5	普通	赤橙	B5I10	外面施文 被熱（一部赤化）	49-4	
21	土師質土器	蓋	—	1.3	6.8	AHI	95	普通	にぶい橙	B6J1	上面丁寧なナデ 下面指頭ナデ 焼塩壺	49-5	
22	土師質土器	蓋	6.4	1.0	5.9	AEHI	95	普通	にぶい橙	B6J1	被熱（赤化） 焼塩壺		
23	土師質土器	焼塩壺	(5.8)	5.5	(4.0)	AHI	25	普通	にぶい黄橙	B6J1	底部糸切痕 胎土粉質 弱く被熱	49-6	
24	磁器	坏	2.4	1.0	0.9	—	100	良好	白	B5I10	重量3.0 肥前系か 型成形 施釉 紅坏	49-7	
25	磁器	坏	2.3	1.1	0.9	—	100	良好	白	B6J1	重量4.0 肥前系か 型成形 施釉 紅坏	49-7	
26	陶器	ミニチュア	1.8	[3.9]	—	—	—	良好	灰	B6J1	重量9.3 外面白色釉 一部緑釉	49-13	
27	陶器	ミニチュア	長[4.2] 幅2.3 厚2.3				—	—	良好	灰白	B6J1	重量15.0 茶せん 外面施釉 中空 京都系	49-14
28	硝子製品	筭	長4.0 幅1.1 厚0.2				—	—	—	黄褐色	B6J2	重量5.0 透明か 中実 被熱（変色）	49-16
29	硝子製品	不明品	長さ(1.4) 幅2.1 厚0.7				—	—	—	にぶい黄橙	B6J1	重量4.0 透明 中実 被熱（白色化）	49-17

が出土している。

金属製品は、第104図13に鋊を示した。

時期は不明である。

第15号土壌（第93図）

B6-J2グリッドに位置する。東端は調査区外に延びる。第3号木樋と並行し、ほぼ道路に沿った西側に第8号溝跡がある。

平面形状は隅丸長方形を呈し、断面形は皿形である。覆土中にきめの細かい砂が充填されている。

陶磁器類の出土は少なく、図示しうる遺物はなかったが、肥前系磁器の梅樹文碗、朝顔形碗などが出土している。

時期は確定できないが、出土陶磁器の年代は、

18世紀後半である。

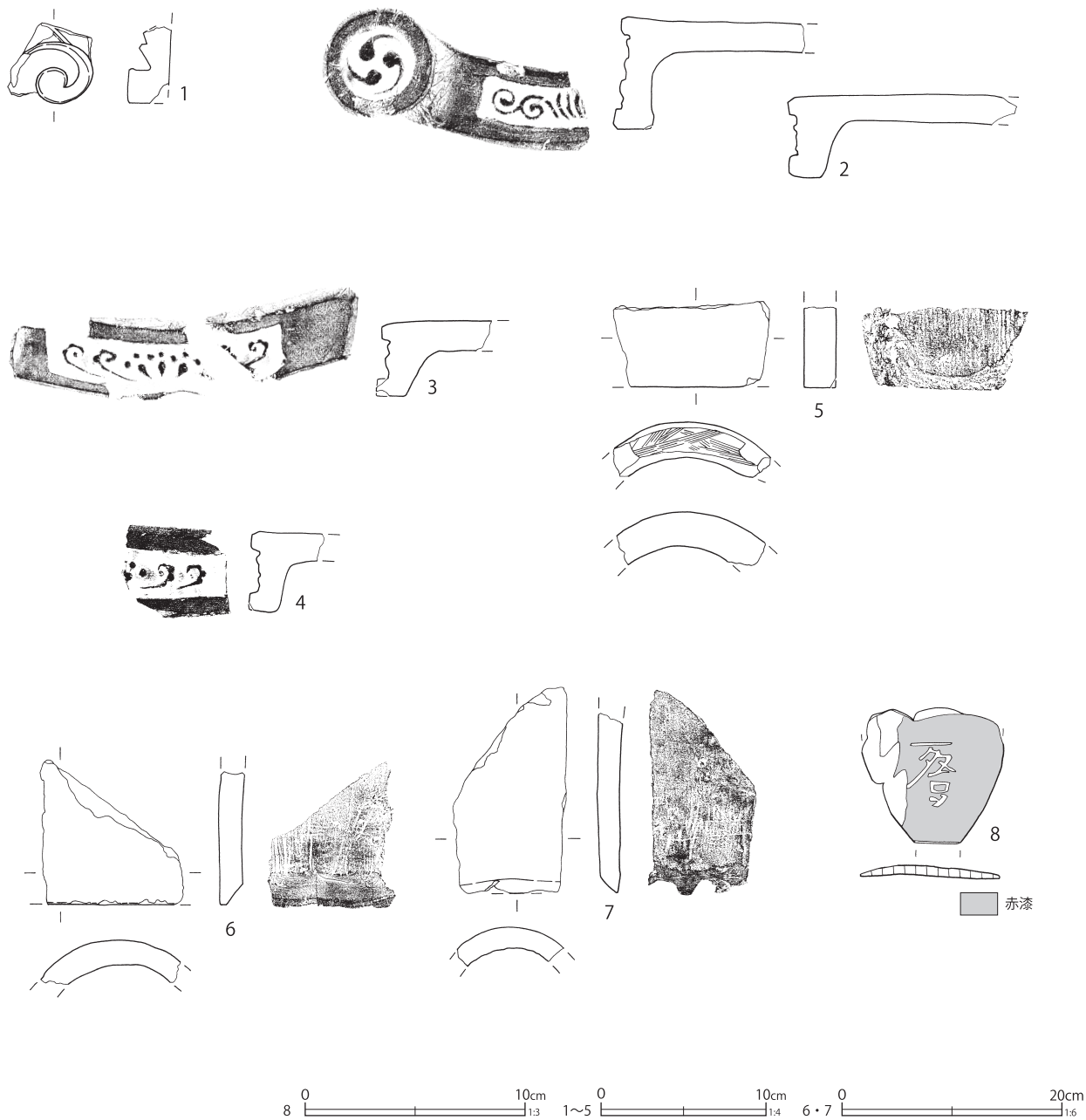
第16号土壌（第93図）

B6-I1グリッドの第1号土留状遺構よりさらに南側に位置する。遺構の範囲が道路に含まれており、道路敷上に造られた土壌である。いずれの硬化面から掘り込まれたか不明であるが、底面レベルは近接する第4号木樋とほぼ等しい。

南半が削平されていたが、平面形は隅丸方形とみられる。断面形は箱形に近い。

出土陶磁器はごく少ない。第101図93に丸底焙烙を示した。底面付近に陽刻状刻印がある。

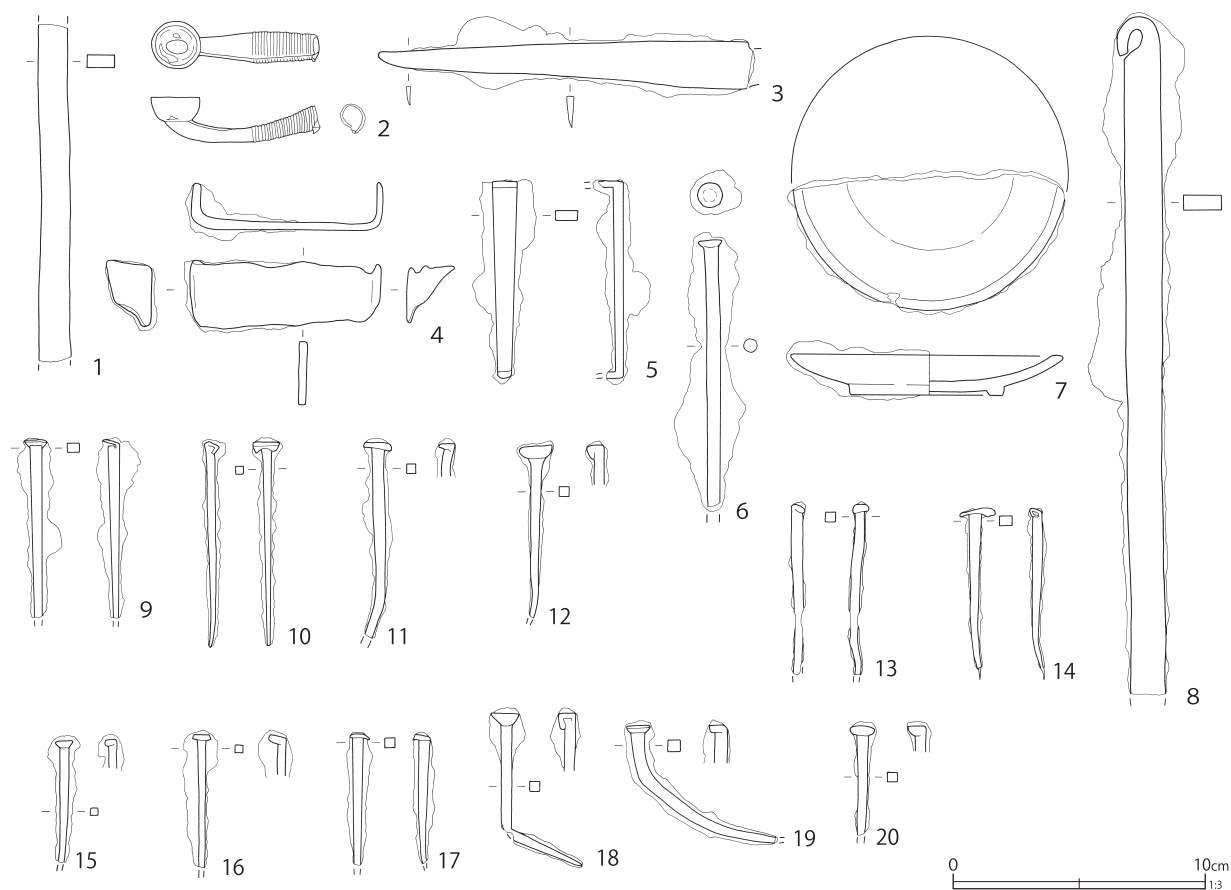
底面から木製品の面が出土している（第103図13）。残存状態は悪く、木質が軟化しており、手



第109図 遺構外出土遺物（3）

第66表 遺構外出土遺物観察表（2）（109図）

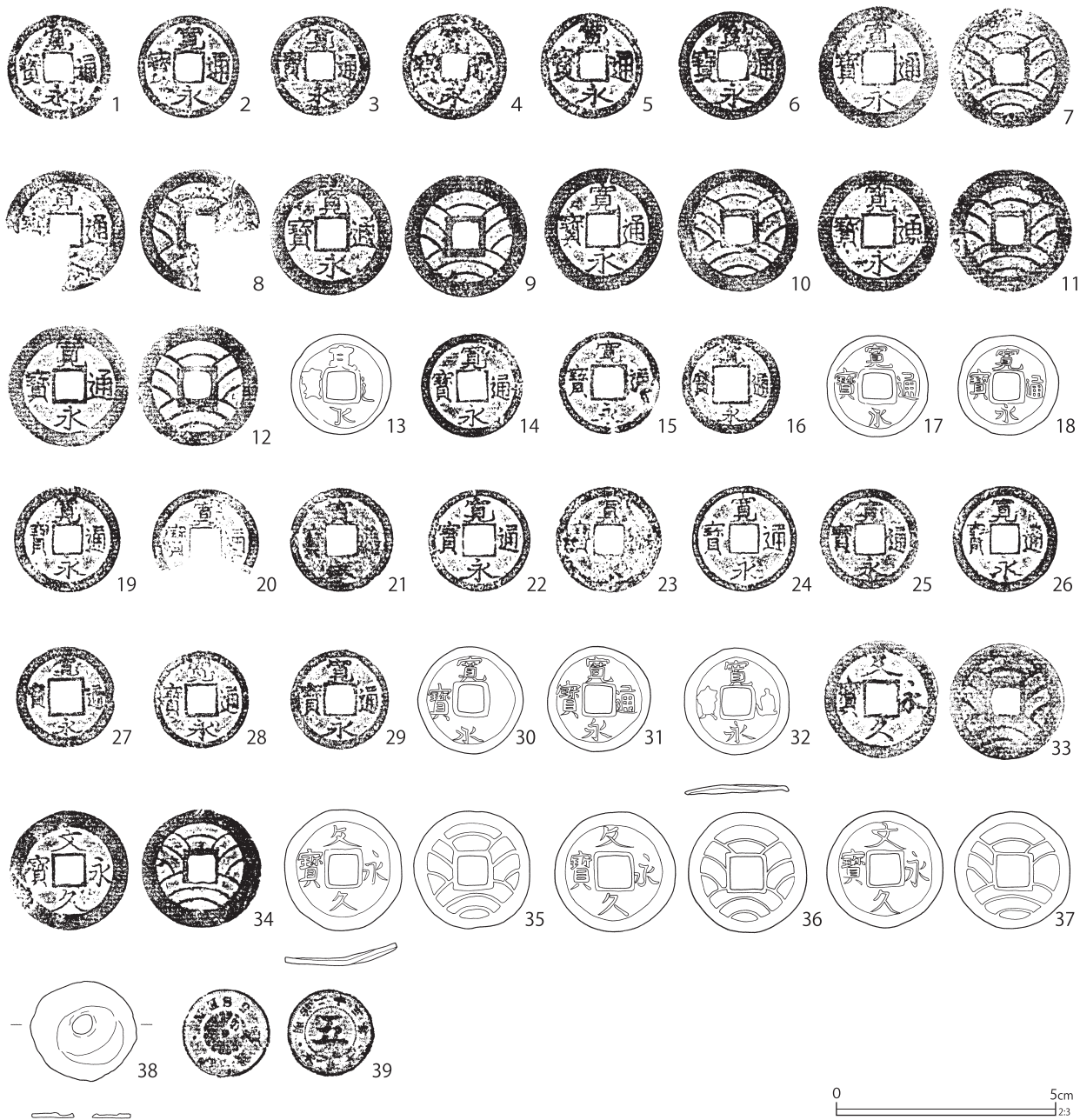
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	鬼瓦	[7.4]	[7.8]	1.5	4.2	—	K	良好	灰	B6J1	銀化	50-12
2	瓦	軒棧瓦	16.0	[16.3]	1.8	5.5	6.4	K	良好	灰	B6J1	江戸式 左巻三巴文 銀化 被熱	50-13
3	瓦	軒棧瓦	[7.7]	[21.5]	1.9	4.5	—	K	良好	灰	B6J1	東海式 銀化	50-14
4	瓦	軒棧瓦	[5.2]	[8.0]	1.9	4.8	—	K	良好	灰	B6J1	東海式 銀化	50-15
5	瓦	丸瓦	[5.2]	[9.5]	2.1	[3.3]	—	K	良好	灰	B6J2	一部銀化 転用	50-16
6	瓦	丸瓦	[13.2]	[13.0]	2.0	[4.0]	—	K	良好	灰	B6J1		
7	瓦	丸瓦	[18.8]	[10.0]	1.8	[3.6]	—	K	良好	灰	B6J1		
8	木製品	杓子	[6.1]	6.3	0.4	—	—	—	—	—	B5J10	榎目 表裏面赤漆 焼印 文字資料 19	56-11



第110図 遺構外出土遺物（4）

第67表 遺構外出土遺物観察表（3）（第110図）

番号	種別	器種	法量	出土地点	備考	図版
1	銅製品	不明	長さ [13.4] 幅 1.1 厚さ 0.5 重さ 56.5	B5I10		
2	銅製品	煙管	長さ 6.7 火皿径 1.3 × 1.4 小口径 1.1 × 1.0 重さ 8.0	7 トレンチ	雁首	53-4
3	鉄製品	刃物	刃長 [14.8] 刃幅 1.2 背幅 0.3 重さ 57.0	B6J1		
4	鉄製品	不明	長さ 7.6 幅 2.5 厚さ 0.3 重さ 35.3	B5I10		
5	鉄製品	釘	長さ 7.8 幅 0.9 厚さ 0.4 重さ 28.8	B5J10		
6	鉄製品	火箸	長さ [10.6] 厚さ 0.5 重さ 45.1	B6J2		
7	鉄製品	皿	縦 [5.4] 横 [10.7] 厚さ 0.4 重さ 101.0	B6J2		
8	鉄製品	不明	長さ [26.9] 幅 1.5 厚さ 0.6 重さ 157.2	B6J1		53-2
9	鉄製品	釘	長さ [7.0] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 10.7	B6J2		
10	鉄製品	釘	長さ 8.1 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 4.9	B6J1		
11	鉄製品	釘	長さ [7.8] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 8.3	表採		
12	鉄製品	釘	長さ [6.9] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.7	表採		
13	鉄製品	釘	長さ [6.7] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.7	中央調査区西側 14 層		
14	鉄製品	釘	長さ 6.8 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 4.4	木樋 3 西側周辺		
15	鉄製品	釘	長さ [4.8] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 4.1	6 トレンチ		
16	鉄製品	釘	長さ [5.2] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 5.6	表採		
17	鉄製品	釘	長さ [5.2] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.1	B6J1		
18	鉄製品	釘	長さ 6.0 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.6	B6I1		
19	鉄製品	釘	長さ [5.9] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 9.1	6 トレンチ		
20	鉄製品	釘	長さ [4.3] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 3.4	木樋 3 西側周辺		



第111図 遺構外出土遺物（5）

で持つと凹む状態である。右側面と左顎、左上部が欠損する。目と口の部分が開口する。鼻と口の部分が大きな取り付け口になっており、鼻と一体化した別材が接合していたとみられる。

出土例がほとんどないが、神楽面の「天狐」と考えられる（VI参照）。

このほかに、実から取り出したままの状態のトウガンの種子が出土している（V-2参照）。

（11）ピット（第106図）

ピットは単独で2基が検出された。建物等を想定するには至らなかったが、断面には柱痕が認められた。

遺物は、ピット2から第106図1・2の二寸の巻頭釘が出土している。

出土陶磁器から、ピット1の時期は19世紀後葉以降、ピット2は19世紀以降と推定される。

第68表 遺構外出土遺物観察表（4）（第111図）

番号	種別	器種	法量	出土地点	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 24.0 厚さ 1.2 重さ 2.4	B5J10	寛永通寶（古）	
2	銅製品	銭貨	径 23.7 厚さ 1.1 重さ 2.7	B6J1	寛永通寶（古）	
3	銅製品	銭貨	径 23.1 厚さ 1.1 重さ 2.4	B6J1	寛永通寶（古）	
4	銅製品	銭貨	径 24.2 厚さ 0.9 重さ 2.4	B6J2	寛永通寶（古）	
5	銅製品	銭貨	径 24.7 厚さ 1.5 重さ 3.4	C6A1	寛永通寶（古）	
6	銅製品	銭貨	径 24.8 厚さ 0.8 重さ 2.7	中央調査区西側 14 層	寛永通寶（古）	
7	銅製品	銭貨	径 28.2 厚さ 1.2 重さ 3.8	B6J1	寛永通寶（四文銭）	
8	銅製品	銭貨	径 28.1 厚さ 1.3 重さ 3.7	B6J1	寛永通寶（四文銭）	
9	銅製品	銭貨	径 28.4 厚さ 1.2 重さ 4.3	南側調査区 13・14 層	寛永通寶（四文銭）	
10	銅製品	銭貨	径 28.1 厚さ 1.3 重さ 4.9	南側調査区	寛永通寶（四文銭）	
11	銅製品	銭貨	径 28.3 厚さ 1.1 重さ 4.3	表採	寛永通寶（四文銭）	
12	銅製品	銭貨	径 28.3 厚さ 1.3 重さ 4.8	表採	寛永通寶（四文銭）	
13	銅製品	銭貨	径 22.7 厚さ 0.8 重さ 1.3	B5J10 11 層	寛永通寶（新）	
14	銅製品	銭貨	径 23.9 厚さ 1.2 重さ 2.7	C6A1	寛永通寶（新）	
15	銅製品	銭貨	径 23.6 厚さ 1.1 重さ 2.8	B6J1	寛永通寶（新）	
16	銅製品	銭貨	径 22.8 厚さ 1.0 重さ 2.0	B6J1	寛永通寶（新）	
17	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.3 重さ 2.9	B6J1	寛永通寶（新）	
18	鉄製品	銭貨	径 22.9 厚さ 1.0 重さ 2.3	B6J1	寛永通寶（新）	
19	銅製品	銭貨	径 24.5 厚さ 1.2 重さ 3.1	B6J2	寛永通寶（新）	
20	銅製品	銭貨	径 24.5 厚さ 1.1 重さ 1.7	B6J2	寛永通寶（新）	
21	銅製品	銭貨	径 23.9 厚さ 1.2 重さ 2.7	B6J2	寛永通寶（新）	
22	銅製品	銭貨	径 23.6 厚さ 1.0 重さ 2.7	5 トレンチ 13 層	寛永通寶（新）	
23	銅製品	銭貨	径 24.5 厚さ 1.3 重さ 3.6	5 トレンチ 13 層	寛永通寶（新）	
24	銅製品	銭貨	径 24.3 厚さ 1.1 重さ 2.6	中央調査区	寛永通寶（新）	
25	銅製品	銭貨	径 22.9 厚さ 0.8 重さ 1.7	南側調査区	寛永通寶（新）	
26	銅製品	銭貨	径 24.3 厚さ 1.3 重さ 3.1	南側調査区	寛永通寶（新）	
27	銅製品	銭貨	径 23.2 厚さ 1.3 重さ 3.6	南側調査区	寛永通寶（新）	
28	銅製品	銭貨	径 22.2 厚さ 1.1 重さ 2.6	表採	寛永通寶（新）	
29	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 2.7	表採	寛永通寶（新）	
30	銅製品	銭貨	径 24.0 厚さ 1.0 重さ 2.9	表採	寛永通寶（新）	
31	銅製品	銭貨	径 23.8 厚さ 1.0 重さ 1.8	表採	寛永通寶（新）	
32	銅製品	銭貨	径 24.2 厚さ 1.0 重さ 1.8	表採	寛永通寶（新）	
33	銅製品	銭貨	径 27.0 厚さ 1.2 重さ 4.5	B6J1 11 層	文久永寶	
34	銅製品	銭貨	径 27.4 厚さ 1.2 重さ 4.2	B6J2	文久永寶	
35	銅製品	銭貨	径 27.1 厚さ 1.0 重さ 3.5	B6J2	文久永寶	
36	銅製品	銭貨	径 27.4 厚さ 1.4 重さ 4.1	中央調査区	文久永寶	
37	銅製品	銭貨	径 26.6 厚さ 1.0 重さ 2.6	南側調査区	文久永寶	
38	銅製品	雁首銭	径 22.5 × 23.8 厚さ 0.8 重さ 2.3	B6J1		
39	銅製品	銭貨	径 20.6 厚さ 1.9 重さ 4.6	B6J1 10 層	菊五銭白銅貨 明治 23 年	

(12) 遺構外出土遺物

表土掘削時や遺構確認時に出土した主要なものを本項で取り上げる。層位に分けて取り上げられなかった道路跡部分も含まれる。

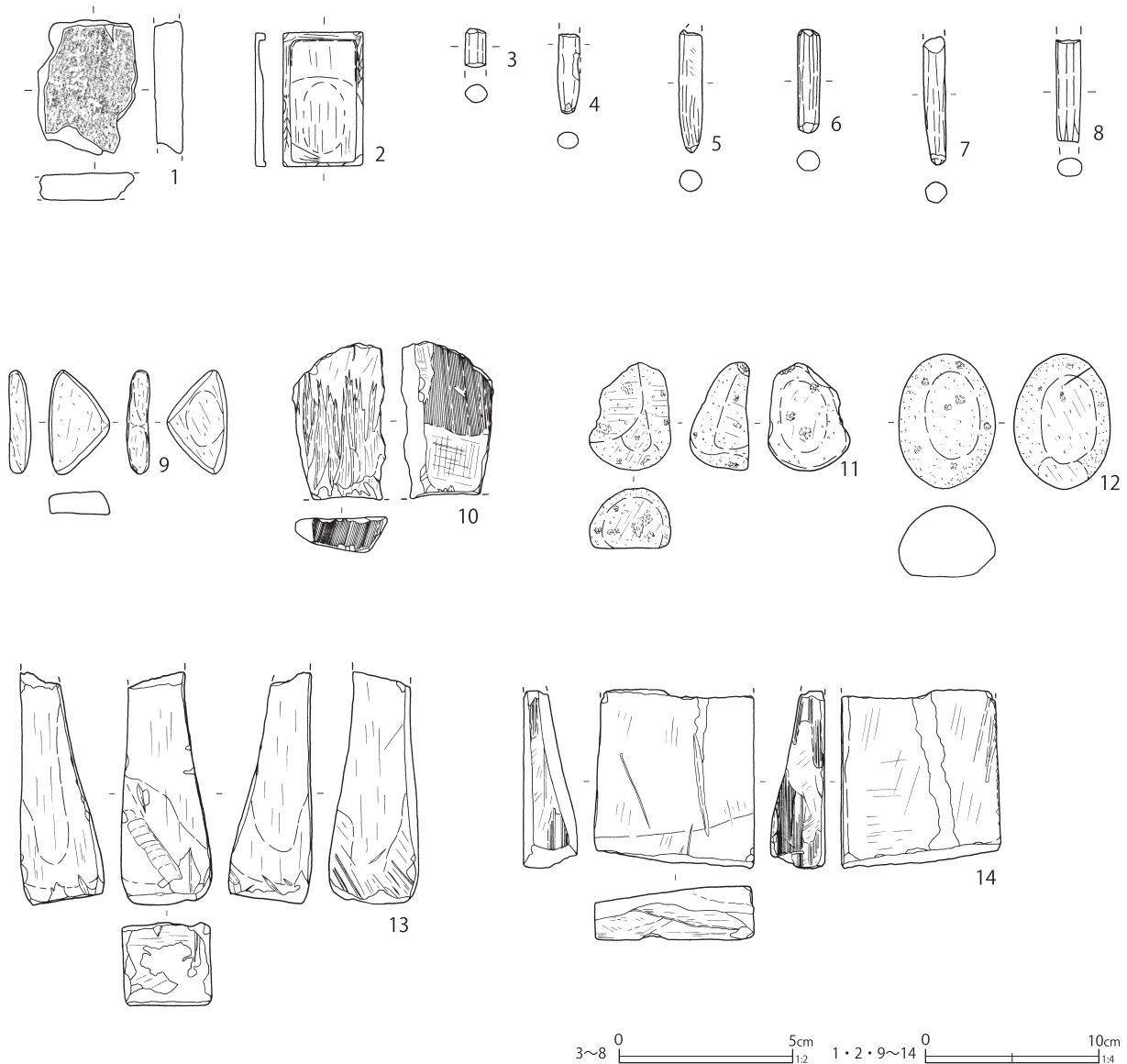
第107図・第108図14～23に陶磁器を示した。1～8は磁器である。1は初期伊万里様式の碗、3は碗で、周囲を打ち欠いて円盤状製品に転用している。8の水差しは地方窯系磁器の可能性がある。

陶器は9～15に示した。13の蓋は外面上部が被

熱している。21の焼塩壺の蓋は被熱赤化している。

土製品は、第108図24～27に示した。24と25は肥前系磁器と推定される紅坯である。26の水注は白土化粧され、一部に緑釉が掛かる。27は京都系の茶せん形である。29は硝子製不明品で、片面に蟹、反対面に紅葉が浮彫で描かれている。

瓦は第109図に示した。2の軒棧瓦は唐草が渦巻唐草文である。3・4の軒棧瓦は東海式である。5は丸瓦の転用品で端部に使用痕が認められる。



第112図 遺構外出土遺物（6）

第69表 遺構外出土遺物観察表（5）（第112図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構名	備考	図版
1	石製品	板碑	[7.8]	[5.7]	1.6	125.0	緑泥片岩	B6J1		54-8
2	石製品	硯	7.6	4.6	—	43.9	粘板岩	表採	器高0.6 縁に線刻	54-2
3	石製品	石筆	[1.1]	0.6	0.5	0.7	滑石	B6J1		54-3
4	石製品	石筆	[2.3]	0.6	0.5	1.1	滑石	表採		54-3
5	石製品	石筆	[3.5]	0.7	0.6	2.4	滑石	B6J1		54-3
6	石製品	石筆	3.0	0.7	0.5	2.1	滑石	B6J1		54-3
7	石製品	石筆	[3.7]	0.6	0.6	2.4	滑石	B6J1		54-3
8	石製品	石筆	[2.9]	0.7	0.5	2.3	滑石	B6J1		54-3
9	石製品	磨石	6.0	3.5	1.3	9.8	軽石	B6J1	5面形成	55-1
10	石製品	砥石	[9.0]	[5.3]	2.0	126.3	ホルンフェルス	B5I10	ノコギリ痕か、刃物痕多数 砥面2	54-7
11	石製品	磨石	6.2	4.8	3.5	23.5	軽石	B5I10	自然面使用 1面形成	55-1
12	石製品	磨石	7.8	5.6	4.1	91.3	角閃石安山岩	B6J1	多孔質 自然面依存 刃物痕 1面形成	55-1
13	石製品	砥石	[13.4]	5.2	4.8	409.5	流紋岩	Tr8	丸ノミ痕か、刃物痕 使用面5 被熱（一部黒色化）	54-7
14	石製品	砥石	[10.3]	9.2	3.1	389.0	ホルンフェルス	Tr6	ノコギリ痕か、刃物痕 砥面5	54-7

4 本陣跡第5次第二面

本陣5次第二面で確認された遺構は、建物跡1棟、埋設桶5基、溝跡2条、土壇38基、ピット12基である。このほかに、第三面とする道路より下の面から、落込みが1基検出された。

(1) 建物跡

本陣5次第二面では、建物跡が1棟検出された。道路より北側、第一面では建物跡が確認できなかった第5地点第1a号木樋・第1b号木樋より東の位置にあたる。

第2号建物跡 (第113図)

B5-H10・I10グリッドに位置し、第13号埋設桶、第18号土壇、ピット13と重複する。第一面の第1号杭列が西に隣接する。

道路跡に対してほぼ直交し、主軸方位は第5地点第46号土壇と同じである。長軸は残存長で6.6m、幅0.72m、深さ0.32mを測る。

「コ」字形または「ロ」字形の布掘り基礎の一部と考えられる。南端の底面には丸太材が3本、軸に対して直交方向に敷かれ、北側には杭が3本1束で打たれていた。

分析の結果、基礎材はいずれもスギと判明した(V-2参照)。

遺物は第113図1に肥前系磁器の大皿を示した。このほかに、京都信楽系陶器の緑釉端反碗が出土している。

金属製品は、第113図2～4に示した。2は銅製の針、3と4は鉄釘である。

時期は、出土陶磁器から19世紀初頭以降とみられる。

(2) 埋設桶

本陣5次第二面では、5基の埋設桶を検出した。すべて道路の北側に位置する。遺構図を第115図に、計測値を第72表に示した。出土遺物は陶磁器を第115図、瓦を第116図、金属製品を第117図に、観察表は第73～75表に示した。

第10号埋設桶 (第114図)

B5-H9グリッドに位置する。第23号土壇に近接する。

第二面埋設桶の中では最も遺存状態が良く、側板は30cmの高さまで残存し、タガが2段まで伴う。側板の一部と思われる板材が1枚、外側に倒れる状態で出土した。

出土陶磁器は、第115図1、2に示した。1は肥前系磁器の外青磁釉朝顔形碗、2は肥前系陶器の刷毛目釉片口鉢である。

瓦は、第116図1に軒棧瓦を示した。

金属製品は、第117図1に鉄鍋を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀後半とみられる。

第11号埋設桶 (第114図)

B5-I10、B6-I1グリッドに位置する。重複する第20号土壇より古い。

遺存状態は悪く、南半の側板が残存するのみであった。

出土陶磁器は、第115図3に肥前系磁器の広東碗を示した。

金属製品では、第117図2と3に鉄鍋を示した。

重複関係にある第20号土壇が18世紀中頃であるため、それ以前と考えられる。

第12号埋設桶 (第114図)

B5-I10グリッドに位置する。底面付近が遺存するのみであったが、底板が残存していた。

出土陶磁器はごく少ない。第115図4に肥前系磁器の外青磁釉丸碗蓋を示した。

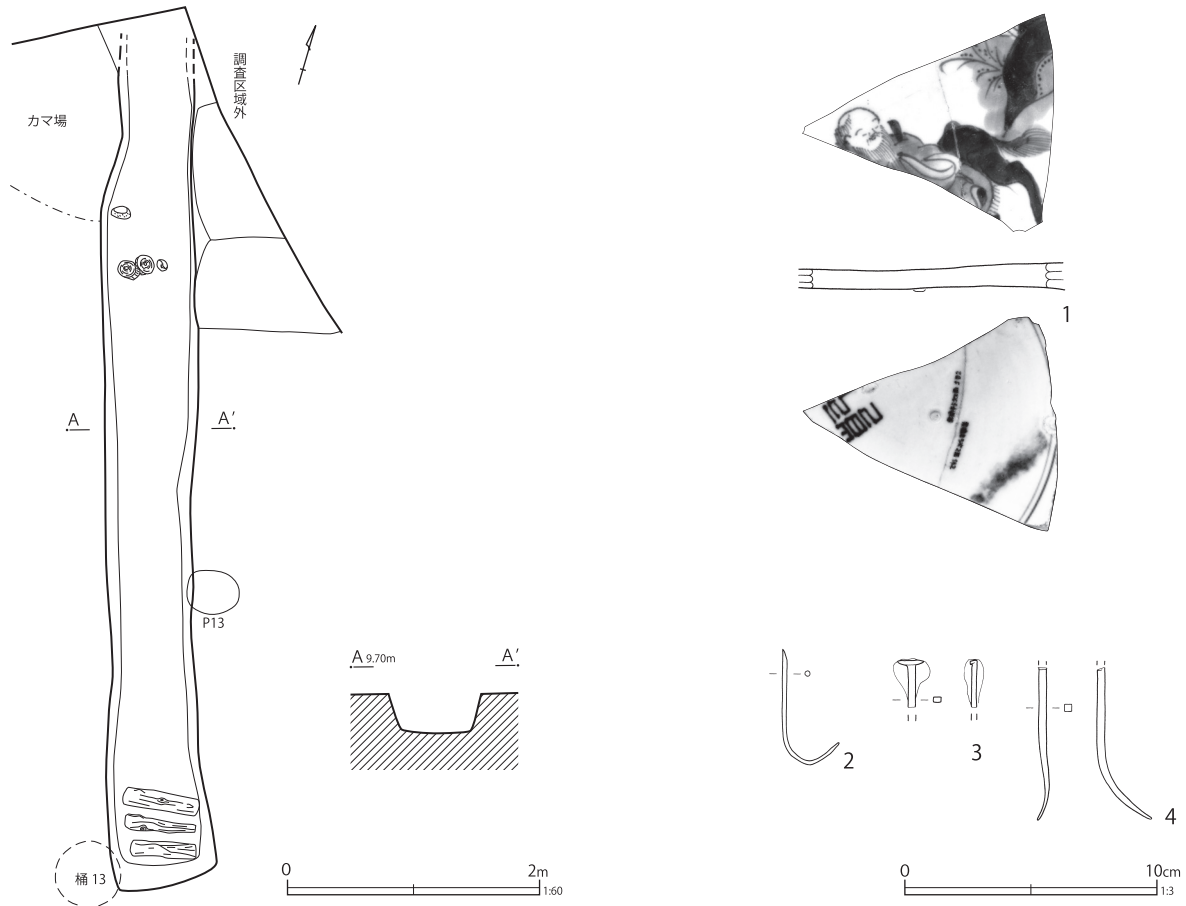
瓦は、第116図2に丸瓦を示した。

時期は18世紀後葉以降と推定される。

第13号埋設桶 (第114図)

B5-I10グリッドに位置する。重複する第2号建物跡との新旧関係は不明である。

出土陶磁器は第115図5～7に示した。肥前系磁器は、5が薄手半球碗、6が梅樹文碗である。7は瓦質土器の火鉢である。このほかに瀬戸美濃



第113図 第2号建物跡・出土遺物

第70表 建物跡計測表

単位：m

番号	グリッド	桁行（長軸）	梁行（短軸）	桁行推定	梁間推定	深さ	方位	備考
2	B5-H・I10	(6.60)	0.72	-	-	0.32	N - 17° - W	桶 13、SK18、P13 と重複

第71表 建物跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	-	[1.0]	-	-	5	良好	白	SB2	肥前系 施釉 染付 下面ハリ支痕 被熱	32-5
2	銅製品	針	長さ 4.6 厚さ 0.2 重さ 0.8							SB2		
3	鉄製品	釘	長さ [1.8] 幅 0.3 厚さ 0.2 重さ 1.6							SB2		
4	鉄製品	釘	長さ [6.0] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.0							SB2		

系陶器柿釉灯明皿が出土している。

金属製品では、第117図4の古寛永通寶が出土している。

時期は陶磁器から19世紀前半と考えられる。

第14号埋設桶（第114図）

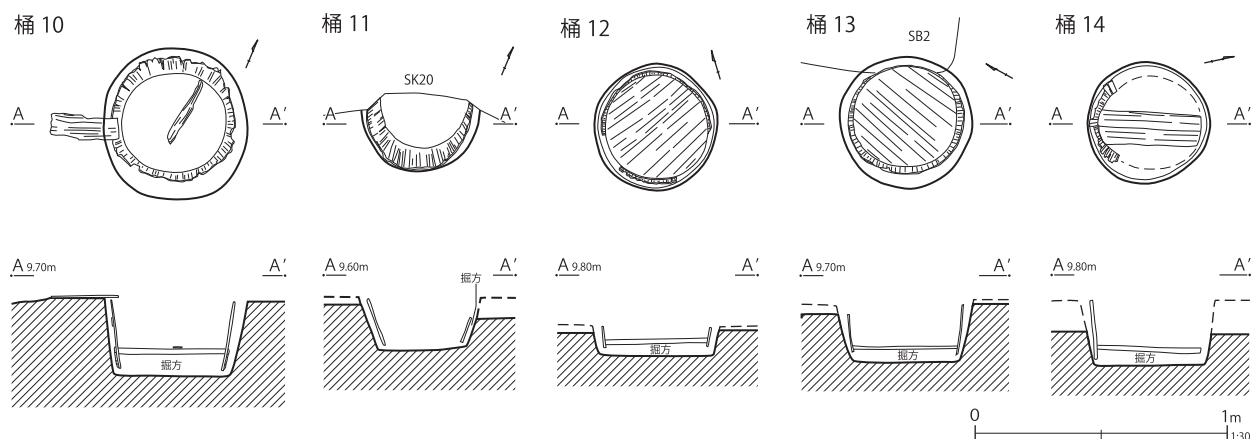
B 6-J 1グリッドに位置する。

遺存状態は悪く、底板は中央の1枚のみ、側板は南側1/4のみが残存していた。

図示しうる陶磁器類はなかったが、肥前系磁器の薄手半球碗、瀬戸美濃系陶器のせんじ碗、京都信楽系陶器の色絵半球碗、常滑系陶器の甕などが出土している。被熱しているものが多い。益子系播鉢は混入かどうか判断が困難である。

石製品は、第117図5の砥石が出土している。

時期は出土陶磁器から18世紀後半～19世紀後半と推定される。



第114図 埋設桶

第72表 埋設桶計測表

番号	グリッド	外径	高さ	内法		掘方径	掘方深さ	備考
				内径	深さ			
10	B5-H9	0.50	0.29	0.47	0.20	1.13	0.59	
11	B5-I10, B6-I1	0.42	0.18	0.40	0.19	(0.92)	(0.37)	SK20 より古
12	B5-I10	0.44	0.08	0.42	0.05	(0.97)	(0.20)	
13	B5-I10	0.48	0.20	0.46	0.16	(1.07)	0.46	SB2 と重複
14	B6-J1	0.45	0.23	0.44	0.18	(0.93)	(0.26)	

現存値 (), 単位: m

(3) 溝跡

第1号溝跡 (第118図)

C 6-A 1 グリッドに位置する。東側は調査区域外へ延びる。重複する第10・14号土壌との新旧関係は不明である。

西端を第1号井戸跡と接しており、関連遺構の可能性はある。

西から東へ走行する。遺物の出土はなかった。

時期は、井戸跡と同様であれば19世紀代に下る可能性がある。

第2号溝跡 (第118図)

B 5-I 10・J 11, B 6-I 1 グリッドに位置する。西側は調査区外へ延びる。重複する第26号土壌、第31号土壌との新旧関係は不明である。東から西へ走行する。

図示する陶磁器類はなかったが、肥前系磁器の端反碗、小広東碗、小丸碗などが出土している。

金属製品では、第118図1に寛永通宝を示した。

このほかに、中央東寄り付近からアワビ、カメの腹甲が出土した。

時期は、18世紀末以降の可能性はある。

(4) 土壌

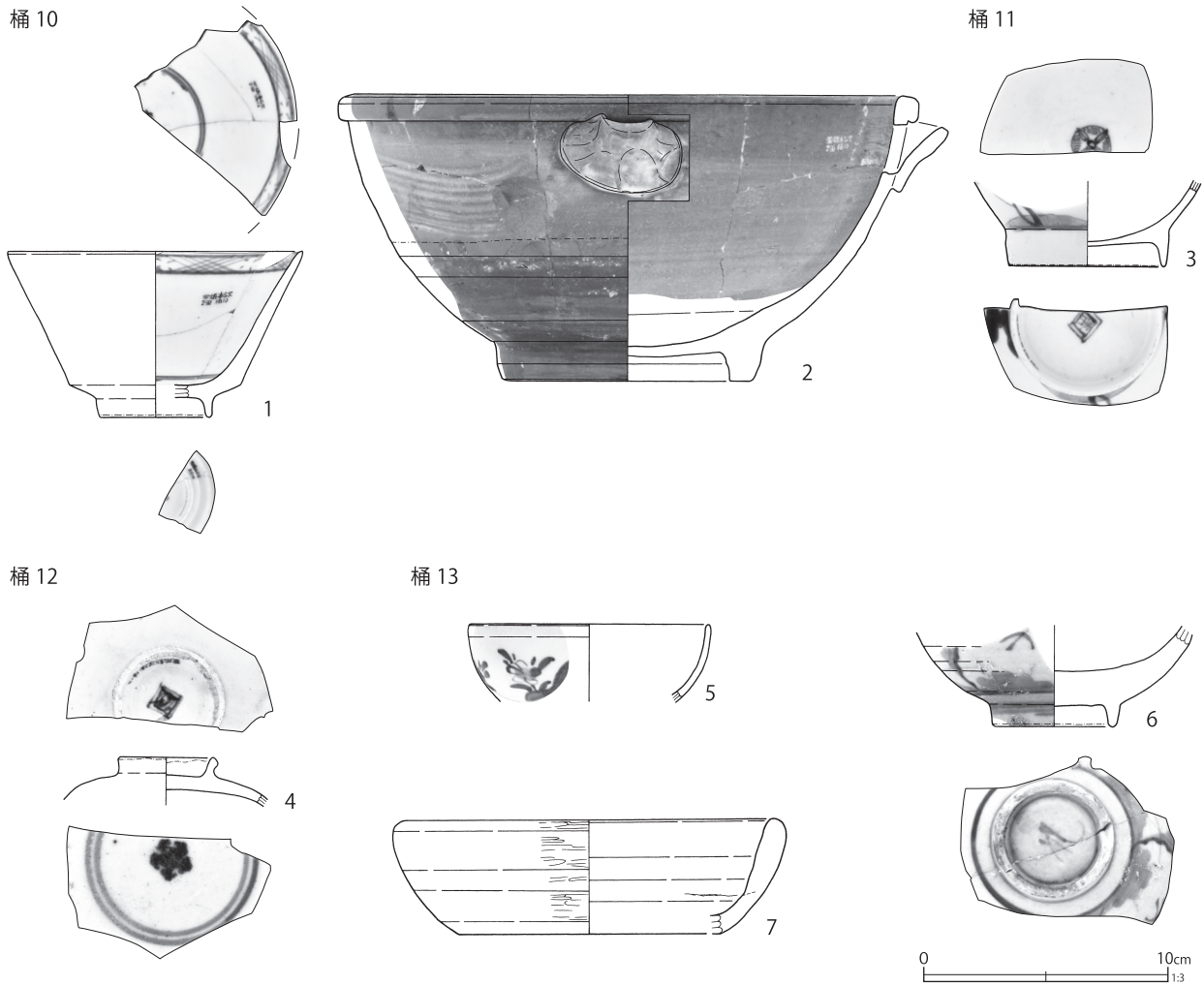
第二面では、38基の土壌を検出した。第119・120図に遺構図を、第78表に計測値を示した。

出土遺物は、陶磁器を第120図～140図、土製品を141図、瓦を第142図、木製品を第143・144図、金属製品を第145図、石製品を第146図に示し、観察表は陶磁器を第79表、土製品を第80表、瓦を第81表、木製品を第82表、金属製品を第83表、石製品を第84表に示す。

第10号土壌 (第119図)

B 6-J 1・C 6-A 1 グリッドに位置し、第1号溝、第44号土壌と重複する。新旧関係は不明である。平面形は方形に近い隅丸方形で、断面形は箱形である。

出土陶磁器は、第121図1～12、第122図13～24に示した。磁器はすべて肥前系で、1と2は梅樹文碗、3は薄手半球碗、4は小丸碗、6は赤と緑の色絵が描かれた碗である。7は粗製皿、8は口縁径31.5cmを測る大皿で、焼継痕がある。10は蛇ノ目凹形高台皿、10は内面見込み蛇ノ目釉剥ぎ粗製皿である。11は外面に赤く色絵で描か



第115図 埋設桶出土遺物（1）

第73表 埋設桶出土遺物観察表（1）（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(12.0)	6.7	(4.3)	—	25	良好	白	桶 10	肥前系 施釉（外面青磁釉） 染付	
2	陶器	片口鉢	(22.2)	11.6	10.1	IK	50	良好	にぶい赤褐	桶 10	肥前系 刷毛目釉	
3	磁器	碗	—	[3.4]	6.2	—	35	良好	白	桶 11	肥前系 施釉 染付	
4	陶器	蓋	3.7	[1.9]	—	—	25	普通	白	桶 12	肥前系 施釉（外面青磁釉） 染付	
5	磁器	碗	(9.7)	[3.1]	—	—	10	良好	白	桶 13	肥前系 施釉 外面染付	
6	磁器	碗	—	[4.1]	(4.8)	IK	35	良好	灰白	桶 13	肥前系 施釉 外面染付	
7	瓦質土器	火鉢	(15.0)	[4.6]	—	CEI	5	普通	灰	桶 13	砂目底 外面ミガキ 剥落多い	

れた油壺、12に外面青磁釉の灰落としを示した。

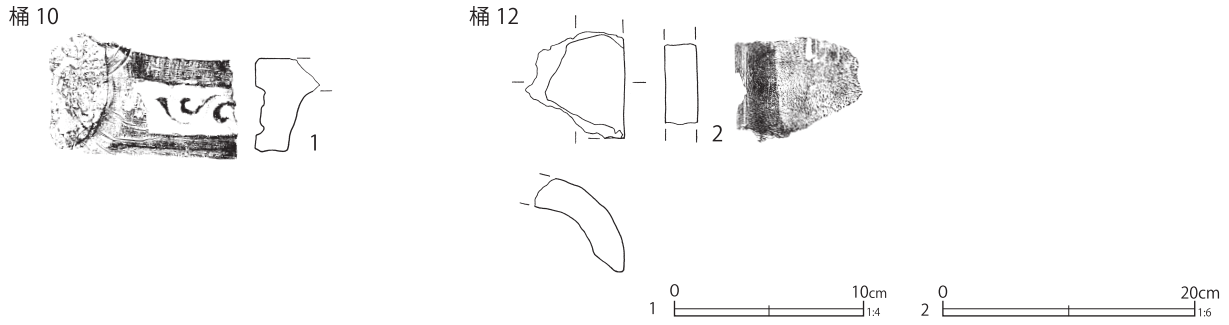
陶器は瀬戸美濃系が多い。瀬戸美濃系陶器は、14～16が灯明皿、18が碗、19が二合半徳利、20が灰釉五合徳利である。土器は、22に瓦質土器の火鉢、23に瓦質土器の十能、24に土師質土器の焼塩壺の蓋を示した。

土製品は、第141図の玩具の大黒天がある。土器質の江戸在地系とみられ、施釉されていないが

丁寧に整形され、白色塗付物の痕跡がある。

木製品は、第143図1～4に示した。1は漆碗の碗蓋で丸に笹の家紋が入れている。2は浅い碗で、下半に稜を持つ。外面中位にも稜を持っている。

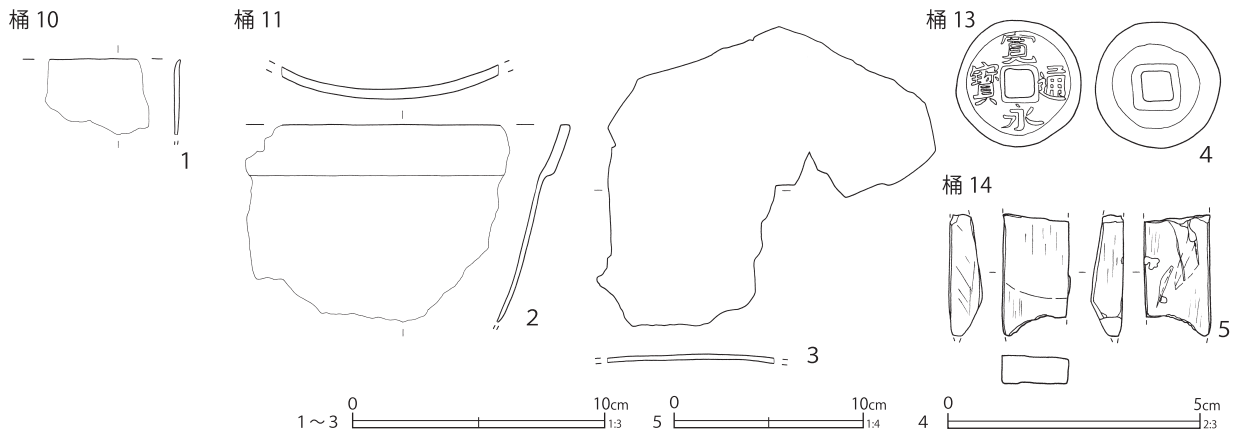
金属製品は、第145図1と2に寛永通宝を示した。両者とも新寛永で、1は「元」の背文がある。時期は、出土陶磁器から18世紀後葉とみられる。



第116図 埋設桶出土遺物（2）

第74表 埋設桶出土遺物観察表（2）（116図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[3.4]	[9.4]	1.9	[4.9]	[6.0]	K	良好	灰	桶10	銀化	
2	瓦	丸瓦	[8.8]	[7.3]	2.5	[7.4]	—	K	良好	灰	桶12	一部銀化	



第117図 埋設桶出土遺物（3）

第75表 埋設桶出土遺物観察表（3）（第117図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	鍋	縦 [3.0] 横 [4.1] 厚さ 0.2 重さ 8.5	桶10		
2	鉄製品	鍋	縦 [7.8] 横 [10.5] 厚さ 0.4 重さ 90.8	桶11		53-1
3	鉄製品	鍋	縦 [11.9] 横 [13.4] 厚さ 0.2 重さ 194.0	桶11		53-1
4	銅製品	銭貨	径 24.8 厚さ 1.4 重さ 3.0	桶13	寛永通寶（古）	
5	石製品	砥石	長さ [6.4] 幅 [6.5] 厚さ 1.7 重さ 56.3	桶14	流紋岩 刃物痕3条 被熱（黒化）	54-5

第11号土壌（第119図）

B 6-J 1・2グリッドに位置する。平面形は楕円形である。覆土は焼土と炭化物が主体で、火災処理に関わる土壌とみられる。

陶磁器は、第122図25～28、第123図29・30に示した。いずれも被熱している。

磁器は肥前系で、25に徳利の底部、27に染付の火鉢を示した。

陶器は瀬戸美濃系で、26に外面灰釉の香炉、28にぺこかん徳利を示した。

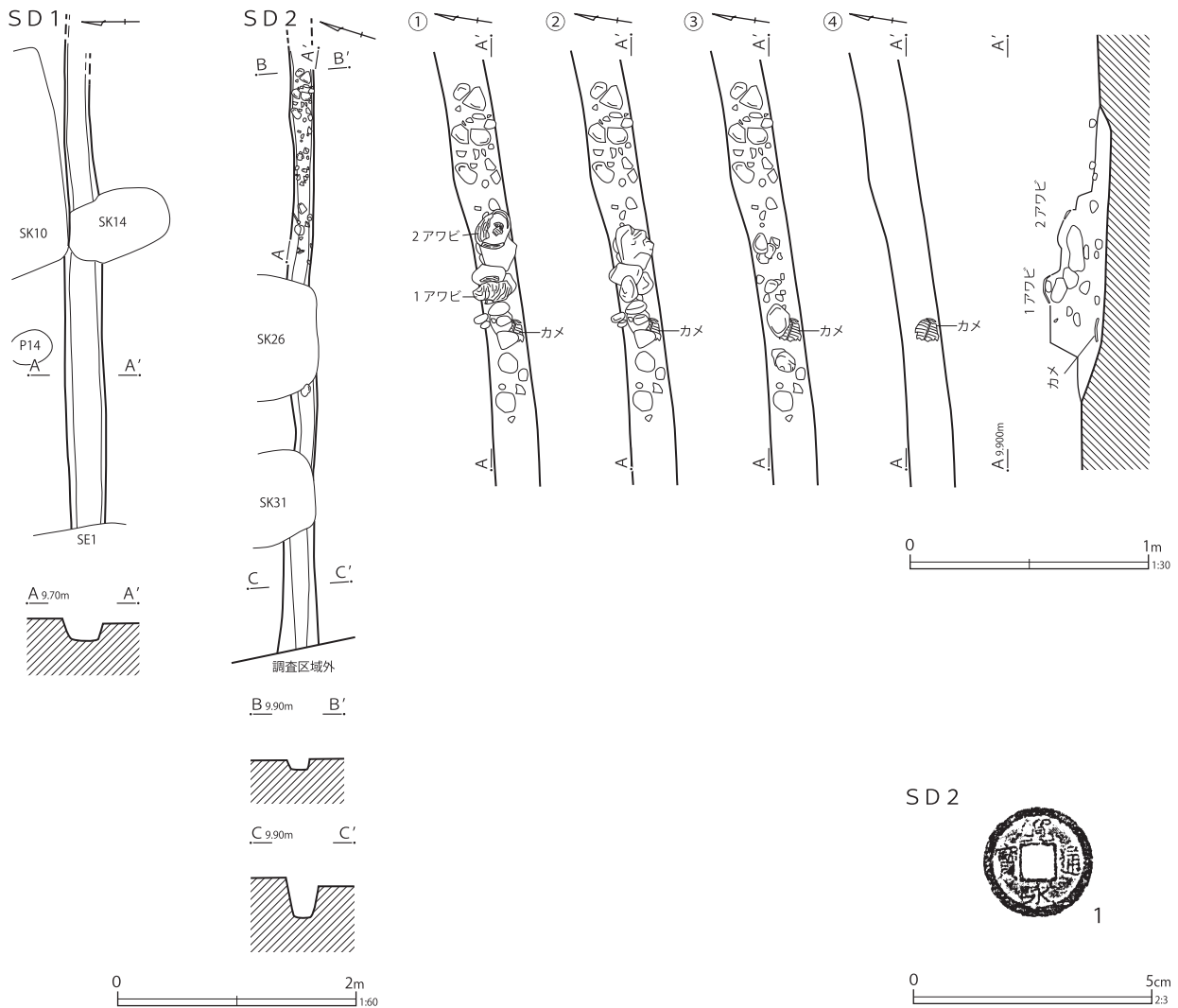
土器は29・30に瓦質土器の丸火鉢を示した。

金属製品は、第145図3に寛永通寶を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀後葉とみられる。

第12・13号土壌（第119図）

B 6-J 1グリッドに位置する。平面形はいずれも楕円形である。新旧関係は第12号土壌が新



第118図 溝跡・出土遺物

第76表 溝跡計測表

番号	グリッド	長さ	幅	深さ	方位	断面形	走行方向	遺存部分 ()、単位: m 備考
1	C6-A1	(4.03)	0.33	0.22	N-88° -E	逆台形	西から東	西端はSE1があり、関連遺構か、SK10、14重複
2	B5-I10・ J10, B6-I1	(4.52)	0.28	0.33	N-72° -E	U字形	東から西	東寄からアワビ・カメ等が出土、SK26、31と重複

第77表 溝跡出土遺物観察表 (第118図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 23.1 厚さ 1.3 重さ 2.6	SD2	寛永通寶 (新)	

しい。覆土に多量の炭化物を含むことから、火災処理に関わる土壌とみられる。

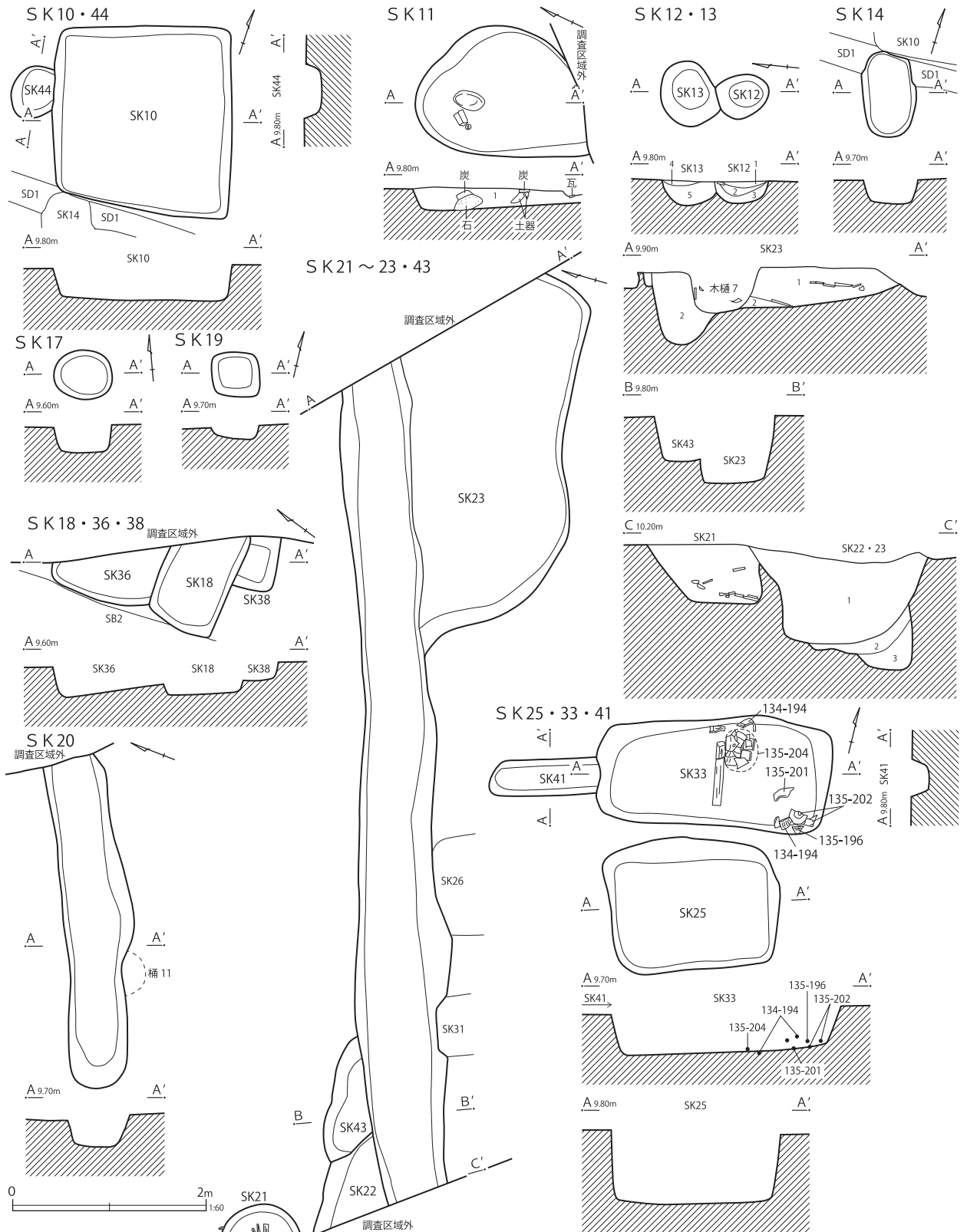
陶磁器類の出土は少なく、かつ2つの土壌で接合するものが多い。

第123図31は肥前系磁器の丸碗蓋、32は肥前系磁器の外表面青磁釉の朝顔形碗、33は瓦質土器の平底焙烙である。朝顔形碗は第9号土壌出土破片

と接合した。このほかに瀬戸美濃系柿釉灯明皿が出土している。

金属製品は、第145図4に第13号土壌出土の銅製針金、5に鉄製輪金具を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀後半以降とみられる。遺物に接合関係が認められるため、両土壌に時期差はないと考えられる。

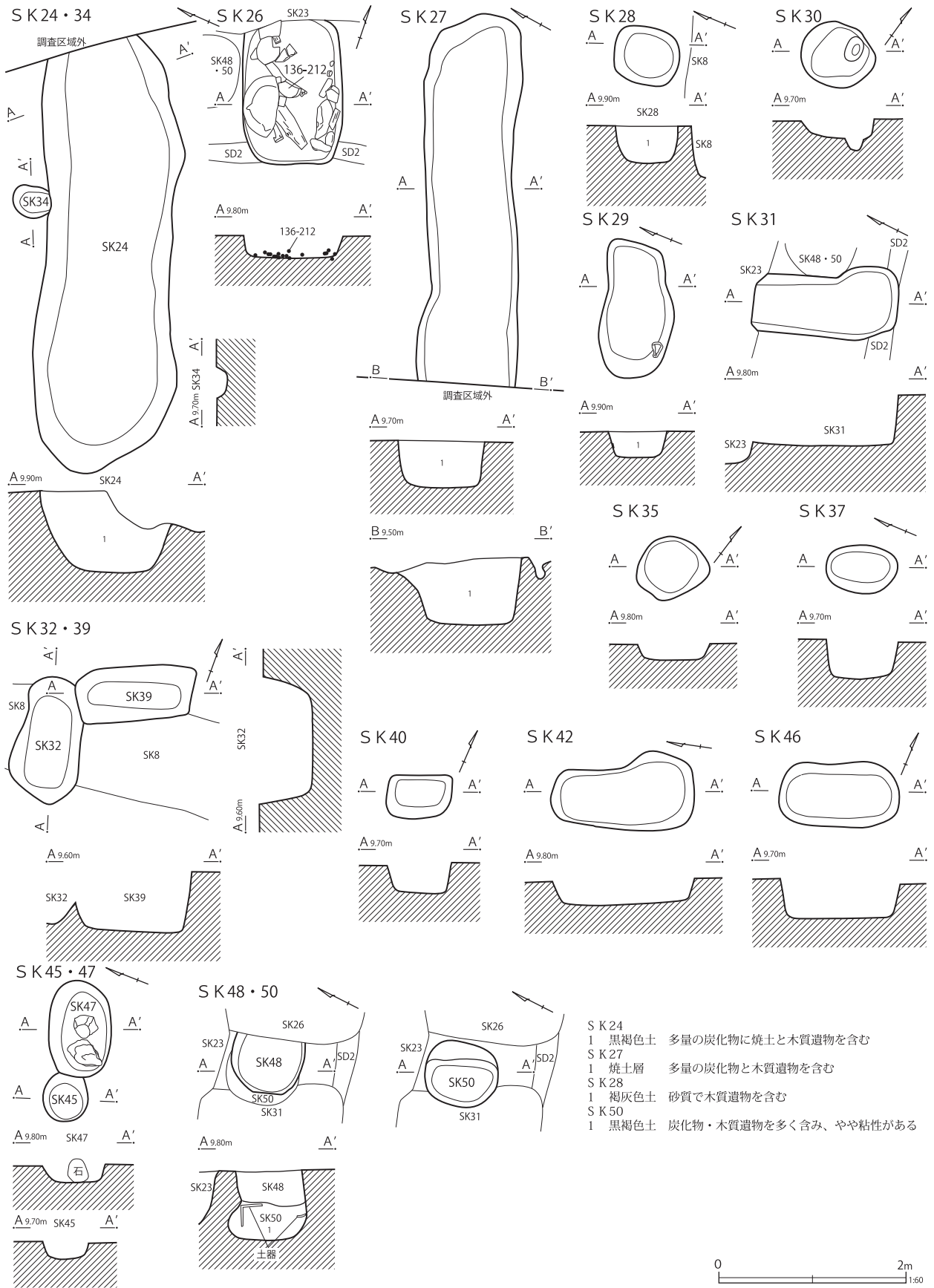


S K 11
1 焼土と炭化物の充填層

- S K 12・13
1 暗褐色土 (SK12)
2 褐灰色土 炭化物を含む (SK12)
3 黒褐色土 炭化物を含み、粘性がある (SK12)
4 灰黄褐色土 (SK13)
5 黒褐色土 炭化物を多く含む (SK13)

- S K 22・23
1 黒褐色土 炭化物・焼土・木質遺物を多量に含む (SK22)
2 灰褐色土 (SK23)
3 黒褐色土 炭化物・焼土・木質遺物を多量に含む (SK23)
S K 23
1 褐灰色土 炭化物・木質遺物を多量に含む
2 黒褐色土 炭化物・木質遺物を多量に含むが、やや色調が異なる

第119図 土壌 (1)



第120図 土坑（2）

第78表 土壌計測表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
10	B6-J1, C6-A1	隅丸方形	1.95	1.86	0.37	N-19° -W	SD1、SK44 と重複
11	B6-J1・J2	楕円形	1.75	1.35	0.24	N-27° -W	
12	B6-J1	楕円形	0.54	0.45	0.24	N-15° -W	SK13 より新
13	B6-J1	楕円形	0.68	0.56	0.26	N-60° -E	SK12 より古
14	C6-A1	楕円形	0.89	0.55	0.25	N-73° -E	SD1 と重複
17	B5-I10	楕円形	0.58	0.52	0.29	N-50° -W	
18	B5-I10	長方形	(1.01)	0.74	0.31	N-78° -E	
19	B5-I10	隅丸方形	0.49	0.46	0.14	N-80° -E	
20	B5-I10, B6-I1	長楕円形	3.47	0.74	0.55	N-63° -E	桶 11 より新、AS-A より古
21	B5-I10	円形	1.10	0.44	0.60	N-31° -W	SK22 より古
22	B5-I10	-	1.85	0.75	1.00	N-33° -W	SK21 より新、SK23 より新、SK43 と重複
23	B5-I10, B6-I1	テラス部をもつ溝状	(8.57)	2.55	0.84	N-71° -E	木樋 2、木樋 7 より古、SK22 より古 SK26、31、43 と重複
24	B6-J1	長楕円形	(4.60)	1.33	0.86	N-68° -E	SK34 と重複
25	B6-J1	隅丸長方形	1.74	1.38	0.75	N-73° -E	
26	B5-I10	隅丸長方形	1.54	1.08	0.25	N-19° -W	SK23、SD2 と重複
27	B5-J10, B6-J1	長楕円形	3.95	0.96	0.48	N-65° -E	AS-A より古
28	B6-J1	楕円形	1.05	0.93	0.45	N-8° -W	
29	B6-J1	楕円形	2.20	0.70	0.42	N-75° -E	
30	B6-J1	楕円形	0.77	0.70	0.20	N-87° -W	深さ 0.35(ピット状)
31	B5-I10・J10	楕円形?	(1.55)	0.64	0.53	N-25° -W	SK23、48、50、SD2 と重複
32	B6-J1	楕円形	1.35	0.68	0.55	N-16° -W	SK8、39 と重複
33	B6-J1	隅丸方形	2.28	1.12	0.42	N-77° -E	SK41 と重複
34	B6-J1	楕円形	(0.40)	0.33	0.12	N-20° -W	SK24 と重複
35	B6-J1	円形	0.71	0.65	0.18	N-8° -E	
36	B5-I10	方形?	1.07	(0.57)	0.31	N-23° -W	SK18 より古
37	B6-J1	楕円形	0.76	0.53	0.42	N-22° -W	
38	B5-I10	隅丸方形?	0.57	0.35	0.19	N-71° -E	SK18 より古
39	B6-J1	楕円形	1.26	0.58	0.64	N-72° -E	SK8、32 と重複
40	B6-J1	隅丸方形	0.70	0.46	0.33	N-68° -E	
41	B6-J1	楕円形	1.14	0.38	0.18	N-74° -E	SK33 と重複
42	B6-J1	楕円形	1.52	0.70	0.27	N-8° -W	SK8 と重複
43	B5-I10	楕円形	(1.33)	(0.46)	0.46	N-97° -E	SK22、23 と重複
44	B6-J1	楕円形	0.55	(0.44)	0.18	N-10° -W	SK10 と重複
45	B6-J1	円形	0.50	0.48	0.19	-	SK47 と重複
46	B6-J1・J2	楕円形	1.28	0.68	0.42	N-68° -E	
47	B6-J1・J2	楕円形	1.02	0.66	0.19	N-69° -E	SK45 と重複
48	B5-I10	楕円形	0.77	(0.58)	0.37	N-17° -W	SK50 より新、SK26、31 と重複
50	B5-I10	楕円形	0.78	0.67	0.40	N-23° -W	SK48 より古、SK26、31 と重複

第14号土壌 (第119図)

C 6-A 1 グリッドに位置する。第 1 号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形は楕円形で、断面形は逆台形である。覆土は確認できなかった。

陶磁器類の出土はごく少ない。第123図34に肥前系磁器の輪高台猪口、35に酸化炎焼成気味の瓦質土器の平底焙烙を示した。

このほかに肥前系くらわんか碗、瀬戸美濃系陶

器こね鉢なども出土している。

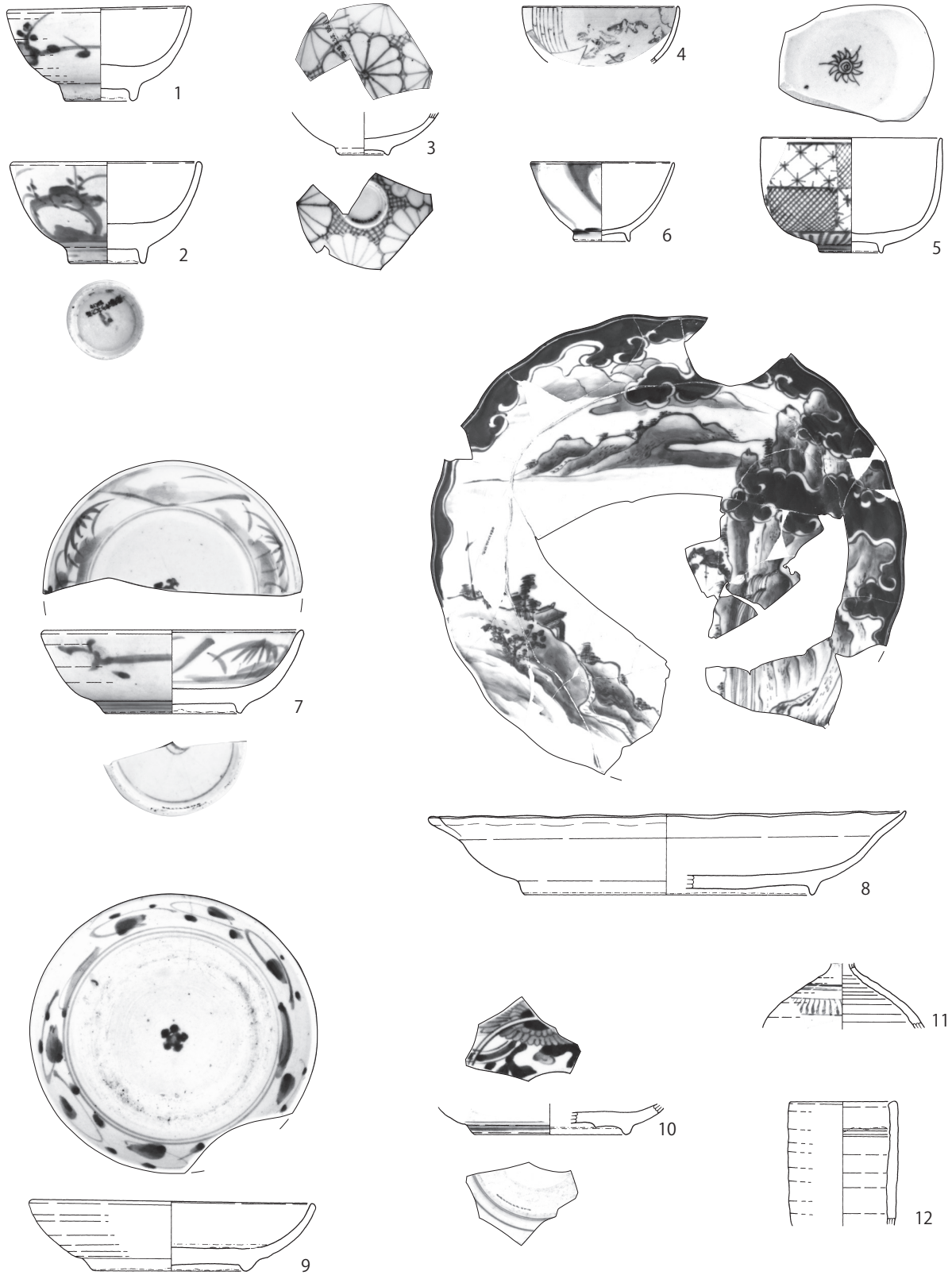
時期は、出土陶磁器から18世紀以降と考えられる。

第17号土壌 (第119図)

B 5-I 10グリッドに位置する。平面は楕円形、断面形は箱形である。覆土は確認できなかった。

出土遺物は少なく、陶磁器類で図示しうるのはなかった。被熱した瀬戸美濃系菊皿、腰鍔碗が出土している。

SK10

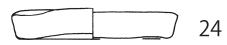
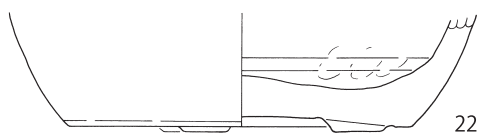
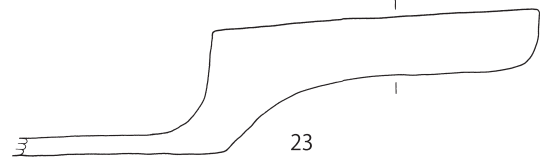
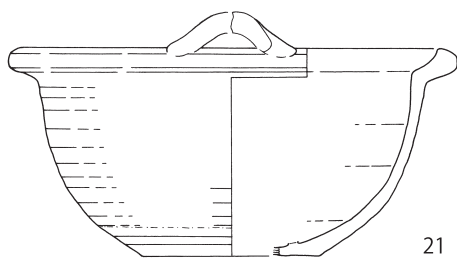
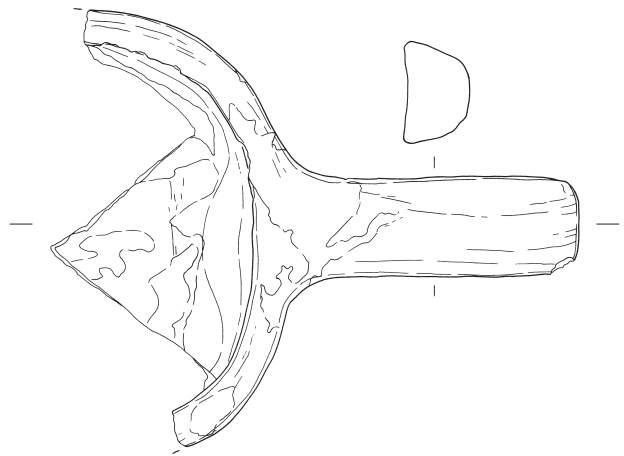
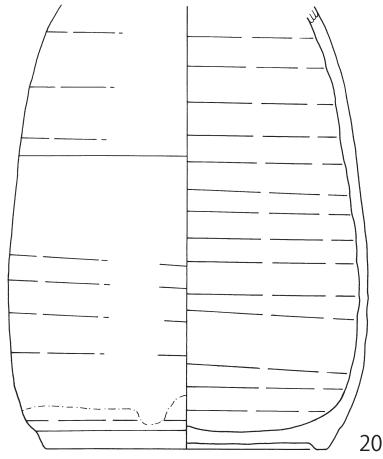
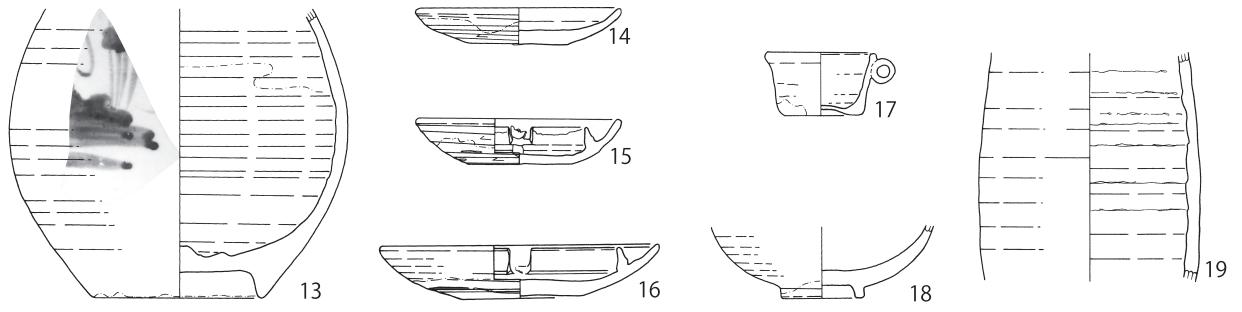


1~7・9~12 0 10cm
1/3

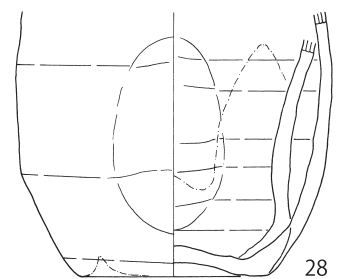
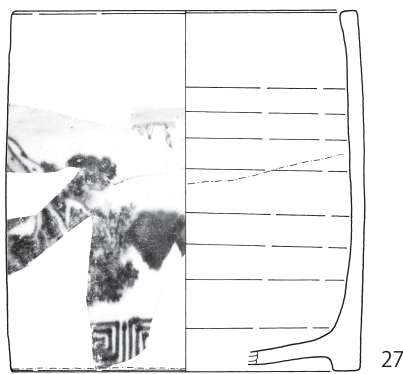
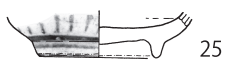
8 0 10cm
1/4

第121図 土壙出土遺物(1)

SK10



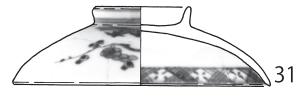
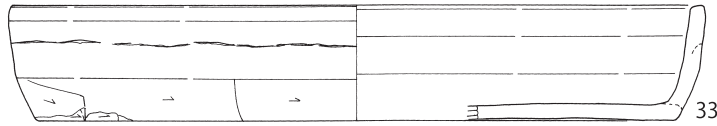
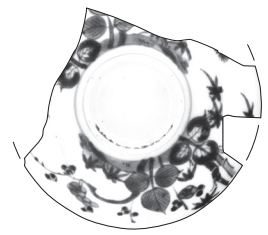
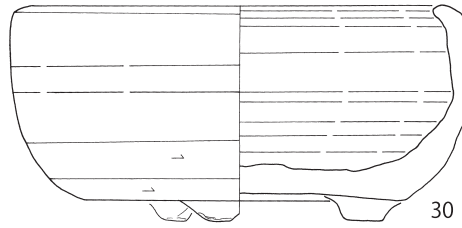
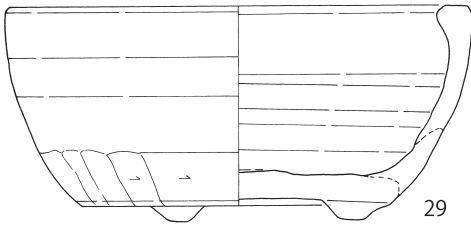
SK11



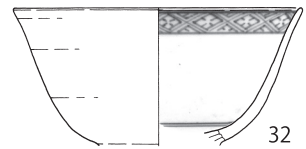
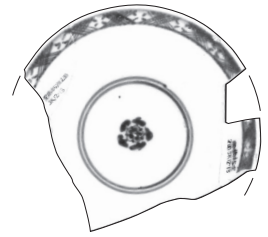
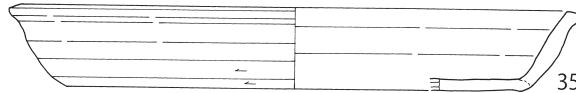
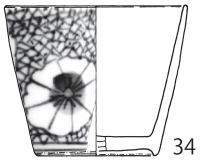
第122図 土壙出土遺物（2）

SK11

SK12・13

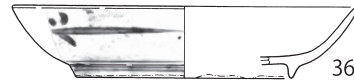
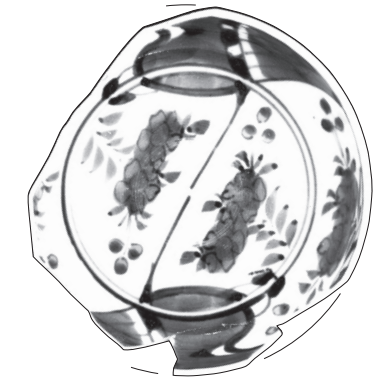


SK14

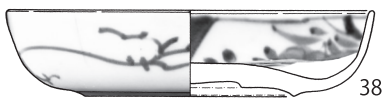


SK21

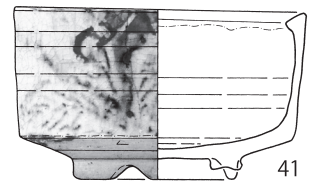
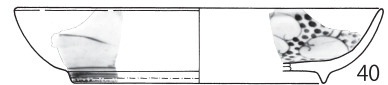
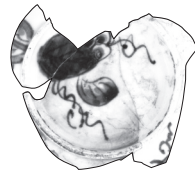
SK19



SK20



SK22



33・35 0 10cm 1/4

29~32・34・36~41 0 10cm 1/3

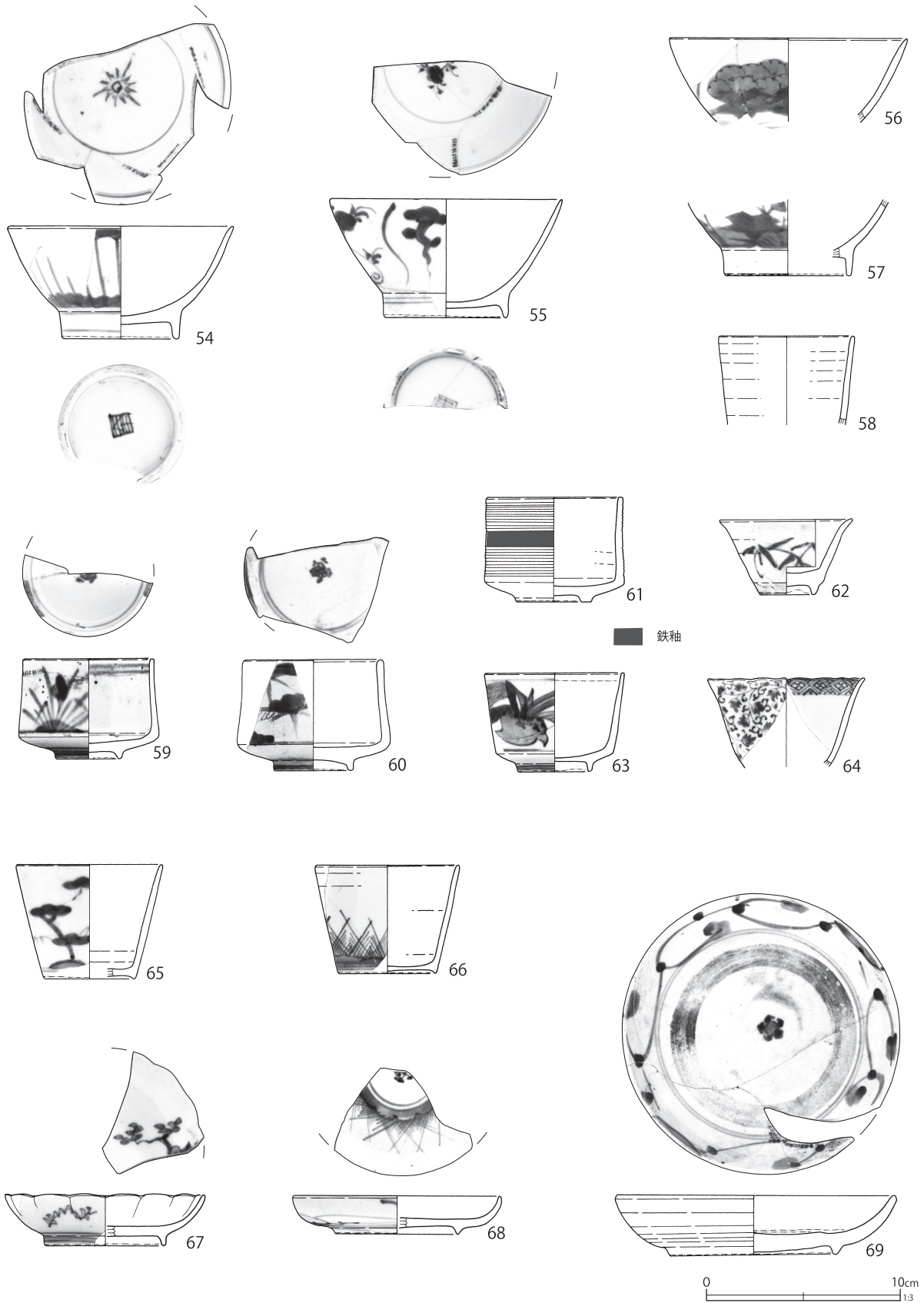
第123図 土壙出土遺物(3)

SK23



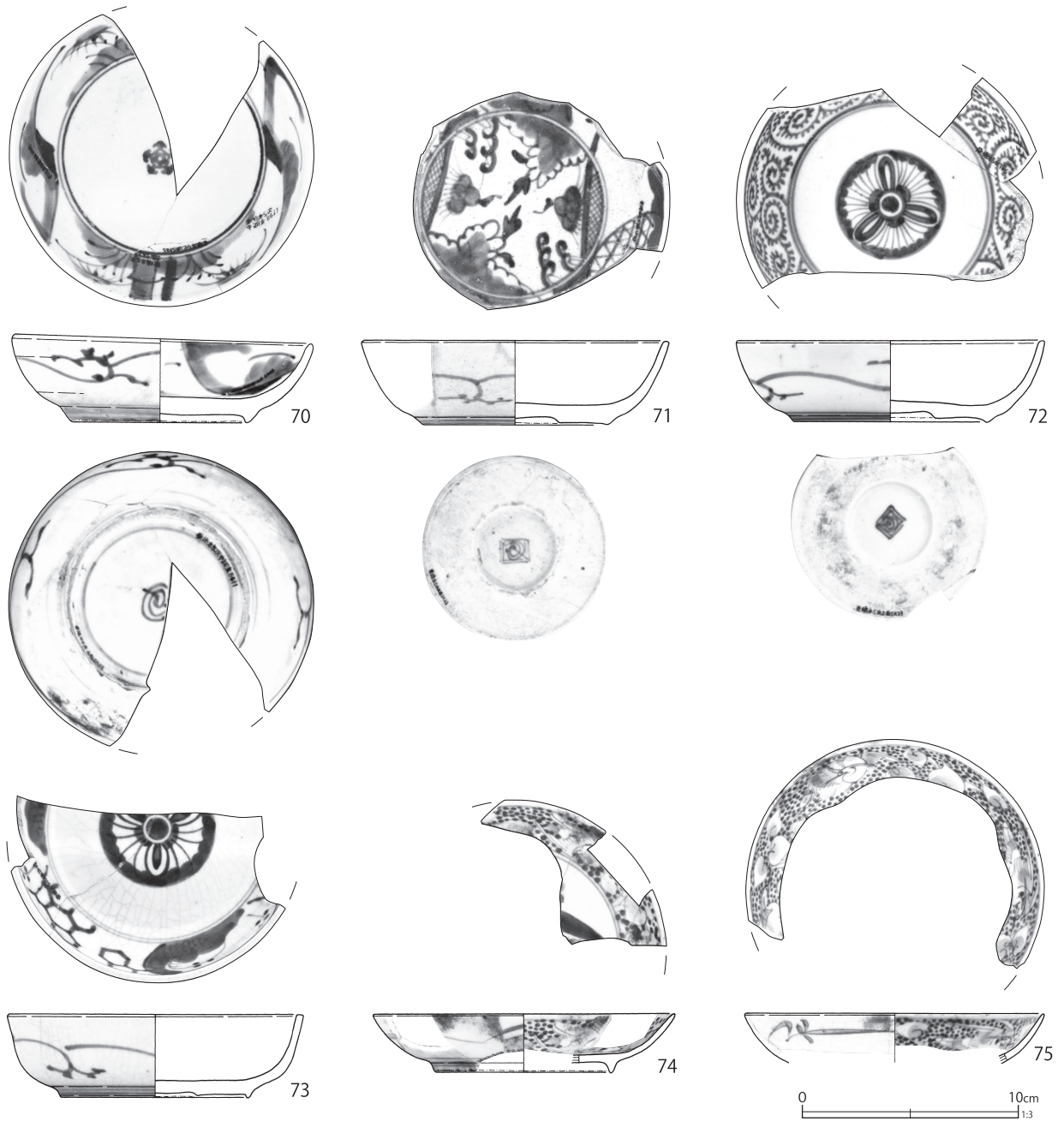
第124図 土壙出土遺物（4）

S K23



第125図 土壙出土遺物(5)

S K23



第126図 土壙出土遺物（6）

金属製品は、第145図6に鉄釘、7に寛永通宝を示した。

時期は不明である。

第19号土壙（第119図）

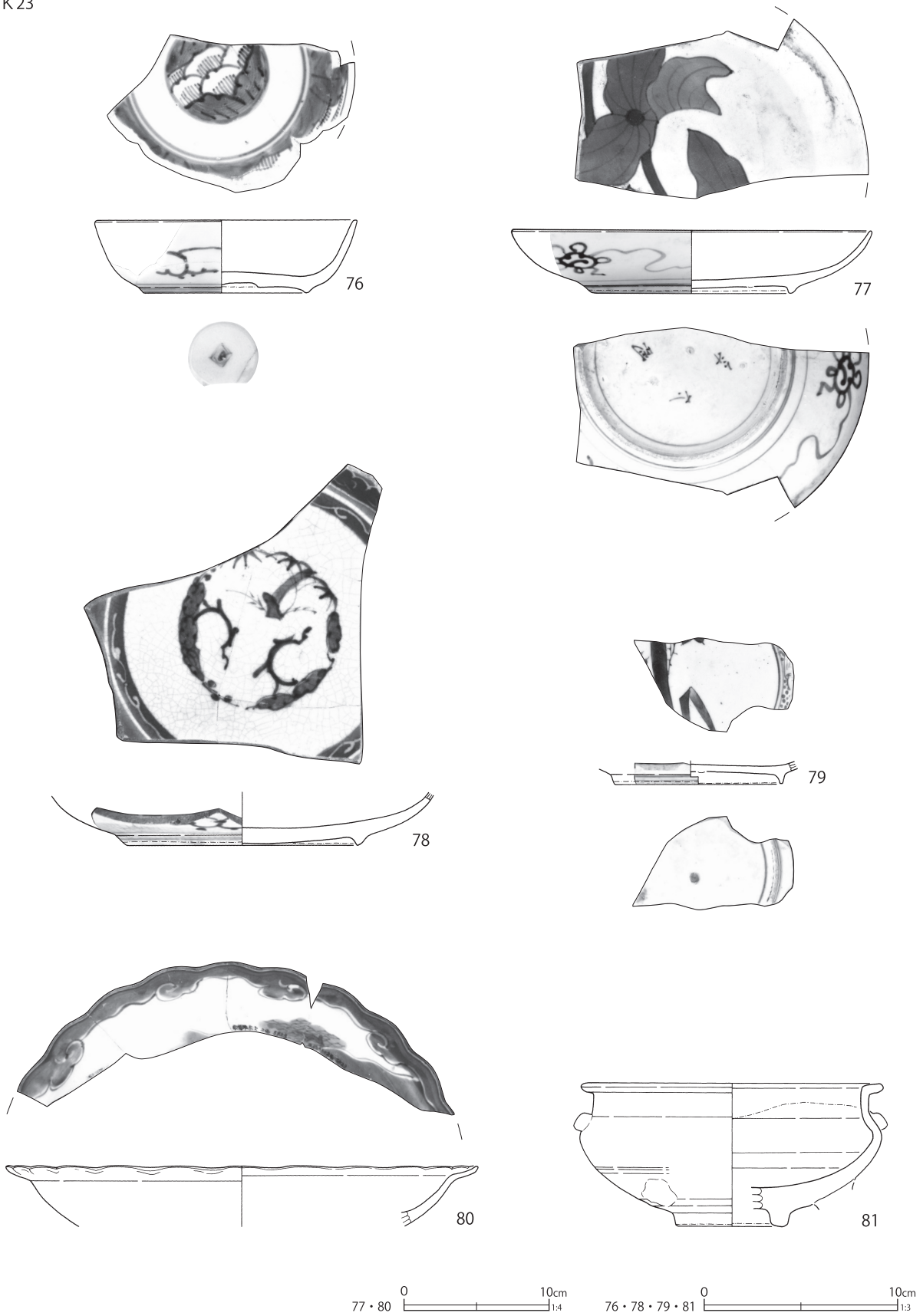
B5-I10グリッドに位置し、平面形は隅丸方形である。

出土陶磁器は、第123図36に肥前系陶器の染付皿を示した。このほかに、土師質土器の丸底焙烙が出土している。

金属製品では、第145図8に巻頭釘を示した。

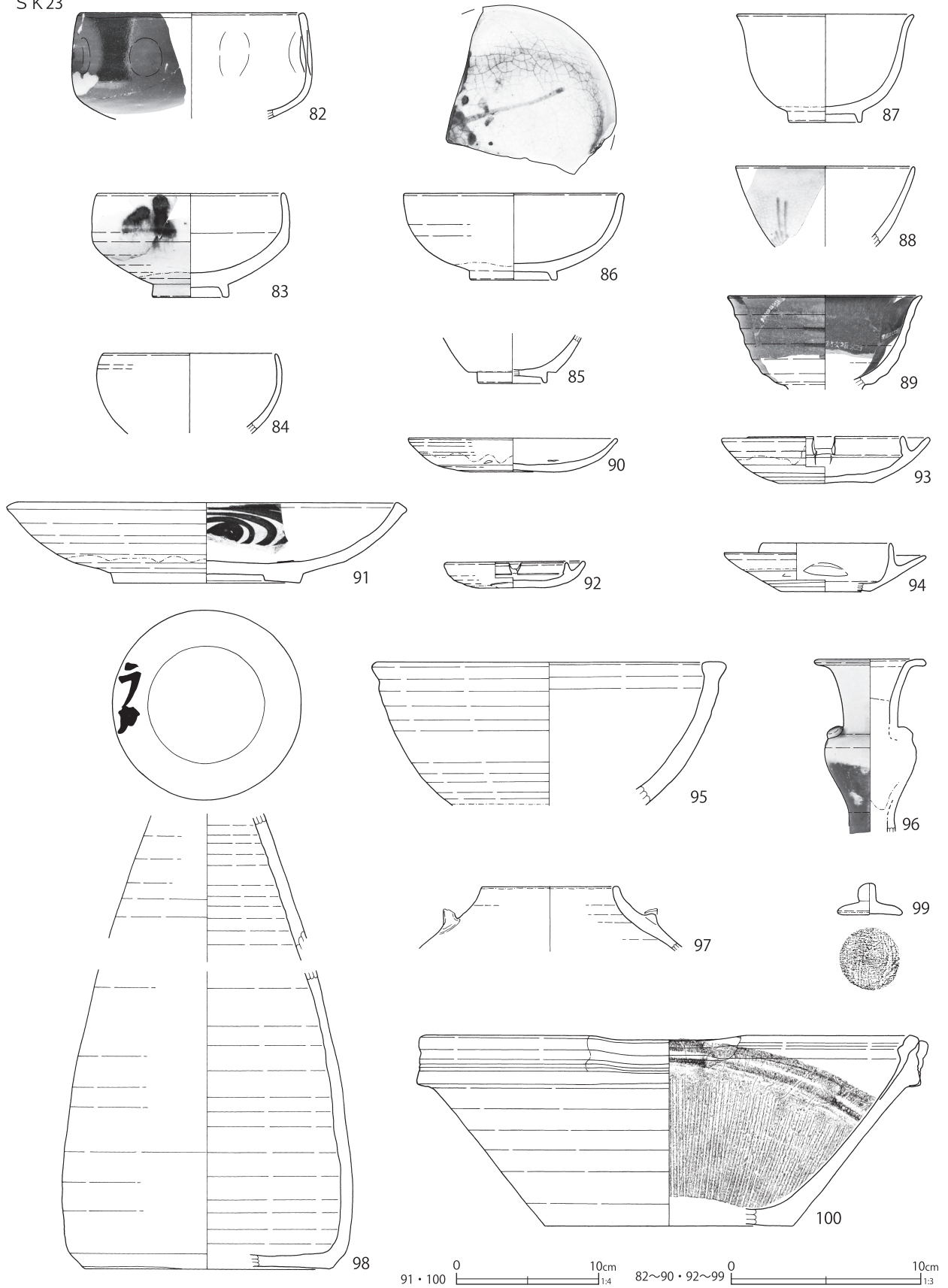
時期は、出土陶磁器から18世紀後半以後とみられる。

SK23



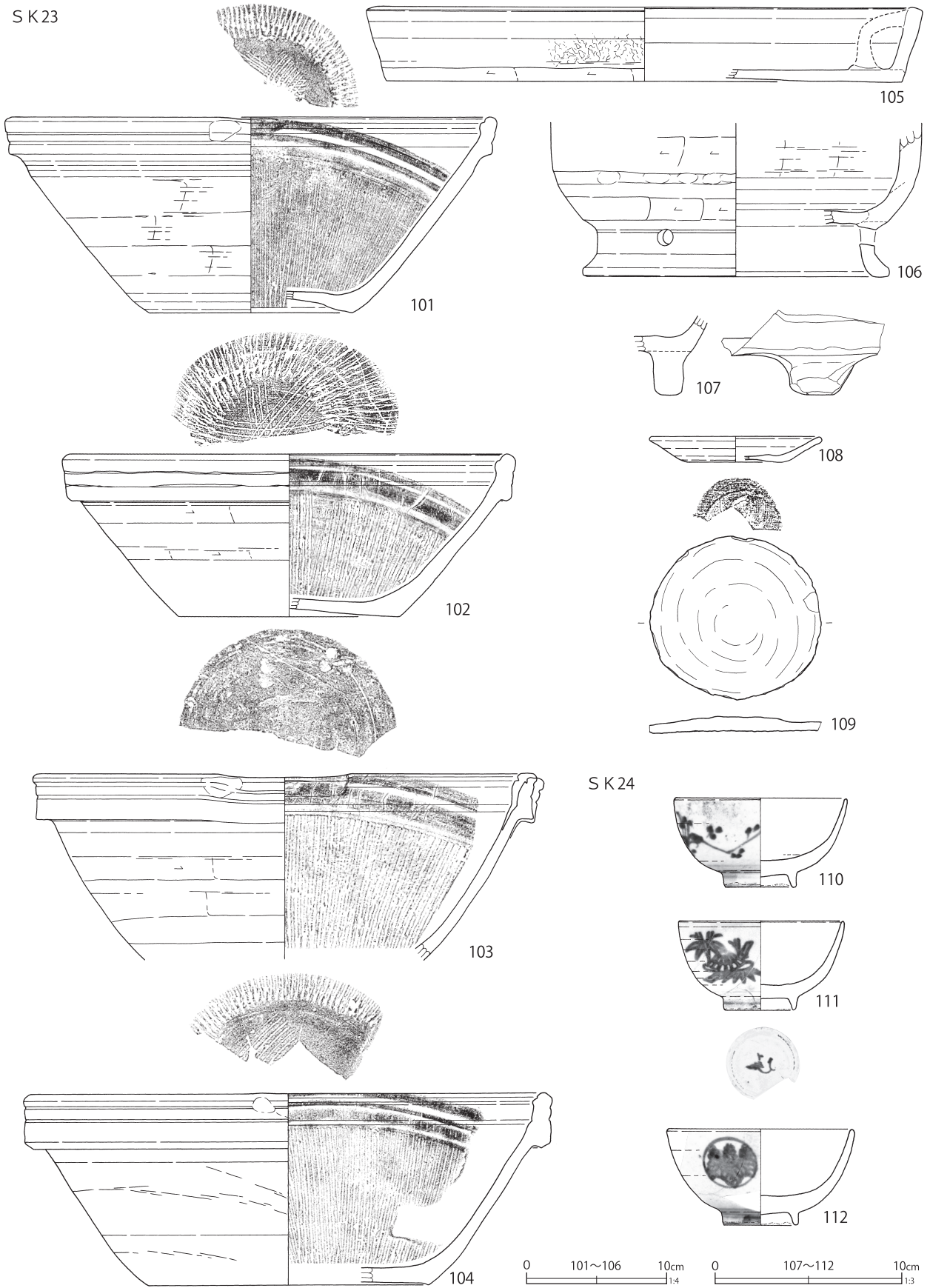
第127図 土壙出土遺物（7）

S K23



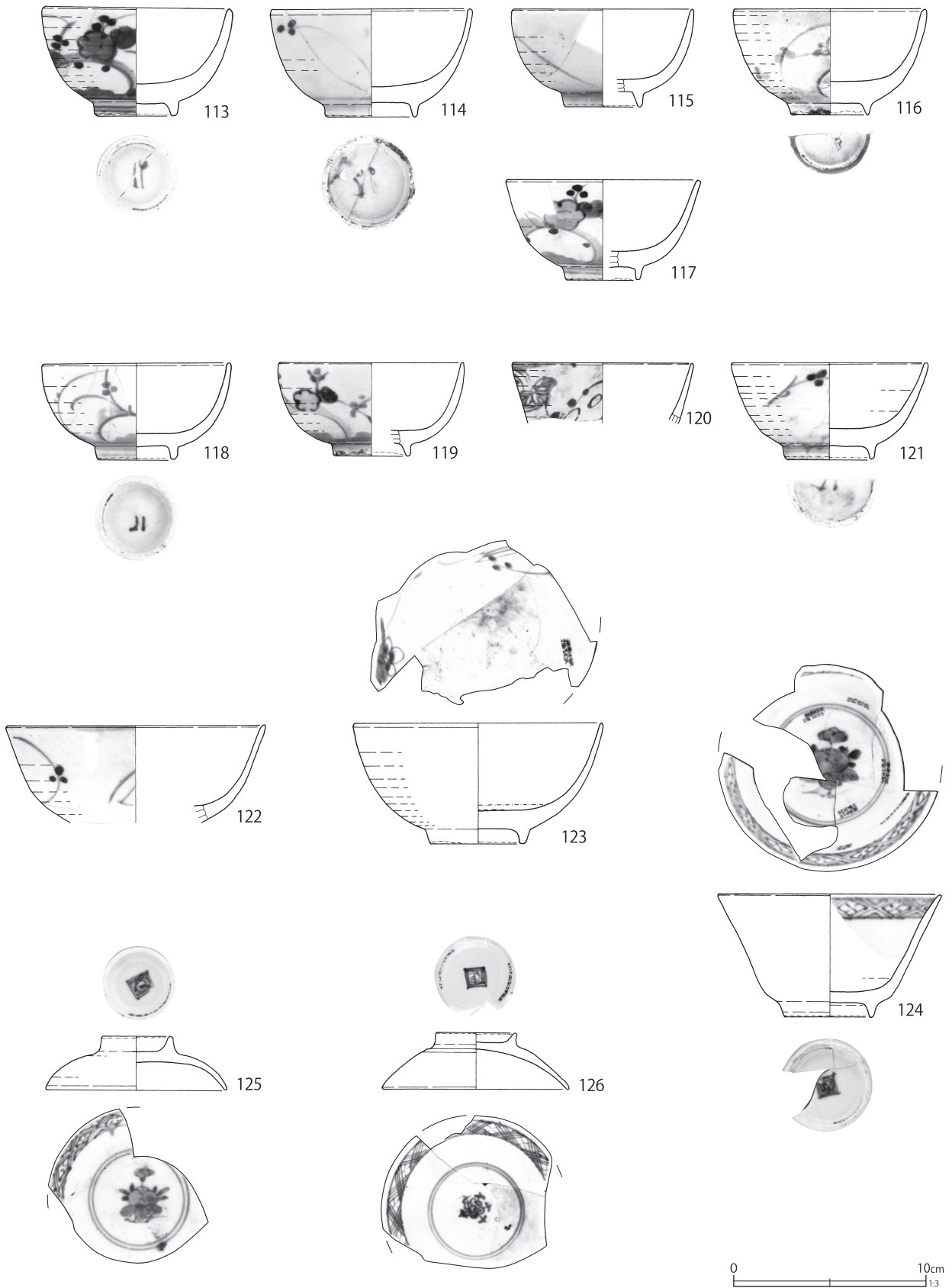
第128図 土壙出土遺物(8)

S K23



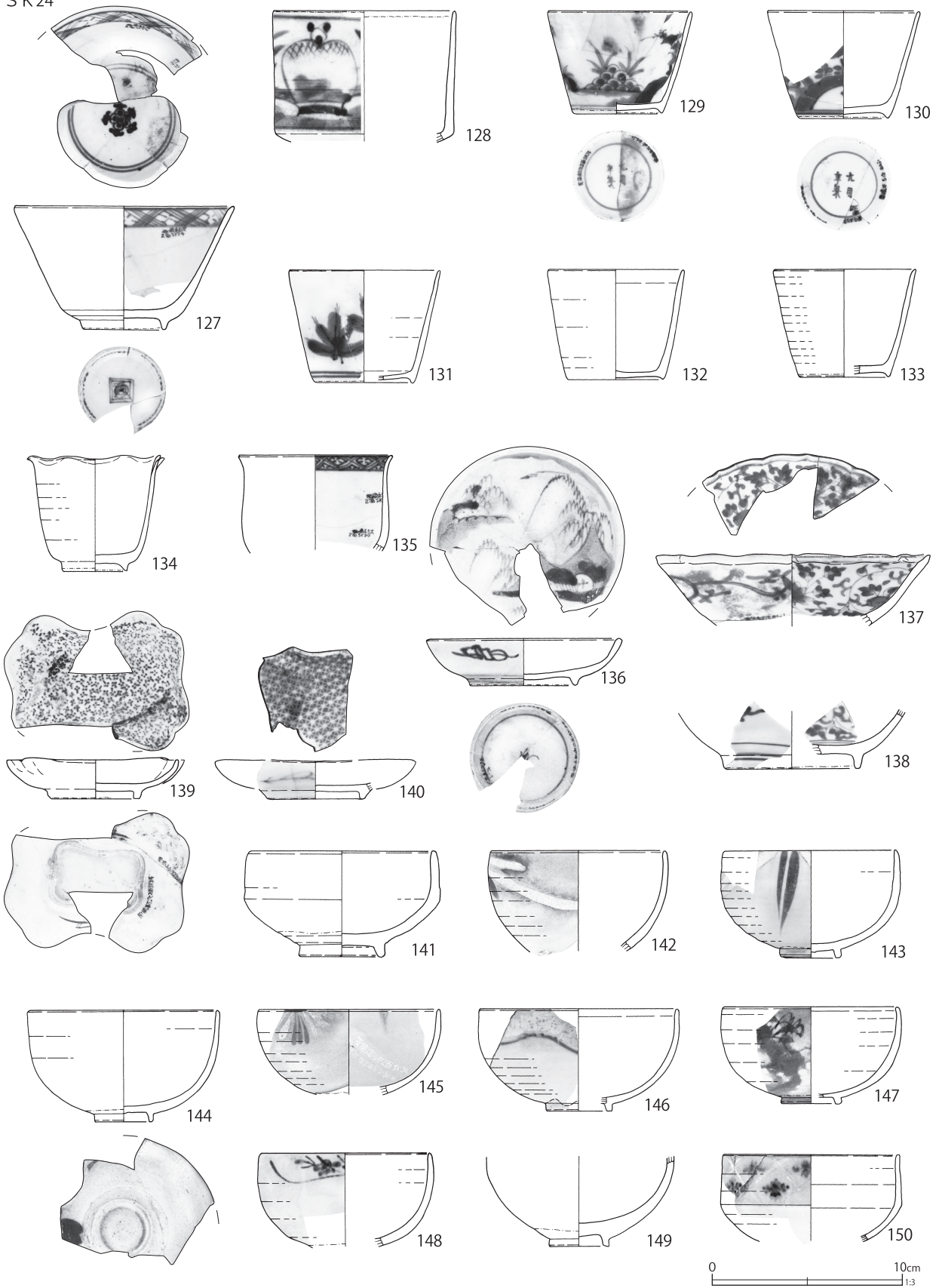
第129図 土壙出土遺物(9)

SK24



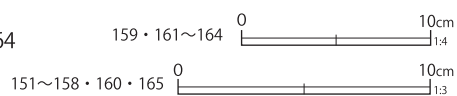
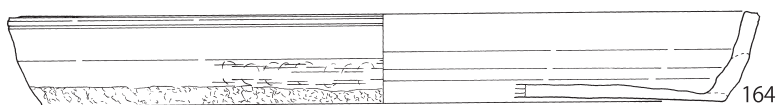
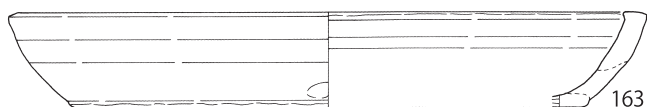
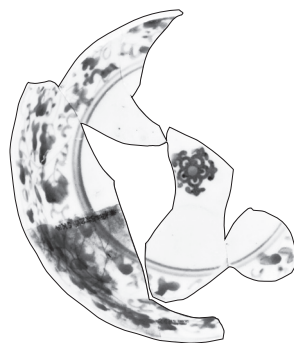
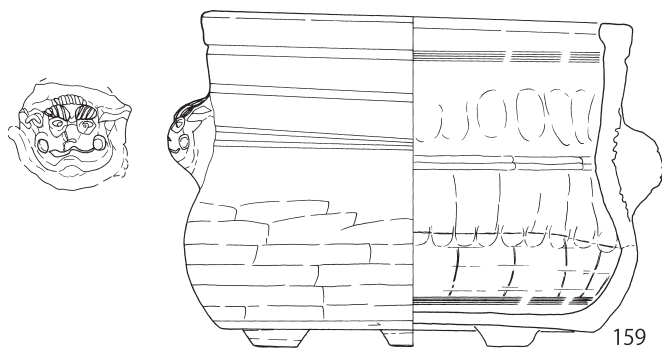
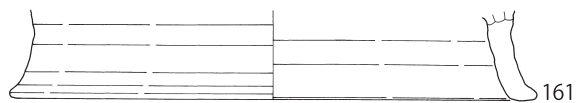
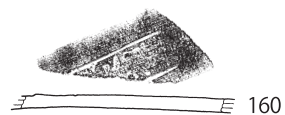
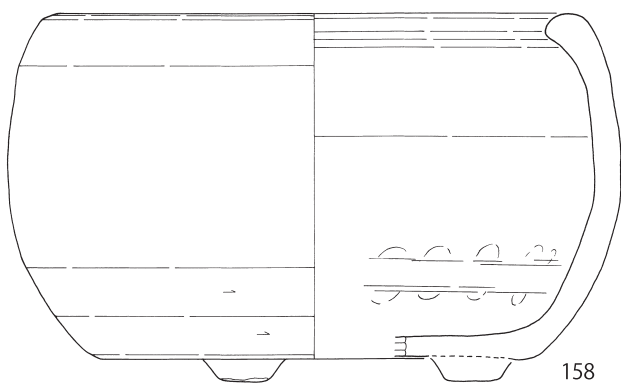
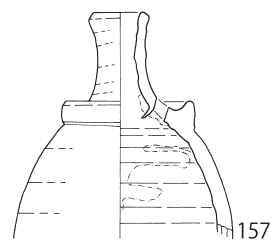
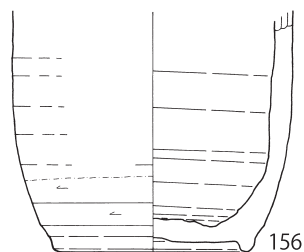
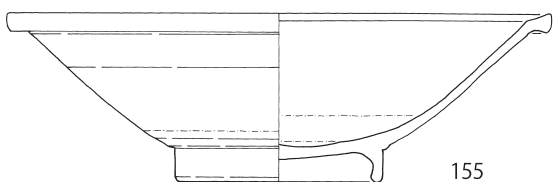
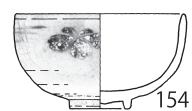
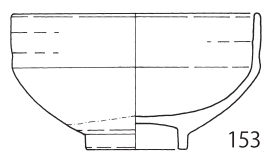
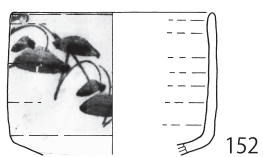
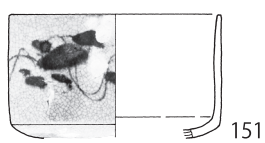
第130図 土壙出土遺物 (10)

SK24



第131図 土壙出土遺物 (11)

SK24



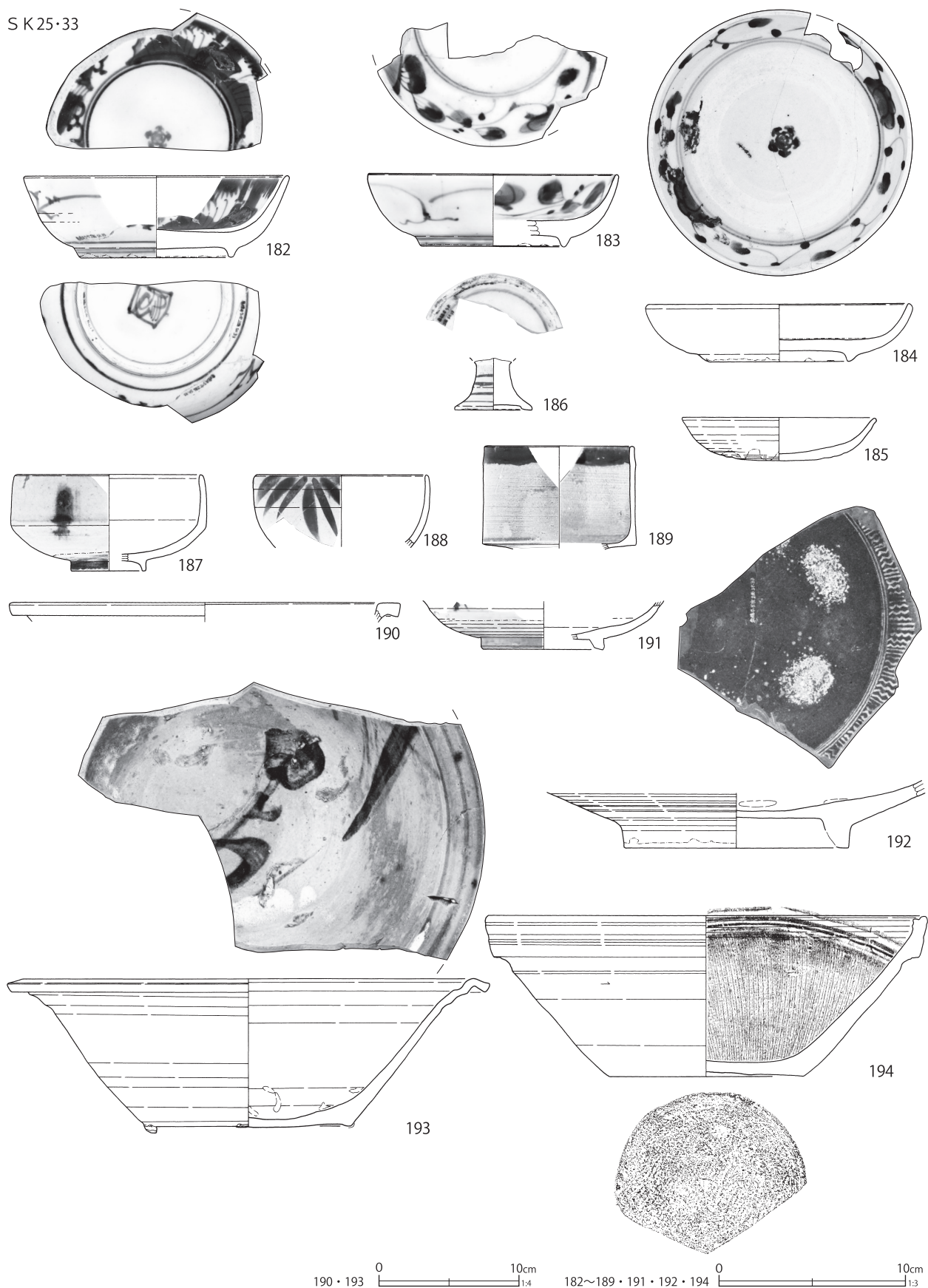
第132図 土壙出土遺物 (12)

S K25-33



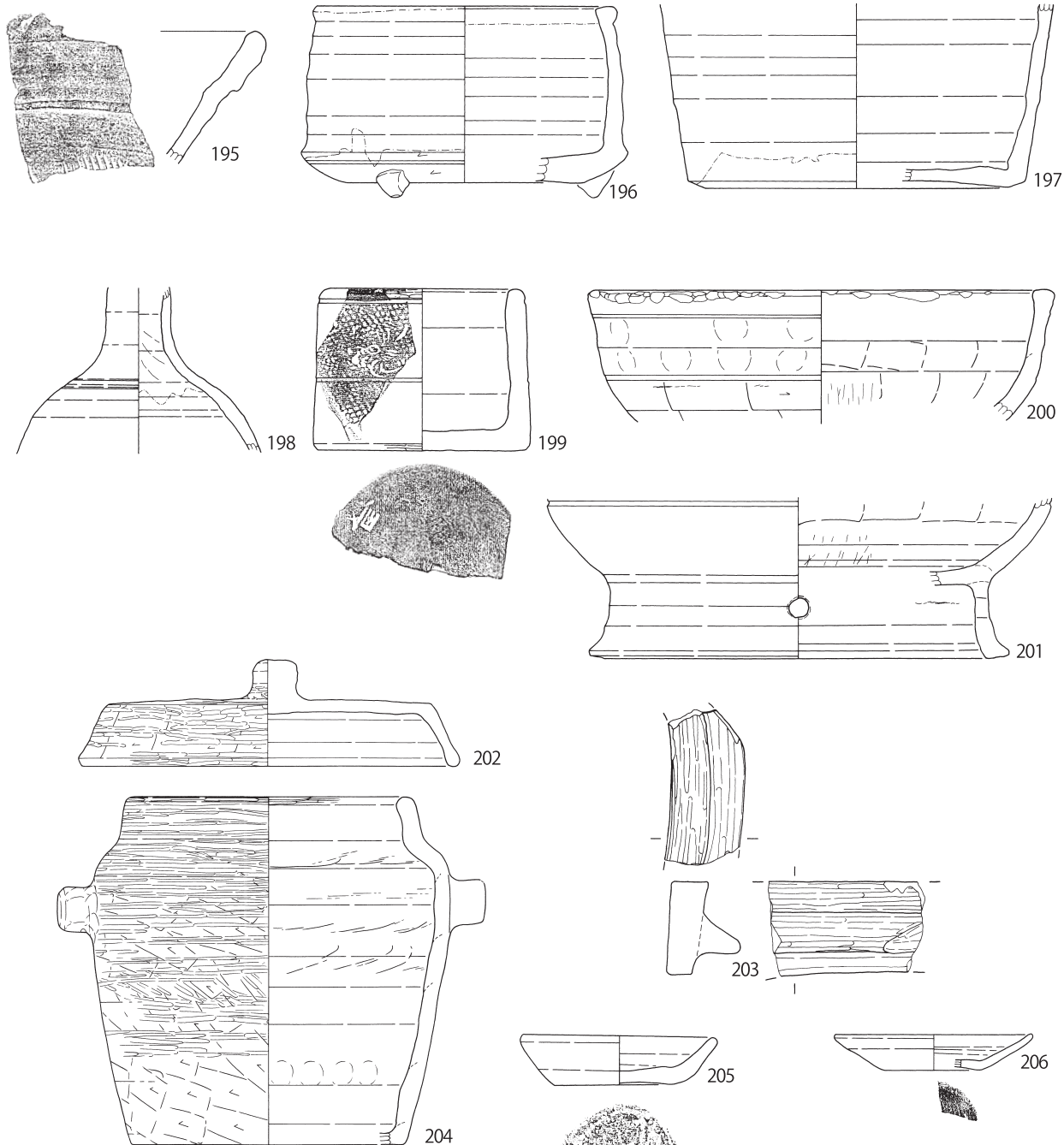
第133図 土壙出土遺物 (13)

S K 25・33

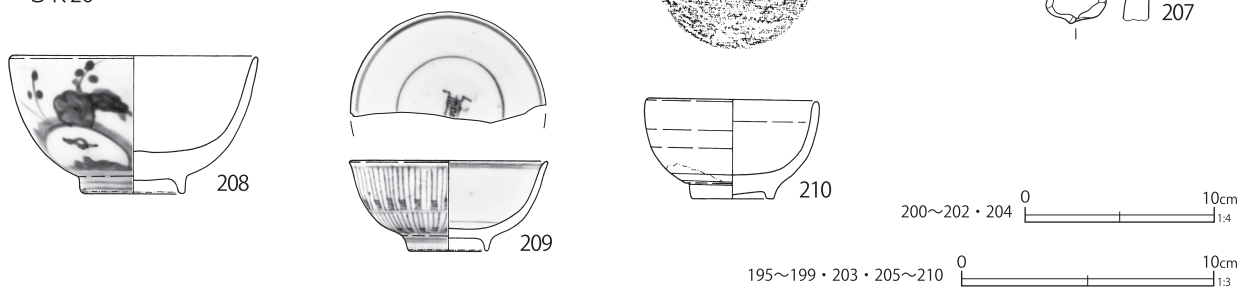


第134図 土壙出土遺物 (14)

S K 25 · 33

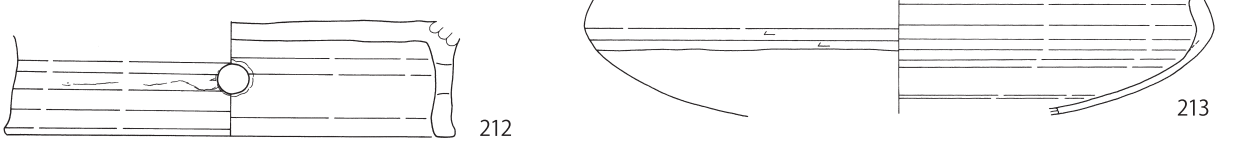
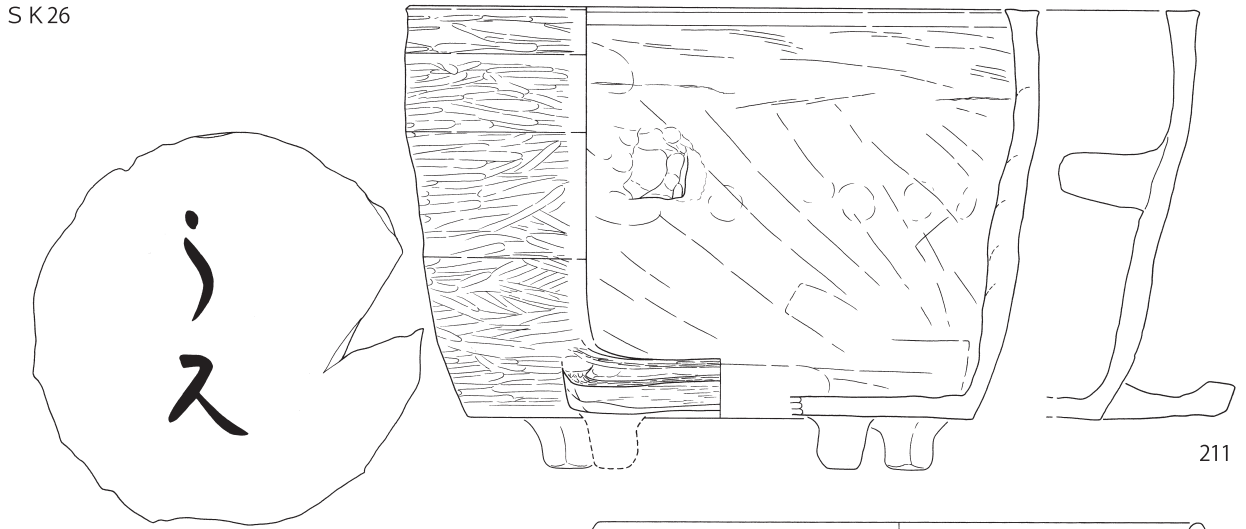


S K 26

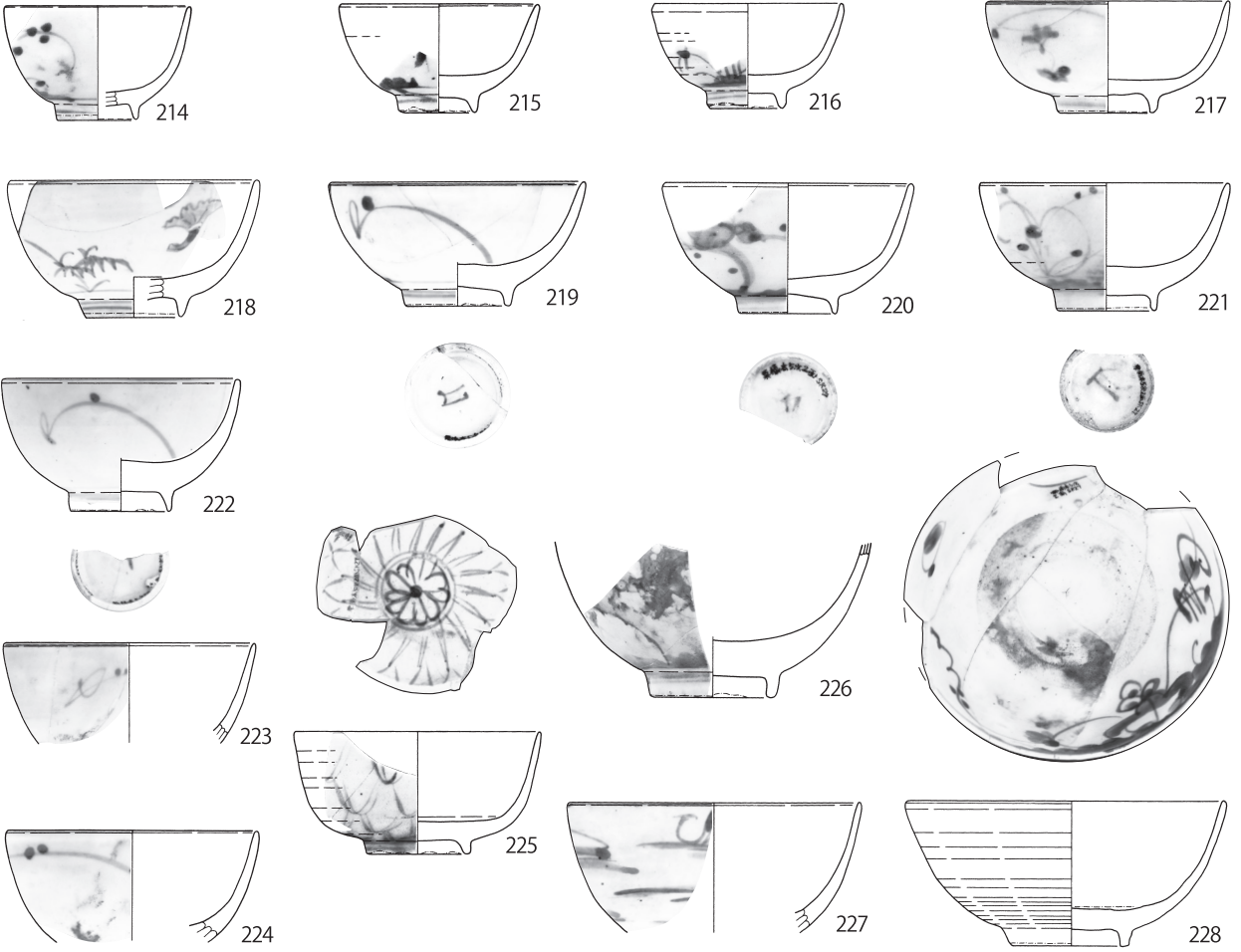


第135図 土壙出土遺物 (15)

SK26

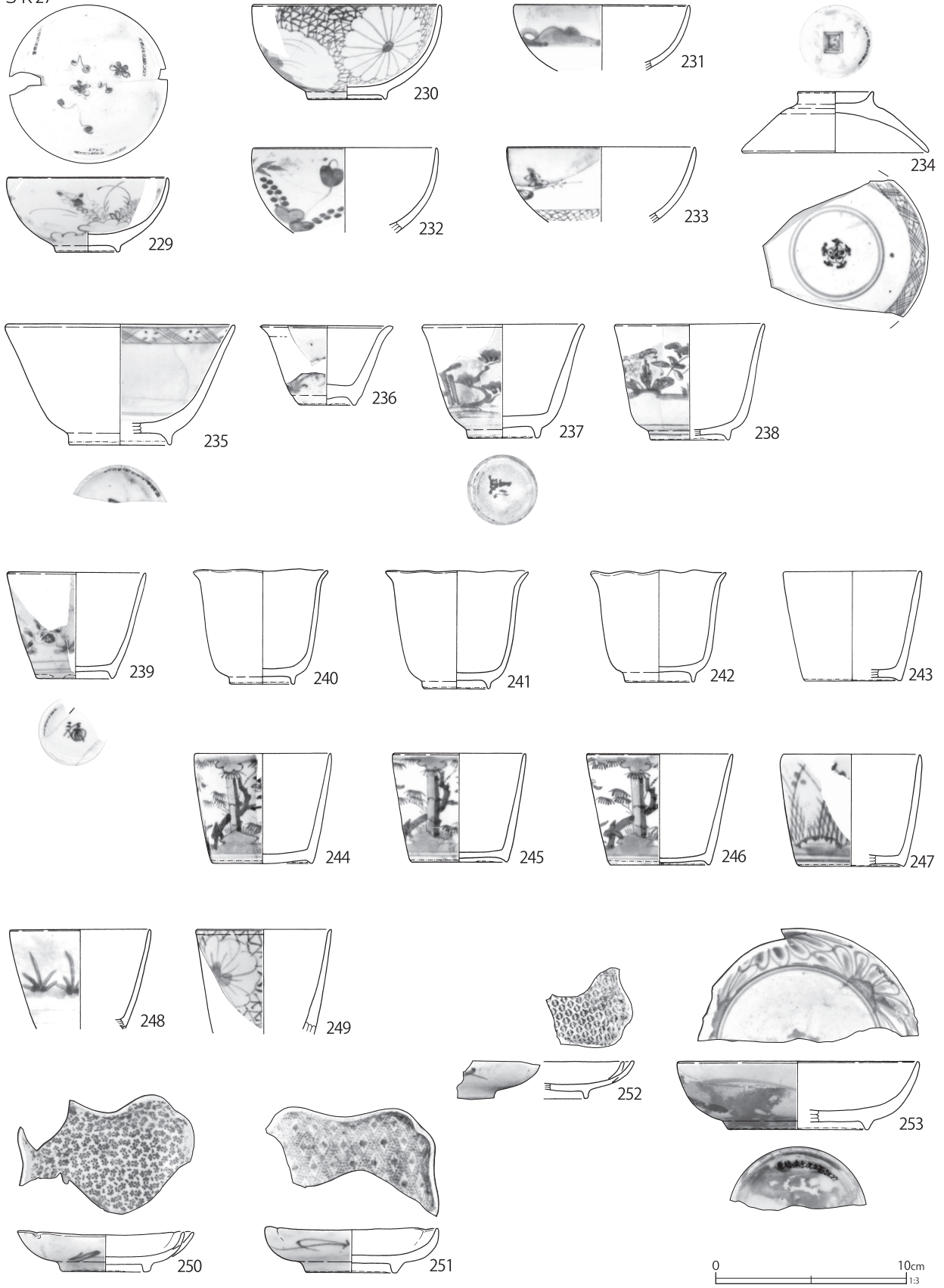


SK27



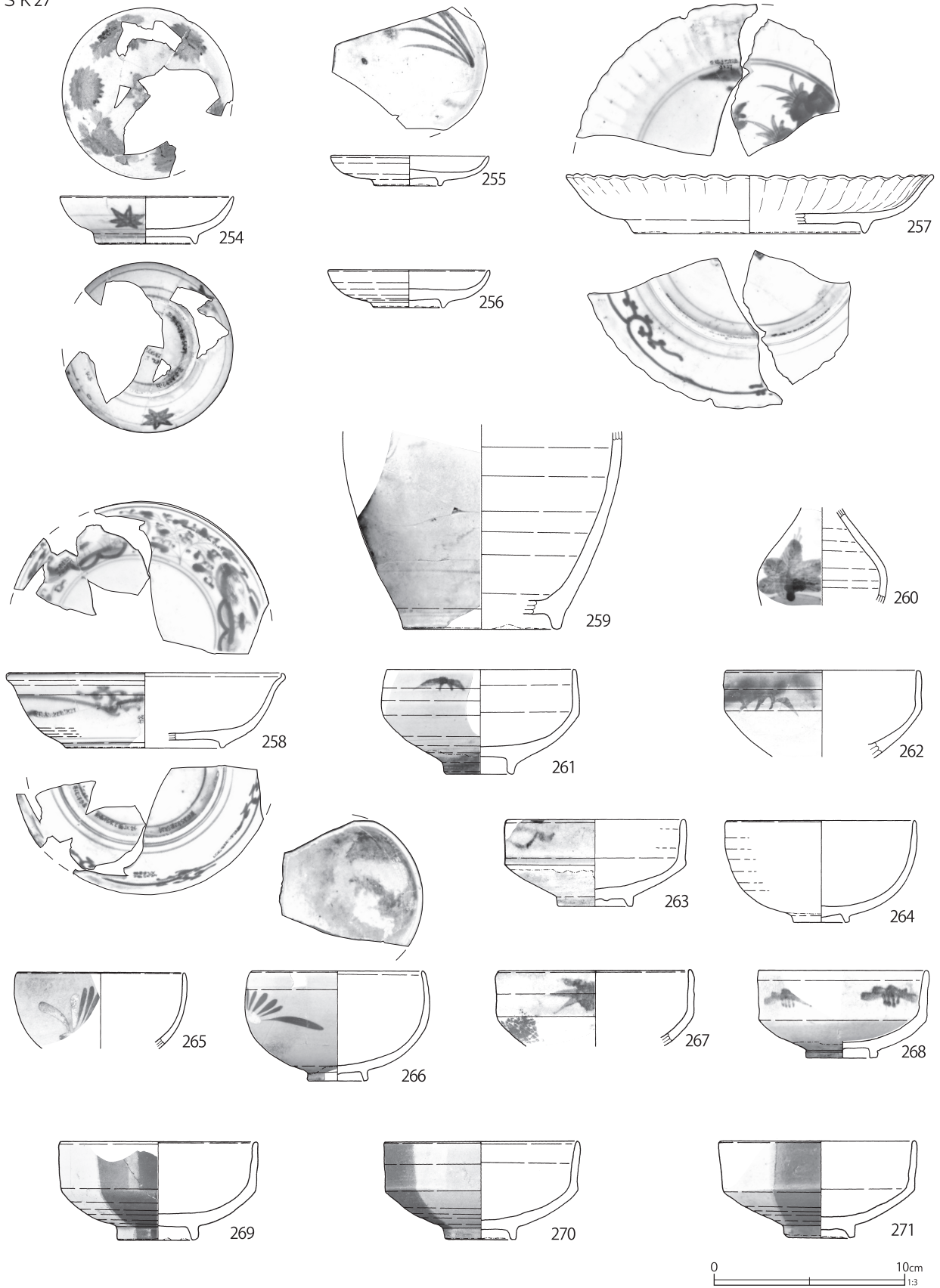
第136図 土壙出土遺物 (16)

SK27



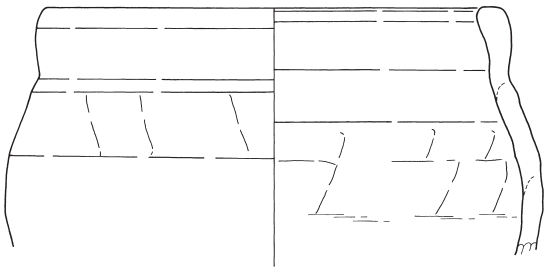
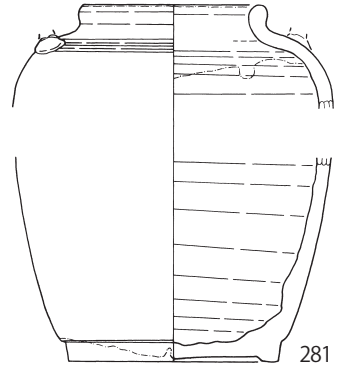
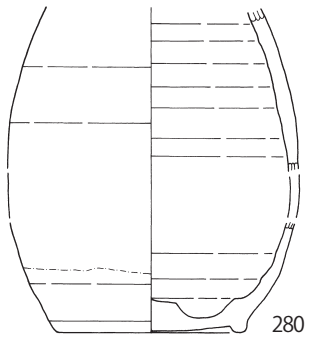
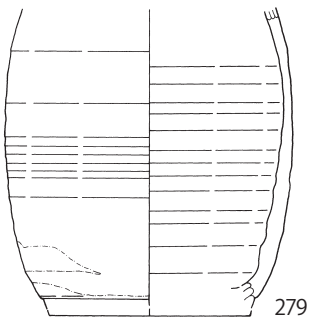
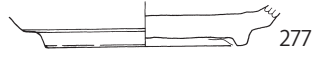
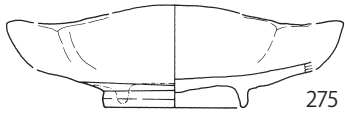
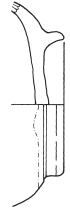
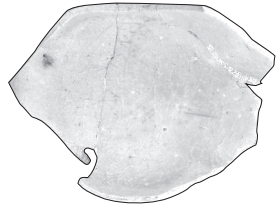
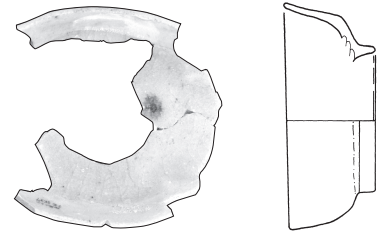
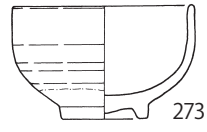
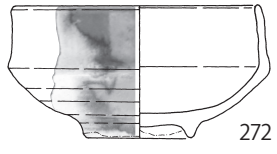
第137図 土壙出土遺物 (17)

SK27

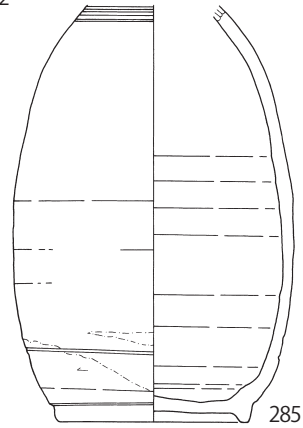


第138図 土壙出土遺物 (18)

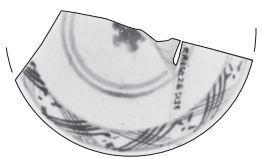
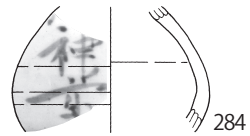
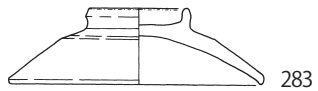
SK27



SK32

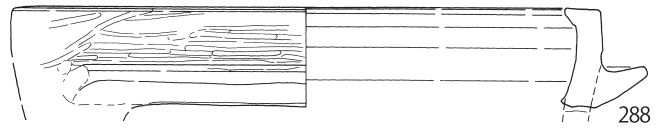


SK28

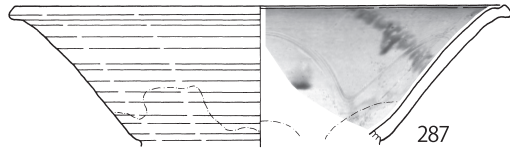


第139図 土壙出土遺物 (19)

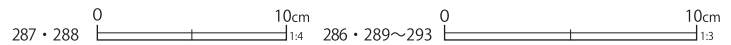
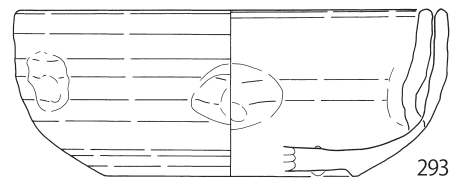
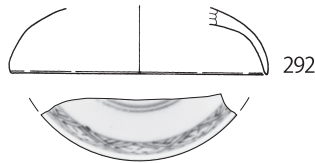
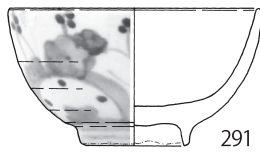
S K 35



S K 39



S K 42



第140図 土壌出土遺物 (20)

第79表 土壌出土遺物観察表 (1) (第121 ~ 140図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	9.0	4.7	3.3	I	85	良好	灰白	SK10	肥前系 施釉 外面染付	
2	磁器	碗	(9.3)	5.0	3.6	—	75	良好	灰白	SK10	肥前系 施釉 外面染付	
3	磁器	碗	—	[2.1]	2.4	—	60	良好	白	SK10	肥前系 施釉 染付	
4	磁器	碗	(7.7)	[2.8]	—	—	45	良好	白	SK10	肥前系 施釉 外面色絵 (赤・緑)	40-8
5	磁器	碗	(8.8)	5.7	3.0	—	40	良好	白	SK10	肥前系 施釉 染付	
6	磁器	碗	(7.1)	3.9	(2.7)	—	20	良好	白	SK10	肥前系 施釉 外面染付	
7	磁器	皿	[12.8]	4.1	(6.8)	—	45	良好	灰白	SK10	肥前系 施釉 染付	
8	磁器	皿	31.5	5.6	19.0	—	70	良好	白	SK10	肥前系 施釉 内面染付 高台内ハリ支 痕1遺存 焼継痕	40-10
9	磁器	皿	13.8	3.5	7.5	—	95	良好	白	SK10	肥前系 施釉 内面染付 蛇ノ目釉剥	40-11
10	磁器	皿	—	[1.5]	(7.4)	—	5	良好	白	SK10	肥前系 施釉 染付	
11	磁器	油壺	—	[3.3]	—	I	25	良好	灰白	SK10	肥前系 施釉 外面色絵 (赤)	40-9
12	磁器	灰落し	5.2	[6.1]	—	I	25	良好	灰白	SK10	肥前系 外面青磁釉	
13	磁器	徳利	—	[11.4]	6.6	—	45	良好	白	SK10	肥前系 外面施釉・染付 接点ない上下 破片から図上復元	
14	陶器	灯明皿	7.9	1.4	3.9	IK	100	良好	黄灰	SK10	瀬戸美濃系 柿釉	41-1
15	陶器	灯明皿	7.9	1.8	4.1	HI	100	良好	灰白	SK10	瀬戸美濃系 柿釉 外面下位重焼痕	41-1
16	陶器	灯明皿	10.8	2.1	4.6	K	95	良好	にぶい黄橙	SK10	瀬戸美濃系 柿釉 外面下位重焼痕	
17	磁器	餌入れ	4.2	2.5	3.1	—	100	良好	灰白	SK10	肥前系 型成形 施釉	41-2
18	陶器	碗	—	[2.8]	3.1	K	70	良好	灰白	SK10	瀬戸美濃系 施釉	
19	陶器	徳利	—	[8.9]	—	IK	20	良好	灰白	SK10	瀬戸美濃系 外面灰釉	41-3
20	陶器	徳利	—	[17.4]	11.0	K	80	良好	灰白	SK10	瀬戸美濃系 外面灰釉 下位ふきとり	
21	陶器	鍋	16.5	8.2	(7.0)	DH	85	良好	灰白	SK10	柿釉 内面ピン痕1遺存 底部煤付着	41-4
22	土師質土器	火鉢	—	[4.6]	13.6	AHK	70	普通	にぶい橙	SK10	底部ヘラナゲ 胎土粉質	
23	瓦質土器	十能	長 [20.7] 幅 [17.3] 高 [5.7]			CIK	50	普通	黄灰	SK10	底面シワ状痕 煤多量に付着	
24	土師質土器	蓋	6.5	1.2	5.7	ACDJ	100	普通	にぶい橙	SK10	胎土粉質 焼塩壺	41-5
25	磁器	徳利	—	1.8	(4.8)	—	5	良好	白	SK11	肥前系 外面施釉・染付 被熱	
26	陶器	香炉	(9.4)	3.9	(5.8)	IK	20	良好	灰白	SK11	瀬戸美濃系 外面灰釉 被熱	41-6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
27	磁器	火鉢	(13.4)	14.2		—	40	良好	白	SK11	肥前系 施釉 外面染付 被熱	41-7
28	陶器	徳利	—	[10.4]	7.5	D	40	良好	灰白	SK11	瀬戸美濃系 外面柿釉 被熱	
29	瓦質土器	火鉢	18.0	8.4	12.2	CEIK	75	普通	橙	SK11	底部ヘラナデ やや酸化炎焼成 被熱	41-8
30	瓦質土器	火鉢	16.1	8.5	12.7	CEFG	95	普通	にぶい橙	SK11	砂目底をナデ消し 被熱	41-9
31	磁器	蓋	3.7	3.1	10.1	—	55	良好	白	SK12・13	肥前系 施釉 染付	41-10
32	磁器	碗	(11.4)	[5.4]	—	—	20	良好	灰白	SK12・13	肥前系 施釉 (外面青磁釉) 内面染付	
33	瓦質土器	焙烙	(36.6)	6.0	(33.6)	CHIK	15	普通	にぶい橙	SK12・13	底部シワ状痕 やや酸化炎焼成 外面煤付着	
34	磁器	猪口	(7.1)	5.9	(4.8)	—	20	良好	白	SK14	肥前系 施釉 外面染付	41-11
35	瓦質土器	焙烙	(29.0)	4.3	(24.0)	CHIK	15	普通	にぶい橙	SK14	砂目底 やや酸化炎焼成 外面煤付着	
36	磁器	皿	(13.5)	2.8	(8.4)	—	20	良好	白	SK19	肥前系 施釉 染付 激しく被熱	
37	陶器	仏飯器	—	[1.7]	(5.0)	I	50	良好	灰白	SK20	瀬戸美濃系 外面灰釉 被熱	
38	磁器	皿	(14.3)	3.4	8.2	—	70	良好	白	SK21	肥前系 施釉 染付	41-13
39	磁器	蓋	5.8	[1.6]	—	—	5	良好	灰白	SK22	肥前系 施釉 染付 被熱	42-1
40	磁器	皿	(14.4)	2.9	(9.8)	—	10	良好	白	SK22	肥前系 施釉 染付 被熱	
41	陶器	香炉	11.4	6.8	6.4	K	80	普通	灰黄	SK22	瀬戸美濃系 外面灰釉・摺絵 被熱	42-5
42	磁器	碗	9.8	5.6	3.9	—	55	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 外面コンニャク印版染付 被熱 煤付着	
43	磁器	碗	9.2	5.1	4.0	—	85	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
44	磁器	碗	8.8	5.7	3.2	—	80	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 (外面青磁釉) 内面染付 被熱	42-2
45	磁器	碗	(8.5)	4.4	3.1	—	65	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付	42-3
46	磁器	碗	(9.4)	[4.1]	—	—	45	良好	白	SK23	肥前系 施釉 外面コンニャク印版染付 被熱 歪み 煤付着	
47	磁器	碗	10.7	5.1	4.4	—	70	良好	白	SK23	肥前系 施釉 内面蛇ノ目釉剥 外面染付 被熱	42-4
48	磁器	碗	(7.8)	3.8	(2.8)	—	45	良好	白	SK23	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
49	磁器	坏	(8.5)	[3.5]	—	—	60	良好	白	SK23	肥前系か 施釉 上絵付 (赤) 被熱	42-6
50	磁器	蓋	5.3	2.7	(10.1)	—	55	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱 煤付着	
51	磁器	蓋	5.4	2.9	(10.9)	—	30	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 少量煤付着	
52	磁器	蓋	4.9	2.3	9.3	—	55	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 染付 僅かに煤付着	42-7
53	磁器	蓋	5.6	2.8	(9.8)	—	30	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付	
54	磁器	碗	(11.4)	5.7	5.7	—	55	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 弱く被熱	
55	磁器	碗	(11.8)	6.0	(6.2)	—	25	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 弱く被熱	
56	磁器	碗	(12.2)	[4.3]	—	—	10	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱	
57	磁器	碗	—	[3.8]	(6.4)	—	25	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱 56 と同一個体か	
58	磁器	猪口	(6.8)	[4.6]	—	—	20	良好	白	SK23	肥前系 施釉 被熱	
59	磁器	碗	(6.5)	5.1	(3.2)	—	45	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱	
60	磁器	碗	(6.9)	5.7	3.9	—	30	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱	
61	磁器	碗	6.8	5.3	3.8	—	70	良好	白	SK23	肥前系 施釉 外面鉄釉掛分 口鏽 同文別個体2	42-8
62	磁器	坏	6.8	3.8	2.8	—	100	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 外面染付 被熱	42-9
63	磁器	蓋物	(7.1)	5.0	(3.8)	—	50	良好	白	SK23	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
64	磁器	坏	(7.9)	[4.6]	—	—	5	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 染付	
65	磁器	猪口	(7.4)	5.8	(4.6)	—	40	良好	白	SK23	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
66	磁器	猪口	(7.3)	5.5	(4.8)	—	25	良好	白	SK23	肥前系 施釉 外面染付	
67	磁器	皿	(10.2)	2.6	(6.0)	—	25	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 少量煤付着	
68	磁器	皿	(10.5)	1.9	(6.2)	—	30	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付	
69	磁器	皿	14.2	3.1	8.4	—	95	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 内面蛇ノ目釉剥 染付 被熱	42-10
70	磁器	皿	13.6	3.8	8.0	—	85	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱	42-11
71	磁器	皿	(13.9)	3.8	8.3	—	70	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 激しく被熱	42-12
72	磁器	皿	14.0	3.7	8.8	—	50	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 染付 少量煤付着	42-13
73	磁器	皿	(13.5)	3.8	8.6	—	45	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 染付 少量煤付着 同文別個体1あり	43-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
74	磁器	皿	(13.8)	2.6	(8.0)	—	25	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱	
75	磁器	皿	(13.7)	[2.2]	—	—	70	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱	
76	磁器	皿	(13.8)	3.7	(8.8)	—	40	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 同文別個体1あり	
77	磁器	皿	(24.6)	4.3	13.6	—	35	良好	灰白	SK23	肥前系 施釉 染付 高台内ハリ支痕 弱く被熱 煤付着	
78	磁器	皿	—	[2.7]	11.8	—	60	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 高台内ハリ支痕 3同文別個体1 弱く被熱	
79	磁器	皿	—	[1.0]	(8.6)	—	25	良好	白	SK23	肥前系 施釉 染付 被熱	
80	磁器	皿	(32.3)	[4.1]	—	—	30	良好	白	SK23	肥前系 施釉 内面染付	
81	磁器	香炉	15.1	7.3	(5.4)	IK	45	良好	灰白	SK23	肥前系 外面青磁釉 脚欠失	
82	陶器	碗	(11.6)	[5.5]	—	IK	35	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 鉄釉 外面長石釉散らし 拳骨茶碗	43-2
83	陶器	碗	(9.6)	5.4	(4.0)	K	30	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 灰釉 外面鉄絵 被熱	
84	陶器	碗	(9.0)	[4.2]	—	—	25	良好	灰白	SK23	京都信楽系 施釉	
85	陶器	碗	—	[2.6]	(3.5)	H	30	良好	淡黄	SK23	京都信楽系 施釉 小杉碗	
86	陶器	碗	(11.3)	4.5	(4.5)	EIK	30	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 灰釉 内面呉須絵 被熱	43-3
87	陶器	碗	(9.1)	5.6	3.7	IK	45	良好	灰白	SK23	京都信楽系 施釉 被熱	
88	陶器	碗	(9.4)	[4.2]	—	K	10	良好	灰白	SK23	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 小杉碗	
89	陶器	碗	(10.0)	[4.9]	—	K	30	良好	灰黄褐	SK23	施釉 口縁部ウノフ釉 胎土硬質	43-4
90	陶器	灯明皿	(10.8)	1.7	(4.7)	EK	45	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 柿釉 重焼痕	
91	陶器	皿	(26.8)	5.6	13.2	EIK	40	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 灰釉 内面鉄絵・目跡3 底部墨書 馬目皿	43-5
92	陶器	灯明皿	7.2	1.3	3.7	K	95	良好	にぶい黄橙	SK23	瀬戸美濃系 柿釉 外面重焼痕	43-6
93	陶器	灯明皿	10.7	2.4	4.9	—	95	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 柿釉 全体煤付着	43-6
94	陶器	灯明皿	10.4	2.5	(4.6)	—	85	良好	灰褐	SK23	志戸呂系 鉄釉 全体煤付着	43-7
95	陶器	片口鉢	(18.0)	[7.5]	—	EIK	25	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	
96	陶器	花生	5.4	[9.0]	—	K	80	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 外面灰・鉄釉上下掛分	43-8
97	陶器	土瓶	(7.0)	[3.4]	—	K	10	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 灰釉	
98	陶器	徳利	—	[23.3]	(12.8)	EIK	20	良好	灰白	SK23	瀬戸美濃系 外面鉄釉(にぶい赤褐色) 被熱 内面煤付着	
99	陶器	蓋	—	1.6	3.2	K	100	良好	灰	SK23	瀬戸美濃系 外面鉄釉 手びねり ミニチュアか	43-9
100	陶器	播鉢	(34.0)	13.3	(17.4)	DEIK	15	良好	にぶい赤褐	SK23	堺明石系 内面播目	
101	陶器	播鉢	(34.2)	13.9	(14.4)	DEGIK	25	良好	赤	SK23	堺明石系 底部一方向ヘラナデ 内面播目	
102	陶器	播鉢	(31.2)	11.5	(15.8)	DEGI	50	良好	赤褐	SK23	堺明石系 底部回転ヘラナデ 内面播目	
103	陶器	播鉢	(35.0)	[13.2]	—	DEK	60	良好	赤	SK23	堺明石系 内面播目	
104	陶器	播鉢	(36.8)	13.6	(20.0)	GI	40	良好	赤褐	SK23	堺明石系 底部ヘラナデ 内面播目	
105	瓦質土器	焙烙	(38.4)	5.2	(36.8)	CFIK	60	普通	灰	SK23	底部シワ状痕 弱く燻す	
106	瓦質土器	火鉢	—	[10.9]	(21.7)	CFHIK	45	普通	明褐灰	SK23	底部シワ状痕 やや酸化炎焼成 被熱	
107	瓦質土器	火鉢	—	[4.5]	—	CHIK	5	良好	にぶい橙	SK23	やや酸化炎焼成 被熱	
108	かわらけ	小皿	(9.0)	1.3	(5.0)	HIK	40	普通	橙	SK23	底部糸切痕(左) 被熱 赤化	
109	瓦質土器	火鉢	縦8.7 横9.1 高0.5~0.8			CFI	5	普通	灰黄褐	SK23	砂目底 脚部痕跡遺存 内面煤付着 円盤状製品転用(底部)	
110	磁器	碗	9.0	4.7	3.8	—	70	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付	
111	磁器	碗	8.7	4.7	3.8	—	75	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 被熱	43-10
112	磁器	碗	(9.7)	5.1	4.0	—	60	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
113	磁器	碗	9.6	5.6	4.0	—	95	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉 外面染付	43-11
114	磁器	碗	(10.2)	5.5	4.4	—	60	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
115	磁器	碗	(9.2)	5.0	(3.9)	—	30	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 弱く被熱	
116	磁器	碗	(9.9)	5.4	4.0	—	40	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
117	磁器	碗	9.9	5.1	(3.8)	—	65	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
118	磁器	碗	(9.6)	4.9	4.0	—	60	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉 外面染付	
119	磁器	碗	(9.4)	5.0	(3.8)	—	35	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 弱く被熱	
120	磁器	碗	(9.2)	[3.1]	—	—	25	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
121	磁器	碗	(10.0)	5.0	4.3	—	45	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 弱く被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
122	磁器	碗	(13.4)	[5.0]	—	—	15	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉 外面染付	
123	磁器	碗	(12.8)	6.2	5.0	—	45	良好	白	SK24	肥前系 施釉 内面蛇ノ目釉剥・染付被熱	
124	磁器	碗	11.4	6.3	4.5	—	60	良好	白	SK24	肥前系 施釉(外面青磁釉) 染付	43-12
125	磁器	蓋	3.5	2.7	9.3	—	55	良好	白	SK24	肥前系 施釉(外面青磁釉) 染付 被熱	43-12
126	磁器	蓋	4.0	2.9	(9.5)	—	60	良好	白	SK24	肥前系 施釉(外面青磁釉) 染付	43-13
127	磁器	碗	(11.4)	6.4	4.3	—	30	良好	灰白	SK24	肥前系 施釉(外面青磁釉) 内面染付弱く被熱	43-13
128	磁器	蓋物	(9.4)	[6.8]	—	—	25	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 被熱	43-14
129	磁器	猪口	7.4	5.4	4.6	—	75	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付 煤付着	44-1
130	磁器	猪口	(7.8)	5.6	4.6	—	45	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付	
131	磁器	猪口	(7.8)	5.8	(5.0)	—	35	良好	白	SK24	肥前系 施釉 外面染付	
132	磁器	猪口	(7.0)	5.7	4.9	—	40	良好	白	SK24	肥前系 施釉	
133	磁器	猪口	7.3	5.6	4.6	—	30	良好	白	SK24	肥前系 施釉 弱く被熱	
134	磁器	碗	(7.2)	6.0	3.3	—	75	良好	白	SK24	肥前系 施釉 口縁部波状 被熱	44-2
135	磁器	碗	(8.0)	[4.9]	—	—	20	良好	白	SK24	肥前系 施釉(外面青磁釉) 内面染付被熱	44-3
136	磁器	皿	9.9	2.4	5.4	—	70	良好	白	SK24	肥前系 施釉 染付	44-4
137	磁器	皿	(14.1)	[3.6]	—	—	15	良好	白	SK24	肥前系 施釉 染付 口紅 被熱	44-5
138	磁器	皿	—	[3.2]	(7.0)	—	10	良好	白	SK24	肥前系 施釉 染付	
139	磁器	皿	9.2	2.1	4.6	—	75	良好	白	SK24	肥前系 型成形 施釉 染付(内面型紙摺絵染付) 被熱	
140	磁器	皿	—	[2.0]	(4.7)	—	35	良好	白	SK24	肥前系 施釉 染付 被熱	
141	陶器	碗	9.5	5.5	4.2	I	95	良好	灰白	SK24	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	44-6
142	陶器	碗	(9.0)	[5.2]	—	K	25	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤) 被熱	44-7
143	陶器	碗	(8.8)	5.6	2.7	I	50	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤・緑)	44-8
144	陶器	碗	(9.8)	5.7	3.0	IK	40	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤) 被熱	
145	陶器	碗	(9.3)	[4.4]	—	K	20	良好	灰黄	SK24	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤) 被熱	44-9
146	陶器	碗	(10.2)	5.3	(3.4)	K	20	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤・緑)	44-10
147	陶器	碗	(9.0)	5.0	(3.0)	K	20	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 胎土磁質被熱	44-11
148	陶器	碗	(8.8)	[4.9]	—	H	20	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面呉須絵・鉄絵被熱	44-12
149	陶器	碗	—	[4.7]	3.1	I	40	良好	灰白	SK24	京都信楽系か 施釉 弱く被熱	
150	陶器	碗	9.0	[4.5]	—	DK	70	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面色絵(青・白・鉄絵) 弱く被熱	45-1
151	陶器	碗	(8.4)	[4.8]	—	K	30	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 被熱	
152	陶器	碗	(7.8)	[5.6]	—	H	60	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 被熱	
153	陶器	碗	(9.6)	(5.3)	3.9	HK	45	良好	灰白	SK24	京都信楽系か 施釉 接点ない 上下破片から図上復元	
154	陶器	坏	6.6	3.7	2.4	I	55	良好	灰白	SK24	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤・緑) 被熱	45-2
155	陶器	鉢	(21.2)	6.6	8.0	EK	45	良好	灰白	SK24	瀬戸美濃系 灰釉 激しく被熱	45-3
156	陶器	徳利	—	[9.5]	(7.4)	E	45	良好	灰白	SK24	瀬戸美濃系 外面灰釉 激しく被熱	
157	陶器	油徳利	1.9	[8.9]	—	DE	75	良好	灰	SK24	瀬戸美濃系 外面柿釉 被熱	
158	土師質土器	火鉢	(20.1)	(14.5)	(17.0)	AHIK	10	普通	浅黄橙	SK24	底部シワ状痕 胎土粉質 被熱 接点ない 上下破片から図上復元	
159	瓦質土器	火鉢	(21.8)	17.7	19.7	CHIK	80	普通	橙	SK24	底部シワ状痕をナゲ消し 獣面把手の孔は貫通せず	45-4
160	瓦質土器	焙烙	—	[0.7]	—	DEH	5	普通	浅黄橙	SK24	底部シワ状痕・平底 内面刻印「大極上」	
161	瓦質土器	火鉢	—	[4.7]	(26.8)	CDEH	5	普通	橙	SK24	被熱(赤化)	
162	瓦質土器	蓋	18.1	[2.5]	—	CHIK	80	普通	にぶい橙	SK24	上面シワ状痕 被熱 火消壺	
163	土師質土器	焙烙	(32.7)	5.0	(26.9)	ADEHIK	5	普通	橙	SK24	黒化	
164	瓦質土器	焙烙	(38.3)	4.7	(36.0)	CDHIK	20	普通	灰白	SK24	底部シワ状痕 やや酸化炎焼成 被熱か	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
165	磁器	皿	14.0	4.1	8.0	—	30	普通	白	SK24	肥前系 施釉 染付 被熱	
166	磁器	碗	—	[2.2]	—	—	5	良好	白	SK25・33	肥前系 施釉 外面上絵付(赤・緑)	45-5
167	磁器	碗	(9.7)	4.9	(3.4)	—	75	良好	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付	45-6
168	磁器	碗	9.9	5.4	3.8	—	60	普通	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付 SK33	45-7
169	磁器	碗	10.1	5.2	4.0	—	90	良好	灰白	SK25・33	肥前系 施釉 外面染付 少量煤付着 SK25・42 接合	
170	磁器	碗	(8.7)	4.7	(3.8)	—	60	良好	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付 被熱 煤付着 SK25	
171	磁器	碗	(12.0)	[5.5]	—	—	10	普通	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付 SK33	45-8
172	磁器	碗	(12.0)	[5.3]	—	—	10	普通	灰白	SK25・33	肥前系 施釉(外面青磁釉) 内面染付 同文別個体1 SK25	
173	磁器	碗	(7.9)	6.3	3.9	—	60	良好	灰白	SK25・33	肥前系 施釉(外面青磁釉) 内面染付 被熱	
174	磁器	碗	(8.0)	[6.6]	(4.4)	—	40	良好	白	SK25・33	肥前系 施釉(外面青磁釉) 内面染付 同文別個体1 以上 弱く被熱 SK25	
175	磁器	猪口	(7.0)	6.3	(4.8)	—	30	良好	白	SK25・33	肥前系 施釉 外面染付 弱く被熱 SK33	
176	磁器	猪口	(7.8)	6.1	(5.4)	—	25	良好	灰白	SK25・33	肥前系 施釉 外面染付 少量煤付着 SK33	
177	磁器	猪口	(7.4)	5.7	(5.4)	—	30	普通	白	SK25・33	肥前系 施釉 外面染付 被熱 SK33	
178	磁器	皿	(10.0)	2.3	(4.4)	—	20	良好	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付 SK25	
179	磁器	皿	(11.0)	[1.8]	(6.7)	—	50	良好	灰白	SK25・33	肥前系 施釉 染付 同文別個体2 以上 SK33	
180	磁器	皿	13.3	3.8	7.9	—	85	普通	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付 SK25	
181	磁器	皿	(13.6)	3.6	8.0	—	60	不良	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付	
182	磁器	皿	(14.0)	4.3	8.0	—	35	良好	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付 SK33	
183	磁器	皿	(13.2)	3.8	(7.6)	—	20	良好	白	SK25・33	肥前系 施釉 染付 弱く被熱 SK33	
184	磁器	皿	13.8	3.0	7.5	—	95	良好	灰白	SK25・33	肥前系 施釉 内面染付 同文別個体1	45-9
185	陶器	灯明皿	(10.2)	2.3	(4.6)	K	30	普通	浅黄	SK25・33	瀬戸美濃系 柿釉 外面重焼痕 SK25	
186	磁器	仏飯器	—	[2.5]	4.1	K	50	良好	灰白	SK25・33	肥前系 外面施釉・色絵(赤) SK33	45-10
187	陶器	碗	(9.6)	5.1	(4.0)	K	40	良好	灰白	SK25・33	瀬戸美濃系 灰釉 外面鉄釉流掛 SK33	45-11
188	陶器	碗	(9.0)	[3.8]	—	I	5	良好	灰白	SK25・33	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤・緑) SK33	45-12
189	陶器	碗	(7.8)	[5.4]	—	I	15	良好	黄灰	SK25・33	瀬戸美濃系 施釉・口縁部鉄釉 SK25	45-13
190	陶器	皿	(26.2)	[1.3]	—	DK	5	良好	灰白	SK25・33	瀬戸美濃系 灰釉 SK25	
191	陶器	皿	—	2.5	(6.4)	K	15	良好	灰白	SK25・33	京都信楽系 施釉 外面上位鉄絵 SK33	
192	陶器	鉢	—	[2.9]	(12.0)	GK	30	良好	にぶい黄褐	SK25・33	肥前系 施釉 内面像嵌(三島手)・目 跡(砂) SK33	45-14
193	陶器	鉢	(32.2)	10.6	14.5	HIK	40	普通	灰黄	SK25・33	底部糸切痕 瀬戸美濃系 灰釉・目跡 内面鉄絵 SK33	45-15
194	陶器	播鉢	(31.3)	11.4	(13.8)	IKL	25	不良	赤	SK25・33	備前系か 内面播目 SK33	
195	陶器	播鉢	—	[6.0]	—	EHIK	5	普通	灰白	SK25・33	瀬戸美濃系 柿釉 内面播目 SK33	
196	陶器	香炉	(13.6)	[8.8]	(10.8)	DIK	20	普通	灰白	SK25・33	瀬戸美濃系 底部糸切痕 灰釉 SK33	
197	陶器	瓶類	—	[8.4]	(14.0)	G	30	良好	灰黄	SK25・33	瀬戸美濃系 底部糸切痕 外面鉄釉 SK33	
198	陶器	徳利	—	[7.6]	—	HIK	25	良好	灰黄	SK25・33	瀬戸美濃系 外面灰釉 SK33	
199	瓦質土器	香炉	(8.4)	7.4	(9.5)	AEI	30	普通	黄灰	SK25・33	底部刻印 外面ミガキ・施文 全体黒化	46-1
200	瓦質土器	火鉢	(27.6)	[8.0]	—	CEHI	15	普通	にぶい黄橙	SK25・33	やや酸化炎焼成 内面煤付着・火箸傷 状痕跡あり SK25	
201	瓦質土器	火鉢	—	[9.8]	(24.0)	CEHIK	5	普通	灰黄	SK25・33	底部シワ状痕 やや酸化炎焼成 内面火 箸傷状痕跡あり SK33	
202	瓦質土器	蓋	—	6.5	(23.0)	FCIK	60	普通	褐灰	SK25・33	外面ケズリ後ミガキ SK33	46-2
203	瓦質土器	焜炉	—	4.3	—	CEI	5	良好	にぶい橙	SK25・33	口縁部～窓部破片 外面ミガキ SK25	
204	瓦質土器	火消壺	16.7	21.4	16.8	KIHC	70	普通	明褐灰	SK25・33	砂目底 外面ミガキ 燻す SK33	46-2
205	かわらけ	小皿	8.8	2.3	6.0	CGHI	80	普通	灰白	SK25・33	底部糸切痕(左) 胎土砂質 口縁部煤 付着 SK25	46-3
206	かわらけ	小皿	(9.2)	1.6	(3.4)	ACI	25	普通	明赤褐	SK25・33	底部糸切痕 SK25	
207	瓦質土器	焙烙か	—	[2.1]	—	CHI	5	普通	灰白	SK25・33	燻す 円盤状製品転用 4.7g SK25	46-4

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
208	磁器	碗	9.6	5.4	3.8	I	80	良好	灰白	SK26	肥前系 施釉 外面染付 SK50 と接合	46-5
209	磁器	坏	(7.7)	3.5	3.0	K	50	良好	白	SK26	肥前系 施釉 染付	
210	陶器	坏	6.6	3.9	3.2	—	100	普通	浅黄橙	SK26	瀬戸美濃系 灰釉 煤付着	46-6
211	瓦質土器	焜炉	(33.0)	24.3	(26.6)	CEI	50	普通	黒	SK26	SK50 接合 底部シワ状痕 外面ミガキ 内面煤付着	46-7
212	瓦質土器	火鉢	—	[6.0]	23.7	CHIK	35	普通	灰白	SK26	底部シワ状痕 内底面墨書	46-8
213	土師質土器	焙烙	(31.8)	[6.4]	(32.0)	AGHI	45	普通	にぶい褐	SK26	砂目底 胎土粉質 煤付着	
214	磁器	碗	(7.2)	[4.5]	(3.2)	—	30	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
215	磁器	碗	(7.8)	4.3	2.8	—	55	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
216	磁器	碗	7.4	4.1	3.0	—	60	普通	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
217	磁器	碗	9.2	4.4	3.9	—	25	普通	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
218	磁器	碗	(9.7)	5.4	(3.8)	—	30	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
219	磁器	碗	10.0	4.8	4.0	—	60	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
220	磁器	碗	(9.8)	5.2	(3.8)	—	50	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
221	磁器	碗	9.9	5.0	3.9	—	30	普通	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
222	磁器	碗	9.4	5.3	3.9	—	40	普通	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付	
223	磁器	碗	(9.8)	[3.9]	—	—	20	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
224	磁器	碗	(9.8)	[4.4]	—	—	20	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 弱く被熱	
225	磁器	碗	9.7	4.8	4.0	—	50	普通	白	SK27	肥前系 施釉 染付 被熱 煤付着	
226	磁器	碗	—	[6.1]	(4.6)	—	35	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
227	磁器	碗	(11.5)	[5.1]	—	—	25	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
228	磁器	碗	12.8	5.7	4.6	—	80	良好	白	SK27	肥前系 施釉 内面蛇ノ目釉剥・染付 被熱	
229	磁器	碗	8.3	3.9	3.2	—	90	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付・色絵(赤) 被 熱	46-9
230	磁器	碗	(9.6)	4.9	4.0	—	40	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
231	磁器	碗	(9.0)	[3.4]	—	—	30	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
232	磁器	碗	(9.5)	[4.4]	—	—	30	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 弱く被熱	
233	磁器	碗	(9.7)	[3.9]	—	—	30	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
234	磁器	蓋	3.9	3.2	(9.6)	—	65	良好	白	SK27	肥前系 施釉(外面青磁釉) 染付 被熱	
235	磁器	碗	(11.8)	6.2	(5.2)	—	30	良好	白	SK27	肥前系 施釉(外面青磁釉) 染付 被熱 同文別個体1	
236	磁器	坏	(6.7)	4.1	2.9	—	60	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱 SK24 接合	
237	磁器	坏	8.2	5.9	3.5	—	55	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	46-10
238	磁器	坏	(7.7)	6.0	(4.0)	—	40	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱 同文別個 体1	46-11
239	磁器	猪口	7.2	5.5	4.0	—	50	普通	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱 SK24 接合	
240	磁器	坏	7.0	5.9	3.2	—	80	良好	白	SK27	肥前系 施釉 口縁部輪花状 弱く被熱	46-12
241	磁器	坏	7.3	6.0	3.3	—	80	良好	白	SK27	肥前系 施釉 口縁部輪花状 弱く被熱	
242	磁器	坏	7.0	5.8	3.4	—	55	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 口縁部輪花状 被熱 同形 別個体1 SK24 接合	
243	磁器	猪口	(7.0)	6.7	(4.9)	—	80	良好	白	SK27	肥前系 施釉 被熱	
244	磁器	猪口	7.0	5.7	5.1	—	90	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	46-13
245	磁器	猪口	7.0	5.6	5.0	—	30	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
246	磁器	猪口	(7.5)	5.8	5.1	—	45	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 弱く被熱	
247	磁器	猪口	(7.1)	5.8	(5.5)	—	40	良好	白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
248	磁器	猪口	7.2	[5.2]	—	—	5	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
249	磁器	猪口	7.0	[5.4]	—	—	10	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
250	磁器	皿	9.2	2.1	4.4	—	70	良好	白	SK27	肥前系 施釉 染付 被熱 同文別個体2	
251	磁器	皿	9.0	2.2	4.7	—	50	良好	白	SK27	肥前系 施釉 染付 被熱	
252	磁器	皿	—	2.0	—	—	15	良好	白	SK27	肥前系 施釉 染付 被熱	
253	磁器	皿	(12.4)	3.5	(7.2)	—	30	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 染付 被熱	
254	磁器	皿	9.0	2.4	5.1	—	60	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 染付 被熱	
255	磁器	皿	(8.2)	1.5	3.4	—	30	普通	灰白	SK27	肥前系 施釉 内面染付 被熱	
256	磁器	皿	(8.4)	1.9	(3.6)	—	25	良好	灰白	SK27	肥前系 施釉 被熱	
257	磁器	皿	(18.9)	3.0	(12.0)	—	30	良好	白	SK27	肥前系 施釉 染付 被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
258	磁器	皿	(14.1)	3.9	(8.0)	—	20	普通	灰白	SK27	肥前系 施釉 染付	
259	磁器	徳利	—	[10.3]	(8.0)	—	10	良好	灰白	SK27	肥前系 外面施釉・染付 被熱	
260	磁器	徳利	—	[5.1]	—	—	20	良好	白	SK27	肥前系 外面施釉・染付 被熱	
261	陶器	碗	(9.7)	5.4	3.6	I	40	普通	灰白	SK27	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 弱く被熱 同文別個体2	46-14
262	陶器	碗	(10.0)	[4.5]	—	I	5	良好	灰白	SK27	京都信楽系 施釉 外面鉄絵	
263	陶器	碗	(9.4)	4.5	(3.8)	HI	45	普通	灰白	SK27	瀬戸美濃系 灰釉 外面鉄絵・呉須絵 被熱	47-1
264	陶器	碗	(9.8)	5.3	2.9	—	25	良好	灰白	SK27	京都信楽系 施釉 被熱	
265	陶器	碗	(8.7)	[3.9]	—	I	15	良好	灰白	SK27	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤・緑) 被熱	
266	陶器	碗	(8.9)	5.7	2.9	—	50	良好	灰白	SK27	京都信楽系 施釉 上絵付(赤・緑か) 被熱	47-2
267	陶器	碗	(10.0)	[3.8]	—	—	15	良好	灰白	SK27	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 弱く被熱	
268	陶器	碗	8.8	4.5	3.7	—	55	普通	にぶい黄橙	SK27	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 弱く被熱 同文別個体1あり	47-3
269	陶器	碗	10.2	5.1	4.0	—	80	良好	灰白	SK27	瀬戸美濃系 灰・鉄釉掛分 被熱 同文 別個体1	
270	陶器	碗	10.0	5.1	3.1	I	85	普通	黄灰	SK27	瀬戸美濃系 灰・鉄釉掛分	47-4
271	陶器	碗	10.3	5.0	3.7	I	60	普通	灰黄	SK27	瀬戸美濃系 灰・鉄釉掛分 弱く被熱	
272	陶器	碗	9.5	5.2	4.2	K	50	良好	灰白	SK27	瀬戸美濃系 灰・鉄釉掛分 口縁部歪み	
273	陶器	坏	(7.1)	4.4	3.3	I	40	普通	灰オリーブ	SK27	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	
274	陶器	皿	—	3.4	5.5	IK	30	良好	灰白	SK27	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	47-5
275	陶器	皿	—	[3.7]	5.4	HK	60	普通	灰白	SK27	瀬戸美濃系 灰釉	47-6
276	陶器	灯明皿	(10.5)	[2.0]	—	I	20	良好	明褐灰	SK27	瀬戸美濃系 柿釉 重焼痕 被熱	
277	陶器	鉢	—	[1.4]	7.9	H	30	普通	灰黄	SK27	瀬戸美濃系 長石釉 高台内目跡	
278	陶器	蓋	—	[1.7]	3.3	K	75	良好	灰白	SK27	瀬戸美濃系 上面鉄釉	
279	陶器	徳利	—	[11.6]	—	DI	20	良好	黄灰	SK27	瀬戸美濃系 外面灰釉 被熱	
280	陶器	徳利	—	[12.7]	7.4	HI	30	普通	暗灰黄	SK27	瀬戸美濃系 外面灰釉 激しく被熱 煤 付着	
281	陶器	有耳壺	(6.8)	(14.0)	8.3	I	60	良好	灰白	SK27	SK24 接合 瀬戸美濃系 外面灰釉 被熱	
282	瓦質土器	火消壺	(18.0)	[9.7]	—	CEI	10	普通	にぶい赤褐	SK27	被熱(赤化)	
283	磁器	蓋	(3.8)	[3.0]	(10.0)	—	40	良好	白	SK28	肥前系 施釉(外面青磁釉) 内面染付	47-7
284	磁器	徳利	—	[4.9]	—	—	15	良好	白	SK28	肥前系 外面施釉・染付 「[御] 神前」	47-8
285	陶器	徳利	—	[16.4]	7.5	IK	40	普通	灰白	SK32	瀬戸美濃系 外面灰釉 下位〜底部ふき とり	47-9
286	磁器	蓋物	—	[3.5]	(4.0)	—	10	良好	白	SK35	肥前系 施釉 外面染付	
287	陶器	鉢	(26.0)	[7.3]	—	I	5	良好	灰白	SK35	瀬戸美濃系 灰釉 内面施文・緑釉流掛・ 目跡	
288	瓦質土器	焜炉	(27.6)	[5.4]	—	CEHI	20	普通	にぶい黄橙	SK35	外面ミガキ 窓部・内面煤付着	47-10
289	磁器	坏	(6.3)	3.6	2.5	—	65	不良	白	SK39	肥前系 施釉 外面染付	47-11
290	磁器	碗	—	[2.1]	—	—	5	良好	灰白	SK39	肥前系 施釉 外面色絵	47-12
291	磁器	碗	9.8	5.4	4.0	—	95	良好	白	SK42	肥前系 施釉 外面染付	47-13
292	磁器	蓋	—	[2.6]	(10.0)	—	5	良好	白	SK42	肥前系 施釉(外面青磁釉) 内面染付	
293	陶器	鉢	(16.6)	6.5	(10.0)	IK	20	良好	灰黄	SK42	瀬戸美濃系 錆釉(白斑入る) 体部凹 ます	47-14

第20号土壌 (第119図)

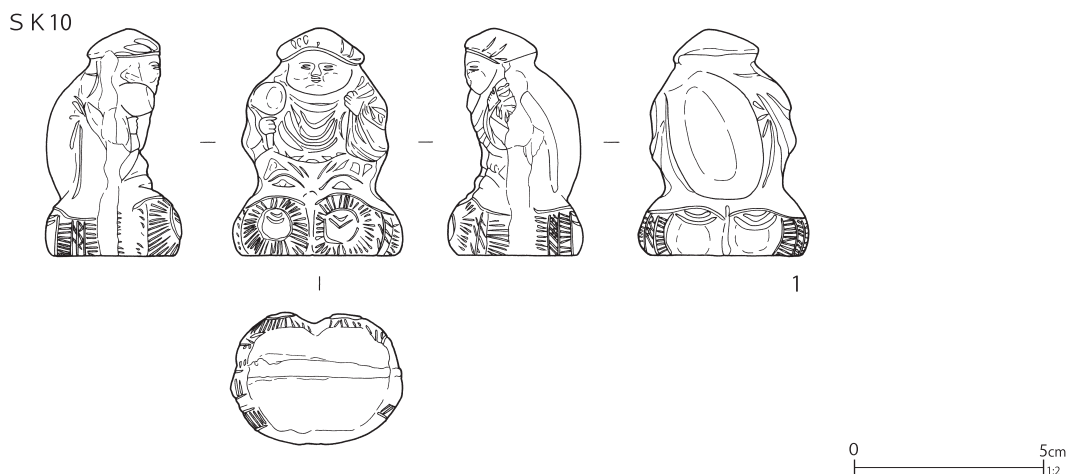
B5-I10・B6-I1グリッドに位置し、北側は調査区域外に延びる。重複する第11号埋設桶より新しい。調査区東壁断面から、浅間A火山灰よりも古いことが確認された。

検出範囲の長さが3.47mに及び、溝に近い平

面形である。断面形は逆台形である。覆土は確認できなかった。

図示しうる遺物はなかった。肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台皿、輪高台猪口、瀬戸美濃系陶器の腰錆碗などが出土している。

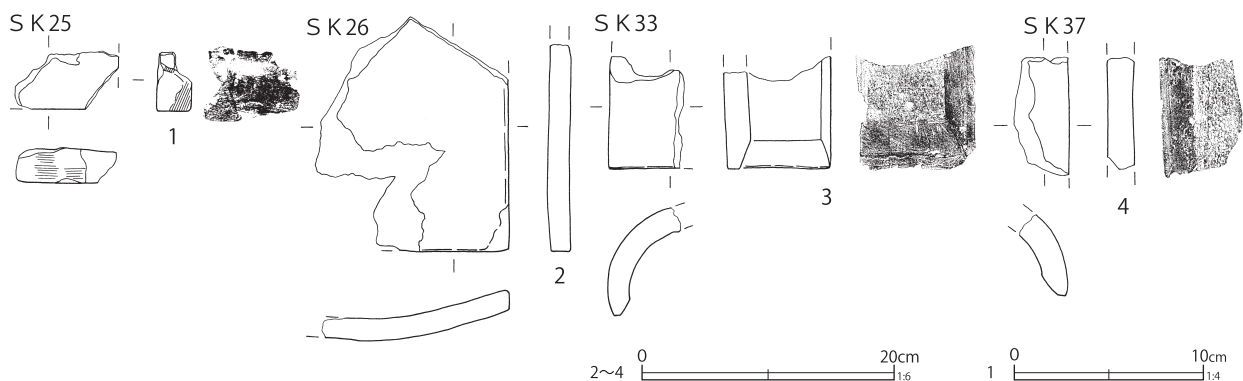
時期は、出土陶磁器から18世紀後半とみられる。



第141図 土壙出土遺物 (21)

第80表 土壙出土遺物観察表 (2) (141図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	人形	6.0	4.5	3.6	46.0	—	良好	明赤褐	SK10	大黒天 白色塗付物の痕跡 前後合型成形 江戸在地系	49-11



第142図 土壙出土遺物 (22)

第81表 土壙出土遺物観察表 (3) (142図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	不明	[3.0]	[5.5]	0.8	2.0	—	AK	良好	灰	SK25	転用 タール状の粒子が一部付着	50-11
2	瓦	平瓦	[18.6]	[15.6]	1.7	3.9	—	K	良好	灰	SK26	一部銀化 被熱	
3	瓦	丸瓦	[9.0]	[6.0]	1.8	8.5	—	AK	良好	灰	SK33		
4	瓦	丸瓦	[9.3]	[5.4]	2.0	[6.5]	—	K	良好	灰	SK37	銀化 被熱	

第21号土壙 (第119図)

B 5-I 10グリッドに位置する。西半は調査区外に延びる。調査区西壁で、第22号土壙より古いことが確認できた。

平面形は円形で、断面形は箱形である。

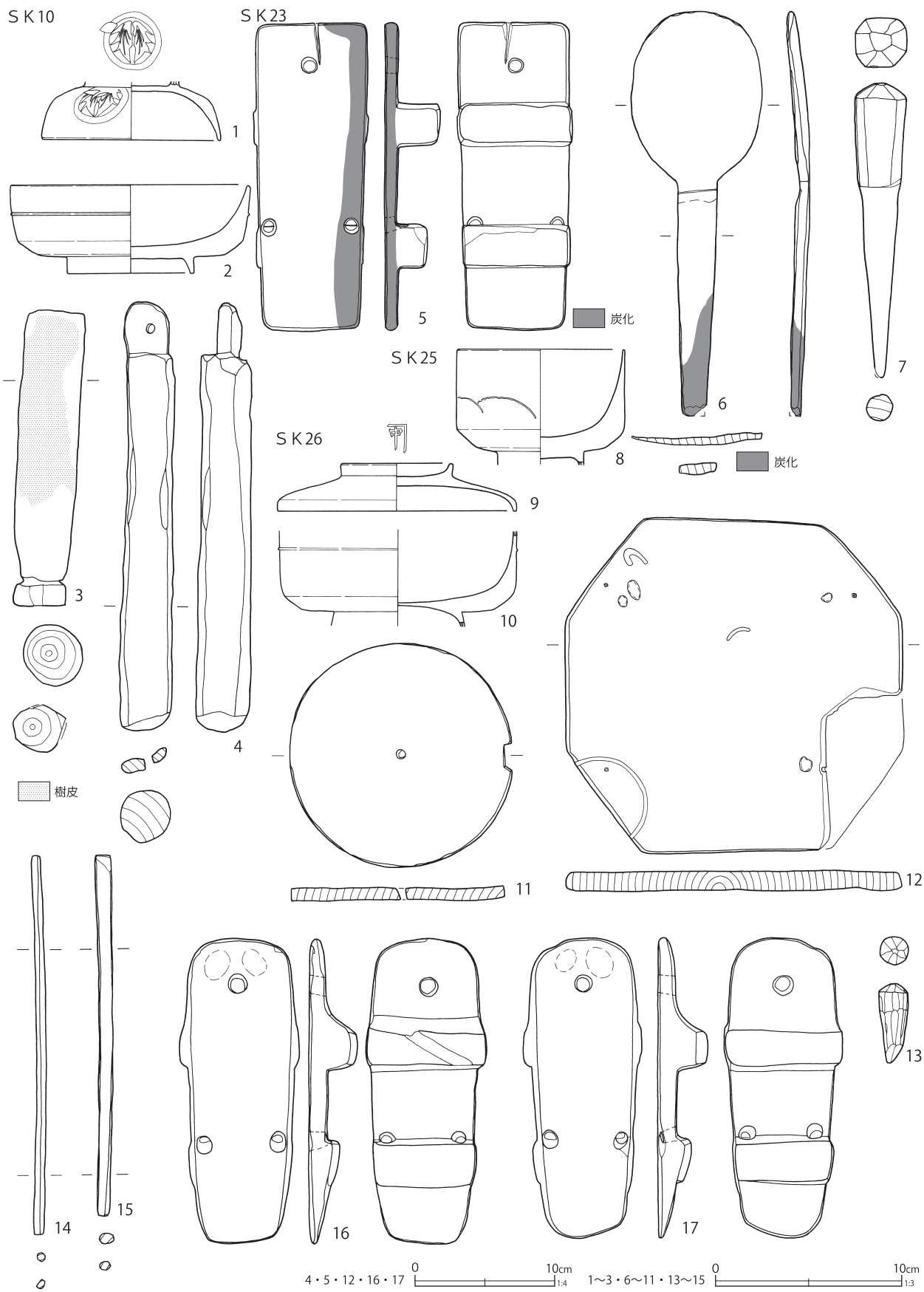
出土遺物はごく少ない。第123図38に肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台皿を示した。

金属製品は、第145図9に鉄鎌を示した。

時期は、重複関係から18世紀後葉以前の可能性がある。

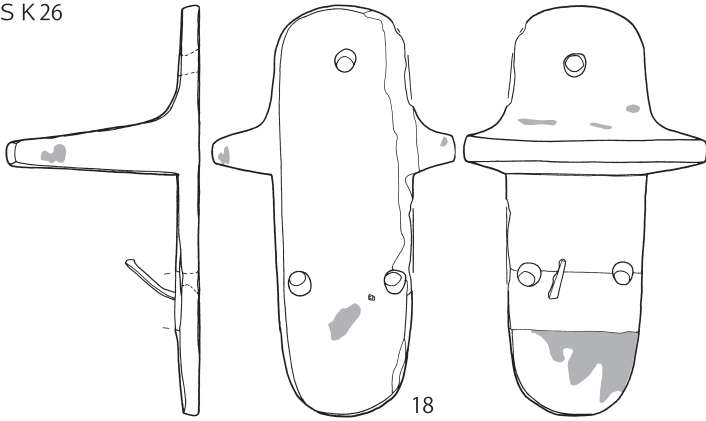
第22号土壙 (第119図)

B 5-I 10グリッドに位置し、西側は調査区外に延びる。第21・23・43号土壙と重複し、第21・23号土壙より新しい。



第143図 土壙出土遺物 (23)

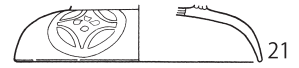
SK26



18

■ 黒漆

SK27

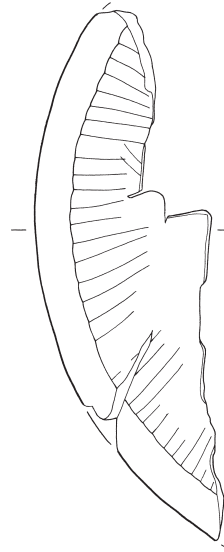


21

SK37

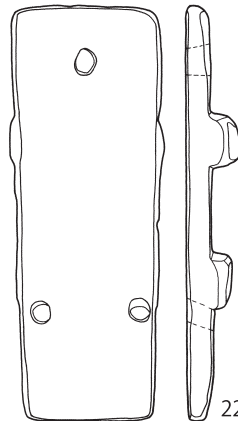


25

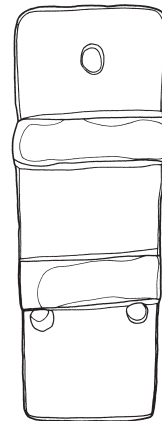


19

SK33



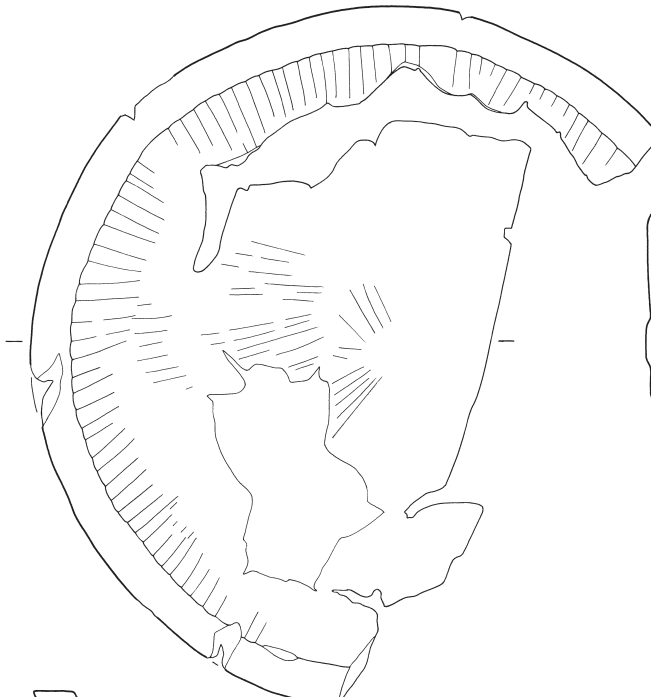
22



23



24



20

19・20 0 20cm 1/6

18・22・23 0 10cm 1/4

21・24・25 0 10cm 1/3

第144図 土壙出土遺物 (24)

第82表 土壌出土遺物観察表(4)(第143・144図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗蓋	—	—	—	9.4	[3.1]	—	横木取り	SK10	内面赤漆 外面黒漆 高台と外面家紋 プナ属	51-5
2	木製品	漆碗	—	—	—	12.5	4.7	6.8	横木取り	SK10	内外面黒漆 トチノキ	51-6
3	木製品	柄	15.8	3.2	3.3	—	—	—	芯持材	SK10		
4	木製品	建築材	30.6	3.8	3.8	—	—	—	柱目	SK10		
5	木製品	下駄	22.0	8.0	—	—	4.0	—	板目	SK23	連歯下駄 炭化 トネリコ属	51-7
6	木製品	杓子	21.6	6.9	0.5	—	—	—	柱目	SK23	一部炭化 クリ	51-8
7	木製品	栓	15.6	2.8	2.6	—	—	—	板目	SK23	スギ	
8	木製品	漆碗	—	—	—	8.8	[6.1]	—	横木取り	SK25	内外面黒漆 外面金で文様	51-9
9	木製品	漆碗蓋	つまみ径 5.8			12.8	2.5	—	横木取り	SK26	内面赤漆 外面黒漆 つまみ内金でカネに「中」 プナ属	51-10
10	木製品	漆碗	—	—	—	—	[5.0]	—	横木取り	SK26	内外面黒漆 歪み大 プナ属	51-11
11	木製品	不明品	—	—	0.7	11.8	—	—	板目	SK26	中央に孔 スギ	51-12
12	木製品	容器	24.0	24.0	1.3	—	—	—	板目	SK26	底板 鉄釘残存 マツ属複雑管束亜属	
13	木製品	栓	4.2	—	—	1.5	—	—	芯持材	SK26	スギ	
14	木製品	箸	20.2	0.5	0.5	—	—	—	削出し	SK26	ヒノキ属	
15	木製品	箸	19.2	0.7	0.6	—	—	—	削出し	SK26	ヒノキ属	
16	木製品	下駄	21.2	7.5	—	—	3.3	—	柱目	SK26	連歯下駄 SK26 17と一組 クリ	52-1
17	木製品	下駄	21.5	7.5	—	—	3.6	—	柱目	SK26	連歯下駄 SK26 16と一組 クリ	52-2
18	木製品	下駄	21.6	(7.2)	—	—	10.2	—	板目	SK26	連歯下駄 鉄釘残存 表・裏・側面黒漆 クリ	52-3
19	木製品	鉢	[42.5]	[14.1]	—	—	[7.8]	—	横木取り	SK26	内面に放射状の削り痕 トチノキ	
20	木製品	鉢	—	—	—	(54.8)	10.8	—	横木取り	SK26	内面に放射状の削り痕	
21	木製品	漆碗蓋	—	—	—	(9.8)	[2.2]	—	横木取り	SK27	内外面赤漆 外面黒で家紋	52-4
22	木製品	下駄	21.9	7.7	—	—	2.8	—	柱目	SK33	連歯下駄 クリ	52-6
23	木製品	下駄	22.6	7.5	—	—	5.6	—	板目	SK33	連歯下駄 後歯鉄釘 クリ	52-5
24	木製品	箸	19.4	0.6	0.5	—	—	—	削出し	SK33	スギ	
25	木製品	漆碗	—	—	—	—	[2.1]	—	横木取り	SK37	内面赤漆 外面黒漆	52-7

平面形は不明である。覆土は焼土と炭化物からなり、火災処理に関わる土壌とみられる。

出土陶磁器は少なく、第124図39～41に示した。いずれも被熱している。39は肥前系磁器の広東碗蓋、40に肥前系磁器の皿、41に瀬戸美濃系陶器の灰釉摺絵香炉を示した。このほかに、肥前系磁器のくらわんか碗、陶器の柿釉鍋が出土している。

時期は、出土陶磁器から18世紀後葉以降とみられる。

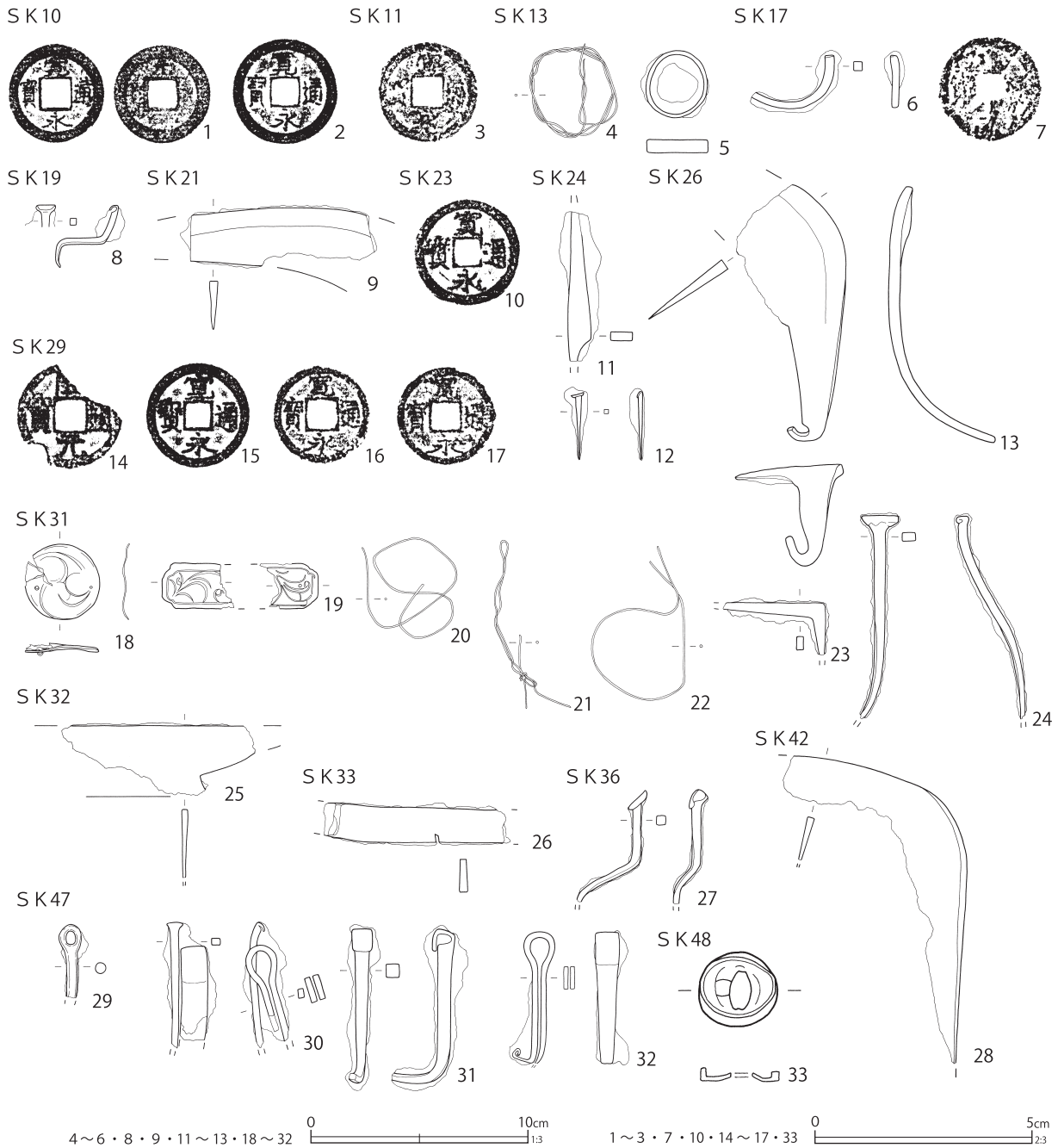
第23号土壌 (第119図)

B 5-I 10、B 6-I 1 グリッドに位置する。調査区を東西に横断し、東西とも調査区外に延びる。第2、7号木樋、第22・26・31・43号土壌と重複し、第2号木樋、第7号木樋より古い。土壌との新旧関係は不明である。

平面形は東側にテラスをもつ溝状である。溝跡と不整形円形の土壌の2つの遺構が重複している

ような平面形態であるため、当初2つの遺構に分離しようと考えたが、調査時の所見から、覆土が炭化物と焼土を主体とする一体のものであり、遺物も分離が困難であるため、火災処理に伴う1基の土壌として報告する。

出土陶磁器は、第124図42～第129図109に示した。被熱しているものが多い。磁器は42～81である。いずれも肥前系で、瀬戸美濃系を含まない。42～48・54～57・59～61は碗で、42・46にコンニャク印版染付の碗、43・47に梅樹文碗、48に薄手半球碗、44に小丸碗、45に小広東碗、59～63に筒形碗、50～57に広東碗と蓋を示した。53と55はセットとみられる。61の筒形碗は外面体部中央に帯状に鉄釉が施されており、図で示したほかに同文別個体がある。49の坏は外面に赤彩上絵付で文字が書かれている。62・64に坏、65・66に輪高台猪口を示した。67～79は皿で、67・68は小皿、69は見込み釉剥ぎ皿、70は扇面文の



第145図 土壙出土遺物 (25)

粗製皿、71～73・76は蛇ノ目凹形高台皿、80は大皿、82は香炉である。

陶器は第128図82～第129図104である。瀬戸美濃系が多い。瀬戸美濃系の碗は、82に拳骨茶碗、83に呉須絵が描かれたせんじ碗、86は内面に呉須絵が描かれた平碗を示した。皿は91が馬目皿、90・92・93は灯明皿である。96は灰釉・鉄釉掛分けの花生、97は土瓶、99は蓋である。

京都信楽系は84の半球碗、85・88の小杉碗である。94は志戸呂系灯明皿、100～104は堺明石系の摺鉢である。瓦質土器は、105に平底焙烙、106・107・109に火鉢を示した。109は、火鉢類の底部を円盤型に加工した転用品である。108にかわらけを示した。

木製品は、第143図5～7に示した。5は一部炭化しているが、連歯下駄である。6は杓子、7

第83表 土壌出土遺物観察表（5）（145図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 22.5 厚さ 1.0 重さ 1.6	SK10	寛永通寶（新）背元	
2	銅製品	銭貨	径 24.3 厚さ 1.3 重さ 3.7	SK10	寛永通寶（新）	
3	銅製品	銭貨	径 23.3 厚さ 1.3 重さ 2.5	SK11	寛永通寶（新）	
4	銅製品	針金	縦 4.3 横 4.0 厚さ 0.1 重さ 2.0	SK13		
5	鉄製品	環金具	縦 3.1 横 2.8 幅 0.6 厚さ 0.2 重さ 7.7	SK13		53-7
6	鉄製品	釘	長さ [3.8] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.6	SK17		
7	銅製品	銭貨	径 22.6 厚さ 1.3 重さ 1.6	SK17	寛永通寶か	
8	鉄製品	釘	長さ 2.8 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.5	SK19		
9	鉄製品	鎌	長さ [8.4] 刃幅 2.2 背幅 0.4 重さ 19.5	SK21		53-7
10	銅製品	銭貨	径 24.7 厚さ 1.6 重さ 2.9	SK23	寛永通寶（古）	
11	鉄製品	不明	長さ [6.9] 幅 1.0 厚さ 0.4 重さ 18.3	SK24		
12	鉄製品	釘	長さ 3.1 幅 0.2 厚さ 0.2 重さ 1.6	SK24		
13	鉄製品	鎌	長さ [11.8] 刃幅 4.3 背幅 0.5 重さ 62.6	SK26		53-7
14	銅製品	銭貨	径 24.3 厚さ 1.4 重さ 2.0	SK29	開元通寶	
15	銅製品	銭貨	径 24.0 厚さ 1.4 重さ 3.2	SK29	寛永通寶（古）	
16	銅製品	銭貨	径 22.3 厚さ 0.9 重さ 1.8	SK29	寛永通寶（新）	
17	銅製品	銭貨	径 22.7 厚さ 1.0 重さ 2.0	SK29	寛永通寶（新）	
18	銅製品	飾金具	径 3.5 厚さ 0.03 重さ 1.6	SK31	三つ巴	53-6
19	銅製品	飾金具	縦 2.1 横 [3.3][2.7] 厚さ 0.03 重さ 1.1	SK31		53-6
20	銅製品	針金	縦 4.6 横 4.4 厚さ 0.1 重さ 1.5	SK31		
21	銅製品	針金	長さ 7.7 厚さ 0.1 重さ 1.1	SK31		
22	銅製品	針金	縦 4.6 横 4.4 厚さ 0.1 重さ 1.5	SK31		
23	鉄製品	鋸	長さ [4.7] 幅 0.6 厚さ 0.3 重さ 6.4	SK31		
24	鉄製品	釘	長さ [9.4] 幅 0.6 厚さ 0.4 重さ 11.9	SK31		
25	鉄製品	刃物	長さ [9.0] 刃長 [6.6] 刃幅 [3.1] 背幅 0.3 重さ 18.1	SK32		
26	鉄製品	不明	長さ [8.6] 幅 1.5 厚さ 0.4 重さ 21.0	SK33		
27	鉄製品	釘	長さ [5.2] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.4	SK36		
28	鉄製品	鎌	長さ [14.1] 刃幅 [2.0] 背幅 0.3 重さ 57.7	SK42		53-7
29	銅製品	不明	長さ [3.3] 厚さ 0.5 重さ 7.2	SK47		
30	鉄製品	釘	長さ [5.8] 幅 0.4 厚さ 0.3	SK47		
		環釘	長さ [4.3] 幅 0.3 厚さ 1.2 重さ計 28.6			
31	鉄製品	釘	長さ [7.0] 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 20.4	SK47		
32	鉄製品	環釘	長さ [6.0] 幅 0.2 厚さ 1.0 重さ 23.2	SK47		
33	銅製品	雁首銭	径 17.0 × 18.0 厚さ 3.0 重さ 2.8	SK48		53-6

は樽の栓と考えられる。

金属製品は、第145図10に古寛永通寶を示した。

石製品は、第146図1に砥石を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀後葉～19世紀初頭とみられる。

第24号土壌（第120図）

B6-J1グリッドに位置し、東側は調査区域外にかかる。第34号土壌と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形は長楕円形である。覆土は炭化物主体で焼土と木質遺物を含むことから、火災処理に関わる土壌とみられる。第27号土壌出土のものと同

合関係が認められる。

陶磁器は、第129図110～第132図165に示した。被熱しているものが多い。磁器はすべて肥前系である。111・112は、コンニャク印版染付のくらわんか碗である。110・113～119・121～123は梅樹文碗で、122・123は口径13cm近い大碗である。125・126は朝顔形碗の蓋、124・127は朝顔形碗で、124と125、126と127はセットとみられる。128は蓋物、129～133は底部輪高台の猪口である。135は外面青磁釉が施釉された端反碗で、被熱して煤が付着している。皿は136～140である。137は口縁が輪花状である。



第146図 土壇出土遺物 (26)

第84表 土壇跡出土遺物観察表 (6) (146図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[10.0]	5.9	1.3	128.3	粘板岩	SK23	ノコギリ痕か 刃物痕 砥面 2 被熱	54-6
2	石製品	砥石	[9.2]	[6.7]	[5.9]	414.8	ホルンフェルス	SK23	ノコギリ痕か 幅広工具痕 刃物痕 砥面 5 被熱 (赤化)	54-6
3	石製品	砥石	[5.6]	[3.8]	[1.4]	23.9	流紋岩	SK25	ノコギリ痕か 砥面 4	54-6
4	石製品	砥石	[5.4]	3.9	[1.6]	41.2	流紋岩	SK25	砥面 4	54-6
5	石製品	温石	[5.7]	6.3	1.6	76.3	砂岩	SK25	穿孔 1	55-2
6	石製品	砥石	12.6	4.4	2.6	271.7	流紋岩 (緑色)	SK25	楕歯状工具痕 砥面 3	54-6
7	石製品	磨石	5.1	4.2	3.2	35.3	角閃石安山岩	SK26	多孔質 側面工具痕か 自然面使用 刃物痕か 1面形成	55-1
8	石製品	砥石	8.5	2.8	1.9	71.6	ホルンフェルス	SK33	ノコギリ痕か 刃物痕 2条 砥面 6	54-6

陶器は瀬戸美濃系と京都信楽系が、半々程度の分量で出土している。京都信楽系は、142～154で、142～149は外面上絵付された半球碗、150は外面に色絵で描かれたせんじ碗、151・152は外面鉄絵の筒形碗である。153は京都信楽系の可能性がある半筒形碗である。154は外面上絵付された坏を示した。瀬戸美濃系は141・155～157である。141はせんじ碗、155は灰釉の輪禿鉢、156は五合徳利、157は油徳利である。

土器は158～164に示した。火鉢類は、158が

土師質の火鉢、159が瓦質の獸面把手のついた火鉢、162が瓦質の火消壺蓋である。163は土師質の平底焙烙、164は瓦質の平底焙烙で、内面に「大極上」の刻印がある。161には脚付火鉢を示した。

金属製品は、第145図11の不明品、12の鉄釘を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第25号土壇 (第119図)

B6-J1グリッドに位置し、第33号土壇が北で近接する。

平面形は隅丸長方形、断面形は箱形である。覆土は確認できなかった。

遺物は、第33号土壌と一括して取り上げたものが多い。そのため、第25号土壌・第33号土壌出土陶磁器は一括して、まとめて報告する。

出土陶磁器は第133図166～第135図207に示した。磁器はすべて肥前系、陶器は瀬戸美濃系が多い。磁器の碗は、166～174に示した。166は上絵付された碗、167は高台の小さい薄手半球碗、169・170は梅樹文碗である。171・172は朝顔形碗で、172は外面青磁釉である。175～177には底部輪高台の猪口を示した。178～184は皿である。178・179は、器高が低く腰が張る小型の皿、180～183は粗製皿、184は見込み蛇ノ目釉剥ぎの粗製皿である。179は同文別個体が2個体以上ある。184も同文別個体がある。186は仏飯器である。

瀬戸美濃系陶器は、187がせんじ碗、189が筒形碗、185が灯明皿、190が石皿、193が笠原鉢、197に瓶類底部、198にぺこかん徳利である。京都信楽系陶器は、188に上絵付された半球碗、191に外面に鉄絵で描かれた皿を示した。192は肥前系の三島手の鉢、194は備前系の挿鉢である。瓦質土器は、199に香炉、200・201に火鉢、202・204に火消壺と蓋、203に焜炉を示した。199の香炉は、底部に刻印がある。207は瓦質土器を円盤状に打ち欠いた転用品で、元は焙烙の可能性があり。205・206はかわらけである。

瓦は、第142図1に転用品を示した。2面が使用された転用砥具である。

木製品は、第143図8に漆碗を示した。体部が直立し、下半に稜を持つ。

石製品は、第146図3・4・6が砥石、5は温石である。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第26号土壌（第120図）

B 5-I 10グリッドに位置する。重複する第23

号土壌、第2号溝跡との新旧関係は不明である。

平面形は隅丸長方形で、断面形は箱形に近い。木製品が多く出土した。

出土陶磁器は第135図208～第136図213に示した。磁器はすべて肥前系で、陶器は瀬戸美濃系が多い。磁器は、208に梅樹文碗、209に坏を示した。208は、第50号土壌出土資料と接合した。

210は瀬戸美濃系陶器の坏である。

212は瓦質土器の火鉢で、内面に墨書がある。213は土師質土器の丸底焙烙である。

このほかに肥前系磁器の筒形碗、小丸碗、蛇ノ目凹形高台皿、底部輪高台猪口等が出土している。

瓦は、第142図2に平瓦を示した。

木製品は、第143図9～17、第144図18～20に示した。漆碗、蓋、栓、箸、下駄、鉢等が出土している。9の漆碗蓋のつまみには金でカネに「中」の屋号が入れられている。16～18の下駄は連齒下駄で、18は黒漆塗りである。19・20は大型の鉢で、内面に放射状のケズリが施されている。

金属製品は、第145図13に鉄鎌を示した。関の部分で大きく曲がり、刃部中央から切先まで欠損する。肉厚で背巾5mmを測り、茎尻が鉤形である。

石製品は、第146図7に角閃石安山岩製の磨石を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第27号土壌（第120図）

B 5-J 10、B 6-J 1グリッドに位置し、西は調査区域外へ延びる。調査区西壁断面より、浅間A火山灰よりも古いことが確認された。

平面形は溝状に近い長楕円形で、断面形は箱形である。覆土は焼土、炭化物、木製品で占められており、火災処理に関わる土壌と考えられる。

出土陶磁器は第24号土壌と接合するものも多く、第24号土壌が火災処理に関わる土壌とみられることから、同時期とみられる。

出土陶磁器は、第136図214～第139図282に示した。

磁器はすべて肥前系である。碗は214～233・235に示した。214は薄手半球碗、215・216は梅樹文だが小振りで高台が高い碗である。217・218はくらわんか碗、219～224は梅樹文碗である。226は梅樹文の大碗を示した。228は見込み蛇ノ目釉剥ぎ碗である。234・235は外面青磁釉の朝顔形碗の蓋と身のセットである。同文別個体がある。236～238は坏である。238は同文別個体がある。240～242は口唇部が花弁状の坏で、同文別個体が複数個体ある。猪口は239・243～249に示した。いずれも底部輪高台である。皿は250～258に示した。250～252は変形皿である。253～256は粗製皿だが、255・256は口径8cm程度の小皿である。257は多稜皿、258は腰が張る輪花の皿である。259・260は徳利で、259は大型である。

陶器は、京都信楽系と瀬戸美濃系が半々程度ある。京都信楽系は、261・262・264～268に示した。261・262は外面に鉄絵のある半筒碗で、261は同文別個体が2個体ある。264～266は半球碗、267・268は外面鉄絵の半筒碗である。

瀬戸美濃系陶器は、263がせんじ碗、269～272が灰柿釉掛分け碗である。273は坏、274・275は輪高白型皿、276が灯明皿である。277は長石釉が厚くかかる鉢、278は壺甕類の蓋である。279・280に五合徳利、281に有耳壺を示した。282は瓦質土器の火消壺である。

木製品は、第144図21の漆椀の蓋が出土している。丸に四つ菱の家紋が施されている。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第28号土壌（第120図）

B 6-J 1 グリッドに位置し、平面形は楕円形で断面形は逆台形である。覆土は砂質で、洪水等による埋積層であろうか。

出土陶磁器は少ない。第139図283に肥前系磁器の朝顔形碗蓋、284に御神酒徳利を示した。

このほかに肥前系磁器外面青磁釉筒形碗、蛇の目凹形高台皿が出土している。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第29号土壌（第120図）

B 6-J 1 グリッドに位置する。

平面形は楕円形、断面形は逆台形である。

陶磁器の出土は少なく図示しうるものはなかったが、肥前系磁器の広東碗、瀬戸美濃系陶器の太白手筒形碗などが出土している。

金属製品は、銭貨を第145図14～17に示した。14は開元通宝、ほかは寛永通宝である。15は古寛永である。

時期は陶磁器から18世紀後半～19世紀初頭と考えられる。

第31号土壌（第120図）

B 5-I 10・J 10グリッドに位置し、北を第23号土壌、東を第48号・50号土壌、南は第2号溝跡と重複する。新旧関係は不明である。

平面形は楕円形ないし隅丸長方形で、断面形は深い箱形である。覆土は確認できなかった。

図示しうる陶磁器はなかったが、肥前系磁器のくらわんか碗、筒形鉢、広東碗の蓋、底部輪高台の猪口が出土している。いずれも被熱しており、火災処理土壌の可能性がある。

金属製品は、第145図18～24に示した。18と19は銅製飾金具、20～22は銅製針金、23は鉄製鋸、24は三寸の巻頭釘である。

時期は、出土陶磁器から18世紀後半～19世紀初頭とみられる。

第32号土壌（第120図）

B 6-J 1 グリッドに位置し、第39号土壌と重複する。新旧関係は不明である。

平面形は楕円形で、断面形は深い逆台形である。出土陶磁器は、第139図285に瀬戸美濃系陶器の五合徳利を示した。

このほかに肥前系磁器のくらわんか碗、猪口、瀬戸美濃系陶器の腰鑄碗が出土している。

金属製品は、第145図25に刃物を示した。

時期は18世紀代と推定される。

第33号土壙（第119図）

B 6-J 1 グリッドに位置し、第41号土壙が西辺の中央から突出する形で重複しており、第41号土壙の付属施設とも考えられる。

平面形は隅丸長方形を呈する。底面付近から陶磁器、木製品が多く出土している。

出土陶磁器は、第25号土壙と接合するものが多いため、第25号土壙で一括して報告した。

木製品は第144図22・23の連歯下駄、24の箸が出土している。22は歯の摩滅が著しい。

金属製品は、第145図26に不明鉄製品を示した。

石製品は、第146図8に砥石を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第35号土壙（第120図）

B 6-J 1 グリッドに位置する。

平面形は不整形、断面形は逆台形である。

出土遺物は第140図286～288に示した。286は肥前系磁器の蓋物、287は瀬戸美濃系陶器の鉢、288は瓦質土器の焜炉である。

このほかに、肥前系磁器の薄手半球碗が出土している。

時期は確定できないが、18世紀以降と推定しておきたい。

第36号土壙（第119図）

B 5-I 10グリッドに位置する。東半は調査区外に延び、南側は第18号土壙と重複し、本遺構が古い。一辺直線的な辺が検出されたのみで、平面形は不明である。

陶磁器の出土はごくわずかで、図示しうるものはなかった。肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台皿が出土している。

金属製品は、第145図27に巻頭釘を示した。

時期は18世紀後半と推定される。

第39号土壙（第120図）

B 6-J 1 グリッドに位置し、第8・32号土壙と重複する。新旧関係は不明である。

平面形は楕円形で、断面形は深い箱形である。

出土陶磁器は、第140図289に肥前系磁器の端反碗、290に肥前系磁器の色絵の薄手半球碗を示した。このほかに、肥前系磁器のくらわんか碗、高台ハの字碗、粗製皿が出土している。

時期は、出土陶磁器から18世紀以降とみられる。

第42号土壙（第120図）

B 6-J 1 グリッドに位置し、第8号土壙と重複する。新旧関係は不明である。

平面形は楕円形、断面形は皿形である。

出土陶磁器は、第140図291に肥前系磁器の梅樹文碗、292に肥前系磁器の蓋、293に瀬戸美濃系陶器の鉢を示した。

このほかに、肥前系磁器の端反碗、外面青磁の筒形碗・朝顔形碗が出土している。

金属製品は、第145図28に鉄鎌を示した。刃部の屈曲が強く、直角近くまで曲がる。背巾は3mmで、やや肉薄である。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第47号土壙（第120図）

B 6-J 1・J 2 グリッドに位置し、第45号土壙と重複する。

平面形は楕円形で、断面形は逆台形である。

出土陶磁器は少なく、図示しうる物はなかった。肥前系磁器の小丸碗が出土している。

金属製品は、第145図29～32に示した。29は銅製不明品、30は鉄釘と鉄製環釘が錆着したもの、31は鉄釘、32は環釘である。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第48号土壙（第120図）

B 5-I 10グリッドに位置する。第26・31・50号土壙と重複し、第50号土壙より新しい。

平面形は円形に近く、断面形は箱形である。

陶磁器の出土は少なく図示しうるものはなかった。肥前系磁器の小丸碗、小形のくらわんか碗、京都信楽系陶器の丸碗が出土している。

金属製品は、第145図33に雁首銭を示した。

時期は、出土陶磁器から18世紀中葉とみられる。

第50号土壌 (第120図)

B 5-I 10グリッドに位置する。第26・31・48号土壌と重複し、第48号土壌より古い。

平面形は楕円形である。覆土は炭化物を多く含む粘質土で、火災処理に関わる土壌とみられる。

図示しうる遺物はなかったが、肥前系磁器の梅樹文碗、粗製皿などが出土している。

時期は第48号土壌が18世紀中葉とみられることから、それ以前と考えられる。

(5) 道路下落込み (第147図)

下層確認のため、道路跡の基盤層である黄灰色シルト質層（基本層序3の16層、基本層序4の8層）を重機で掘り下げたところ、安山岩製の手水鉢が出土したため、拡張して検出した。

調査段階では第49号土壌として調査したが、平面、断面いずれの形状も不定形であること、同一

レベル・下層から他の遺構が検出されなかったことから、整理段階で落ち込みとした。

西側の広がり是不明である。遺構図を第147図に示し、計測値を第85表に示した。

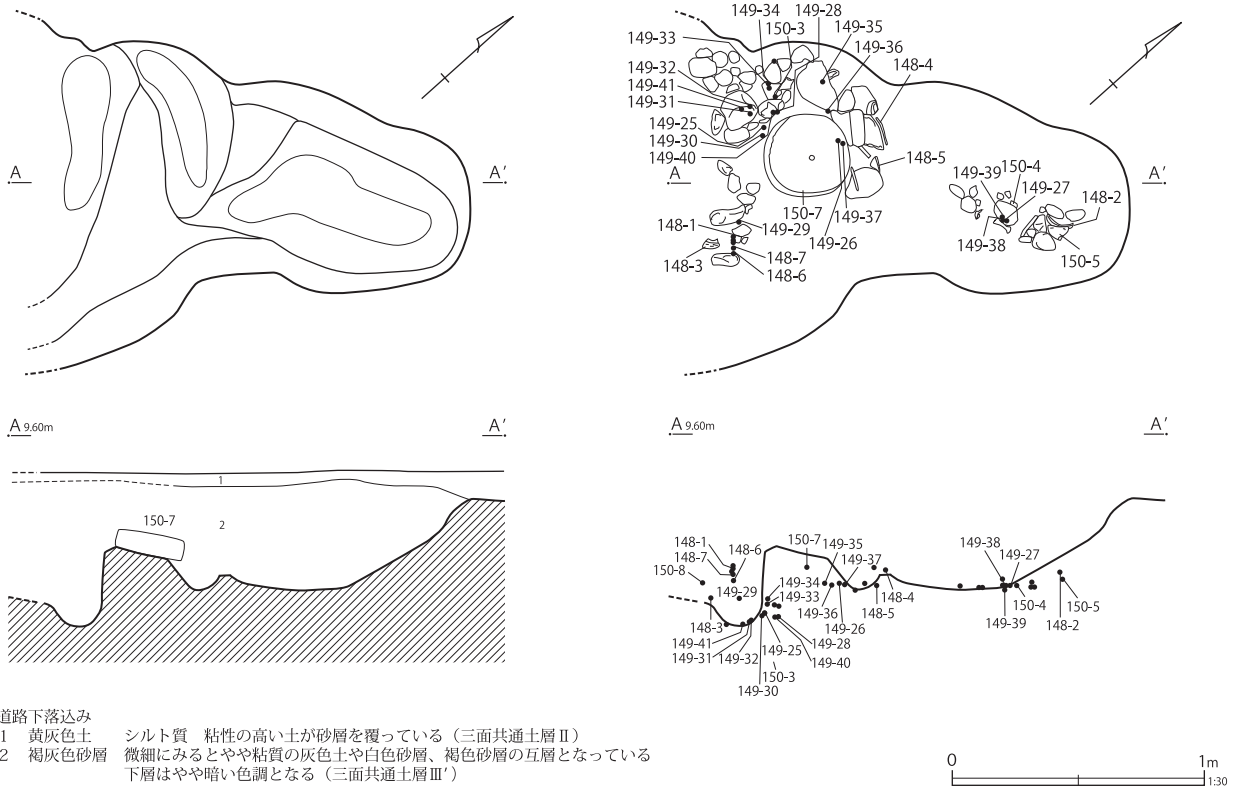
道路跡の基盤層に被覆されていることから、道路跡成立の年代の上限を示すものと考えられる。

覆土はやや粘質の灰～灰白色土と砂層の互層で、人為堆積ではなく河川由来と考えられる。ふるい分けはよく、鉄砲水等で押し流されてきたようには見えない。

遺物構成は特異で、陶磁器が少なく金属製品が多くを占める。ほかに石臼と上述の手水鉢がある。

出土遺物は、陶磁器と土製品を第148図、金属製品を第149図、石製品を第150図に示し、観察表は陶磁器を第86表、金属製品を第87表、石製品を第88表に示した。

陶磁器は、1が肥前系陶器の銅緑釉端反碗、2



道路下落込み
 1 黄灰色土 シルト質 粘性の高い土が砂層を覆っている（三面共通土層Ⅱ）
 2 褐灰色砂層 微細にみるとやや粘質の灰色土や白色砂層、褐色砂層の互層となっている
 下層はやや暗い色調となる（三面共通土層Ⅲ）

第147図 道路下落込み

第85表 道路下落込み計測表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
1	B6-I1	不整形	(3.45)	2.77	0.72, 1.00(最深)	N-49° -E	

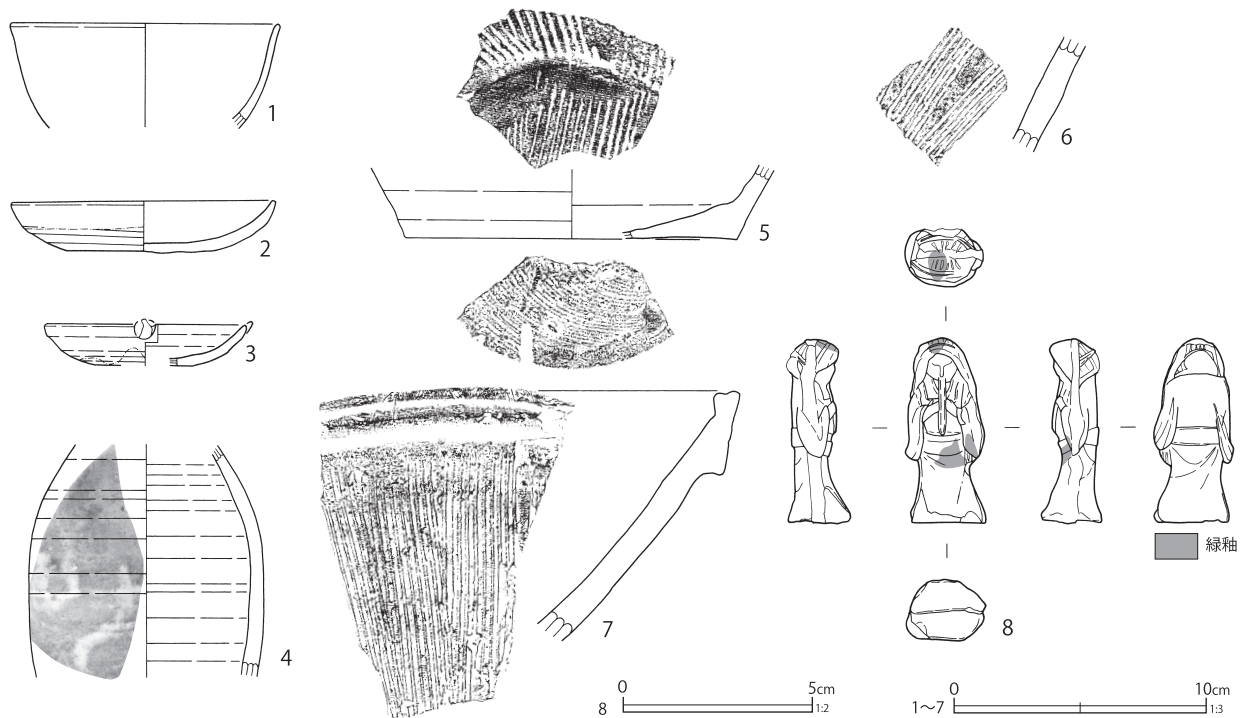
は陶器の灰釉灯明皿、3は瀬戸美濃系陶器の把手付柿釉灯明皿、4は瀬戸美濃系陶器の灰釉徳利である。5～7は播鉢で、5が瀬戸美濃系、6が丹波系、7が堺明石系である。8は玩具の虚無僧人形である。土器質の京都系で、全面に透明釉、一部に緑釉がかけられている。

金属製品は、1が銅製小柄の柄、2が煙管雁首、3と4は煙管吸口である。5と6は鋳物製蓋で、7は片口鍋、9～14は鍋だが、これらは同一個体の可能性がある。15～22は鉄釘で、15は三寸の階折釘、ほかは二寸以下の巻頭釘である。23と24は環釘である。25～42は寛永通宝である。

25～28は古寛永、ほかは新寛永である。31と41は文銭である。36は不鮮明だが背文らしきものがある。

石製品は、1、4・5は砥石、2は勾玉形の石製品である。6は板碑の転用品で、「口徳元口」「三月 日」が判読できる。7は石臼の下の部材で、被熱剝離している。8は手水鉢で、外面粗割り整形され、上面および内面は平滑である。底部は丸く安定しない。埋めるか、周囲に石をかませて据えるものと考えられる。

落込みの時期は、18世紀前半とみられる。



第148図 道路下落込み出土遺物（1）

第86表 道路下落込み出土遺物観察表（1）（148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	碗	—	[4.1]	—	—	5	良好	灰白	落込み	肥前系 銅緑釉	47-15
2	陶器	灯明皿	10.2	2.1	6.0	—	60	普通	橙	落込み	灰釉 外面煤付着	
3	陶器	灯明皿	(7.8)	[1.6]	(3.8)	—	25	良好	灰白, 黄橙	落込み	瀬戸美濃系 柿釉 把手付	48-1
4	陶器	徳利	—	[9.1]	—	K	15	良好	灰黄	落込み	瀬戸美濃系 灰釉, うのふ釉流掛	
5	陶器	播鉢	—	[2.9]	(13.0)	HI	5	良好	灰白	落込み	瀬戸美濃系 底部糸切痕 柿釉 内面播目	48-2
6	陶器	播鉢	—	[4.7]	—	—	5	普通	にぶい橙	落込み	丹波系 内面播目	48-3
7	陶器	播鉢	—	[9.6]	—	GH	20	良好	赤褐	落込み	堺明石系 内面播目	
8	土製品	人形	長さ 4.8 幅 2.1 厚さ 2.1 重量 12.0			E	—	良好	黄橙	落込み	虚無僧 透明釉 一部緑釉 前後合型成形 中実 京都系	49-12

(6) ピット

ピットは12基が確認されたが、いずれも単独で検出され、建物等を推定するには至らなかった。第151図に遺構図を示し、位置・規模等については第89表に示した。

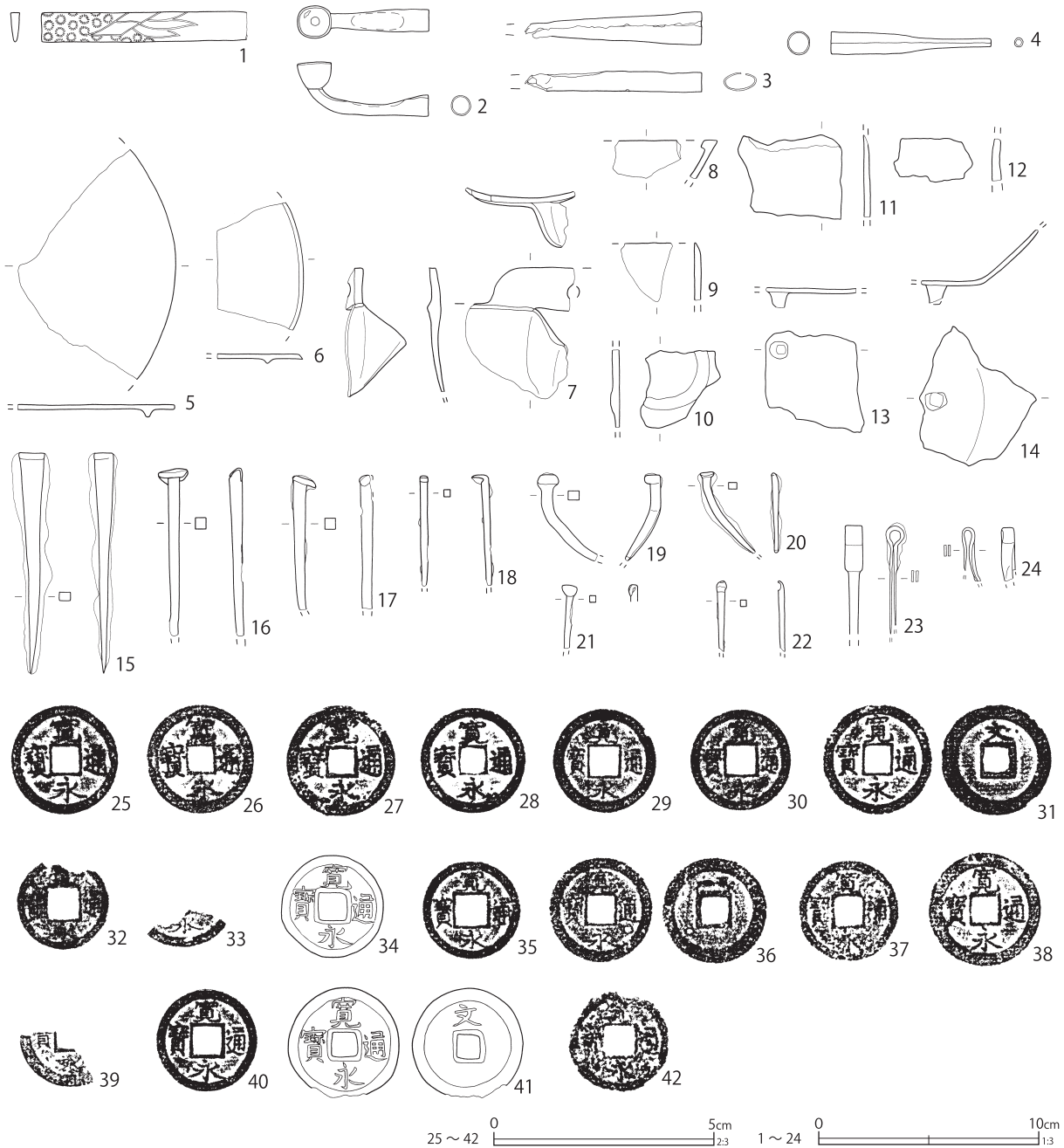
ピット15 (第151図)

B 6-J 2 グリッドに位置する。平面形は楕円形、断面形は鍋底形である。

遺物は一分判と石板が出土している。第151図1は宝永一分判（流通開始1710年）である。欠損や削痕がなく、残存状態は良好である。2は粘板岩製の石板で罫書き線が入る。

このほかに、図示不能の、被熱した陶器の爛徳利の他、18世紀代の陶磁器が出土している。

時期は、陶磁器から18世紀後半以降と推定される。



第149図 道路下落込み出土遺物 (2)

第87表 道路下落込み出土遺物観察表（2）（149図）

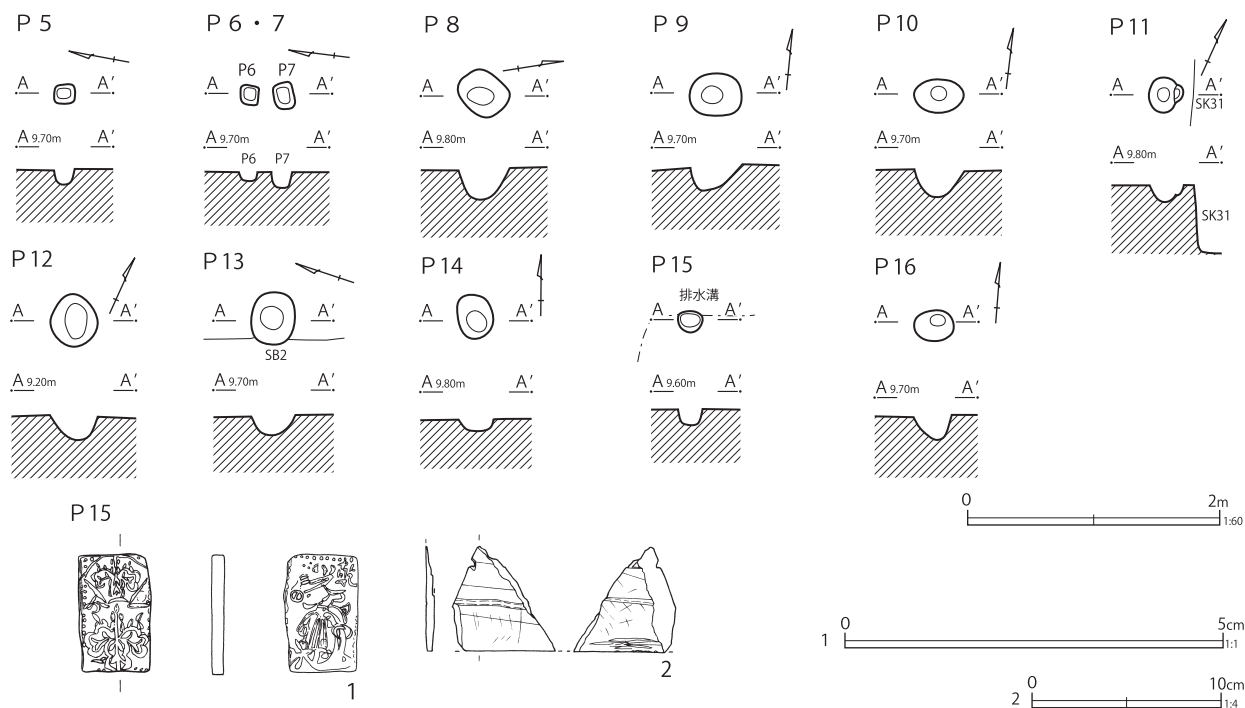
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	小柄	長さ[9.3] 幅1.3 厚さ0.4 重さ15.4	落込み		53-5
2	銅製品	煙管	長さ5.9 火皿径1.5 小口径0.9 重さ7.5	落込み	雁首	53-5
3	銅製品	煙管	長さ[8.0] 小口径0.8×1.5 重さ7.2	落込み	雁首 火皿欠失	53-5
4	銅製品	煙管	長さ7.3 小口径1.0 口付径0.4 重さ5.7	落込み	吸口	53-5
5	鉄製品	蓋	縦[10.4] 横[7.1] 厚さ0.2 重さ88.1	落込み		53-5
6	鉄製品	蓋	縦[5.8] 横[3.9] 厚さ0.2 重さ22.6	落込み		53-5
7	鉄製品	片口鍋	縦[5.9] 横[5.0] 厚さ0.6 重さ31.8	落込み		53-5
8	鉄製品	鍋	縦[1.7] 横[3.1] 厚さ0.5 重さ6.4	落込み		
9	鉄製品	鍋	縦[2.6] 横[2.3] 厚さ0.3 重さ8.4	落込み		
10	鉄製品	鍋	縦[3.5] 横[3.6] 厚さ0.4 重さ11.4	落込み		
11	鉄製品	鍋	縦[3.8] 横[4.7] 厚さ0.3 重さ14.7	落込み		
12	鉄製品	鍋	縦[1.9] 横[3.5] 厚さ0.4 重さ8.0	落込み		
13	鉄製品	鍋	縦[4.6] 横[4.5] 厚さ0.2 重さ19.6	落込み		53-5
14	鉄製品	鍋	縦[6.4] 横[5.3] 厚さ0.2 重さ31.4	落込み		53-5
15	鉄製品	釘	長さ10.0 幅0.5 厚さ0.4 重さ17.7	落込み		
16	鉄製品	釘	長さ[7.6] 幅0.5 厚さ0.5 重さ6.8	落込み		53-5
17	鉄製品	釘	長さ[6.1] 幅0.5 厚さ0.5 重さ8.0	落込み		
18	鉄製品	釘	長さ[5.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.7	落込み		
19	鉄製品	釘	長さ[3.9] 幅0.5 厚さ0.4 重さ4.6	落込み		
20	鉄製品	釘	長さ[3.6] 幅0.4 厚さ0.3 重さ2.0	落込み		
21	鉄製品	釘	長さ[2.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ0.8	落込み		
22	鉄製品	釘	長さ[3.2] 幅0.3 厚さ0.3 重さ0.8	落込み		
23	鉄製品	環釘	長さ[4.9] 幅0.1 厚さ0.5 重さ5.9	落込み		
24	鉄製品	環釘	長さ[2.4] 幅0.1 厚さ0.5 重さ2.3	落込み		
25	銅製品	銭貨	径24.7 厚さ1.2 重さ3.0	落込み	寛永通寶（古）	
26	銅製品	銭貨	径24.7 厚さ1.0 重さ2.1	落込み	寛永通寶（古）	
27	銅製品	銭貨	径25.1 厚さ1.2 重さ2.7	落込み	寛永通寶（古）	
28	銅製品	銭貨	径24.0 厚さ1.4 重さ3.3	落込み	寛永通寶（古）	
29	銅製品	銭貨	径23.4 厚さ1.2 重さ2.9	落込み	寛永通寶（新）	
30	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.1 重さ2.1	落込み	寛永通寶（新）	
31	銅製品	銭貨	径25.3 厚さ1.4 重さ3.7	落込み	寛永通寶（新）	
32	銅製品	銭貨	径21.0 厚さ0.9 重さ1.3	落込み	寛永通寶（新）	
33	銅製品	銭貨	径(24.0) 厚さ0.9 重さ0.4	落込み	寛永通寶	
34	銅製品	銭貨	径23.1 厚さ1.2 重さ2.4	落込み	寛永通寶（新）	
35	銅製品	銭貨	径22.4 厚さ1.2 重さ2.3	落込み	寛永通寶（新）	
36	銅製品	銭貨	径23.8 厚さ1.0 重さ2.6	落込み	寛永通寶（新）	
37	銅製品	銭貨	径22.9 厚さ1.0 重さ2.4	落込み	寛永通寶（新）	
38	銅製品	銭貨	径25.7 厚さ1.3 重さ3.4	落込み	寛永通寶（新）	
39	銅製品	銭貨	径(24.0) 厚さ1.2 重さ1.0	落込み	寛永通寶（新）	
40	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ0.9 重さ2.1	落込み	寛永通寶（新）	
41	銅製品	銭貨	径25.5 厚さ1.5 重さ3.3	落込み	寛永通寶（新）裏文	
42	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.0 重さ1.7	落込み	寛永通寶（新）	



第150図 道路下落込み出土遺物 (3)

第88表 道路下落込み出土遺物観察表（3）（第150図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[5.5]	2.8	1.6	41.0	流紋岩	落込み	刃物痕 砥面 5 黒色化	55-3
2	石製品	勾玉	[1.8]	1.1	0.7	1.8	メノウ	落込み	穿孔 1	55-5
3	石製品	硯	[4.0]	[6.2]	—	49.8	粘板岩	落込み	器高 1.2cm 極めて粗雑な造り 砥具転用か	55-4
4	石製品	砥石	[7.7]	2.7	1.7	53.4	流紋岩（緑色）	落込み	櫛歯状工具痕 刃物痕 砥面 5	55-3
5	石製品	砥石	6.0	6.6	2.6	125.7	砂岩	落込み	刃物痕 砥面 4	55-3
6	石製品	板碑	[14.0]	[16.2]	[2.2]	823.5	緑泥片岩	落込み	左側面打割無調整 一部二次利用「口徳三年三月日」15-16C 被熱	55-6
7	石製品	石臼	直径 34.0 高さ 8.5			14870.0	角閃石安山岩	落込み	下臼 下面・側面工具痕 灰色 緻密	55-7
8	石製品	手水鉢	口径 43.0 器高 39.0			測定不能	安山岩	落込み	外面打割整形	55-8



第151図 ピット・出土遺物

第89表 ピット計測表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
5	B6-I1	隅丸方形	0.17	0.15	0.12	
6	B6-I1	隅丸方形	0.15	0.15	0.07	
7	B6-I1	隅丸長方形	0.21	0.15	0.12	
8	B5-J10	隅丸長方形	0.38	0.33	0.25	
9	B6-I1	楕円形	0.42	0.33	0.22	
10	B6-J1	楕円形	0.39	0.26	0.22	
11	B5-I10	楕円形	0.28	0.26	0.13	
12	B5-J10	楕円形	0.42	0.38	0.20	
13	B5-I10	楕円形	0.41	0.35	0.15	SB2 と重複
14	C6-A1	楕円形	0.36	0.28	0.09	
15	B6-J2	楕円形	0.19	0.16	0.13	一分判出土
16	B6-J1	楕円形	0.30	0.24	0.20	

第90表 ピット出土遺物観察表(第151図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	金製品	銭貨	縦 15.4 横 9.4 厚さ 1.3 重さ 2.3	P15	宝永一分判	54-1
2	石製品	石板	長さ [5.5] 幅 [5.4] 厚さ 0.4 重さ 13.1	P15	粘板岩 側面工具痕 罫線	55-2

5 文字資料

第5地点・本陣5次では、陶磁器・瓦・木製品に墨書・刻印を中心に文字が見られる資料が確認された。

陶磁器については、文字数が少なく文意のとれないものが多かったため、実測図・写真図版に示した。

第5地点第1号木樋より「ネギシ」と底部に墨書きされた笠間系陶器挿鉢が出土している。明治35年の『営業便覧』には栗橋商業銀行と笹屋氷店の隣に「根岸紋蔵」とあり、関連が想定できる。

第7号土壙からは、亀甲萬の商標が見込みに描かれた瀬戸美濃系磁器坏が出土している。この商標は1873年のウィーン万博で使用されており、少なくとも19世紀第4四半期以降とみられる。

第10号土壙からは、ヤマに「キ」の屋号と「□屋」が記された陶器徳利が出土している。『営業便覧』によると当該地点は「酒類醤油商 堺屋號 植西宇吉」と記されており、堺屋の屋号が記された通い徳利の可能性がある。

判読不能だが、第32号土壙からは外面に墨書きされた肥前磁器の皿、第39号土壙からは底部に墨書きされたぺこかん徳利がある。

本陣5次からは、道路跡第11層から内面に「ツル」と墨書された陶器蓋、底部に○にカネに「+」と屋号とみられる記号が記された陶器土瓶が出土している。

木製品については、他の調査地点に比較して少なく、本陣5次で検出された埋設桶、木樋側板、井戸桶側板、第2号木樋付属の木桶に記された墨書が中心である。

判読不能であったものも含めて、第91表に示した。また赤外線写真を写真図版56に掲載した。

井戸桶は1段目に「尾州名古屋」「伏見町八丁目」と焼印された側板が使用されている。名古屋から搬入されたものが転用されたと考えられる。

石製品では、板碑片が2点出土した。落込み出土の1点は「□徳三年三月 日」と読める。

第91表 本陣跡第5次文字資料

番号	遺構	器種	積文(表)	積文(裏)	挿図	図版
1	SE1	桶側板	判読不能	—	—	56-1
2	SE1	桶側板	判読不能	—	—	56-2
3	埋桶7	桶底板	清蔵 清	—	65-1	56-3
4	木樋2	桶側板	吉処松	—	91-6	56-4
5	木樋2	桶側板	判読不能	—	—	56-5
6	木樋2	桶側板	判読不能	—	—	56-6
8	木樋2	桶側板	判読不能	—	—	56-7
9	木樋2	桶側板	○に・	—	91-7	56-8
10	木樋2	桶側板	判読不能	—	91-5	56-9
11	木樋3	木樋	判読不能	判読不能	—	56-12
12	木樋3	木樋	判読不能	判読不能	—	56-13
13	木樋3	木樋	三	—	91-11	56-10
14	SE1	桶側板	伏見町八丁目	—	72-1	56-14
15・16	SE1	桶側板	尾州名古屋	—	72-2	56-15
17	木樋3	木樋	判読不能	—	91-10	56-16
18	B5J10	漆塗杓子	登	—	109-8	56-11

6 出土遺物一覧表と遺構の時期

出土した遺物の点数・重量と、各遺構の想定される時期を一覧表にまとめた。

出土した瓦は、発掘調査中に水洗・乾燥・分類を行い、点数と重量を記録した（第93・94表）。表中の瓦の分類は、「平瓦」は棧瓦・平瓦、「軒瓦」が軒棧瓦・軒丸瓦・軒平瓦、道具瓦が冠瓦・伏間瓦・熨斗瓦・隅瓦である。このうち軒瓦、道具瓦と、平瓦で縦横いずれかの一辺が残っているもの、棧瓦で隅の切れこみが残るものを回収し、整理作業で抽出、実測を行った。

整理作業で扱った全ての遺物については、点数と重量を第99・100表に掲載した。出土した貝類については、種類と個体数を第95表に掲載した。

各遺構の推定時期については、第96・97表に掲載した。陶磁器様相からの推定であり、分量や伝世期間の問題から若干の誤差が想定される。少ない遺物から判断した場合は（ ）、遺構重複から判断した場合は[]を付した。表中に示した時期区分と想定実年代は、次のように設定した。

- ・栗橋1期：17世紀前半
- ・栗橋2期：17世紀後半
- ・栗橋3期：18世紀前半～中葉（第2四半期後半～第3四半期前半）

肥前系磁器波佐見系碗、瀬戸美濃系陶器腰銚碗、せんじ碗で組成

- ・栗橋4期：18世紀後葉（第3四半期後半～第4四半期前半）

肥前系磁器外面青磁釉碗各種、筒形碗、瀬戸美濃系陶器柿釉灯明皿の出現

- ・栗橋5期：18世紀後葉～19世紀初頭（18世紀第4四半期～19世紀第1四半期）

肥前系磁器広東碗、一部に大振りの端反碗
・栗橋6期：19世紀前葉（第1四半期後半）

瀬戸美濃系磁器の出現

- ・栗橋7期：19世紀前葉～中葉（第2四半期中心）

磁器湯呑碗、陶器青緑釉土瓶等が多い

- ・栗橋8期：19世紀中葉（第3四半期）

磁器卵殻手坏、型押寿文皿の出現

- ・栗橋9期：19世紀中葉～後葉

酸化コバルト染付磁器の出現

『栗橋宿跡 I』報告中で援用した東京大学構内遺跡群の時期区分（東京大学埋蔵文化財調査室1999・2011）との対比は、概ね次のとおりである。

栗橋1・2期＝東大Va期以前（～1720年代）

栗橋3期＝東大Vb期（1730～40年代）

栗橋4期＝東大VIa・b期（1750～70年代）

栗橋5期＝東大VII期（1780～1800年代初頭）

栗橋6期＝東大VIIIa期（1800～10年代）

栗橋7期＝東大VIIIb・c期（1820～40年代）

栗橋8期＝東大VIIId期（1850～60年代）

栗橋9期＝東大IX期

第98表には、主要遺構の陶磁器組成表を示した。分類にあたっては、東京大学構内遺跡群の報告における分類を参照し、器種の判別が可能な破片数と底部破片数をカウントした。底部破片数は一部の遺存があれば「1点」としており、直接に個体数を示すものではない。

出土陶磁器数の多かった、第5地点第二面の土壇2基、本陣5次の第一面土壇1基と第二面土壇4基を示した。このほか道路跡について10層以下を対象に、各層位ごとに出土様相を示した。

第92表 遺構番号振替・欠番一覧表（5：第5地点、本：本陣5次）

新(5)	旧	新(5/本)	旧	新(本)	旧	新(本)	旧	新(本)	旧	新(本)	旧
SB2	SK18・SD2	SK39b	SK39	基礎2	SK2	欠番	P4	木樋2	S01 北側木樋	木樋4	S02 北側木樋
桶1	新規発番	SK45	SD6	埋甕1	欠番	欠番	杭列2	木樋2	S01 北側側溝	木樋5	S01 南側側溝
木樋1a	木樋1	SK46	SD5	SB3	新規発番	道路下落込み	SK49	木樋2 木枘1	S01 北側木枘1	土留1	S02 北西土留め
木樋1b	木樋1	SK47	SD4	SB4	SB8・9	木樋1a	木樋1	木樋2 木桶1	S01 北側木桶	木樋6	S02 中央土留め
SK39a	SK39	基礎1	SK1	欠番	P3	木樋1b	木樋1	木樋3	S01 南側側溝	木樋7	新規発番

第93表 第5地点瓦計測表

重量 (g) 破片数 (個)

遺構	平瓦		丸瓦		軒瓦		道具瓦		鬼瓦		刻印瓦		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SB2	18,855	114											18,855	114
SD1	2,745	39											2,745	39
木樋 1	21,564	411	630	7	1,375	16			750	3	205	2	24,638	440
SK1	240	4											240	4
SK2	360	9											360	9
SK3	1,460	4											1,460	4
SK4	140	2											140	2
SK5	920	12											920	12
SK6	1,600	23											1,600	23
SK7	4,000	52											4,020	54
SK8	12,125	122			845	5							12,986	129
SK9	8,990	62											8,990	62
SK10	630	11											630	11
SK11	20,750	377			675	5							21,425	382
SK12	1,970	27											1,970	27
SK13	375	7											375	7
SK14	130	1											130	1
SK15	370	7											370	7
SK16	255	5											255	5
SK17	105	14											105	14
SK19	70	2											70	2
SK20	3,190	45	195	2	110	1							3,495	48
SK21	705	18	20	1									725	19
SK23	195	4											195	4
SK25	2,047	32	250	2									2,304	34
SK26	210	8											210	8
SK27	176,066	1,204	6,190	48	4,445	32	1,765	9	420	3			188,902	1,298
SK28	340	12											340	12
SK29	100	2											100	2
SK32	229	2											229	2
SK33	170	1											170	1
SK35	96	1											96	1
SK36	650	2											650	2
SK38	19,990	66			2,070	5	2,320	8					24,380	79
SK39	3,638	50	65	1	20	1							3,891	54
SK41	70	1											70	1
SK42	195	3											195	3
SK43	790	6											790	6
SK44	30	1											30	1
SK46	138,778	640	3,335	22	19,675	103	4,375	9					166,174	777
SK47	8,263	49	5,940	22									14,216	71
P1	365	4											365	4
A区	1,400	19											1,400	19
B区	3,405	28											3,405	28
C区	31,175	359	540	6	510	2	130	1					32,355	368
D区					365	1							365	1

第94表 本陣跡第5次瓦計測表

重量 (g) 破片数 (個)

遺構	平瓦		丸瓦		軒瓦		道具瓦		鬼瓦		刻印瓦		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SB2	180	1											180	1
桶 5	80	2											80	2
桶 6	30	1											30	1
桶 7	90	2	160	2									250	4
桶 10	520	4	60	1	180	1							760	6
桶 11	350	2											350	2
桶 12			210	1									210	1
木樋 1	3,500	46	130	1			70	1					3,700	48
木樋 2	210	1											210	1
木樋 2 木桶	450	8											450	8
木樋 2 木枘	120	3											120	3

遺構	平瓦		丸瓦		軒瓦		道具瓦		鬼瓦		刻印瓦		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SE1	2,830	31											2,839	31
埋納1	460	14											460	14
基礎1	12,550	371	2,850	32	160	5					220	1	15,780	409
基礎2	18,900	458	900	15	510	9					120	1	20,430	483
SK3	1,870	41											1,870	41
SK4	40	1											40	1
SK6	110	1											110	1
SK8	11,080	95	390	4									11,475	100
SK9	850	6	90	1									940	7
SK10	4,950	55											4,951	56
SK11	440	3											440	3
SK14	110	2											118	2
SK20	260	2	70	1									366	3
SK21	100	1	530	6									630	7
SK23	890	4											890	4
SK24	150	1											150	1
SK25	760	6			20	1							780	7
SK26	7,470	48											7,470	48
SK28	120	1											120	1
SK29	110	1											110	1
SK31	100	2											100	2
SK32	30	1											30	1
SK33	260	4	270	2									530	6
SK37			140	1									140	1
SK42	520	3											520	3
SK46	100	1											100	1
SK48	20	1											20	1
1面グリッド	75,730	983	13,510	81	2,350	20	190	2	130	1			91,910	1,087
2面グリッド	1,500	11			620	4							2,120	15

第95表 出土貝類一覧

種別	S01		木樋2		SE1		SK9		SD2		合計	
	総数	個体数	総数	個体数	総数	個体数	総数	個体数	総数	個体数	総数	個体数
シジミ	5	4	0	0	1	1	0	0	0	0	6	5
ハマグリ	19	4	0	0	0	0	8	3	0	0	27	7
アカニシ	10	2	2	2	0	0	0	0	0	0	12	4
カラスガイ	0	0	0	0	9	3	0	0	0	0	9	3
マガキ	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
アワビ	42	9	0	0	0	0	0	0	6	1	48	10
合計	77	20	2	2	10	4	8	3	6	1	103	30

第96表 第5地点遺構時期推定表

遺構名	重複関係	最新期陶磁器	時期
SB1	SB2より新、本陣5次SB3より古	陶磁器極少	[7期-]
SB2	SB1、SK16より古	瀬戸美濃磁器端反碗有 陶器灰釉土瓶 土器電鍔	7期
桶1	SK12より古		-
木樋1a	木樋1bより古	銅版転写磁器坏・急須、酸化コバルト製品有 笠間益子系陶器挿鉢	9期
木樋1b	木樋1aより新		-
SD1	SD3より新	銅版転写磁器坏、平碗 型紙、ゴム版製品有	9期
SD3	SD1、SK17より古	陶磁器無し	-
SK1		陶磁器無し	-
SK2	SK17より新	磁器平碗類 三河産土器	9期
SK3	SK17より新	銅版転写磁器丸碗、皿 益子系陶器挿鉢 三河産土器	9期
SK4	SK5より古	陶磁器無し	-
SK5	SK4より新	銅版転写磁器平碗、皿、端反坏 陶器焼酎瓶 笠間系陶器壺	9期
SK6		酸化コバルト磁器端反坏 信楽系陶器大型壺（内面鉄釉刷毛塗）三河産土器焜炉	9期
SK7		酸化コバルト磁器複数 銅版転写磁器皿 陶器練込み手急須	9期
SK8		酸化コバルト磁器複数 銅版転写磁器細片有 三河産土器焜炉	9期
SK9		銅版転写磁器丸碗 瓦質土器植木鉢	9期
SK10		銅版転写磁器碗、酸化コバルト磁器端反坏各1有 信楽系陶器大型壺	9期
SK11		陶磁器少 京信灯明皿 信楽系陶器大型壺 土器電鍔	(8-9期)
SK12	桶1より新	酸化コバルト磁器湯呑碗、端反坏 磁器平碗 信楽系陶器大型壺	9期

遺構名	重複関係	最新期陶磁器	時期
SK13		陶磁器無し	-
SK14	P3 と重複	陶磁器極少 瀬戸美濃系磁器有	-
SK15		陶磁器極少 瀬戸美濃系磁器丸碗、皿有	-
SK16	SB2 より新	陶磁器少 瀬戸美濃系磁器丸碗、皿有 陶器青緑釉土瓶	(7期-)
SK17	P4 と重複、SK2、3 より古	陶磁器少 瀬戸美濃系磁器端反碗 京信爛徳利	(7期-)
P1	P2 より古	陶磁器極少	-
P2	P1 より新	陶磁器極少	-
P3	SK14 と重複	陶磁器極少 肥前磁器皿、焙烙片のみ	-
P4	SK17 と重複	陶磁器極少 瀬戸美濃陶器半胴甕のみ	-
SK19	SK20 より新	瀬戸美濃磁器端反碗 陶器青緑釉土瓶 松岡系陶器鍋	[7-8期]
SK20	SK19 より古	瀬戸美濃磁器端反碗、爛徳利 京信脚付燈明皿 松岡系陶器土瓶	7-8期
SK21	P5、SK22 より新	瀬戸美濃磁器湯呑形碗 卵殻手坏 陶器青緑釉、鉄釉土瓶	7期
SK22	SK21 より古	陶磁器極少 瀬戸美濃陶器餌猪口のみ	[-7期]
SK23	P7 より古	陶器糸目土瓶 瀬戸美濃丸碗、湯呑形碗 卵殻手坏 酸化コバルト磁器坏は混在カ	8期
SK24	SK25 より古	肥前磁器湯呑形碗、青緑釉土瓶	7-8期
SK25	SK24 より新、SK26 と重複	酸化コバルト磁器端反碗 陶器三彩土瓶	9期
SK26	SK25 と重複	陶磁器少	-
SK27	SK47 と重複	瀬戸美濃磁器湯呑形碗、卵殻手坏	7-8期
SK28	SK47 より新	磁器卵殻手坏端反碗 青緑釉土瓶片	(7-8期)
SK29	SK46 と重複	陶磁器やや少 瀬戸美濃磁器無し	-
SK30	P8 と重複	陶磁器少 瀬戸美濃柿釉半胴甕等	-
SK31	SK32 より新	陶磁器極少 瀬戸美濃磁器湯呑形碗 京信丸碗	(7期-)
SK32	SK31 より古	瀬戸美濃磁器湯呑形碗 青緑釉土瓶	7期-
SK33	SK45 と重複、SK34 より古	陶磁器少 肥前磁器ハ字状高台碗 施釉土器脚付灯火具	5期-
SK34	SK33、SK35 より古	陶磁器無し	-
SK35	SK34 より新	陶磁器無し	-
SK36		陶磁器無し	-
SK37		陶磁器無し	-
SK38		陶磁器極少 肥前磁器雪輪草花文碗のみ	-
SK39a	SK39b と重複	瀬戸美濃磁器爛徳利 三田青磁 青緑釉土瓶 磁器卵殻手坏	8期
SK39b	SK39a と重複		-
SK40	SK46 より古	陶磁器極少 丹波挿鉢	[-6期]
SK41	SK42 より新	陶磁器極少 肥前磁器丸形坏 土器焙烙	[9期]
SK42	SK41 より古	萬古急須 京信灯明皿 瀬戸美濃色絵磁器	9期
SK43	SK39a、SK19、SK20 と重複	肥前磁器八角鉢 瀬戸美濃磁器丸碗	8-9期
SK44		瀬戸美濃磁器端反碗	6期-
SK45		陶磁器無し	-
SK46	SK40 より新	瀬戸美濃磁器端反碗	6期
SK47	SK27 と重複、SK28 より古	瀬戸美濃端反碗 肥前磁器蛸唐草文御神酒徳利	6期-
SK48		陶磁器無し	-
P5	SK21 より古	陶磁器極少 青緑釉土瓶	[8期-]
P6		陶磁器極少	-
P7	SK23 より新	瀬戸美濃端反碗 京信筒形香炉	7期-
P8	SK30 と重複		-

第97表 本陣跡5次遺構時期推定表

遺構名	重複関係	最新期陶磁器	時期
SB1	SE1 より古	磁器湯呑形碗 陶器灰釉行平、三彩土瓶 土器焙烙(丸底内耳付)	8期
SB4		瀬戸美濃磁器端反碗蓋 瓦質土器焜炉(硬質)	7-9期
SB3	杭列1 と重複、5地点SB1 より新		[7期-]
基礎1		陶磁器少 三河産土器焜炉	9期
基礎2		銅版転写染付爛徳利、坏、角腰長筒形湯呑 三河産土器焜炉	9期
桶1			-
桶2	SK8 より新	遺物は掘方から少量 肥前磁器筒形碗、蛇ノ目凹形高台皿 瀬戸美濃磁器端反碗	[6期-]
桶3	SK8 より新		[6期-]
桶4		陶磁器極少 瀬戸美濃ぺこかん徳利	-
桶5		陶磁器やや少 京信灯明受皿	(7期-)
桶6	杭列1 と重複、関連施設	陶磁器やや少 瀬戸美濃磁器端反碗 陶器爛徳利	(8期)
桶7		陶磁器やや少 肥前磁器広東碗	5期
桶8		陶磁器やや少 肥前磁器外面青磁筒形碗	4期-
桶9	SK8 と重複	陶磁器やや少 益子こね鉢	(9期)
埋甕2	木樋1a より新	モルタル付着の在り土器大甕(便槽使用カ) 陶磁器極少	9期
埋納1		陶磁器極少 瀬戸美濃磁器端反碗 土器焜炉	(7期-)

遺構名	重複関係	最新期陶磁器	時期
埋納2		陶磁器極少 在地系土器焙烙	-
SE1	SB1より新、SD1と重複	陶器行平蓋 萬古急須 碇子、磁器酸化コバルト染付皿、タイル/掘方内は、瀬戸美濃柿釉灯明皿 江戸在地系土器焙烙等 18c 遺物のみ	9期廃絶
杭列1	桶6と重複、5地点木桶1の延長		-
木桶1a	埋甕2より古	瀬戸美濃磁器酸化コバルト染付急須、爛徳利	9期
木桶1b			-
木桶2	S01_硬化面1を伴う	磁器酸化コバルト染付坏、信楽系陶器大型壺（内面鉄釉刷毛塗）銅版転写磁器少量あるが混在カ	9期
木桶3	S01_硬化面3、SK8、木桶5より古	瀬戸美濃端反碗、湯呑碗少量	7期
木桶4	木桶6より古、SK23より新、AS-Aより新	瀬戸美濃陶器馬目皿 京信窪み加飾の碗 瀬戸美濃磁器細片1あり	6期
木桶5	木桶3より新	肥前磁器小丸碗、外面青磁筒形碗 瀬戸美濃陶器灯明受皿	-
木桶6	4号木桶より新、AS-Aより新	帰属遺物の分別困難	-
木桶7	SK23より新	帰属遺物の分別困難	-
土留1		帰属遺物の分別困難	-
S01_硬化面1	木桶2を伴う、6～10層の下		
S01_硬化面2	11'層の下		
S01_硬化面3	木桶3、木桶5より古		
S01_硬化面4	木桶6（、木桶4？）を伴う、13層の下		
S01_硬化面5	AS-Aの下		
S01_硬化面6	SK24、SK27より新		
S01_5層		瀬戸美濃ぺこかん徳利	9期
S01_8層		肥前磁器広東碗・磁器クロム青磁釉筒湯呑形坏	9期
S01_10層		磁器銅版転写坏、外面単色釉碗、酸化コバルト急須 土師質土器把手付鍋硝子製品おはじき、ランプ類	9期
S01_11層		酸化コバルト染付磁器平碗片1あり。瀬戸美濃磁器卵殻手坏、紅坏 肥前磁器蛇ノ目高台（高）皿、八角鉢 信楽系大型壺（内面鉄釉刷毛塗）陶器爛徳利、青緑釉土瓶、山水土瓶、白土染付土瓶蓋 土師質土管	8-9期初め
S01_12層		肥前磁器蛇ノ目高台猪口、志田皿 陶器青緑釉土瓶	7-8期
S01_13層		陶器青緑釉土瓶複数あり 瀬戸美濃磁器端反碗細片	7期
S01_14層		瀬戸美濃磁器端反碗少量 肥前磁器小広東、広東碗、梅樹文碗、筒形碗 京信端反碗 陶器青緑釉土瓶片2、灰釉土瓶蓋細片は混在カ	6期
S01_15層		肥前系磁器蛇ノ目凹型高台皿 瀬戸美濃柿釉灯明受皿 土器長方形火鉢	4-5期
SK3		三河産焜炉 瓦質植木鉢	9期
SK4		銅版転写染付爛徳利 磁器平碗 碇子	9期
SK5		三河産土器焜炉	9期
SK6		硬質陶器皿（緑色圏線）	9期
SK7		陶磁器無し	-
SK8	甕2、SB1、SB4、木桶1と重複 桶2、3、木桶3、5より古	肥前磁器端反碗、被熱した八角鉢 瀬戸美濃磁器端反碗 京信櫛目灯明皿 被熱	6期
SK9		陶磁器やや少 肥前磁器薄手の小丸碗、猪口	-
SK15		陶磁器極少	-
SK16		陶磁器極少	-
P1		碇子 瀬戸美濃磁器蓋	9期
P2		陶磁器極少 瀬戸美濃柿釉甕	-
SB2	SK18、P13と重複	京信口縁緑釉端反碗 19cに降る土器焙烙	6期-
桶10		陶磁器極少 肥前陶器刷毛目釉片口鉢 肥前磁器皿、くらわんか碗細片、外面青磁釉朝顔形碗	(4期カ)
桶11	SK20より古	陶磁器極少 肥前磁器広東碗 瀬戸美濃腰鏝碗、輪禿鉢	(4期カ)
桶12		陶磁器極少 肥前磁器外面青磁釉丸碗蓋	(4期カ)
桶13	SB2と重複	瀬戸美濃柿釉灯明受皿	(4-5期)
桶14		陶磁器被熱多 肥前磁器小広東 益子播鉢は混在か判断難	-
SD1	SE1、SK10、14と重複		
SD2	SK23、26、31と重複	陶磁器極少 肥前磁器端反碗	-
SK10	SD1、SK44と重複	肥前磁器小広東碗 瀬戸美濃陶器柿釉甕・灯明皿	4-5期
SK11		肥前磁器小丸碗多、外面青磁筒形碗、高台ハ字形碗あり 瀬戸美濃柿釉甕複数	4-5期
SK12	SK13より新	陶磁器極少 瀬戸美濃柿釉灯明皿	(4期-)
SK13	SK12より古	陶磁器極少 瀬戸美濃柿釉灯明皿	(4期-)
SK14	SD1と重複	陶磁器極少 瀬戸美濃こね鉢 肥前磁器くらわんか碗片	-
SK17		陶磁器極少 瀬戸美濃菊皿被熱、腰鏝碗	-
SK18		陶磁器極少 肥前磁器くらわんか碗被熱	-
SK19		陶磁器少 瀬戸美濃柿釉灯明皿	4期-
SK20	桶11より新、AS-Aより古	18cの陶磁器主体 肥前磁器蛇ノ目凹型高台皿	4期
SK21	SK22より古	陶磁器極少	-

遺構名	重複関係	最新期陶磁器	時期
SK22	SK21 より新	陶磁器少, 被熱 肥前磁器筒形碗・広東碗蓋 陶器柿釉鍋	4期-
SK23	木樋 2、木樋 7 より古、SK22 より古 SK26、31、43 と重複	陶磁器被熱 広東碗, 筒形碗 (鏽軸横帯状), 蛇ノ目高台猪口あり 瀬戸美濃磁器なし	5-6期
SK24	SK34 と重複	陶磁器被熱 京信半球碗, 瀬戸美濃せんじ碗主体 肥前磁器くらわんか碗, 梅樹文碗多くほとんど被熱, 外面青磁朝顔形碗複数 瀬戸美濃石皿細片あり SK27 と接合あり	4期
SK25		肥前磁器雪輪草花文碗主体, 外面青磁朝顔形碗多 瀬戸美濃柿釉灯明皿あり SK33 と接合多	4期
SK26	SD2、SK23 と重複	肥前磁器猪口多, 小丸碗, 筒形碗, 蛇ノ目凹形高台皿	4期
SK27	AS-A より古	SK24 と接合多 被熱 肥前磁器梅樹文碗主体, 小広東・小丸碗や外面青磁の朝顔形碗が極少量 瀬戸美濃せんじ碗, 腰鏽碗, 京信色絵半球碗多	4期
SK28		陶磁器やや少 肥前磁器外面青磁筒形碗, 蛇ノ目凹形高台皿	4期
SK29		陶磁器少 肥前磁器広東碗底部 瀬戸美濃太白手筒形碗	5期
SK30		陶磁器極少 肥前磁器皿	-
SK31	SK23、48、50、SD2 と重複	被熱 陶磁器やや少 肥前磁器広東碗蓋 (薄手)	5期
SK32	SK8、39 と重複	陶磁器やや少 肥前磁器猪口, くらわんか碗 瀬戸美濃腰鏽碗	-
SK33	SK41 と重複	肥前磁器梅樹文碗多, 外面青磁筒形碗と朝顔形碗複数, 広東碗は無し 瀬戸美濃系陶器灯明皿, せんじ碗多	4期
SK34	SK24 と重複	陶磁器少 肥前磁器くらわんか碗	-
SK35		陶磁器少 肥前磁器半球碗	-
SK36	SK18 より古	陶磁器極少 肥前磁器蛇ノ目凹形高台皿	(4期)
SK37		陶磁器やや少 SK24/27 に様相類似 瀬戸美濃, 京信せんじ碗あり	4期
SK38	SK18 より古	陶磁器極少 瀬戸美濃腰鏽碗, 御室碗	-
SK39	SK8、32 と重複	陶磁器やや少 ハ字状高台碗の蓋, 粗製皿, くらわんか碗	4期
SK40		京信鉄絵筒形碗 瀬戸美濃せんじ碗	4-5期
SK41	SK33 と重複	陶磁器無し	-
SK42	SK8 と重複	肥前磁器雪輪草花文碗複数, 薄手の小丸碗, SK24・27 と同文の端反坏, 外面青磁釉の筒形碗・朝顔形碗・丸碗蓋あり	4期
SK43	SK22、23 と重複	陶磁器極少 肥前磁器皿細片	-
SK44	SK10 と重複	陶磁器無し	-
SK45	SK47 と重複	陶磁器無し	-
SK46		肥前磁器くらわんか碗, 薄手の小丸碗	4期
SK47	SK45 と重複	陶磁器やや少 肥前磁器小丸碗	4期
SK48	SK50 より新、SK26、31 と重複	陶磁器少 細片のみ 肥前磁器梅樹文碗, くらわんか小型碗 京信丸碗	(3-4期)
SK50	SK48 より古、SK26、31 と重複	肥前磁器梅樹文碗, 粗製皿, 猪口 瀬戸美濃陶器坏	-
S01 下落込み		肥前系磁器くらわんか碗 堺明石挿鉢 丹波挿鉢 肥前陶器銅緑釉碗 瀬戸美濃陶器尾呂徳利, 輪禿鉢, 挿鉢	3期
P5		陶磁器無し	-
P6		瀬戸美濃陶器輪禿鉢	-
P7		陶磁器無し	-
P8		陶磁器無し	-
P9		瓦質土器焙烙 (18c 代)	-
P10		陶磁器無し	-
P11		陶磁器無し	-
P12		陶磁器無し	-
P13	SB2 と重複	陶磁器無し	-
P14		陶磁器無し	-
P15		陶器爛徳利被熱 他は 18c の陶磁器	(7期-)
P16		陶磁器無し	-
P17		陶磁器無し	-
P18		陶磁器無し	-

第98表 主要遺構出土遺物組成表

分類	第5地点		本陣5次										本陣5次_道路								合計					
	SK39		SK46		SK8		SK23		SK24		SK27		SK25/33		10層		11層		12層		13層		14層		底部	破片
	底	破	底	破	底	破	底	破	底	破	底	破	底	破	底	破	底	破	底	破	底	破	底	破		
JB 不明	2		1	14		1							3		1	2				1					2	24
JB1 不明	3		1	17		3		5				17		3	44		1		8		14					116
JB1a								1	1															1	1	
JB1b												1	3								2			1	5	
JB1d												3														3
JB1f				1	2	1	1			3	6	1	2							1	1	1		7	13	
JB1g				3	7	4	6	2	7	3	8	1	10	1	1		2				1			14	42	
JB1i			1	1	1	1	2	9		1	5			1	1								6	6	23	
JB1j	2	3	5	10	10	18	2	8		1	1						1		2		1	2	18	22	62	
JB1l	1	1	2	5	18	4	23		6			2	18	2			9		1	4	1	1	1	6	15	90

分類	第5地点				本陣5次										本陣5次_道路								合計			
	SK39		SK46		SK8		SK23		SK24		SK27		SK25/33		10層		11層		12層		13層				14層	
	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片
JB1m	1	2	1	3	6	17	4	8																3	12	33
JB1n	1	3	1	5	1	2											3							5	3	18
JB1o	2	4															2								2	6
JB1q							1								1	1									1	2
JB1r						1		1	3	4	1	2	4	19										1	8	28
JB1u		4					1	1	3	2	2														3	10
JB1v				1	3	14	3	16	12	28	6	17	7	27			1	1		1				1	32	106
JB1w																								1		1
JB1x					1	1	1	1	1	1	1	1													4	4
JB2 不明		3	8	78	1	7	1	4	2	5	1	7	3	7			2	12			2			4	18	129
JB2a																		1								1
JB2e							8	12	1	2													1	1	10	15
JB2f				1					1	2	1	2		1										1	1	2
JB2g					2	8	2	3			4	4	5	6									1	1	14	23
JB2i	1	1			1	1									4	4	2	2							8	8
JB2j	1	1	26	46			9	19					1	3			4	6			1		1	2	42	78
JB2k						1				1				2	2										2	4
JB2m					2	3	2	4					1	2											5	9
JB2o			3	75	1	1	5	8	1	2		1	2	8											12	95
JB2p			2	9			1	1																	3	15
JB2q		3																	1		2		2		3	7
JB2 変形									2	3	6	7		2			3	4						1	3	7
JB3 不明	1	1		22																					8	13
JB3b	1	1					1	7																	1	23
JB5 不明	2	5			1	1										1		3							2	8
JB5a													3												3	10
JB5b	1	1			1	1											1	1							1	4
JB5d		1																							2	2
JB5e		1				5											1	2							1	1
JB6 不明						1					3	3						2		1		4			3	11
JB6a	1	1	1	1	1	1				3															3	6
JB6b							1	1	2	15	3	3													6	19
JB6c																		1	1						1	1
JB6d							1		4	1	4														1	9
JB6e																	1	2							1	2
JB6f		1											5											1		7
JB7 不明						6			1	1															1	7
JB7a					6	13	1	1									1	4	1	1		2			9	21
JB7b			1	1	6	8	2	3	7	24	8	27	5	11			1		1						29	76
JB8 不明						1																				1
JB8b			2	2																					2	2
JB8c	1	1	1	1																					2	2
JB9 不明							1																			1
JB9a			1	2																					1	2
JB9b					1	1																			1	1
JB9c							1	1																	1	1
JB9d																1										1
JB10a					1	3					1	1				1		1					1		2	7
JB11b			1	3	3	6	2	6		2		4	3		1		2				1				6	28
JB13 不明																		1								1
JB13b							1	2		1															1	3
JB27a					1	1																			1	1
JB53				1																						1
JB00 不明					1	2		2									1	2							2	6
JB00a					1	4			1	1			5					3						2	2	15
JB00b	1	1	1	1	5	7	6	6									1	3					1	1	15	19
JB00c	1	3			3	3												1							4	7
JB00d						1																				1
JB00e								1																		1
JB00f					1	1												1							1	2
JB00j								1	2	1	1	1	6												3	9
JB00n					1	1																			1	1
JC 不明		2																							1	3
JC1 不明		4													1	4		17							1	26

分類	第5地点				本陣5次								本陣5次_道路								合計					
	SK39		SK46		SK8		SK23		SK24		SK27		SK25/33		10層		11層		12層		13層		14層		底部	破片
	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片		
JC1a															3											3
JC1d	4	9			1	1									3		18				2		2		5	35
JC1e	4	9													1	1	5								5	15
JC1f		1													2		1									4
JC2 不明																			1							1
JC2a																				1	3				1	3
JC2e																1	3								1	3
JC2 角皿															1	1		1							1	2
JC4		9																3								12
JC5																1		1								2
JC6a															1	3	1	2			1				2	6
JC6d	3	5													1		5								3	11
JC6f															2	5									2	5
JC6g																		1								1
JC11b						1																				1
JC16															1	3									1	3
JC20																	1	1							1	1
JC00 不明																1										1
JC00b	2	3															1	2	1	1					4	6
JC00d		1																								1
JC00f		1																								1
JC00i		1													2	2									2	3
JZ34a																						4				4
TA8																	5									5
TB1a												1	1							1					1	2
TB1g													2													2
TB2b												1	1												1	1
TB5b						1																				1
TB23 不明												1	1												1	1
TC 不明													1												1	7
TC1 不明		1			6		2						3	24						1	1			3	3	36
TC1a																										1
TC1b																								2		2
TC1g																		1								1
TC1i							1																			1
TC1j		2																								2
TC1l					3	1	1	1	1	2	21	4	19												8	45
TC1m					2				1	1													1		1	4
TC1n						1	1						2												1	3
TC1p							3																			3
TC1r																		1								1
TC1u		1				3						1	4												1	8
TC1v						1				5	8	1	2										1		6	12
TC1ad												1	1												1	1
TC2 不明					1	1		1										3				2	2		3	7
TC2c					1	1																			1	1
TC2e						2																				2
TC2f						1							1													2
TC2g							1	4																	1	4
TC2h				1																						1
TC2i										3	6														3	6
TC2k					1	1	1	1					1												2	3
TC2l													1	1											1	1
TC2n						1																				1
TC2o	2	2	3	3	3	4	1	1		1			5	14			1	6			2	1	1	16	34	
TC5 不明											1	1													1	1
TC5a													1	6											1	6
TC5c					1	5			1	2				3											2	10
TC5f					1	1		1																	1	2
TC5i										1			1	2											1	3
TC5l		2			2	2																			2	4
TC6			2	3	4	6	1	5					1	2		1				1	1			1	9	22
TC8			4	4																					4	4

分類	第5地点				本陣5次								本陣5次_道路								合計					
	SK39		SK46		SK8		SK23		SK24		SK27		SK25/33		10層		11層		12層		13層		14層		底部	破片
	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片		
TC9 不明					1	3																		1	3	
TC9a					1	1		1			1	2	5				1							3	9	
TC9c					1	1																		1	1	
TC9d																								2	7	
TC10 不明							1	2			1	6	1	1										3	9	
TC10d							2		1	3	1	4			1	2								3	16	
TC10e						2																			7	
TC10g	2	6			1	1									4		1							3	12	
TC15a		1			2	6								6			1				1			2	15	
TC15b		1			1	3									2		1		1					1	8	
TC22b			1	1				1													1			1	3	
TC23 不明																		1							1	
TC23b		1			4	9		6		1							1							4	18	
TC23c	1	1																						1	1	
TC27a							1	1																1	1	
TC27c																								1	1	
TC29					1	1	1	1					2											2	4	
TC30			2	2																				2	2	
TC34							1																		1	
TC40 不明	1	1												1										1	2	
TC40b								2	3															2	3	
TC40c			4	4			2	3			1	1	1	2			1	4						9	14	
TC41				1						1															2	
TC00 不明					1	1	1	1																2	2	
TC00b											1	1						1						1	2	
TD 不明																		1							1	
TD1 不明		1											2							1		1	5	1	9	
TD1b		1			1	9	1	4	7	44	3	15	5	28			1	3					15	18	119	
TD1d					1	3	1	2														1	6	3	11	
TD1g							1	1										2					1	1	4	
TD1i									1	13	4	8												5	21	
TD1j										9		3													12	
TD1l								1	7																7	
TD2 不明						2							1	1										1	3	
TD2a	1	1				3																		1	4	
TD2b																	1	3						1	3	
TD4						2											1	1						1	3	
TD6					1	2			1	1								2				1	2	2	8	
TD9 不明																	1	1			1			1	2	
TD15																		2							2	
TD32			5																						5	
TD34					1	3												3						1	6	
TD40 不明						1																			1	
TD40a	1	1												2	2		1							3	4	
TD40b		1																							1	
TD49		3																							3	
TE29													1	2											1	2
TF10																		1							1	
TF40	1	1					1	1	1	1														3	3	
TG15		3												1	4	1	2				1			2	10	
TK29				1	1	1							6										1	1	9	
TL29		2			2	5	6	15			1					1	4	1	2	1	1		5	11	35	
TZ 不明														1	3		8						2	1	13	
TZ1								1																	1	
TZ4						1												1		1					3	
TZ4 不明		2																							2	
TZ13	1	1																						1	1	
TZ15	1	2												1										1	3	
TZ16																1	1							1	1	
TZ33 不明		1																							1	
TZ33a	1	3			1	1																	5	2	9	
TZ34 不明																		1	1					1	1	
TZ34a	1	8															4		1				1	1	13	

分類	第5地点				本陣5次								本陣5次_道路								合計					
	SK39		SK46		SK8		SK23		SK24		SK27		SK25/33		10層		11層		12層		13層		14層		底部	破片
	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片	底部	破片		
TZ34b															1											1
TZ34c		1															1									2
TZ34d					1	1																		1	1	1
TZ34e					1	4															1	2			2	6
TZ34f		2																								2
TZ34g	3	3															3		1						3	7
TZ34i		2																								2
TZ42 不明					1	1																			1	1
TZ44					1	1																			1	1
TZ00 不明	1	1			1	1																			2	2
TZ00a		1																								1
TZ00c																		1								1
TZ00e					1	1																			1	1
TZ00g	1	1																					1		1	2
TZ00j		1																								1
TZ00s																		1								1
DZ 不明					2	5		2																	2	7
DZ1															1											1
DZ2 不明					1	1						1	3		1										2	5
DZ2b					3	3	2	2			1	1	1												6	7
DZ9												1	1												1	1
DZ31 不明	1	1				1				1							1	2							2	6
DZ31a									2	5															2	5
DZ31d													1	2											1	2
DZ31e								3	3																3	3
DZ31f					2	3																			2	3
DZ31h																										1
DZ31i									2		1	2	2										1		2	6
DZ31j						3																				3
DZ31k													1										1			2
DZ31 脚付					1	2	1	2		1			4					1						2	10	
DZ31 瓦質			1	1	1	3		1	1	1	1		2	3			3					1	1	6	13	
DZ43b							6	12																	6	12
DZ47a	1	2		2	6	10						5	8			1	1							13	23	
DZ47b					4	4	1	3	11	18		1	6	9									1	22	36	
DZ48 不明					1	1												1							1	2
DZ48c	1	1		1	1	1																			2	3
DZ51w					2	2																			2	2
DZ51 環状					1	3																			1	3
DZ00d					1	1																			1	1
DZ00h					1	2			1	1			1	1										3	4	
DZ 目皿		1																								1
DZ 土管															7		1									8
合計	51	164	73	290	141	360	96	247	74	244	69	188	91	361	20	76	37	269	6	26	5	47	14	136	677	2,408
JB	17	47	56	266	72	201	64	161	39	123	47	109			7	17	20	121	2	13	1	24	8	74	333	1,156
JC	14	46			1	2									8	30	5	60	1	3	1	7		2	30	150
TA																	1	6							1	6
TB						1							4	6						1					4	8
TC	6	19	16	19	27	68	12	40	6	14	15	49	77	118	1	9	3	29	1	2	1	5	3	13	168	385
TD	2	13			4	25	3	7	10	74	7	26	12	31	2	2	4	19				3	2	29	46	229
TE													1	2											1	2
TF	1	1					1	1	1	1								1							3	4
TG		3													1	4	1	2				1			2	10
TK				1	1	1								6										1	1	9
TL		2			2	5	6	15				1					1	4	1	2	1	1		5	11	35
TZ	9	29			7	11		1							1	5	1	20	1	4	1	2		8	20	80
DZ	3	5	1	4	27	46	10	22	18	32	3	20	36		9	2	8			1			1	4	82	170
コバルト															4		4									8
銅版転写 型紙摺絵															3											3
被熱			14		30		13		18		10		14		2		3		2		1		4			111

※分類は東京大学埋蔵文化財調査室（1999、2011）に準拠するが、該当しないものは『栗橋Ⅰ』、『栗橋Ⅱ』、『栗橋本陣Ⅰ』、『栗橋Ⅲ』、『栗橋Ⅳ』を参照のこと

※SK25/33の列は、SK25、SK33、SK25/33の出土遺物数を合計したものを記した

第99表 第5地点出土遺物一覧表

陶器・土器の()は底部破片数、金属製品の()は銭貨数、石の()は石材数である。

単位：g

遺構	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	
SB1	3(2)	30.0	1(0)	29.0	0(0)	—	0	—	0	—	0	—	2(2)	5.9	0	—	0	—	
SB2	18(9)	557.0	21(5)	722.0	4(3)	288.0	114	18,855	0	—	10	70.1	3(3)	10.3	0	—	0	—	
SK2	6(4)	360.0	5(2)	170.0	6(1)	100.0	9	360	0	—	6	32.6	4	53.1	0	—	0	—	骨類21g
SK3	5(4)	210.0	6(1)	200.0	1(0)	30.0	4	1,460	0	—	299	2,875.1	1(1)	2.1	0	—	0	—	硝子3(20g)
SK5	9(6)	630.0	10(4)	880.0	5(2)	6,990.0	12	920	0	—	12	116.0	0	—	0	—	0	—	硝子2(18g)
SK6	1(1)	10.0	4(0)	200.0	6(5)	890.0	23	1,600	0	—	2	45.4	0	—	0	—	0	—	
SK7	18(12)	630.0	15(5)	360.0	13(2)	400.0	54	4,020	0	—	4	59.3	0	—	2	549.8	0	—	
SK8	13(5)	210.0	12(2)	390.0	7(1)	294.0	129	12,986	0	—	0	—	1(1)	2.5	0	—	0	—	
SK9	15(5)	280.0	7(1)	250.0	2(2)	290.0	62	8,990	0	—	1	61.6	0	—	0	—	0	—	硝子6(137g)
SK10	7(3)	110.0	16(2)	860.0	2(1)	110.0	11	630	1	6.3	8	73.9	0	—	0	—	0	—	硝子1(7g)
SK11	1(1)	10.0	4(0)	48.0	7(7)	684.0	382	21,425	0	—	6	487.8	0	—	0	—	0	—	
SK12	17(6)	308.0	11(2)	290.0	2(0)	283.0	27	1,970	0	—	0	—	1(1)	1.6	0	—	0	—	桶1の遺物含む・モモ2
SK14	2(0)	11.0	4(0)	39.0	0(0)	—	1	130	0	—	1	11.3	0	—	0	—	0	—	
SK15	3(1)	32.0	0(0)	—	0(0)	—	7	370	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK16	7(1)	75.0	6(2)	182.0	5(5)	45.0	5	255	0	—	0	—	1(1)	2.6	0	—	0	—	
SK17	4(0)	8.0	2(0)	11.0	1(1)	4.0	14	105	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SD1	17(5)	248.0	9(5)	521.0	1(1)	17.0	39	2,745	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
木樋1	40(15)	642.0	30(5)	1,296.0	22(3)	508.0	440	24,638	1	9.3	11	567.3	4(2)	16.8	0	—	0	—	硝子2(7g) 土管4(251.0g)
SK19	6(2)	98.0	6(0)	129.0	2(0)	101.0	2	70	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK19・20	2(1)	12.0	3(1)	7.0	0(0)	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK20	36(10)	988.0	48(16)	1,591.0	5(1)	74.0	48	3,495	2	14.0	0	—	0	—	2	383.0	0	—	
SK21	19(2)	164.0	17(3)	1,145.0	13(2)	111.0	19	725	0	—	6	31.6	0	—	0	—	0	—	
SK22	0(0)	—	1(0)	3.0	0(0)	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK23	11(6)	295.0	9(2)	1,334.0	2(0)	66.0	4	195	0	—	5	23.8	0	—	1	3.0	1	—	
SK24	8(1)	44.0	3(1)	63.0	3(2)	55.0	0	—	0	—	17	64.0	0	—	0	—	0	—	
SK25	4(2)	71.0	12(8)	800.0	10(7)	297.0	34	2,304	0	—	4	19.2	0	—	1	47.0	0	—	
SK26	0(0)	—	2(0)	23.0	1(1)	7.0	8	210	0	—	19	115.8	0	—	0	—	0	—	
SK27	28(10)	477.0	18(7)	5,213.0	4(4)	159.0	1,298	188,902	1	4.4	1	11.0	7(7)	21.6	1	1,043.0	0	—	
SK28	18(6)	231.0	33(8)	689.0	2(0)	24.0	12	340	5	9.0	7	124.1	0	—	1	5.0	0	—	陶器ミニチュア(4.4g)
SK29	1(1)	8.0	5(1)	9.0	2(2)	9.0	2	100	0	—	1	28.8	0	—	0	—	0	—	
SK30	1(0)	36.0	5(3)	282.0	0(0)	—	0	—	0	—	1	25.1	0	—	0	—	0	—	
SK31	2(1)	15.0	1(1)	36.0	0(0)	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK32	7(6)	470.0	1(0)	50.0	0(0)	—	2	229	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK33	2(0)	22.0	2(1)	61.0	1(1)	91.0	1	170	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK38	1(1)	201.0	0(0)	—	0(0)	—	79	24,380	0	—	17	136.3	0	—	0	—	0	—	
SK39a・b	95(30)	2,033.0	67(18)	2,248.0	4(3)	1,032.0	54	3,891	1	2.9	65	531.1	2(1)	5.4	4	41.0	2	—	
SK40	0(0)	—	—	15.0	0(0)	—	0	—	0	—	35	352.4	0	—	0	—	0	—	
SK41	1(1)	49.0	0(0)	—	1(1)	79.0	1	70	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK42	2(0)	12.0	7(0)	92.0	0(0)	—	3	195	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK43	9(3)	324.0	7(1)	414.0	1(1)	93.0	6	790	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK44	4(2)	156.0	1(0)	5.0	1(0)	30.0	1	30	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK46	266(56)	2,932.0	20(16)	1,406.0	4(1)	444.0	777	166,174	1	14.9	115	663.5	7(5)	30.9	2	822.1	1	—	
SK47	26(8)	560.0	17(9)	970.0	2(1)	38.0	71	14,216	0	—	24	239.3	0	—	4(3)	154.0	1	—	石材(138g)
P5	0(0)	—	—	29.0	0(0)	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1(1)	76.0	0	—	石材(76g)
P6	1(0)	12.0	1(0)	6.0	2(0)	6.0	2	25	0	—	2	31.5	2(1)	6.9	1	40.0	0	—	
P7	4(2)	106.0	2(1)	20.0	4(3)	602.0	0	—	0	—	1(1)	3.9	1(1)	2.7	0	—	1	—	モモ2

第100表 本陣跡5次出土遺物一覧表

陶器・土器の()は底部破片数、金属製品の数、金銀製品の()は錢貨数、石の()は石材数である。

単位：g

遺構	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他	
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量		
SB1	3(3)	322.4	7(5)	11,252.5	4(3)	1,204.4	0	—	0	—	0	—	0	—	1(1)	356.7	0	—	0	石材(356.7g)
SB2	18(3)	210.0	10(0)	97.0	4(2)	111.0	1	180	0	—	3	12.2	1	0.8	1	277.9	3	—	0	炭化物(1073g)
SB4	23(8)	175.8	28(2)	182.0	5(0)	196.6	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
基礎1	1(1)	28.0	0(0)	0.0	5(2)	118.0	0	—	0	—	2	9.9	0	—	0	—	0	—	0	—
基礎2	14(4)	297.0	12(2)	80.0	22(2)	547.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
SK3	7(2)	42.0	11(2)	131.0	8(4)	466.0	41	1,870	0	—	0	—	1(1)	1.8	0	—	0	—	0	硝子(136g) 土管(91g)
SK4	72(14)	2,517.0	17(11)	3,410.0	2(0)	180.0	1	40	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	硝子(664g)
SK5	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	2	56.4	7(7)	22.6	0	—	0	—	0	硝子(1785g)
SK6	1(0)	10.0	1(0)	11.0	1(1)	435.4	1	110	0	—	3	36.3	0	—	0	—	0	—	0	硝子(36g)
SK8	203(73)	5,435.0	111(41)	28,999.0	46(27)	7,096.0	100	11,475	2	73.0	10	45.6	0	—	16	2,466.4	20	—	0	土壁(354g) 炭化物(2033g)
SK9	12(3)	88.0	16(4)	249.0	5(0)	88.0	7	940	0	—	2	100.2	0	—	0	—	0	—	0	貝類(126.1g)、モモ1
SK15	3(0)	26.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
SK16	0(0)	0.0	0(0)	0.0	1(1)	165.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
杭列1	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
埋桶掘方	5(1)	8.0	2(0)	8.0	1(0)	3.0	0	—	0	—	0	—	0	—	2	294.6	0	—	0	2・3号埋桶 モモ1
桶1	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
桶2	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
桶3	1(0)	8.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
桶4	0(0)	0.0	1(0)	15.0	1(0)	32.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
桶5	0(0)	0.0	3(0)	5.0	2(0)	13.0	2	80	0	—	0	—	1(1)	1.9	0	—	0	—	0	4モモ1
桶6	0(0)	0.0	1(0)	22.0	2(0)	22.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
桶7	2(1)	13.0	5(0)	29.0	1(0)	11.0	1	30	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
桶8	7(0)	33.0	4(0)	108.0	0(0)	0.0	4	250	0	—	1	70.8	0	—	0	—	0	—	0	—
桶9	6(3)	231.0	2(0)	7.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	1	42.8	0	—	0	—	0	—	0	—
桶10	8(1)	41.0	3(1)	93.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
埋籠2	1(1)	25.0	0(0)	0.0	31(3)	9,667.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
埋納1	1(1)	17.0	0(0)	0.0	3(2)	794.0	14	460	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
埋納2	0(0)	0.0	0(0)	0.0	13(2)	987.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
木樋1	21(7)	117.0	15(4)	534.0	5(0)	118.0	48	3,700	0	—	1	13.4	0	—	0	—	0	—	0	—
木樋2	4(3)	1,134.0	9(3)	1,884.0	3(1)	1,314.0	1	210	1	7.8	3	35.1	0	—	1	33.3	91	—	0	硝子(3g) 土管(1998g) 石材(59.0g) 貝類(161.1g) 布(21g)
木樋3	8(5)	634.0	6(4)	2,664.0	1(0)	228.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
木樋4	1(1)	149.0	18(1)	71.0	1(1)	36.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
木樋5	0(0)	0.0	1(0)	163.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
木樋6	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
SK10	55(21)	2,333.0	49(13)	1,863.0	36(13)	1,926.0	56	4,951	1	46.0	4	30.6	0	—	1	152.1	12	—	0	—
SK11	15(3)	321.0	15(5)	2,332.0	4(2)	1,338.0	3	440	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
SK12	0(0)	0.0	1(0)	1.0	1(0)	24.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
SK12・13	7(2)	119.0	1(0)	1.0	14(12)	703.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
SK13	0(0)	0.0	2(0)	5.0	4(2)	30.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
SK14	2(1)	41.0	3(1)	687.0	4(2)	83.0	2	118	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
SK17	3(0)	4.0	2(0)	9.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	1	5.6	0	—	0	—	0	—	0	—
SK18	2(1)	14.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

遺構	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	
SK19	1(1)	16.0	0(0)	0.0	3(3)	150.0	0	—	0	—	3	9.7	0	—	0	—	1	—	
SK20	7(2)	30.0	7(2)	66.0	0(0)	0.0	0	366	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	炭化物(14g)
SK21	1(1)	213.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	7	630	0	—	1	19.7	0	—	0	—	0	—	
SK22	3(1)	56.0	3(2)	268.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK23	161(64)	4,311.0	64(22)	6,204.0	22(10)	3,135.0	4	890	0	—	2	25.0	0	—	2	543.1	15	土管(324g)	
SK24	123(39)	2,737.0	89(17)	2,001.0	32(18)	4,352.0	1	150	0	—	2	20.0	0	—	1	3.0	0	—	
SK25	74(9)	1,265.0	72(10)	673.0	12(5)	799.0	7	780	0	—	0	—	0	—	4	413.1	8	モモ1	
SK25・33	22(17)	1,913.4	18(10)	2,961.4	9(5)	3,759.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK26	27(8)	401.0	10(4)	372.0	9(4)	2,266.0	48	7,470	0	—	1	62.8	0	—	1	35.3	36	—	
SK27	109(46)	2,949.0	76(22)	2,241.0	3(0)	174.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	—	
SK28	10(1)	76.0	11(3)	56.0	2(0)	235.0	1	120	0	—	0	—	0	—	0	—	4	ウメ1	
SK29	5(2)	18.0	5(1)	57.0	0(0)	0.0	1	110	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK30	1(1)	48.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK31	16(4)	107.0	4(1)	79.0	0(0)	0.0	2	100	0	—	3	25.7	6	5.8	0	—	0	—	モモ1
SK32	5(3)	74.0	6(1)	250.0	4(0)	125.0	1	30	0	—	1	18.1	0	—	1	6.0	0	—	
SK33	67(10)	1,350.0	72(16)	3,164.0	15(10)	3,494.0	6	530	0	—	1	21.3	0	—	1	71.6	18	マツ球果1 ウメ2 モモ1	
SK34	1(0)	17.0	1(1)	4.0	1(0)	48.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK35	2(0)	26.0	3(0)	204.0	1(0)	269.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK36	1(1)	21.0	2(0)	9.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	1	4.4	0	—	0	—	1	—	
SK37	6(1)	35.0	13(2)	127.0	0(0)	0.0	1	140	0	—	0	—	0	—	0	—	2	—	
SK38	0(0)	0.0	2(0)	7.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	—	
SK39	11(3)	142.0	8(1)	100.0	1(0)	45.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK40	11(2)	52.0	19(6)	148.0	26(2)	481.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3	—	
SK42	31(8)	855.0	18(4)	291.0	2(2)	19.0	3	520	0	—	1	57.8	0	—	0	—	0	—	モモ2
SK43	2(0)	7.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK46	2(0)	13.0	5(2)	62.0	1(1)	101.0	1	100	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
SK47	13(2)	90.0	9(0)	58.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	6	104.6	1	7.3	0	—	0	—	
SK48	5(1)	15.0	7(1)	12.0	3(1)	49.0	1	20	0	—	0	—	1	2.8	0	—	0	—	
落込み	5(0)	16.0	13(4)	523.0	1(1)	14.0	0	—	1	12.0	32	334.4	4	37.4	9(2)	16033.8	0	石材(68.6g)	
SK50	8(3)	225.0	12(1)	64.0	5(0)	2,455.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	7	—	
P6	0(0)	0.0	1(0)	4.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
P9	0(0)	0.0	0(0)	0.0	1(0)	52.8	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	
P15	3(2)	7.0	9(1)	65.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1	13.1	0	—	
桶10	4(1)	18.0	2(1)	78.0	0(0)	0.0	6	760	0	—	1	8.9	0	—	0	—	1	—	
桶11	1(1)	39.0	3(0)	16.0	0(0)	0.0	2	350	0	—	2	312.8	0	—	0	—	1	—	
桶12	5(1)	44.0	0(0)	0.0	0(0)	0.0	1	210	0	—	0	—	0	—	0	—	1	—	
桶13	16(2)	250.0	18(4)	155.0	1(0)	62.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	—	
桶14	7(1)	27.0	7(2)	194.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	—	
SD2	4(0)	19.0	1(1)	4.0	0(0)	0.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1	56.3	1	—	
SE1 最上部	6(2)	75.0	1(0)	2.0	10(0)	1,599.0	0	—	0	—	0	—	0	—	2	33.0	1	漆喰(10g)、カメ	
SE1	3(0)	15.0	6(3)	176.0	25(6)	1,313.0	31	2,839	0	—	0	—	3	24.4	1	71.0	6	煉瓦(152g)	
SE1 掘方	2(0)	10.0	14(2)	171.0	4(4)	56.0	0	—	0	—	5	114.4	2	16.6	1	223.5	0	帽子(72g) 土管(3436g) 貝類(7.3g)	
SE1 最下層	1(1)	56.0	1(1)	30.0	3(1)	58.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	